お寄せ頂いた御意見（個人）

（御意見中の個人名等は伏せ字で表示しております）

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
1	埼玉県	民営化されても、無駄使い体質が変わらない。 キャッシュカードも無駄にコストの高い非接触ICカードを強制採用している。 今までと同様に同じ建物内で各社の活動がなされており分かれた各会社の役割も不明瞭。	もっと無駄使いを減らすべき。民営化はともかく分割の意味が無い。 簡保の充実。預貯金枠撤廃。全銀協との完全互換。	無理に分割民営化などしなくても、無駄使いは無くせるはず。出来ないのなら、他の公共機関はどうなのか？と言う事になる。
2	茨城県	今年の正月、今まで一度もなかった年賀状の大規模遅 延は民営化の関係がないのでしょうか？ 私は、その作業プロセスを一切知らないので民営化が影響しているかどうかわかりませんが 民営化直後の年に一度の大規模郵便行事である年賀状を乗り切れなかったのではないかと思えてしまいます。 また、私は仕事上では郵便物を扱う部署にはいませんがそういう部署からは誤配送や汚損等が以前より増えたという声が聞こえて来ます。 郵便料金は維持して、郵便事業の質だけ落ちる。以前から反対派の議員が主張していた通りそのままです。	最近は古い人にはJRの職員はボロクソに言われています。 「自分が勤務する駅を通る路線にある駅名すら満足にしらない奴がいた。理解が出来ない。国鉄時代は関東圏のJR駅は全部把握しているのが標準だった。あれではネットで調べた方が早い、あんな駅員はいらない。」 私ももっともだと思います。郵政事業もこうなるのは時間の問題だろうと私は思っています。 正直、現在の郵政民営化には失望しか感じません。良くなった点が一点も思いつきません。良くなったつもりかもしれませんが、元々民間にあったサービスの真似事です。そういうサービスが必要なら民間の金融機関を使えば良いだけでした。 郵便局ならではの安心感が消滅した以上、「横並びの大手運送屋と大手銀行が一軒づつ増えた。その代わりに存在意義のあるサービスが消滅した。」というのが正直な印象です。 以前のサービスを維持するのが最低ラインです。 出来ないなら、民営化なんて即止めるべきです。小泉純一郎が引退した以上は可能ですよね？	ー
3	秋田県	1　準備段階が拙速すぎたため、移行時の窓口の処理時間が大幅に遅くなった。 2　商品サービス内容等民営化がもたらすと喧伝した具体的な利便性の向上が見当たらない。 3　民営化前の多くの郵便局では、郵便・貯金・保険のサービスがそのフロアーで処理できたが、分社により「別会社の業務」としてそれぞれの会社との対応を求められ、非効率である。 4　国民生活の基礎的なインフラは国が国民に責任をもって整備すべきものであり、現下の経済情勢等を見ると身近な存在の郵便局の将来が担保されない法律そのものに欠陥があるのではないか。	・利用者の利便性向上につながる具体的は商品・サー ビス開発のスピードアップを図っていただきたい。 ・この分社ビジネスモデルには期待するものはない。	地域別、階層別等の利用者の声をしっかり聞くべきときである。 政治家あるいは学者の方々の英知が今の仕組みを作られたのであれば、製造者責任として自ら検証・評価して公表してください。 ※自らに好都合な評価となりませぬように。
4	埼玉県	悪い点：休日に郵便を受け取りにいったのですが、ただ1人の人しか対応していませんでした。確かに業務が分かれているのだとは思いますが、ずらっと人が並んでいる状況で手伝えないというのはおかしいと思います。	悪い点の改善	民営化で経営が明らかになり、財投のような妙なシステムもなくなったので、民営化はよいことだと思います。がんばってよい点を理解されるよう務めてください。
5	鳥取県	当町から郵便局の窓口（7ヶ所）から土日休日閉鎖となり、最近多くなった月曜日祝日など、3日間も利用できない。55㎞先の米子市まで行くしかない。国鉄や電電と違って今回の郵便局の民営化で何一つ便利になったことはない。年賀ハガキでも、同じ製品を二つの会社が、競争している。利用者は、必要数の半分ずつ買っている実態。無駄な労力ではないか。	期待できない。何か一つでも、利用者にメリットはあるだろうか。	民営化したなら、なぜ貯金は1000万円か。不便である。
6	三重県	現在までの郵政民営化体制では、郵便事業会社と郵便局会社で利用客がたらい回しになるケースがあり、利用客が戸惑うケースがあります。 また、都市局と地方局では利用客数の違いから地方局が赤字経営となるケースが多々あり、地方局の閉鎖となるケースもあります。 本来郵政事業とは、国内のどの地域に住んでいても、同じサービスが得られるというのが前提であり、地方部に住んでいる利用客が不便を強いられるという事態が異常であると考えます。 例えば切手1枚を買うにしても自動車で何分も行かないと買えないという事態もある。 これでは本来の郵政事業とは呼べないと考えます。 郵便局は赤字局であっても地域住民の為に経営をしていかなければならない義務があると考えます。 現代経済社会において不採算事業の継続は本来の考え方とは逆行した考えかとは思いますが、郵政事業という特殊事業だけに地方部においてその役割は重要だと考えます。	今後、郵政民営化について郵便事業会社と郵便局会社を統合し郵便事業、郵便銀行会社、簡保会社の3事業体制にした方が利用客が利用しやすいと考えます。 また、地方部（赤字）郵便局の経営継続。	ー

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
7	愛媛県	ここまで非道いとは思わなかった。項目3番の2点はどう解決するつもりで民営化したのか、だれも答えられない。株を売って5兆円を儲ける為だけに民営化したのか？	・過疎地での病院・ローソンとの共同店舗による医療、金融、食料のライフラインの確立。身分、組織形態を公務員に戻す事は考えなくて良い。	・高齢化率約65%で毎年約人口の3%減少している地域で、採算がとれる訳がない。どう赤字を埋めるおつもりか？ ・民営化して毎月の局舎の賃借料はどうなさるおつもりか？ 以上2点聞きたい！
8	北海道	民営化によって田舎(都会もですが)利便性は向上したのでしょうか？経済は活性化したのでしょうか？ どちらも良い方向には向かってないし、利用者としては利便性は逆に悪化していると思いますが、民営化委員会はどのように考えていますか。 逆に税金の無駄遣い！ 小泉首相もその場しのぎの考えで民営化し、やめてしまったし・・・	昔のほうが利便性はあったし、今後については期待は持てない。	ー
9	東京都	民営化ということについては大賛成。 ただ、内容については、まだ、なんともいえない。	民営化を死守。堅持。という基本路線はぶれないでほしい。	旧態依然の政治家に負けないでほしい。
10	愛知県	やはり、以前の殿様商売から脱却しつつあり、民営化して良かった。	旧スポンサーであった、特定郵便局(世襲の郵便局長)の粛正を進め、民間企業の一員であることを徹底させ、新しい斬新な郵政が誕生することを期待しま す。	ー
11	大阪府	民営化後に良くなった点は(期間限定ではあるが)ATM からの振込みが無料になっていることぐらいだと思います。 悪くなった点は複数あり、以下特に感じることを列挙すると… 1　郵便物を扱う会社(郵便局)と、配達会社が異なることにより、例えば郵便局留めの郵便物を引き取る際に、今までは現在の配達会社が受け持つゆうゆう窓口でも引き取れたが、今では郵便局の開いている時間にしか対応してもらえない。 2　郵便小為替の手数料が10倍になった額面もあり、複数購入に対する手数料増加が負担になった。 3　店舗の閉鎖や統括、移転などが顕著にでてきて、今まで便利に利用できた窓口が使用できなくなった。 4　郵便ポストの集荷回数、および集荷時間が大幅に削減され、特に夕方以降の集荷がなくなり仕事の帰りに当日集荷に間に合わせることができなくなった。 5　一般郵便物(書留やその他速達以外のもの)の配達時間が今までは午前中にもあったが、民営化決定後ほと んどが14時以降の配達になり、さらに日によっては17時近くなることもあり、仕事が終わる時間に配達されることが多々あり業務に支障がでることもある。 という感じで、その他にも郵便局などその場で思うことも含めれば、郵政民営化後には数多くの不満な点があります。 今回の郵政民営化はニュージーランドなど諸外国で成功した例を参考にしたようには思えず、小泉元首相の独断と偏見による民営化推進であったのではないかと思います。このままでは、財政難などで閉鎖する店舗が増えたり、営業時間が短くなったりなどさらに悪化するのではないかと懸念されます。 評価としましてはここに書いたように、民営化によって良くなったと思うようなことはほとんどなく、非常に悪くなったと感じる面ばかりであります。 できることなら郵政民営化前(郵政公社)の状態に戻して、以前のサービス内容を復活させていただきたいです。	株式会社になり営利企業になったのはわかりますが、手数料を増やしたりなど悪くなった点ばかりが目立ちます。 特に小為替については1枚で額面を自由に設定できるように、金額記入式にするなど早急な改善が必要かと思われます。 また、ポストの集荷時間についても夕方以降にも枠を作り、当日出荷枠を大幅に増やしてほしいと思います。 郵便についても配達記録をなくすとかが話題になっていますが、このような削減はなくしてほしいです。 郵政民営化後の会社でこのようなことが対応できないのであれば、信書は郵便のみで扱うといった法律をなくし、他業者でも提供できる体制にしてほしいと思います。	とにかく今回の郵政民営化は大きな失敗であったと思います。国民が、税金投入の郵便局をなくしたほうが健全であるなど小泉元首相の言葉だけを鵜呑みにして、報道ではほとんどされていない悪くなる点を把握せず、総選挙で勝たせてしまったのが今回の最大の問題点だと思います。きちんとした法律の周知徹底や、国営から民営化されるに当たり何がどう変わるのかをきちんと政府、国が示してほしいものであります。できれば民営化3年経過後に国民投票で郵政民営化の是非が問えるような法整備をしてほしいです。
12	東京都	姿勢対応が役所ではなくなり良い。	更に独占業務を開放すべし。	是を範として凡ての特殊法人を民営化＝見える化すべ し。
13	東京都	1　窓口が混雑しても応援が入らず、以前より時間がかかる。 2　特に貯金はいろいろな書類が求められるようになり、以前より煩雑である。 結果評価できない	窓口の処理時間の短縮を期待。貯金の窓口の対応の簡素化をして下さい。	電話しても返答ができない事が多くなった。
14	北海道	郵便の配達が以前より遅くなりました。特に休日が続いたり、月曜日が多いです。 今後の人員配置や在り方について改正してほしいと思います。	ー	ー
15	千葉県	定義上民営化されても、行っている内容が郵政公社時代となんら変わっていない。	信書便の集荷・配達を民間に開放する事。	独占状態にある信書便事業において、潤沢した資金を元に、又、信書と小包を同一運送で(拠点間を)配送する事により民間よりも安い小包(ゆうパック)を展開しているのは、民業圧迫と思われても当然と思う。信書と小包を分離会計で採算を計算し、小包だけの営業利益を公表すべきと思う。
16	山口県	郵便事業会社と郵便局会社が別となり不便を感じる。 手続きが複雑となり誰のために民営化したのか疑問に感じる。 民営化して地域の郵便局として安心して預けられない。	郵便、貯金、保険の3つの会社が1つになることを望む。国営はいけないが、国が関与する、公社でよかったのではないか。	郵便も競争とし民間と競合してほしい。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
17	愛知県	ゆうちょ銀行とかんぽ生命に関しては多少の計画誤差があるにしても順調に進んでいるかと思います。 問題は郵便局会社、とりわけ旧特定郵便局の効率化が政治の介入により、ほとんど進展していないことでしょうか。 郵政選挙により民営化を支持した大半の国民のみなさんはこの現状を知らないと思いますので、もっと情報をディスクローズしたほうがいいと思います。	ゆうちょ銀行とかんぽ生命の早期上場と完全民営化の実現。 日本郵政の上場は郵便事業会社と郵便局会社の体質が官業の頃のままであり、自立ができておらず、かつ競争力もないため、市場での価値が低いと思われる。特に旧特定郵便局は過密な都心部での整理統合が全く進展していないので、非効率で高コスト体質のままである。 全国に拡散している旧特定郵便局の局舎賃貸料が全国郵便局長会の活動資金になっており、これが政党への献金になっている。このことが、民営化成功への最大のネック(癌)になっている現状を郵政民営化委員の皆様には打開 していただきたく思います。	国民新党の長谷川憲正氏の公式ホームページです。この言論と行為は明らかに民営郵政事業への政治的介入ではないですか？ しかも、民営化により既得権益を失う特定郵便局長会へのあからさまな擁護行為です。 世界で起こっている金融危機はアメリカの金融行政の失敗であり、ゆうちょとかんぽマネーのバランスシートを小さくして国の庇護下から徐々にはずしていき民間の活力を高める方向性への妨げになるものではないです。 論理の飛躍、見当はずれもいいとこです。
18	千葉県	・民営化自体は成功したが、国民生活へは悪影響を与えている。 ・公務員として採用された職員の身分保障を法律の変更でできるのか、法治国家として問題がある。ドイツでは民営化後も国家公務員で採用された職員はその身分を有する。 このドイツのあり方が当然。	郵政事業はこれからの高齢化少子化社会において金融と物流のサービスは、国民の基本的なインフラの役目を担うことができる。行政サービスの末端機関としての位置づけが非常に重要だと考える。	「事業の独占」は郵便法第4条に規定され、その規定違反に対する罰則規定もあるが、4条違反を取り締まるスキームがないためヤマトがメール便等として業としており、既成事実化がどんどん進んでいる。取締りを実施するスキームを整備すべき。また、FedEx、DHL、UPS等の外資系の国際クーリエ業も外国から信書を持ち込んでおり、郵便法が”ざる法”化しつつあるので取締りを実施すべき。
19	埼玉県	世界的に郵政は民営化の傾向だが、米国は公社のままで不都合は起きていない。 日本も不都合が無いにもかかわらず民営化になったが、国民にとってなんら良かった、良くなった点が無い。 一部の国民の利益でなく 国民全体にとって良かった点があれば示して頂きたい。	莫大な無駄、国家国民の財産の無駄な消耗をして民営化になりましたが、そのドサクサにまぎれて「分社化」は誰が決めたのか分りませんが、分社化により郵便局の中を壁で仕切って別会社にしました。別会社だから当然、融通はきかない。今までは山の上に住んでいるお年寄りが孫にお小遣いを贈る為に自分の年金を下ろすのに、「郵便配達さん」に頼めばやってくれたが、分社化で「会社が違うから出来ない」のが現状です。誰も望んでいない分社化を直ちに止める。 ゆうちょ銀行、かんぽ生命の株式放出は止めて郵便、貯金、保険事業を一体とした株式国有の会社にする。公社の時のように「三事業」を「郵便局自身の仕事」として展開して全国津々浦々の国民の福祉の増進になるようにして欲しいです。 分社化は止めてください。民営化を望んだ方でもデメリットの多い分社化は想定外だと思います。今のままでは、郵便事業会社と郵便局会社は先行きどんなに内部改革(リストラ)をしても郵政事業の持つ性質上、利益は見込めませんので赤字倒産になってしまいます。そもそも郵便事業だけで「あまねく公平に全国津々浦々まで郵便サービスを展開する」事業が単独で成り立つ訳がないから、「ゆうちょ、かんぽ」事業を郵便局の業務につけて「三事業一体」とし てなんとか独立採算で運営できるように設計されていた組織です。「三事業一体とした郵便局」が国民への「福祉事業」としての発展を期待します。	郵政事業は国民の福祉の増進の為に存在する組織で三事業一体経営なら何とか独立採算で運営が見込まれますが、現状の分社化では郵便事業会社と郵便局会社は赤 字倒産になります。
20	愛知県	私の住んでいる地域では、集配局が統廃合され、家から一番近くにあった郵便局からの配達は廃止されました。ただし実際にはそれ程不自由に感じることはなく、それでコスト削減になるのならまあいいのかなと思います。 それよりも民営化によって商品の種類が増えたことは嬉しいです。例えば年賀はがきは年々バリエーションが増え、キャラクターものなど買いたくなるようなものが登場しました。なぜ今までこういった商品が出てこなかったのか不思議な程です。そういった意味では民営化して良かったなと感じています。	心配している事はゆうパック事業の利益がほとんど出ていない事です。宅配事業に関しては強力なライバルがいることが原因かと思いますが、ぜひサービスの質を落とさずに黒字化させて欲しいものです。	サインや印鑑が必要な配達物について、バイクを離れる際、エンジンをかけたままのである事が多い。荷物のやり取りだけで数分かかる事もあるため、燃料の無駄なのではないでしょうか。 受け取る際にサインや印鑑が必要な配達物について、受け取る側が予め時間や曜日を指定して受け取る事はできないでしょうか。もちろん再配達の際はこれが可能ですが、初めて届ける際もこれができるようにして欲しい。
21	岐阜県	4分社化したことで、何かと不都合が増えた。民営化はまだしも、何のために4つの会社に分けたのか、いまだに理解できない。「郵政民営分社化」は国家国民にとって、あるいは地域住民にとってプラスになっておらず、評価できない。	民営化はまだしも、4つの会社を元通りひとつの組織に戻すよう強く期待する。都会地はよいかもしれないが、地方にとってはなくてはならない郵便局。郵便局が都会地だけに残り、地方は撤退などという事態にならないよう強く望む。	わが国の郵政事業は長い時間をかけて創り上げられた素晴らしいシステムであり、ひとつの文化とさえいえるもの。後世に引き継がれていかねばならないものと固く信じている。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
22	福島県	郵政民営化を行えば、税収も上がり、郵便局ではコンビニのように何でも売れて、旅行代理業も行えるようになって、はたまた、少子化対策まで解決するというようなことを当時の小泉総理大臣や特に竹中平蔵氏は盛んに訴えられておりましたが、本当にそうなりましたでしょうか、非常に疑問です。 何がどう良くかわったのでしょうか。 手数料は高くなったし、郵便の配達される時間は以前よりおそくなったし、不在だった時に電話をかけても一時間もつながらない。入院保険金の請求をしたらすぐには払ってもらえず、20日以上たってから通帳に振り込まれる。以前は窓口ですぐに払ってもらえました。 こんな状態でどこが便利で良くなったのでしょうか。まったくだまされたようなものだと思います。	とても期待を持てる状況ではありません。元のように気軽に使えるような郵便局に戻してほしいです。 都会の方はすぐそばに色々なお店や銀行があって、不便を感じないでしょうが、地方はそんなに便利ではないんです。一つのところでいろいろな用事を済ませることができる郵便局が良かったのに、もっと身近に使い勝手の良いものになるように是非、見直しを図ってください。 それから、ゆうちょ銀行は、株をすべて市場で売ってしまうようですが、今回のようにアメリカの投資銀行みたいなところに買われてしまったら、近くの田舎の局では通帳での出し入れができなくなったりするようなことも聞いています。絶対にそんなことにはならないようにしてください。	前回の選挙の時にテレビやマスコミや総理大臣に騙されて、自民党に投票してしまったことが今ではすごくくやしく思っています。
23	北海道	民営化前に変わらない、良くなるといっていたが逆に会社が分かれたことによってサービスが低下したと思うし、使いにくくなった。民営化の目的に何だったのか疑いたくなる	郵政民営化について利用者の立場に立ったものでなければならない。そのために現在のような不確かな世の中、地方に厳しい時代にあってもう一度見直しをして会社の分割をしない方がよい。戻る勇気も必要ではないかと思う。	民営化委員会において地方の意見や利用者の意見をとりれた方向性を持って欲しい。
24	奈良県	田舎の配達のある郵便局で、いつもお世話になっています。民営化になって、配達の郵便職員に集金やお金の引き出しをお願いすると、別の郵便職員が来てくれる。逆に集金する職員にゆうパックをお願いすると別の配達職員が訪問にきてくれます。非常にムダな動きが多くなったように思います。こちらも申し訳なく思っています。郵便局の職員の方も少なくなり、本当にこの村に郵便局が存続していくのか心配になりま す。JAにおいても集約化が進んでおり、田舎の農協のイメージが全くなくなりました。そのような事のないようにお願いしたい。	現在の組織体制が中途半端で配達・貯金・保険一体経営ができないのか？ 田舎の郵便局はムダな工事をして配達と窓口が別れている。	年賀状販売について、郵便局窓口に予約分を取りに行くと配達方だと言われ訳が分からなかった。 配達の会社と窓口の会社と別れて販売しているのか？ グループ会社であるので一つに統一できないのか？
25	山形県	民営化法案の審議過程で政府が答弁したバラ色的未来は、全く進んでいなく、また、その兆候もない。原因を推察検証するに、設計図が間違っていたと考えられる。特に、1つの持株会社と4つの事業担当会社に分割したことは、経営上誠にロスが多く、非効率で、社員の新会社創造意欲もバラバラにしてしまったと考える。最も遺憾なことは、利用者が享受すべき効率的利便、将来安定性が損なわれている。	全会社を統合し、日本郵政（株）1社とする。その会社は、一般的民間会社と異なり、サービスは特別法に基づき効率的に提供され、株式も過半を政府が持つべきである。総合的なサービスが将来とも担保されることを希望する。経営の中身は、民間のノウハウを充分に取り入れ、自由度のあるものを。巨大化を防ぐために、質を重要視した規制条項を盛り込み、セーフティネットとしての国民財産とする。	とりあえず、株式売却を延期し、もう一度様々な角度から国民的議論を起こすべき。先の法案審議と解散、採決は強引過ぎたし、聴いてみると、国会議員の先生方の大半は中身が良くわからな くて、とにかく賛成、また、反対したようだ。アメリカからの要求に配慮して制度設計したというニュースも伝わったが、真実はどうだったのか、解明すべき事項でもある。
26	島根県	政府自身は「地方の時代」「地方分権」とえらそうに言っているが、現状の民営化では、郵便局を生活のメインバンクや宅配業者に”せざるを得ない”地域を完全に切り捨てるつもりなのではとの疑念を持っている。なぜ他の民間宅配業者が、営業所を構えてないのかというちょっと考えれば分かりそうなことすらわからないのか。情けない。所詮都会育ちのお坊ちゃまお嬢様ということでしょうか。委員会の皆さんはそういう地域で最低1ヶ月生活してみてください。	他はともかく郵便配達事業は国営に戻すべきだと思う。あんなモンで中のすべての人件費や施設・設備の費用を賄いつつ、将来へ向けてのヒトや設備への投資が継続的にできると思っている感覚（だから民営化したんで しょ？）が信じられない。どれだけ非正規職員が増えて、業務遂行能力が落ちてると思ってんですか。	競争を促したい、でもサービスを維持しないといけないというお題目で、あれこれ参入要件を設定するのなら、そもそも民営化する意味が無いと思うのだが。 赤字になるのを分かってるのに、しかも民間企業だから赤字ではいけない企業体で営業を継続する”経営者” はいないと思いますが？ 今の民営化は”地方在住者はそこを捨てて都会へ出ろ”という政府の号令にしか見えません。
27	北海道	民営化により不便が多くなりました。人口4,500人の町ですが、過疎のための不振脱出のため、活性化のための整備事業が進められています。 そんな中の中心地に郵便局があります。田舎の郵便局は、大切な公共機関ですが、今は会社が二つか、三つか分かりませんが、一つの局舎の中にそれぞれが独立した会社となったため、例えば、郵便物の配達で、不在時の通知による連絡先が50km離れた本局になりました。 このことは、連絡のための通話と手間が一回増えるということです。どうして、こんなことになるのでしょうか。 従来のように、会社でなければ、このようなことはないでしょう。従来のものに、内部的に少し合理化して残し、大切で庶民的な通信と、金融や保険事業を恐ろしい外敵(世界の金の亡者のような資金)から守る必要があると思います。	これは、当時の総理の悪政です。公社は、国の赤字増加の原因ではないでしょう。あと、小さい局の廃止や担い手不足は、既にご承知のことでしょう。地方には、決して迷惑をかけないと大声で言っていた当時の総理は、地方の疲弊を見て見ぬふりをして、責任もとらず、引退ですか、これだから今政治が信用されないのだと思います。	実情を、よく調査し、きちっとした考えと討論をして頂いて、よい結論をだして頂きたいと願っています。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
28	北海道	(1/2) 郵政民営化されて一年、それに伴なった分社化はサービス低下と国民の信頼を失った。理由 1　郵便ポスト一日の集配回数が減った。それに伴なってか配達が一日程度遅くなったものもある。 2　配達時間が遅くなった。 3　同じ局舎でありながら、分社化で仕切られた。窓口の社員に質問すると、社員が仕切られたドアの方まで行ってノックして聞きに行ってくれた。社員に聞くと別会社になった為にとの事。以前はなかった。社員も大変だしお客さんも以前より待たされる。 4　国営化時、独居老人の安否確認等してくれたが、なくなった。 5　田舎の高齢者が郵便配達人に郵便貯金の払戻し等の依頼をしていたが、分社化で出来なくなった。 6　田舎暮らしの高齢者は足がない。週二回程来るサービス車でもすぐ預払い出来ない。次回迄待たねばならない。 7　限界集落の住民は、特に六十五才以上の高齢者が多い。簡易郵便局の閉鎖で不便になり、地方はますます疲弊していく。	郵政民営化は、一九九〇年代米国からの要請であり、特に親米の小泉氏が一番先に乗り、さらにそれに乗った手下の族は甘い汁を吸おうと乗り、まだ吸い続けたい族もいるとのこと。想像に絶します。このままですと、益々サービス低下、地方特に限界集落、高齢者の住みやすい国づくりの為にも民営化は廃止していただきたい。	もとの日本郵政公社で三事業一体で再出発していただきたい。ただし、普通郵便局、特定郵便局の区別はなくしていただきたい。
		(2/2) 8　送金振込手数料、定額小為替料金が高くなった。送金振込手数料は他金融機関より高い。 9　集配郵便局の統合なのか、差出した地名の消印でなくなっている。どこの町村で差出したか判別出来ず困惑する事もある。自ら出した手紙も同様で見た時愕然とした。 10　今回の普通貯金の利下げは他金融機関の先鞭を切った。 11　年賀葉書の印刷注文もしているが、市販印刷料金より随分高い。これは他業者に委託してマージンを取るのだろう。 等々今思いついただけでもこれだけのサービス低下、民営化以前の郵政も税金の投与を受けず、三事業一体で若干の利潤があった。小泉純一郎氏、竹中平蔵氏等が、民営化以前、「サービスは低下しない」は全くウソ偽りであり、民間会社は当然の如く利潤を追求しますし、将来的には株主の配当を考えるのが民間会社経営者であります。更に、郵便・貯金・保険の三事業は約百余年一体経営でやって来た。三事業を分社化する事は夫々に総括、総括的経費もかさみ、理に全くかなっていません。		
29	岐阜県	1　民営化になってから、不便極まりない。 2　取扱い料金が高い。サービスを良くして料金を高く取るなら納得。サービスを悪くして料金が今までより高いのは許せない。 3　窓口の取扱いがきびしくなり、証明書とか委任状とか、自分や家族の通帳なのに手間を取り、客を待たせる時間が長い。そのせいか、局員に余裕の笑顔が消えた。 4　定額小為替の料金に不満。小為替50円でも手数料金100円。小為替1,000円でも手数料金100円。1枚1律で金額によらずこの料金は改善してほしい。普通為替を作ればもっと料金が高い。小為替を使い安くして欲しい。 5　走る郵便局をもっと活用して、田舎の老人暮らしで、車で出られない地域や老人たちに走る郵便局。とても便利だと思うが私たちの県にはまだ来ない。1週間に一度とか、月に何度とかそんなのを希望します。老夫婦が困ってます。 6　銀行には、外務の集金人がいて、各家庭、各会社へ出向き、便宜を図るが特定局だけある町には、そうしたサービスは人員が少く出来ないので、やはり銀行、農協へと客は流れる。	最後に昔（民営化前）の地域に密着、愛される郵便局であってほしい。全国のネットワークを崩さないと、云ったのに、あれから幾つの簡易郵便が消え、不便になった事か？銀行の様に人を増やし、サービス向上に…	ー
30	京都府	局員の接遇が良くなった。仕事に対する取組み姿勢、意識が変わった。 労働組合の姿勢が、大きく変化した。	郵便.貯金.保険の事業が、将来にわたって全ての郵便局で取扱う事の保証が必要。窓口での待ち時間を短縮してほしい。	将来にわたってゆうちょ銀行、かんぽ生命の株式は、過半数を政府が持つべきである。将来株式の売却が予定されているが、市場原理でいくと、資本の論理により、事業の存続、郵便局の存続に及んでくる。全ての郵便局で、郵便、貯金、保険の取扱を法定すべきである。 取扱の少ない事業が、扱われなくなる可能性があり 郵便局の存続に関わる。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
31	福井県	自分の貯金を払い戻すだけで、各種証明書類が多く必要になり、窓口での処理時間もかかり待ち時間が膨大になった。 郵便局は個人のお客がメインであり、銀行とは異なり、地域に密着したお客様のための機関である。田舎には郵便局しかない地域もあり非常に貴重な存在で、三事業一体でうまくいっていたものを何故分社化したのかまったく分からない。一人の政治家のわがままで今まで郵便局制度を崩壊させ、地域をないがしろにする政策に怒りを覚え、民営分社化は愚かな政策としかいえない。	地方の弱者を守るためにも、まずは金融（貯金、保険）のユニバーサルを義務付け、三事業一体の民営化としてほしい。	ー
32	岩手県	集配と貯金・保険に区別されたことで、不便になった。窓口でも待たされたあげくに、証明書を求められコピーほしがる。（知ってる癖） 料金も高くなった。電信為替で家まで届けていただいたが・・・今、取り扱いがない。サービスダウンである。良くなった事が、見あたらない。 評価は下。	公務員にしなくて良いが、仕事を元の体制にしてほしい。元の公社でよい。	職員が苦労している。
33	青森県	郵政民営化は、採算性を重視した事業運営にシフトすることにより、国民への安価で公平公正なサービスの提供を放棄した結果、振込等手数料の値上げ、配達記録郵便の中止、郵便局の廃止及び郵便物集配回数の減少等が行われ、特に低所得層や地方の住民に負担を強いる結果となった。	民営化を見直し、国によるユニバーサルサービスの実施を期待します。	郵政事業は国家における基礎的な通信サービスであり、都会、地方、島しょ及び山間部を問わず等しく行われるべきもので、採算性で判断すべき事業ではないと考えます。
34	千葉県	1　拙速な郵政民営化・分社化は職場や職員に混乱と戸惑いを生じ、過度な効率化や制度改正により利用者に不便をかけ、その結果利用者の減少を招きこのままだと今後健全な経営は望むべくもない。 2　特に、4分社化により生まれた郵便局会社は、経営の母体となる事業がなく、単なる請負会社であり会社としても社員としても事業に対する創造性が全くなく努力や向上心が望めず、会社としての存続が危ぶまれる。 3　郵便・貯金・保険の各事業会社が直接お客様との接点となる窓口業務を行っておらず（一部大都市の中心局を除く）他の会社（郵便局会社）に委託しているため、利用者に対する責任感の欠如が見受けられ芳しい状況とはいえない。	日本郵政株式会社として郵便・貯金・保険の三事業を一体的に経営する会社に改組し、窓口で働く社員も外務の営業マンも自らの事業として、誇りと責任を以って我々利用者に接していただくことを期待する。	1　三事業一体経営が良いが、仮に分社化を維持するならばせめて郵便事業会社と郵便局会社は併合し、郵便局はゆうちょ銀行又はかんぽ生命の業務の委託を受けた郵便事業会社の店舗として運営するようにする。 2　その上で、郵便局は窓口でのコンビニもよいが、地域社会の安心安全に積極的に貢献できるサービスの拡大に努めるべきと考える。
35	三重県	真に国民生活と郵便局とのかかわりを知らない人達で進められた国民不在の民営化だけに、田舎にどれだけ不便をかもし出しているかご存知ですか。局舎の仕切り、制服への投資は全くムダ使いとしかいいようがない。	お年寄りの為にも三事業一体で、東・中・西日本の会社にすべきでしょう。旧特定郵便局は十局に一人の局長又は簡易局化し、人件費を節減すべきでしょう。地方の郵便局は税金投入でまかなうべきでしょう。	ー
36	山口県	三事業を分断、分社化したため利用者に不便とサービスダウンをもたらし、また、地域社会とのつながりがなくなり、地域貢献の役割が見られない。郵便局利用者が次第に離れ、経営的に厳しくなると見られる。郵政民営化は失敗だと評価する。	民営化を見直し、せめて郵便事業会社と郵便局会社は一体に戻すべきだと思う。利用者の立場からも事業経営の上からも合理的だし、自然の姿と思う。ゆうちょ銀行とかんぽ生命は株式上場の道に進むのは反対。政府が保有するシステムを検討すべきだ。そして、ユニバーサルサービスとして、「ゆうちょとかんぽ」を全国的、組織的に国民、地域利用者に提供するべきだ。	地域利用者は郵便局に対して、「窓口で長く待たせる」「配達が遅くなった」「料金が高くなった」「本人確認が厳しすぎる」「入院保険金の支払いが他の機関よりも遅い、郵便局が一番遅い」など不満が強い。郵政民営化見直しの法律改正で利用者本位の郵便局を実現してください。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
37	石川県	2007年10月の民営・分社化以降、最も心配するのは郵政事業のユニバーサルサービスが、長期的に維持されるかどうかという点にあります。郵便局は全国各地に存在し、これまで長年にわたって地域に根ざし、地域住民の皆さんから親しまれる拠点であることも考えると、ユニバーサルサービスを長期的に維持してもらいたいと考えます。 民営・分社化移行の際、郵政公社は「民営・分社化移 行も現行サービスは維持する」と発言するとともに、民営化推進論者の政治家は「民営化すれば、サービスは向上する」と発言していました。しかし、この1年を見ている限り、必ずしも発言どおりにはなっていません。逆に、集配郵便局が再編され、 1　配達時間が遅くなった。 2　時間外窓口では「ゆうパック」や書留が利用できなくなった。 3　自宅を留守にした時、集配局に取りに行く時間が倍になった。 4　「ゆうパック」の集配時間が希望通りにならなくなった。 などの不便を感じています。 また、採算が取れていないとの理由でATMが撤去されたとの話も聞こえてきますが、郵便局から離れている地域にとっては、ATMは郵便局の代わりになっており不便を感じています。このように、民営・分社化されて以降の対応を見聞きするにあたって、まさにサービス低下であります。更に、地域にある郵便局は、郵便局会社と郵便事業会社の2つの会社が共存し、郵便局会社が忙しくても、郵便事業会社の人は対応できず、地域の皆さんは郵便局会社も郵便事業会社も区別がつかず、不親切な対応としか思えません。それぞれの会社間で業務協定を行うなど、スムーズな対応をお願いしたい。できれば、郵便局会社と 郵便事業会社は合併すべきではないでしょうか。 民営・分社化以降、民間等に運営を委託している簡易郵便局の閉鎖が相次いでいるとの新聞報道を見ることがあります。政府は民営・分社化の際に、国民に対して約束した「現行サービス水準を維持し、万が一にも国民の利便に支障ないよう万全を期す」との約束はどうなったのでしょうか。以前、郵政民営・分社化には反対していた立場から、現状をみていますと不安感のほうが大きくなっています。	ユニバーサルサービスについて、郵便サービスは法律で義務づけられていると理解はしていますが、「ゆうちょ」と「かんぽ」の取り扱いについては、郵便局会社との「安定的な代理店契約」に基づき民営化移行10年間に限ってのことであり、11年目以降は「ゆうちょ銀行」も「かんぽ生命」も業務委託を継続する保障はありません。業務委託を継続しなくなれば、金融のユニバーサルサービスが崩壊する恐れがあります。郵便と金融のユニバーサルサービスを維持するために「社会・地域貢献基金」を設けることとなっているようですが、貢献基金で赤字補てんされる郵便局は、過疎地のわずかな郵便局のみが対象であるとともに、それ以外の財政措置はないとのことですが、少子・高齢社会が進む日本では、将来にわたって郵便局を通じた郵便・金融のユニバーサルサービスは維持すべきであります。郵政三事業は、三事業一体運営の中で郵便・金融の全国ネットワークとユニバーサルサービスを守ってきました。今後とも民営・分社化におけるグループ経営をどうしていくかが重要と考えます。郵便・金融のユニバーサルサービスを維持するしくみを構築するために「社会・地域貢献基金」のほか、地方・過疎地の郵便局に対する「税制措置」と郵便局会社・郵便事業会社・ゆうちょ銀行・かんぽ生命の各会社との連携・関係を法律によって、将来にわたって担保し グループ経営をやりやすくする必要があると考えます。	以上、今後の郵政民営化の動向に期待し私の意見とします。
38	大阪府	おおむね良好と思われる部分と適切ではないと思われる部分はある。 良好と思われる部分は、相手をお客様意識で見られること。またそれぞれの会社において様々なキャンペーンが行われていることも良と思う。 ただ、手続き等が複雑化して窓口等で待時間は増えていると思う。 郵便事業および郵便局郵便窓口のややこしさ。これはかなりネックであると思う。	現在の都会でのサービス水準はかなりのものだと思われるが、郵便局会社と郵便事業会社は一緒でいいのでは？ また地方（特に離島など）は貯金・保険・郵便三位一体の事業がやはり好ましい。 いろいろと弊害はあろうかと思うが離島特区みたいなのがあってもいいのでは？ 例えばここでは三位一体経営を義務付けする代わりに補助金をだすとか。	とにかく日本国民、また日本在住の方々に納得のいくサービスの提供していくことが最大の課題であるからしてますますの議論があるとおもう。
39	福島県	×。郵便局が、複雑になりました。近くの郵便局に苦情や取扱い商品についての意見を言うと、必ず返ってくる言葉が「担当する（担当した）会社へ言っておきます。」ばかり、もう少し責任もった回答ができないのか。と思います。 料金が上がりました。50円の定額小為替を購入するのに手数料100円。おかしく思いませんか？購入するものより手数料が高いなんて・・・。 苦情はまだまだありますが、書いているうちに余計に腹が立ってくるのでやめますが、民営化の評価は0点。いやマイナス100点です。	期待できません。 ハイカラな銀行みたいな対応する郵便局は嫌いです。 郵政省の頃の郵便局のように、夏場にランニングシャツと泥だらけの長靴姿で行けるような郵便局。地域の方言で「ばあちゃん気をつけて帰れや。」と、言ってくれるような温かい郵便局に戻してほしい。 このままでは、郵便局に替わる別の会社を利用したいと思います。	隣の嫁さんを本気で探してくれる局長は居なくなりま した。本業で忙しいそう。
40	千葉県	サービス現場での質の低下がある。例えば、ふるさと小包の代金をゆうちょ銀行の窓口で従前のように払込みをしようとすると「会社が違うから郵便局会社に行け」とか、予約の年賀ハガキを郵便窓口に受取りに行くと「郵便事業会社の窓口へ行け」といったことが多々ある。郵便・貯金・保険の三事業一体で運営していたころのサービスのほうが良い。 民営化した良さがどこからも見いだせない。	期待できない。 聞くところによると、ゆうちょ銀行やかんぽ生命保険の株式をすべて売却するとかですが、外国の資本に買い取られてしまうことになりませんか？不安です。 郵政事業は、国民の財産だと思う、株式の保有問題については、見直してもらいたい。	今朝の読売新聞を見ましたら、郵政株の売却凍結の記事がありました。「今は株安だから・・・。」とありましたが、郵政株は国が保有していただきたい。ゆうちょ・かんぽ事業と郵便局は一体で経営してもらいたい。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
41	宮城県	・定額小為替の料金が1枚10円から100円に大幅に値上げされた。 ・近所の郵便局から集荷に来てくれていたものが、フリーダイヤルを案内されて集荷してくれなくなった。 ・チルドゆうパックを引き受けてくれなくなった。 ・ATMを使ったゆうちょ口座間の送金が無料になった。 ・定期貯金の金利優遇キャンペーンをするようになった。 ・かんぽの日帰り入院特約が発売された。 郵便局も努力しているとは思いますが、利用する人みんなが郵便局が良くなったとは実感できない状況です。変わらないか、むしろサービスが低下していると思います。また、今後も郵便局が変わらずに地域に存在してくれるのか不安です。今は歩いていけるところで、公共料金が払い込みできるのでありがたいです。でも、郵便局がなくなったらと思うと心配です。	4つに分かれるなどわかりにくい仕組みを改めて、今 までどおりの郵便局のままでの民営化として欲しい。これまでの郵便局の成り立ちは、町内会からの陳情で郵便局が建ったと思う。地域の大切な公共機関という点を考えず、民間会社の損益だけの基準で廃止・継続 を決めることのないように望みます。	利用者のこと、国益をまず第一義に考えてください。
42	大阪府	総合的にはマイナス。民営化よりも分社化による弊害が大きい。事務取扱いが繁雑になったばかりでなく、グループ会社とはいえ、他会社なので、自分の事業以外のことは無関係、といった意識が社員に出てきているような気がする。	現状では非効率なのは明らかなので、民営化前までとは言わないまでも、3事業が効率的に営めるよう改善を望む。	株式会社である以上、公務員の国民・地域のために働く、といった意識が小さくなるのは仕方がない。ただ、それに代わる社員がこの会社で働くことに誇りややる気が持てるよう、待遇の改善を望みたい。
43	大分県	郵政民営化に対する評価は何一つない。郵政民営化はある一部の人達の企みの様な気さえする。国民の賛同を得たとその人達は云うでしょうが、国民の何割の人が本当のことを知っていて賛成いたのか疑問に思う。 今では殆んどの人（私の周辺）が嘆いているサービスの低下がその総てである。仕事に携わる職員の方々の苦労も筆舌につくし難い。小泉、竹中、両氏は今何を考えているのだろうか？地方は本当に困っている。 分社化が一番の原因に思える。	民営化はなんとも仕難いものなのでしょうか。この国に全く心配しなくて利用できる金融機関。営利を追及しない国民の為の郵送会社があってはいけないのでしょうか？昨年の民営化以来私はずっと考え続けています。	早期に衆議院を解散し、もう一度国民に問いかけて欲しい。とに角、今のままでは総てでとても困っています。
44	東京都	お客様にとっても郵便局にとっても良いことは一つもありません。 お客様は事務が複雑になったことで窓口で待たされる時間が多くなり、郵便局側では分社化されることによりマニュアル等が膨大な数になり、それを理解し事務を正常に運行することが難しくなっています。経営的にもマイナスでありこのままだと大変なこと になるのではないかと心配しております。	法律を見直し、民営化は仕方が無いとしても分社化を取りやめ、三事業一体の経営に戻すことが必要と考えます。	株式の売却については凍結法案を速やかに通して頂きたいです。誰でも解ることですが、株が売却されれば株主の意向に沿わなければならず、配当を中心に会社の経営を考えることになります。不採算部門は切り捨てられ、経営の効率化が極端に進められ、国民が平等な郵便、貯金、保険のサービスを受けられなくなる可能性が出てきます。
45	岐阜県	簡易郵便局の補助者です。他の金融機関に精度が近づいた感じがします。簡易局は、元々民営です。設備、情報などより便利になりました。とてもありがたいです。 ただ、今まで近隣の方と、信頼にもとずく関係の在り方が、個人情報の法律や犯罪防止のマニュ アル通りだとお客様にも責任ある行動が求められます。 お年寄りが多いので納得してもらうのに少し苦労 します。 印紙税のことなどはよかったとおもいます。 民営化ということで宣伝を博報堂に一括数々の宣伝ツールが出されましたが全くの無駄使いだと思います。 なんか宙に浮いた感じでいったいいくら使ってるのという感じです。	宣伝関係の有効化、事務関係の現場の状況把握による改革、（上からの机上の設計図が多すぎる）民と官をつなぐパイプ役ができたらいいい。	民でもない官でもない中立的な分野は考えられないかな。
46	東京都	郵政民営化っていったい何だったんだろう？ 小泉自民党が選挙に勝つために後先考えずにやった、無策ではなかろうか。大手銀行及び地方銀行が赤字や大幅な減益となり、安全な銀行がなくなる中でゆうちょ銀行は国営化し、国民に安全な銀行業務を政府の責任で実施すべきであると思う。 郵政民営化は間違いだったと思う。 民営化されたことによりサービスが向上されたとの実感はない。郵便貯金は依然として1000万円までしか預けれなく不便である。民営化したのであればいい加減に1000万預けれるように政府（自民党）が進めるべき。	外貨預金、住宅ローン等の新規業務で収益を上げれるように政府が率先して許可すべき。ただ、今のような不景気になりつつある中で、他国のように国営銀行があってほしいとも思う。アメリカでの郵政事業は公社形態である。 期待することはない。安全、確実な貯蓄手段として 国営銀行として位置づけてほしい。	郵政民営化は小泉自民党の無策であった、民営化！という言葉にだまされた国民が愚かであった。次の選挙で自民党はだめでしょうね。
47	東京都	安心・安全・利便性という信頼感が無くなり、中途半端な民間企業になった。会社が違うと言ういい訳が多いので、細かく分け過ぎた。民営化は拙速だった。このままでは失敗と言える。	あまり無い。	株の売却は時期が悪い
48	福島県	まったく評価できない。	4社一体的な会社運営を望む。	社員が、安心して仕事のできるシステムを早急に再構築してほしい。会社に対して、まったく期待できない。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
49	記載なし	失敗。待たせ過ぎ、社員さんのスキル不足甚だし。（付け焼刃的研修で何を聞いても消化不良。応えられない） 社員から滲み出るやる気なさ、モチベーションの低さ。自分たちのミスや上から怒られないよう、お客に無理を迫る郵政グループの根底に流れる体質。 地産地消の最中、都会地のボールペン、現金袋、ふるさと小包、アカぬけたCMとは裏腹な現場。毎週ものすごい量廃棄される段ボール。内部文書を読め読めと迫る局長に、いつ行ってもそればかり見ている郵便局員。お客さんの伝票は大丈夫なの？？？？ 私は元銀行員だけど、そんなことしたら大叱られするのにね。70年も付き合ってきた近所のお爺さん、お婆さんにもいちいち証明書の提出を迫る局員。同じ証明書なのに、この証明書は保険には効かないとか貯金には効くとか意味不明なことを平気でまくしたてる局長。 地元のカモ肉や、そばは民営化後もう、やめました？？？？地元を見捨てた郵便局には用はない。 周りを見ても老人しかいないのに、受付券を取らないと事務ができない、しない？？？ 田舎は自家用車でしか郵便局にこれないのに、経費がかかるので駐車場は廃止にした。とのたまう郵便局。 同じ年賀状をチガウ会社同士で、取り合いを毎年繰り返す愚行。わたしたちはあなたたち両方にお世話になってるのがわかんないですね。 わけのわからん法をいくつも並べたてて、「イニンジ ョウがないと払えない」「何か所も書かせといて、30分以上電話かけたり、チェックしてたった1か所ミスがあるとみつかると、悪そうな顔して、ミスがあるから払えない。本人じゃないと教えないの一点張り」ホント、郵便局何かにお金入れて損した。大損した。 また、職場に無理行って休み貰って、おばあちゃん家に行って、また、局に来ないといけない。 郵便番号簿は、書店で買え、電話で聞け、おまけにインターネット何かつなげていない私にインターネットで調べろと！！！！ いつから郵便局員はそこまで横暴、横柄になったのか！！！	もう、郵便局はいらない。はやく、なくしてほしい。地元の農協や、信金で十分、ヤマトさんに年賀状配達 もお手紙も配達してもらいます。 銀行は、「あら、私が生まれる前からタバコやしてるおばあちゃんにまで、そんなこと郵便局さんは言われるんですか？」そんなもん銀行はいらないですからね。	早く民営化でもなんでもいいから、廃業して、地元の資産は地元の農協に移して切なる切なるお願いです。
50	大阪府	4分社化されたことで、企業としての効率が悪るくなった。個々の会社において管理部門が必要となり、人件費の無駄が発生している。3事業一体としたサービス、商品開発がなくなり、ユーザーにとってデメリットである。（電信為替の自宅配達、年金の配達サービス等）利益優先となり、各種手数料が高くなった。	3事業一体となった、経営モデルの構築を図ってほし い。3事業一体となることで、郵便局でしかできないサー ビスを開発してもらいたい。	分社化には矛盾がある 規模が大きいのであれば、JRのように地域ごとに分社化すべきで、3事業を分けるのは、アメリカよりの圧力により、貯金と保険事業を外資に売り渡す意図がありすぎて、日本国民にとっては不利益であり、小泉、竹中の単なるエゴにすぎない。
51	岩手県	窓口、貯金保険に時間がかかりすぎる。 郵便物の集荷が不便になった。 担当が違うってどういうこと？ 何一つ良くなったって言えますか？ 民営化でサービスが良くなる。良くなったサービス探せますか？	まず、元の状態に戻す。全てのサービスが一つの郵便局で行えるようにする。	郵政民営化は、失政である。
52	三重県	郵便局は、他の金融機関とは違う温かい雰囲気があり、「サービス」ではない心の通う「つきあい方」をしてくれる唯一の「お店」だったのに、民営化後はその雰囲気や「つきあい方」が無くなり残念である。 そもそも民営化する必要がなかったと思うが、小泉さんの勢いに国民の多くがなんとなく乗せられてしまったが、みんなの判断が間違いだったと思う。民営化は我々国民には「良いこと」が1つがなく失敗だ。	郵便局に他の金融機関と同じようなサービスを求めていない。私たち庶民が難しいことを考えず信頼して気軽に利用できることに期待したい。民営化前の郵便局に戻ればいいのに・・・	より良くなるように「民営化」が考えられ実施されたが、悪い方向に向かっている今、もう一度元に戻すこと も「改善」の方法ではないだろうか？
53	東京都	事業ごとに分社化したことが失敗だった。日本郵政公社時代には、公社全体として黒字経営であったことから税金投入はなかったが、分社化したことにより郵便局会社及び郵便事業会社は赤字になり、税金を投入せざるを得なくなる恐れがある。本末転倒の民営分社化といえる。	分社化を見直し、公社時代と同様に郵便局会社1社に統合すべきである。ニュージーランドやドイツの失敗を真摯に受け止め、株式を日本政府が100%保有する特殊会社の経営形態となることを期待する。	分社化したことによるメリットを過疎地や離島に住まわれている方々に説明できるか。どこに住んでいても同じようにサービスが受けられる郵政事業でなければならない。金融2社の株式を上場したら、地方の郵便局からゆうちょ・かんぽが撤退することになる。株主の利益より国民の利益を考えるべきである。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
54	岩手県	民営化して今まで以上に悪くなった。 1　貯金関係の本人確認が厳しい。同じ金融庁が監督している銀行は最初に本人確認資料を提出しただけで、次回以降は言われない。お客さんと顔なじみの特定局では必要ないのではないか。友人の話では家族に頼まれてお金を払い込むのに、依頼した人の証明書 と、本人の証明書が必要と言われ、自分のは持っているが、依頼者のは持参してなかったので、止めて帰ったが、隣の銀行で払い込んだら、本人の証明書の提示だけですんなり払い込めた。手数料は高かったが、厄介な郵便局は利用したくないとも話をしていた。半年前ぐらいからはゆるくはなってはいますが、、、。 2　中央郵便局の貯金と他の壁があるのはいただけない。銀行が保険や、投資信託等の業務も委託されているが、受け付ける窓口は別だが、壁など設けていない。 3　お歳暮、お中元ゆうパック等の品物に地元の商品が少なくなった。以前は地元の業者のカタログがあり、遠方の知人には「岩手にはこういうおいしいものもあるよ」という意味も含めて送っていた。	民営化して逆にお役所的になった。 地域に密着した郵便局になって欲しい（顔なじみなのに、何をするにも証明書、証明書と言われ、不審になる。金額等により、証明書の必要な時はあるだろうが、、、）。 会社が大きくなるには事業の種類を増やすのに、郵便、貯金、保険、窓口会社と、わざわざ別の会社にするのはおかしい。 民営化して法律の規制が少なくなるはずなので、特に田舎ではなんでも屋の郵便局になって欲しい。	一度離れたお客さまを取り戻すのは大変です。
55	山梨県	郵政事業が4社に分割され、非常に不便になった。例えば、郵便の配達が以前より遅くなったし、近くに配達する基地がなくなってしまったので、不在の時に 再度配達をお願いする時に時間がかかる。	郵政民営化をやってしまった以上、再び国の経営にすることは実質無理なので、それに近い組織にする。	ー
56	愛知県	分社化され、郵便関係は、相変わらずの人手不足。貯金・保険の外務員等は、販売商品が多すぎて、迷走している印象。他社商品を販売するのは良いが、やる気のない社員が残り、制服を着て堂々と喫茶点で休憩している姿を見ると 公務員ではないにしても、いかがなものか？と憤りを感じる。 早く上場してリストラに入るべきではないのか？	もっとスリム化を！社員が多すぎ、遊んでいる社員が多すぎます。	やる気のない社員は、万年人手不足の郵便配達にまわせば良いのでは？ もしくは、解雇。
57	東京都	民営化になって何一ついい事がない。どこの郵便局に行っても待たされることが多くなり、手続きも面倒になった、手数料も高くなった。また、今まで気軽に相談できるところだったが、仕事が増え人手が少ないためか、相談できなくなった。郵便局は人手が少なすぎる、もっと人員を増やして、お客様サービスに徹するべきだ。	民営化による株式売却は中止するべきだ。今まで世界で一番安心してお金を預けられる、利用できるところだったが、株式売却が進めば、もともと国営で利益が少ない郵便局に将来性はない。今まで通り、公共性のある郵便局で、安心できる会社作りを期待したい。簡単に言えば国営のままで良かったのに、多大な金を使って民営化する必要はない。気軽に利用でき、安定した郵便局に戻した方が良い。	ー
58	石川県	今の民営化法案は見直すべきです。立派な経済学者様の自由経済は良いとの発想も良いで しょうが、現実を見て下さいアメリカがどうなりましたか？理想と現実は大きく違うんです、国民の為にも早急に見直すべきです。 それが国民の為であります。	株式の売却の中止をしてください。一時の売却益よりも、もっと大切なことがあるのでは無いでしょうか？郵便局は税金を使わず地域のインフラの役割を果たしてきたんじゃありませんか、一時的な感情で見ずに長い目で、大きな視野で見て下さい。なお、松原聡さんが昔ラジオでお話ししていた銀行より郵便局の方が効率が良い形態で運営されていたという、3事業一体の経営が良いと思います。	地域の人々から親しまれ、喜ばれ、税金も使わないで地域のライフラインの役目をはたしている郵便局でいたいのです。
59	広島県	評価のしようがない。 1　サービスが良くなったとも感じない、悪くなったとも思わない、以前と変わっていないと感じる。 2　窓口で待ち時間が増えた理由は、少人数しかいない郵便局へ金融庁の検査に対応するためとかの理由で、煩雑な事務手続きを導入したことにより、待ち時間が増えたことによるものであり、民営化云々とは関係ない。 3　郵便配達のサービス低下との意見があるが、郵便を配達する拠点を統合、集約したことによるものである。以前と比べればこの部分でサービスが低下したと感じるかもしれない。 4　民営化で期待したことは、小規模郵便を統合し大き目の郵便局の出現を期待していたが、あいかわらず小規模の郵便局が乱立しており、利用者に対して迅速なサービスや高度な手続きに対応ができにくいことである。3～5人の郵便局員が利用者の全ての要求に対応することは難しいと思う。窓口の混雑などもここから来ている。	何を目指しているのかよくわからない。利益をあげる優良企業を目指すのか、公的な機関を目指そうとしているのか。 期待することは、 1　特定郵便局長会の影響力の排除。郵便局の効率化を阻む最大の要因。 2　郵便局網を維持する、この文言の削除。この付帯決議があることにより、小規模郵便局乱立のもと。赤字のまま。 3　郵便局は国民のインフラとかセーフテイネット等の意見がありますが、郵便局の実態はそのような理念とはおよそかけ離れていると思うので、もしそういったものを目指すなら、国が事業を行うべきであり、民間企業としてやっていくならば、赤字になる事業、地域からは撤退することが必要と思う。	公的なサービスとして国がおこなったほうがよいと思われること。 郵便の配達。 それ以外の貯金や保険は、国がやる必要はまったくないと思う。大多数の国民は、郵便局との関わりは郵便の配達、差出くらいしか接点がなく、極論すれば郵便に関するも の以外は民間に売り払ってもかまわないと思う。これが貯金とか保険とかが絡んで、以前は郵便配達の人へ貯金を頼んでいたが今はできなくなったので、民営化により不便になった等といった意見が出てくる。
60	岩手県	民営化されてから郵便局が大変不便になった。手続は面倒になるし待ち時間は増えるし手数料は上がるし、利用者にとって何一ついいことがない。民営化されれば郵便局がよくなるということだったがこれでは話が全然違うのではないか。	地域の中でもっとも身近で、地域の中心となるような公共的な機関をなくすことのないように、設置義務付け、事業形態の分社化を見直すことなどを検討してほしい。	国民生活の視点から慎重に今後の検討をされたい。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
61	大阪府	現在の郵便局は、地方の赤字を都市部で補っているのが現状である。ユニバーサルサービスを維持することは赤字の郵便局も存続させることが当たり前となるが、ゆうちょ銀行及びかんぽ生命の株式を上場した場合、株主は赤字の郵便局の廃局を考えて当然である。ユニバーサルサービスの維持と株式上場は相反することであり、当面の間、株式上場は凍結すべきと考える。	今後も民営化に期待することは何もない。	ー
62	宮城県	民営化後の郵便局窓口局員及び郵便配達員等の接客態度は良くなったが郵便事業会社、ゆうちょ銀行、かんぽ生命と三社に分かれたためか、以前は弔電(レタックス)と一緒に香典も送れましたが別に現金書留で送金しなければならず不便になった。小包を夕方、仙台から横浜に出そうとしたら翌日着かないとのことだったので、やむなく宅急便でだした。為替の手数料もすごく高くなった。	郵政3事業別々の会社でなく一本化した会社であることを期待する。	ー
63	宮城県	社員のモチベーションが向上すると言われたが、郵便局への各種目標・指標は、民営・分社化後の、市場や経済事情等各郵便局の現状を把握しないで、過去の実績等を基に示達され、その目標等を基として各郵便局の業績評価がされている。大きな郵便局では、大きな目標を達成するため社員は、小さな郵便局よりも、多大な努力をしている。業績評価は、「推進率」で評価されるウェイトが高く大きな郵便局の社員は、不公平感でモチベーションが上がらない。	郵便局会社が新規事業等を開始しているが、すでに市中に出回っている商品を販売するためには、郵便局で買ったことにより受けられるメリットがなければ大きな収入は望めない。年賀葉書販売を郵便事業会社と郵便局会社で競争しているのは、全く無意味。ゆうちょ銀行・かんぽ生命もユニバーサルサービスを義務付け、郵便局を通じて今後も無期限にサービス提供することを法定化すること。分社化を廃止し一体化に戻した形態が民間会社として生き残れるのでは？	地域の利用者からは、「民営化になって何が良くなった の？金利優遇キャンペーンとかできたこと？それよりも面倒になって時間もかかるし・・・」といった声が多い。それでも利用していただけることはありがたい。でも今後の「存続と利便性」が確保されなければ「安心な金融機関」のイメージは失われる。一人一人の利用者の財産や安心感を確保するためにも、最低限「ゆうちょ・かんぽのユニバーサルサービス」を無期限に義務づけて欲しい。
64	大阪府	来店客数が減った。(お客様の郵便局離れの始まり？)	金融庁の押し付けのシステム(検査・監査等含む)じゃなく、郵便局(小局がほとんどの為)に合った独自のシステムに改善してほしい。	選挙活動をマスコミが取り上げるくらい(マスコミを利用)大々的に展開すべきである。
65	群馬県	民営化になったら、不便な事ばかり。	本気で考えて貰わないと郵便局がつぶれる。	一般利用者をもっと大切にしてサービス向上をしないと誰も利用しなくなる。
66	宮城県	1　手続が複雑になった。 2　窓口での待ち時間が長くなった。 3　機械操作が複雑になったためか窓口社員との会話が減った。 4　唯一の金融機関である過疎地(当郵便局のような)郵便局がなくなるのでは…。 5　必要な商品が廃止となった。(電信為替など) 6　何のための民営化なのかよくわからない。	1　今後も郵便局がなくならないこと。 2　高齢者にやさしい手続。 3　親しみやすい雰囲気。	左記は直接窓口にいらっしゃったお客様の言葉です。社員もがんばっておりますが、お客さまからは民営化により「地方は切り捨て」との意見に返す言葉がありません。
67	三重県	私は利用者の一人として、民営化が報道された当初から不安と少しの期待がありました。しかし民営化ー分社化された今日、期待は裏切られ、当初の不安に加えて不便になったと実感しています。 1　規定された利便性の向上・料金の値下げはなく、逆に待時間は長くなり、利用料金や手数料の値上げが続き、リスク商品を勧められるなど郵便局らしくない。 2　分社化されて苦情・意見・質問・相談が言いにくくなった。 3　地域に密着したあまねく公平なサービスが後退している。	分割されたことで利用者不在の会社になったと思います。郵便局会社に一本化し以前の郵便局の姿を取り戻していただくことを期待します。又、郵便局の全国ネットはすばらしいシステムだと思います。これを生かした庶民の生活応援のための総合サービスの独自商品も事業の一本化により可能ではないかと大いに期待しています。	1　集配局が減り、休日の郵便利用が全く不便になりました。改善を望みます。 2　今のままでの株式の市場売却は適当ではありません。会社の一本化や健全性、それに国民利用者の安心感と支持が得られるまで凍結することに賛成します。
68	三重県	各事業が別れたため、お客さまに多大なご迷惑をかけている。特に、郵便事業において、配達業務・受付業務の会社が違うことにより、お客さまはどちらに何を聞いたらよいか分からない。職員も会社が違うためはっきり分からないので、お客さまに的確な回答をすることが出来なくなっている。	三事業一体となって運営できる会社となり、地域の皆さんに親しまれ信頼される郵便局として、そこで働く職員が誇りをもって仕事が出来、地域の皆さんに奉仕する精神が得られる会社になることを期待する。	損益勘定をすることとなるため、お客さま中心ではなく、会社の損益が中心で、株主中心となり、そこから合理化が図られ、そして人員の削減、局減らしへとつながり、ユニバーサルサービスが出来なくなる。郵便局の基本である地域を密着した会社になることは不可能になる。郵便局の理想とするあり方とは全く異なるものになってしまう懸念がある。
69	千葉県	一年間経過したが、従来の業務運営(特に窓口業務)は非常に時間がかかり、利用者の不満が多かった。私個人が利用の際、他の利用者から従来と違うと不満をもらし、窓口係員に不満発言を見た。	4会社の分割は業務上、利益上、市民の利用上不都合であるので一本化して従来のような運営をしてほしい。	郵便局と市民との一体化が従来はあったが、その点について今は崩壊してしまったようだ。これでは市民との協力体制は困難である。
70	福島県	とても面倒になったし、時間もかかり、不便になったとのお客様の声が多くなり残念です。	元気な郵便局。働きがいのある職場にしたい。	地域に根ざしている郵便局を守りたい。ネットワークを守りたいです。
71	千葉県	特定局(無集配)の窓口の待合時間が長くなり大衆はイライラしている。局長を始め職員は忙しく、笑顔のあいさつもなく、相談するのも気が引ける状況である。郵便物の配達は不定時で夕方(6時頃)の配達では困ったものだ。民営化で民間宅配業者の誤配達に迷惑している。	三事業一体の経営により地方の郵便局が廃止されることのないようにしてほしい。	地域にやさしく、親しまれる郵便局は、民営化ではなく公社組織であってほしいと思います。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
72	愛知県	私が、郵便局を利用して感じたこと ・普通局の窓口で、貯金の振替払込や通常貯金の通帳切替等を申込して、窓口の整理券でまっていたが、なかなか順番がこないこととともに、処理時間が大幅に以前より増え、結局1時間も必要とした。以前は、このようなことはなかった。以降は、無集配特定局を利用している。 ・簡易保険の満期払戻に際して、本人確認処理が複雑化し説明も不十分であったので、3回も足を運ばなくてはならなかったこと。 ・年末の百貨店お歳暮ゆうパックを振替で申し込んだところ、先方に配達されるまでに20日必要としたが、以前は5日から7日だった。以後、利用することはしなくした。 以上、私が郵便局を利用して感じたことの具体的な事例である。 民営化に伴う諸施策は、小泉元首相のいうこととは反対で、お客様にとって悪くなった。	・民営化になってしまって今、元のように国営にするとは無理かも知れないが、三事業一体の仕事ができるようにすること、郵便、貯金、保険の仕事を社員が協調して仕事ができる体制にすることが大事だ。 ・貯金、かんぽ事業の株式について、外国資本に渡され経営を乗っ取られることのないように売却をしないこと。	営業が減少しているため、人件費の節約で人員削減、バイトの採用と聞くが、社員のヤル気を出す運営をするようにしてほしい。
73	岐阜県	評価される物は何も無し	このままで行けば期待される物は皆無	分割された3事業を元に戻すべきだ「3事業一体」 利用者から見た矛盾例 ・日曜日に旧普通局へゆうパック用の箱を買いに行ったら、それは窓口会社(郵便局会社)でしか売ってない、郵便会社では売れないとの事、目の前に飾ってある物が何故売れないのか？ ・よく利用する郵便局で、職員さんがお目出度、3年間休暇がありその間、ゆうメイトが働いてくれるとのこと。3年経って復帰された時、仕事について行かれないのにゆうメイトより高級とは、ゆうメイトが可愛そう〃此で職場の人間関係は？ ・保険の診断書について、受付郵便局では診断書を見ることは出来ないらしい、不備があった場合、保険会社より受け付け局へ訂正要請が来る、受付局はそれでもお客様に訂正をお願いしている、支払いを遅らせる要因。 ・年賀葉書について、窓口会社と郵便事業会社との販売競争、しかも今年から販売された絵入り年賀は注文しても何時来るか解らないとの事。
74	三重県	郵政民営化が実地された時私は、〇〇県議会議員を辞していましたが、元〇〇市議会議長、元〇〇県議会議長を勤めたこともあり、現在でも多くの対外的な役割を微力ながら務めている者です。 郵政民営化の是非については、当時国論を二分しましたが、既に郵政は民営化されていますし、いまさら国営に戻せということも、非現実的な空論でしかありません。 部外から見ていて、郵政事業は短期間に関係者の努力もあり、順調に推移していると推察できますが、県庁所在地にある郵便局でも一部といえ、窓口だけになった局もあり大変不便になりました。 また民営化により、業務が輻輳したせいか、従来より時間がかかり、窓口が相当混雑しています。 市町村合併で、琵琶湖ほどの行政区になりましたが、県民・市民の行政の窓口として、郵便局の活用をもっと図るべきであり、かつ民営化の視点は常に「国民の幸せ」のためにあるべきです。 コスト削減は当然としても、民営化前に出来ていたことが、民営化後どうして出来なくなったのか、民営化委員会として、しっかり議論されることを要望します。	「国民のための郵便局」が私の主張です。民営化されたといえ、郵便局のネットワークは国民のものであり、便利な郵便局が廃局になることは問題です。 同様に郵便貯金や保険の資金も地方の活性化資金として大いに利用されてきました。国際的な金融不安のなかで、資金が海外に流出し損失をこうむることを危慎します。また安易に株式を売却し市場万能主義になることも問題です。株式の上場と売却は、政府のコントロールが効くよう慎重に対応されることを希望します。	郵政民営化論議が政局になってはいけません。将来の事業展望をしっかりふまえ、郵政民営化委員会の英知でいい結論を見出すことを期待します。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
75	群馬県	国営企業としての郵便局は、経営効率やCSなどで自己改革を必要とする点も多く、民営化により職員意識や企業意識は増したと感じられる。特に、郵便事業に携わる外務社員の接遇や配達時の扱いは向上した。 しかしながらゆうちょやかんぽに関しては、民営化以前から民間企業と同様な企業活動を行っており民営化による顕著な変化は感じられない。 民営化にあたり、ゆうちょとかんぽの資金の流れが大きな問題であると言われていたが、これらの資金は民営化後も国債購入などによる資金運用が主であり民営化前と何ら変わらない。地方債の購入や地域の活性化に役立つ資金運用をすべきだ。 郵便事業に関しては、社員の接遇や意識に向上が囲られたと述べたが、普通郵便物の配達が遅くなったことと、社員の負担が重くなったなど問題も多い。 郵便局会社との製販分離もうまくいっていない。非正規社員ばかりが多くなり、安定した労働力の確保や正社員同様の業務負担や責任感を持てるかなど問題が多い。 ゆうちょ・かんぽ事業は経営に関して自由度は増しているが、先行する民間企業の後追いサービスの捷供にとどまり目新しいものがない。また、銀行等の本支店と異なり、窓口業務委託手数料に消費税が課せられるなど負担増となっている。 郵便局は損益重視となり、経営の効率化を求められているが、少子高齢化が進む山間へき地では常に不採算となり、収支の改善が困難なことから存続が危ぶまれている。また、収益の大きな柱はゆうちょやかんぽからの業務委託手教科であり、自ら収益を上げる手段の少ない郵便局会社はネットワークの維持すら困難なものとなっている。 郵政各社はネットワークを活かし、他社のまねや後追いではない新しいビジネスを構築していけなければ、民営化したメリットは無い。このままでは、120年以上かけて構築してきたシステムを壊しただけで終わってしまう。 郵政民営化は、当初の目的を果たすこともなく利用者や社員に将来への大きな不安を残すものでしかないと評価する。	郵政事業は、全国をカバーする物流と金融のネットワークであったが、分社化によりこれが崩れようとしている。利益が上がる事業ばかりが国民に必要とされているのではない。国民のためのインフラとして郵便局ネットワークを維持しようと考えていくのであれば、地方バス路線への助成金のように行政による支援も考えるべきだ。 民間企業の多い都市部においては、郵便局に代わりうる企業もあり利用者の不利益も少ない。しかし、農協の窓口もないへき地での窓口開設は民間企業では成し得ないものであり、郵便局の存続は地域の安心と金融機会を維持するためには必要と考える。地域を支える金融機関としてこれからも期待するところが大きい。 民営化をこのまま進めるのであれば、ネットワークと兼務委託が維持される事を担保されることを前提に、金融機関としての高度な基準や業務はゆうちょ銀行・かんぽ生命の直営店の取り扱いとし、郵便局では簡便な業務でサービスの提供が出来るようにすべきである。郵便事業会社は郵便局会社と統合し、窓口事業部と郵便事業部といった事業部制にした企業形態でも良いのではないか。 国民が簡便に安心して利用できるネットワークとして、既存の民間企業とは別の機関として民営化が進むことを期待する。	郵政民営化し、1年が経過したが大きな混乱や変化は見られなかった。今までと変わらないのであれば、「民営化してもしなくても良かったのではないか」という感想を持った方が多いと感じる。しかし、5年後・10年後の郵便局を考えると不安でならない。ゆうちょ銀行、かんぽ生命の株式売却が進むと、利用者の利益よりも株主の利益が優先されNTTや国鉄のように窓口が閉鎖され、インターホンとFAX で切手を買うようになってしまうのではないか。都市部では考えられないほど地域格差は拡がっている。
76	熊本県	(1／2) 郵便の利用者として、民営化後の郵便サービスに不満を持つものである。その不満を述べ改善策を提案させていただきたい。 (不満) 郵便局会社と同じ建物の中で行っている郵便事業会社の配達サービスには困り果てている。留守にして持ち帰られたものを受け取ろうとしても簡単には受け取ることはできないのである。ひとつの例であるが、あるとき熊本市内の郵便局から阿蘇の叔父へ果物を小包で送った。叔父夫婦は配達されたその時たまたま留守をしていた。配達に来ましたが留守でしたと記した伝票が置いてあったので、叔父は急いで近くの郵便局へ受け取りに行った。しかし、郵便局の社員は、「それは郵便事業会社の仕事です、わたしは郵便局会社の社員ですから分かりません」と言ったという。それでは郵便局会社はどこにあるかと聞くと、この建物の中にありますが今は配達に行って誰もいないと思いますという。翌日も取りに行って、全く同じやり取りをした。いままでは、窓口に後でまた来るとか、明日取りにくるからよろしくと頼んでおけば済んだ。今はそのことを伝える相手がいないのである。小包の中身は果物と電話で聞いている。早く受け取りたい気持ちで気はあせる。老叔父は戸惑ったという。伝票をよく見れば、熊本市内の郵便事業会社北支店へ電話するように書いてあった。最初に配達を受けてから3日目にやっと叔父の手に小包は渡った。その間に2回郵便局へ行き、1回市外電話を掛けた。何か無駄な行動、無駄な時間、無駄なお金がかかった様で納得がいかないという。折角の小包を受け取った喜びも半減し、果物にも若干の変化が出ていたとぼやいていた。郵便配達を郵便局から切り離している。これは、お客へのサービスより経営に重点を置いた、利用者無視の施策としか言いようか無い。お客にもサービスを受けてきた慣れがあり、慣れに変動が生じた場合誰もが戸惑うのである。この戸惑いが不満を生み、不信を呼び、利用離れへと繋がっていくのである。現に宅配便の伸びは大きい。小さな問題を大切にして欲しい。郵便局ファンとしてつくづく残念に思う。いや、正しくは日本郵政ファンとして残念なのである。	小さな局舎の大きな壁、その中で働く者以上に利用者に奇異に思われている。小さな郵便局を2つに分ける、こと事態に無理があり、大げさに言えば、働く者と利用者の心を完全に踏みにじっている。将来のためにも、修正して利用者を引き付けることが先だと思う。配達の委託が実行できれば、郵便貯金保険の外勤が揃い、言うところの3事業を一体で行うことが出来る。局舎内の壁はなくなり働きやすくなる。要望の多い郵便局会社の集荷サービスも出来、全社員が不在の配達の照会の受付が出来る。お客との距離が近くなる。今の郵政のトップには、このお客との距離感について理解が不足しているようでもあり、重要性が理解されていないようにさえ感じる。郵便は郵政の柱であり、郵便仕事があるからこそ貯金保険のサービスはできるのだと伝え聞いたことがある。その郵便を取り込んで全体の信頼を取り戻して欲しい。改めてお願いしたい、利用者のこころを捕らえる施策を実行して欲しい。このままでは郵政の将来が見えず、ファンとしては不安である。 最も理解できないのは郵便局で郵便を配達しないことである。	ー

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
		（2／2） （改善策） 郵便配達の問題は、配達の仕事を郵便事業会社が全て直営でやっていることに無理があるのではないか。ゆうちょ銀行とかんぽ生命の外勤社員は、従来の普通局規模の郵便局会社の大半の局には配置されている。これは、ゆうちょ・かんぽ両会社から郵便局会社が委託を受けて配置しているとのこと。しかし、郵便の配達担当社員が配置されている郵便局会社は皆無と聞く。そこで提案である。郵便の配達を郵便局会社へ委託すること。お客の立場からすれば最良の方法だと思う。サービスというものはお客の意向を無視しては成り立たないのは常識である。今の郵政グループの方針はその常識を逸脱しているといっても過言ではない。それ故に評判が悪いのである。そもそもサービスと言う意識に欠けているのではないかとさえ思える。貯金と保険の外勤は委託できて、なぜ郵便の外勤は出来ないのか。郵政グループとして何か特別の構想があるのだろうか、どのような将来の絵を画こうとも、利用するひとの意向を無視した方策は成功しないと断言できる。一挙に委託するのが無理であれば、段階的に従来の集配特定局規模の地域だけでも実施してはどうか。郡部に位置するこの地域のお客に不満が集中しているようだ。少しでも信頼回復のために不満を沈める必要があるのではないだろうか。		
77	埼玉県	1　郵政事業の4分社化は、人的・物的の非効率な事だけが目立った。 2　小局等の廃止により、サービスが低下している。 3　現況方式では、各会社とも自立出来ない。	1　現況の4分社化について、早急に見直し、郵政事業の抜本的な改善が望ましい。 2　郵政事業の抜本的な改善が終了するまで、ゆうちょ銀行・かんぽ生命の株式の売却をしてはならない。 3　郵政三事業の一体的サービス提供できるようにすることが必要である。	早急な取り組みを希望します。
78	京都府	組織を分社化して事業別に会社を作ったが、郵便局会社の変わり映えがあまりしないのではないか。具体的には旧特定郵便局の変化があまり見えてこない。 郵便局の店舗に入るとカタログ販売、ストラップ、DVD等、取り扱う商品に変化が見受けられたが、果たして郵便局をあまり利用しない一般消費者がその変化に気づいているかというと多くの人は気づいていないのではないか。 一方、旧普通郵便局では建物の外観はサイン等に変化は見られるが、中に入ると郵便局会社の窓口と郵便事業会社のゆうゆう窓口の違いが利用頻度の少ない消費者には非常に分かりづらい。大別すると郵便物の引受・切手類 の販売は郵便局会社の窓口、郵便物の交付はゆうゆう窓口ということだが、郵便局会社の営業時間が終わるとゆうゆう窓口でも郵便物の引受・切手類の販売を始めている。時間帯によって使い分けをしているのだが、消費者目線での整理が必要かと思われる。 また、分社化して事業別に会社が出来たことの理解が浸透していない。郵便物の集荷・配達は郵便事業会社、窓口機能は郵便局会社という分別も消費者はあまり理解していないように思う。	郵便局会社の都市部の店舗展開に大きな変化を与えてはどうか。店舗網と物流インフラを活かして新規事業の展開が出来ないのか。ネットワーク機能を存分に活かさなければ郵便局会社の利点が生きてこない。現在の郵便局利用者は明確な意思を持って郵便局を訪れる人がほとんどだと思う。集客力を高めていくには利用目的の選択肢を増やすことも考えられるのではないか。地方の郵便局会社では現状のように一体的な展開が現実的だと思うが、都市部での郵便局数の見直しをする必要があるならば、自動車メーカーのディーラーのようにチャネル分けをして取扱商品を変えるとか、そういう可能性は探れないものか。	旧普通局に限っては郵便窓口の営業は郵便事業会社で出来るのではないか。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
79	奈良県	まず成功か失敗かと言うことになると、『完全に失敗』です。国営時からの利用者の立場から言うと、本当にサービスが悪くなった。 「年賀葉書」、なぜ発売日に自分の欲しい種類の品物が買えないのでしょうか？ 「貯金」、利息は少ししか付けてくれないのに、手数料は、べらぼうに上がりました。手続きにも時間が掛かるようになりました。 「保険」、保険料は民保と比べても高いし、いろいろな手続きに時間も掛かるし、書かなければならない書類が多くなりました。郵便局の人に話を聞くと、よく言われます。「会社が、分かれているからしょうがないのです。私たちにもどうしようもありません。恨み辛みは、小泉さん（元首相のことでしょうか）に言って下さい。」と。私が、ここに書いた内容はほんの一例です。 とにかく利用し辛くなりました。他の利用者の方々も同じことを思っておられるでしょう。私が利用している郵便局も、いつかは無くなってしまうのでしょう。たった1年でこのような有様で個人的な感想ですが、完全に『大失敗』と言えます。点数を付けると、100点満点中の－（マイナス）100点というところでしょうか。	国営か民営かはともかく、「会社が分かれているから、これが出来ない、あれが出来ない、時間が掛かる、品物が用意出来ない」の状況は、異常です。 とにかく会社間の壁（法制上も実質上も）を無くしていただくほうが、効率が良くなるのではと思います。そうでなければ、現在の民営郵政には、何も期待できるものはありません。 民営化の議論の際に、4つの会社に分けるのは、リスク遮断の為の措置と聞いたことがありますが、全然ウソですね。遮断されているのは、リスクでなくて、「利便性」と「融通性」です。世間一般では、自社の弱みを補完する動き＝企業の吸収合併や統合がトレンドなのに、あえて「分社」にしたことは、非常にナンセンスと感じます。 何か特別な意図があったのでしょうか？ 巷では、金融株（ゆうちょ・かんぽ）を外資に切売りするためとか言う言動もあるようですが・・・・・。そうなると今後の民営郵政に期待することなど、皆無です。	いつも郵便局の人に民営化についての文句をよく言っていますが、それは本サイト（意見募集）のようなものが無かったからです。本当に「良い郵政民営化」＝「日本国民に利益享受が約束できる形態」を目指しておられるなら、今回に限ってでなく、常態的に門戸広く『意見募集』を行うべきです。 もちろん、郵政民営化に『恣意的』なものが全然ないことが前提にはなりますが・・・・・。今後も期間を限定してではなく、このような一国民として意見を述べることが出来る場を常に設置していただくことを希望します。
80	東京都	（1／2） 支持政党等の問題、政治的色彩を除き、実際面だけで考え、体験から諸々を考えると全く評価できない。 徒に分社化し却って無責任体制を助長し、速やかな意思決定をすることができないように思われる。 また、現業でも（ごく瑣末な例に過ぎないが、再配達等で、「赤坂郵便局」と云えば明確に判る所を、殊更に「日本郵便・赤坂支店」などと名乗るなど）無駄に民営化・分社化を前面に出し、却って判りづらくなっている事例が多数ある。 また、窓口業務においても、従前は、郵便事業－貯金・保険で人の行き来があり、窓口の列対応なども比較的融通のある対応であったが、現在は（セキュリティ面からの対応を差し引いても）「別会社」ということか、諸業務全体の効率の低下、弾力のなさ（諸対応も民営化後の方が、受け答えの言葉尻だけ丁寧になっても、実質、二度三度と照会をしなければならない事例などが多くなった等）を招いているのではないか。 さらに、重大な問題として文化財相当（東京三田の簡易保険センターや同麻布の庁舎、東京駅前の中央郵便局）の建造物を「国民の財産」「共有財」として抱える日本郵政は、そのそもそもの存在意義を問うまでもなく、一介の民間企業と異なり、あくまで「公的存在」「国策会社」であらざるを得ない筈である。それを省みず、安易な不動産事業への参入などを企図 している昨今、現今の経済状況に鑑みて、あまりに安易な「土地利活用」「不動産事業参入」ではなかろうか。 文化財相当の諸物件を毀損・破壊し、さらに構造不況業種たらんとする不動産事業に乗り出すには、それ相応、何らかの民意を問うてから（個々事業について、形骸化したアセスメントの公述等ではなく、公的企業体の運営方針として妥当かどうか、何らか有効な公聴、あるいは国政の場での開かれた（所謂「小泉改革」と称せられる一連の政治的措置についての「タブー」なき検証と議論）にすべきではないか。この問題について日本郵政Gに照会しても、日本郵政・郵便局会社でたらい回しとなり、前述の「相互無責任」体制を顕現した形となっている。	1に述べたとおりで、再国有化、政府の監督権限の強化なども「タブー」とせず視野に入れ、安定的な郵便事業（公共サービスの最低限のものとして）の経営と、相互無責任体制になりつつある、現況の「分社」形態について早急な検討をすべきである。 事業部門の切り売り、安易な土地切り売り・不動産事業－投機的事業部門への参入は、公的企業として努々すべきではない。	上記の1・2のとおりであるが、徒に利益の無限追求をすべき事業体でないことは、自明のことである。景観・文化財的な建造物の真っ当な善管義務、乱開発・都市環境－周辺環境の悪化につながるような事業・投機的不動産事業への参入等の自粛は、安定した郵便等事業の継続と同等に、公的現業会社として、国民に対して最低限果たされるべき義務・責務であると考える。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
		(2／2) ※中央郵便局の案件では、民間任意団体からの建造物保存にかかる「公開質問」が夏季に出されているはずであるが、今に至るも何らの責任ある回答がなされないのは如何なる理由からか、至急ご照会・ご監査頂きたい。特に東京中央郵便局を巡る問題では、上記の文化財的建造物の破壊・首都の玄関口の景観変容の問題に加え、東京駅前の中央局（集配局・集中局）機能を喪失させ、不便になるマイナス、「つけたり」的に極めて部分的な保存を打ち出した開発案が現在、「景観・歴史性に配慮したもの」として都・区の都市計画・景観マターとして各種審議会等で審議中（あるいは、未審議※）であるが、その案の中にある「国際業務・情報センター」「ビジターセンター」（保存部分の低層階）などは現在復元工事中の東京駅等にも立地し得、かつ「博物館」構想も、この極めて限定的な床面積（保存部分の中層階）では十分な施設足りえないのは自明であって、本計画は既述の安易な不動産事業への参入という点はじめ、諸々の見地から考察しても即刻中止すべき事案である。 ※当該（東京中央郵便局）敷地の新築計画については、都市計画決定における容積の確定等がなされる前 に、施工者と契約を結ぶという「見込み」の入札が実施されたが、官報に掲載された国策会社の大規模事業 として、適当な手順・契約方法であったのかについても、適宜、ご検討・ご監査頂きたい。		
81	北海道	会社の分社化、配達センターの集約、事務の繁雑化に よりお客さまに不満が多く、利用者が減っている。	最低でも、現在の郵便局の維持は約束してほしい。株式の売却により、採算の合わない局の廃局が懸念され非常に問題になっている。	株式売却の廃止をお願いしたい。
82	北海道	保険証やら何やらと面倒くさくなって、時間もかかる。	前の様に戻してほしい。	地域から郵便局を無くさないでほしい。
83	愛知県	過疎地における民営化は住民に不安をあたえている。今まで出来たことができなくなった。今までと変わったことを細かく説明してもらってもよく理解できない。民営化によって郵便局は変わったが我々高齢者の生活は何も変わらない。むしろ厳しくなった。何のための民営化だったのかもう一度考えなければいけない。国民のための民営化ならば国民のためにもう一度、民分社化を考え直さなければならない。	過疎地におけるユニバーサルサービスの維持。過疎地におけるサービスと都心におけるサービスは地域性によって違うものを提供してほしい。	田舎の郵便局のよさがなくなってしまった。もっと気持ちよく郵便局を利用したい。
84	東京都	ー	ー	郵政民営化についての意見というより、民営化により国有財産から民間となった東京駅前の旧東京中央郵便局庁舎について、この歴史的建造物は、国会でも答弁された重要文化財相等の歴史的建造物である。11月4日の千代田区景観審議会を傍聴したが、重要文化財相等の歴史的建造物を取り壊して再開発することは、それ相応の説明がなされるべきと会長が発言したにも関わらず、同日に解体工事のおしらせが出ているのはどういうことであるのか？ また、同審議会では、景観審議会事務局から、再開発計画についての質問は、個別に説明をしているというが、多くの保存要望書が出されているが、それに対しての回答はしているのだろうか？ これまで、大丸有地区で、重要文化財に指定されていない歴史的建造物について、国会で歴史的建造物相等という答弁はなされていないはずである。その重みを受け止めて、事業にあたってほしい。
85	宮城県	期限通りにスケジュールを守り進めてきたことは評価できるが、民営化によって、3つの事業会社と窓口会社に分割されている現状を考えると、資本関係が断たれた後の連携に、極度の不安がつのる。	民営化をより良い方向に持っていくために、資本関係を強化一体として、制約されないサービス提供に努め、お客さまの利便性の向上と、満足向上に取り組んで欲しい。そうする事により、社員の働き甲斐と、将来の不安解消につながると考えます。	民営化の資本の流動化によって、約340兆円の資金を持っている、かんぽ生命、ゆうちょ銀行にファンドが買収をおこなった際と、運用資金の為替リスクも不安に思っている。
86	岐阜県	郵政民営化はすべきではなかった。なぜなら民営化することで、国民の生活が豊になり経済も活性化するようなことまったくなかったし、逆に不便になり民営化はまったく意味のないことが明らかになった。一個人の（小泉）の郵政への怨念のみで世論がうまく利用されただけで、今、必要なのは見直しを早急にすることである。これが国民の大多数の意見であることを認識すべきである。	民営化に期待するのではなく、早急に見直しをすることを期待する。郵政三事業は一体でサービスを提供するべきであるし、ユニバーサルサービスが基本である。	昨年の10月に民営化となり一年が経過したわけであるが、民営化になってよかったことが一つとしてない状況である。特に地方の郵便局を利用するものにとっては不便そのものである。これもまた地方切り捨てと いうことなのか！

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
87	福島県	利用者の利便性やサービスが良くなるという約束が守れず、現場で働く管理者・社員のモチベーションが下がってしまった。お客様も民営化以降、手続きの煩雑さや手数料の値上げその他様々な要因から郵便局から離れてしまった。このままでは将来のない民営化になってしまうと思う。	会社も現場の声を反映し始めているようだが、目先の改正だけでは根本からの解決にはならない。郵便局会社と郵便事業会社の問題のように会社の仕組みやシステムを見直さないと、よりよい民営化にはならない。	郵便局は地域に根ざした金融機関である。それが今はは地元の企業や地域の有力者との信頼関係が薄らいでいくのを実感する。地元の企業は郵便局を利用してくれるのに郵便局は工事するのにも地元の会社を利用できないのだ。民営化が始まったばかりで損得ばかりを追いかけていく会社でいいのだろうか？
88	東京都	1年たっても新しく、便利なことは今のとことろ感じられない。選挙のときに「郵便局はこんなに良くなる」と言っていた方々は今どうしていますか。 郵便物 のことで郵便局に行っても「会社が違うので問い合わせしてみます」なんて、こちらとしてはどうでもいいことを言われる。 特に不在郵便物の受け取りに関しては「あちらの窓口で」といわれるとムカツク。同じ局の中に別の会社がいるみたいだ。年賀状にしてもあっちからもこっちからも予約はうちでと、よく見ると同 じ郵便局からだった。（ひょっとして別会社？）郵便局と支店とは何ですか？	保有の国債を早く売り払って長期金利を暴騰させてほしい。ゆうちょ銀行は郵便局に手数料を払いすぎ。郵便だけであとはネットでやれば局と人員の削減ができる。本当はどこの郵便局に行っても郵便・銀行・保険 ができたらいいけど、民営化したんだから割り切って切り捨てることも必要。地方の人たちは不便かもしれないけど。ドライにしないと株主が黙っちゃいないよ！	株が安いうちに売れば、オイルマネーを売りぬいたフ ァンドが株を買って、銀行や保険を改善して高付加価値をつけてくれるかも。ただし日本が日本じゃなくなるけど。
89	秋田県	土曜日・日曜日が窓口閉庁になってしまったため、職員が配置されておらず、料金別納や特殊郵便物の差出もできず、また切手・ハガキなどの購入やレタックスの差出もできず、夏便りや年賀時期になると無料のスタンプ押印サービスも受けられず大変不便になってしまったこと。 特に仕事上、土・日曜日に郵便物を出す者にとっては非常に不便で約30キロも離れた郵便局まで行かねばならないこともある。また、不在持ち戻り郵便物(書留・小包)や局留め窓口交付郵便物等受取ることができなくなったこと。(仕切りで隔てられた同じ建物の中には郵便事業会社の職員が出勤しているのだが。)	平常日における郵便取扱について、 1　郵便外務職員による貯金・保険募集営業活動や貯金の払戻や振込み関係、保険料の払込みなどの引受けを取り扱わなくなったため不便。 2　局留め郵便物や持ち戻り郵便物などを窓口で受取る場合、今までより待ち時間が長くなっていること。このことは民営化後、保管郵便物の取扱については郵便事業会社が管理しており郵便局会社ではただ取次ぎをするだけでお客様の要求に即応できず長く待たせることになるなど不便さがでてきたこと。	郵便配達に臨時雇いが多くなり貯金保険についての説明を受けることができなくなったこと。
90	宮城県	当初心配していた不安が民営化により、現実のものとなった。国民にとって極めて公共性の高い郵政事業は、ユニバーサルサービス確保のためにも、一般の市場原理には馴染まないものであるのに、国民を「官より民へ」「改革の本丸」「サービスが良くなる」「郵便局は無くならない」などの空虚な誤れるスローガンで操り、強行された結果が以下のような姿となっている。 1　三事業分割により、それぞれの事業(特に郵便事業) の経営が困難になっている。 2　集配局が無集配局になり、簡易郵便局が廃止になる等、地方の窓口が縮小され不便が増大した。 3　郵便の集配が統合され集荷や配達の遅延が目立つようになった。過疎地などでは高齢者等への激励やご用承りサービスはできなくなった。 4　窓口の配置人員が少なくなり、また事務室が仕切られ、従来のような共助共援が行われず、待合い時間が多くなった。 5　単一業務従事のため外務員による他の事業への取り扱いが出来なくなり不便になった。 6　郵便貯金、郵便振替などの取扱手数料が高くなった。またATMが撤去され不便になった。 7　国営が安心して頼れる庶民金融が無くなり、この度の金融騒動により、投資信託で多大の損害を受けた人も多い(国民のセーフティネットが無くなった)。 8　職員も激務に堪えられず定年を待たず退職する者が増加し、若い職員でも事業に対する魅力やモラルがかなり低下している。	以上の現状からして、このままでは将来への期待はほとんど絶無であり、したがって『郵便、貯金、保険の3事業の一体的経営』が強く望まれる。 本来は公共性の高い事業であり、国民の生活インフラとしても元の国営が望ましいのであるが、今日の時勢からして民営で行うことはやむなしとしても、3事業の一体経営によるユニバーサルサービスの堅持が強く望まれる。貯金保険を例にとるならば、元来郵貯や簡保は民間の銀行や保険と徒に競争することでなく、余裕の多寡により巧みに住み分けてよかったものである。 郵政が民業の圧迫とならないためにも、ある程度の預入、加入限度を設けるなどの調整は必要であろう。なお、かつて郵政の民営化論議の中で郵貯、簡保事業の他事業へのリスク遮断が盛んに唱えられたが、JRやJTが現在多くの事業を一体的に営んでいると同様、郵政も民営ならば数事業を経営することは何等支障のないものと思われる。	ー

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
91	群馬県	郵便局は、窓口でも外回りの外務員でも3事業を一体的に取り扱い、便利に効率的に利用できていたが、民営・4分社化されてバラバラになり社員は自社のことしか扱ってくれず、不便・非効率になった。 小為替の利用手数料のように大幅値上げされたり、狭い庁舎を郵便局会社と郵便事業会社を無理に区切るため不自然な間仕切りをして敢えてスペースを狭くし使いにくくしていたり、それぞれが別々にパートタイマーを雇用して経費を余計にかけたり、要するに無駄、無理が増え、効率を悪くし.会社経営上も、利用者サービス面からも、民営化前より悪くなっている。 このままでは、長いこと親しく使って来た郵便局だが、いずれ淘汰され近くからなくなってしまうような危悦をもってしまう。これが一番の心配である。	民営化したことは、政治レベルの大きな判断の結果として、今となっては仕方ないと思うが、4分社化のような実施方法には大きな問題、不備があったと思う。 利用者サービスと健全な経営確保の見地から不備な所はきちんと是正・修正を責任をもって実行してほしい。法律の改正にも英断をもって取り組むべきです。 わたしの所のような山間の過疎地の利用者の立場に立てば、これからも長く安心して郵便局の三事業を利用して行けるような形にしておいてほしい。 ゆうちょ銀行とかんぽ生命には、これからもユニバーサルサービス(僻地・過疎地からの撤退をさせないように)を義務づけておくべきです。郵便局の経営が安定的なものであることが担保されるよう、ゆうちょ銀行とかんぽ生命の郵便局への業務委託を義務づけることもしてほしい。 こういうことをしっかりと法律によって保証しておかないと、わたしのような僻地・過疎地の利用者の心配は解消しないのです。	このままで、ゆうちょ銀行とかんぽ生命の株式の放出がはじまると、株の多くが外資系の禿げ鷹ファンドに買われると言われるが、そういうことは絶対ないよう(わたしたち日本人の郵便局=こころのふるさと=を亡くさないよう)政府として対策をたててほしい。
92	愛知県	民営化すれば悪くなることは理解していたが、ひどすぎる。	今のままでは益々サービスが悪くなると思う。	大きな郵便局に行くと窓口が四つあり、働いている人もお客さまもスムーズに出来ていない。三事業一体で営業してほしい。
93	静岡県	当時小泉総理が民営化進めた時の話しは国民にバラ色のような事を言いましたが日本の経済はしぼみ結果として地域格差はおろか国民の心もしぼんでいる、その証拠として自民党政権の破綻を招き、現麻生政権も当時民営化に反対した議員を閣僚に添える等、見直しを図っている事は国民を愚弄したことにならないか？ 郵便局が閉鎖・統合され国民が郵便局利用の不都合や窓口待ち時間の不満が続出する訴え及び三事業が分離され職員の事業共助が出来なくなり辺地の住民は特に不満がある。	-	いち早く元の三事業一体化に戻し地域住民が郵便局を利用でき易いよう国民に愛されるようにすることが肝要です。そうなれば結果として健全経営が生じます。民営化しても健全経営していない会社株を誰が買いますか？
94	大阪府	民営化後1年2箇月経過したが、これといって見るべきものは見当たらない。 郵便局窓口では郵便・貯金・保険三社からの委託により生じた事務の煩雑化・複雑化による(利用者の)待ち時間の増加、定額小為替等の料金引き上げなど、民営になればサービスが改善されるといった当初の話はなにも実現していない。 内部処理においても委託している三社が郵便局会社の窓口等で、お客さまに対しどのようなサービスレベルのものを提供するかについて、協議・話し合いを行なっているか疑問視される。ゆうちょ銀行・かんぽ生命の直轄支店と郵便局会社の窓口等でのサービスの範囲がどう異なるのか、一般的には知らされていない。しかも、これらが同じ社屋に同居している現状では、利用者サイドから見.ても極めて奇異な感じを与えているのではないか。 さらにいえば、本社-支社(基幹支店)-郵便局(支店)といった指示・指導のラインが三事業間で異なっているため、それぞれの経営方針の徹底や利用者からの要望、問い合わせ、苦情などに十分対応できかねているといったことをもれ聞いている。 三事業を分割するについては、それぞれの収支を明細にしてより合理的・効率的に運営することで、また、民間会社との競業によるサービスアップが図れるということであったが、今の状況では以前の郵便局の機能を三分割した不効率のみが顕著であるといわざるを得ない。	このままではなにも期待できそうもないが、郵便局会社(郵便局)は地域においては「点」であり、郵便事業会社は「面」という機能を持っていることから、少なくともこの両者を統合することで職員の合理的な配置を始めとする経営の効率化が図れるのではないか。 また、サービス面に於いても地域に対するきめの細かい施策ができるのではないか。将来的にも全国的な郵便局網を維持するという視点の上で欠かせないことであると断言したい。 なお、ゆうちょ銀行、かんぽ生命については、直轄支店を一府県一社くらいにして、資金運用等に機能を限定して、あとは郵便局に任せることが必要ではないか。	ゆうちょ銀行、かんぽ生命については、国の金融政策上或いは国際的観点からの規制緩和に則って分割・設立されたものと思うが、株式処分による完全民営化による国庫への寄与、民間銀行、生保等と同レベルでの経営による市場参入が目的と受け止めている。 しかし、当今の国際的な金融不安の状況を見ると、民営による弊害－利益追求に急なあまり節度を忘れた資金運用・投資を行なったことが最大の要因と思われる。現に、米国始め英国、独逸等で公的資金による援助が伝えられ、また英国では市銀の国有化が検討されているようである。また、我が国においても金融支援の必要性が取り上げられつつある。 これはすべてを民にというここ数年の政策的流れに対する警鐘に他ならない。 かつて郵貯・簡保は民間銀行・生保の行き過ぎに対する歯止め的役割を果たしたものと記憶しているが、庶民の生活のファンダメンタルとしての郵貯、簡保の機能をベースに経営形態の見直しを検討すべきと考える。
95	岐阜県	郵便局で働く一人として意見を申し上げます。何とかお客様にご迷惑をかけないよう現場は一生懸命、局長は夜遅く、休日も返上して働いておりますが、度重なる制度の改正、マニュアルの改正、次から次へと出される事業知識の習得等、現場は疲弊しています。一度統計を取っていただけると良いと思いますが、精神的病(うつ病等)で病気休暇を取っている社員が、民営化をはさんで増加しているように感じます。一度数値として確認してください。 また、当然民営化でサービスダウンにならないように努めていますので、お客様はさほど不便になったとは感じて見えないしれませんが、本音では「手続きが難しくなった。手数料が高くなった。」と言う声を耳にします。また、分社化されたことにより、縦割りが激しくなり、以前のような連携が取れていません。特に郵便事業について顕著です。	以前のようにお客様が気軽に利用していただける環境整備を望みます。また、活き活きと働ける職場環境整備を望みます。近年、定年前に辞める管理者がきわめて多いのは正常とは思えません。 各事業を連携して行うためには、再度経営形態の見直しも必要と考えます。郵便局会社と郵便事業会社 が別会社では特に問題が多いと感じます。 また、様々な新規事業についても、もう少し事前の準備が必要と考えます。「カイゼンは巧遅より拙速」との考え方もありますが、現業務の改善であれば当てはまりますが、それ以外ではやや問題ありと考えます。	とにかく、一般の方の意見も必要ですが、現場の声もたくさん聞いてください。良い職場環境でないと、良い仕事はできないと思っています。 お客様にはご迷惑をかけないよう現場は全力で取り組んでいます。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
96	岡山県	田舎に配達に行く職員が減ってしまっている。配達は国にとって大切な役割だと思う。配達と貯金は同じ人がした方が時間もかからないと思う。	四つの会社に分類したのはどうかと思う。国はなぜ民営化にしたいのかがよくわかりません。年賀状もそれぞれで売るのではなく 会社全体で利益になるよう動いたら良いと思う。	ー
97	兵庫県	手数料の増加など、郵政選挙の事前に国民に報告されな かった問題がある。それらを考えると不信感を拭えな い。	最近の株安などの資産価値の低い時に、郵政株を売り出 すのは国民にとって財産の損害である。他銀行を救済す る方向で政策も出される時に、無理に売り出さなくても よいのではないか。もっと資産価値の高く評価されると きに売る事を要望したい。	日本国民にとって最大限有効活用するよう運営していただきたい。
98	山梨県	郵政民営化してから、とても不便になった。その一例として、配達の基地が近くにないため配達の時間も遅くなり、不在にした場合の対応が今までのように迅速に対応できていない。	民営化してしまったので、国営で健全な経営に戻すことはできないかもしれないが、ひとつの郵便局に戻して三事業一体の国民に支持される経営に戻してもらいたい。	ー
99	東京都	私は、自宅で仕事をしているので、配達や窓口で日常対面する社員の皆さんは、民営化以前のサービスよりも親切になったと感じています。 ただ、郵便物の到達日数延長や窓口数の削減など、サービスを削っても利益を追求する姿勢が強くなった官僚たちは、郵政が本来持っている分野でのサービス業としての誇りと使命を忘れたと感じます。また、東京中央郵便局の中央を突き破って賃貸建物にするような、日本のシンボルを容易く破壊し、景観だけでなく文化を破壊しつつ、短期的な利益を追求する姿勢は、あるべき姿ではないと批判します。	郵政は、郵便物を通じて、国民同士、または、世界の文化とつなぐ役割を負っています。文化を育成し、次の世代を育ててほしい。 本来の仕事の効率を追うことは必要。M2, M3レベルの不自然な金融を行ってまで、利益を追うことは本来ではない。 自然と不自然を知るモラルの形成を望みます。	国際用切手の種類を多くしてほしい。以前は、美しいものが多かった。
100	静岡県	1　サービスが良くなると云われたが、逆でしたサービスはダウンしている。 2　三事業一体で良く機能していたのをなぜ4つの会社に分離したのか理解出来ない。 3　評価はゼロ、民営化事態が失敗である。	1　全面的な見直しを強く求める。 2　郵便事業会社と郵便局会社は一体化とする。 3　株式の売却の凍結、そのための法案の可決、実施。	今まで通り、地域に密着した郵便局の存在と発展を期待している。
101	北海道	良い点：なし。 悪い点：4分割した会社の中身を私達が理解していない。（私は以前通りの対応を郵便局に求めているが・・・きちんと対応はしてくれるが本来の業務以外の事だったりしている） 準備から民営化スタートが早すぎたと思う。これは職員の意識改革にも同じ事が言え、トップは民間人であっても旧郵政省・旧公社の官僚以下全て職員は所詮天下の公務員なのですから・・・同じ発想や考えでは売れるものも売れない、昔と同じ事をやっていたり、都会・田舎関係なく同じ施策をしている事に疑問を感じる。	民営化の本来の意味を考え、貯金や保険の限度額の廃止が無ければ、ゆうちょ銀行・かんぽ生命それを扱っている郵便局会社の今後成長は見込めないし期待も出来ないし、勿論株式公開についても見通しは明るいとは言えない。また、郵便事業会社と郵便局会社は、仕事（貯保・配達）の区別はあっても構わないと思いますが、会社組織としては一緒であるべきと私は考えていますし、その方が会社としても都合が良いのではないか？	郵便局会社に配属されている、貯金・保険を取り扱っている渉外職員の人達はかんぽ生命・ゆうちょ銀行の会社の配下の職員にしたらどうか？ 渉外依存形の体質である各郵便局会社の目標の均衡が取れる。勿論、基本給は下げ歩合給の部分を上げる形にする給与の方が渉外職員の人達もやりがいがあると思います。
102	群馬県	サービス低下と不透明な将来展望。	三事業一体の運営。（庶民の金融機関維持発展）	ー
103	長崎県	三事業ともサービス低下しており非常な批判があり、このままでは郵便局利用が出来ない。 郵便物の再配達をお願いしようと思っても指示された番号には土・日曜には電話がつながらない。小包を持ち込んでも受付ける人がいない。 ATMの操作を誤っても土・日曜はサポートがない。 簡易保険申込では健康で医者にどこも悪い箇所はないと言われているのに手続が煩雑で加入したくない。 分社化によりこんなに不便で利用価値が下がるとは思ってもいなかったが、現実は悪くなっていくような気がする。	地域のイベントに郵便局全体で参加し、貢献して元気をアピール出来る三事業一体経営こそが、郵便事業が進む道だと思う。	ー
104	神奈川県	郵政民営化は、失敗だったと評価します。早急に四分社化は廃止し、三事業一体の経営に復活すべきだと考えます。 （理由）郵政事業を四分社化民営することによって、どれだけ国民(利用者)にサービスの向上が図られ、国にとって有益になったのだろうか。 民営化されて1年経過した現在、その功罪が明らかにされていない。 私の知る限りにおいて、地方では、簡易郵便局がどんどん廃止され、利用者にとってはかなり不便な面も出てきており、窓口の事務手続きも煩雑となって待ち時間も長くなり、簡易で便利であった電信為替制度が廃止される等サービスが低下している。	ー	ー

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
105	岐阜県	私が地域住民からの強い要望で、一時閉鎖されていた可児菅刈簡易郵便局をボランティアで開局して2年が経過しました。 途中、1年が過ぎたところで、郵政民営化と言う大きな転換があり、業務の取り扱いが大きく変わり、毎日が不安定の中での業務運行です。 狭い局舎で銀行と同じ仕事をすること自体が無理なのです。それは民営化で仕事が複雑になり、お客様に長時間待たせる事になったからです。(ハードとソフトのバランスが取れていない)当簡易局は約1万人の高齢化した団地の中にあり、他に金融機関もなく、年金支払い月には高齢者が杖をついたり、押し車を押して来局されるが、皆さんからは、近くで年金が受け取れるから大変便利だと喜ばれている。 また最近は通信販売で買い物をする人が増え、郵便振替で代金を払い込む高齢者も多くなった。 郵政民営化での問題点は4点ある。 第1は、企業性を重視しているため、非常勤職員を多くしたことで、郵便の誤配遅配が増え、サービスダウンになっている。当郵便局へも誤配の申告が多くなった。 第2は、末端の郵便局-郵便、貯金、保険、局会社等それぞれの4つの会社から指示文書が多くなり、それを理解して処理するのに大変な労力が必要になった。 第3は、同じ郵便局に居ながら個人情報は会社ごとに使い分けをしなければならない。これは現場職員にとっては大きな精神的な負担になっている。 第4は、本社で公共性と企業性のバランスのとれた指導がされていない。企業性を重視した郵便区の統廃合はサービスダウンになっている。住民からのお叱りは全部末端の郵便局が受け持っている。これでは勤労意欲も湧いてこない。 特に簡易郵便局ではかんぽ生命の業務を扱っていない局が多い。入院保険の支払いは本局に行かないと手続きができない。お客様に大変迷惑をかけている。	私は郵便局の仕事は公共性の高い仕事だと思っているし、事実、年金の支払い、子供からの送金、電気ガス水道料の支払い等、生活との結びつきの業務が多い。ボランティアで郵便局を始めたのも、そう言う気持ちがあったからこそであり、小泉元総理が、郵政民営化の国会で「郵便局のネットワークは維持します。サービスは落としません」との発言があり、その言葉が嘘にならないようにと思い、高齢に鞭を打って毎日頑張っているのです。 しかし公共性と企業性を両立して維持して行くには相当の無理があり、どこかで私のようなボランティアの助けが必要ではなかと思う。この民営化方法では長続きしません。 数年後には郵便局数が半減すると思われる。 現に郵政を民営化した西欧諸国でも見直しが始まっている。私も76歳で、複数年で辞めることになると思う。継続的に郵政事業を維持していくためには、郵政3事業は一体でないと駄目になります。竹中元大臣は経済が右上がりの中で、郵政の300兆円を売って国の赤字を埋めるんだと言っていましたが、これは長年に亘たって、国が制度を作っただけで、税金は一銭も使わず、昔から特定郵便局長達がボランティア精神で蓄えた財産ではないのか。それを禿鷹ファンドに奪われて良いのだろうか。竹中さんも現時点だけで物事を判断せず、歴史的事実も踏まえ長期的な視野に立って判断をしてほしかったと思う。 私は現在、国の方針でもある「地産地消」を推進するために郵便局の前で野菜の朝市もやっている。団地の住民からは「近くで、新鮮な野菜が、安く買える」と言って喜ばれ、 農家の高齢者の皆さんからは、「近くで現金収入が得られ、生きがいを感じている」と喜ばれている。 郵便局と言うのは創業当時から、地域住民のために、住みよい地域を作るために、損得を抜きにして、このような努力をしてきたのです。	ー
106	鹿児島県	郵政を民営化するとサービスが良くなると時の総理大臣小泉純一郎及び竹中担当大臣は声高らかに訴え国民もそうなる事と信じて3年前の選挙で自民党を支持して民営化に賛成した。 しかしながら民営化してみると配達する会社と今までの郵便局は別会社だと言って断られ、貯金を払い出したり、振替を払いに出向くと本人確認書類の提出を求められ、その上に手数料も値上がりしたと言われ、また職員も何か相談しようとしても忙しそうで相談しにくくなってしまった。 局長も前の局長も辞めてしまって新しい局長が就任している。何1つとってもいい事はない。今まで親しくしていた職員も早期退職したりしている。 国の運営から民間会社になって印紙も必要になってきた。 外務の職員も昔みたいにゆっくり相談に乗ってくれず、支払い等をお願いしても手続に時間が掛かっている。 また、我々地方の郵便局は採算があわなくなると閉鎖させられるのではと危惧している。これ以上、地方を苦しめ、切り捨ててしまわないでください。 私の郵政民営化に対する評価はゼロです。	できれば、元の状態に戻してほしいです。国営の公社の制度に戻してもらうことを切にお願いします。	ー
107	熊本県	民営化のメリットが全然ありません。 ①分社化により各会社が利益追求に追われ、利用者国民を無視した経営になった。 ②分社化により郵便局と郵便事業支店が同じ場所に同居しながら、非協力になって利用者が困っている。 ③本社の規制が厳しく、手数料アップ、待ち時間の延長、証明書等が煩雑で反感をかっている。 ④効率化ということで、取り扱いの短縮、バイトによる誤配、電話照会に出ない等サービス低下となっている。 ⑤地方の郵便局が縮小・廃止されて、住民のセーフティネットが犯されている。	①まず、利用者が困っている郵便局と郵便事業支店の統合。統合により管理経費の節約も出来る。 ②次に、国民の財産である貯金・保険の安全管理のために、株式の売却を中止する。	もともと三事業一体の経営が、国民のために役立ち、また経営効率も良い筈で、分社化の見直しを希望します。
108	宮城県	水先案内人がグループ内に幾人もいることとなり、管理部門とフロントラインとの乖離が益々大きくなった。以上のように統制の難しいグループとなったため、国民の支持を結果得ることはできなかった。残念である。	地域グループ及び地区グループに管理権限を委譲し、経営権と人事権を持たせること。社員のやる気もより出てくる。また町を知る者こそその地の経営者となれると考える。民営化の下での地方分権経営を期待したい。	国民ニーズと社のセールスポイントが重なっていかない。公社時と比較して、社員はとことん疲弊している。管理部門は叱るだけでなく社員の声を聞くべきであろう。今期年賀の消化不良がまだまだ続く。社員が卒倒した時がエピローグとなる。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
109	群馬県	地方切捨ての現状となってきている。評価は悪い。お客様も将来、身近であった金融機関が無くなり、自分で出向けない、局員も減員等で寄ることが出来ない等、手続が厳しすぎるという時代の流れの中で、お客様、社員ともに苦境に立たされている。	現実と現状を見直す必要がある。都市圏以外の意見をしっかり聞くこと。地方の現状・将来を検証すること。	郵政民営化は必要なことだったかもしれないが、選挙・政治の道具として利用した政党は責任を持て。
110	東京都	① 民営化で何が変わったのか、利用者には何も見えてこない。郵便物の配達は民営化後いつも新聞の夕刊より遅くなった。民営化前は郵便の配達は午前もしくは午後2時ごろであった。なぜ毎日暗くなって配達されるのか理解できない。私の友人(○○区○○区に在住)は「郵便の配達が遅くなった」と10名が証言している。 ② 民営化の狙いは特殊法人である公庫・公団の改革ができると小泉さんは主張していました。「郵貯、簡保の資金が公庫・公団に流れているため、公庫・公団の整理縮小ができない。そのため公庫・公団への資金の流れを止めるため、郵貯・簡保を民営化し、資金を市場に出せば市場が活性化する」とのことでした。民営化後どれだけ公庫・公団が廃止されたのか。まったく見えてこない。金融危機の中で郵貯・簡保の資金で市場は活性化されているとは思えない。資金の流れはどのように変化したのか。それが日本経済にどのように役立っているのか国民には見えてこない。	① 4つの会社に分割したことのメリットは何も見えてこない。局舎を間仕切りし社員の行き来を防止したが、膨大な経費をかけて間仕切りした効果はあったのか、郵便局を縦割りで仕切るのでなく地域割りにすれば3事業一体の経営ができ、社員の効果的な配置(臨時の応援)が可能となる。民営化の見直しをするべきである。 ② ゆうちょ銀行・かんぽ生命の株式を放出することで預金者は守れるのか。外国資本に買われてしまったら、国は預金者を救うことはできなくなると思う。株式は政府保有とし小額預金者保護を考えるべきである。	金融危機で外国は銀行を国有化し預金者を保護する動きがある中で、日本のみが国有から民営化していることは世界の逆の流れではないか。民営化の真の狙いは何であったのか、国民に納得のいく説明がなかった。「民が善で、官が悪」との論理で誤った方向に世論を操作してしまったと思う。民営化は見直すべきである。
111	青森県	昨年10月1日郵政民営化される直前の郵政事業の業績評価がマスコミにより発表されていました。その評価は非常に悪かった。 民営化6ヶ月後業績評価は次のとおりである。 ①郵便局事業において、簡易郵便局が全国で450局一時閉鎖されており、そのサービスがストップしている。 ②郵便局窓口で待ち時間が長くなり利用者の不満が83%あった。 ③郵便・郵便貯金・簡易保険の三事業に対してそのサービス不満が73%ある。 ④定額小為替・普通為替・振替貯金料金などの値上げに不満である。 ⑤集配郵便局が全国1,000局廃止されたことにより郵便物の遅配や夜間窓口の閉鎖で不便になった。 ⑥従来郵便配達員と貯金・保険の相談が出来たが、それが出来なくなり老人達が特に不満を感じている。等々大手新聞にそのサービス低下とそのほころびが出て来ているし、「完全民営化」に待ったを掛ける動きも出て来ていると報じている。(最近の新聞発表による。) 小泉元総理と竹中元大臣が郵便・貯金・保険のサービスダウンはしないと公言していました。 (1)サービスダウンはしない。 (2)郵便局はなくさない。 (3)郵便局の経営は民営で出来る。 (4)郵便局を活性化する。 等と約束したが、以上のことを現為政者が反故にしている。結論は郵政民営化は失敗だと思う。	今日、金融バブルの崩壊といわれている。行き過ぎた規制緩和や民営化といった市場原理主義、新自由主義経済は破綻し、失敗したといわれるときである。小泉元総理の郵政民営化は大失敗であり、郵政事業の全体像を早急に見直し、抜本的に修正を行うべきである。 少なくとも郵便事業会社と郵便局会社を合併し、ゆうちょ銀行とかんぽ生命を子会社とし、全株を政府が持って運営すること。 小泉元総理が米国は全部民営化されていると発言したが、誤りである。郵便局は国営でやっている。米国の日本にある米軍基地では郵便局長が軍人で軍隊が運営している。(但し、郵便局は貯金・保険は取り扱わない。)	日本郵政株式会社の最高責任者である西川善文社長、他の民間会社の取締役を兼務していることは、他会社への偏重もありうるとの批判もあり、速やかに適任者(純粋な最高責任者)を求めるものである。
112	愛知県	(1) 窓口では待ち時間が長くなり、サービスが低下した。 (2) 四分社化のため、同じ郵便局の窓口でありながら、混んでいる窓口とすいている窓口がある。非効率であり、サービスも悪くなった。 (3) 不在留置郵便物を郵便局に受け取りに行っても、郵便事業会社に申し出てくれと言うことで、受け取ることが出来ない。これも分社化による弊害か。 (4) 以前の集配郵便局が郵便局窓口と郵便配達センターとなったところがあるが、この地域における不在留置郵便物の受け取りが大変不便になった。分社化による弊害が出ている。 (5) 中小規模の集配郵便局にあっては、一人の外務職員が郵便・貯金・保険の業務を全て行っていたが、これが四分社化で出来なくなり、大変非効率となり、サービスも低下した。 (6) 民営化してから1年、四分社化した各会社の経営状況は当初の予測よりも悪いと聞いていますが、これは、制度設計に問題があるのか、その他の要因によるものなのか分析をする必要がある。私は四分社化した制度設計そのものに問題があると考えています。四分社化によりスケールメリットがなくなり、非効率な事業運営となったからです。	(1) 効率的な事業運営とするため、郵便、貯金、保険の三事業一体の制度に見直しをすることを期待しています。 (2) 郵便局の窓口ネットワーク、集配ネットワークは国民の財産である。これを破壊することがないようにされたい。 (3) 少子化、高齢化社会にあって、限界集落の問題も大きな社会問題になっている今日的状況の中において、郵便局の果たす役割は大きなものがあります。国のセーフテーネットとしての役割もあるはずです。 (4) 四分社化して、競争原理のみにゆだねるのではなく、国のセーフティネットとして、国民がどこにいても安心して生活できる郵政民営化を期待。 (5) 競争原理に基づく企業性と国民の生活を守る公共性の確保、この制度設計が肝要です。 (6) これには、三事業一体の事業経営の中でスケールメリットを上げて、公共性確保のための経費を生み出す必要があります。	(1) 郵政民営化のメリットは何か、何のために民営化をしたのか国民は知らない。国民にもっとメリットを周知すべきではないか。 (2) この1年を振り返って、民営化のメリットは何もない。サービスダウンばかりが見えてくる。 (3) 将来に夢がもてる郵政民営化見直しを期待しています。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
113	千葉県	・民営化はおおむね順調に移行したが、手続きのわずらわしさや、時間がかかり、お客様が減り営業に影響があった。 ・会社が四分社化され、社内からの書類の出し方やお客様の出す郵便の届書、代引き入金なども、難しく無駄な時間がかかる。 ・間仕切りなどで局舎内を会社に区切っている。非効率。お客様に関係がない。 ・銀行、保険の各会社から窓口会社の存在は、仕事をもらっている下請けとなった立場になってしまった	・会社をひとつに戻してもらいたいと熱望する。	・局会社は代理店のため、契約が切られたら仕事が無くなる、先行きが不安、希望が見えない。 ・株が売却されると会社の倒産もあるのでは…。 ・近所の郵便局が無くなってしまうのでは…、心配です。 ・犯罪の防止、マネーローンダリングなどお客様の財産を守ることは大切だが、顔見知りのお客様との関係は、融通の利く範囲で現場に任せてもらいたい
114	東京都	利用者の利便性が低下してしまった。このままだと小さい郵便局はなくなります。	見直せる部分が全く無いというのではなく、前向きに考えて、見直せる部分は修正してほしい。	とりあえず、局が運営していける体制だけは整えてほしい。意欲がなくなります。
115	大分県	民営化後サービスの低下が著しい。例えば次のとおり。 〇郵便の配達について、民営化前は午前11時～12時であったが民営化後は午後5時～6時となったため、私の仕事が一日遅れとなった。 〇郵便物の問い合わせの電話を郵便局にすると、郵便局会社が応対して「郵便物の件は郵便事業会社に聞いて下さい。」と言われ、あらためて郵便事業会社に電話をしなければならないので二度手間となった。 〇郵便局舎内が会社毎に間仕切りされているため、会社間の連携が悪く以前のように迅速な事務処理が出来てない。	ー	郵便局会社と郵便事業会社は一体的なものと思われるので、今後速やかに合併すべきである。合併により効率的な仕事ができ国民利用者に対するサービスが向上すると思われる。また、私共利用者は、郵便局舎内に四つの会社があること自体理解に苦しむところであり、郵便局会社と郵便事業会社を合併し、ゆうちょ銀行とかんぽ生命保険を 子会社化する方向を検討頂きたい。そうすることにより従前の郵便局のイメージは壊さずにしかもサービスの向上がはかられるものと思われる。
116	埼玉県	何のために民営化したのですか？ 仕事に対する意欲をなくさせるためですか？ お客さまを郵便局から遠ざけるためですか？	「三事業が一体」に戻らない限り明るい未来は望めません。	社員が安心して働ける、また、お客さまが安心して利用できる体制を作ってほしいです。
117	埼玉県	分割は不要。	グループとしての一体感。	前向きの話をしていきたい。
118	埼玉県	細部にわたる検討が不十分なままの民営化への移行であり、評価出来ない。	郵便事業会社と郵便局会社が1つの会社となることを期待している。	ー
119	埼玉県	分社化したことは失敗である。	サービスの低下により期待は持てない。	手数料収入による郵便局会社は今後立ち行かなくなる。
120	埼玉県	最悪でも頑張る。	特になしでも頑張る。	疲れたでも頑張る。
121	埼玉県	国営で安定しているからと利用していただいたお客さまが離れてしまう。	常に国営に戻すことを考えてほしい。	民営化も国民の考え。戻すことも国民の考えで出来る選択肢は残してほしい。
122	埼玉県	やることが常に切羽詰っていてよくない。	いい商品を出してもらって先行き明るい会社にしていただきたい。	ー
123	埼玉県	きびしい。	総選挙後の改革に期待してます。	人材の育成を重点的に！
124	埼玉県	批判が多くなった。	働き甲斐のある職場に改善していく。	要員を増やすこと。
125	高知県	郵政事業の4分割すなわち窓口ネットワーク、郵便、郵便貯金、郵便保険の4事業体へ分社化され規模の小さい地域の特定郵便局においては利便性の向上はなく、却って不便になったと思います。業務のIT化は時代の流れではあるが時代について行けない高齢者には、従来通りのサービス継続が必要である。	高齢化および人口過疎地域においては、JA共済と郵便局は同じようなポジションにあり、支店や支所の統合が課題となっているようだが、国民利便性の向上につながるような取り組みをしてほしい。 郵便と民間の物流サービスは、山間部・過疎地においても国民利便の向上の観点から、お互いに切磋琢磨してゆかねば、厳しい国際競争で存続していけなくなる。郵便事業は、どうしても郵便でなければならないサービス提供であり、一般の物流サービスで代替えできない部門は存続してほしい。	在日米国商工会議所から郵政民営化の進捗状況に関する意見書が出ているようだが、アメリカからの要求ばかりを優先するような政策には絶対反対する。 医療においては世界に誇る日本の国民皆保険制度を破壊するような「医療の株式会社」化などアメリカからの要求と郵政民営化は同根である。いずれアメリカの市場放任主義は崩壊するであろう。都会の金持ち中心のアメリカからの市場原理主義を優先し、日本の中山間地や離島の住民が不利益を被るものであってはならない。 郵政民営化の新規業務に関しては、市場原理だけではなく公正性および透明性を確保すべきである。
126	北海道	民営化して良くなったどころかかえって利用しにくくなりました。たくさん話されていたメリットはどこにあるのか全く感じられません。このままで行くと郵便局もなくなってしまうのではと思います。電信為替は使えない。窓口事務は煩瑣。キャンペーンいろいろやっていますが、私達が欲しいのは、安心してお金が預けられ、確実に郵便が配達される事です。	期待できません。民間と同じならより良いサービスの民間業者を利用します。そのうち地方の郵便局もなくなっていくのでしょう。	民営化とは一体なんだったのでしょうか？ 金融不安の今、銀行も心配です。ゆうちょ銀行もかんぽ生命も外国資本に狙われていると聞きます。合併、統合が進んでいる流れの中、分割してやっていけるのでしょうか？ 小泉さんの独断に惑わされた民営化。出口を直す為に、入り口を改革すると言っていましたが、出口はどうなったので しょうか？ 官僚に打撃を与えるため、国民は犠牲になったのではとも思えます。
127	福島県	うまくいっていない。NTTとかJRのように、一つの事業体であれば、公社の組織が会社の組織になっても、組織的にも物理的にも問題はないが、郵政のように三事業を組織的にも、物理的にも機能的に運営していたものを、無理やり分社化 した形なので、いろんな面でうまくいっていないのが現実である。また、サービスの面では、私の住んでいる田舎では 窓口、配達の面では大幅にダウンして不便になりました。	田舎に住んでいる者にとっては、郵政三事業は一体で経営していただきたいと思います。 少なくとも、郵便事業について、郵便局会社と郵便事業会社に分かれているのは、利用者にとっては非常にとまどいがありますが、経営的にも無駄が多いと思いますので、郵便局会社と郵便事業会社は統合したほうがよいと思います。	サービス面と効率化の面は相反するところがあると思いますが、今回の民営化に当たっては、利用者にとっては効率化が優先されたように感じております。
128	三重県	国民生活の利便性は低下し、田舎の方では、簡易郵便局の閉鎖などもあって、郵便を出すことすら不便な現状です。貯金の外務員さんに保険の相談すら出来ない。会社が分かれたからということらしい。民営化してよくなると言ってたのに、何も良くなっていない。不便でメリットは無い。	これ以上間違った民営化が進まないことを期待しま す。出来れば、以前のような3事業一体のサービスが提供される状態に戻すことも検討すべきと思います。 全国どこへ行っても利用できる郵便局の存在を再度、見直していただきたい。訳のわからない分社化は、再考してください。	ー

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
129	神奈川県	全く評価しておりません。 民営化を実施する前と実施後では、利用者に対するサービスの内容が低下したことです。また、地方では郵便局が廃止、廃局になり、利用する窓口がなくなったりしている実態が発生しています。政府の言ってることと、現場でやってることがあまりにもかけ離れていることです。	実態を詳細に把握するとともに、利用者の意見等も十分に聞いたうえで、積極的な見直しを願っています。見直しの際は、従前のように郵便・貯金・保険の窓口が一箇所ですべて利用できることが一番だと考えます。それをお客様も望んでいることです。	改革することは大切なこととは思いますが、利用者が望むことと、余りにもかけはれた改革では納得しないと考えます。是非今回の見直しでは、三事業を従前のように一体にして、利用者が安心して利用できるような制度に改善していただきたい。
130	三重県	民営化して1年が過ぎ、働く社員の意識はお客様サー ビスのため向上したように思うが、分社化により仕事の相互応援ができないため、事務処理にやたら時間がかかるのは遺憾。郵便集配の統合により、不在の場合受け取りに行くためには交通費が多額になり、全く不便になってしまった。民営化でサービスが良くなると いう小泉総理の公約はどうなのかと不満である。	地方に居住する国民が安心して利用できる経営をしてもらいたい。都市部出身議員（特に小泉チルドレン）の地方を無視する発言や言動は許せない。ゆうちょ銀行やかんぽ生命の株式の売却を急がせる動きもあるようだが、郵便局の今後に大きな影響を与えるので見直しをしっかりとして経営基盤が確立されてからでよい。 これまで以上の素晴しい郵便局が全国に存在するようになってもらいたい。	この不況の時に社員がもう辞めたいというような経営は最低のように思う。働く意欲が湧いてくるような希望の持てる会社に育ててもらいたい。
131	愛知県	何の為の民営化か、誰の為の民営化か、未だに理解できません。国民の誰が利益を得て、喜んだのは誰なのか是非公表して下さい。三事業をバラバラにして利用者サービスは悪化しています。安心の拠り所と呼ばれた郵便局のイメージも変わりました。 金融危機は過去の時代も有りましたが、一般家庭での郵貯の蓄えがあればこそ国民的パニックにもならず耐え抜 いたのではないですか。郵政民営化が、格差の激しい社会を生み出す象徴になっていると思います。	今更国営に戻すことは出来ないでしょう。混乱するだけです、民間企業のままで、郵便、貯金、保険の三事業を一つの郵便局会社で、運営できる体制に戻すべきです。貯金保険に限度額など一定期間設けても良いから、国民の基本的通信手段を維持し、郵貯簡保の国民的金融機関としてのセーフティネットを守るべきと考えます。今更ながら明治の建国の先人達の知恵に学ぶべきだと思います。いささかグローバル化と言う言葉に踊らされたのではないでしょうか。	郵政民営化の失敗は、急ぎすぎたことにあると思いま す。（必要な改革なら短期間で成功するかもしれませんが）郵政民営化委員会の皆さまにおかれましては、是非ともご判断を急がず、郵便局の今の実態を把握され、国民的社会資本の投資という観点から、企業体と して存続できる方向性をご検討頂きますようお願いいたします。早急なゆうちょ銀行・かんぽ生命の株式売却など、亡国の元です。
132	東京都	民間の金融機関と同等の検査監督下に置かれたが、ほとんどの郵便局には、対応できるだけの人員と、それを配置する器が整っていない。（銀行等のようにテラー以外に後方に多数の人員を配置している訳ではない。） 終業時間が16時なので、時間的余裕もない。先ず民営化ありきで、郵便局の実情を知らないまま強行してきたので、何もかも無理があり、利用者にとっても良い所はない。 全く評価できな い。	ゆうちょ銀行やかんぽ生命は、郵便局会社に手数料を払っていけるのだろうか。 郵便局会社は、手数料が主な収入源という形態で存続できるのだろうか。	今後の見直しに期待します。
133	栃木県	国民に対して、 ①手数料は上がる。 ②サービスの低下。 ③利便性が悪くなる。 など何もいいことがない。唯一評価できるのは、送金手数料がATM利用で無料になったことくらいだ。 ①は、定額小為替の料金が公社時代の10倍、振替料金等もすべて値上げになった。 ②は、以前は配達の人に貯金を下ろして欲しいと頼んでも快く処理してくれたが、今は会社が違うからと取り扱わなくなった。 ③は、土曜・日曜も郵便を取り扱ってくれたが、今は、窓口も閉鎖され不便になった。 離島では、毎日届いていた郵便も現在3日に一度の配達になっている所もあると聞く。	株式が放出されれば、株主に影響されるのは素人の私にも分かる。儲からない郵便局は存続自体できなくなり、8割以上の郵便局は閉鎖されるだろう。高齢者はより不便になることが想定される。そもそも郵便局の仕事は、利益優先ではなく、公共性のあるもので、今のうちに元に戻していただきたい。	「覆水盆に返らず」何が国民のためか、よく考えて欲しい。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
134	三重県	（1/2） 郵政民営化は、利用者として「何のメリットも無い」どころか、以前と比べ「何十年も利用しているのに、確認する書類をいくつも出させられ、一回では済まない」し「前は数分で出来たものが、何十分もかかる」ようになった。 また、分社化された会社がお互いにお客様を奪い合っていて、「お客様第一」とは程遠く、利用者としては現状に腹立たしくさえ思える。これは、郵便局の社員さんが悪いのではなく、制度・仕組みに最初から問題があったのではないか。 例えば、身近に感じることとして、社員さんが2、3名程度の郵便局と最低20名ぐらいの銀行とは根本的に違うにもかかわらず、金融庁支配下の名目で、同じことをさせること自体が目的化されており、普通におかしいと思いませんか。民営化前の「三事業一体」いう言葉が、なつかしく、素晴らしいサービスだったと思えてなりません。 再度、都会中心ではなく、地方の実態をよく見ていただきたい。 ア　郵便配達時間は、確実に遅くなっている。 イ　郵便局窓口での待ち時間(処理時間)は、確認・説明が増え長くなっている。反面、利用者の数は、減っているように感じる。 ウ　各会社に分社化されたことにより、「ひまわりサービス」等外務員の他会社事務中止により、お年寄りの生活に多大な悪影響を与えている。 エ　減らないはずの局数が、減っている。等	郵便・貯金・保険のサービスが今まで同様変わることなく、全国どこの郵便局においても受けられることを強く望みます。 そのためにも、抜本的な見直しに際しては、公的な役割を果たしてきた郵便局ネットワークは国民共有の財産であり、三事業サービスは国民の基礎的な生活に欠かせないライフラインであるとの原点に立ち返り、最善の経営形態の在り方、郵便局規模にあった、利用者本位の簡便な事務手続き等について、早急に検討いただき、将来に向け禍根を残さないようにしていただきたい。	学者論理や都会中心の実態把握ではなく、全国の疲弊した状況を正しく検証していただいた上で、あるべき姿を考えていただきたい。
		（2/2） 郵便局の「全国あまねく公平」のサービスはどこにいってしまったのか。民営化前の国民への公約として ①　サービスダウンはしない。サービスはもっとよくなる。 ②　郵便局は減らさない。 ③　そこに働く社員も働き甲斐のある職場になる。 等いい事づくしの「郵政民営・分社化」を唱えていたと覚えているが、今の現状を見て、どこがその通りになっているのか。 私の目には、利用者も社員も地域も最初の約束とは逆の方向に進んでいると感じてならないが、民営化のきれいごとの学者論理は、結果として、地方や弱者の切り捨てになっている。 銀行、信用金庫、農協が地域から撤退している状況のなかで、郵便局は「最後の砦」であるのに、現行のしくみの中で、民営化＝利潤追求だけに走れば(貯金・保険の会社は、株式売却-必然的に株主第一主義になる)、郵便局の建物はあっても、金融サービスを受けることができなくなるのではと心配している。		
135	群馬県	非常に不便になった。郵便局の窓口で配達のお願いなどが手間がかかる。民間になってもっとサービスが良くなるといった竹中さんの言葉は詭弁だった。	民間になる前の体制の方が良い。無駄を省くようにしてスリムになり、便利に利用できる会社であってほしい。	小泉元総理や竹中元大臣らに郵政をよくする意見を、1年経った今、聞いてもらいたい。
136	大阪府	分社化され、窓口業務が煩雑でやりにくくなった。	三事業一体化することによって、お客さまサービスの向上を図ってほしい。	（個人的に）局長が、窓口に応援するのは一日のほとんどであり、後方事務等は時間外にしか不可能。疑問等があった場合は支社その他機関は電話は時間外のため繋がらない場合が多い。
137	群馬県	民営化前までは出来ていた取扱いが出来なく、民営化になったら不便になった。 例えば、土日・祝日でも時間外窓口で差出せたものが集荷のみになり、集荷時間まで待つことになる。自分の時間で差出すことが出来ない。切手類も時間外窓口で購入出来ない。不在の郵便物も、支店等に問い合わせなくてはならず、迅速な対応が出来ていない。 窓口での待ち時間が長くなり、手続等に時間が取られる。国民のために便利になるはずの「民営化」が地方の切捨てと客の不便さという形になった。	このままでは、期待できることは見当たらない。	民営化は失敗であったと認め、再度元に近い形に戻したり、検討し直してもらいたい。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
138	群馬県	ここまでの郵政民営化を評価した場合、私の目から見て民営化が本当に国民のためにおこなわれたのか、また、真に国民の希望するとおりの民営化をおこなえたのか甚だ疑問な途中経過と言わざるを得ない。理由は何点かあるが、まず言えることはどう考えても国民(つまりはお客さま)にとり不便になってしまったことが挙げられる。 これは民営化の準備段階で分かっていたことであるが、郵便局で集荷の受付もしてくれない、不在通知を受け取り窓口へ行っても郵便物が受け取れない。配達の苦情も郵便局で相談してもちんぷんかんぷん、挙句の果ては、遠い郵便事業会社の支店に電話しろと言われる。 お客さまにしてみれば郵便局はあくまで郵便局であり、一つの物なのだ。会社が分かれたなどというのはそっちの勝手だと思っている。今まで一回で済んでいたことが何回も足を運ばされたり、あちらこちらへ連絡させられるのは納得できない。特に腹が立つのは広告郵便等の差出し、今までどんなに時間がかかっても二三日あれば差出しが可能になった、それが今では10日もかかってしまう。	つぎに、とにかくサービスが悪くなった。料金が高くなったのもしゃくに障る、定額小為替等の振出しは手数料が一枚につき10円が100円と10倍にもなってしまった。100円を送るために料金が100円かかり、しかも送料が別途必要だ。振替の料金もあがったし、当日現金を受け取ることが可能だった電信為替の制度もなくなってしまった。本当に急ぐのだよと言われるお客さまが多い。 定額貯金や定期貯金、これも単票式のものがなくなってしまった。しかも総合口座の通帳を持参しないと積めない。本人確認や限度額の調査、さらには端末機の操作が難しいらしくてえらい待たされるし、本当に民間の銀行なの？という声が聞かれるが、お客さまにしてみれば当然の意見です。	全国津々浦々どこにでもある郵便局、時には私たちのよき相談相手であり、また、時には待ち焦がれた郵便物をにこやかに届けてくれた、そんな郵便局員はもういなくなってしまった。ノルマに追われ、時間に追われ、無言で青い顔で走り回っている。せっかく就職してもじきに辞めていってしまう人も多い。将来に希望が持てない、人間らしい時間が過ごせないと悩んでいる。 現状のままでは、国民からも職員からも歓迎されている郵政民営化の姿ではないのではないかと思う。
139	福島県	一言で表すならば、民営化になり良かったことはひとつも感じられないということです。 ただ、1月5日からスタートする、ゆうちょ銀行の全銀システム導入で、他の金融機関に振込が可能になるという事はとても良い事だと思います。これは民営化になったことの大きな進歩であると評価します。 私は度々、大きな郵便局を利用させていただくのですが、民営化前であれば、窓口の人間同士の隔たりがあまり感じられなかったのですが、今は「この業務については別窓口です」の一言で片付けられてしまい、冷たい印象を受けます。会社別になった事で、別会社の業務は受け付けない。当たり前といえば当たり前ですが、30代の私でさえ思うのですから、年配の方からすればもっと感じるでしょう。 実家が山間部にありますが、このような話もよく耳にします。局に行けば、年金、保険、郵便、大体の事は用が一度で済んだし、局の方にも頼みやすかったのに、民営化後はバラバラにお願いしなければならないので不便だと…。全くそのとおりだと思いいます。足腰の悪い、免許を持たないお年寄りにとっては面倒極まりない事だと思います。又、その代わりを家族が頼まれる。益々局員との関係が希薄になると思います。	まず、ゆうちょ銀行とかんぽ生命は独立した今の形でも支障ないかと思います。しかし、郵便事業会社、郵便局会社は取り扱うもの（切手、ハガキ等）が重複しているので、分ける必要は無いのではないかと思います。 それから郵便局においては今まで同様（民営化前）のサービス、業務に戻してほしいものです。他の金融機関において、個別にお金を預かることを控えている今だからこそ、昔のようなスタイルを必要としている年配者がいると思います。確かに、着服や詐欺が横行している世の中ですが、社員教育を充実させ、地域に根付いたサービスを行わなければお客はつかめないでしょう。	窓口の方の髪型、服装に規程を設ける方がいいと思います。だらしなく見える方、結構いらっしゃいますよ。
140	岐阜県	平成18年10月1日から集配特定局から無集配特定局になり、配達業務が集約され、配達に関するお知らせ活動がされたにも関わらず、未だに配達についての問い合わせ、誤配郵便等の苦情があり対応に時間を取られている。 また、郵便事業会社の支店には、不在留置郵便物の問い合わせができるが、配達センターへの問い合わせが出来ず、お客さまがすぐ取りに行きたいと言われても郵便物を渡すことができない。また、不在留置郵便物を取りにいくにも遠方のため不便を感じているお客さまからの苦情が多い。	無集配特定局となった局舎スペースは、駐車場も広く、局内をガランとしているため、お客さまから「もったいない、何かに活用できないのか」「局がなくなるの」などいろいろ言われることが多い。間仕切りもないため、光熱水量もかかるため、せめて間仕切りをしておけばよかったと思われます。	やっと慣れて地域のお客さまといろいろ繋がりが出来これからと思ったら5年5ケ月局長として努めた局から転勤になり、また、再出発となりました。大変近くでよくわかったところでよかったと思いましたが、前任の局長様の影響が強く、なかなか地域になじめません。保守的でありこちらを受け止めるために相当時間がかかりそうです。局長の仕事は地域に根ざした郵便局であり、信頼されることだと思います。また一からというのは無駄が多いと思います。局長は不転勤であるのが原則だと思います。
141	三重県	郵政事業は、単に郵便配達や金融・保険を行うのみでなく、郵便局を通じて地域の文化等、日本の国づくりに大きな役割を果たしてきました。 しかし民営化は、どうしても利益優先主義になりがちであり、郵便局の廃止など、ネットワークの崩壊が徐々に進んでいます。また、複数の会社に分社化したことによる利便性の低下も見られます。 郵便局を地域の拠点として、また行政機関の窓口とするためにも郵便局ネットワークをもっと活用すべきであります。つまり公共性を確保するためには、規制を緩和し収益体制のある事業にすることが、国民のインフラとしての郵便局網の維持につながると確信します。	株式上場と売却については慎重に対応すべきであります。資金規模からみて、運用の失敗は日本国全体の経済と国民の暮らしに大きく影響します。私企業の判断で済む話ではありません。 国の関与を残すためにも、またグループ経営としての強みを活かすためにも、経営が安定するまで株式売却は見合わせるべきであり、売却ありきの考えは問題だと考えます。あわせて、国民のために実施した民営化が、結果としてサービス減となることは問題です。グループ経営としての会社間連携を法律上からも担保すべきと考えます。	環境破壊から、自然災害が多く発生しています。災害見舞金の充実を図るほか、社会的な影響力を持つ事業として、自然環境を保護するための目的商品(貯金の利子を活用等)の発売等、公共性を意識した積極的な商品開発を望みます。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
142	宮城県	(1/2) 郵政民営化につきましては、当時の小泉総理及び竹中郵政民営化担当大臣は、私たち国民利用者に対して再三、「民営化を実施してもサービスは絶対ダウンさせない」「全国ネットワークは必ず維持する」と言明しましたので、私たちはその言葉に全幅の信頼を寄せ、大いに期待したところであります。 しかし、民営化実施後一年を経過した現在、私が各郵便局のサービスの実態等に直接触れた経験から申し上げますと、当時の小泉総理や竹中大臣が、私たち国民利用者に確約したことが守られていないばかりか、むしろ無視されているのではないかと思われるほどの惨憺たる状況であります。 私の親戚は県北部の田舎に住んでおりますが、地方でも郵政民営化後のサービスダウンの不利益は如実に蒙っているとのことでありまして、一体、郵政民営化とは何だったかと、政府に対し異口同音に強い不満を表明しているようであります。 以下、民営化後の実態を申し上げますと、 ① 郵政民営化後、地方における一部の簡易局が一時閉鎖され、また、一部の郵便局の配達業務も廃止されておりますが、新聞報道等によりますと全国では約440局の簡易局が一時閉鎖され、また1,000局を超える郵便局で配達業務が廃止されているようであります。銀行、農協等の代替機関が皆無の地方では簡易局が閉鎖されますと、遠くの郵便局まで足を運ばざるを得なくなり、地域住民にとっては極めて不便であります。また、配達業務の廃止により、郵便の時間外窓口が廃止されることとなり、これまた地域住民にとっては極めて不便であります。	従来は、国営ゆえに地域住民からゆるぎない信頼感を得てきた郵便局が、民営化されたことによって利益重視の姿勢をいやが上にも強めなければならなくなり、「利用者のため」よりも「利益を上げるため」が、自ずと優先されることになったわけであります。 したがいまして、従来、国策の実現としてユニバーサルサービスを提供するため、過疎地や離島など不採算地域にも展開してきた郵政事業が、民営化されたことによって利益優先の経営方針となれば、これまでのサービス水準を保てなくなるのは当然であり、今後も各会社が生き残るためには、不採算部門(地方)から撤退するか、あるいは、値上げという形で国民に負担を転嫁するかの二つの方法しか選択肢がないと思うのであります。 従来、郵政事業は三事業一体経営だからこそうまく機能し、国民利用者に十分なサービスを提供できていたものを、縦横に切り裂く民営化などは愚行以外の何者でもないと思います。とくに郵便局会社というような自ら事業を持たない会社が成り立つはずがないと思いますし、また、郵便事業会社の主たる収入である年賀はがきの販売をとっても、郵便局会社と郵便事業会社が分かれていることは非効率極まりないと思います。 ゆうちょ銀行についても、三事業一体の国営事業から民営化、分社化になった途端、大幅な料金値上げとなって、国民に多大なサービス低下を招きました。 したがって、時計の針を戻すには限界があろうかと思いますが、事実上の三事業一体の経営が出来るよう、制度設計を是非変えていただくよう強く求めたいと思います。	社会は効率を求め、銀行、一般企業、果ては行政まで、統合、合併の時代であります。 それをわが国の郵政事業だけが、分割という愚行を演じておるのは極めて残念であります。 民営化の手段は、株式会社化、株式売却という所有権移転型がすべてではなく、所有権は政府が持ったまま運営を民間事業者に委託する手法もありますので、ここで一旦、郵貯、簡保を含めた郵政株式の処分を凍結し、あらためて郵政民営化を抜本的に見直すことを強く求めたいと思います。
		(2/2) ② 郵政民営化後、過疎地や学校、病院にあったATMが撤去されており、更に定額小為替、普通為替等の送金手数料が大幅に引き上げられております。 ③ 従来は、郵便外務員が配達先で、貯金の受け入れや保険の集金等を行っていただいており、地方にとっては大変便利でありましたが、民営化後は扱えなくなっております。 ④ 現場の局長から話を聞きますと、「働き甲斐のある職場どころか窓口手続きが複雑となり、毎日長時間の残業をせざるを得ないし、昼食も満足に取れない」とか「地域に密着した、地域に役立つ仕事をするのが郵便局だったが、今はそれどころの話ではない。多数の点検やチェックで手いっぱいだ」と悲鳴の声を上げております。 以上のような民営化後の様々な実態を見聞して、今回の郵政民営化を国民利用者の立場に立って評価しますと、プラスの評価ができないばかりか、むしろ極論すれば、失敗だったのではないかとさえ思われます。多額の国費を使って郵政民営化を実施した結果は、小泉元首相や竹中元大臣が国民利用者に約束したことは破られ、全く逆の惨憺たる状況を呈しておりますので、もう一度、真に国民利用者の視点に立って、早急に郵政民営化の現状を見直すことを提言したいと思います。		
143	岐阜県	(1) お客さまは民営化されればサービスが維持・向上されると思ったが、むしろ公社時代よりダウンしていると感じている。 (2) 社員は郵便局会社の将来に不安(モチベーションの低下)を感じている。 (3) 利益主体で、窮屈な経営と存続に不安。	(1) 見直しの実現と三事業一体経営。 (2) 郵政株式処分凍結法案の可及的速やかな成立。 (a) 国民のためになる本当のサービスの提供が出来る体制。 (4) 社員が生き甲斐・やり甲斐がある魅力ある組織。	このままでは郵政グループが空中分解する可能性がある。景気回復が2010年以降になるとの経済予測の中、今のままでは取り返しのつかないことになる。国民のためになる「郵政」は民営化での実現は難しい。「あまねく公平なサービス」の提供のために大胆な見直しを断行していただきたい。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
144	岐阜県	「サービスダウンはしない」「働き甲斐のある職場になる」「経営の自由度は増す」と答弁してきた政府の回答は、今現実論でまったく逆になっている。 外務活動において、会社が分離されたことにより、双方でお互いに取り扱いが出来ないサービス低下を招いており、合わせて、窓口での本人確認など煩雑な取り扱いにより、郵便局のお客さま離れが進んでいる。 局長、社員は日々の労働で加重勤務になっており、健康的にも被害が及んでいる。加えてこのままでは将来に対して、希望が持てず、社員のモチベーションは下がる一方である。更に、本社、支社の取り扱い上のチェックが厳しく、現場段階での裁量権がまったくない状態。 このままでは、国民の重要なインフラである「郵便局」の存在価値が薄れてしまう。早急な見直しが必要と考えます。	今のままの状態では、「郵便」「貯金」「保険」の垣根を取り払わなければいけない。分社化をなくさなければ、展望はない。さしあたり、郵便事業会社と郵便局会社が一体的に運営できるシステムを造くらなければ、将来に対しての展望は持てない。	① 今、最重要課題は「郵政株式売買凍結」であり、国会での議決が不可欠である。上場されて、売買されてしまえば、株主の意向を尊重しなければならず、金融サービスのユニバーサルサービスが保証されなくなってしまう危険がある。 ② 配達センター併設局においては、郵便事業会社と郵便局会社が壁で仕切られており、同じ建物に2つの別々の会社が存在する奇妙な形になっている。年賀葉書の販売において、同じ地区で取り合いをしている現状で、職員感情的にも、悪い状況になっている。早急な改善が望まれる
145	愛知県	待ち時間の増加・手数料の値上げは、サービスの低下です。 新事業の展開は、店舗のスペース・人員の問題などで、大都市が対象になり、全郵便局の実施は望めず、サービスの地域格差の広がりを感じます。 また、郵便局経営（現在の局数の維持）・郵便の全国統一料金は、民間企業での維持は難しいと思います。国でしか出来ないことも、あります。 よって、良い評価は出来ません。	分社化を元に戻すことは、すぐには難しいとは思いますが、郵便局会社・郵便事業会社は、それぞれを国営企業にすることが、郵便局数の維持・郵便の全国統一料金の維持には必要であり、望みます。	国営に戻すことは、後退ではなく、反省の上の前進であると思います。反省なくして、考え直すことなくして、前進なし。
146	東京都	非常に悪い。手数料は値上げするし、説明に時間がかかり、待ち時間が長くなった。 また一度に貯金や保険の事が聞けずに「同意書」を書かせられた。 民営化したのに貯金も保険も1000万円以上出来ない。地方へ送金も出来なくなった。外国送金も出来なくなり買い物にも不便になった。地方の局が減り旅行した時にも不便になった。 郵便物の配達が遅くなった。	株の売却を凍結し、外国資本が入らないように政府が株を持つことが必要。 貯金や保険にもユニバーサルサ ービスを義務化すべき。民営化前のサービスを維持して欲しい。地方の郵便局が減り不便になったのを見直して欲しい。	強引な民営化をもう一度庶民の立場に立って見直して下さい。年金を下ろすのに利息よりも高い交通費がかかる事を知ってください。
147	神奈川県	民営化の意味が解らない。独立採算で地域の身近な公共機関としての役割を十分に果たしてきた郵便局を分社化しても、われわれ国民にとっては何の利便性も向上していない。 手続きが煩雑になり、延々と待たせる状況である。簡単便利だった郵便局を返してほしいと思う。分社化されたことで、郵便や貯金の苦情を郵便局に言っても、会社が違うということで、今までより手間がかかってしまう。	昔の形態に戻すべき。そもそも同じ会社を分割すること自体が不自然。主体を「郵便局」に戻すべきである。国民の共有財産であった郵便局の金融部門だけを一般に売り渡すなどということは、長年郵便局を利用してきたものにとっての、背信行為である。株式上場売却をするのであれば、「郵便局」として一体になったまま上場をはかるべきである。	郵便局会社の収益性があがらないのは、最初から解っていたはず。 郵便局が集めた金融資産を、ゆうちょ銀行・かんぽ生命が持ち去り、自社商品を持たない郵便局会社の収益は見込まれるはずが無い。 成り立ち自体が、利益を上げるための会社ではないのだから、独立採算の公社として、維持していくのがスジであると思う。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
148	静岡県	昨年末の土曜日にミカンをゆうパックで送ろうとある支店の「ゆうゆう窓口」を訪れた。 大勢の人が並んで いた。その多くは不在持ち戻りの郵便物を受け取りに来ている人だった。 ゆうゆう窓口は狭く、社員は一人でしか対応できなかった。並んでから三十分位過ぎてようやく順番がきた。中には用を済ませずに帰ってしまう人もいた。広いスペースのある郵便局の窓口は休み、郵便事業会社の窓口「ゆうゆう窓口」のみでしか対応できないように変わっていた。 貨物法制の適用も変わり、国土交通省の傘下になった。その扱いも大きく変わった。一トン以上の車には研修を受け、届出した社員しか乗務できない。年末にゆうパックが増え、集荷や配達で車両が不足しても黒ナンバーの営業用車両しか使用できない。支店長用の乗用車は白ナンバー、これでの集荷はできないのだ。 従来は特定郵便局長など集荷の依頼があれば、気楽に出かけていたが このようなことはできなくなった。小回りが利かなくなったのだ。 同じ建物の中に、郵便局会社と郵便事業会社が同居しているが全く別会社、相互応援はできない。 切手や葉書など全く同じ商品を、一つの建物内に同居する二つの会社で販売している。このようなことを、他の業種で行っているところはあるでしょうか。 利用者であるお客様は、郵便局は従来と何ら変わらないものと思っている。広々とした郵便局の窓口は閉鎖したまま、狭くて融通の利かない「ゆうゆう窓口」に並んで長時間待たされるお客様、民営分社化について、実態を知ったらどのように考えるだろうか。 一部の実態を述べただけであるが、この他にもサービス低下の状況はいくらでもある。官創業以来百数十年、延々と築いてきた、お客様からの信頼感は一瞬に崩れてしまったのではないでしょうか。	お客様にとっても、そこで働く社員にとっても、郵便局会社と郵便事業会社は一心同体であるべきと思う。また、過疎地では他の金融機関の窓口も殆どないのが実態だ。 郵便局のネットワークを活用した郵便、貯金、保険の三事業一体で営業するのが、利用者であるお客さまにとってはサービスの向上につながり、働く社員にとっても効率化が図られ、モチベーションの向上につながると思う。	ゆうちょ銀行、かんぽ生命がユニバーサルサービスをできるようにすることと国民の財産である、ゆうちょ銀行、かんぽ生命の株式は政府保有にすべきだと思う。
149	宮城県	分社化により、同じ社屋に別々の会社が存在しているという理解不能の状態。 このため、営業面のみならず業務など、様々な面で悪影響が発生している。	お客様や現場の社員の意見を直ちに反映させることが第一と考える。 変えるべきところは変え、改悪の部分は早急に元に戻すべきと考える。	フロントラインのことをもっと考えていただきたい。
150	山口県	何のための分社化だったのか？ 現場の人間として未だに回答が見つかりません。私の帰属する、郵便局株式会社は民営分社化した三会社より業務を委託され、その手数料で運営されています。 民分化前より危惧はありましたが、案の定それぞれの会社から、日替わりメニューのような不定見な指示文書があふれるように流れ込み、内容を精読・理解のうえで窓口対応出来ないことが常態・日常化してきております。気が付けば、一手に業務を引き受けJPグループ傘下の中で自動的に下請業のような位置付けに置かれてしまっていると感じているのは私だけでしょうか？ 民分化にあたり、サービスは向上します、働き甲斐のある職場になります…と言っておられた当時の首脳陣は今の現場の状況をご存知でしょうか？ 会社を良い方向に運ぶべき本社のトップの方々は本当の現場というものをご自分の目で確かめていらっしゃるのでしょうか？ 船頭多くして船進まずどころではない！！ 船は沈みかけているんです。	活力向上宣言により、業務簡素化が図られておりますが、同時並行で手続、検査方法等の細かい変更の回数のほうが余程多いように感じます。 取扱い内容について紹介しても”規定Naviに掲載されておりますから”の一点張りで徹されることもしばしば…。 本社の意向が現場に一方的に降りてくるだけでは風通しの良い職場環境とはいえません。 現場の頑張りにも限界というものがあります！！	附帯決議に、ユニバーサルサービス、ネットワークの堅持が謳われていますが、民営化された会社で守られるとは到底思えません。 公共性と採算性は相反するものです。付帯決議を堅持し、健全な経営体系を守るには三事業一体であることは不可避と考えます。 郵政公社こそが最終モデルだったのでは…？
151	秋田県	民営化以前に比べサービスダウンしており、民営化による改善点は見受けられない。料金は値上げされ、今まであった取り扱いの廃止（積立貯金等）手続が面倒になり、かんぽ、貯金、郵便が完全に縦割りされ大変不便である。前のように分かり易く、親切で温かい郵便局に戻ってほしい。	分社化は廃止し、民営でも郵便、貯金、保険一体での運営を行っていただきたい。 また、全国どこでも誰でも均一のサービスの維持が必要である。利益の追求だけではなく、公共サービスの展開が重要であると考察する。	ー
152	群馬県	郵政民営化により、サービスレベルは下がったのではないかと思っております。振替等各種料金の値上げや一部商品の廃止、窓口での待ち時間も長くなった。	過疎地域等採算性の低いエリアでのゆうちょ銀行業務やかんぽ生命業務が確保されるよう望みます。 ゆうちょ銀行、かんぽ生命の株式の完全処分がされると不採算地域からの撤退等が懸念されます。株式売却は急ぐべきではないと考えます。 また、郵便局のネットワークを維持し、これを活かしたサービスを展開していただきたい。	地方でも住みやすい、地域間格差のない世の中にしてもらいたい。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
153	記載なし	ー	・今後、「郵便・窓口・ゆうちょ・保険」の同一会社化を期待します。また、持株会社がその同一会社の株を所有することとし、国がある程度の株式を所有するようにしてください。 ・民営化後も不採算事業も継続して行うにはある程度の国の支援が必要です。 ・民営化によって、全国約30万人の社員（その家族を含めたら数百万人）の労働状況を変えました。超過勤務の実態を把握してください。（タイムカードがないので、自己申告です。） ・今まではひとつの窓口で「貯金・保険」の手続きができました。今は違う会社なので、同じような書類に同じような内容（個人情報の同意、本人確認等）を求められます。社員も「違う会社」になったので、違う会社のことについて質問しても、「あちらの窓口の〇〇会社に聞いてください」と言います。民営化前でしたら答えられたのに。 国会答弁においては、窓口は「郵便局会社」が受託しておこなっているので、そのようなことはないと言っておりますが、実際は違います。全国均一のサービス・安心等民営化によって行うのであれば、やはり「同じ会社」でないとできません。	全国約80所ある「加入者福祉施設」は温泉の質もよく、観光地にあり、大変すばらしい施設です。民営化法による「加入者福祉施設」「メルパルク」の譲渡または廃止という文言があるために、すでにいくつかの拠点は廃止（譲渡）されましたが、この経済状況の中で安く譲渡されるのはもったいない気がします。国として所有する、これほど整備された全国チェ ーンの「旅館・ホテル」はないのでは？ 私はもともと加入者福祉施設の関連企業として業務についていましたが、先般、日本郵政の「非正規社員」として雇用されることになりました。しかし、正社員は継続して譲渡先の民間企業に雇用されますが、非正規社員は次のオーナー次第ということは明白です。 非正規社員の人数は全国で数百～千人おり、この経済情勢で再就職先を探すのは地方においては非常に難しいことです。 非正規社員の雇用の安定を望みます。
154	東京都	手数料が高くなったり、窓口での待ち時間が長くなったり、配達の間違いが多くなったり等民営化して良かったと感じることは今のところ何もない。 4分社化したことは、利用者にとって何のメリットになったのか疑問。同じ建物の中で、同じような名称の郵便事業会社の支店や郵便局があって、利用する側は非常にわかりづらい。	今のままでは、ただ民営化さえすれば気が済むひとりの政治家のわがままを優先させて生まれただけの民間会社のような気がする。 利用者(国民）やそこで働く社員の意見や希望をまず聞き、それを優先させた民営化に修正してほしい。	ー
155	埼玉県	郵政三事業分社化により永年積み上げた営業基盤が壊され、郵便物数、貯金残高，簡保新契約の全てが減少している。 窓口処理時間もわずかな用件でも1時間近く待たされることがある。 郵便の配達時間も遅くなって夜になる事がある。 郵政事業の経営面から好ましい状態とは思えない。窓口利用者にとっても、民営化で不便になった。	ゆうちょ銀行、かんぽ生命の株を売却すれば、残った郵便事業会社は赤字のため、いずれ郵便局会社の経営も行き詰まり、大幅な廃局が予測される。 このままでは、今後の期待はできないので、三事業を一体経営として、営業やサービスに取り組む効率的な体制に見直す必要がある。	ー
156	大阪府	国民本位で進めてきた「郵政民営化」が実際には国民を蚊帳の外に置いた改革に思えてなりません。 その証拠に郵便局の現場では分社化、民営化に移行するための手続きが膨大な量となり、窓口でお客様をお待たせする時間が大変長くなりました。 それによって、今まで簡便にご使用いただいた郵便局の良さが半減したことは周知の事実です。	まず、分社化している今の形態を元に戻し、郵便局としての本来の機能を取り戻すこと。それによって、国民に対してさまざまなメリットが出てくると思います。	ー
157	東京都	民営化しサービス向上を目指したにもかかわらず、業務の複雑化により、お客様の待ち時間はますます長くなり、また分社化したことにより三事業の一体的サービスが出来なくなるという弊害が出ている。 お客様は未だに郵政事業はすべて一緒のものだと思っている。	株式の売却凍結法案を成立させ、郵政三事業一体のユ ニバーサルサービスを堅持していくことにより、お客様の安心安全の生活を守る。	ー
158	三重県	期待に反する結果が出ている。局（店）外設置のATMが廃止され、街角の郵便局では休日のATMが休止され、大変不便になった。 郵便を正規職員が配達しなくなったため、配達時間が遅くなり、また誤配達が多くなって困っている。 集配局が無くなり、外務職員のサービスが受けにくくなっている。 窓口での待ち時間が大変長くなった。	民営化に期待することは何も無い。	株式処分(株の公開）が行われた場合、海外の巨大ファンド等が郵政関係会社の株式を取得するようないわゆるＭ＆Ａ対策は万全か。これが心配だ。
159	東京都	民営化は大失敗だと思う。 国民の多くは、「改革」の言葉に踊らされ期待したが現実には行政に優しさがなくなり、法律の隙間を狙って勝ち逃げするような人が「勝ち組」と言われ弱者・庶民は置いてけぼりにされた。 その典型的なことが郵政民営化であり、日本の良さがなくなってきた。分社により、郵便局の便利さが失われて面倒な手続きが必要であったり各種料金も値上げされた。	通信・金融・保険といった国民の生活インフラは、誰でも・どこでも使いやすいものでなければならない。 政府の責任として、国の重要なシステムとして全国ネットの郵便局を活用して国民生活を安定させるには、事業を一体化し効率的な企業体にするべく見直しを期待します。	世界の企業は、合併・連携をして企業体力をつけようとしているなかで、郵政事業は分社して不効率・弱体化してしまった。 各種料金の値上げで競争力をなくしたり、遠隔地にすぐ届いた便利な電信為替は分社化によって廃止され冠婚葬祭などに不義理をしてしまうこともあった。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
160	熊本県	民営化されて、事務取扱いの待ち時間も長くなり、利用する頻度が少なくなったので、評価としては悪い。 送金手数料が大幅に値上げされている。煩雑な事務取扱いで、待ち時間が増加している。夜間や休日に不在郵便物を受け取ることが出来なくなった。 地域の郵便局が、配達しなくなり遠方の郵便局からアルバイトの方が配達し、間違った配達も多くなってきた。配達の職員の方が、貯金、保険を扱えなくなった。 簡易郵便局の閉鎖が多数で発生している。預金額の多い方だけの優遇金利が始まり、不公平な差別が発生している。 利用者が少ない特定の施設のATMが撤去されている。	・　全国一律で格差社会の存在しない郵便局サービスの提供を期待します。民営化しての株式上場を凍結しなければ、郵便局のユニ バーサルサービスはなくなります。なぜならば、一民間会社になれば、株主の利益を最優先せざるを得ないからです。外資を含むあらゆる資本が入ることになり、従来から国が行ってきた全国一律の郵便局サービスを我々は受けることができなくなります。最近は、地域の民間金融機関が撤退しており、生活に不便が生じてきています。 ・　かつての郵便、貯金、保険の三事業一体型の経営を望みます。郵便局が窓口サービス、郵便事業、郵便貯金事業、簡易保険事業の「4つの会社」に分かれてしまうと、各社とも自社の利益追求が始まり、三事業を維持するという公共目的からは著しく遠ざかり、郵便局が三事業一体として機能しなくなります。結果として、郵便局ネットワークの維持はできなくなり、全国一律の格差のないサー ビスを受けることができなくなります。 ・　全国一律での金融サービスを確保していただきたい。貯金業務、保険業務に関しては、民営化後の郵便局において、その業務が義務づけられていないため、今後は採算性の悪い地域で金融サービスが受けられなくなります。私たちは、郵便局で郵便を出して、貯金をして、保 険に加入して安心をいただいていたものです。郵便局で貯金が出来なくなるのは大変不便になります。民間の銀行と郵便局は違うのです。 ・　地域の郵便局であって欲しい。かつて郵便を配達していた地域の郵便局が配達しなくなり、替わりに遠方からの配達になっています。地域の実情になれた職員の方ではなく、大きい局のアルバイトの方が配達しており、間違った配達も多くなっています。不在郵便物を受け取る事も不便になり、夜間や休日に受け取ることが出来なくなりました。郵便配達の方へ貯金や保険をお願いすることも出来なくなりました。地域の郵便局で、いつも馴染みの職員さんが配達してくれたり、窓口で貯金をしていろいろな話しを聞いて くれたり、民間の会社じゃない安心感を与えてくれるのが、郵便局の良さです。民営化してそのサービスを奪わないでください。	このままの状況が継続すれば、郵便局の将来はお先真っ暗である。地域の郵便局がなくなり、社会格差が更に広がっていくと思われる。郵政民営化に期待できるものは何もない。
161	東京都	民営化になれば、良くなると小泉元総理が言っていたが、国民にとって良くなっているとは、思えない。 待ち時間は長くなるし、料金も高くなっている。定額小為替50円を買うのに、手数料が100円。額面より手数料の方が高い。 国債を買うにも長々説明があり、書類をいっぱい書かされる。 保険に入る時も同様である。前はもっと簡単に、短い時間で加入できたはず、保険の話しをするためにと、同意書を書かされる。 事業別の会社になったので、同意がないと説明できないと言う。そんなこと国民には関係ないことである。 今まで郵便局は、税金を使わず黒字経営だったというのに、民営化は、不便にしただけの改革だったように思う。 民間になっても、貯金の限度額が1000万まで、というのも変だ。地方では、もっと不便が多いと聞く。 民間会社で出来ない、地域密着で、国民を守る郵便局であったはずが、これからは、儲け主義に変わってしまうのではないかと心配である。 貯金限度額が1000万でもいいから、国民への最低保障として国が国営として保証すべきではなかったのだろうか。 株売却で外資に乗っ取られることにならないよう要望する。	貯金など限度額の撤廃。地方切り捨てにしないサービスの提供。	国会での民営化見直しの議論をしてほしい。
162	愛知県	民営化スタートを急いだ結果、会社の形態やシステムが安易であり、特に旧特定局では、取り扱う各事業の商品が多すぎ、かつ複雑な取り扱いの商品が多く、そしてそれに関わる検査等も膨大で、パンク状態である。 またそのように複雑にしてしまったのはあなた達だと、お客様に言われたこともたびたびある。	1　分社化されている会社の一体化。 2　金融庁の管轄からはずすこと。 3　もっと柔軟にかつ仕事の内容や手続きをシンプルにすること。	各郵便局の正規社員の欠員時には、すばやい補充体制が取れる人材育成が必要。
163	大分県	窓口業務の偏りがある。 例　郵便貯金の窓口に偏る。対策・・・5名以上になれば警報して相互に加勢する・・・加勢代は有料。	郵便事業会社の収益増加対策（赤字対策）。インターネット販売にも参入する・・・仲介、高齢者等宅に安価なネット販売用小型パソコンを貸し出す。操作方法も簡単にして注文を受け付ける。	意見・・・郵便事業会社と郵便局会社は統合しないで頂きたい。 理由・・・簡単にあきらめて変更しない。 営業に創意工夫をいれる。 増益対策を取り入れる

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
164	新潟県	少数政治家の妄言により、民営化によって現在以上のサービス向上とネットワークの維持、或いは郵便局は減らさない等々言われてはきたが、現実はそのようなものではなく、明らかにサービスの低下やお客さまの郵便局離れを招いている。 その原因となっているの が、各種システム・取扱手続の複雑化。 そして同じ郵政グループとは言いながら、各会社間の意思疎通不足・連携の悪さにあると考えられる。 お客さまにとってはサービスダウン。社員にとってはモチベーションの低下、とどこを見回しても良かった点は見受けられない。 これらの点を顧みた場合、民営化に対する評価 は付け難い。あえて評価するならばゼロ評価である。	民営化を覆すことが不可能なのであれば、せめて分社化された会社を1つにまとめ、三事業一体の経営に戻していくことを期待したい。 これにより会社間の連携が図られ、お客さまへのサービス低下は食い止めることが可能である。	ー
165	岩手県	4分社化により、サービスダウン。 よって評価できない。 料金等の値上げ、分社化により取扱商品の廃止ななったものなど今まで当たり前に提供されていたものがいきなり廃止とのこと。 全然民営化により良くなっていない。	分社化の廃止。1つの郵便局ですべての事業が民営化前と同じように提供されるべき。それにより効率化やコストも削減できる。国営に戻すというのではなく、事業ごとに分かれた会社を1つにすることを期待する。	例えば、マネーレタックス（現金と弔電等が一緒に配達される）のように分社化により消えていった商品サービスがある。 このようにせっかく便利に利用していたものが民営・分社化でサービスダウンとなった。他にもいろいろある。
166	大阪府	良くなったようには感じない。改悪。手数料は上がるし小泉首相のパフォーマンスに国民が騙されただけ。誰のための民営化なのか？疑問です。	国民のための改革にしてほしい。これまで築きあげてきた国民の大事な資産をもっと有効活用できるような民営化にしてほしい。	国営のころの安心感を継承しつつ、民間企業の柔軟さを取り入れ時代を先導できるような企業になってほしい。
167	長野県	郵便配達と貯金保険が別々の会社になったのは都合が悪い。外回りの社員に貯金で来てもらって、郵便も持っていってもらいたいがそれができない。	貯金のついでに郵便も持っていってもらえるよう郵便局は郵便配達と貯金保険は一つの会社の方がよい。	ー
168	神奈川県	小泉さんが、良くなる良くなると喧伝した民営化ですが、待ち時間は増えるし、会社間のやり取りがうまくいっていないようで、いろいろな問い合わせについても、回答に時間がかかるようになり、悪くなったと実感しています。	何年後かに株式を売却すれば、ますます郵便局の存在感が薄れ、郵便局の数も減らされてしまうように思います。前の形態のほうが、安心して利用できます。	なぜ民営化したのか分からない。前の状態が悪いとは思わない。
169	群馬県	民営化したことにより、郵便局のサービスはダウンした。お客さまから「以前より待たせる」「いろいろと手続きが面倒」又各種手数料の値上げ等不満や苦情が多く寄せられている。 それにより、利用者が激減している。以前の郵便局は、手続きが簡単でお客さまの立場に立ったサービスを行っていた。これでは、地域に根ざした郵便局づくりは出来ない。見直しが絶対に必要。	見直しが絶対に必要。	ー
170	大分県	私は、国東半島の過疎地と言われる〇〇町で、細々と農業をやりながら収入は、年金だけで妻と二人の生活をしている者です。 郵便局が民営化されてから、以前の郵便局と大きく様変わりし、住民にとって大変不便を感じており、とまどいばかりです。 ・ 土曜日に野菜を子供に送るため小包を差し出しに行ったら、外務員の方が、今日は切手の販売をしていないから、受付しても発送は月曜日になるとのことでした。仕方なく、宅配便で送ることにした。 ・ 不在配達通知が入っていたので、地元郵便局に電話したところ、会社が違うのでわかりません、〇〇郵便局に電話してくださいとの回答。市外通話料金は増えるし、やりきれない気持ちで残念でなりません。 ・ 田舎では、若者の働く職場も少なく、都会に就職していき、過疎化に歯止めがかかりません。このような中、郵便局が民営化された直後、集配局が無集配局になり、職場が少なくなってしまいました。これからも、郵便局の統廃合が進められるのではないかと、不安がいっぱいです。	・ これまでどおり、郵便局に行けば郵便、貯金、保険とも、局長が回答出来るようにしてもらいたい。(一つの会社にする) ・ 自由化、競争至上主義だけでなく、公共性を重視し、利用者の立場になって考えてもらいたい。	2ケ月に1回郵便局で年金を受け取るのを楽しみにしている年金生活者は、厳しい生活を強いられています。後期高齢者医療制度など廃止して安心して老人が暮らせる社会を築いてください。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
171	宮城県	(1/2) 私は〇〇市の南20Kmにある〇〇市に住んでから45年程になるものですが、私が参りました時はまだ市にはなっておらず町の人口も3万人足らずでした。 今では〇〇市のベットタウン化したこともあって遅まきながら今になって人口が増加し町の規模も大きくなり、〇〇県では発展地域の中に入っております。市内の郵便局は今まで職員60人程の集配局が1局と集配をしない局が6局あり市内の配達は集配局で行っていました。 昨年10月から郵政民営化により集配局は市内の配達を受持つ郵便会社の支店と窓口のみの郵便局に分けられ、郵便会社支店は市の南にある3局の配達をも受け持つこととなりました。それにより郵便会社支店の配達地域は今までより何倍かに増えたために支店の責任者は大変な苦労をしているようです。配達員は今までの局に駐在しておりますが局の中で仕事をしていた職員がいなくなり、支店から幹部が巡回するだけと聞いております。したがって今までは3局とも局長がその局を直接見ていたため職員の指導や配達に関しての問合わせや苦情はその局の局長が責任をもって指導し、問合わせや苦情に対応していたことが今ではそれが出来なくなり、支店へ直接話をしなければ通じないため大変な不便をきたしております。 さらに民営化に対して職員が将来に対する不安感をもったためか退職者が一度に多く出たために、新規に採用する職員が間に合わず、また郵便関係の経費の削減を図るせいか、しばらくの間臨時の職員で間に合わせているためか、私どもを受持つ配達の方も臨時の方が担当しており、配達の時間も今までは午前中に配達されていたものが、今でははどんどん午後の時間となり、遅い時は夕方に配達されることもあります。これは私どもの地域だけではなく全体として配達時間が遅くなったようで職員の不慣れとともに経費の節減を計らなければならない状況によるものと思われます。	郵政は郵便・貯金・保険が一体となった経営をしなければ、郵政の将来は望めないと思います。郵政の業務を担当している郵便局の大部分は職員が二人が三人の規模の小さい郵便局です。親槙の小さい局は溌職員の方がお互いに応援し合ってこそ始めて小さい局が成り立つのだと思います。しかも地方の小さい局の大部分は貯金サービスを主にしております。郵政が4つの会社に分けられたことにより郵便局を受持つのは郵便、貯金、保険の会社から業務を委託された会社と聞いています。時の経過とともに各会社がそれぞれの経営方針により郵便局に委託しなくなったならば、郵便局の会社は経営出来なくなります。貯金銀行に見放された地方の郵便局は地方からなくなってしまうことでしょう。外国ではそうした例が多いと聞いております。わが国だけは例外ということはない筈です。法律上の歯止めはあるようですが、それでもつものかどうか極めて疑問です。まず4つの会社を統合した一体経営でなければ郵政の将来はないと思います。	郵政株式を凍結する法案が参議院で可決され、衆議院に送られたもののまだ審議もされていないと聞いております。貯金銀行や保険会社の株式は早期に上場されると聞いておりますが、株式が一般に売られるようになっては、郵政の将来は望めなくなります。麻生総理は先日当面株式は売りに出さないと言っておられましたが、凍結法案が衆議院で一日も早く可決されますことを念願しております。
		(2/2) 集配局は郵便会社支店と郵便局に分けられたために会社と局の間に間仕切りがされたようで、職員同志の意思疎通が出来なくなったとも聞いております。郵便局に電話をしていろいろお聞きすることがあるのですが、今までは郵便の話の後に貯金保険の話を聞くにしても同じ電話を回していただけましたが、会社が違うと別にかけなおさなければならなくなり、余計な手数がかかります。郵便局貯金窓口を利用するのですが、今までより待時間が長くかかるようになりました。理由を聞いて見ますとゆうちょ銀行からの委託会社になったことにより、今までの手続きと異なるために時間がかかると聞いております。またものによっては手数料が大変高くなりました。とくに定額小為替の料金が高くなったのには驚いています。 郵政が民営化されこの1年間の状況を見ますと、私の周囲を見ただけでも良くなったと思われる点は残念ながら見受けられません。ましてや過疎地域においては、今までは配達の方に貯金保険のお願いをしてやっていただいたものが、出来なくなったために郵便局の窓口までわざわざ行かなければならなくなったということや郵便局そのものがなくなったとの話もあり、地方はますます不便になって良いことは一つもないとの話を聞かされています。		

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
172	山口県	○「今よりもっと便利になる」との事であったが、郵便局に行くと窓口で確認書類をあれこれ退出を求められ、待つ時間も増えた。山間部の郵便局は閉鎖されたところもあると聞く。また手数料等も値上がりしている。これでは国民に負担ばかりの民営化である。郵政民営化は失敗だったのではないか。 ○郵便局の職員さんに元気が無くなった。話によると過大の目標のため個人別ノルマがあり、成績が悪いと転勤（転籍）もあると聞く。土日返上の研修、会議もあると聞く。残業をすると怒られ、仕事も強制的に打ち切っているとの事。民営化当初の「活力ある職場となる」と言っていたことはウソであったらしい。 ○4分社化したことは正解だったのか疑問に感じる。奇しくも、今は年賀葉書発売期間中で我が家にも郵便事業会社と郵便局から予約申込みが複数届いた。郵便局の窓口でしか扱っていない年賀葉書がなぜ同一世帯に多数のところから依頼書が届くのだろうか。会社間または郵便局の孤立のためか分からないが我々国民にとっては「無駄な競争」の様に思える。 ○郵便局の窓口で変だと思うことがある。貯金の満期金は貯金にするときは良いが、保険に入るときは確認しなければという。会社が違うから仕方ないと。利用者から見ればナンセンスだ。	○現状では、民営化時の公約が守られていない。「今よりもっと良くなる。便利になる。」との事であったが、国民目線に立って政治のレベルで責任をもって改善してほしい。 ①どんな場所にもある身近な金融機関であってほしい。 ②提出書類や手続きも簡略化して、高齢者が安心、やさしい郵便局であってほしい。 ③国からの援助等で、民営化前と変わらない安価な手数料に。 ○現状では、民営化時の公約が守られていない。「活力ある職場」となるように政治的な支援を期待する。 ①各社再統合による会社間の「無駄な競争」の解消を。 ②国が行った分割民営化であるので「活力ある職場」となる様に管理徹底を図ってほしい。 ③現状では国民へのサービスが出来ていないので以前の様に郵便局へ行けば郵便・貯金・保険がスムーズに処理できるようにしてもらいたい。	金融二社の早期株式売却を政府が唱えているが、現在の経済情勢から見てもこの考え方は矛盾している。改革の実行を強行するが故のことか、目的を履き違えずに議論を重ねてからでも遅くないと考える。慎重審議を要求する。
173	福岡県	（1）郵政民営化ほど善良な国民をだました政策は無いと思います。民営化後の郵政事業の実態を地元郵便局の状況やマスコミ情報などを通して見聞してきましたが、正直に言って、民営化されてこれは良かった、或いは小さなことだけれども、これだけは良かった、と評価できるものはありません。いろいろ改善されていますが、それらは民営化したから実施できたというものではなく、旧郵政事業においても当然行われていたはずの改善であり、評価できません。 （2）郵便局の印象も変わってきました。お客さんも郵便局のサービスが低下してきたことを感知し、不満気です。職員は責任は無いのですが、矢面に立たされて大変気の毒です。	かつて郵政民営化に賛成した自民党議員の中に郵政民営化見直しの動きが出てきたことは明るいニュースです。しかし選挙とも絡んでいるようでありますので慎重に見極めなければならないと思います。さて、今後の郵政民営化への期待ですが、私は郵政事業を民営化することは、130余年の歴史を有する郵政事業の実績に照らし、真の公共の福祉に反すると思いますので、民営化を見直すのではなく、民営化そのものを否定し、元の公社に戻すことを希望します。そのためには短期と長期の二元戦略が必要であると思っています。	1、私共が郵政民営化反対闘争で敗れたそもそもの原因はマスコミ対策がまずかったからではないかと思っています。 2、来るべき総選挙は、郵政民営化の雪辱戦にしたいです。
174	千葉県	―	―	現場で働く一社員として、民営化して良かったと言うお客様の声、良い評価を全く聞いておりません。四分社化され、各事業会社がそれぞれ利益を追求するため、いろいろなサービスダウンが起きております。民営化する際、分社化すれば効率が良くなる、サービスが良くなる、料金が安くなる、経済が活性化する等良い事ばかり並べていました。お客様もそれに対する期待が大きかっただけに、現状を見ての不満、苦情は後を絶ちません。お客様の便を第一に考え、地域格差の縮小、日本の社会基盤の建て直しには、一刻も早い三事業一体化が担保できるサービスを郵便局に義務づけ、全国民が公平なサービスを得られるよう法改正を望みます。郵政を民営化したことにより、誰が何処でどのような恩恵を受けているのか理解に苦しみます。
175	岩手県	残念ながら良くない。郵便は遅い、窓口の待ち時間が長い、職員の仕事に余裕がなく、いつも忙しそうである。お聞きしたい事があっても聞けない。目に見えてサービスが悪くなり、以前の柔軟さや暖かさがない。事務室を仕切り圧迫感を感じる。	以前に戻すべきである。三事業一体で連携のとれた業務の遂行。少なくても郵便業務は一体で行うべきである。	―
176	大阪府	利便性が無くなり、本来の郵便局の良さが無くなった。	国民のための機関として位置づけてほしい。	小泉さん、竹中さん、少しは反省してください。責任ある政治を期待します。
177	山形県	1、4分社化はお客さまにとって非効率なものとなっている。郵便局窓口における待ち時間の増加、郵便外務員が配達先で「貯金の受入、保険料の集金等」を扱えない。地域での老人、身体障害者への対応（依頼による集荷や送金・代書等）扱ってくれない。 2、地域に密着したふるさと小包（さくらんぼ等）の激減、同じ屋根に同居する職員の共助共援体制が確立されていない。事務室の間仕切りは評判が悪い。 3、このままでは、郵便局が地方から撤退しなければならないのではないかと危機感が強い。	郵便局は民営化後も、ユニバーサルサービスを義務付ける必要がある。それには国が株式の半分以上持ち、職員の活性化を図り、希望の持てる職場に一丸となって努力する方策を確立していただきたい。そのためには法律を見直してもらわないと実現出来ないので、ぜひとも政治の場で解決していただきたい。また、サービス低下を解消するためにも、郵便局会社と郵便事業会社の結合は不可欠だと考えます。私は郵便局が地方から撤退する事態は作ってはならないと思っております。	地方で唯一頼りにしている郵便局は、みんなで守り育てなければならない。郵便局が倒産するようなことは絶対避けなければならない。その為にも民営化法案の見直しと、国民から真に愛され、喜んで利用される郵便局制度にしていただきたい。
178	埼玉県	何が良くなったのか見えてこない。	三事業一体とし運営する。	―

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
179	愛知県	(1／2) 郵便局で唖然としました。実はこんな話。10年前に会ったきりの故郷の友人が亡くなった。まだ60代であり、孫もできたばかりだった。葬式に行かなければと思ったが、具合悪いことには、その日は自分の病の検査日だった。そこで、奥様あてお悔やみの手紙と香典を電信為替でおくろうと郵便局へ出かけた。ところがである。何と郵便局では「電信為替はなくなりました」というのである。「それは、またどうして」という私。「郵便局が民営化されて、郵便の仕事と為替(貯金)の仕事が別々になって、できなくなったんです」との返事でした。唖然、呆然。あんなに便利な電信為替はどこへ行ってしまったのか。今までも、香典はもちろん入学祝いや誕生祝いなど何回かお世話になったのに。では、どうやって香典を届けたらよいのか。「現金書留で速達で送ってください」との郵便局の返事に「現金書留では間に合わない時、例えば、旅先の人にお金を送りたい場合はどうするのでしょうか」と重ねて聞きましたら「送金先の方の預金口座へ振り込みしてください」とのこと。そんなことができるわけがありません。郵政民営化のお陰で、あんなに便利な商品がなくなってしまったのです。 次は郵便局の建物の話。 もともと郵便は経営としては、うまみのあるものではありません。50円、80円のハガキや封書を何キロもかかって各戸へ配達する形態では、いくら効率を良くしてもたかがしれています。客が自分から集まるコンビニとは訳が違います。公共サービスとして政府が責任を持つ性格のものでしょう。郵政省や郵政公社の時代には、3事業が補完してこそできた事業形態であったのでしょう。郵便だけで、独立した事業とすれば、早晩経営が成り立たなくなるでしょう。郵便局の建物を見てください。古びていたり、狭かったり、駐車場がなかったり、旧態依然です。イメージも古くさく、暗くて按客商売とはほど遠いイメージです。今の幹部の方は、このままでよいと考えていられるのでしょうか。さて、この建物を新築し新しいものにするのは巨大な金がいるのでしょうが、郵便事業あるいは郵便局会社が負担できるでしょうか。更に云えば、今のままの建物で貯金や保険を販売続けますか。	ー	ー
		(2／2) 貯金や保険の経営者としては、もっとイメージの良い建物を望むのが当然です。そうであれば、郵便局に販売委託するより、もっと他の会社に販売を委託した方がメリットがあると考えることが自然です。 貯金と保険の経営はどうでしょうか。 定額貯金は全国に有名となりましたが、今の若者は全然知りません。簡保の名で知られた保険も取扱の簡便さはどこかへ消えました。契約件数もじり貧状態と聞いています。今回の金融危機ではおそらく相当な損失を被ったでしょう。デフレが必至と云われる今日、貯金と保険は今までの利益を食いつぶす恐れはありませんか。 かくて、郵政グループは自然に分離されていくことしょう。かっては国民の生活に密着していた郵便局は民営化に伴い、次第に国民から遠い存在に成りつつあります。「覆水盆に戻らず」という言葉があります。郵政3事業がもとには戻るのは難しいことですが、お互いが存立しやすい郵政グループを長い目で見て作り直してください。それが日本国民の将来と一致するような気がしてなりません。		

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
180	埼玉県	小泉政権が、アメリカの規制緩和要望を受け、かなり強引に始めた郵政民営化ですが、いろいろな困難に直面しているようです。電電公社の民営分社化の時も、そして現在も感じていますが大きなものを部門別、地域別に分けた効果は私どもにはまだよく見えません。効率化、各種サービスの全国一律化、それらの一策なのか、現在のNTTは、電話などの問い合わせなどに対しては手続きが煩わしくなかなか希望のオペレーターまでたどり着きません。 外注部門が多いせいかコールセンターへの回線便宜供与のせいか、電話による売込みが著しく増えどこの家でもその対応に迷惑しているのが現状です。以前と変わり我々が顧客に電話しても名前さえ告げてもらえず、その会話も殺伐としてきている現状です。 こと郵政民営化に関しても、私はサービスの低下、意識の低下を強く懸念しております。 我々商人は顧客との結びつきを大切にしています。特こ個人商店は、業種によってですが訪問し顧客の家庭内に立ち入ることも出来るほどのコミュニケーションを形成しています。いわゆる「郵便屋さん」と呼ばれる人々も同様なつながりを現在ももてており、これら人々との結びつき、触れ合いをこれからの郵政の大切な財産として育てていってほしいと強く思います。	郵便事業はいわゆる行政サービスで出来ないことを期待できるものだと思います。「民間にできることは民間に」は確かに真理です。しかし多くの先輩が永年にわたり培ってきたものまで、効率化の美名のもとに壊してはならないと考えます。 昔は商店街には無尽会社などから毎日「日掛け箱」が各戸に回ってきました。今日、市中銀行では月掛についてさえも集金にくることがなくなりました。まちの信用金庫でさえ流通経費削減のためか、あまり「月掛け」に重きをおかなくなりました。人手が掛るからと言って少子高齢化が加速度的に進むこの日本で、文化ともいえる心の通ったこのシステムを発展させ、安心安全な不安のない社会づくりにも貢献できる組織でいてほしいと切望します。郵政民営化、このまま進んで行くのか、凍結し再考するのか、先行きは私には見えませんが、このように広く意見を募集することは今後の貴委員会に期待しております。	ー
181	北海道	従前よりサービスの低下が顕著となった。 郵便局は集荷をしない（出来ない）。 小規模の産直ふるさと小包は排除された。 通夜に香典が間に合わない。電信為替の廃止。 目的を持って毎月貯金していた積立貯金の廃止。 50円の定額小為替の振出料金が100円の非常識。 単票の貯金証書が廃止された。 事務手続きが複雑、煩瑣。	今後、株式の上場により、さらに利潤を追求することになれば、過疎地における不採算郵便局の廃止が懸念される。民営化の期待はない。都市部の論理で過疎地が切捨てられる。	郵貯・簡保資金は、庶民がコツコツと額に汗して働き生活を守るために蓄えた大切な財産である。財界や外資など、一般庶民とはかけ離れた一部の富裕層の金儲けのために利用するものではない。 今後も株式は国が保有し売却しない。国際金融危機のなかで郵貯・簡保資金が運用に失敗したらどうなるのか。郵貯・簡保資金のコンセプトは「額に汗した大切なお金」である。
182	東京都	（1/2） 郵政民営化は、望む望まずにかかわらず、期限だけ決められ、無理やり拙速に行われたものであり、当初の準備不足・検討不足が、民営化後までも足を引っ張ることとなっている。 1　システム開発に対する期間も十分にとれず、また、システム要求自体を充足することがでず、民営化してしまったこと。結果、郵便局会社では、自分のシステムを何も用意できず、他のグループ会社のシステムを利用させてもらっているような状態にあり、たとえば郵便局会社独自の商品は手作業による管理に等しい方法となっている。また、経営に資するような情報がシステムから提供されなくなったことにより行き当たりばったりの施策が多くなっているように思う。民営化直後のシステムや事務要領の不備により、郵便局の社員はもちろん、お客さまにまで相当のご迷惑をおかけしてしまったことを忘れてはならないと思う。 2　国民のインフラたる役割を良く考えず分社化してしまったこと。三事業バラバラに分割されたことで、お客さま側からみて違和感のある窓口応対となってしまったこと。「申し訳ありません。他の会社のことなので・・・」これでは、お客さまにサービス内容を納得していただくほうが無理である。お客さまご自身では気づいていらっしゃらないかも知れないが、お客さまが私達郵便局に求めているのは公共サービスの一環としての、郵政事業サービスであると思う。そこには、高級な（高額な）サービスでなく、気軽で簡便なサービスが求められているのだと思う。	郵便局の位置づけは、広域的な公共性のあるフォロワーであるということ。民営化の目的をもう一度考えるべきである。民営化されて、お客さまの利便性が向上するのであるはずだ。三事業一体化を図り、分社化されたムダを集約するべきである。集約といっても民営化前の「縦割りお役所仕事」へもどるのではなく、三事業のシナジーを効果的に発揮できるような組織にすべきである。民営化前の組織の看板を変えただけでは、何も変わらないのである。 提供するサービスも簡易貯金、簡易保険、簡易郵便で良いのだ。そのかわり、仕組みを簡単にして、手数料を安く、広く、あまねく誰にでも利用しやすいサービスを提供していくのが本領と思う。貯金や保険の限度額もそのままで良いと思う。郵便局が提供するのは、国が国民に国の義務として、国の発展を目指して始めた公共サービスなのだから。誰もが利用できるような公共サービスを提供するのだから、これからも国が国民に提供する公共サービスとして、せめて株式は政府保有のままでいてもらいたいと思うのであるが。	ー

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
		(2/2) 3　実は民営化されても民間の脅威となるような力はないこと。貯金でいえば、限度額の一千万円、民業圧迫ということで、不思議なことに民営化されたあとも撤廃されないが、撤廃されたとしても、地方の小口のリテール残高が若干増えるだけで、間接金融機能を持たないゆうちょ銀行がどうあがこうと、総合力のある銀行にはなれないことは、誰もが知っているはずである。総じて、この民営化は失敗であったといわざるを得ない状況にある。 郵政事業は、公共サービスとして総合的な商品力で初心者用の金融商品を展開し、郵便という物流力でお客さまの需要を今まで満たしていたのであり、お客さまの望むものも気軽で簡便なサービスであったからだ。何を目的とした民営化だったのだろうか、民営化することが目的となってしまった民営化では、そこに民営化の意義など見出せないことはもっともである。		
183	京都府	あまり良くなかった。	JRのように全国を六フロックに分けて民営の会社を作り、それぞれは国営当時の三事業一体の会社とする。	ー
184	北海道	ー	ー	郵政民営化に対する怨嗟の声は今地方にに満ち満ちていることをご存知か。こうした最中、民営化をどう評価するかとか今後の期待とか利用者の声を聞くための意見を募集中であると聞いた。そこでお願いしたい。 あのとき民営化の先頭に立って国民をミスリードしてきた田中直毅が意見聴取委員長というのでは結論が既に決まっているのではないのか。この人が責任者ではとても信用できない。 田中直毅郵政民営化委員会会長の更迭を求める。 若しも現状追認という姿に落ち着くようでは長年の自民党支持者の離反が多くなるだけです。この辺のことも真剣に考えて頂きたい。 多言多謝。
185	宮城県	国家公務員試験合格により採用された者です。元に戻るべきである。国家公務員として身分は保障され…とあるのに、一方的に民営化になったから民間人。これって憲法違反？規則違反？国家公務員でなくなることの説明も保障も何も無い。国家はまずつぶれないが、民間会社はつぶれる可能性は大。明確な回答と保障を望む！	民営化に向けて職員の厚生福利は低下させることはない！と約束していながら、社宅事情等…レベル低下である！社員全員の意見・要望・苦情を集約すべし！	ー
186	東京都	お客さまにも、社員にも、負担だけが増え、仕事もやりにくく、不便に感じる事ばかりが目立ち、とても良くない。	各事業の連携と処理時間の短縮を図るべきです。	ー
187	福島県	三事業は一体として運営してきた以前と比べ、柔軟な仕事ができなくなり、その上、手続も煩雑となり、お客様の信頼も大きく失いかけています。何とか持ちこたえているのは現場力であり、その力を感じ取らず「損益ばかりを重視」している本社。今後も四つの会社は別の方向を向いて進んでいくことになるのではないですか。そして株式売却後は郵便局会社の店舗閉鎖が進んでいくことは避けられないことでしょう。	現行法で期待するものは何もない。金融も含めたユニバーサルサービス維持には、郵政株式売却凍結と三事業一体経営が不可欠ではないかと思います。	郵貯・簡保として皆様からお預かりした資金は、今、地方には殆んど役立っていないと聞きます。何故中央でしか運用しないのでしょう。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
188	千葉県	民営化(官から民へ)は、時代の趨勢で否定出来ないが、安定的経営がされている事業を四分社化したことは、大変な間違いであった。民営化1年で多くの問題点がが出ており、国民に対する裏切りが露呈している。小泉さんが「①郵便局は無くさない。②サービスがよくなる。③利用者も便利になる。④職員もやり甲斐が持てる。」等々いいことだけを並べ、郵政民営化が改革の本丸と位置付け、不当にも衆議院を解散し、国民を煽り立て劇場型郵政選挙で圧勝したことにより、郵政民営化法を制定し、民営・分社化を実施した。 国民(お客様)の反応はどうだろうか、 ・手続きが煩雑だ。 ・窓口での待ち時間が長くなった。 ・手数料が値上げされた。 ・分社化によって不便になった。 ・前の方が良かった。 民営・分社化されたことによってこのような意見が日増しに多くなってきている。先般、貯金通帳の欄が一杯になったので郵便局窓口に行ったところ、窓口の担当者はいつもの笑顔も、親しさもなく、緊張ぎみに「本人であることを確認したい。何か証明になるものがありますか。」「私のことは良く知っているでしょう。」と言ったが「免許証でも見せて下さい。一寸コピーをとらせてください。」と懇願している。「民営化になった証しがこれだ」と思い窓口担当者を気の毒になった。サービスダウンをし、お客様に不愉快な思いをさせていることを知りながら、一日に何回この思いをしているのだろうか。 職員はモチベーションが低下し、管理者は使命感や熱意だけでは乗り越えられない厚い民営化の壁(お客様に掛ける迷惑)。このようなことが解消されるよう、来年3月の見直しに期待をしたい。	郵政事業は、三事業一体化が原点である。分社化して全国津々浦々にサービスが提供できるのか、三事業一体だから全国ネットワークでサービスができるのである。 ・公社の郵便局だから、郵便物を配達しながら独居老人に声掛けをし「安心を配る」ひまわりサービスもできた。 ・道路の穴を発見したとき、産業廃棄物等の不当投棄見つけたとき行政に通報する等安全対策協定を締結していた。 ・郵便局の会議室を地域のお客様に提供し、「絵手紙、押し花、書道、生け花」等のカルチャー教室が開催されていた。このように郵便局は地域社会へ根差し信頼関係がしっかりと築かれていた。 民営・分社化によってこれらが対応できなくなった。あまりにも大きい損失ではないだろうか。三事業一体経営に戻したい。	ー
189	千葉県	① 民営化とは、どんな合理化をしても、採算のとれない事や所を切り捨てる結果となる。もともと郵便局の存在価値は、過疎地を含め日本全国の住心地を良くするために、生活上の必要サービスを提供することであろう。この存在意義に照らして切り捨てご免の民営化は全くなじまない。その観点からの不都合が至るところに生じているように感ぜられる。 ② サービスダウンが激しい。 ・夜間窓口が大幅に減少している。 ・待ち時間が長大化した。 ・郵便物が翌日配達にならない。 ・従業員の業務知識不足が生じた。 ・三事業の連帯感が希薄となって共助共援不足となった。 ③ 積極的営業への意欲が失われた。 窓口会社を切り放したことの結果と思われ五分社化に大きなムリがあると思われる。 ④ 局内に不自然な間仕切りがあり、客は阻害感を感じる。 事業別の分社化は、分割損が極めて大きいのみならず意識の分裂を招いた。	① 最低線でも三事業の一体経営を追求し、郵便局で民営化以前のようなサービスを安心して受けられるように改善する必要がある。更には、一般行政サービスの窓口の一端ともなって、過疎地のワンストップサービスの拠点や高齢者の見守りサービスの一環として、国民的財産＝郵便局ネットワークを活用すべきである。 ② いたずらな競争や市場原理のみの経営は改める必要がある。 例えば7-8割を占める過疎地の郵便局はもともと独立採算はできない。全ネットワークとして考えるべきである。 ⑧ 法人税を免除されていたといわれる国営時代にも独立採算は達成されていた。法人税分が過疎地対策の財源となっていたと考えれば、新たな税金を要しないかなり安上がりの過疎地対策である。この使命を郵便局に果たさせることが国民的利益に通ずるのではないか。 ④ 非正規雇用が日本の労働者の1/3を占めワーキングプアが生じ格差社会への進行が止まらない。郵政民営化は、まさにその傾向を強める一要因であり、非正規雇用(ユウメイト等)が大幅増されて社会の不安定化をもたらした。それのみならず、使命感や業務知識の低下を生じている。しかし、これに対して教育が十分に行われているようにはみえない。基本給を見直してでも正規雇用への回帰をすべきである。 ⑤ 国民生活の基本的インフラとして築いてきた郵便局ネットワークをせめてかっての郵政公社のレベルに改善する必要がある。 五分社化をやめ三事業一体経営が望ましい。 企業性(都会の収入)をもって、公共性(過疎地を含む全国サービス)を確保することである。 今でも遅くはないまだ十分間に合う！！！	単位郵便局や支店毎に独立採算を目ざすというムリを通すことをやめネットワーク全体での独立採算の発想に転換すべきである。このことに集約できると思う。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
190	東京都	新聞報道によれば、日本郵政グループが11月28日発表した9月中間連結決算は、「金融2社」に依存している構造を浮き彫りにし、今後の事業戦略や業績目標を示す中期経営計画の公表のめども立っていないと報じている。そもそも郵政民営化は、改革の本丸、国民に大きな利便をもたらすとして強引に、当時の首相の意を受けて一部の学者、財界人が推し進めたものであり、今日そのメリットは全く肌で感じられない。最近における従業員の表情に明るさが見受けられないばかりでなく、特に異常に感じられたことはことは、庁舎内の間仕切りである。責任の所在の明確化のためということのようだが、ギスギスした不気味な職場管理の一端をかいま見た感じがする。 また、四分社化の怪である。 三事業一体で運営することが効率的であることは、小さな郵便局の例をみるまでもなく明らかである。「リスク遮断」とか称して殊更に四分社化する必要があるのだろうか。理論上正当の様に見えて無理無駄があるように思われる。	現行の四分社化の下では、事業体に混乱を増幅させるばかりでなく、利用者にも戸惑いを感じさせるのみである。よって、早急な見直しが必要である。	現行システムを廃止し、三事業一体の効率的運営を図るようにして頂きたい。
191	千葉県	(1/3) (1)全体的に待機時間が長くなり、手続きが複雑で極めて不便になり郵便局内の雰囲気も極めて悪くなっている。 中規模の旧普通郵便局では、①窓口事務が、郵便・保険と貯金の間に間仕切りをして出入りが一切できない。②郵便事業会社と郵便局会社と貯金事業会社は組織が違うから協力もできないということだが、同じ郵便局舎の中で、「隣は他人で全く関係ありません。」といったギスギスした関係が郵便局に行く度に見られるが、以前と比較し良くなったとは到底言えない。極めて悪くなっている。 (2)郵便について ① 多量の郵便を窓口に持って行くと別納扱いにさせられるが、いちいち申請用紙に郵便番号・住所・氏名・電話番号まで書かされる。しかもその用紙に局員がいろいろ書き込み、しかもレジスターに打ち込み、ようやく現金の支払いとなり非常に時間が掛かっている。(以前はもっと簡単な手続きであった。) ② 書損ハガキの交換も①と同様複雑な手続きになっている. ③ ポストからの取り集め回数が減っている。 ④ 配達時間が遅くなって予定が狂い迷惑をしている。	(1) 以上のような事業経営の中で、株式を民間に放出することは、郵政事業を破滅に導くことになり、国民の貴重な財産を一部企業に乗っ取られることになるので、絶対反対である。 (2) かつての郵政三事業は、国民の税金を1銭も使っていないから、民営化されても国民の懐が豊かになる訳ではない。 (3) 郵政民営化は絶対に反対であり、従来どおり三事業一体で経営すべきであり、それが国民・利用者の生活を豊かにすることになる。	国政はアメリカの意向通りに向かっているような傾向にありますが、そのアメリカでさえ郵便事業は国営であることを考えると、何故無理やりに民営化したのか私には分かりません。国民・利用者の為の郵政三事業を推進して頂くべくよろしくお願いします。
		(2/3) (3)ゆうちょ銀行について ① 待ち時間が長くなった。 ② 新しい手続きをすると、一つ一つ身分証明書を提出し、コピーを取られる。 ③ 定額小為替等の料金が、従来から比べ極めて高くなった。 ④ 近くの郵便局でも、いわゆる下駄履きで行けなくなった感じで、極めて事務的になった。 ⑤ 今までは、郵便貯金とセゾンカード・マスターカード一体型のカードで、手数料は無料で便利だったが、今後は使えなくなって、極めて不便になった。今度は、JP Bankカードで新しく申請しなければならないそうだが、年会費が有料となるそうで、利用者に益々負担を掛けるシステムになっている。 (4)かんぽ生命保険について ① 生命保険の募集や集金をしなくなり、生命保険に加入しようにも窓口では勧誘をするだけの時間が無いようだし、外務員も来ないのでどうして良いか分からない。生命保険を勧誘してもらえるような雰囲気ではない。(従来は、生命保険を勧められて止むなく加入していたところもあったが、結果的には加入者に喜ばれることが多かった。) ② 簡易保険の保険料は、団体割引が大きく、地域団体が集金をし、その割引率で地域活動に大きな貢献をし、喜ばれていた。経営的には厳しくなっているので割引率のある程度の引き下げは止むを得ない点があると思うが、全廃にするのは地域住民の活動に支障をきたすことになっている。 ③ 満期・死亡の際も保険金の支払いが厳しく、証明資料の提出に手間取り、利用者にとって簡易で、あまねく公平ではなくなっている。		

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
		(3/3) (5) 以上各事業について見てきた時に、何一つ国民利用者にとって益するところは無く、不便になったところが目立つようになった。また、下記の通り郵政民営化委員会で各事業の社長等が発言した記録を見ても明るい展望は見られない。 ① 山間辺地では次々と郵便局や簡易郵便局が閉鎖されていると言うことだが、そもそも、創業当時の郵便・郵便貯金・簡易保険の法律には、「あまねく公平な取り扱い」、「簡易な取り扱い」、「公共の福祉の増進」が目的として掲げられていた。しかし、現在の三事業にはそのような目的が殆ど無視された事業になっていると言っても過言ではない。そればかりではなく、三事業或いは郵便局会社を含め、四事業互いに反目しているところさえ見られる。例えば、年賀ハガキの販売は、郵便事業会社と郵便局会社が取り合いした販売をして見苦しい。年末繁忙期も四事業別々で相互応援はしてはならないようだ。 ② 旧集配特定郵便局では、「三事業が一体で出来たが、貯金を預かってくる、保険も進めると言ったサービスが出来なくなって不便になってきたという声が強い。」「ユニバーサルサービスは、民営化後は97.5%」と囲郵便事業会社社長は発言している。(郵政民営化委員会20.9.25・第45回議事録) ゆうちょ銀行の米澤副社長は、「貯金残高は平成12年3月末の約260兆円から20年6月末には約181兆円と毎年十数兆円ずつ減少している。」と発言。保険の山下社長は、「生命保険の新契約件数は対前年度比8割、9割といった水準で減少している。」と発言.(郵政民営化委員会20.10.8・第46回議事録)等を見ても三事業は先細り傾向である。 ③ 従来の郵便・貯金・保険三事業以外に間口を広げ、何でもできる郵便局になると聞いていたが、私が実際見てきたイギリスの郵便局の「ポストショップ」とか、フランスの郵便局の「株式の販売コンサルト窓口」などは、現在のところ全く出来そうな環境ではない感じがする。		
192	福島県	民営化に移行し一年になるが、都市・地方の郵便局に限らず、郵便局のサービスは必ずしも民営化による改善は見られない。公社化までの郵便局は郵便・貯金・保険の三事業が一体で共生する業務推進がありましたが、完全民営化による四分社化後は特に三事業がバラバラ(会社が違うので当然？)で一体的サービス携帯は完全に崩壊している。郵便局の中でも郵便事業会社(支店長)と郵便局会社(局長)は同じ局舎内にありながら連帯感が全く無く完全に解離しており、利用者からすると不自然で何の為の民営分社化か理解が出来ず、評価に値しない。 例① 今まで毎日来る郵便配達員に貯金保険等の業務を頼んでも快く受理手続をし、確実に処理されサービス業に徹していたが、民営化後は取扱業務外として一切応じることができず、地方の特に高齢者等には不利益とも言えるサービス低下がある。 例② 集配郵便局の統廃合により、集配業務は大きい集配局(普通局)に統合された。これにより地方集落の配達時間等が一定せず、早かったり遅かったりで期待に応じていない。又、不在配達郵便物の再配達業務等にも遅滞等が多く業務が低下している。 例③ 積立貯金、保険等の集金業務は局側の一方的業務日割でお客様の本意が届かず、集金日は一定せず、不在ともなると集金は次月か窓口払込みとなり、大変不便となった。 例④ 郵便集配業務の合理化等により、郵便ポストの配置が一部改廃された。それによりポストはあるが、切手類の販売をしていないとか、又切手類の販売はしているが、ポストの設置がない等(スーパー、コンビニ)業務と営業が一致していない。 例⑤ その他四分社化による現場での不合理性と利用者の不便性には枚挙に暇がない現状である。	根本から現在の四分社化を見直し、郵便・貯金・保険の三事業を一会社か二会社に合併し、出来る限り一体で潤沢に国民へのサービスが出来るような会社組織・制度の再編成が出来ることを希望する。新しい組織・制度にはそれなりの新しい発想と行動を必要とするが、温故知新の精神も又、肝要である。今後の郵政民営化の推進に当たっては国民の手の届くところで国民の目線にあった郵政三事業が一体で安全に提供することにより、国民妊娠を与えられる郵便局の再構築されることを期待する。	―
193	熊本県	民営化は時代的に良いとして、三事業分割されて、お客様からみてサービス低下した。サービスを作る部(会社)、提供する部(窓口、郵便局)に分かれてしまい、ロス。質問等への回答が遅い。「規模の利」に逆行した。料金アップした。	民営化意識は高まったと思う。	少なくとも、郵便と窓口(郵便局)は再合体を。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
194	東京都	・現場と本社、支社が乖離しており、一番お客さまに近い現場の声が本社、支社に届かない。 ・本社、支社の連絡連携不足が目立つ。 ・支社は本社にお伺いを立てることがおおく、瞬時に判断ができない。 ・第一線の現場が、要員不足で苦しんでいるのに、支社は何の援助もなくただ数字だけで現場を判断している。	・現場と一体となった管理組織 ・現場の状況を理解している支社本社のスタッフの育成 ・少人数の居の現状を把握して、対策を打てる営業スタッフの育成 ・支社・本社のスリム化その分を現場に ・文書のスリム化	ー
195	神奈川県	国民は郵政民営化によって想像だけであらゆるサービスが良くなると、深く考えることなく、小泉元首相のパフォーマンスに踊らされただけのものと考える。首都圏でこそまだ民営化の影響は少ないので取り上げられていないが、過疎地や採算ベースで収益が見込まれないような地域などでは郵便局の統廃合やATMの減少など、切実な問題となってそこで暮らす人々のライフラインまでが脅かされている。	国営に戻すのは無理としても、公社として、あるいは最低限として三事業一体経営に戻し、ユニバーサル・サービスの維持に期待する。(株式の上場だけは、断固としてさせてはいけない。)	マスコミも悪い。事の善し悪しをしっかりと伝える義務があるが、記事としてのおもしろおかしさだけをとらえ、物事の真意を伝えていない。このまま郵政グループの株式が上場されるようなことになれば、国民の資産の相当数を外資に持って行かれてしまうだろう。
196	群馬県	・民営化によって郵便局利用者のサービスは良くなるはずだったが、実際にはサービス低下を招いている。 ・郵便局現場では民営化以降、事務手続きの煩雑さに悲鳴をあげている。	・現在の郵便局ネットワークを維持し地方の郵便局を存続してもらいたい。 ・公社時までのユニバーサルサービスを維持し、簡易な手続きで利用できる金融機関としての見直しをして欲しい。	ー
197	大阪府	(1/2) ◎ 郵政民営化は、全般的に見て利用者としては期待外れである。 (1) 郵便局ネットワークが維持されていない。 ・全国で簡易郵便局が400局余り、閉鎖状態となっている。簡易郵便局長となっていた人の高齢化が進み、今までと同じように仕事を継続していくことが難しくなったので退職された。また、簡易局の設置場所が山間僻地等、人口の少ない地域に設置されている場合が多く、委託されても採算がとれない場合もあり、希望する人がいないのが実情である。 (2) 郵便局利用者に対して利便性に欠ける。 ・旧普通局の窓口において、間仕切りをしたりして、利用者として異様さを感じ、同じ建物として効果的な使用とは思われない。また、郵便の窓口は、郵便局会社と郵便事業会社があり、非効率であり一本化が望ましい。 ・窓口利用の場合、ゆうちょ・かんぽ窓口においでは、本人確認を必要とするが、民営化になって以降その都度確認を行うので、待ち時間が非常に長い。他の民間金融機関では、一度本人確認を行えば次回からは行っていないのが実情である。 ・不在配達となった張合、再配達を願うが、集配局を集約したため離島や山間僻地等では、今までより日数等を要し配達が遅くなっている。	(1) 4分社化の見直し 郵政民営化は1年を経過したが、現状を見る限り、郵便事業は日本通運、ゆうちょ銀行は三井住友銀行、かんぽ生命保険は日本生命と提携している。これは、実態から郵政事業を分社化され、言葉は悪いが民間会社に乗っ取られたも同然であると感ずる。この様な状況の中で、将来を期待することは皆無であり、分社化後の再合併も含めて方向性を見定め、見直す必要があるのではないか。特に、郵便局会社は、郵便事業・ゆうちょ銀行・かんぽ生命保険からの手数料を主とする収入源で、経営していくこと自体無理があるのではないか。せめて、郵便局会社と郵便事業会社は、合併して経営すべきである。 (2) ゆうちょ銀行とかんぽ生命保険の株式上場 両社とも、経営的には未だ不安定と感ずる。もう少し、世間の状況を判断しながら将来を見据え、土台をしっかり整えてから実施すべきと考える。 (3) 郵政グループ内の連携 郵政グループといいながらも、全く他社的な接し方と見受けられる。このことから、グループが連携して仕事が出来るように見直してほしい。	(1) 郵政民営化では、郵便局利用者には絶対迷惑はかけないとの方針であったが、すでに、大なり小なり不便をかけている。これは、払拭してもらいたい。郵政事業は、インフラの礎であると云うことを認識して経営してほしい。 (2) 郵便局の仕事を見ていると、利用者向けではなく、内部の点検ばかりを重要視した体制となっていると思うので、利用者向けの仕事やサービスを期待したい。
		(2/2) (3)持ち株会社と4分社化は分割しすぎである。 ・この4分社化自体、分割仕方が、無理があったのではないか。これが地域住民にとって、公平なサービスが受けられていない原因ともなっている。例えば、集荷は郵便会社のみが行うので、過疎地域等は、集荷が十分に出来ていない地域もある。これらの地域は、他の民間会社に集荷が移ったところもあり、営業面では減収になっていると見受ける。 ・郵便局会社は、郵便・ゆうちょ及びかんぽの窓口業務のみであり、外向きの営業が出来にくい体制となっている。 ・4分社化したことによる消費税は、国に納めることになるが、この金額は相当な頻となり、まるで、国に仕組まれた感がある。郵政事業が一体であればこれは必要ない額である。 (4)郵政民営化になって、応接マナー等一般の金融機関よりも格段良くなった点は評価する。		

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
198	神奈川県	あまり評価できない。先ず、問題となるのは、過疎地域等における簡易郵便局の廃止が相当発生しているという事実です。過疎化、高齢社会が我が国の大きな問題点となっている現状を無視し、これに拍車を掛ける様な郵政民営化の実態を真剣に見つめ直すことが今こそ喫緊の事項であります。次に、3事業一体としての郵便局のメリットが大きく崩れ、我々利用者から見ても実に首をかしげるような実態が発生していることです。例えば、20年の年賀ハガキ販売において、我々から見れば同じ郵政グループの職員でありながら、郵便事業会社と郵便局会社の職員が競合して年賀ハガキを販売しているという現実に驚かされております。又、経営主体が異なるということが強調される余り、同じ建物内でありながら、各経営会社職員相互間の交流が厳格な間仕切りで遮断されていることがいかに不合理でロスを発生させているか根底からの見直しが必要かと思われます。	民営化のメリットを求める余り、公益性を無視し過度に利益を追求するという弊害が1年目にして早くも感じられます。特に、郵便事業に於ける見通しはかなり厳しいのではないでしょうか。インターネットがこれだけ発展している我が国に放ける通信事業の今後は郵便に関しては極めて悲観的と言えるでしょう。あくまでも民営事業として宅配事業等との競争下に置くというのであれば3種以下の郵便物への公的補助等もきちっと見直すことが肝要と思われます。更に、郵便事業の大きな特色である全国均一料金体制を維持するのであれば、離島、僻地等からの発着郵便物に対する損益を明確に把握し、これに対する公的支援を明確にすべきと思われます。また、特定局の扱いについて今一度その特異性を十分斟酌し、一般金融機関と同列の監督指導が妥当なのか再検討を要すると思えます。	民営化が叫ばれ、昨年10月からいよいよ実現の途に着いた郵政グループの各事業を見るとき、それまで必ずしも明確と言えなかった事業別収支がかなり判然としてきたことはある意味評価されてしかるべきと感じています。又、官公労働組合特有の、有る意味親方日の丸的甘えの現象が影を潜めつつあるというのも民営化に於ける大きなメリットといえましょう。こうした面では今後も民営化に期待する部分は大きい訳ですが、一方で明治以来営々と積み上げられてきた3事業一体の郵政事業運営という伝統が一気に崩れ去ろうとしていることの弊害が想像以上に発生していることを鑑みつつ今後に向けて実のある検討をされますことを心から祈念する次第です。
199	宮城県	民営化して良くなったところよりも、悪くなったところが非常に多いように感じる。 そもそも郵政三事業は ユニバーサルサービスに重点を置くべき事業であり、特に郵便事業はアメリカでさえ現在も国営で、補助金によりユニバーサルサービスが維持されている。郵便事業は国の基礎的で必要不可欠な通信手段であり国を動かす「歯車」である、住む場所等によって格差が生じてはならない。だからこそ、国が責任を持って国民一人一人にあまねく公平に通信手段を提供すべきである。 今回の民営化は都市部と山間僻地等との格差を拡げ、都市部以外での暮らしを否定するものだと考える。今回の民営化でサービスメニューは少し増えてはきているが、これが国民が真に希望している方向なのか疑問である。ますます高齢化が加速している中で、新たなサービスメニューは逆行しているものもあるように感じる。こういう時代だからこそ、変わらなくていいものもあるのではないか。 郵政民営化は公務員の数を減らすことを目的の一つに数えていたが、そもそも郵政三事業は税金を一切使っていないし、逆に記憶では国鉄精算事業団関係か不良債権処理の際に何千億円か、郵貯特別会計から国の一般会計に繰り入れられた年があったかに記憶している。国の都合のいいときだけ郵政三事業からお金をもらい、国民にはあたかも税金を無駄遣いしている公務員の数が減るようなトリックで民営化し、結果として生活格差を増大して生活しにくい世の中にしてしまっては、何のための誰のための民営化かわからないと思う。 民営化して約1年が過ぎた今、まさに国全体の「歯車」がかみ合わなくなってきており、いろいろな分野に支障がでてきている ように感じる。	民営化そのものに対する期待はない、民営化の見直しが可能なら日本郵政公社時代がベターだと思う。 国の機関でありながら民間的な手法を取り入れて効率化を図っていくことが望ましい姿だと考える。将来必要があればユニバーサルサービスの維持に補助金を投入して、国全体に格差を生じさせないようにすべきである。 郵便局は明治以来、学校や駐在所とともになくてはならないものであり、国民共有の財産である。その国民共有の財産をいかに守り発展させてくれるのか、そこが今後国に期待するところである。	ー

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
200	三重県	（1/2） 郵政民営化の抜本的見直しを支援します。私は、郵政民営化されて以降がよい結果を生んだとは思っていない。多くの地方自治体、議会が郵政の民営化について、ユニバーサルサービスの低減を危惧し、各事業会社がサービスの低下の方向性が見受けられる面を捉え、議会として民営化否決の採決を採択したと聞く、また地方議員の多くは地域に溶け込み、全国あまねく配置されている郵便局を現存させようと反対した経緯が今更言うまでもない。 しかし、（元）小泉総理及び竹中行革担当大臣は強引に郵政民営化を推し進め、国民の信託であるかの様な発言、本当に国民の信託に答えたのか報じられている。現在両名ともその役職から逃げ、後のことは知らないそぶり、真に責任逃避の政治家であったように思えてならない。最後まで議員としての提言者として、最終的な行く末を見つめるべきである両名とも議員を辞職する、また後身に身を譲るがごとく辞任する意向を示した、責任回避と思われてもしかたない両人であるといって過言ではない。 私は、行政改革は財政面を考えれば否定的するものではないが、郵便局は独立採算であり明治から創設され、その必要性国民の利便性、貯蓄性国民生活に必要不可欠な存在として、地方においては、合併が繰り返されている金融機関も地方から撤退する今日、地域に根ざした郵便局のあり方を、国民的立場に立って将来的展望の見地からも存在価値の重要性を見直し国民生活の確保、地域の活性化を含め、抜本的な見直しが求められる。	民営化されてのメリット （1）接遇が向上した・・・あいさつが良くなった。 （2）関係会社の内容をよく理解し・・・照会してくれる。（信頼感は現存している）（安心感がある） （3）他の金融機関のように不良債権がない。（金融機関として安心感を覚える） （4）窓口が整理整頓され、スマートになった（清潔感を覚える） 以上のことから、議論の必要はあるものの、いずれにしてもメリットよりデメリットが多く国民生活にとって、安心して利用できるように、各事業会社の一本化が必要であることは間違いなく、郵便局が地方に残る唯一に残る金融機関（公共性を持った）であることを再認識し郵政事業の見直しを提言する。	国民不在の民営化は、国益にならず、国民本位の政治を期待する。
		（2/2） 民営化のデメリット （1）各事業会社が独立したことにより、郵便局での手続煩瑣になり事務が遅くなった。（金融庁指示、銀行協会からの圧力） （2）各事業会社別に問い合わせすることが必要・・・配達、貯金、保険と直接関連した業務別に照会しなければならない事案が多くなった（郵便局 （現）郵便局会社・・一社で済まなくなった） （3）利用者にとっては郵便局が一本であるかのようにみえるが、内容が各事業会社に判断のより、運営されるため郵便局で判断できない場合があり、各事業会社の相談する事例が発生している。 （4）郵便局会社は手数料収入・・・・郵便事業会社、郵便局会社（窓口会社）が多くの人員を抱え、経営的に難しい・・・・収入が少ないと思料される。将来的に経営が成り立たない・・・利益率が薄 い・・・倒産の危機がある。 （5）公共性を有した郵便局が株式に上場すれば国民 生活より株主の処遇が優位となり、国民不在の経営形態となる可能性が大であり、国民の全体の利益とならない。 （6） 銀行のような、システムが構築されていない各会社別機関が関係書類を保管しており、郵便局での原簿がない・・・時間がかかる。		

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
201	東京都	郵政事業の民営・分社化がされて一年が経ち、局員・利用者双方の様々な意見を耳にしますが、特にサービスの低下を懸念する声が多いことに驚いています。 本来ならば民営化によって迅速且つ手短に行なわれるべき一連の業務も、場合によっては従来の倍近くの時間を要してしまうと聞いています。また、ユニバーサルサービスとして全国あまねく行なわれていた集配業務も、採算重視の原理を取り入れることによって、特に地方の郵便局は人員不足やコスト面で運営に支障をきたしているようです。局員を始め、関係者の方々においては、民営化にあたって大変な努力をされたと思いますが、新しく法律が制定されてしまった今、個人の思いだけでは立ち行かなくなった事も多々あると思います。 小泉政権による郵政解散・総選挙によって民営化の是非を国民に問い、支持を得たわけですが、今現在の結果として必ずしも思い描いていたような民営化の方向へと進んでいないのが現状だと思われます。	民営化前の郵政の三事業が一体となった運営方法は、世界に例をみない日本独自の素晴らしい文化であったと思います。 しかし、分社化されてしまえば、それぞれが独立した組織として別々の運営形態をとってしまい連携をとれなくなってしまいます。ユニバーサルサービスを可能にする為に赤字の郵便局は維持しなければなりませんが、郵貯・簡保と一体化させることによってその形態を維持することができていました。 再びこれを可能とするためにも、三事業一体運営を担保する必要があると思います。 また、公的な機関として国民の財産を貯蓄し、国民の為に使用する、いわば国の行政サービスの資金調整としての役も担っていた郵貯・簡保の事業ですが、民営化され市場へと開放されてしまえば、国が使用する資金が無くなってしまいます。日本郵政が所有している株式が売却されると今後の見直しが非常に困難になるため、一旦凍結し慎重に検討を 重ねるべき問題だと思います。	小泉純一郎元総理が党内の反対を強引に押し切り、衆議院の解散総選挙にまで踏み切って郵政の民営化を推し進めた理由として考えられるのは、一つに自身が市場原理主義論者だったということ、そしてもう一つは蜜月関係にあった米国政府からの強い要望があったためだと考えられます。 小泉内閣の政策をみてみても、いわゆる米国型の資本主義をモデルにした経済への転換を計るための構造改革を行なっていたこと（例えば規制緩和や企業への税の優遇措置など）、また米国で長年経済を学んできた竹中元大臣を金融・経済分野の要職におき政策の指揮を執らせていたことから、上述のことが推測されます。 そして米国政府から日本の外務省に毎年送られてくる「年次改革要望書」には、郵政の民営化についての要望が明記されています。日本国内の事について内政干渉のような形で要望してくるということは、米国にとっても何らかの形で利益をもたらす事につながるからだと考えられます。 特に金融二社に関してのビジネス的な戦略が根底にあるのではないでしょうか。 郵政民営化の一つの本質として、こういった側面があるのもまた事実だと思います。
202	東京都	現場で働く人間として、一国民としてこの民営化は成功だった思う人は現時点で私を含め周りでは誰一人いません。現場からの視点で言えば慢性的な要因不足、過労やストレスからくる心身の病を持つ管理者や社員の増加、グルー プ会社間の連携の拙さ、それに何より一番のネックはお客様が利用しにくくなったことです。	現状ではあまり期待はありません。	早期法律の見直しに期待したいです。
203	大阪府	明治以来の大改革である郵政民営化は、国民に大きな利益をもたらす。 ①郵政公社の4機能（窓口サービス、郵便、郵便貯金、簡易保険）が有する潜在力が十分に発揮され、市場における経営の自由度の拡大を通じて良質で多様なサービスが安い料金で可能になり、国民の利便性を最大限に向上させる。 ②郵政公社に対する「見えない国民負担」が最小化され、それによって利用可能となる資源を国民経済的な観点から活用することが可能になる。 ③公的部門に流れていた資金を民間部門に流し、国民の貯蓄を経済の活性化につなげることが可能になる。 と平成16年9月10日に閣議決定され2007年 10月から民営化された。 そして1年、どうも大きな利益をもたらしているとは思われず7割が「サービス向上せず」との回答を掲載している新聞報道もある。 実際、私の住む地区の隣の地区では、郵便配達が別の区の集配局に統合された。次はこの区かとも住民の間でささやかれている。不在時の郵便物を受け取りに行くのに歩いて行けたものが車か交通機関を使わなければならなくなり利便性を最大限向上させると言っていることと逆行していると思われる。 また、定額小為替に代表される手数料の値上げ。これらの問題点やサービス低下は、民営化前から分かっていた問題なのではないか。 にもかかわらず《良質で多様なサービスが安い料金で可能》《国民の利便性を最大限に向上させる。》との閣議決定は、何を根拠に郵政民営化すれば国民に大きな利益をもたらすと判断したのか疑問だらけである。委員会では、国民に大きな利益をもたらすと判断した内容を一項目ずつ検証し、実際とどう違っていたのかをハッキリさせて改善すべきは、改革（今回の郵政改革を見ていると改悪も改革に含まれると思わざるを得ないため）でなく改善して国民に約束した大きな利益を国民にもたらしてもらいたい。	自民党内で「郵政4分社見直し検討」と新聞掲載されている。郵便局会社と郵便事業会社が統合されるのには賛成であるが、9月中間連結決算の発表においては、「郵便局と（金融2社が）関係がなくなると、郵便局自体が存立できなくなる」と総務大臣のコメントが掲載されていることから考えると統合方法は、単に経済性や効率性でなく利用者・国民の利便性を最重要課題として検討してもらいたいと思います。 先月ある地方のバスも通らない山の中へ旅行し一泊しました。そのときに地元の方達と話をする機会があり郵便局問題にも話が及び感じたことは、過疎地で金融機関としての郵便局を存続させるためには、ゆうちょ銀行の仕事を郵便配達の社員が取り扱えることにし、民営化前同様、郵便配達の社員が郵便貯金の払い戻しや預金を地域のお年寄りから預かることを可能としてもらいたいと言った内容を話しておられました。要は、物の流れと金融機能が備わっているサービスを必要としているのではないかと感じたことである。特に他に金融機関がない過疎地での廃局（休止）となれば、高齢者を抱える過疎地では、宅配業者が配達を してくれるが送金決済サービスや現金を預かってもらえる金融機関がなく生活する上で不便となる。また、自宅保管では、防犯面で問題もある。国民が利用しやすい体制は、郵便局へ行けば、或いは、郵便屋さんに頼めば、物流も金融も取り扱ってくれる体制であり、いつでも取り扱ってもらえる営業体制である。このことは、民営化がもたらす経営の自由度の拡大であり、地域にあった営業時間、地域特性にあった取り扱い業務となるように制度改正を図り民営化の最大のメリットを活かせる法改正を期待します。	郵政民営化は、サービス低下させないことと、国民生活の利便性向上が図られなければ、かつての大蔵省資金運用部が郵貯資金を財政投融資の名目で自由に使い、その借金の責任回避のため矛先を郵政民営化で誤魔化した大蔵省のための民営化とか、米国政府の「年次改革要望書」の要求や米国政府公式文書に記載の通りの米国の勧告で郵政民営化法の骨格が書き換わる等アメリカのために民営化を進めたといわれても仕方のない日本国民不在の郵政民営化としか説明がつかないものとなります。 民営化のこの1年間は、国民生活の利便性が向上したとは到底思われません。委員会のみなさんが是非とも、日本国民のための郵政民営化であることを証明していただきたいと思います。
204	宮崎県	郵便局が民営化になり、待ち時間が大変長くなり不便。おまけに為替の手数料も倍近くUPし、いいことありません。 今までは銀行よりも使い勝手が良かったが、今後は家計のメインバンクの見直しも含めて検討中！	以前のような気軽に利用できる郵便局であってほしいと思います。 それと配達も遅くなり不便！ 利用者の事を優先してた民営化を考えてほしいです。	局員さんも笑顔がなくなったような気が・・・・。
205	東京都	民営化という事で、色々な事業に無理に手を広げすぎのような気が致します。 郵政行政の根幹である、貯金・保険・郵便業務を見つめなおすべきだと考えます。 足元がしっかりしていないと、新事業の展開も困難になり、社員の士気にも影響すると思います。	金融ショックなので、お客さまは「安心」を求めると考えます。 民営化した為、国家補償はなくなりましたが。 企業努力にて国家補償にも勝るとも劣らない、「安心」を構築していくべきだと思います。	全国各地に多くの郵便局があるので、色々なデータが蓄積されていると思います。 そのデータが殆ど活用されていない気がします。 支社等で毎日得られているデータを統計的に分析解析し、有用なデータを抽出し、各地域、グループにあった施策を決定し、効率良い営業ができるような工夫が欲しいです。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
206	静岡県	1. 小泉元首相による郵政選挙と称する政治手法により、十分な議論や認識が無いまま、強引に成立したものであり、後世に及ぼす悪影響は計り知れない。(決め方の原点が誤っており、民営化の是非を問うても意味が無い) 2. 郵政会社内部にいる者でないと分からないが、会社の組織運営に問題があり、人的資源等が活用され無いため、意欲や専門性の低下により生産力が低い。	郵政事業や公的事業について、国益等の観点から冷静な評価をするべきで、政治の道具にする事は止められたい。このままでは、絵に描いたような意味の期待は持てないので、原点に戻り、専門家や経験者、有識者、利用者等々の意見を元に、納得のいく形を作る事が、最善であり、その方向に行くよう期待する。	公共性の意味をもう一度考え、更には国のあり方を考える場作りを、期待します。 官僚、公務員を一方的にたたくだけでは、良い結果が出てきません。 経済界、マスコミが大変な力を持っていますが、最高権力は国民の代表である、政治でありますから、政治に関わる方々は、高い見識で国をリードしていただきたい。 劇場型など必要ありません。
207	愛媛県	○民営化になればサービスがよくなると言っていたが、窓口での待ち時間は随分長くなるし、証明書類の提出も増えて不便になった。 ○外務の人に貯金や保険の事も頼めていたが、会社が違うということで預かってもらえなくなった。 ○パートさんが増えたのか、誤配も多くなり配達時間も以前より遅くなった。 ○郵便事業会社への電話連絡等も以前にましてつながりにくくなった。 ○手数料も高くなり良いことはない。	ー	ー
208	東京都	待ち時間が長くなった。敷居が高くなり行きづらくなった。	期待できない。国営に戻すべきである。	地域に対して利便性はなくなってしまった。
209	東京都	待ち時間が長い、手数料が高くなった。 特に50円の小為替の料金を100円とは何事か、サービスが大幅にダウンして国民の信頼を裏切っている。	安心、安全の拠点であるべき郵便局のサービスが4分社化により機能を失いつつある。早急に元に戻さないと米国の二の舞になり、金融危機を乗り越えられない。	株式の売却は直ぐに凍結すべきである。
210	青森県	国営事業として国民に親しまれてきた郵便局が民営化されて1年が過ぎました。「官から民へ」「民営化後はサービスが向上する」と鳴り物入りで実施されたが、利用者に恩恵があったでしょうか。否です。 各種料金の値上げである。100円又は200円の普通為替が420円、1枚10円だった定額小為替は100円になった。 特に貯金関係では、新規預入や、10万円以上の送金、通帳の切り替えの際、郵便局の隣に住んでいて、局長と家族ぐるみの付合いでも本人確認に必要だから健康保険証か運転免許証を見せなくてはならなくなった。隣同士であれば本人かどうか判断できるものを民営化となって「今まで通りサービスを受けられる。」という言葉は通用しなくなったとつくづく感じた。 民営化となって郵便局の良さがことごとく否定され、郵便局の利用は遠くなっている。	民営化となってからの日本郵政グループの収益はどうなのか。各種値上げ、サービス低下などによる郵便局利用者の減少で赤字経営ではないだろうか。 民営化は、利益追求主義、効率主義、採算重視の経営で、その結果職員の労働強化や郵便局利用者の最低限のサービスが切り捨てられたのではないだろうか。	民営化前、郵政事業は、郵便・貯金・保険の三事業一体で税金を一線も投入せず運営してきたはずです。 今、郵便局利用者にとって大切なのは何が必要か具体的に見直して、三事業一体の運営に戻すべきである。
211	東京都	・民営化になって、郵便物が1日以上遅れて配達される、サービスの低下を招いている。 ・ふるさと小包については、郵便局に申し込んでから、1か月以上かかって届く、改善が必要である。 ・郵便局で保険や貯金をお願いする場合、他会社になってしまったので手続きに時間がかかるし、手数料も高くなり、利用するのに不便になった。	・3事業一体に戻してもらいたい。 ・郵政民営化法の規定に従い、ゆうちょ、かんぽ、の株式が売却されれば郵政民営化見直しは困難になる。また、株式を上場にすると株を売りやすくするためのもので、株を売却するための上場では、ゆうちょ、かんぽに協力出来ない。 ・ユニバーサルの面から郵便局の仕事は三事業一体が望ましい。	・民営化になって、手続き(お客さま精査、_利用確認等)を時間をかけて仕事をして来た、労力を要し、超勤も必要としてやって来て、12月1日から、これらの手続きが軽減されるようだが、今までの手続きは何だったのか、無駄な仕事をやって来たようにしか思えない、手続き等は簡単になるのはよいが、ころころ変わらずに、先を見据えた手続き等考えて頂きたい。
212	島根県	(1/2) よく利用する郵便局で最近感ずることが2点あります。民営前には「いらっしゃいませ」の声も明るくて活気がありましたが、今は至って静かで沈んでいるようです。この間は保険の用事で順を待ちましたが、目の前で次々3人が待ち時間の長さに耐えられず帰られました。間違いをすまいというのか動作が緩慢に見え、応接体制にも疑問を感じました。 要するに士気が低下してきていると感じます。何故なのか。想像を交えて言えば、 ① 何故民営したのか社員は納得していないのだと思われます。ストを頻発させたわけでもなく、独立採算を守ってきたし、地域の評判も良かった。命ぜられるままに転換のための過酷な作業に没頭してきて、何の手ごたえも感じられない(逆に苦情を聞く)という不幸な心境にあるのだと思います。 ② 確かに、取扱料金のアップや多くの郵便局で土日の窓口を廉止したとか簡易郵便局の閉鎖が増えたとか年賀状が遅れたとか、民営後拙いことばかりで、国会答弁で良くなるとの強弁が皆裏目になっていては元気の出しようがないでしょう。 ③ 私が利用する郵便局では目立ちませんが、大きい局では会社間の仕切壁を設け日本郵政に結束すべき社員の心をバラバラにするという愚挙もやっています。	(1/2) 私は郵政三事業は公社の経営形態に戻すのが最も好ましいと思いますが、それは現実的ではありません。与党でも野党でも現状の修正を図ろうとの動きが最近報道されるようになりましたが、私も本格的な修正を加えることが必要かつ現実的だと考えます。修正に期待するのであり、民営化した欠陥部分を直して、期待の持てる民営郵政にせねばと考えます。 ① 郵政の株式処分を凍結して制度設計を見直してもらいたい 2010年には金融2社の上場がなされる予定ですが、我が国の将来に重大な禍根を残しかねないので凍結するのが適切だと考えます。株式売却が進めば私企業のように自由な経営・処分も可能で、全国ネットワークで結ぶ三事業と心の安心交流の拠点という国民の財産を瓦解消滅させる危険が大きいと思います。この財産を維持発展するための見直し規定だし、民営法の付帯決議のはずではありませんか、「対日年次改革要望書」で強く米国から要請されたとおりの民営だということや民営化準備室の会合に米国保険業界の幹部等が十数回も参加したなどのこともあり国益に関わることなので、安易に株式処分はなさるべきではありません。ことに、百年に一度という金融危機を経験しつつある局面であればなおさらです。	(1/3) 郵政民営4分社化は正当と言い難い動機と方法によって実現されたと思いますが、金融危機を含む現今の国内外の状況もまた、郵政民営を始めとする小泉・竹中改革の負の遺産の修復と、拠り所とした思想方針の大きな転換を迫ってきているのだと思います。この視点から意見を述べます。 ① 郵政民営の不幸な出生 もともと急いで民営する必要は乏しく支持する世論も僅少であったし、郵便独占からの民間解放は世界の潮流ではあったとしても先進国の失敗や困難がすでに明らかにもなっていました。それを強引に民営4分社化としてしまいました(米国の年次改革要望や党内の不当な合意形成～当時の堀内総務会長の本に詳しい、また無体な解散と意義づけ、刺客選挙等小泉劇場が手段を選ばずの悪しき先例を天下に公演して煽り以後様々な偽装などが頻発)

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
		(2/2) ④ 民営化が許諾されたころ、郵貯と簡保の資金が財政投融資に回って民間に活用されていない(かなり地方に還元されていたし、元来財務省に帰せらるべきことであるのに)民営化の主要な理由の一つとされましたが、官から民へ資金は動いたか極めて疑問、国債へ回るのが多くなっただけでは？ 小泉改革とは何だったか、ようやく議論されるようになり、町の人々は実際に接する郵便局の姿とも考えあわせて、失敗しているのではないかと思いはじめていると考えます。郵便局の士気が上がらないのも当然でしょう。財務、経営のことは1年ではよく分かりませんが見通し大変暗いと思います。 私の評価はマイナスで、ここが良くなったと喜べるものが本当に何もないのが悲しく心から残念に思います。	(2/2) ② 三事業一体の運営がなされるよう4分社の現形態を見直されたい 政府が全株保有している状況で、早急に抜本的検討をされ、将来に希望が持てる郵政にして頂くよう切望します。私の知る限り郵政事業の民営化で成功した国は皆無です。どこも郵便事業の採算に苦慮し、国費で支援したり、独占部分の解放を延期したり四苦八苦して展望を開くに至っていないと思います。米国は今も国営ではありませんか。金融の部分を切り離した国々では、末端で日常の決済も出来なくなって復活させたり手当したりでユニバーサルサービスの再構築に大変と聞きます。 無理に4分社にして何も得られたものはないと私は思っています。同じ郵便局の中を会社別に仕切壁をするのは愚かなことだし、年賀葉書の販売での郵便両社下部でのいさかいや保険販売での簡保社と郵便局社の思惑違いとか、無用の非効率を沢山生じているのではと想像しています。なにより、社員の心の絆を断ち切ったマイナスは決定的だと思います。まず、郵便2社の統合、ついで金融2社を統合して、郵便･貯金･保険のサービスを全国くまなく提供できる体制に修正をお蔵いします。このことなくして、郵政事業の財政の確保は不可能だし、将来展望も開けないと確信します。	(2/3) ② 市場原理主義の行き過ぎ 「民でできるものは民へ」とか規制緩和とか郵政民営を象徴として進められた改革の思想は市場原理主義にあったと言われます。非正規雇用の深刻な問題をはじめあらゆるところに格差が生じ、急速に大きくなって社会問題になっています。弱肉強食、弱者切り捨てに向かう改革でした。象徴とされた郵政民営は国民の大切なセーフティーネットを危うくする同じ思想方向の上で強引に進められました。米国発サブプライム金融危機は市場原理主義が行き着いた破局だったわけで、暴走を防ぐ様々な規制が今後行われる事でしょう。「蟹工船」がよく読まれるそうですが、東西冷戦の終結以来米国の独走と米国式の浸透が格差と紛争を世界に拡散し今ようやく転換を余儀なくされる事態に縫着したのだと考えます。郵政民営は、前記の思想と諸状況の中で実現されたのであり、それらが今や大きく修正、いやむしろ逆方向に向かおうとするときですから、既定路線上の修正に留まらず基底からの抜本見直しをすべきで、その上で現実との妥協策を講すべきだと思います。
				(3/3) ③公の精神を大切に 郵便局内部の状況は私たちには分かりませんが、多分民営化して公共への奉仕の心は薄れ、体制づくりと儲けることに関心が集中しているのではと思います。しかし郵政三事業は儲ける為のサービスでなく、心のこもった仕事でないと成功しないと思います。日夜地域のために尽くした旧特定郵便局長などはよい例ですが、そうした暖かい心と心の結びつきが事業への信用を高め業横を向上させてきたように私は見ていました。公益事業であることに社員が誇りを持ち、真に地域の人々のお役に立とうとEI々精進するような方針と職場づくりに努めてもらいたいと念願します。これは①②で述べてきたことと連動する精神的な側面の意見です。
213	大阪府	･利潤を追求する四つの株式会社に分割されたため、全体的にサービスが悪くなった。 ･民営化前の方が待ち時間も短く利用しやすかった。 ･民営化になって良くなった点はみつからない。(期待はずれ)	･低料金とサービス向上。 ･庶民が安心して利用できる金融機関に戻してほしい。	1年経って、民営化前の郵便局のよさが分かってきた。
214	愛知県	(結論)現在の民営化、特に分社化は早急に見直すべきだと考える。 以下は私自身が見聞きした事柄をいくつか。 1、昨年末、私は地元の郵便局へ年賀状処理のためアルバイトに行った。ある日曜日の夕方、窓口ロビーへ年賀状を取りに行ったところ、いきなり2人の方から怒鳴られた。「この手紙を速達で出したいのだが、さっきからブザーをいくら押しても返事もない。以前は夜でも受け付けてくれたのに会社になったらどういう事だ。この郵便は急ぐのに一体どうしたらいいんだ。」私は言い訳は勿論、返事もできなかった。 2、これはある「ゆうちょ銀行」の店長から聞いた話。「この間、集金に行った職員のバイクが途中でパンクしちやった。これには参ったぜ。修理店に電話したが、すぐには行けないと言うし、うちには四輪車はない。前だったら郵便課へ行って「頼む」と言えば何とかしてくれたが、今は別の会社になったんで、そんなことも出来ないし。全く惨めな話だ。結局その職員は修理屋の車が来るまで、道ばたで待ち通しさ。情けない話さ。」3、10月の中頃、「1年が経った郵政民営化の実態」という内容の番組が3日間にわたり当地方のNHKで放映された。 その一つは、集落で唯一の金融機関であった簡易郵便局が閉鎖され、町へ行くにも車に乗れない老婆の呆然とした姿が映され印象的であった。二つ目は、その日配達に持って行く郵便物の処理は、今までは局員全員で応援していたが、同じ局内でも会社が分かれたため、手出しできなくなった。このため少人数の作業になり、いつもの郵便物がいつ着くのか分からなくなってしまった様子が映されていた。	今回の民営･分社化は、スタート前の美辞麗句とは裏腹に、国民へのサービスの切り捨て、犠牲を強いた改悪以外何物でもない。国民の目から見た今の姿は「間違いであった」「失敗であった」と断言せざるを得ない。郵政の事業は長い歴史の上に成長してきた事業である。その歴史は国民生活を支えてきた歴史でもある。 本委員会の委員は、机上の論議ではなく速やかに全国を行脚し、国民の目線から映された実態を把握すべきである.その上にたって、国民一人ひとりが利便を利便として享受しうる事業への見直しを、早急に取り組むべきだと考える。	ー

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
215	長崎県	(1／2) 私は、平成〇年〇月〇〇県〇〇町〇〇郵便局長を退任し、現在〇歳になるものです。私は、昭和〇年特定郵便局長として〇〇郵便局長そして平成〇年〇月局舎新築名変更により〇〇郵便局長として〇年間郵政事業の末端の責任者として努力してきた者であります。 現在郵政事業は民営化され郵便事業会社、ゆうちょ銀行、かんぽ生命の3社に分割され郵便局は郵便局会社、郵便事業会社として運営され局内も壁を作り2分化されて運営されているところであります。 郵便事業会社の配達部門は郵便事業会社〇〇支店の責任下になり外務職員の配置、業務運行、指揮指導、外務上発したトラブル、誤配等についても一切責任を除外され、住民利用者からは局長に電話等あっても郵便局では的確な回答もできないとのことであります。郵便局の一般利用者は今でも郵便局で発生する諸問題は局長が責任者と思っているところであります。 私は、今年〇月老人クラブ活動に関する連絡事項を郵便で出しましたが、土曜日に出し〇〇郵便局区域内の〇〇市役所〇〇支所宛郵便番号も明記して自宅周辺の郵便ポストに投函し郵便が月曜日には配達されると信じていたところ、〇〇市〇〇町にある〇〇市役所から郵便が市役所に来ている旨電話があり、電話対応で事なきを得たがどのような原因で誤送達が起きたのか、〇〇郵便局の責任者外務総務主任を尋ね聞いたところ、郵便ポストに投函された郵便物は〇〇局では区分けする要員がいないため、総て〇〇郵便局に輸送している。〇〇区内宛の郵便は翌日逆送されることになっている。誤配されたことは申し訳ない旨説明があった。 人員不足で区内宛の郵便物が区域内外の区別されることなく取り扱われれば、このような事態はしばしばあっているものと思われるところであります。	郵便局は局長の指揮指導下で郵便事業、簡易保険事業、郵便貯金事業が一体となって事業展開ができるよう事業の見直しを早急に取り計ってください。局長に3事業の運営の責任と権限を与えて事業展開し住民から信頼され発展して行くことを切に期待します。 そのためには、先ず郵便局に仕切っている中仕切りの壁を取り去り、総合服務ができるように改善し見直すことを提案します。	ー
		(2／2) 私が局長時代は、局員は総て総合服務で、特に郵便が発着するときは総がかりで短時間のうちに区分け作業等して出発、発車に間に合うように努力したものです。今では郵便事業会社と称して局舎の真ん中を壁で仕切り相互応援などできない仕組みに改悪されており、人がいて人不足で業務が円滑に回らず郵便物の遅延になっているのではないかと思います。 一番不思議に思うことは、局長は郵便外務について業務運営や人員の配置、誰がいつ採用されたのかさえわからないということであり、業務の指揮権、郵便外務員の誤配等に関する是正指導もできない仕組みとなっていることである。 一般の利用者、住民は郵便局の責任者は局長にあると思い配達上の苦情も局長に電話等があるが、的確に対処できないところに問題があると思います。 また、年賀葉書やゆうパックの販売も郵便事業会社、郵便局会社に別々にノルマがあり販売に競争を負わせており郵便局で一体として取り組めばより効果が上がると思うところであります。また郵便部門を別会社としているため、色々の無駄も生じているのではないかと思います。		

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
216	福島県	私は郵便局会社に勤務しております。 民営化当初に、お客様をお待たせしてしまったことに利用者の多くの方に苦情が寄せられました。待ち時間も長くて新規の定期性貯金に2時間近くもかかるわけですから、今まで長くて5分目標の郵便局としては大きな問題になりました。また、お客様の居所及び家族構成も存じ上げているのもかかわらず正当権利者確認の書類を求めるわけですから「二度と利用しないぞ」との声もあり局前にある銀行に駆け込む利用者もありました。幸い当郵便局の近くには人口6,400人の町としては珍しく金融機関は4店舗あり選択が出来ますので、地域のお客様の利便性からすれば選択の余地があるだけ良かったのかもしれません。また、郵便局は、郵便事業会社、ゆうちょ銀行、かんぽ生命の代理店にすぎず、直接自事業の責任でお答えするのではなく取扱店の回答にもお客様は腹を立てていたようです。かなり過激な苦情もいただいており情けないばかりです。隣まちの旧集配特定局では、渉外要員が都市部の局に統合され、そこから営業に来ておりますが、統合後集金や貯金の預払いは訪問先のご家庭まで距離がありすぎるためか「お近くの郵便局へお出かけください」とのことで相当のサービスダウンになっております。元々高齢で出かけられないからお願いされているわけですから、本来のサービス向上の趣旨からは離れているのではないでしょうか。当然、利用客も減少し民営化前の80%ぐらいではないでしょうか。そのような苦情に対し改善は図っていますが、1度失った信頼の回復は相当の時間と労力を費やすこととなります。私、個人としては手数料だけで郵便局がやっていける訳がありませんし、郡部の赤字の郵便局を支え続けるだけの民間企業の理論は存在しないのですから、民営化でも株は国が持ち事業は一体化し、効率を良くし地域の方-のサービス向上に努めることが重要と考えております。	ー	ー
217	京都府	民営化以前は「国営」「郵便・貯金・保険の三事業一体経営」「身分は国家公務員」の基、全国津々浦々のネットワークによりお客様の信頼のもと130数年の歴史ある郵政事業が延々と引き継がれてきたことは誠に素晴らしいことであった。郵政事業に携わった人々の汗と涙の賜物だと私は考えるところです。しかし残念ながら昨年10月1日の「民営・分社化」以降郵便局を利用して民営化になって本当に良かったと感じることは少ない、メリットはなくデメリットが目につくと感じられます。 私の日で見て感じた事、情報等で知った事を列挙してみました。 (1)以前と異なり待ち時間が長くなった(コンプライアンス等の関係もあろうと思いますが) (2)料金の値上げ(例えば定額小為替の額面から枚数による値上げ等) (3)採算の合わない場所でのATMの撤去(学校等の中にあり非常に便利であったが) (4)郵便差出箱の収集回数の減便(一日遅れになる時があると患われる) (5)郵便物の減少・郵貯残高の減少、取り扱い件数の減少・保険新規契約の減少、保険契約件数の減少 (6)貯金預入限度額の引き上げ(現在は1000万まであるが引き上げか限度額の廃止) (7)社内・社外の防犯体制の更なる確立の塵持(ガードマン等の継続配置) (8)通常郵便物の全国同一料金制の堅持	「国営」「三事業一体」「国家公務員」に戻すことは法の下、難しい事は十分承知していますが、せめて上記1の(1)から(8)について企業の四要素である「人・物・金・情報」を総合的に考えてお客さまから信頼され喜んでいただける会社になることを多いに期待しています。	日本郵政にとって今後も「全国ユニバーサルサービスの継続」「郵便・貯金・保険の営業成績の向上」がこれからの大きな課旗になってくるように思われます。また、郵政株式売却の凍結や株式制度の見直しも大きな課題となることは必至である。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
218	岩手県	私たちの住む地域の郵便局が民営化され、集配局から無集配局となり、土・日（日曜日は午前中）取扱ってきた郵便物や小包が出来なくなり、急に小包や郵便を出す場合は5キロも離れた宅急便を利用せざるを得ない状況となり、利用者にとっても不便であり、また、郵便局離れが進む原因にもなりかねず、郵便局、そして利用者に取っても決して良い制度とは思われません。早めの見直しを図り、以前のような制度にしていただきたい。 近年、農家所得が減少して農協の統合が進んでおります。当地域の農協支所も統合せざるを得ず、本年8月よりATMのみを残し、4キロ離れた支所に統合され、金融を扱う機関は郵便局のみとなり、その郵便局も民営化によって集配局より無集配局となり、もし何らかの都合によって、廃局となった場合、5キロ離れた金融機関を利用せざるを得ません。現在は定期バスが運行されておりますが、利用客が少なく行政の補助金で何とか運行されておりますが、財政困難な県町共に補助金打切りという話しが出ており、もし運行停止ともなれば車の無い方、高齢の方々は大変な不便を強いられるのが目前に迫っております。 郵便局がもし無くなれば、地域が廃れていくような気がしてなりません。郵便局を安心して利用でき、情報交換の場となるように郵便事業の見直しをしていただきたいと願うものです。	利用者本位の簡便な方法として郵便局における郵政三事業の一体的サービスを提供できる仕組みを再構築して利便性と公共性を高めるようお願いしたい。また、職員が安心して自信を持って働けるような職場環境を作ってくださるようお願いします。	ー
219	千葉県	民営化すればすべてが良くなるといわれていたのに、民営前と比べて何が良くなったのか全く分からない。 逆に不便になった感じがする。 例として、郵便配達が遅くなったり、手続きが面倒になった。よく利用していた定額小為替も料金が高くなり、購入手続きも面倒になり、銀行のようになってしまった。働いている職員も表面上は明るいが、何やら仕事がきつくなったらしい。郵便局を民営化したことは失敗だったと云わざるを得ない。	以前のように、郵便配達の人でも貯金を扱ってくれること、地域や弱者の発展ために活動してくれることを望みます。 郵便局は、地域のオアシスです。 地元出身の局長さん職員さんが、営利目的の銀行とは異なるサービスで、地域の安心や安全のための存在であってほしい。便利さを提供するコンビニエンスストアよりも、多少不便でも、永く地域に存在する郵便局、いざという時、頼りになる郵便局であってほしい。局長さん職員さんも地域のためにもっと活動できるようにしてほしい。 そのためには、税金を使ってもよろしいと思う。	郵便局の資産が国家の財政に多少なりとも影響するのであれば、株の放出は、凍結すべきである。
220	福岡県	民営化になって手続きが複雑になり、料金等の改悪があり評価できない。	全国のネットワークを残すことと民営化になった会社が今後利益第一優先で地方の郵便局の配置を多分に見直しをするのでは無いのかと容易に想像できるので、分社化した会社を一つの会社に戻し効率の良い会社運営が出来るようになって欲しい。	銀行、証券会社、保険会社のない地方の市町村に存在する郵便局の存在意義を再度十分考慮して欲しい。
221	青森県	民営化になって多少窓口での手続きが面倒になったようです。	民営化される前と同様、またはそれ以上のサービスを期待します。	ー
222	埼玉県	時代の流れとして、民営化という形態は仕方がないと思うが分割された現在、民営化前と比べて現在はかなり郵便局がすいており、料金的にも高くなり、また、これは出来ないといわれて、何のための民営化だったのか、疑問が残る。 民営化にすれば、いいことはあると時の総理が話していたが、現在では全然違っていると思われる。	今後郵便局がなくなるのが、心配である。郵便局に行って感じることであるが、経営的に考えると厳しいのではないのだろうか。町から、郵便局が消えるのではと心配がある。	以前のままでよかったのではないか。
223	静岡県	地方の集配郵便局が民営化後、平日は9時から17時までしか開いておらず、土日は休みのため保管郵便物の受け取りに大変不便になった。受け持ちの支店のコールセンターに再配達の電話をかけてもなかなか繋がらず、ようやく繋がって時間指定しても時間に幅があり2～4時間の間お使いに出かけることも出来ない。	1、郵便局会社と郵便事業会社は1会社とする。 2、実態を見て大きめの局は以前の窓口時間に戻して欲しい。	ー
224	熊本県	民営化になったら、今よりもサービスが良くなる。 国民生活は更に向上するとの触れ込みであったが、1年を経た今、よくながめてみると、郵便局での待ち時間は以前の倍近くかかり、利用料金も上がり、不在のときは遠くの郵便局まで受け取りに行かねばならず、地方に住む私達にはよくなったことは何一つありません。 一日も早くもとの郵便局に戻してほしいものです。地方に住む年寄りには完全に失敗だと思います。	地方に住む私達からは、郵便、貯金・保険が一つの窓口で処理でき、ゆうパック、年金、保険など何でも相談に乗ってくれる以前の郵便局がほしいです。 近所の人の話では、以前の郵便局は、小さな品物などは近隣の店で買ってくれていたが、今では何にも買ってくれなくなった。 皆んな中央から送ってくるとか・・。また地域との付き合いも悪くなった。元の地域と共に栄える郵便局であってほしい。	法律どおりゆうちょ銀行、かんぽ生命が株式を売却したら、利益を求めるに一生懸命になり、地方の郵便局では採算が取れなくなるので、撤退するのではないかと心配でなりません。 車を運転できない老人にとっては、大変な問題です。 是非一日も早く安心できる郵便局にしてください。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
225	東京都	郵便局は、銀行や保険会社にはない、誰もが小額でも簡便に金融サービスの提供を受ける機関でした。 しか し、民営化となって、少ない預金をするだけでも銀行同様に厳しい注文を付けられ、手続きに時間を取られています。 国民は、別に新たな銀行が増えるよりも、これまでのように簡易な手続きで貯金ができ、保険に入ることができた、そんなサービスを受けられる郵便局の存続がなくなったことが残念でなりません。	今後、銀行や保険会社とは別に、簡易な手続きで、気軽に利用できる金融機関として、郵便局に対する特別 な法律で縛ったらどうであろうか。 現在の民営化の方法で、郵便、貯金、保険も、これまでの銀行法や保険法で縛って別会社であったのでは、郵便局の経営が行き詰っていくのは火を見るよりも明らかではないか。 三事業を一体で営む新たな民営化された金融機関＝郵便局を作るべきと考える。	ー
226	静岡県	民間企業で、郵便・貯金・保険事業を全国どのような地域にも同じサービスを提供できていることが、もっとも評価できる点である。利益を重視すれば、銀行のように非採算地域から撤退し、地方は切り捨てられるばかりである。郵政事業は、大きな社会貢献だと考える。	今のままでいくと、高い収益率を見込める貯金・保険部門は売られてしまう。どこの部門で、今の社会貢献を果たしている事業をしていくのか？期待は持てず、心配・不安ばかりである。	私達のくらしを守るため、国会で郵政見直し法案・株式凍結法案をすぐに可決できるように働いて欲しいと、強く要望する。
227	東京都	三事業の分割は思っていた以上に社内は戸惑い、お客さまへは大変なサービスの低下を招いたと思う。グル ープ会社でありながら商品説明には同意書の取得が必要であり、業務用郵便物を差し出す際の用途毎のQRコードシールの貼付や差出票の作成、郵便物の集荷の不可、電信為替の廃止、各種手数料の値上げ等々挙げ出したらきりがないほど社内は混乱し、お客さまは不満続出といった状態に陥ったことは言うまでもない。明らかに誰のためでもない民営化となったと思う。	郵政民営化関連法案を即刻見直していただき、三事業一体となった経営に戻し、株式売却を凍結させ以前と変わらないユニバーサルサービスを提供できるようにしていただきたい。	ー
228	静岡県	郵政民営化後、本人確認の書類等が大変煩雑になったほか、内務の事務処理に要する時間も長くなり、以前に比べ待ち時間が長くなったように思われる。その他、郵便の配達時間が以前より遅くなったなど、全体的に見てサービスが非常に低下したように思われる。	グループ内の会社同士の連携がうまく取られていないため、非効率の体質になっているように思われる。 例えば、年賀はがきの販売についても、郵便事業会社と郵便局会社が同じものを争って販売している。民営化は既定路線であるが、効率的運営の為にも、三事業一体の体制に改善する事が望ましいものと思われる。	民営化後の職員のモチベーションが非常に低下していると聞く。定年前に退職している者も多いようである。事業の基本は、社員、人である。社員が将来に希望が持って働けるような環境作りこそが民営化の成功に繋がるものと思われるので、配意されたい。
229	愛知県	国営の時より取扱いが細かくなったため利用しづらくなった。変わったことがあまり見受けられないので前のままでもよかったのではないかとも思う。	すべてにおいて民間企業と同じ扱いにした方が良いのではないかと思う。	不況にも負けない企業を目指してもらいたい。
230	岐阜県	そもそも郵政公社化によって、民営化論議を終結したはずが、小泉・竹中によって民営化問題の大義名分を巧みにごまかし、解散という強引な手段で強行したもので、評価に値しない。多くの国民は、各種手数料の負担増や、事業が分割されたことによる不便さにあきれている。さらに各地で簡易局の閉鎖が相次ぐなど、当初の夢のような民営化論とはあまりにかけ離れている。やはりアメリカのための民営化だったのか？	ドイツ・ニュージーランドに次ぐ大失策になる前に今のうちに手を打ちたいことは、ユニバーサル・サービスの堅持である。民間にできることは民間で結構。しかし僻地や離島の郵便局を維持することが民間にできなければ国策として残す手段を考えてほしいものだ。次に、今まで3事業を職員が1人でできていたものができない状態を解消してもらいたい。郵便局サービスの質を民営化前のレベルに引き上げる必要あり。	郵政事業は何のために、誰のために存在しているのかという原点に立ってみれば、おのずと問題は解決すると思われる。アメリカのために今まで築いてきた日本国の財産を売り払うことが国民のためになることとは到底思えない。
231	東京都	(1／2) ・昨年10月1日、郵政事業の大転換となる民営・分社化がスタート、現在までに1年強が過ぎた。営業の最前線である郵便局現場では、スタート後大混乱の中(営業、事務手続、システム等)で業務運営が行われ最初の決算を迎えた。現在はやや落着きを取り戻しているが、これまでの評価を、顧客サイド、郵政グループの観点から申し上げる。 (1)顧客サイドの観点 (ア)待ち時間の長さ、事務手続の煩わしさ等から郵便局離れが起こり、来店客数は民営・分社化前より10-20%程度は減少し、未だ戻ってきてはいないと思われる。 (イ)(A)民営・分社化に伴い、郵便・貯金・保険業務が縦割り化。外務員が訪問時、自社業務しか取扱うことが出来ずサービス機能が低下。 (B)集配局統合・簡易局閉鎖等により、1局が担当する範囲が今までより広くなり集配頻度も低下。 (C)1つの建物の中に、最大4社が同居することとなり、他社の社員は郵便局会社の窓口を手伝うことが出来ない(別会社の為)。 (ウ)「郵便鳥の全国ネットワーク維蒋」は、郵便局数そのものを減らさないこととは必ずしも一致せず、それが実際の現象面で不都合さを発生させている。 (エ)民営化後、個々の社員の応対サービス、各社の商品開発・商品機能向上において評価できる面はあるが、マイナス面が上回っている。	(1)「これまでの郵政民営化に対する評価」で述べた通り、民営化により「応対サービス、商品開発.商品機能の向上」等、個々の面ではメリットも見られるが、デメリット即ちマイナス面は分社化に伴う構造的な問題である。 (2)また、ゆうちょ銀行、かんぽ生命が上場された場合、各社の株主からは郵便局会社に払う手数料に関心が高まり、「収益性の高い郵便局店舗網とのみ取引をする」ように圧力がかかり郵便局の全国ネットワーク網維持に支障を来たしてくることが充分予想される。 (3)従って、「今後の郵便局民営化への期待」としては分社化ではなく、「三事業一体経営」としての郵政民営化を願うところである。	ー

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
		(2／2) (2)郵政グループサイドの観点 (ア)(A)民営・分社化に伴い、各社間の利益配分が大きな関心事。特に郵便局会社は、郵便事業会社、ゆうちょ銀行、かんぽ生命からの手数料が収益源であるため、手数料配分が他社と利害反する状況。郵便局会社にとっては、経営基盤が脆弱な要因となり、20/3期決算も最終利益46億円と150億円の計画比7割減となる。 (B)同じ商品をグループ各社で販売し合い、顧客を奪い合う減少が発生。例えば、年賀状は郵便事業会社、郵便局会社各々が販売し合い、郵便局会社が売れば郵便事業会社は郵便局会社に手数料を払わなければならない。一方、自社が売れば手数料を払わずに済むため、両社間では利害が反する。 (イ)ゆうちょ銀行、かんぽ生命の上場を意識し、その金融代理店である郵便局会社は「事務、システム、情報などのオペレーション」がコンプライアンスとして強く求められている。一方、郵便局会社の郵便局店舗は2-5人程度の少人数局が多い。その求められるハードルは高く、実情とは乖離しているのではないか。 (ウ)民営・分社化に伴い、システムは使いづらくなり事務手続は複雑化し、品質管理上は、反って後退しているのではないか。 (3)いずれの観点からも、民営・分社化に伴うメリットデメリットを見た場合、マイナス面が多いというのが現状の評価である。		
232	和歌山県	地方における郵便局の役割を検証した時、民営化しないほうが良かったのではないか。分社化に伴ない、現状では、地域住民へのきめ細かいサービスが出来なくなっている。今後の在り方を再検討すべきである。	三事業一体の経営に戻すべきである。貯金・保険のニ会社は2017年までに政府保有株式を全て売却することとなっているが、そうなると郵便局会社の経営は困難になる。基礎的な金融サービスを受ける手段が地方ではなくなってしまうことが危惧される。	職員は夢の持てる活き活きとした働き甲斐のある職場を望んでいると思うが、現状では不安が先に立ってやる気を失っているように感じる。
233	大阪府	甚だ好ましくない。	分社化(郵便・貯金・保険)を廃止してほしい。郵便の配達が不規則・窓口における事務対応繁雑である。各種申込用紙不足・特に特定局。	ー
234	三重県	(1／2) 民営化から1年を経過して、何が良く、何が悪くなったか。 良くなった事　電話の受け答えが少し洗練されたこと。しかし、その反面、ただ言わなければいけないと指導を受けている「かしこまりました。〇〇が承りました。」等を言っているに過ぎず、心がない。 悪くなった事 ①電信為替が出来なくなったこと。年老いた母に送金しようと思っても、通帳に送金、もしくは現金書留で送金するしかない。現金書留はいくら速達で送金しても、翌日しかつかない。電信為替であったならその日のうちに自宅に送金できた。3事業一体であったからこそ出来たサービス。サービスの低下となっている。(弱者保護になっていない。弱者排除のように感じる) ② 定額小為替の料金民営化前は料金10円であった。民営化後は100円である。50円の小為替を発行するのにも100円必要。民営化だから料金を上げなくてはやっていけないからだろう。 ③ お客様からすれば、局の様子は何ら変わらない。(ゆうちょ銀行併設局を除く)しかし、中身は今までと全然違う。例えば、代金引換郵便物の料金を郵便窓口で預かった場合、貯金窓口に振込み等の依頼をする時、時間中ならまだしも、郵便と受け取りに来るお客様は、4時を回っていらっしゃるケースが多い。そうすると、郵便収入と違う為、貯金窓口としては、仮受けしなければならず、また、仮受けしたものは翌日に仮払いしなければならず、事務効率からしても無駄である。これも、事業云々から来ていると思われるが、3事業一体なら郵便窓口で預かり、翌営業日に払い込む方法が取れる。	ゆうちょ銀行、かんぽ生命をそれぞれの事業として存続させ、その現場部門として郵便局会社があるのなら、少人数の郵便局会社の働きよい環境を作って欲しい。 まず、郵便局会社の3事業の連携。今のままでは、無駄が多すぎる。事業が分かれたのは理解できるが、チェーン店ではないのか。営利を目的としている民営化、しかし、ユニバーサルサービスは存続とは相反する。 ゆうちょ銀行、かんぽ生命を存続させる為にも、郵便局会社が元気でなければならない。ユニバーサルサービスを存続させるなら、ゆうちょ、かんぽの株式上場は、株の暴落を招く。共倒れになると懸念する。政府がよく考えて、失敗のないようにして欲しい。	このままでは、客離れがひどくなり、郵便局は経営困難に陥るだろう。国民に信頼された郵便局がなくならないように祈るばかりである。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
		(2／2) ④ 配達部門の集約化に伴い、近距離間の郵便物の配達が遅くなった。また、配達員の非正規社員の登用に伴い不勉強面、無責任面が多くなった。(私はこれだけしか言われていないという態度) ⑤ 営利を考えなくてはならない為か、カタログ小包が全般的に高くなった感がする。 ⑥ 改正事項が3事業それぞれに指示があり、それを理解実行するのには人員的にも無理がある。少人数局の事を配慮しなくては、いけないと感ずる。また、経営面でも局のコンビニ化とか言われるが、2-3人の局で、何もかもしろと言うのは無理である。 ⑦ 貯金と保険の手続きが複雑になり、事務処理に時間がかかる。正規社員であっても、民営化後お客を待たせる時間は極端に増えた。まして、非正規社員においては、手続きが出来ない状態にまでなった。つまり、客離れが進行している。 ⑧ 貯金の預入枠について民営化になったのに、どうして1000万円しか預金できないのか。いえ、預金は出来ても利息をつけない振替口座としてしか入れることが出来ないのは、おかしい。銀行になったのなら、1000万円の枠をとるべきだと考える。 以上、民営化に対する評価としては、当初政府が打ち出した夢のような民営化は、あり得ない。長島一茂演じたポストマンは民営化前の良き時代のポストマンである。過疎地ほど、その影響を受けているはずである。配達員が、年老いた方々の貯金を預かることが出来ない。郵便事業会社だから。 コンビニ化を推奨するなら、なぜ、3事業一体化を壊したのか、理解に苦しむ。		
235	鹿児島県	郵政民営化から1年が経過することとなったが、全体的に見て郵便局は非常に使い勝手が悪くなったという印象がある。それは、郵便局で郵便・貯金・保険について聞けば、何でも応えてくれたが、今では、土曜・日曜は休みとなり、書留やレタックスは引き受けてもらえずに冠婚葬祭では、非常に困ることとなった。 少なくとも、旧市町村に1局は土日には、窓口が開いてて欲しいものである。そうすることで、貯金・保険についても、翌営業日には自宅まで来てくれるなどお願いが出来たのである。 郵便局は庶民金融であり、お金持ちだけの利用者ばかりではないと思う。小学校のこども貯金などが廃止され、中学校での自転車や制服代などに充当するためには、非常に有効な利用手段であった。	民営化されて敷居が高くなるようでは困るが、庶民金融であり、地方の唯一の金融機関であることから、絶対に無くならないようにしてほしい。民間になって、印紙代や取扱手数料が高くなるのは、庶民への課税と同じことと思えるので、安くなり、利用しやすくなるようにしてほしい。	―
236	福岡県	評価は全くゼロ。 何の為に分割(郵便・貯金・保険・窓口)したのか。経営がうまくいくはずがない。民営化そのものについては、それはそれで良いが、民営化のやり方が良くない。 今の状況であれば以前のままが非常に良い。以前のままで国営のマイナス面を改善すべきであった。最近ポストの取り集め回数減、郵便の誤配達、遅延が頻発している。管理運営が出来ていない。	分割民営ではなく、郵便、ゆうちょ銀行、かんぽ保険、郵便局(窓口)、それぞれの会社を一本にまとめて経営すべきと思います。一つの局舎内に四つの会社が存在し、経営が別々、管理運営も完全に独立、別々とは全くおかしな会社群だ。一般の国民には分からない状態です。	―
237	福岡県	郵便局の現場は大変苦悩している。公社の時代と比べて仕事は煩雑になり、利用者の待ち時間は長くなり、利用者は減少している。現状は当初の目的とされた「お客様のサービスの向上」とは、逆方向に進んでいる。	3事業の一体的経営。サービスの低下の原因となっている「郵便事業会社」と「郵便局会社」を早急統合し、「ゆうちょ銀行」及「かんぽ生命」の3事業の一体的経営とすること。	―
238	福岡県	民営化になって特に感じることは、窓口での待ち時間が長くなったことである。これは無用のチェックが多すぎるためと考えられる。サービスとは早く正確に行うのが筋と思うが、家族構成まで知っている局員が身分証明書まで求める。また、郵便局が独立採算でやってこれたのは、1つの屋根の下で三事業が共助共援しながらやれたためである。少なくとも郵便局会社と郵便事業会社は統合すべきである。お客さんはいつまでも、別々の会社とは思わない。	株式を一般に売却すれば、日本最大の財産であるゆうちょ・かんぽはアメリカの大資本等に買収され、やがてはアメリカの言うなりにならざるを得ない。日本はこれで良いのか。牛の餌までアメリカに握られ、倒産している日本の牧場と同じ結果になる事は必至である。	全国津々浦々まで張り巡らされた店舗網、オンライン網は日本の財産として国が管理し、活用すべきであると思う。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
239	福岡県	私たちの生活の中で、通信手段（郵便）、生活の手段（貯金）、生活の補助手段として深く根付き、指示された郵便局が、今は大手のスーパーやコンビニの一店舗のように変わりつつあるように思えます。次から次へ新しい商品や取り扱いが増え、職員の戸惑いも多く見られ、サービスダウンも良いところです。従来の三つの部門の充実こそ私たちの望む地域の郵便局です。見直し見直しとか政争の道具にしてほしくないです。	情報部門の基本に立った下駄履きで行ける地域の郵便局としての更なる発展を希望します。金儲け主義の商売はスーパーやコンビニに任せておけばよい。	ー
240	埼玉県	地域の自治会をはじめ、3つの任意団体の地域活動をお預かりする者としても、個人としても郵便局を利用しているが、民営化前を知る者として諸々の角度から考察するも、貴委員会が期待していると思われる「評価」に値するものは全くない。	現状では、「期待できない」、期待する気持ちになれない。経営者とすれば利益の期待できない地方の郵便局を廃止するのは当然、地域住民は不安ばかり。	・自らの体験や地域の反応、仕事にかかわる職員の反応を総合的に分析すると、民営化は郵便局職員の意欲低下と将来展望に不安をまねき、利用者からすると取り扱いの繁雑さや非効率ばかりが見える、国営に戻すのは困難としても、3事業1体の経営にして郵便局利用者の至便性や従来の安心感を与えよ。旧特定局は、局舎内の間仕切りがないだけ利用しやすいのが救われる。支店は、ほとんど利用しなくなった、特に間仕切りが目障り。 ・郵便配達員の資質の低下（個人差あり）−自宅の郵便受け箱下の路上−「郵便物の把束ひも」（保管している）や吸殻を置いていくのか、捨てるのか、10月・11月は特に多い。誤配達の増加（事業の改善にはならないが、気心豊な地、お互いに正確なあて先へ届け合っている）、捨て台詞。−以前は、庭先で配達員への謝意や声かけもできたが、今は皆無。
241	静岡県	民営化後の郵政事業の状況は、民営化以前の三事業一体経営の当時から見ますと、全く残念ながら評価すべき事項はない。 郵便局利用者の一員として見ると、郵便局内の職員の連携もなくなり、事業別に別会社社員となったため、冷たい職場になったように見える。又、郵便局（簡易局を含む。）の廃止等により、特に過疎地の見捨て等看過できません。	いまさら国営化、公社化へ戻せとは言いませんが、少なくとも民営化のままでも三事業一体の事業経営へ戻すべきと思います。そうなれば同じ建物の中の郵政関連企業の社員同士の連携も良くなり、以前の親しみの持てる郵便局に戻ると思います。その為に郵政関連会社の株の売却を止め、山奥の僻地までトータル経営で身近な親しまれる郵便局に戻すよう期待します。	民営化になって郵便の輸送経路も遠回り等不合理な運送となり、以前より郵便が遅くなったところもあります。運送経路も以前の合理的運送路線に戻し、効率化すべきと思います。
242	福岡県	①利用者の利便性は著しく低下したことが挙げられる。 ア　事業間の連携が民営化によって遮断されてしまった。 イ　ポストの取集回数が半減してしまった。 ウ　同一の建物（郵便局）の中にあって、郵便物の取扱いが郵便事業会社と郵便局会社との窓口が分かれ、繁雑になり時間が大幅に遅れるようになった。 エ　郵便局と地域住民との間に大きな隙間が出来たこと。（地域の便利屋敵存在が失われた。） 以上のようなことから評価については大きなマイナス。国民国家にとって。	①　利用者の利便性向上を図るためには、郵便事業会社と郵便局会社の一体化を早急に実現されることが望ましい。 ②　店舗（専門店）の増設を行う。（民営化により窓口が消滅しているのか調査） ③　地域の文化としての存在を高める施設の活用を図る。（会議室、コミュニティー室等の地域住民への貸与を図る。）	①　国民の利益の積み重ねが国益でもある。国民のための改革は推進すべきと思う。改革は一利あっても百害あってはならない。改革は国益が優先すべきで、一政治家のものであっては国民の支持は実現しないどころか郵政民営化による負の遺産ではないでしょうか。 ②　民営化見直し論は堂々と議論されるべきと考えます。
243	愛知県	私が直接利用している、郵便局会社、郵便事業会社の職員は、親切・丁寧な応対振りで非常に好感を持っている。 然し、郵便局会社の場合、事務処理で利用者に証明資料の提出あるいは提示を求めるケースが多くなっている。また、郵便事業会社の場合、支店は近くになく遠く離れた所に所在しているため、不在配達郵便物の再配達をお願いするのも、市外電話によらなければならず、さらに、民営化前には土、日、祝日でも、自転車か徒歩で近くにある集配郵便局に赴き、郵便物の受付・交付が出来て便利でしたが、現在は、土、日、祝日の郵便物の受付は遠く離れた支店まで、乗用車や電車を利用して赴かなければならず、とても不便を強いられているのが実情である。 特殊切手も郵便事業会社で発売していないものがある。等、郵政民営化に対する評価としては、組織としてのサービスは、民営化前よりはかなり低下していると感じている。	第一に期待したのは、郵便・貯金・保険の3事業が一体になって運営され、従前のように郵便局に行けば、全ての用件が処理可能となること。 第二は、必要以上に証明資料の提出・提示を求めないようにすること。	現在、郵政事業は4分社化して運営されているが、私たちの住んでいる地方では、郵便局がなくてはならない施設です。郵便局会社は、他の3社からの委託料で運営されており、将来ゆうちょ銀行・かんぽ生命が上場し、株を売却され、完全民間会社になった際、利のない郵便局会社に委託をしないことが考えられる。郵便局会社がなくならないようにしてほしい。委員の方は国民の意見を聞くだけではなく、地方に自ら赴き住民の声を聴取し、さらに地方の実態を自ら具に調査され、見直しの判断の資料にされることを願います。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
244	三重県	（1／2） 郵政民営化法に定める初の見直し時期を明年3月に迎えるに際し、以下のとおり意見を提出します。 高齢化、過疎化の進む地域社会の中で、民間会社では到底できないような国営あるいは公社として郵便局の果たす役割は大変大きいものがありました。全国の郵便局数24,600局の約7割が赤字経営で苦しみながらも、郵政三事業全体で黒字経営に収支を維持し、「公」の立場でしかできない郵政事業として地域に密着して住民から厚い信頼を得ることを唯一最大の経営資源として地域に馴染んできました。 民営化後は、集配局の無集配局化により、土曜・日曜日の郵便窓口閉鎖や利用の少ないATM機の撤去、さらには貯金定額小為替手数料値上げ、ボランティア貯金の廃止、郵便配達途中での引き受け禁止、簡易局の取扱手数料低減に伴う窓口業務閉鏡の激増など、利用者の不便も一向にお構いなくサービス低下の一途をたどっているように思われます。 窓口での待ち時間も、特に普通局だった大局では1時間待ちは当たり前です。人員配置に正社員の欠員後輪充はほとんど無く、不慣れな非常勤勤務者が対応に追われ、窓口業務が混乱するのも無理からぬこととて、果たしてこれが働きがいのある職場なのだろうかと部外者ながら気の毒に思う次第です。今はまだどこの郵便局でも貯金業務や保険業務が取扱いされていることが当たり前ですが、そのうち株式が売却されて完全に民営になれば、株主のための利潤追求が優先され、利益の上がらない郵便局には業務委託をやめるだろうことはあり得ると考えます。となると、いずれ近い将来には貯金業務あるいは保険業務を行えない郵便局が出現して一定の範囲まで拡大する恐れが多分にあると思えてならないのです。	ー	ー
		（2／2） 商法上の一般会社にユニバーサルサービスを義務づけることはできないわけですから、貯金を扱わない郵便局を持つ地方、過疎地域のお年寄りは年金をどこで受け取れば良いのでしょうか。これはまさに弱者いじめの何ものでもないと思います。 近年予想される株式の売却は当然凍結すべきものであります。外資系会社による株式の買収の危険から貯金と保険を守ることが過疎地の弱者の生活を守ることにつながります。つまり、短期間で最大の利益を得ようとする外資系会社は投資した株式の業績を上げさせておいて高止まりで株式を手放す、会社の将来のことなど知らない、どうでも良いことです。 これは郵便局会社と郵便事業会社の連携だけでは押し寄せる大波を乗り切ることはできません。これを防ぐにはゆうちょ銀行もかんぽ生命も三事業が一体でなければ太刀打ちできません。 グループ全体で利益を上げるためにも株式の売却を阻止すべきです。この先、民営化後のメリットとデメリットをはっきりと国民の前に明らかにして何が国益なのかを核にして制度を見直して欲しいと思います。局長と職員とが二人きりで地域の公共三事業を支えてきた、そんな過疎の郵便局こそもっとも効率的な経営であろうかと患います。政治の過ちを修正する大きな勇気を期待しております。		
245	宮城県	郵便事業会社と郵便局会社は合併すべきである。お客さまから郵便局を見た場合、従来からの郵便局と思い、小包の集荷の依頼を受け、会社が別なもので取り扱いが出来ないと断りを入れるとお客様から強烈な苦情を言われ困っておる。又、年賀はがきの件でも郵便事業会社では絵入りはがきは売り切れの情報を出し、郵便局会社では在庫が沢山あるのに困惑している。横の情報連絡が全くない。次に郵便局会社の経営についてである。厳格なコンプライアンス対応を主にして各局に取扱事故のペナルティーを重く課し、このため職員は取扱量の少ない局を希望し、ペナルティーを受けないよう勤労意欲の欠如が著しい。管理者も取扱量の多い局は事故発生率も高く、その発生率により、管理職の評価もされるので、上記のような考えに立ってしまう。営業より業務では事業の将来性は萎む一方であり、営業を主にした事業をやらなければ将来性は見込めない。	ー	ー

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
246	岐阜県	かつて、三事業一体であった郵便局は地域から親しまれ、銀行にはない人情味のある金融機関であった。ところが、民営化後は分社化の原因で、郵便配達に貯金通帳を預けることはできないし、町の小さな郵便局は小包の集荷もきてくれない。民営化で国民にとって便利になるはずの郵便局が逆に不便になってしまった。	まずは民営化の見直しを行うべきである。ゆうちょ銀行、かんぽ生命のユニバーサルサービスの義務付けや、ゆうちょ銀行とかんぽ生命の株が100%外に売られてしまわないよう、見直しを行っていただきたい。	今後、郵政事業が広く国民に利用されるためには、従前のような三事業一体の経営が望ましい。ゆうちょ銀行、かんぽ生命の株式を全株市場で売却することになれば、地方の郵便局は必ず閉鎖に追い込まれます。それを防ぐためにも国会においては、株式売却凍結法案を可決し、一刻も早く健全なかたちの郵政事業に戻していただきたい。全国に20万人近くいる郵政社員はみな勤勉で誠実である。分社化によってそれまで培ってきた金融知識を活かせない状況になった社員もいます。将来に不安を感じ後を去った社員もいると聞きます。経営状態ではなく、政治によって国家公務員の身分を一方的に剥奪されても、それでも未だひたむきに誠実に働く郵政の社員に対して、政治やマスコミはもっと目や耳を傾けるべきではないでしょうか。
247	鹿児島県	・過疎地域の郵便局の減少、簡易郵便局の開銀、ATMの撤去など利用者を無視し、不便にするだけの民営化ではないかと思う。 ・民営化によりもう少し融通がきくかと思ったが変わっていなし、むしろ4分社化にされたことにより仕組みがわかりづらくなっている。 ・郵便事業のサービスが悪くなってきている。配達回数の減少、郵便物の誤配・不着など民営化前に比べて進歩が全く見られない。 ・窓口社員の減少により、窓口での待ち時間が多くなり、さらに窓口での事務処理が複雑化しており利用者の不便さが非常に感じられる。 以上のように、民営化により利用者にとってよいメリットはほとんどなく、民営化しなかったほうがよかったのではないかと思います。	ー	ー
248	兵庫県	(1/2) (1)評価出来る点 ア　従来の郵政事業の経営形態についても、自らの収入で収支決算を行っていた訳であるから、株式会社化に伴い改めて全社員、幹部社員が貸借対照表・損益計算書など財務諸表に常にコミットする体制になった事は、経営責任者としての自覚がさらに高まった事と考えている。 イ　法律に縛られる事なく、小回りが利く会社運営ができるようになった事は評価出来る。 (2)評価出来ない点 ア　サービスの低下が目立つ (例) 1 配達に来た郵便配達員に、従来から担当して貰っている貯金担当者の来訪を依頼したが、「会社が違うので出来ません」と素っ気ない返事。よく考えれば正論ではあるが…。また、アルバイトの配達員が多くなり、最近当地方で配達郵便物が多くて捌ききれず、自宅に持ち帰り隠匿していたケースがTVで報道された。経営努力の一環としては、アルバイト活用のすべてを否定するものではないが、バランスのとれた業務運行が望まれる。 (例) 2 郵便局の統廃合に伴う拠点局の減少により、筆者宅の郵便物配達が午後2時～3時となった。(従来は午前10時30分頃)…会社経営者などは業務に影響がある筈。 (例) 3 筆者宅最寄りの郵便局での窓口待ち時間が、従来より平均約15分-20分ほど長くなった。急いでいる際はいらだちさえ感じる。	(1) 会社化したからと言って「利潤追求ありき」ではなく、国民利用者の利便性を考慮したグローバルな会社運営を行うため、郵便局会社と郵便事業会社の合併を視野に入れて一貫性のある普遍的なサービスができる組織に改めると共に郵便・貯金・保険の三事業が一体として推進できる体制にすべきではないか。 (2) 日本郵政会社は、ゆうちょ銀行・かんぽ生命保険の株式を少なくとも半分以上は保有し、健全な会社運営が保てるよう是非考究すべきである。	法によって3年毎の見直しが定められているのであるから、ひと先ずスタートして「走りながら見直すところは見直して行こう」という発想に基づくものと考えている。従って、一定期間を経て評価・反省をする中で見直すべき客観的事実が判明すれば、「国民利用者の利便性」を基本として「歪みを改めるにはばかることなかれ」という視点で、上記2(1)・(2)について見直しに反映されるよう意見として提言する。
		(2/2) イ　その他 (例) 1 郵便局窓口に行けば同じカウンターで、間仕切りがしてあり、郵便・貯金・保険の関係社員は一切係わり合わない。それぞれ別会社の社員であるから当然といえば当然ではあるが、いかにも滑稽である。 (例) 2 元通りの国営の復活をことさらに唱えるものではないが、事業内容に照らしサービスの普遍性を視点においた会社経営が必要ではないか。特に、離島・山間地や過疎地などのサービス網が深刻化していると聞く。Y新聞によると過疎地の簡易郵便局の一時閉鎖(平成20年8月末現在で433局)による生活環境の悪化が広まっていると報道されている。		

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
249	山形県	（1／2） 郵政民営化実施から1年が経過したわけですが、私は一利用者の立場から申し上げたいと思います。まず各種取扱手数料の値上げです。定額小為替・普通為替等ほとんど値上げとなっているのです。一部、郵便振替の高額の払い込みで安くなるそうですが、こんなに値上げされたのでは何のための民営化だったのか評価することは出来ません。 ゆうパックについても〇〇フルーツの会、〇〇ゆうパックの会等団体で差出していたものを団体を認めないことによる実質値上げとなっているのです。それによって通常郵便物も含め、〇〇、〇〇、〇〇等の会社に取られているのが実情です。当〇〇市においても〇〇郵便局の配達業務の廃止。市役所前のATMの撤去が行われた。数年前、市職員の給与預入導入のため、市役所前にATMを設置することを条件にして行ったと聞いていますが、そんなことは反故にして撤去してしまったのです。窓口における待ち時間の増加、任意団体の貯金通帳で規約・会則等がない〇〇同級会・〇〇趣味の会等の通帳は使用できなくなり、銀行・農協の金融機関に変更したと友人が言っています。同じ金融機関としてどうなっているのか疑問に思っているところであります。 民間宅配便に押されて赤字体質が続いているとされる郵便、民営化された後、全国一律サービス義務はあっても市場原理に従って、赤字を出すと措置がなし崩しに冷遇されることにならないのか。	ー	ー
		（2／2） 「民で出来ることは民で」小泉さんの好きな言葉ですが郵政民営化の動機が大変不純です。アメリカが毎年日本に突きつけてくる年次改革要望書なる日本改造プログラム、アメリカの国益追及だといわれています。こんな動機不純な郵政民営化であってはなりません。当時の自民党執行部は反対する議員に役職停止とか選挙での公認見送りなどの脅しまがいの締め付けで強引に可決し、政治家が自分の意見を通せず、党の決定には何が何でも従わせるという自民党の姿勢にも驚きました。政策論争など無く、賛成か反対か刺客として新人候補を次々を立てて小泉チルドレンなる者は多数当選しましたが、一票一票の全国集計では反対が51%もあったのです。49%の意見で国民の望まない民営化が実施されてしまったのです。小選挙区では死票が多くなり問題です。改革すべきは郵政民営化ではなく財投改革こそすべきだったのではないですか。財政投融資から借り手企業、特殊法人こそが改革の目玉だったのではないのか。郵政改革をやることで国民に「財投問題は終わった」と錯覚させてしまうことです。本気で財政を再建する気があるのでしょうか。 　さて、現実問題として郵便局会社と郵便事業会社を合併すべきではないかと思っています。同じ窓口であったものを間仕切りして大変な無駄遣いと思っています。同じ郵便という業務をやっているのであり、同一会社で何にも問題ありません。当〇〇市では6月にサクランボ繁忙となり集荷作業もありますが、窓口会社の職員が引受作業をし、個数を確認し、郵便事業会社の方に引継ぎ、運送の作業を担当しているのが普通ですが、これ等も同一農家に二人も訪問するのはムダなような気がします。民間宅配便に押され気味の今こそ郵便局会社と郵便事業会社は合併し、団結して事業を守るべきです。		

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
250	青森県	私は、週3回ぐらいの頻度で利用している者ですが、大変利用しづらい不便な郵便局になったことを毎日感じている。その理由として次のことを挙げることができる。 (1) 待ち時間が長くなったこと、特に郵便、貯金、保険を一緒こ利用しようとすれば待ち時間が極端に長くなったこと。 (2) 毎日利用している顔見知りの人間に対して、証明書の提出を求めるなど、地域とのつながりが希薄となり、働いている窓口職員にも殆んどゆとりが感じられなくなったこと。 (3) 当地域は過疎化が進み、生活に関する決済等は郵便局に頼るしかなく、従前は郵便配達員さんから郵便、貯金、保険一切の用を足してもらえたが、現在はそれが不可能な状況である。 (4) 利用料金が値上げされ、いつも利用していた定額小為着の制度が改悪、廃止されるなど人気商品、制度が民営化によりどんどん失われ、悪くなっていくのが残念である。 (5) 民営化により、小さな田舎の郵便局の窓口が二つに区切られるなど、従来コミュニティの場ともなっていた場所が失われた気がして残念である。	このままだと過疎地での公共サービスがどんどん低下していくことが心配され、でき得れば早急に元の郵便局に戻してもらいたいと思う。	郵便局は、もっと良くなる、利用し易くなるとの政府のふれこみであったが、今は裏切られた思いである。
251	秋田県	・郵便不在時の面倒さ。 ・各種手数料の大幅値上げ。 ・積立貯金廃止等などサービスが向上するどころか低下 しているように思える。 年賀はがきや貯金の勧誘には、郵便事業会社、ゆうちょ銀行、郵便局の外交員と窓口社員と旧郵便局の社員間だけでの競争にしか見えない。 単なる縄張り争いだけでは民営化の意味が全くない。ゆうちょ銀行とかんぽ生命は郵便局会社に委託しているはずであるが意味がわからない。 委託するなら直営店は廃止すべき。 民営化の評価は失敗に思える。収益はある程度評価されてもいいかもしれないが、公社時代の収益と比較すると、激減しているし、収益が50%国に納めていたものと、今の法人税を比較しても、国にとっても相当なマイナスになっているため評価できない。 ただし、今年度の法人税収が1兆9千億といわれているが、そのうち約4千億が郵政グループのようなので、経営陣と社員はとてもよくやっていると思う。(特にゆうちょ銀行とかんぽ生命は大幅赤字も多い中、この収益は一定の評価に値する。)	以前の三事業一体に戻した上で民営化をすべきではないか。昨年度後期、今年度中間決算を拝見したが、グループ全体での収益はかなり高い。 三事業一体化にしたほうが、管理部門の人員削減等効率化が図られるだろう。また、民営化されたといっても公共性は銀行等とは異なり高く、今問題となっている社会保険庁の年金部門や、旧住宅金融公庫のローン部門を統合することで新たなビジネスモデルが構築されるのではないか。 採算で考えると、例えば公立総合病院と同様廃止せざるを得ない部門も出てくる。金融での利益で他事業 (特に郵便部門)への補完できるなら、税金で補完しなくてよい制度の方が絶対によい。	米国発の金融危機に鑑み、米国の資本主義は発展途上の市場を活性化させ、売買を煽り、一部の初期投資家が莫大な儲けをすることが証明された。 投資の餌になるためのゆうちょマネーとかんぽマネーに思える。民営化は誰のためになったのかと考えたら国民、国家、従業員…誰のためにもなっていない。結局は米国 の一部の富裕層のためだけのものになるのだろう。 郵政株は分割して売却するより、三事業一体化に戻し た上で企業価値を高め売却すべき。そしてその売却益は国の借金返済にのみ充てるようにすれば、国や国民のためになるし、会社の社員も納得できることだろう。
252	東京都	民営化以後、現場は非常に混乱しており、公共機関と しての役割は果たせておりません。それは私どもの努力が足りないのでしょうか？ 政治が郵政の形態を変えました。しかしお客様(日本国民の皆様)の意識は以前のままです。不便になった、とのお叱りを受ける毎日が続いています。	郵政のネットワークは国民の皆様のライフラインであるとの気持ちで仕事をしております。しかし、分社化によって非効率な仕事を強いられ、とても民営化でサービスが良くなるなどどの公約が守られるとの実感はまったくありません。	一民間企業として、利益重視にならざるの得えないのは当たり前の話で、先の中間決算で示されたように、金融2社のみが順調なだけの会社組織で、ユニバーサルサービスが国民の皆様に提供できるはずは無いと危惧しております。 出来る事で有れば、諸外国でことごとく失敗したことの真似などせずに、軌道修正をし、切捨ての世の中でなく、基本的人権を尊重した世の中を作って行きたいと思います。
253	愛知県	小泉元総理等は民営化すればより良いサービスが出来、経営効率も良くなると言われましたが、誰もがサービスダウンしたことはあっても、これぞ民営化して良かったと思う人は一人もいないではないかと思います。 窓口での本人確認等でお客様を待たせることになり苦情もたくさん出てサービスダウンになっているのが実情です。以前は面識と言う制度で担当者がよく知っている人であれば面識と書き担当者印を押印するだけですみ窓口でのトラブルはありませんでした。そういう制度を継続するか、また、復活採用すべきです。郵政三事業が黒字にもかかわらず、四分社化され経営効率がうまく行くわけありません。 小泉元総理が過疎地や山間僻地でもサービスダウンはさせないと言われたにもかかわらず現実は統廃合により廃局となったり集配特定局が無集配局になり、書留一通の不在通知でも往復40キロもかけて配達をしなければならないとの実情です。これでは不経済です。会社も四つに分かれお互いに共助共援も出来ません。全国津々浦々までもあまねく公平にサービスを提供すべきですが、皆さんはどう思われますか、回答して欲しいです。	郵政事業を四分社化した事により経営効率が悪く発展が乏しいし期待できない。 また、儲からない過疎地や山間地の郵便局が廃局となり国民に対してあまねく公平が出来なくなる。 郵政事業は民営でも以前どおり三事業一体に戻すべきである。また、郵貯資金と簡保資金を小泉元総理と竹中大臣がブッシュアメリカ大統領に云われたのかどうかわかりませんがアメリカに売ろうとしたとか！ ゆうちょ銀行の株とかんぽ生命の株を発売すればアメリカが大手に引き受け経営権が危ぶまれる！	(1／2) 1・特殊法人について、見直されているとは思いますが、天下り人事はすべきでなく、その人たちの待遇も一般の再雇用者と比べあまりにも隔たりすぎている。郵貯の資金が豊富にあるので特殊法人に流用されるのはもっての外である。 2・○○郵便局について昭和○年頃○○市○○局から地下鉄○○駅に高層ビルを造る予定だからその前段でATM自動支払機を設置してはどうかと言われましたので、郵政局へ上申しましたところだめだと返事をいただきました。平成12年ごろ局舎立替の話が出てきたので、○○市○○局へ行きその話をしたところ近く地下鉄○○駅に駐輪場を造る計画があると言われましたので、将来のためには地下鉄○○駅の方へ移転したほうが良いと思い郵政局に伺い尋ねましたところそんな良いところはだめだと言われショックを受けました。 しかし、どうしても将来の発展と地域のお客様の要望もあり再三にわたってお願い折衝いたしましたが、期間が延びて一般公募になりようやく郵政から承認をいただきました。そのため家賃も5割り増しになり保証金まで出すことになってしまいました。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
				（2／2） （1）平成〇年〇月開局以来大繁盛しお客様を最高４８人待ちまでになり定員5名では処理できず現局長が郵政局へ増員をお願いいたしました。郵政局からも実態調査にみえましたが非常勤でお願いしたいと言われ雇用し続けておりましたがあまりにも混むのでお客様は他の銀行へ移ってしまいました。また、最近非常に混むようになり増員しなければ職員のサービス超勤が増えます。それでよいのか！労働基準局から実態調査にこられたら大変なことになると思います。 （2）〇〇郵便局は地下鉄〇〇駅前にあり駐車場も6台あり（郵便局は4台）共用し、〇〇駅前商店街でもあります。しかし、経費面で駐車場も1台分しか認められず後3台分と管理費合計8万7千円は自腹を切っております。まさに公私混同させられています。それに街路灯費用（月額5，000円）も認められず毎月の商店街費（2，000円）も自己負担されています。また、民間の金融機関ではお得意様に慶弔費も経費から出せますが郵便局からは出せません。こんなことでよいでしょうか。 3・民営化になっても郵便貯金の総額制限が厳しく言われますどうしてですか！他の金融機関では預金すれば歓迎されます。 4・郵貯資金について地方自治体で健全運営されているにもかかわらず赤字を出しているところに活用すべきである。また、民間を活性化させるならその方向について検討すべきである。
254	三重県	評価できない。 「不便になった！」の一言。郵便の配達についても、わざわざ遠い所まで連絡しないといけない。 これまでのように、郵便配達・貯金・保険の話がスムーズに出来ない。	やはり、三事業一体での経営が望ましい。全国どこへ行っても、気軽に利用できる、三事業一体の便利な郵便局にしてほしい。日本国民の大きな財産である郵便局を解体・切り売 りするのは、再考してほしいと思います。	郵政民営化の理由が分からない。 税金を使って経営していたわけではない、と聞いている。 赤字でもない。民営化をやめるのは、今更難しいと思うが、せめて、3事業一体に・・・。
255	東京都	お客さまが、不便になった事は間違いありません。お客さまは、会社が分かれた事を理解しておりません。 私達社員も、民分化の為手数料収入の会社になりモチベーションがあがりません。今までの「郵便局」を全否定された気分であります。会社間では商品の奪い合い。今までの様、三事業一体の経営が望ましいと思います。	お客さま・社員等の意見を聞き入れまともな体制を望みます。	郵便局株式会社の社員であります。
256	広島県	小泉元首相は「民営化してもサービスは低下しない。郵便局も無くならない。」といって選挙を行い、圧倒的な支持を集め自民党が勝利したが、実際のところ、住民にとっては不都合なことばかり発生してきた。 「年賀はがきを買ってくれ」と配達のバイトさんから言われて、購入したはいいが、翌週お世話になっている保険担当の人からも買ってほしいと言われ、会社が違うから競争して売っていることを知った。年賀はがきは家まで持ってきてくれるのだが、普通の通常はがきや切手は持参できないらしい。差し出す手紙も持って帰られないと聞いた。同じ建物に帰局するはずなのに何故取り扱えないのか。 また、郵便局の窓口に座っている社員の人から笑顔が消えた。いつも行く顔馴染みの郵便局でさえ毎回免許証の提示を求められる。いつも誰かの顔色を伺いながらの対応は、違和感を覚える。誰のために仕事をしてらっしゃるんだろう。 近くの局では外務員がいなくなり、今後は遠くの局から出向くらしい。地域に貢献する郵便局はどこへ行ったのか。	株式の完全売却は国内資産の海外流出に繋がるので反対。 持株会社は存続させる価値がある。三事業一体の運営については、金融部門の切り離し回避も含め、検討していく必要がある。 郵便会社と局会社だけでは、経営基盤が脆弱なうえ、共倒れになる可能性が高い。国営に戻すのではなく、 運営・経営しやすい民営化のあり方を検討いただきたい。	衆議院の解散・総選挙により国民の信を問うべき。 早期解散を望む。
257	山口県	各会社共に、まずは利益を挙げることに重点が置かれお客様サービスや地域対策がなおざりにされている。 たとえば、 ◎窓口での待ち時間が長くなった。 ◎郵便集配作業のパート化で誤配など品質が低下。 ◎各事業間の共助共援ができない。 等々でお客様離れが顕著である。 もっと国民的議論、コンセンサスが必要であり、結果として、民営化は性急過ぎたと評価する。	最低限、次のとおり見直しを行う。 ◎　郵便会社と郵便局会社は統合する。 ◎　ゆうちょ銀行とかんぽ生命の両会社の業務を郵便局会社に委託することを法律で担保する。 ◎　郵政関係各社の株式の半数以上を国が保有する。 等々の対策によって、国民生活の基本的インフラが国民に安定・安心・平等に提供されることを期待する。	◎ 可能であれば、公社に戻すべきである。 ◎ 株式の上場は慎重にするべきである。上場にはメリット・デメリットがある。むやみに、市場にさらすのはいかがなものか。現に、上場していない優良な大企業は存在する。 ◎　職員の誇りと意欲を高めるような、方向づけが喫緊に求められる。
258	東京都	電信為替の利用ができなくなり、会社が違うと便利なものが利用できなく不便になった。会社がちがうので証明書が何度も必要になるのが理解できず近くの郵便局が遠くなった。手数料が高くなり不満だ。	ひとつの会社に戻して欲しい。	民営化になって便利になったものがない。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
259	三重県	（1／2） 郵政民営化にあたって、当時の小泉総理、竹中大臣は、民営化により、お客さまサービスが向上する、とか経営の自由度が増し収益が向上するとの先は明るいと言っていましたが、現状はどうでしょう。 郵政三事業が、郵便・貯金・保険・窓口に分散されてしまい、同じ郵便局なのに、利用する事業ごとに一貫しない事務取扱。事務処理の煩雑によって、待ち時間がとても長くなった。取扱手数料が高くなったなど、お客さまサービスが向上するどころか、サービスダウンしているとしか思えません。 郵便局会社はただの委託会社であり、各事業会社のマニュアルの通り行われているため、自由度はなくなった。また、金融庁の管理下に置かれるため、一般の都市銀行、市中銀行と同様の取り扱いを求められるため、待ち時間が長くなって当然だと思われます。 民営分社化前までは、過疎地の高齢者などを対象にし、配達途中の職員が通帳を預かり、貯金の預払いを行うサービスがあり、喜ばれていましたが、事業の垣根によってできなくなってしまいました。過去にも縦割りとして問題にされていたことですが、同じ郵便局の中のことなので、工夫により解決できたことが、今度は、別会社のしていることなのでどうしようもありません。	日本全国、津々浦々までをカバーする企業は他に類を見ません。 たとえば、地方公共団体の事務を請け負い、戸籍謄本、住民票の交付サービスを行うなど、全国ネットであるからこそできるサービスを模索していけば、国民の財産としての、利用する方法はいくらでもあると思います。 そのためにも、郵便局を存続していくことのできる仕組みづくり、郵便局会社に他の三事業を統合させるのが最も望ましいのですが、まず、ゆうちょ銀行、かんぽ生命においてもユニバーサルサービスを義務づけ、郵便局会社への委託を続ける仕組みを作れば、今後の郵政事業に期待が持てると思います。	郵政事業の抜本的見直しとして、郵政株式売却凍結法 案が提出されていると聞き及びます。先に民営化を推し進めた小泉総理、竹中大臣はもういません。 郵政事業の先行きを見届けることなく、政界を去ってしまったのは無責任としか言いようがないと思います。 しかしながら、郵政事業の先行きを心配した人たちが立ち上がり、声を上げていることを真摯に受け止めていただければと思います。
		（2／2） 郵便局会社の中間決算が発表され、209億円の中間純利益が計上されています。約2万4千局で1局あたり約87万円の純利益、多いか少ないかは判断できませんが。郵便事業会社、郵便局会社は、現状の局数を設置し、ユニバーサルサービスを義務づけられています。しかしながら、ゆうちょ銀行、かんぽ生命にはそれがない。 郵便局の収益は、手数料収入ですが、ゆうちょ銀行、かんぽ生命からの手数料収入が9割弱を占めています。 この先、株式が公開され、ユニバーサルサービスの縛りがないため、株主の意向に基づく経営が行われていくのは間違いありません。 収益のあがらない地方の郵便局への委託をうち切る、ないしは、郵便局会社への委託そのものを、うち切ってしまったらどうなるでしょうか。 物販などを手がけ、収益を確保しようと取り組まれていますが、郵便局へ来たついでに買い求めようという行動が、郵便局にお客さまが来なければどうなるか。 収益の向上が計られるという言葉は、何を根拠に述べられたかをお聞きしたいと思います。 よって、郵政民営化の見直しをお願いしたいと思います。		
260	熊本県	不便になった。やたら手続きに時間がかかる。待ち時間が長くなり、郵便局の良さである簡便さ、優位性が薄れた。民営化によるサービスアップの実感がない。旧郵政省時代のほうが取扱いもスムースで郵便局が身近であったように感じる。民営化で逆に官僚的になっている。	郵便・貯金・保険三事業の一体化によるユニバーサル サービスの再構築が望ましい。また、資本の持合い等により郵便局の最大のメリットであるネットワークの維持のための法改正、経営形態の整備が必要と思う。これらが担保されてようやく郵政民営化の意義が現実的になり、国民共有のインフラとして期待できる。	郵便・貯金・保険の三事業は国民にとり最低限の共有インフラとして、また共有の財産としての役目を果たすことに民営化の意義があり、一部の富裕層や投機家の餌食にするような民営化はもってのほかと考える。更に衆知を集め、一部の独善的な政治家や学者のデマゴーグを排除し、真に国民、国家的見地からの民営化の検証を行い、然るべき見直しを期待する。
261	東京都	待ち時間が長くなった。為替・振替の料金改定（値上がり）。本人確認の煩雑化。ATMの撤去。不在郵便物を受取る郵便局の減少。積立貯金・電信為替の廃止。保険の団体扱いの適正化？による団体解散（これも実質値上げ）等以上すべてサービスダウン。	営利効率化に特化することなく、そばにあって安くて便利な金融コンビニ、庶民のホットステーション。	これからやってくる超高齢化社会に対して郵便局をいかにして活かしていくかが大切。貧富の差のない受け皿、地域の拠点。
262	秋田県	窓口での待ち時間が長い。郵便局でゆうパックを集荷に来てくれない。郵便事業会社なんて誰も知らない。	どうして一つの会社でないのか。郵政解散のときは分割について何も言っていなかった。詐欺にあったようなものだ。	ぜったい一つの会社にもどして、地方を救ってくださ い。ましてや株を売って外国人に買わせるなんてとんでもない。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
263	三重県	私はよく郵便局を利用していますが、民営化したら「サービスが良くなる」といっていたのに、民営化がスタートした途端に不便なことばかりになりました。 1、マネーレタックスをお願いしたら、なくなっていた。 2、定額小為替の手数料が10倍になったり、手数料が値上げになりました。 3、通帳の切り替え等の諸手続きが煩雑になりました。 4、私のことをよく知っているのに免許証を見せろと言われたり（以前はそのようなことがなかったのに） 5、以前は「5分以上お待ちのお客様はお申し出ください」の張り紙があったのに、今では15分～30分待ちが当たり前になってきた。 6、郵便配達に関することを聞いたら、会社が違うからといわれたが、私たちは、いまだに同じ組織だとの感覚があるから、ピンとこなくて戸惑うばかりで、「何でこんなに不便になったの？」との思いばかりです。 小泉さん、竹中さんになぜ国民に「サービスが良くなる」と嘘をついてまで国民の生活基盤を奪ってしまったのですか？と聞きたいです。 したがって、最低の評価しか付けられません。	今のままの状態がずっと続けば、利益追求と合理化で採算が取れない郵便局は自然淘汰されてしまうと心配しています。民営化は失敗だったと思っている有識者たちが大半はいると確信しています。	郵政民営化は、マスコミで言われている競争社会、格差社会の拡大により、相互扶助という日本的文化の崩壊につながり、弱肉強食の砂漠のような殺伐とした社会になることでしょう。民営化は日本の伝統文化をぶっ壊す大罪です。
264	大阪府	成功とはいえません。むしろここの利用者にとって、不便になりました。郵貯や簡保は規模は大きくても、あくまで日本国内の機関であり、対象も基本的に日本に住む人々に対するサービスでした。 しかし民営化後は、他の金融機関とどこが違うのか、何を目的にしているのか、何のための機関なのかがわかりません。 今のままだったら、他 の民間金融機関で十分です。	今後、あいまいなまま進んでいくと、あらゆる分野でハイリスクを背負わざるを得ないことになり、縮小化 して、最終的には今ある民間金融機関に吸収されていくでしょう。 国民の莫大な資産が、分割され個別金融機関に収斂されていく事が、この国にとっていいことなのでしょうか？	これまでの貴委員会の論議は、世界的な基準（これが今問題になっていると思いますが）に照らして、成果を挙げているかどうかという観点でのみ評価しているように思えます。根本的には利用者の立場がありません。それは結局は利用者の減少、国民の不支持、ネットワークの崩壊という経営サイドから見ても、最悪の結果を招くと思います。
265	山形県	三事業一体で効率的な経営形態から4分社化されサー ビスが低下し、また、不効率である。具体的な例として、郵便外務員が交通の便が悪く近隣に郵便局がない地域で自家用車を持たない高齢者から貯金の預け払い等を受付けていたのができなくなっている。 お客様、特に高齢者等の社会的弱者の方々がさまざまな面で困惑している。	三事業一体の効率的な経営形態。	郵便局は国民皆の財産であり、なくしてはならないインフラである。ユニバーサルサービスが崩壊するような、ゆうちょ、かんぽの株の１００％売却を目指すことは見直すべきと考える。
266	福井県	手数料の値上げや待ち時間の増大、求められる証明資料のわずらわしさ等、明らかにサービスの質は落ち不便になっています。郵政民営分社化は地域住民にとって何一ついいことはありません。	郵政民営化法案の抜本的な見直しが行われ、国民にとってより良い本物の改革が行われることを期待しま す。	全国どこの郵便局へ行っても郵便貯金・保険のサー ビスを受けることができましたが、今後、採算の取れない地域では、郵便局があっても貯金や保険のサービスを受けられなくなる可能性もでてきます。また郵便局自体がなくなることも考えられます。過疎地での郵便局のサービス水準の維持を求めます。
267	鹿児島県	公共性を維持しながら収益を挙げるという相反する状況で中間決算が黒字となったことは大いに評価される。 ただし、現状の郵便局数を維持していくには厳しいものがあるのではないか。郵便局会社は収益のほとんどが手数料収入であるため、一年中営業に追われ現場のモチベーションが一向に上がってこない。このままでは、現場は持たないのではないかと感じている。	仕事を行いながら感じることは、小さな局舎で三事業一体となって業務を行っていた分社化前の経営形態の効率の良さは世界にも誇れるビジネスモデルであるとつくづく感じる。非効率である分社化を解消して、三事業一体に戻すべきである。	一度変えたものはなかなか元に戻すには勇気がいることだが、地域の利用者に「民営化になってよかったね」と一度も言われたことがないこの現場の声をそして「株式が売却されれば、郵便局は株主の方を向いて仕事をしなければならなくなり、収益性を追求すれば地方の郵便局はなくなるのではないか」という地域の声を吸い上げて、きめ細かい検証をお願いしたい。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
268	山口県	国民の皆様が困惑されています。郵便局会社と郵便事業会社の違いが分からないためです。郵便局と名前がついているかぎり、郵便と、金融を取り扱う郵便局会社は切り離すことのできない関係にあります。この事は過疎地域において顕著に現れています。かつては郵便局員は、貯金、保険、郵便と全てのサービスを提供することができたのですが、過疎地域とりわけ一日 に会う人は、新聞を配達してくれる郵便局員だけという高齢者にとられては納得できない、国のサービス低下と思われています。	郵便配達員も、郵便配達だけでなく、少子高齢化社会に対応すべき役割(郵便局が重要な過疎地域でのライフラインであった)が果たせるように改革をしなくてはならないと思います。又、過密地に於いては歩いて行ける金融機関である郵便局を残しておくことが、国の財産になるのではないかと思います。民営化しても日本全国で過疎、過密地域全体で経営できる民営化であるべきだと思 います。	(1／2) 郵政民営化は必要であったかもしれませんが、社会弱者にとっては、うまく機能していた郵便局という組織を無くされてしまい、「日本国土の均衡ある発展」という国民全体の思いを壊してしまう結果となっているのではないかと思います。 郵便事業も郵便局が自営の配送システムをコストがかかってもやってきた意義・信書の配達、ユニバーサルサービスの堅持のため、企業努力をやってきたと思います。郵便局は独自の配送システムを堅持し 委託という方法をとらずに、配送途中で安いからといって安易に信用できない所とは決して運送契約をしないで、ハガキ50円、手紙80円何年前から変わっていないのでしょうか。(この度の年金特別便がコンテナにそのままになっていた問題も、独自の配送システムを放棄した結果だと思っています。) 貯金事業についてはこれまで果たしてきた財投、旧大蔵省と共に日本の発展のため協力して築き上げてきたものは「悪」だったのでしょうか。そして今民間になっても財投債に寄与している実態は何故なのでしょうか。自由に資金運用できる銀行についてはメガバンクさえもこの度の金融危機を乗り越えることができるか疑問視されている中で、規制を受けた郵便貯金の運用は、もう国からは不必要な物になっているのでしょうか。
				(2／2) 保険については、JAさえも撤退 している過疎地域に住まわれている方々に損害保険、生命保険を日本国民として公平に受けることの権利を守っていくことができるシステムであったはずです。それが今では「儲からない所には行かない」という状況に郵便局もなっています。少子高齢化を迎えることが確実な今こそ、後期高齢者が自立して生活できる環境を作っていくことが必要ではないでしょうか。 郵便局は国民の皆様の税金を使わずにうまく機能していたのに何故分割民営化される必要があったのでしょうか。 郵便事業は中間決算で赤字を出したそうです。できる限りの合理化をはかりながら運営してきたのですが、あまりにも民間への開放が、ずさんに行われてきた結果だと思います。 万国郵便連合において、信書の送達は国の責務で配達されることに日本も合意されています。しかしながら、実態は「法治国家」であるはずの日本の中で郵便については「放置国家」になっています。 国として守るべきことは守る事が必要ではないでしょうか。貴殿にも民間宅配便から信書が届けられたことは無いでしょうか？
269	福島県	残念ながら失敗だったと思っています。やはり郵便局は郵便局として民間企業との別枠で存在すべきであると思っています。 国民が安心してお金 を預けられる場所、営利目的ではなく生活保障の簡保、そして全国均一料金で利用できるユニバーサルサービスの郵便。これら全てのサービスが一箇所で受けられるメリットは過疎地に行けば行くほど高くなる。また、それとは逆に閉鎖の可能性が高くなっている。絶対無くならないと言う事は今のところ約束されておらず、常に国民に不安を与えている状況である。	全国津々浦々で同じサービスが受けられる状態を維持して頂きたい。利益重視では明らかに過疎地などでは現状を維持していけるとは思えません。国民生活を考え、社会保障と考えるならば、郵便局を現状のまま郵便、貯金、簡保の全てを取り扱える状態のままで絶対無くならないと言う保障が欲しい。	ー
270	群馬県	民営でもっと便利になると言われましたが、貯金、保険の手続きが煩雑になり待ち時間が増えた。もっと便利のはずではないのか？ 不在郵便を郵便局の窓口へ貰いにいっても会社が違うために用が足りない。同じ建物なのにおかしいのではないか？ 小包を出すのにすぐに来てくれない。他の業者は親切。	これからは、高齢化が進み近場の公共施設とともに益々身近な存在で3事業ができる会社でほしい。	株の上場は国民の財産、日本の国を売るもので容認できない。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
271	山口県	1.利用時、各種手続きの増加と結果としての待ち時間の増大。 2.手数料の高騰。 3.郵便・貯金・保険の分社化による横断的利用が不可、結果としてワンストップサービスにならず全てにおいて無駄の発生。 4.自由な発想による、社会ニーズ適合型新商品開発がなされず、旧態依然体質に失望。 5.各郵便局の地域性・特徴の発揮機械の喪失により親近感がわかなくなった。 以上、プラス評価は全く見出されない。よって、このままでは利用者激減傾向は止まらない。結果として、倒産。	1.郵便・貯金・保険の三事業一体経営へ戻すこと。 2.郵便局会社も含めて、株は国又は公共団体が全額保有。民間人や海外売却は却下して公的機関としての安心・安全性を確保し続ける。 3.4分社化の非合理性に起因する各種問題発生の根本的な回復。 4.現場の郵便局への裁量復活。 以上、民営化法案とそれに基づく運営が、社会ニーズに反していることを先ずは認めることから始まる。次に、利用者増加につながる為にはのみを考えた運営にシフトしないと、民営化の魅力は有名無実。	1.時の政治家と国民の判断が如何に誤っていたかを検証。 2.官がすることと民のすることとのすみわけのない日本の国づくりに国内の治安悪化も当然かと思っている。
272	新潟県	親しみやゆすく、気楽に利用できなくなった。近所で前から顔を知っているのに、身分証明を求められた。 不愉快だった。いままでの三事業一体が一番よかった。	期待するものは何も無い。国営にして、地方自治体、市町村と協力して、地域社会の安心安全の拠点としてもらいたい。	郵便局会社と郵便事業会社を合併しひとつの会社として効率化を図るべし。同じ局内に年賀状の販売窓口が 2つあり競争していた。局のトップは局長一人でよい。支店長、郵便局長、ゆうちょ銀行支店長、かんぽ生命支店長がありややこしく、だれが責任者かわからない。だいたい窓口が代理店とは無責任である。
273	島根県	民営化後1年過ぎましたが、田舎では農協も効率化の名の下に店舗を閉め今や郵便局だけが唯一の金融機関になりました。 郵便局でも赤字だと思いますがどうか儲けが少なくても何らかの形で郵便局は残すべきだとおもいます。 株式会社では維持できないでしょう。元の公社で良いのではとおもいます。	別に民営化のままで期待するものはなにもない。弱者切捨てのなにものでもない。	都会重視の政策はやめていただきたい。
274	熊本県	(1／2) 民営化に伴う分社化により公社時代まで効率的に行われていた各種業務がきわめて繁雑になり職員一人一人、そして管理者に対する負担が増大している。 また、お客さまに対しても求める書類や手続きが増え、ご迷惑をおかけしている状況である。 その反面、公社までの公共性重視から民営化による利益第一への経営方針の転換により、現場での人件費削減と取扱い業務の増加によりますます現場が疲弊する状況になっている。 郵便局は少ない職員が郵便、郵便貯金、簡易保険等の事業を一体的に取り扱うことで効率的な業務を行ってきた。これを無理やり分割したため非効率的な業務体系になっているのは当然である。 かつて民営化された国鉄は各地方ごとのJR各社へ分割され、電電公社は東西NTTとNTTコミュニケーションズに分割された。それを考えれば郵政事業は日本郵政公社の形態のまま地域分割せずに民営化するか、もしくは、東日本と西日本のように3事業一体で地域分割されるのが自然な形だったのではないだろうか。 現在の民営化の形態はJRに例えれば普通列車と特急列車と新幹線と貨物列車を走らせる会社がそれぞれ別会社で、共同管理するレールの上を走っているようなものであり、甚だ非効率である。	意見の詳細は上で述べたとおりですが、今後の期待として第一は金融二社の株式売却の凍結。第二に郵便・ 貯金・簡易保険の三事業一体の経営を期待します。	民営化は国民のためになる民営化でなければならな い。ぜひとも国民主体の民営化見直しをお願いしま す。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
		（2／2） これを解決するためには公社時のような3事業一体の経営形態に戻さなければならない。そのためには、かんぽ生命とゆうちょ銀行の株式売却を凍結することが第一である。そもそも金融2社の株式が売却されてしまえば2社は株主に利益を還元するために経営を行わなければならない。そうなれば赤字を出している地域の郵便局と代理店契約を行い委託手数料を支払うことは株主に対する背信行為となり経営陣は株主から訴訟を起こされる可能性もあることから、赤字の地域を切り捨てることになるのは火を見るより明らかである。 現にそれを示唆するがごとく民営化法には金融事業に対するユニバーサルサービスの義務付けは明記されていない。 現在の西川社長は「株式を売却しても郵便局に継続して業務を委託する」とおっしゃるが、その社長からして株主から解任される立場になる以上、郵便局へ業務委託が継続される保証はどこにもない。郵便局はかつての郵便法、郵便貯金法、簡易保険法の各第1条に明記されていた公共性の精神により地域を支え続け、国民生活の安定に寄与し、かつ公社時には赤字を出すこともなかった。 その公社時の形態に近付けることが今後の民営化のあるべき姿と信じており、より良い見直しを検討していただくようお願いいたします。		
275	福島県	民営化以降、振替、為替の料金が値上がりし、また通帳等を作るのにも提出する書類等が多くなり面倒になった。しかも待ち時間が多くなった。民営化して何が良くなったのか全くわからない。以前のままの方が良かったと感じている。民営化は改悪である。	地方の郵便局が閉鎖になっていると聞く。以前のようになるべく安い料金で、全国あまねく公平に利用できるようにしてほしい。これ以上の地域格差は望まない。 また、郵便局は地域にとけ込んだ身近な存在であってほしい。銀行などようなサービスは求めていないので民営化以前のような高齢者等の弱者が利用しやすい郵便局を期待する。	郵便局は郵便、貯金、保険が一緒に利用できるところが良かった。また、電話一つで荷物を取りに来てくれていた。 民営化以降は一緒に預かれないとか取りに行けないとかサービスがダウンしている。どうして以前できていたものが民営化になりもっと自由にできるはずなのに出来ないのか不思議でしょうがない。どうして民営化したのか良くわからない。
276	鹿児島県	―	（1／2） 郵政事業が民営化されて一年余り、定額小為替料金が上がり、集配局再編により集配局が無集配局になった為、窓口取り扱い時間外の、特殊郵便物差出しが出来なくなる等、サービスの低下に国民利用者の不満が溢れている。この事は民営化による収益重視で、公共性より企業性に重点が移り、更にサービス低下が進行するのではないかと思われてならない。 郵政三事業は、国民の日常生活に必要不可欠のサービスを提供する事業であって、公共性の観点から、世界の殆どの国が国営とし、又は国が関与して経営しており、わが国でも国営の事業として130年継続されて来た。然るに昨年10月1日郵便局、郵便、貯金、保険に分社化、民営化され、それぞれの会社に分かれたが、郵便局会社は郵便、貯金、保険の各会社から受ける手数料が唯一の収入源とされている。法律では、全国ネットワークサービス維持の為、郵便局の設置義務が規定されてはいるものの、果たして10年後、金融二社が株式市場に上場し、全株式を処分して完全な民営会社となれば、資本関係が無くなり、金融二社との受委託関係が維持されるだろうか。	―
			（2／2） 手数料を唯一の経営基盤とする郵便局会社の立場から見ればこの事を危惧されて当然と思う。特に全国24.000余りの郵便局の内、過疎地域にある多くの郵便局が、局長を含め定員2-3人の小規模局であり、この小規模局の業務取り扱いの状況を見ると、殆どの局が主として貯金の取り救いであり、郵便の取り扱いはごく僅かであるのが実態のようである。 従って算出定員も三事業共整数に満たない状況で、この数字を合計して職員を配置する等、各事業の共助共援で効率的な業務運営をしているが、分社化によってそれも出来なくなる。このような状況から見て、金融二社が郵便局会社に業務委託しない事にでもなれば小規模局は成り立たない事となり、税金の補助でも無い限り、不採算地域の郵便局は廃局せざるを得なくなるだろう。そこで公共の福祉に欠く事の出来ない郵便局を維持する為次の事を是非お願いしたい。 1、公社に戻す事が最善の策と思う。 2、それが出来ないとすれば三事業一体の民営とし 3、今の時点でその事も困難であれば、最低限金融二社との資本関係を維持する為株の上場売却を凍結して頂きたい。	

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
277	神奈川県	2008年11月29日付の読売新聞によれば、日本郵政グループ中間決算は2224億円の黒字とありますが、グループ内で郵便事業が204億円の赤字とあります。民営化後のサービスについて大きな変化は、都市部に住むものにとっては、変化は無いように思われるが、ただ1つ、利用者にとって3つに分割されたことは不便になった。この不便さが更に将来進んでいくのかと思うと、分割は失敗だったのではないか。特に大きな局？を利用して実感した。	ア、上記の理由で更に不便にならないようしてほしいこと。 イ、郵便事業の赤字が不採算事業（所）の切捨てにならないよう三事業一体の運営をして、ユニバーサルサービスを維持してほしい。	過疎地などへのサービス維持のためには、三事業一体の経営とし、単に赤字を埋め合わせるということでなく、例えば郵便配達、貯金募集やお知らせ、かんぽの取扱いも1人の職員が行えるような組織として合理化を図る。これは都市部でも1人当たりの受持ち区画を小さくして行えばよい。又、自治体の広報誌や回覧板様のお知らせなどの配布（配達）など、積極的に取組んで収入の増加を図る。
278	福島県	ー	ー	（1）通常郵便物の送達日数の遅延 民営化以前に公表されていた郵便物送達日数表（郵便ダイヤ）は完全に無視されている。「日曜日」と「国民の祝日」が連続したとき顕著である。 （2）萎縮した職員の対応 極度のコンプライアンスの徹底により、取扱いに不備があるとペナルティーが課せられるので、新商品、通常取扱いの少ない業務処理を敬遠する傾向がある。
279	東京都	・事務処理に時間が長い。 ・証明書類の定時が頻繁となった。 ・料金の値上げ。 ・郵便物の配達が夕刊より遅い。 等の理由から評価出来ない。分社・民営化は失敗です。	・サービスの低下及び店舗利用の不便さ並びに簡易郵便局の廃止等を見ると将来は期待出来ない。 ・公社形態で流通・金融・保険を従来どおり一店舗で経営するのが多くの国民の声です。	「郵政株式処分凍結法案」は上記の理由から大賛成です。
280	福岡県	分社化は間違っていた。当時の小泉首相・竹中大臣は、「郵便局はなくならない。サービスは低下させない。労働強化はしない。等々」と言っていたが、全て破綻。分社化をすれば悲惨なものになることは明らかであった。前述の二氏によって長い歴史の中での郵政事業の伝統が崩れ去ることは耐えられない。当のご本人は唐突にも、小泉流か、正解から去ることを表明（20年9月25日）。小泉劇場「選挙ゲーム、自分のことが第一」を体現した人物。「政治家未満の存在」と評したい。”敵前逃亡”国民の迷惑など関係なし。	郵政民営化の見直しが急務！サービス低下。民営化とは何だったのかという声、国民生活の利便性の低下が強まっています。”過ちを正す” 〇三事業の一体的サービス提供 〇株式売却の凍結 〇国民不在「四分社化」の見直し 年明けの通常国会、総選挙で期待。	郵政事業の抜本的見直し。総選挙で現状を打破に全力投球。羅針盤を船長が間違っている。法律の矛盾の中できちんと見直すことが重要と考えます。
281	鹿児島県	郵政民営化により、我々が受けられるサービスが高くなってしまった。手数料は高くなるし、窓口は土日閉まっているし、郵便の再配達の電話はつながらないし、ことごとく利用しにくくなった。郵便の配達時間が遅くなり、時間が一定でなく、不規則で困っている。民営化前はだいたいの時間が決まっており、配達の方と話が出来てとても良かったが、今は非常に忙しいのか、話をする暇もなく、誤配も多いようである。民営化して儲かるのは国ばかりであり、しかも国民利用者が負担することとなり、非常に残念なシステムとなっている。国民が安心して利用できる金融機関がほしいと心から念じている。郵便局によっては、窓口が分かれており、制服の違う社員が応対するなど、利用者にとって違和感があり、安心して任せることが出来なくなった。	郵便局利用者にとっては、地元の金融機関として、親しみやすい郵便局であることを期待する。効率化や儲け主義では、われわれ庶民は利用できなくなりそうで、非常に困惑している。出来るだけいつでもどこでも利用できるように、田舎から無くならないようにしてほしい。	ー
282	岩手県	郵政民営化後 ①利用者の声が郵便局から直接反映され難いシステムになったように思う。 ②三事業のサービスが一体的に実施されていない。 ③過疎地のサービス低下が進んでいる。	三事業一体の国営に戻して、利用者に簡便な施設に戻してほしい。特に過疎地でもサービス低下にならないよう、郵便局の休・廃止はしないようにしてほしい。	ー

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
283	栃木県	移行後、特に大きな混乱はないが、お客さまからの信頼、「あなたのまちの郵便局」のイメージは崩れつつあるように感じている。 例えば「本人確認」など、過去においては社員が本人の顔を分かっていれば局側の責任において手続き出来た。しかし今は「ゆうちょ銀行」等から委託された業務のため、関係書類を委託元会社において確認するために必要な書類をお客さまに用意していただかなければならない。これでは、「お財布代わりに」との文言で集めていた通常貯金ではない。 また、小為替の手数料にしてもお客さまが納得しかねる料金設定となっている。その中で唯一「通帳間送金手数料無料」は好評である。この施策をキャンペーン期間中のみならず郵政グループの提供するサービスとして未来永劫継続していただきたいものである。 郵便関係では、年賀はがきを郵便事業会社と郵便局会社が奪い合うように販売する様は、お客さまから見ればとても滑稽であり、理解に苦しむところであろう。「お客さま第一」「お客さまの立場になって」と言っておきながら、今年予約途中で底をついたキャラクター年賀は「増刷しないから」と郵便局の窓口で説明を受け、代替品として通常のインクジェットを購入させられたお客さまがこれから追加販売されるキャラクター年賀を見てどう思うか。 正直本社の考えていることは我々凡人には分かりかねる。増刷しないと決めたのなら、どこぞの先生という方々から何を言われても増刷しないくらいの強い姿勢がないと、今後民間企業としての信頼が危ぶまれる。第一「詐欺」で訴えられたりしないのだろうか。心配である。	新商品を開発し、お客さまサービス向上になれば良いが実際にはなかなか動きが鈍い、というか先を見ない行き当たりバッタリの商品が多いように感じる。 例えば郵便関係で今後始まる「特定記録」扱い。配達側の考えで、社員が楽をしてサービスを低下させてしまうもの以外のなにものでもないと思う。 今まで以上にお客さまとのトラブルが郵便局窓口等に苦情としてあがってこないことを祈るばかりである。 貯金関係では「JPバンクカード」。クレジット機能を備えながら、日本郵政グループの商品は何一つ買えない、支払えない。今後一部の商品の支払いに使えるようになるのかもしれないが、だったら最初からグループ内(郵便・かんぽ生命)との連携を密にして、使用できるようにして販売すれば現場の私たちも「イチ押し商品」として自信を持って販売出来るのに。 いずれにしても、「お客さまを裏切らない」姿勢で取り組むことが一番である。	当局は、明治7年の開局。当時営利を目的として設置したのだろうか。地域のお客さまの利便性を重視して、それこそ「奉仕」の精神で業務に取り組んでいたのではないだろうか。それが昨年10月1日を跨いだからと言って「民間は営業一本、数字が全て」で突き進んでも、いわゆる田舎には酷な業務内容となっているのではないかと思う。 旧普通局の手法を旧特定局にいきなり実践させても無理があって当たり前。 営利を追求するのなら、局数の配置見直しを行い、人件費を削減するのが近道だと思う。 「ユニバーサルサービスを提供維持しつつ、赤字は出さない。」は、無理な話である。
284	岩手県	郵便局は地域にとって安心して利用でき、なんでも相談できる公的機関であった。それが民営化された途端にふるさと小包のほとんどを切り捨ててしまった。 こんな郵便局にされては利用者にとって不便この上ない、いつもふるさとの味を都会で暮らす子どもや親戚に届けては喜ばれていた、それが切り捨てられたことは誠に残念なことであります。 しかも取り扱い手数料を取ることとしたために、ふるさと小包が大幅に値上げとなった、きわめて不便な民営化と化した。小包料金を正規に徴収しているわけですから、それでよいのではないでしょうか。お客様に利用されてこそ郵便局の存続があると思っています。民営化とはなんでありましょうか、地域の郵便局は不便になった。	これまでの郵便局は、郵便、貯金、保険の取り扱いを一体で利用できることがお客様にとっても便利であった、職員も仕事に誇りを持って働いていた。 全国どこへも50円で出せるはがき、今の時代にこの料金で北海道から沖縄まで用事が足せるという安い料金はほかにない、お客様の信頼が厚く郵便局に寄せるお客様の信頼を踏みにじるような民営化はマイナスが大きい、お客様のご利用と信頼を失っては郵便局は成り立たないと思う、民営化ありきが先行してしまった、町内の元NTT職員からも郵便局の民営化は間違っている、郵便局という事業は公共の事業であって、会社組織にしては利益追求になりお客様の立場を無視してしまう、また、ある方は民営化で手続きが面倒になり待ち時間が長くて不便だともいう、現場を知らない官僚が作った郵便局の民営化はメリットが見られない、三事業一体で運営してこそ郵便局の生き残る道が見出せる。	ー
285	東京都	政府が「郵便局は変わらない」「サービスは良くなる」とあれだけ宣伝していたので、私はそれを信じていました。ところが、待ち時間は長くなり、事務処理も面倒になり、郵便局は以前より悪くなったイメージがあります。	三事業ユニバーサルサービスの堅持、ネットワークの維持、国民の利便性の向上等を期待しています。	全局の郵便局の維持発展を保障するための本格的な見直しを実現してください。
286	福岡県	1、分社化で、集配局を無集配にしたり、集特を出張所にして責任者が駐在しなくなったりしたため、不便になった。 ①不在留置小包の受取に遠くまで行かねばならない。 ②小包追跡の結果、誤送が判明したが、時間外の場合、どこに問い合わせしたらいいか分からない。 ③ポストに取集時刻が表示してあるが、2ヶ所にあって内容も異なり、どちらが正当か不明。郵便局に照会しても埒が明かない。 2、コンプライアンスを強調するあまり、面識があるのに本人証明を求めるなどしているが無駄。処理時間がかかり、要員面でロス。又、利用者の待ち時間が長くなり不評。	1、郵便事業会社と郵便局会社は統合してロスをなくすこと。 2、ゆうちょ銀行とかんぽ生命の株の売却については、各会社の行く末が見通せるようになってからにすること。	ー
287	東京都	サービスが低下したと思われる。	三事業一体となってのサービスの向上	待ち時間が長すぎる。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
288	東京都	◎挨拶等は以前より良くなった感じがするが、同じ建物内(窓口)なのに公社時には貯金・保険の話を同時にできたが、今では他の商品の話を聞くのにクロスセル等の説明が長く、昼休み等の時間がないときには不便を感じる。貯金・保険が同じ窓口で扱っているのに余計な話は不要と思うが？ ◎テレビなどの報道番組を見ていると、過疎の村などの郵便局が統廃合されて利用者に不便が生じている感じが印象に残っている。 ◎未だに、郵便事業会社・ゆうちょ銀行・かんぽ生命・郵便局会社の業務内容を一般の人は理解していない。未だに『郵便局』としてのイメージが強いので局として不満が残る。	◎もっと短時間で窓口の処理が終わるように事務の簡素化を進めてもらいたい。 (保険・国債等の説明が長い) ◎不採算の商品・作業等の見直し ・両替(大量の小銭の入金を含む)の有料化 ・年賀葉書の無料交換・書損葉書類の交換の廃止 ・加入率の低い保険商品の廃止 ・福祉定期の廃止	◎かんぽ生命は仕事をしている人のことを考え、窓口を開設し、夜8時頃まで営業し仕事帰りの人にも利用できるようしてもらいたい。 ◎テレビや報道関係の資料等を見ていると、株式上場(それも高い値で上場できるように)のため無理をしているように思える。NTTやJRのときみたいに上場したときは高値で、しばらくすると株価は下がるようでは株主は困る。株式の上場は適切な時期まで凍結したほうがよいのではないか。
289	三重県	郵便局、特に簡易郵便局が閉局されることが多くなり不便をしている人が多くなっている。郵便物を配達する人は知らない人ばかりで親しみが無く郵便局の見方が変わった。	郵便局の見直し(民営化)すべきことが新聞紙上で報道されているが、老人・障害者の人のために絶対に進めてほしい。もっと下の人を見ていただきたい。	―
290	福岡県	平成19年10月の郵政民営化以降お客さま及び地域住民の方々の民営化に対する認識の大部分は次のとおりである。 郵便局が民営化されたことについては、性別・年齢を問わずほぼ100%認識しているが、三事業が分割されそれぞれの会社になっていることについてはほとんど理解されていない状況がある。そのため民営化後も、いままで通りのサービスの提供を当然に受けることができるという意識があり、窓口での苦情やお客さま離れという事例が多数発生しているというのが現状である。 これは民営化までの時間があまりに短かったため、十分な説明や検証ができていないことが大きな原因であり、三事業一体から分割された制度上の問題点(不合理性)があるためだと考える。民営化後は当然民間企業として、利益を挙げるべく数字を意識した体制に組織も社員も変革してきている。しかし、三事業の代理店として特殊な形態にある郵便局会社は、数字を追うだけではなく、制度上の問題が多く、現場の社員は大きなストレスを抱えながら業務を行う結果となっている。 これでは一企業として生き残るためのに、社員一人ひとりのマインドやモチベーションを上げることは非常に難しい。お客さまや地域の人々が、便利で安心して利用していただける環境づくりと、社員一人ひとりのモチベーションを上げることが早急な課題である。 確かに郵便局活力向上宣言等の施策は行われているが、お客さまや社員が望む姿にはほ遠い。この状況を改革するためには、局長会等の現場の実態を把握した幹部が、会社の経営陣となる採用枠を確保し、生きた意見や提案をすることが最も重要なことではないだろうか。 利益だけを追求する体質では、郵便局会社の生命線であるネットワークは維持できなくなる。そのためにも、利益とネットワークの維持を両立できる郵便局経験者が経営陣に入ることを期待したい。必ず国民にとっても会社にとってもプラスになると考える。	―	―

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
291	秋田県	(1／2) 〇郵便局の窓口はこれまで通り維持されて来ているが、しかし、集配局の再編成等により、社会貢献施策等利用者へのサービスダウンは否めないところである。 〇定員化されておるために、窓口職員が少なくなり、臨時職員で対応するため待ち時間が長くなった。臨時職員は局長又は、他の職員が休暇、出張等のため一人勤務を回避するための防犯上の「保安要員」であるから事務は不得手とのこと。(お客様は一般職員とおもっている。)…利潤追求主義 〇集荷サービスの低下約束の時間に来ない、又は集荷する人が居ない、伺えないなど通常郵便物と小包では多少違いはあるが、不在留め置き郵便物を受け取るにおいても、配達職員が帰局しなければ郵便物の所在が不明のため、当日に受け取ることが出来ない事が多い。(それまでは、午前に連絡あった郵便物等は、午後には窓口又は、当日の再配達を希望でき受け取る事が出来た。) 〇ユウパック等の送達速度が早くなったこと。包装が簡易でも送ることができるようになったことは私たち老人世帯、にとってはとても助かる。 〇公共事業として国民生活に定着してきた郵便局は郵便・貯金・保険の三事業が一体となり公的資金を使わないで、非営利事業として、独立採算をモットーに公共の福祉の増進に使命をかけてきた郵政事業には、公益目的は期待されなくなるのは必然であり、収益最大化、利益最大化を当然とする民間企業に変身することであろう。 〇「簡易で確実な貯蓄の手段として、あまねく公平に提供」されてきた郵便貯金は、集金により、毎月少しずつの積立貯金、定額貯金で将来の夢(教育資金、旅行、マイホーム建設資金等)を実現させるため、畜財をしてきた人は私ばかりでなく多くの郵便局フアンがおった。(こんなことを聞いた事があった。…日掛け、月掛け、心掛け…)	〇今のシステムではお客様には分かりにくく、以前は一人の職員が郵便、貯金、保険の三事業を行ってた事により親しみと安心感があったが、分社化されたことにより何処に会すればよいのか、また、訪問してくれる職員もいなくなり不安である。郵便物等を配達する職員に尋ねても事業が違うからと満足な回答を得られないのが、現状である。 〇民営化されても三事業一体の郵便局を望むものである。	〇国家公務員として身分が保障されている職員、特に特定局長を長とする郵便局には利用者からは不平、不満の声があったことは事実であり、世襲制による、特定局長の任用そして特定局長に人事権があること等は不景気、就職難のこの時代、不合理であり、公務員試験、一般公募により採用された職員との格差、差別が在ったことも事実である。 〇特定局長の任用、職員の採用の仕方を見直すことが必要と考える。
		(2／2) 〇「簡易に利用できる生命保険を、確実な経営により、なるべく安い保険料で提供」してきた郵便局の簡易保険は、無審査、少ない掛け金で大きな保障を約束し国民生活に安心と安全を与えてきた、また、各種の保険加入者団体があり、旅行、グルメ等を楽しみしていたこともあった。今後もそうでありたいと望むものである。 〇民営化し、分社化10年後、つまり平成29年9月末日をもって、郵便貯金銀行と郵便保険会社の株式をすべて売却し、10月からは政府の関与しない民間会社となる事になっている。両社は、郵便局会社に業務を委託して運営しているが利益につながらなければ委託をやめる。やめれば郵便局は成り立たなくなる。10年後には郵便局は廃業(廃止)に追い込まれのでは無いかと懸念する。職員は今一生懸命研修を積み重ね努力して、金融会社のノウハウを勉強していることは分かっているがプロにはなれない。さすれば、金融両社は、自前の店舗を開設して利益拡大に努めるであろう。		
292	埼玉県	郵政民営化を分社化で進めることで、郵便局と国民感情を乖離させてしまっている。結果として、郵便局の利用減となり、今後早期の経営の悪化が表面化する事になります。経営形態の見直しが出来なければ、株式会社が努力しないのでなく、改治による失敗になると考えます。	経営、業務に「失敗」と言うことがないようにしてもらうこと。ユニバーサルサービスの堅持をすること。手紙文化を継続、残すこと。	人が直接関わる事業であるという事を、もっと真剣に議論していただきたい。
293	新潟県	大切な年金、どうしても必要になった時など、今までなら午前中配達に来た局員さんにお願いすれば、午後にお金を持ってきてくれて本当にありがたかった。今はタクシーを使ったり、近所の方に運転をお願いして郵便局へ行くのが現状です。前の郵便局に戻ってほしい。	ー	ー
294	新潟県	今までは荷物を送るとき、電話をすれば郵便局の局員さんか、局長さんがすぐに取りに来てくれた。今では取りに来れなくなり、約13kmも離れた遠い郵便局へ電話している。取りに来るのは午後になってしまい、いつ来られるのか分からず留守にも出来ない。民営化になってとても不便になった。	ー	ー

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
295	新潟県	ー	民営化になって株式売却してしまうとテレビなどで報道されているが、全ての株を売却するのはどうかなと思う。聞くところによると、ゆうちょ銀行・かんぽ生命は郵便局に業務委託手数料を支払っているとのこと。もし、私が企業の社長や株主なら、運営の中で採算が合わない所（郵便局）からは撤退する。撤退するということは田舎の採算の合わない郵便局は貯金や保険などが取り扱えなくなる。そうすると過疎地や高齢者が不便になってしまう。カブは全部売却せず半分以上は残した方が良い。銀行やかんぽ生命は今後とも絶対に撤退させないような法律にすべきだ。	ー
296	千葉県	小泉劇場でバラ色の郵政民営化が実施され1年が過ぎましたが本当にバラ色の民営化でしょうか。当初から懸念されていた問題が大きく現れてきています。 ア　郵便局の存在価値であった、採算のとれない地域も含め三事業一体で運営し全国一律のユニバーサルサービスを提供してきた。三事業一体の運営こそ効率的であった。民営分社化で一体運営のメリットもなくなり今後の事業運営が成り立たなくなっています。 イ　郵政三事業の一体的運営が効率的であるのは当然であり、民営分社化で効率的な運営が出来るわけがありません。（誰が考えてもわかることだと思います）また、公社時代に24万人だった人員が今では郵便事業会社の非常勤の大量雇用などで40万人にふくれあがっていると云います。	ア　1で述べたように郵政民営化の基本的な間違いはハッキリしているわけですから改革してほしい。（期待ではなく改革です） イ　三事業一体の運営に戻し、ワンストップサービス・ユニバーサルサービスを実施し、高齢化社会のインフラとして維持していくことが大切であると思います。 ウ　三事業一体の運営を維持するためには資金的バックが不可欠です。新事業も含め郵貯・簡保の「株」保有を国が維持する必要があると思います。	ー
297	青森県	（1／2） 私は青森県で簡易郵便局をやらせて頂いているものです。これまでの郵政民営化に対する評価としては、私的意見でもお客様から聞こえてくる声でもお世辞にも、「民営化してよかった」ということは極めて少数です。よかったと言う声は仕事の内容と言うよりは夏冬などのフェア期間中に抽選で商品が当たるかもしれないと言うおたのしみができたと言う程度です。まあこれはこれで私も良いことであると素直に思うものであります。民営化にならなかったらこういうことは頭がガチガチに硬く融通の利かない上層部の連中には到底無理だったと推察できるからです。もし見当外れだったらあやまります。 しかしこれが郵便局の仕事となると良くなったことよりも、悪くなって不便になって融通が利かなくなったほうがダントツに多いのです。こういうふうに言いますと「いやそんな事は無いとかそれは簡易局がミスや事故が多いからだ」とか必ずいいます。確かにミスや事故は無いにこした事はありません。が絶対に出すなといわれれば申し訳ありませんが、それこそ絶対に無理です。そのかわり極力限りなくゼロにすることはできます。なぜこんなに長々と前置きが長くなったかと言えば、今から説明致します。 小泉元総理が郵便局の事をどれだけ理解していたか私にはわかりませんが、とにかく小泉元総理が改革を行なったせいでいままで30秒でお客様に返していた領収書が1週間しないとお客様に返すことが出来なくなりました。これは「取次ぎ局」にされてしまったからです。「取次ぎ局」と言う言葉の意味する事をあなた方全員が知っていて「これは良い制度だ」と言われるのなら仕方ありません。	ー	ー

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
		(2／2) ちなみに交通違反切符の支払いも3日の余裕がなければ受付られません。交通違反の支払い期限は1週間です。 普通局とか特定局は最終期限の日に収めに来ても受け付けることは出来ますが、私たち簡易局は出来ません。そのせいで「なんでできないんだ！！ここは郵便局じゃないのかなんとかしろ！！」こんなことをいわれるのは、まだましなほうでとてもとても言葉ではいいあらわせません。 私たちが一番不安を感じているのは10年経過した時のことです。安心して仕事が出来る事が保証されればよりいっそう仕事に打ち込んで頑張る事が出来ます。がそれがはっきりしなければ今後も残念ながら辞めていく簡易局は増えるでしょう。いくらゆうちょ銀行のほうで努力してもです。 私もお客様に「いつまでもやめないで続けてくれ」と言われておりますので出来る限り頑張るつもりです。くれぐれも面子だけで民営化を進めないで、良い方向へ導いてくれますよう、お願いと期待をするものです。 追伸 ここに書いた事は極々一部のことです。このほかにもいまの保険に入っても災害見舞制度は利用できないなど、まだまだ不便なことは多々あります。是非ご一考くださいますよう御願い致します。		
298	福岡県	分割民営化は間違いであった。サービスダウンもはなはだしい。民営化前は郵便局に行けば三事業のサービスがスムーズに出来ていたものが、不在留置の郵便物は郵便事業会社の窓口（全く別のコーナー）へ行かされ、とまどうばかり。出来たら元の三事業一体の形態に戻してほしい。「かんぽ生命」も支払い事由が発生しても、即時払いが出来ずに一週間以上も待たされるなど全く不便極まりない。	全く期待していません。三事業一体の国営に戻してほしい。国民の目線で政策を考えてほしいものである。	ー
299	福岡県	○国民との約束を裏切ったこと 1、郵便局数は減らさない→約400局程度減少した 2、サービスが良くなる→窓口事務の共助共援が禁止されたため一部の窓口が混雑している 3、郵便、貯金、保険の実績が民営化後減少した 4、職員の労働意欲が減少したように思える 5、農山林漁業村等の切捨てが進んでいる	1、民営化は堅持する 2、郵便、貯金、保険の三事業一体経営で、都市部中心から地方視点に切り替える 3、事務の簡素を図り、職員にセールス意欲を向上させる 4、局長及び職員を地域活動に積極的に参加させる	1、特定局は地域活動を重点にしてきた。それが郵便局のお客さんを増やしてきたと思う。 2、勇気を持って原点に帰ろう。
300	愛知県	結論 民営化前に比べて、サービスが低下している。 具体的に (1)四分社化したことに伴い、分割ロスが生じている。 ア　郵便事業は、窓口引き受け、ポスト引き受けから始まり、運送を経て、配達業務を終えたところで仕事が終わるものであるが、これらの一連の仕事の流れは、一元的に管理運営されて、はじめて効率的な仕事が完遂されるものである。しかるに現状は、窓口業務と内務業務が別の会社のため、総合的な運営がなされていない。 イ　外務作業について考えると、民営化前は、一人の外務員が、郵便の配達作業を行いながら貯金･保険の営業等を複合的に行うことができたが、現在は郵便･貯金･保険が別々の会社のため、三事業の複合的なサービスが提供出来ない。例えば、一軒の家へ三つの会社のセールスマンが、別々に訪問しなければならないとか、郵便外務員が一人暮らしの老人から貯金あるいは保険の依頼を受けられないなどである。 (2)国民のインフラである郵便ネットワークが、減少･縮小しており国民の日常生活に支障をきたす様な事態が発生している。郵便局の減少･廃止により、郵便切手一枚買うにもまた郵便貯金を引き出すにも遠距離にある郵便局まで足を運ばなければならないという実態が発生している。そもそも、郵便局制度は、明治時代に創設されて以来、国民生活に最も身近な物流機関であり金融機関であったものが、今や心理的にも距離的にも遠い存在になりつつあることは国民にとって不幸な事柄である。	(1)当面の課題 国民生活の向上に資するため、まずは、衆議院で「郵政株式処分凍結法案」を可及的速やかに審議し可決することが必要である。 (2)中･長期的な課題 ア　最近、四会社の財務状況が発表になった。郵便事業は、赤字経営であったが、もともと、郵便の収益は大都市から発生し、支出は全国的に発生するものである。加えて郵便の仕事の最終工程である配達業務は、たとえ50円の葉書一枚で、しかも山奥の受取人のものであっても配達しなければならないものである。この点において郵便サービ スの普遍性が顕在するものであり、これを単に採算性の一面からのみ断ずべきではない。 イ　明治以来の郵便局の存在意義は、国民生活に一番身近な物流拠点･金融拠点であるが故である。このことは、これからの国民生活にも継続的に共通することであり、国民からのニーズも変ることは無いと考えられるので、これからの郵便局の経営形態も、郵便･貯金･保険の三事業を一体的に運営してこそ国民の要請に応えることが出来るものと考える。	ー

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
301	北海道	◎ 民営化後は営利追求のあまり、郵便物の取集め回数及び配達回数の減少等により、郵便物の配達時間が遅れているのではないのか。また、人件費削減による配達員のアルバイト化が進み誤配達等が多い。 ◎ 取扱い手数料の新設(キャッシュカード再発行)、振替料金の値上げ、更には取扱いの複雑化による待ち時間が長くなった。 ◎ 地方にいる親類、知人の突然の訃報にマネーレタックスは必要不可欠であったのが廃止された。郵便局へ電話をすると30分以内には来てくれたゆうパック集荷の廃止。更には簡易局の廃止。 以上、当初政府が言った、「民営化をすればもっとサービスが良くなる」というのは、まったくの嘘ではないのか。むしろ不便を感じることのほうが多い。かつての郵便局は、地元に密着した地域の金融機関であり、地域に親しまれ、どんなことでも相談でき、相談にも親身に応えてくれた。また近所の方達とのコミュニティーの場でもあった。現在は、いつも忙しそうで相談しにくく、民間の金融機関(銀行等)同様に冷たさも感じられるようになった。	◎四分社化にし、営利追求を主眼とした民営化は間違いであったのではないのか。近年知られていなかった国の関わる問題が浮き彫りになってきた時、単にアメリカの要望(簡保・郵貯の市場開放、自由化)に応えるため、国民を編したのではないのかと疑わざるを得ない。ましてや銀行・生保の株式上場となればアメリカの思う壷である。それこそ「日本売り」ではないのか。年明け早々には郵政民営化委員会による第1回目の見直しがあるというが、自民党の面子・保身を考えずに三事業一体経営に戻し、更には冷え切った経済社会状況の中であるが故に、営利追求の民営化ではなく、地域住民の生活をサポートできる公的な存在とした方が良いのではないか。もっと国民の目線に立って欲しい。国の税収(消費税等)が取り沙汰されているが大きな選択時期ではある。一方、短絡的な考えではあるが、郵貯・簡保資金を国の資金(医療福祉目的等)として活用できないものか、と考える。	ー
302	岩手県	集配郵便局があちらこちらでなくなって来ている事は最近知った。旧当村でも無くなり不便を感じているとの事。今まで郵便局に貯金をし、年金を受け取り保険を掛けながら生活している人がいたと思う。又、郵便貯金通帳より現金を引き出すとき郵便局員が郵便物を配達に来たとき印鑑と通帳を預けるとちゃんと現金を届けてくれたこともありました。今は社会が違うから出来ないと言われ、困っております。国民へのサービスはダウンさせないと言っておりながら、既にダウンしていると思われる。郵便局は無くしませんと言っていた話も無くなり、既に全国では何ヶ所か無くなっている話を聞きます。先日郵便局に行ったら、職員が5人ほどいた。内訳は局長と窓口4人だった。少ないと思ったら中が仕切られており、郵便配達員の人は仕切られた中に居ました。これは変だと思った。同じ郵便局員なのに分離され、待遇も違うのではないかとすら感じた。 前の郵便局でしたら私が局に行くと「〇〇さんお元気ですか？」と声を掛けられたものでした。合理性を追求するだけでなく、思いやる心を持つ郵便局に戻すため法律を変える以外にはないと思う。国会でまた審議しなければならないと思う。 地方は今まで以上に不便になってしまいます。先日麻生太郎首相は日本郵政グループ各社の株式売却を凍結し、小泉純一郎元首相が推進した郵政民営化計画を見直す考えを表明したと報じられている。今後益々生活が苦しくなることはしみじみと考えさせられる時代がやってくるような気がしてならない。日本は戦争に負け、経済にも負けるのか。政治家国会議員、県会議員、市会議員、町会議員、村会議員は国を変えられないことを一言付け加えて民営化法案の見直しに期待したい。	ー	ー
303	高知県	責委員会におかれましては、郵政民営化以降の進捗状況について総合的な見直し作業を行っておられますが、今回の見直し作業にあたりまして、二つの変化に留意して検討をしていただきたい。一つ目は民営化以前の郵政事業が社会システムに果たしてきた役割とその変化で、二つ目は国民利用者の視点に立った利便性とサービス面での変化です。この機会に多くの国民利用者および各界の意見を幅広く聴取して将来に禍根を残さない見直しを期待し、下記の意見を申し上げます。 1、これまでの郵政民営化に対する評価について 郵政民営化は社会システムや国民利用者の立場からも当時の制度が維持されサービス面でも向上が期待できるとスタートしました。しかし、各事業を分社化したことにより弊害がでました。民営化以前の郵便局と比較して、利便性やサービス面で質が低下しました。ノスタルジアでなく、郵便局としての温もりや優しさが無くなったと感じている人は多いと思います。早急な見直しが必要と思われます。	2、今後の郵政民営化に対する期待について 上記1で指摘しました問題点は民営化のみで生じたとは思いませんが、最大のネックは郵政事業を分社化したことであると思います。郵便局に行っても、職員は居るのに会社が違うという理由で取り扱いがして貰えない現実があり、外務係りの職員さんも同様の理由で取り扱いが叶いません。更に、郵使局に電話をしても掛けなおしを要請されたりします。従いまして今後の民営化の見直しに当たりましては、分社化を中止して郵政三事業の一体的な経営に戻すことが必要です。一体経営でしかユニバーサルとしての事業は確保できないのではないでしょうか。私達利用者の立場から再度の信頼回復を実現するために、今回の見直しで分社化の中止を切に要望致します。	ー

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
304	群馬県	日本で北より南にかけて点在する僻地郵便局がこの度完全民営化により、経営状態不良（赤字）との理由で潰される郵便局が出る恐れがある。地方に点在する郵便局は明治以降地域住民にとって、通信・預金・保険等で郵便局職員との地域間との交流に今までは事業を通じて良好に保たれてきた。人間不信の時代、せめて郵便局だけは昔並みとは言わないが住民の愛する機関として早急なる見直しを検討されたい。無理を押しての民営化であるので欠陥は多数あると思う。	ー	ー
305	福岡県	（1）ゆうパックや一般郵便物が大きく減少している。最大の要因は集荷を郵便事業会社に限定し、郵便局には委託していないことにある。 （2）民営化・分社化により、色々なロスが目立つ。例えば、従来、郵便窓口で取り扱っていた不在配達小包等の交付が、事業会社との間で間仕切りした上、特設窓口で行われ、相互の応援が出来ないため、要員配置だけでも大きなロスになっている。	（1）郵政事業は国民のためのものであり、一部株主のものではない。「郵貯銀行」「かんぽ生命」が株主のものになることだけは防がなければならない。郵政株式公開凍結法案を可決するよう期待する。 （2）郵便局は地域のランドマークである。郵便局取扱いも、外務員も、郵便・貯金・保険の三事業一体となったサービスを提供できるよう民営化を見直していただきたい。	ー
306	愛知県	郵政の民営・分社後、サービスダウン等色々問題が発生している。各会社の経営が成り立っていくのかが疑問に思う。	郵政事業の四分社化を見直し、郵便局のサービスを全国あまねく公平に提供できる郵便局に改革すること。	郵政民営化に苦労されているのは職員ばかりでなく、多くの国民も気づいていると思う。
307	愛知県	分社化した意味が全く理解出来ない。社会と職場を混乱させただけ。	グローバルサービスを前面に出した郵便事業に黒字など有り得ないと思う。三事業一体でしか経営は成り立たないと思われる。	何のための民営かなのか理解出来ない。小泉の私的恨みによる行為としか思えない。
308	愛知県	郵政民営化は国民に何の利益も無く、害のみをもたらした政策である。	三事業は従前通り一社で取り扱うべきであり、株式の売却などもっての外である。	・郵便物の留置きなどの際、配達局が遅くなり、不便との声は良く聞く。 ・貯金保険の窓口の取扱いも時間がかかり、手続も難しくなったといわれる。
309	山形県	・国民に約束した郵便局を減らすことはしない。 ・サービスの低下はしない。 これは全く裏切られた。	再び国営に戻すことは不可能と思われるので、株式の放出は、サービスの低下が無いことが確認されるまで、凍結すべきだと思う。2年後に精査することにする、等して。	ー
310	山口県	小泉さんが民営化したら郵便局は良くなるからと言ったので、今までの郵便局には不満がありませんでしたが、より良くなるのならと民営化に賛成した一人です。しかし、郵便局が民営化されてから郵便局を利用すると、待ち時間はずいぶん増えるし、手続きは複雑になるし、何だか銀行よりもいろんな手続きが厳しくなったように感じます。 また、不在通知を持って郵便局へ行けば、「こちらではありません。あちらの会社で受け取ってください」と、変な感じのことを言われます。 よく聞いたら、郵便局と郵便物を配達する会社は別らしく、ゆうちょ銀行やかんぽ会社と別々の会社になっている様子。とても使いづらいしわかりにくいです。 今までの意見を総合すると民営化に対する評価は0点です。	郵便局の関係者に話を聞けば、儲かっているゆうちょ銀行とかんぽ会社は、住友グループから来た西川さんによって、株式が上場後、アメリカに売られるみたいです。結局、得をするのは、麻生さんが話していたように高くなって株を売って利ざやを得る政府とアメリカと一部の方だけのようです。 郵便局利用者や国民は不便になっていくだけのように感じます。よってこのままの路線での民営化には期待ゼロです。せめて郵便局と、郵便物を配達する会社とゆうちょ銀行、かんぽ会社はひとつになって、昔のように何でもできる郵便局にならないといけないです。そういう路線への返還を求めます。	田舎の方では、昔は配達の方に貯金や保険のことを頼めたように聞いています。今では、見知らぬ人が配達 しているし、当然貯金のことなんか頼めない。貯金保険担当の方は、週に1回来れば良い方らしいです。 田舎の高齢者に対しての切り捨て行政なのでしょうが・・JAが無くなった今、郵便局はとての大切な存在です。と話されてました。 小泉さんは郵便局の数は減らさないと公言されてましたが、株式会社は利潤が目的。儲からないところは閉鎖することでしょう。 田舎の方はどうやって生活をすればいいのでしょうか？
311	三重県	サービスが良くなるということで、民営化したはずではなかったのか。郵便配達の時間は遅くなるし、振り込み料金も値上がりしたようだ。サービスダウンではないのか。	将来、貯金や保険の取扱いが、近くの郵便局でできなくなる可能性があると、うわさに聞いた。儲からない地域の切り捨てはやめてほしい。	郵便物のことで、近くの郵便局に問い合わせに行ったら、「会社が分かれたので、わからない事が多くなった」という話があった。郵便局が郵便局でなくなった感じがする。
312	長崎県	政府は「民営化すれば利用者が便利になる」と言ってきたが、今現在何が便利になったか疑問が残る。実際郵便局の対応はよくなった。社員さんの挨拶もよくなった。 しかし、郵便局としての姿は何が変わったのか？ 民営化が実施されて一年経つが、不便な点だけが（たとえば郵便が配達されてくる時間が遅くなった。電信でお金を送れなくなった。貯金の手続きをするのに以前より待たされる時間が多くなった。）増したようにしか思えない。	まずは、民営化にしたからといって、郵便局を無くさないでほしい。以前のように、便利で親しみのある 郵便局であり続けてほしい！！ 困ったとき、いろいろ相談に乗ってくれるのが郵便局です。銀行や生命保険会社などとは一味もふた味も違います。でも今の郵便局は、いつ行っても皆さんバタバタしていて、以前のような丁寧な対応が困難になっているようです。 手続きなどが変わり、対応に苦慮されているとのことです。早く以前のように親しみのある親切丁寧な郵便局に戻ってほしい！ そのためにもっとサービスが提供で きる環境を作ってあげてほしい。そしたら私たち利用者も安心して利用できる。	政府は「今後十年以内にゆうちょ銀行・かんぽ生命 の株式をすべて売却し完全民営化をする」と言っているが、本当にそれでよいのか訴えたい！！！ 今、世界的な景気の悪化を受け、日本でも大手企業の業績が鈍り失業者が多くなっている悲惨な今の時代に、ゆうちょ銀行・かんぽ生命の株式をすべて売却するとなれば、当然のごとく資金力で圧倒的に有利な外国資本の企業に買い占められてしまうのではないかと懸念する。 麻生総理がおっしゃっていた「株売却凍結」をぜひ してほしい！！ 次期世代の今の子供たちに、いい形でのゆうちょ銀行・かんぽ生命を残さなければならない。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
313	静岡県	窓口で待たされる時間が非常に長くなった。やたら書類を書かされる枚数が増え、お年寄りにやさしい郵便局だったのに、機械化も増え大変である。いろいろな手数料も値上げされて、小泉政府発行の民営化のチラシではサービスが良くなるとなっていたが、すべてサービスダウンである。 知人は後納郵便を利用していたが民営化前は申し込み用紙１枚持っていけば引き受けしてくれたが、今ではカードや印鑑も必要でエコ化に反してやたら不要の書類を控えとしてたくさん渡されるそう。土・日もいままで配達していた郵便局が配達をしなくなり、その郵便局では書留や荷物を受け取りにいっても郵便局が閉まっている。これもサービスダウン。 民営化前は電信為替というものがあり、遠くに住む親戚に訃報のお知らせを聞いた時、そちらに向かえない代わりにお金と弔電が一緒に送れたので利用していたが、この前利用しに郵便局に行ったら、会社が分かれてしまったため出来ないとの事。 どこがサービスが良くなったのか政府は説明するべきである。またこれらのサービスダウンは民営化する前から分かっていた事だから政府が公表せず隠していたのは、説明責任を果たさなかったとして責任を取るべきである。	政府はうそを付いて民営化により国民にサービスダウンに対する不利益を与えた責任を取るべきである。 民営化を元に戻すのは無理でしょうから、すべての会社の株を政府保有にして、会社はすべて民営化する前の国営と同じ形態に戻すべきである。	ユニバーサルとは良い言葉である。
314	東京都	郵政民営化すれば、国民は豊かになり、郵便局はもっと使いやすいようになるのではなかったのか？ 政府はその様に説明していた。しかし民営化以降、国民は豊かになったのか？とても豊かになったとは思えない。郵便局も使いやすくなっていない。手数料が上がったりかえって不便となった。	僻地対策などを含めて、郵政三事業を分離させるのではなく、一本化しユニバーサルサービスと、国民が望んでいるサービスの提供、庶民の味方の郵便局となってほしい。	民営化後、積立貯金がなくなってしまいました。積立貯金は小さなお金を多くするのにとても便利に使わせてもらっていた。毎月こつこつと、お金をためて、お金を使ったり、貯蓄するなど、大変ありがたい商品でした。 一年後に使うための旅行資金や保険料を払い込むため、子供の学資金のための積み立てなど便利な商品でした。 郵便局は庶民の味方ではないのか？ 庶民のためにサー ビスを提供するのが郵便局ではないのか？ 民営化して 経費削減のためなのか知れませんが、庶民のためにサ ービスを続けて貰いたい。
315	群馬県	ユニバーサルサービスの提供を行うことが絶対条件にもかかわらず現状ではサービスの低下がみられます。再度基本に戻り検討してください。	三事業一体の業務体型を望みます。株式の凍結、経営状況及び国際金融市場の動向、社会経済情勢の変化を勘案し総合的な見直しを行う。	現場のお客様の声として郵便局はめんどうになった。郵便局の窓口が休みの時は民営化前までは郵便を引き受けてくれたが今は１時間もかけて行かなければ郵便が出せない不便でしょうがないと意見があります。
316	宮城県	「民営化したら、サービスが良くなる」との話で、郵政民営化が行われましたが、郵便局のサービスが良く なったとは到底思えません。むしろサービスダウンしています。このようなことでは何のために民営化したのか、まったく理解できません。ぜひ民営化委員会でもっと郵便局のサービスが良くなって、使い勝手がよくなるよう、早急な見直しを行ってください。	民営化前のように、もっと身近な存在で、「下駄ばきで気軽に行ける郵便局」にしていってください。手続きがもっと簡単にでき、手数料がもっと安く、田舎の方でも、ご年配の方々でも安心して利用できる郵便局にしていってください。	民営化自体に反対するわけではありませんが、今のやり方のままでは前より悪い方向に進んで行っているのではないでしょうか。郵便局の将来にたいへん不安を感じています。
317	福岡県	手続きに非常に時間がかかり、大変待たされる。通帳を繰越すのに証明書がないとダメと言われる。貯金が一千万円を超えないようにおろしたのに、定期貯金をしようとしたら即時に機械処理できなくて預り証で預からなくてはならないと言われた。今どき預入額管理 がオンラインでリアルタイムでできないなんて。民営化前に比べると、不便になった点ばかりが目立つように感じる。	貯金保険の利用限度額の撤廃、窓口営業時間、曜日の拡大、不要商品（利用頻度の少ないもの）の排除、JPBANKカードの年間手数料の完全無料化、ATMの増備等を行い、お客さま利便性の向上に期待する。	どこの郵便局も駐車スペースがなさ過ぎる。利用者の無理な駐車で近隣住民は非常に迷惑しているし、他の車や歩行者の交通の妨げとなっている。 その点を郵便局の責任者や支社本社はどのように考えているのか。コンビニのように駐車スペースを確保できるような場所へ移転し、近隣住民との良好な関係を保たないと今後十数年にもわたって存続していくのは難しいのではなかろうか。
318	山形県	公社の時と比べ、サービスの低下が目立つ、郵便の配達を行っている方が今まで預かり、引き受けてくれていた貯金や振替が出来なくなったり、郵便局の方が、荷物を各家庭から郵便局に持っていけなくなったり。 郵便局の方から理由をいろいろ聞いた、公社の時と比べて、会社が別れたことや、法律で決まっていることなど、郵便局の方は大変すまなそうに話してくれました。 民営化するとの話を聞いていた時には、サー ビスは良くなる聞いていたがよくなっているんでしょうか？前の方が良かったように思う。	サービスが良くなると騒いで民営化したわけだが、 サービスは悪くなっていると思う。いろいろ聞いてみると、制限ができてやりたくても出来ないと言う事のよう。民営化する前にするべきだったことだと思うが、郵便局の方が今までのように働けるように制度を整えるべきではないでしょうか？ 都市部では関係ないかも知れませんが、田舎では近くの金融機関が郵便局しかないところが多いわけで、今までは郵便局の方がいろいろなことをやってくれていた、これからも郵便局は昔のようにあるべきだと思う。	郵便局がなくなったりしませんからと聞くが、田舎の郵便局は赤字だと聞いている。 民間の会社になったわけで、どこまで残るのか疑問、いろいろ対策は講じられていると聞いているが、国が株を保有する会社とはいえ、結局は民間の会社なので赤字ならつぶれる前に撤退するしかないと思う。田舎の郵便局がなくならないよう期待します。
319	長崎県	民営化によって不便になったので評価は×です。	わたしの住んでいる所は田舎です、身近な郵便局がもっと便利に利用できるようにしてほしい。たとえば、今近くの郵便局では同じ建物に配達員もいるのに、別会社との理由で郵便の受け取り等不便でなりませんどうにかしてください。	安心して利用できる郵便局にして欲しい。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
320	静岡県	私は浜名湖鰻の養殖加工販売の経営者です。ふるさと小包などでゆうパックを年間郵便10万個以上利用しています。民営化前のサービスと現在を比べると相当酷いことになっています。 1. 配達時不在の場合、コールセンターがうまく機能していないことや、現場を知らない机上の論理で配達人員を配置しているようで、すぐに届けてもらえません。なぜなら配達人がその小包を所定の配達センターまで持ち戻らないと次の動きがとれないとか、コールセンターがスムーズでタイムリーな連絡をとるシステムになっていないとかです。ちょっと留守をしていたお客様は大迷惑です。コールセンターの回答がちんぷんかんぷんで結局自分で郵便局まで受け取りに行くケースが相当ふえています。当社の顧客を相当減らす結果になっていて困っています。これはゆうパックに限らず書留なども同じです。十年前の「局まで取りに来い」に逆戻りしていることが非常に残念です。 2. 郵便局の窓口の混雑で、会社のお昼休みに用事を足すことが出来ない、待ち時間が1時間を越えるなど民営化になったとたん、利用者には不便になりました。 3. 今まで郵便配達の方に ちょっとした払い込みや、ふるさと小包の注文をお願いして自分で郵便局まで行かなくても良かったで便利でしたがそれも出来なくなり不便です。 4. 郵便局会社と郵便事業会社が分かれている必要性を何一つ感じません。仕事の中身がかなり重複しているので、利潤、サービス強化、社員のやる気など一つにして体質を強化し、社員のエネルギー効率良く生かすべきです。もったいないです！！	私は利用者の立場から郵政民営化についてかなり議論して参りました。民営化前の郵便局は国家公務員の矛盾点も多かったと思います。しかし今の職員を見ているととても可哀想です。何故なら今までの業績をほぼ全面否定されて、それが本当にお客様や経営効率化に良くない事でも、自分の意見を言える環境ではないからです。もう一度郵便局が何をすべきか、現場を良く知っている現職やOBの方々のご意見を良く聴き、組み立て直した方が良いと思います。全国一律あまねく公平なサービスが受けられるように改善してください。	郵便局が民営化する時と、国鉄などが民営化するときと大きな違いがありました。トップ以下幹部から郵政経験者をほとんど外したことです。銀行マンや、百貨店、自動車会社の方々が、現場をどれだけ分かり経営者となったのかが疑問です。やはり郵政事業をはぐくんだ人を経営の中核に入れるべきでした。これからでも人事の検討をお願いします。
321	静岡県	効率化を図るために業務提携や統合するとうい話はよくあるが、今回の民営分社化は全く逆で、3事業一体で効率的に運営してきたものを分割することで、むしろ非効率になっているのではないか。特に郵便事業においては、山間僻地の配達業務等赤字になるのは明らかである。今までは郵便の赤字を貯金・保険事業での黒字で補てんできていたのが、今後は郵便事業だけでやっていかなければならず、近い将来税金投入という話になるような気がします。 また、せっかくの国民の財産であるゆうちょ銀行・かんぽ生命が民間金融機関と同じように株式や土地・証券等に運用され、今回の同時株安や過去のバブル崩壊の時のように大ダメージを受け、国民の財産が泡のように消えてしまわないか、多額の税金を投入する羽目になりはしないか、また、海外資本に乗っ取られてはしまわないか大変心配です。早期にこれらの対策をとるべきと考えます。	今までどうり国民が安心して利用できる貯蓄手段として、安心して保障が受けられる保険事業として、郵便事業が将来に渡り全国網を維持できるように、そして何よりも郵便局が地域の安心のよりどころとして存在するように早期に見直しされることを期待します。 貯金も保険も国民が選択できる制度を作るべきである。なんでもアメリカの言いなりになるのはやめましょう！郵便局という日本が世界に誇る良い制度が、今後も維持されるよう切に望みます。	今まで「郵便局で一す。」と言って配達や集金・勧誘に来てくれていたものが、「〇〇支店で一す。」と言われてもピンとこないし、本当に大丈夫かと思ってしまいます。
322	東京都	「民営化したら郵便局のサービスは良くなる」と言っていた方は去り、現在はそのことを信じたお客さまから厳しい内容のお声を頂いているのが現状である。 確かにサービスは悪くなっております。今の郵便局は3社の下請け会社か、またその間に本社・支社が入るので孫請け会社となり、多くの問題点を抱え、暗い将来像しか見えてきません。	お客様のお声、現在の郵便局の声を大切にした企業になることを期待したい。その為には郵政民営化法の見直しは欠かせません。	郵便局を主体とした組織作りができないと企業として存続も出来なくなるのでは。
323	東京都	民営化すれば良くなると言っていたのに良くなった印象は無い。手数料などは逆に上がったではないか。	民間会社になったのに限度額があるのはおかしい。保障を1千万とすればすれば良いだけのはず。	郵便を受け付ける会社と配達する会社が別らしい。民営化して効率を上げるはずなのに、分けたことにより非効率になったのでは？ 書かされるものが多くなった。何で毎日本人確認とやらをやるんだ？
324	熊本県	サービス低下が多く、不便になった。 （例） ・待ち時間が長くなった ・手数料が高くなった ・身分証明書がうるさくなった ・配達が遅れてきた ・郵便・貯金・保険の照会窓口がバラバラで困っている ・近くの郵便局の局長さんもパソコンとにらめっこであいさつや応援が出来ない	①出来たら民営化の中止 ②少なくとも分社化の中止。分社化は利用者を無視したものである。 ③郵便局や配達を守ること ④電話照会の人員を増やしてほしい	何のための民営化、分社化か分かりません。利用者や国民をないがしろにした政治です。国民の目線で郵便局を運営してください。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
325	静岡県	（1／3） 郵政事業の民営・分社化後、1年余が経過しましたが、実施前に「郵政民営化は改革の本丸」である。「郵政サービスも改善され、職場も生き生きとした遣り甲斐のあるものになる」と言われていたが、現状はそれとは全く逆で惨憺たる状況にあるといえる。国民利用者には多くの分野で不便を与える等サービス面では大きく後退している。郵政事業に携わる職員にとっても職場内に混乱と戸惑いを生み、毎日の仕事が大変になったと言う不満の声が出ている。経営の実態も当初予想されていたよりかなり低迷しているのが現状である。このような状況では民営化に対してプラス評価の出来るものは無いといえる。 そもそも多くの先輩諸氏が苦労に苦労を重ねて築き上げ、130余年にわたって国民の皆さん方から愛され、親しまれてきた日本の文化、財産ともいわれるような郵政事業、それを民営化するには、そのメリットとデメリットを全国民に分かりやすく説明し、そのうえで国民の審判を仰ぐべきであった。それを小泉総理独特のパフォーマンス的な手法で国民の判断を仰ぐやり方はあまりにも軽率で短絡的なやり方であったと思う。そういう手法で国民の貴重な財産を喪ったことは極めて残念であり、後世の国民の皆さん方に申し訳ないと思う。くやまれて仕方がないが、言い出せぼきりが無いので、民営化実施後の現状について、多くの国民利用者やJP関係職員との接触の中で聴取したサービスダウン、不満の声等について代表的なものについて述べることにする。 ○ 多くの小規模集配局が統合され、郵便事業会社の支店の配達センターとして配達業務をこなしている。このことによって職場管理が手薄になり、業務運行に支障をきたすことが見受けられる。また、不在配達になった郵便物も近くの配達センターでは受け取れず、支店まで出向いて受け取ることになり、お客さんには、サービスダウンになっている。	従って、郵政事業のユニバーサルサービスを確保して、国民生活の維持向上と地域社会の活性化に資するため、健全な事業運営が可能となる経営基盤の確立が急務である。そのための事業の抜本的な見直しを早急にしていただきたい。そもそも今の世の中、一流と言われる大企業でも経営基盤強化のために統合や合併を繰り返している。郵政事業だけが分割して上手くいくはずがない。どうか、3事業一体で健全な事業経営が可能となる仕組みを構築していただきたい。 0 JP各社のサービスと経営の実態を把握し、「郵政事業の4分社化」を見直し、全国民があまねく公平に、郵政サービスが利用者本位のより簡便な方法で、安定的に利用できる事業形態を再構築されたい。 ○ 郵便局においては郵政3事業が一体的にサービス提供できる仕組みを保障していただきたい。 ○ 郵政事業の利便性・公共性の向上、郵政会社の株式保有のあり方等郵政事業の基本的なあり方についても真剣な議論をお願いしたい。 郵政事業は3事業とも都会地域とか採算地域においては、同じような事業が多くあり、郵政事業がなくなっても国民生活に大きな支障は無いと思われる。しかし、農村・漁村等いわゆる過疎化地域と言われる地域においては、郵政事業は国民生活に欠かせない大切な事業である。昨今においては格差問題が大きな話題になっているが、郵政事業のユニバーサルサービスについては過疎地域、非採算地域の実態をより詳細に、より正確に把握をしてその地域の国民の皆さんの生活確保を主体に健全な事業経営のあり方を議論していただきたい。.	ー
		（2／3） ○ 過疎地域の集配業務の再編により、集配要員が削減され、従来行われていた貯金の引き出し等代行サービスが難しくなった。このようなサービスダウン等により、国民利用者の郵便局に対する信頼感や親しみが薄くなりつつある。 ○ 簡易郵便局の一時閉鎖がかなり多くなり、400局を超えるようになりつつあるときく。しかもその再開はかなり難しい状況のようである。非採算地域におけるユニバーサルサービスの維持が心配される状況にある。 ○ 分社化により郵便外務職員が貯金や保険があつかえなくなったことで、従来利用されていたお客さんから不満の声が出たり、残念がられている。また、分社化になったため、局長が営業に出てゆうパックを確保しても、郵便会社でないので自分で集荷できない。このように分社化による不便さ、不都合がかなり目立つ。ロスも大きくなりコストもかかることになる。 ○ コストが高く赤字になるとしてクレジットカード配達によく利用されている「配達記録郵便」が11月17日から廃止されることになったが、業界からの反対で年度末まで延期になった。サービスダウンの現われの一つである。 ○ 同じ郵便局の中に異なる会社の窓口が2-4箇所もあるというのは、利用するお客様にとっても戸惑いが出て使い勝手がよくない。今まで郵便局とお付き合いのあった市役所にしても、警察署にしても、連絡のしかたにしても打ち合わせの仕方にしても、やりづらい面が見受けられる。		

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
		(3／3) ○ 不在郵便物を取りに行く際にも、郵便事業会社の窓口に行くため、込む時には長い行列になる。従来のように郵便局会社のお客様ルームが、利用できないので寒い時とか雨の日等は、局外で濡れて待つことになり、不便であるとの声も聞く。従来のようなお客様サービスは、分社化によって大変しづらくなっている。お客様サイドから見ても不自然でサービス向上には程遠い。また職員サイドから見ても相互応援等効率的な取組みもできず、遣り甲斐のある職場とは、とても言い難いといえる。 ○ 民営化によって事務手続きが複雑化しており、そのために窓口での待時間が、かなり長くなっている。これがお客さんの不評を買っている。職員もその対応のため、非常に気忙しくなり仕事も大変になったとの声も多い。特に管理者等は休み時間も少なく食事も常に遅れるとの声もある。また、郵便物の配達も遅くなり、誤配も多くなってきている。 人件費の節減のため、ベテラン職員が減り、非常勤職員が多くなったためと思われる。 ○ 郵政事業は3事業ともこうした郵便局の混乱や職員の戸惑い等によって事業の業績にも大きな悪影響をきたしている。郵便物は減少し、郵便貯金の残高も大きく減っている。簡易保険の営業も極端に落ち込んでいる。 以上のように郵便局のサービスや業績が低下し、イメージが悪くなれば、従来からよく利用されたお客さんの郵便局離れもおきかねない。そうなれば郵便局の経営基盤もさらに脆弱になり、存在意義も薄れることになる。何のための民営化だったのかということになりかねない。 郵政民営化後の現状は概ね前述のとおりであると思う。130余年の永きに亘って多くの国民利用者の生活向上と日本国の発展のために大きく貢献してきた郵政事業、世界各国からも高く評価され羨望されている郵政事業を何としてでも守らなければならない。		
326	北海道	意味不明の小泉元首相の郵政民営化により、地方の現状は滅茶苦茶です。各企業は合併により体制を強化しているのに郵政は四分社化により内部は完全に崩壊寸前です。国民に対するサービスは完全地に落ち迷惑千万です。早急に民営化以前に戻すべきです。	―	―
327	東京都	―	郵政民営化になり一年余りが過ぎました。社員一同お客様の立場に立ち、従来と変わらぬようなサービスをすることをモットーに日々勉強し取り組んでおります。最初の1～2ヶ月は職場の変化した動向に右往左往の日々を送るとともに、不慣れな様子を見せないようお客様からの信頼を失うことのないよう接客には注意をしてまいりました。最近では、仕事もスムーズに手続きできるようになり社員一同"進化した"と感じています。ただ、今後、株式の売却が行われれば、株主の意見に左右される職場になると同時に採算の合わない職場は淘汰されていくことは必至であると私は考えています。でもそのようなことがないよう法律の見直しをお願いします。是非、"やりがいのある職場""未来のある職場"、未来を自分たちが切り開いていく職員を育成したいと考えております。	―
328	東京都	私は、東京都の○○島という離島に住んでおりますが、郵政民営化一年を経過した段階で、私の感じた郵政民営化についての意見を書くことといたしました。私自身は、○年前に仕事を変えて、現在サラリーマン生活を送っていますが、郵政事業にそんなに関連した事務を扱っていませんので詳しい意見は言えませんが、自分なりに考えていることを書かせていただきます。 ① これまでの郵政民営化に対する評価…銀行業務、保険業務はほとんど関係してませんので郵便業務について言わせていただくと、民営化の前はそれなりに経験を重ねた方が配達業務をしていたが、最近は明らかに新人と思える方が配達業務をしていて郵便物の誤配達が多いように思えます。民営化になってどういうわけか人の入れ替えが多いのか安心して郵便物を投函できにくいような気持ちになっているのは私だけでしょうか？	民営化が始まり時間がまだ立っていないのでまだしばらくは一般住民への周知、理解には時間がかかるものと思われます。期待はありますが、それぞれの部門でのリーダーの顔ぶれを拝見すると、多大な期待はできないと感じられます。	郵政事業そのものが歴史あるもので、それに慣れたものが新しいものに対応するには時間がかかるものです。時間が解決するものと考えています。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
329	愛知県	・ゆうメイトを多く採用し、効率化が図られているが、貯保の窓口の待ち時間が長すぎる。（満期保険金を受け取るのに40分～50分もかかる。） ・内容証明等の事故が多すぎる。 ・地方の地域で貯金通帳を、会社が違うと預かれない。簡易局がつぶれ、年金を受け取るのに遠い局へ行く必要がある。	・都市部はともかく地方の人が利用しやすいシステムにしてほしい。 ・会社が違うことによるメリットとデメリットを考えながら、見直してほしい。 ・営利ばかり追求するとかえって事業が不安定になることになるので十分検討してほしい。	最近、大阪で年金特別便の放置が報道されている。大きな問題になっている年金について、更に信用を失墜であり、事故の説明と関係者の処分をしっかりやってもらいたい。単なる事故ではない。考えられないことである。
330	福島県	民営化して、特別以前との違いは感じていない。郵便配達している人たちの対応が若干親切になったような気はする。	地域における情報を多く持つ郵便配達業務を一人暮らし老人世帯や通学途中の子供などの目となって貢献するなどにも生かしてもらいたい。	―
331	秋田県	顧客に対する社員の応対等についてはソフトな官職になったと感じますが、相対的には利便性が著しく低下したと感じる地域住民の意見が数多く聞かれますし、私もそれを実感しております。民営化後、本人確認等各種証明書の定時など利用する側にとっては手続が煩雑なため精神的な負担が多くなったりしておりますので、このような点の簡素化を今一度ご検討いただければありがたいことであります。	まだまだ「民営化」が地域民になじまない地方の実態に鑑み、三事業一体の体制に戻してもらいたいと念じますが、せめても地域民が多くの戸惑いを感じている郵便事業会社と郵便局会社について統合してほしいものと強く念じます。	少子高齢化が急速に進行する地方の過疎地において、郵便事業はその特性から、如何に努力しても赤字解消は絶対に難しいといっても過言ではないと思います。物議を醸している「健康保険料」同様、過疎地の高齢者にとっては、利便性を中央局に集中され、益々不便になるだけの現状を大変不安に感じている実態を当局関係各位には真摯に考えていただきたいと思います。あわせて、日本郵政株式会社の株式等の売却についても見直しをお願い申し上げます。
332	京都府	四会社とも、事前の準備不足もあり、また、社員の教育、訓練不足もあって、スタート時点で色々と混乱があった。サービス面でも、待ち時間が伸びたし、不在留置きの交付が夜間窓口に変わるなど、お客さまにとって満足するものはなかった。民営化したことのメリットが今日まで全くなかったといえる。	三事業を分割した形の民営化は、当面継続するとしても、郵便事業会社と郵便局会社の統合は是非とも実施して、郵便事業サービスの更なる充実を図ること。ゆうちょ銀行やかんぽ生命に設定されている、制限とくに限度額の撤廃を強く望む。	各会社の社員のやる気、働き甲斐、今のままではつまで続くかと気になるところ。事業は人です。人材の育成に今まで以上に配慮されたい。一日でも、永く勤めたいと思う会社になることを願う。
333	愛知県	（1／2） はじめに　郵政三事業は平成19年10月1日、それまでの公社から民営化され、①郵政事業会社②郵便局会社③郵貯銀行会社④簡保生命保険会社に分割された。そして1年2ヶ月がけいかしたが、果たして、お客さまへのサービスが向上したのか、仕事は改善され、効率的に運営されているのか、意見を述べたい。 （1）ネットワークの減少　郵便局全国津々浦々約44000局のネットワークでサービスを提供していた。3年前小泉元首相は国会答弁で「サービスの低下につながる局の廃止は有り得ない」と発言したが…。私の住んでいる東海地方では、4県下で414局あった簡易郵便局が閉鎖局は104局に及び、復活した局は僅か3局であった。（中日新聞報道）一部へき地では郵便車を巡回して対処しているが、焼け石に水状態と聞く。これからのサービス悪化が心配だ。 （2）窓口業務の煩雑による待ち時間の増加　最近社会問題となっている「詐欺」事件の頻発、それを防止するためのコンプライアンスは郵便局でも必要である。しかし、本人確認のための証明資料、手続きが煩雑になりすぎ、又、分社化により窓口事務の処理が縦割りとなり、事務の相互応援が不可能となり、お客さまの待ち時間が増えた。その為、他の金融機関への移行が少なくない。	（1）郵便事業はいうまでもなく、国民生活に密着した公共事業である。その意味でネットワークの減少により不便になったり、窓口でお客様の待ち時間が増えたり、事業の根幹を成す配達業務にいささかたりとも支障を来たすような、サービスの低下は絶対あってはならない。 （2）来年3月、郵政民営化委員会が審議の結果を取りまとめ、推進本部長を経て、国会へ報告されると聞いております。 ア　郵政四分社化の見直し（当面）　郵便事業会社と窓口業務を担う郵便局会社の効率的な運用 イ　郵政民営化法の改正の検討 以上、郵政民営化委員会から強く提言されることを希望します。	（1）郵政グループの株式売却　世界的、経済・金融の混乱により、売却時期を延期する。 （2）貯金・保険の限度額の制限枠を早期に外す。
		（2／2） （3）郵便配達業務　郵政事業の根幹ちうべき郵便配達業務が今ピンチである。 ア　経費節減による正社員の減少　現在郵便事業会社東海支社の正社員は9700人、非正規社員は18600人（中日新聞H20. 10. 1）と正社員の1．9倍である。 イ　非正規社員は正規社員に比べ、経験からしても仕事に対する能力が低いのはし方がないが、配達の正確性、速度性が劣るため、遅配・誤配につながっていくのは問題である。最近、個人情報保護の法律が制定され、表札の出ていない家が多くなり、配達に支障を来たしているのも事実である。採用時の職場訓練は定められたとおり、きちんとやっているのか、心配である。 ウ　非正規社員の確保が困難　経費節減で賃金は一般企業と比較して低く、しかも仕事が外務のためきつく、遅配・誤配があれば当然叱られる。我慢が出来ず、3～4ヶ月で辞めていく人が多いと聞く。欠員が出ても後補充が難しいらしい。局によっては年中アルバイトの募集を掛けている。 以上、現状に対する意見を述べましたが、果たしてこれでいいのか、危機感すら覚えます。		

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
334	埼玉県	私は○○県○○市の市街地の近くに住んでいます。郵便局がなくなるようなことはありません。 郵便局につきましても従来どおりの親切な応対を受け、何の支障もないように思えます。ですから過疎地における置局の問題点について具体的に申し上げることは控えざるを得ません。 私に言えることは従来の普通局のことです。入って見て郵便、貯金、保険の各部署が壁で仕切られ、担当者の制服も異なるようです。聞けば、郵便局長は郵便の窓口受付事務と保険のことしか答えられないとの事。 郵便局舎に居て、その責任者と思われる人が、同じ局舎で行われている郵便集配、郵便輸送、貯金、年金等の業務について応答できないとは摩訶不思議なことです。そうすると郵便局という名称はその実態を指すのではなく、建物の名称に過ぎないことになります。その建物の中に郵便事業会社、ゆうちょ銀行、かんぽ生命会社、郵便局会社の4社が同居しているテナントビルですね。同居していることはともかく、郵便局長の存在感は一体どうなのか。4社の経営体制はどうなのか。それが大変気にかかります。郵便局としての一体感を持ち、互いに支えあってこそ郵便局の繁栄がもたらされるのではないでしょうか。 確かに従前も三事業で縦割り行政ではありましたが、連携するところは連携して日本の郵政事業は確固たるものでした。(国債の利鞘の上乗せは公共事業としての前提があればこその問題、この認識こそ要。)か措置の通信、金融サービスが不如意になることはもとより、分社化により株式会社として株を売却することが民営化の狙いであるなら、日本の郵政事業の未来は危ういものです。現在の郵政の業務運営がどのように進行しているのか部外者となったいまでは口を挟むことができず、ただ憂えるのみですが、これは全特と長谷川顧問にひたすらご尽力願うよりなく、われらとしてもその趣旨に沿うよう地域対策に渾身の力を注ぎたいと決意しているところであります。	ー	追記　基本は郵便局が公共機関かどうかということです。私は公共機関としての強い認識を持ちますが、民営化して幅広く柔軟な運営を行うことは結構です。それで郵便局が潰れたら元も子もない。少なくとも株は政府保有とするなどの措置が必要と考えます。 掲出予定の屋外看板…「郵政民営化の見直しに一路邁進！国民新党　これに賛同する　民主党　を支援しよう」
335	富山県	(1／2) 私は一簡易局の受託者ですので視野が非常に狭いものとなっているかも知れないということを前置きしておきます。 さて、郵政民営化によって当初日本全国津々浦々のユニバーサルサービスは堅持し、さらにサービスの質を維持もしくは向上させるというふれこみだったと思います。しかし、ユニバーサルサービスの堅持のための郵便局ネットワークは簡易局レベルでは確実に衰退していることは周知の事実であると思います。このことに危機感を感じ、対処として簡易局手数料のわずかばかりの上乗せにて受託者の確保の施策の1つとしたようです。これはここ数年の簡易局手数料の流れに対しては改善されたように感じますが、郵便局全体(旧の普通局・特定局を含む)からみれば民営化した一企業の施策としては、あまりに小手先で抜本的な改革のない施策と感じてしまいます。なぜなら、例を挙げますと、当局は取扱件数等調べていただければわかりますが、旧の特定局(従業員が3-5人程度)と比較しても見劣りしない取扱量です。さらに当局の場所柄、外国人留学生などが多いため、海外への荷物の取扱等、複雑な業務も多く取り扱っております。しかしながら、簡易局手数料は年間800万円前後です。この中から局舎使用量、光熱費、防犯費(警備契約)、コピー機、コピー紙、補助者の給与(社員2人、パート1名)、通信費などを捻出しております。(当然赤字です。病院の福利厚生のためと思い業務にあたっております。)それと比較し、当局より取扱量の低い、民間企業でいえば利益貢献度の低い特定局は最低でも年間の維持費が3000万前後と聞いております。これを聞いた時には「労働力の搾取」という言葉が浮かびました。この状況を指をくわえてみているのは民間企業ではありえない状況だと思います。私見を述べれば、先述したように簡易局よりも取扱量の少ない特定局は簡易局化すべきです。	当局は入院患者様、教職員、学生など1日あたり200-300人のお客様がご利用されております。必要不可欠な存在となっているものと自負しております。ですから民営化を契機に民間らしくするのであればより成果主義を取り入れ、さらにユニバーサルサービスの堅持のため上述したように赤字の元凶となっている特定局(あくまで私見)を簡易局化し、成果を挙げている簡易局にはそれなりの報酬を出すべきと考えます。これから、お客様にもそして社員にとってもより良い郵便局になることを望んでいることは多くの皆様方と同じです。これまで私見にて言いたい事を書き綴りましたが、受託者としてふさわしくないとの判断を下されれば、それは受け入れます。ただ、現在の当局をぜひ、簡易郵便局ではなく旧の特定局あつかいとし、ぜひ正規の郵便局会社の社員での運営をお願いします。時代に即した柔軟な対応が必要だと思います。富山県の簡易局の総会等に出席しておらず、このような意見を中央に伝えようとしなかった私の責も感じる部分もありますので最後にその点をお詫び申し上げます。	ー

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
		(2／2) その上で、簡易局の待遇を改善しても今よりよほど経営効率は良くなりますし、また簡易局の後継者問題も解決に近づくのではないでしょうか？これが出来ていないのは、既得権を守ろうとする対抗勢力(現状は世襲制の特定局長会？)に屈しているのかと考えてしまいます。 現状では当然この格差が存在する中では業務へのモチベーションがあがるわけもありません。(モチベーションが上がらない理由は多数有)さらに、気がかりなのは民間企業ではお客様第一主義であることはいうまでもありませんが、民営化を契機にお役所的な企業から民間企業としてサービスの充実をうたった割には、内部的には(簡易局受託者が感じるレベル)それよりも対金融庁に代表される所管官庁への対策が1番になっていると思われます。いい例がSMGです。名前はサポートマネージャーというそれらしい肩書きですが、現状では業務知識は乏しく、そのくせ様々な書式管理などの形式のチェックには非常に細かくまさに、金融庁対策の何者でもないと思われます。決してその存在を全否定するつもりはありませんが(当然必要な部分もあることは認識しています)あまりに簡易局の実務の手助けにはならない存在です。(当初からの予定通りだったのだと思われますが)取扱が分からない業務に関してお客様をお待たせし、サポート局、地域センター、さらには業務指導部とたらいまわしにされた挙句に回答が後日となる。こんな馬鹿げた話はないと思います.どこにお客様第一主義があるのですか？それだけの知識を持てばいいではないか、と指摘を受けるかもしれませんが、大組織の中でその担当者が後日に回答を伸ばすような知識を受託者もしくは補助者が得られ、運用できるのであれば簡易局の受託者もしくは補助者は全社員を通じても相当なエキスパートといえるのではないでしょうか。大きな組織にありがちな縄張り意識言い換えればお役所的な意識は現在も健在です。それでいて、フロントラインの受託者等にはCSの向上を掲げているのは内心怒りを通り越し笑えるほどです。		
336	秋田県	窓口での職員（二人）の対応も民営化後の各種取り扱いの手続き（用紙の変更）等の変更により説明、用紙等の手続き等に時間が掛かったり対応に追われている状況である。又、他のお客さんより書類の手続きが面倒になった等の苦情も出ていた。	21世紀は地域社会における郵便局ネットワークにより「情報」「安全」「交流」のある郵便局作りに専念して、温もりのある郵便局になるようにしてもらいたい。	21世紀の地域社会における郵便局のネットワークにより郵便局の存在意識を高めつつあるときに昨年10月1日に郵政民営化がスタートして1年余りで④分社の現状は悪評の事態にさらされているようです。私共国民に取りましては、郵便事業130余年に渡り、全国津々浦々の郵便局で「生活インフラ」として簡便に利用され伝統のある郵便局に取り戻すように早急に実現できることを望んでおります。 その為には 1 「情報」「安全」「交流」のある郵便局作り 2 元の経営形態に取り戻して運営できるように望む 3 ユニバーサルサービスの実現（地域間の公平）で維持できるように 4 全国郵便局活性化委員会の設置（ブロック単位可）の実施 以上の実現に向けて期待しております。
337	福岡県	1 時行間の間仕切りで職場に閉塞感がある。 2 本社からのﾏﾆｭｱﾙが重複したものが多く、手続きが輻輳している。 3 お客様の声や現場の声を本社は無視している。 4 職場、職員の夢や希望が民営化によって希薄になっている。 5 意欲ある優秀な職員が退職している。 6 民営化による無駄な資金がかかりすぎている。 7 普通局、特定集配局が統廃合になり、郵便物が遅くなってサービスが低下した。留守をした場合、再配達が出来なかったり、窓口が遠くて受け取れないことが多い。	1 「郵政株式凍結法案」の見直しをし、凍結すること。 2 三事業一体の事業経営が利用者にとってサービスになり、好ましい。 3 郵便局の事業間の間仕切りをなくすこと。	ー

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
338	愛知県	今まで100年以上郵便局として存在していたものが、分社化され同じ屋根の下でいくつもの会社が同居しています。ご利用いただくお客様からすれば、建物も変わらず、今までと何も変わらないと思っています。実際のところ、いつまでたっても郵便事業会社と郵便局会社の区別が理解されないままです。 理解を求めようとご説明いたしましても、「不便になった」「今までどおりでいいじゃないか」「わかったわかった」などご意見をいただき、1カ月もすれば同じ方からまた同じような状況が続きます。今までできたことができないそういった思いがお客様の中で大きくなっていることは間違いのないことです。 いずれ、地方の郵便局はなくなってしまうんだという危機感でいっぱいのお客様もたくさんいらっしゃいます。政治の中で無くしませんと発言したところで昨今の事情を鑑みれば信用できないことは明確です。 このような状況を考え合わせても、分社化についてもう一度考え直して少なくとも同じ屋根の下達う会社が同居し、ご利用いただくお客様に誤認、誤解をあたえることのないようにしていただきたい。郵便局として3事業一体の効率的運営の道が、地方における郵便局の存在価値の最たるものだと考えます。どうか聞き届けていただきますようお願いいたします。	ー	ー
339	岩手県	集配度数減少や配達時間帯の大幅な遅延となっているし、全国一律の強要（ポスター、事務用品等）は地方に合わせたほうが良い。	郵便局のスタイルは地域密着、地域貢献の出来る地域重視型が望まれている。	買収防止上からの対策と金融二社へのユニバーサルサービスの義務付け等々が必要である。
340	神奈川県	（1／8） 1 共通的な事項 (1) 局舎の使い方 ・4分社化に伴って、各事業ごとに作業スペースを分割.確保するために、間仕切りを行ったが、各事業との行き来が不自由になった。 ・会議室も狭くなり、大勢での会議を行う場所がなくなり、不便になった。これに伴い、部外者(例えば、郵政退職者同友会や郵政事業協力会等)の会合も、郵便局舎内での実施が困難になった。 ・かつての普通郵便局の窓口も、3事業にハッキリと分割・明示する必要があるが、例えば、〇〇の中心的郵便局である〇〇郵便局の保険窓口の掲示は、民営化後1年経過したにも拘わらず、手作りのもので、お客様の不評を実っている。 (2) 日締決算 ・郵便、集配、ゆうちょ、かんぽで言えることだが、その日の目締決算を、当日中に報告しなければならないこととなったが、郵便、集配では、なかなか難しい状況にあり、これを報告するために、管理者、役職者は、過重な労働を強いられている。 ・特に、端末機などに不慣れな集配業務に携わる者には、精神的な負担が被さっている。 ・また、小規模の特定郵便局では、郵便局長へ皺寄せが来ている。 ・このため、職場で働く担当者のみならず、役職者、管理者のモチベーションが低下し、ひいては、早期退職者の増加につながっていると思われる。 ・郵政民営化法案が可決された時、「民営化後の職員の雇用安定化に万全を期すること」と附帯決議されているが、この点も再度、検証する必要があると患う。	ー	ー

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
		（2／8） (3) 分社化後の窓口 ・駅前の大局(例えば、横浜中央郵便局)では、土曜、日曜でも、郵便窓口は、開いており、ゆうちょの自動預払い機も稼動しているが、郵便窓口には、「ゆうちょに関する問い合わせは、しないで下さい」と掲出している。分社化し、他事業は、全く関係ないこととなったが、機器に不慣れな老人や身体障害者が来局しても、いっさい知らん顔をしていていいものか。民営化前のキャッチフレーズ「安心、安全の拠り所」は、何処へ行ったのだろうか、と疑問に思う。 2 郵便事業 (1) 郵便局窓口の縮小 ・郵政民営化法案が国会で可決された時に、「万が一にも、国民の利便に支障が生じないよう、万全を期すこと」と付帯決議されているにも拘わらず、全国で簡易郵便局は、1,000局近く閉鎖されている。 ・このため、本来、郵便局窓口でしか引き受けられない書留郵便、簡易書留郵便、配達記録郵便の差出、さらには、郵便ポストに入らない大きな定形外郵便物の差出が不可能になった。 ・普通郵便、速達郵便、ゆうパックは、切手販売所。都市部では、コンビニエンスストアの活用も考えられるが、コンビニエンスストアもない過疎地などは、販売所も廃止の方向 であり、住民は不便を強いられている。		
		（3／8） (2) 集配業務の統廃合 ・集配特定局の無集配局化に伴い、不在配達郵便物は、集配郵便局の窓口保管されることとなったが、急ぎの郵便物を、その局まで受け取りに行かなければ、当日中に手に入らない。例えば、〇〇郡全町は、先に〇〇市に合併したが、〇〇郵便局、〇〇郵便局、〇〇郵便局、及び〇〇郵便局の集配業務は、〇〇郵便局に統合されたので、そこの住民は、当日中に受け取りたい場合は、〇〇郵便局まで行かなければならない。しかし、特に〇〇町、〇〇町から〇〇郵便局まで行くには、自家用車でも時間とガソリン代が掛かるが、電車、バスで行った場合は、運賃もさることながら、場所によっては、半日から1日掛かりという所もある。前述の「国民の利便に支障を生じないよう」の付帯決議は、ないがしろにされているのが、実態である。 ・集配特定局の無集配局化に伴い、果樹園業者が差し出す「地元産物ゆうパック」は、集荷する車両のなくなった郵便局では集荷出来ないので、業者は「もう、郵便局にはお世話にならない。〇〇に頼むしかない」と、折角の先人が営業努力して獲得した、長年の顧客を逃がしてしまったところもある。 ・集配業務の統廃合に伴い、集配担当者のバイクの走行距離が延びて、山間部を受け持つようになった担当者は、今まで1日50-60キロメートルだったものが、100キロメートル近くまでになっている。このため、集配担当者の交通事故件数も増加の傾向にある。配達受け持ち区域の拡大なども絡んで、日々の労働過重も、担当者のモチベーショ ンに関わってくる。前述の「雇用の安定化の付帯決議」を、再度、検証する必要があると思う。		

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
		（4／8） (3) 取集度数の減回等 ・政令指定都市の〇〇・〇〇市内の中心部でも、取集度数が、4回から3回に減らされたうえ、土、日曜日(祝日)の最終取集時間の繰上げが実施された。特に、平常、午後2時頃、普通郵便が配達されるが、月曜日や要員配置の困難な日には、夕方、5時頃配達がされる時がある。その時に配達された郵便物を見て、すぐ返事を出す場合、取集度数の減回、繰上げは、不便このうえない。かつては、朝8時前後に取集された速達郵便は、〇〇、〇〇市内ならば、当日夜間の速達配達が可能であったが、朝の最初の取集時間が9時30分頃と繰り下がったため、この当日配達の利点も消滅してしまった。 (4)三事業一体サービスの廃止 ・かつては、郵便局において、事業を超えて相互応援というもあったが、分社化によって、これが不可能になった。特に、郵便配達中に、お客様から頼まれれば、ゆうちょ、かんぽの契約も可能であったが、民営化後は、これが、いっさい出来なくなり、お客様にも不便を掛けている。逆に、ゆうちょ、かんぽの担当者は、年賀葉書の販売を行うことが出来なくなったので、年賀葉書の販売促進は、遅れ気味である。 ・郵便局会社と郵便事業会社に分割されたため、年賀葉書販売でも、お互いに縄張り争いをしている。例えば、郵便局の局前での臨時窓口販売は、郵便局会社が行ない、JRの駅前での臨時窓口販売は、郵便事業会社に限るなどしている。要員配置上、郵便局会社が局前以外で臨時販売をしようとしても、現状では、不可能な状態である。		
		（5／8） (5) 民間輸送会社のシステムに問題 ・12月3日(水)の各紙朝刊に「ねんきん特別便4万5000通未配達」と、大きく報道された。これは、郵便事業会社の新越谷支店から新大阪支店に、JR貨物のコンテナに約12万通の郵便を入れて発送したのに、大阪・梅田駅に約2ケ月間放置されていたためである。原因は、輸送を委託された輸送会社のコンテナ便のチェック漏れと報道されているが、発着する2社の連絡と確課が不十分とも言われている。昭和50年代、私は郵政局〇〇課に勤務して、〇〇係に所属していたが、鉄道郵便で処理しきれない外国郵便物は、やむなく〇〇のコンテナ便を利用していた。海外から横浜港に到着する郵便物のうち、西日本あての郵便物は、〇〇郵便局から〇〇郵便局へコンテナ便で送っていた。この時、〇〇郵便局から相手局へ発送した旨、電話連絡すると共に、〇〇郵政局〇〇裸から〇〇郵政局〇〇課へ搭載したコンテナ番号、コンテナ列車番号、発着時刻を連絡し、相手局への連絡を依頼していた。加えて、〇〇郵便局から相手局へ、発送伝票を送付した。このように三重の連絡をすることによって、事故を未然に防止していたのである。今の民営化した郵便事業会社では、輸送会社へ委託しっ放しにして、システムに関する監督・監査がおざなりになっているとしか思えない。		

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
		(6／8) 3 ゆうちょ事業 (1) ゆうちょ餐口の締小 ・簡易郵便局の閉鎖に伴い、無集配特定局もない地域のお客様は、郵便物差出だけでなく、ゆうちょ、かんぽでも不便を強いられている。ゆうちょ関係では、老人の国民年金等が、貯金通帳に振り込まれても、払い出しの窓口が無くなって、苦慮している。これも「国民の利便に支障が生じないよう」という附帯決議に、真っ向から反する「弱者切り捨ての施策」である。 (2) 総合通帳の切り替え ・民営化前に発行した総合通帳は、ゆうちょ銀行の通帳に切り替える必要があるが、コンプライアンス徹底といって、本人確認などを厳重に行ない、結果として、お客様に迷惑を掛けている。昨年10月、現に、私が「3種類のOB会」の会計担当で、別々の3冊の通帳を持っていたが、そのうちの1つは、会の名称も抽象的なものだったため、会則、私の本人確認資料(〇〇市発行の写真入り住民基本台帳カード)を提示したが、さらに、会の設立年月日、会長の選出方法・選出年月日、会則への会長の原本証明、会計担当者(私)の選出方法・選出年月日の資料提出を求められ、揃えるのに半月掛かった。これらの資料を近隣の特定局の窓口へ提出したところ、審査のため、横浜貯金事務センターと長々と電話打ち合わせを行ない、1時間も待たせて、やっと切り替えが済んだものである。この間、3つあるゆうちょ窓口のうち、1つは、完全に閉鎖状況で、待たされた他のお客様は、「今日は、窓口が2つしか開かないの?」と、不満タラタラでした。まして私の分の処理で待たせた形なので、身の細る思いをさせられた。		
		(7/8) (3) 自動預払い機の撤去 ・利用件数の少ない所に設置してあるものは、この1年間で、相当数撤去された。このため、お客さまに不便を掛けている。先日も、土曜日に、〇〇で、懇親会を行ったが、予算をオーバーしたため、ATMを利用しようとしたら、既に撤去されていたので、急速、近くの〇〇郵便局までバスに乗って行き、預金を下ろしたのだった。ATMで、硬貨を沢山入れようとしても、硬貨入れ口が払い出し時のように、大きく開かず、1枚1枚入れる形になっているので、1分間に入れ終わらないと、突然、硬貨投入口が閉まってしまう。慣れない人には、不便である。 (4) 定額小為替の発行手数料の値上げ ・民営化前は、500円、1,000円などの定額小為替の発行手数料は、「10円」で小額の送金手段として、広く国民に利用されていたのに、民営化で、これが一挙に「100円」に改定された。まさに10倍の借上げである。現金書留で、500円送金するにも、郵送料は、500円掛かっていたので、郵便と同額にした訳ではないと思うが、あまりにも値上げ幅が大き過ぎると思う。		

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
		（8/8） (5)投資信託の販売 ・民営化を呪んで、郵便局の窓口でも、これの販売を先行して実施してきたが、今、世界的な金融危機にあり、麻生首相は、100年に1度の危機に直面しているとまで言っている。勿論、これを販売開始した時点で、この危機を予測することは困難であったが、「リスクとリターンを考えて、あなたに合った投資の組み合わせを」と纏ってお客様に売り込んだのに、結果は、誰もが痛手を受けている状況である。地域住民は、郵便局の「ゆうちょ」に期待するのは、「安全、安心、確実」であった管。投資信託など銀行や証券会社に売らせておけばいい、と言っている。 4 かんぽ事業 ・民営化したことによって、「かんぽの使命」は、終わったも同然である。新規契約件数は、ここ数年、下降気味であり、全国の保険・郵便年金の保有件数は、減少を続けている。このため、事業の将来展望のない保険関係外務担当者の退職、民間会社への転職が増加している。これも「雇用安定化の付帯決議」に反する、まさに社会現象と言っても過言ではない。株式の売却をすれば、民間保険会社や外国資本に押し潰されて、近い将来「老兵は、ただ消えるのみ」になるのは、火を見るより明らかである。 5 結論 以上は、私の知る範囲での郵政民営化後に、気の付いた点である。したがって、「評価は、出来ない」と言わざるを得ない。		
341	秋田県	ー	ー	（1／3） 「あたらしいふつうをつくる」をスローガンに郵政民営化の実施がされてから1年余が経過した。民営化当初に比べ多少はましにはなったもののお客さまへのサービスレベルは著しく低下したまま向上の目途がたっておらず複雑化した業務取扱いに四苦八苦の現場、一読しただけでは理解しうらい文書、朝令暮改といえる指示・指導の訂正・改正・追加、ミスを発生させたら問責処分・同業他社と比較して見劣りのする商品等この状況においてモチベーションを高め、良質なサービスを提供し収益を上げろというが、現場の消耗・疲労度は限界に達しており、お客さまからの信頼も失墜したままである。重要な指示文書ほど取扱についての可否が唆味としており、担当部署に問い合わせの電話をしても繋がらず、後になって追加やQ&A がポータルサイトに掲示となる上に指示文書よりも情報文書の方が充実しているケースが散見される。 業務フローの見直し、各種点検項目の削減が実施されているが、拙速な情報不足の文書類や一つ簡素化すれば二つ複雑化する取扱改正により、現場の過剰な業務負担の解消・お客さまへのサービスレベル向上が図れたとは言い難い。積極的に営業できる態勢作りとして局外活動マニュアルが作成され、渉外社員非配置局においても渉外活動が可能となったが、簡便なものとは言い難い。内容においてもお客さまとの現金授受を主眼としており、貯金商品を払戻して保険商品加入といったケースに対応できていない。お客さまにしてみれば、保険料の前納払込のような多額の金額をやり取りする場合、貯金通帳からの払戻しのようなキャッシュレス且つ安全な方法を望むはずである。渉外活動については、現場以前にお客さまの立場に立った内容のものを作成してほしい。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
				（2／3） 平成二十一年年賀はがきについて「予約したのに何故購入出来ないのか」というお客さまからの苦情が相次いだ。ディズニーキャラクター年賀である。確かに申込用はがきの表示は「予約」ではなく「購入」申込書であるが、数量限定・購入できない場合があるとはI 言も表記されていない。ほとんどのお客さまは「予約」と解釈するだろうし' 「購入の申込をしたのだから確実に手に入る」と発売を心待ちにしていたはずである。そもそも発売前の予約・購入申込実施の目的は販売数の把握と生産調整のためにあるのではないだろうか。コンプライアンスには反してはいないだろうが、お客さまからの信頼失墜の度合はコンプライアンス違反並と言わざるを得ない。 今年春頃から取扱いを開始したJPバンクカードであるが、お客さまからの評価は「他社と比赦してメリットがない」と散々である。JPバンクカードは同業他社と比較すれば最後発の部類に入る。先発商品のシェアに食い込む又はシェアを奪うには、お客さまにとって魅力的な副産物つまり特典がなければならない。成熟した市場においては先発商品の上をいく商品内容を用意して初めて互角の商品といえる.現状では勝負以前の代物であり開発担当者には大幅な改善を求めたい。
				（3／3） カタログ販売商品を表現すれば、「高い・遅い・並もしくは下」である。十分も車を走らせれば地元の商店等で同程度のものを安く買えてしまう。JPバンクカードも同様であるが、お客さまにとって魅力のあるオリジナルの商品を開発してほしい。安価ではなくすぐに手に入らない他社のコピー商品にはお客さまは見向きもしないのである。それに、カタログ販売商品を購入した数カ月後に直接チラシ・カタログ・購入申込書が郵送されてくるケースも少なくない。郵送ならまだしも、某社のメール便で送られてくることもある。郵政グループは商品を供給する業者の側からは顧客データ収集の使い走りか踏み台程度にしか見られていないのではないか。 エンタメポストで取扱う商品の特典にも他社と比較して格差があり、明らかに某コンビニエンスストア取扱の特典の方がレアで購買買欲をそそるものであった。特典も商品の一部と考えてもらいたい。映画「ポストマン」は率直に言って「要らない」DVD も同様である。興行的に失敗した新作映画のDVD など誰が買うのか。 昔のカルト映画・DVD 未発売の名作を復刻して販売する方が余程ありがたい。業務改正・商品等、開発したから現場は黙って売ればいいというような丸投げのスタイルはもう止めてほしい。市場調査・リサーチによる売れる商品開発、売りやすいシステムの構築が急務である。現場が疲弊せず、お客さまが不便さに苛々しない本当の「あたらしいふつう」を強く望む。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
342	青森県	「改革」の名のもとに強行された民営化は、良好であったキメ細かな郵政サービスを低下させた「改悪」であり大幅な見直しが必要と思う。 郵政事業は一般の公務員と同じく職員は税金から給料を貰っていると誤解している人が多く、それなら民間にした方がいいと単純に考えていたという人が身近にも数多くいた。結局、小泉劇場に踊らされ結果的に一番被害を被っているのは国民自身ではないだろうか。競争原理が導入され料金が安くなると言われていたが、代引手数料や払込手数料などの値上げ、定額小為替の手数料は10倍にも上がってしまった。 法人税や印紙税を払うので税収が増えると言っていたが、税金分のツケが値上げという形で我々国民に増税が行われたと同じことだ。 集配再編により多くの郵便局で配達業務が行われなくなり、夜間窓口の廃止や郵便配達の遅配が出ている。過疎地における簡易郵便局の廃止も深刻な問題だ。利益を第一に考える民営では益々効率化が進み、過疎地が切り捨てられていく。地域に密着し地域貢献を郵便局の大きな役割として、地域と共に歩んできた郵便局の姿は今はない。そのほか分割民営化が実施されたため、総合胆務が廃止され郵便外務員が配達先で貯金の受け入れや保険料の集金が出来なくなってしまった。 郵便局に対するノルマの締め付けも厳しく、弘前局員の話では年賀はがきの販売ノルマが一人5千枚とのことで自爆営業に走っているという。このほか問題点は色々あるが、総体的に考えて郵政民営化は改革どころか郵政事業の破壊に他ならないと思う。	麻生内閣は先に郵政株式売却の凍結を発表し論議を呼んでいるが凍結は当然必要だと思う. 万一株式が上場され、株主の意向に沿った経営を行うとなれば、当然「株主の利益第一」で更なる効率化を求められ、郵政事業の命題である国民サービスは崩壊してしまう. 日本郵政株式会社に金融二社の株式の1/2超を保有することを義務づけるべきと考える。また、買い取り防止の観点から、日本郵政、郵便局会社、郵便事業会社を一体にして金融持株会社とし、金融二社を子会社にすればいいと思う。郵便事業のサービス向上の観点から郵便事業会社と郵便局会社を合併すべきであり、そもそも今の形は非常に不自然でそれこそ非効率な面が多い。	100有余年の歴史を持つ一番国民の身近な存在である郵便局を決してなくしてはならない。
343	岐阜県	1　民営化以降、何事においても不便となった。不在配達通知書に連絡先が記入してあっても全然繋がらない。 2　年賀葉書を予約してあっても葉書が無いため思うように購入出来ない。 3　年賀葉書の種類が多すぎる反面、予約段階で断られる。 4　貯金の預入、引き出しが煩雑になってきた。	1　手続きをもっと簡単にしないと他の金融機関にお客が流れる。 2　利用者の希望・要望を取り入れた取り扱いを行う。(地域のオピニオンリーダーの意見等を取り入れ、利用者の郵便局になってもらいたいと希望する。 3　現状のままでは将来が不安である。もっと簡単に利用しやすくしてほしい。	ー
344	山口県	小泉政権下では郵政民営化になれば、日本社会は全て良くなると言って国民に訴えてきたが、現在では全てが悪くなり駄目な社会にした。郵便局の窓口サービスも長時間待たせたり、特定局、簡易局を無くしたり約束が全く出来ていない。今では知らぬ存ぜずな顔をしていて腹が立ってやりきれない。	必ず自民党政権を倒して、野党が手を取り合って本当の郵便局づくり、郵政の組織を立て直してもらいたい。	野党全体が真剣に一つになって取組まなくては絶対に民営化の見つめなおしはできない。
345	山形県	民営化は止む無くかとしても分社化は全く不可。	会社の統合こそ生き残る道と思う。	民営化したが、結果何も残らなかった。
346	福島県	1　貯金、保険の窓口での事務手続きが複雑になり、やたら証明書の提出を要求されるなど、民営化になって悪くなっている。 2　昨年８月に投資信託に加入したが、先月払い戻して見たら21%も減っている。確かに加入の際に、損をする場合もあるとの説明を受けているが、やはり郵便局は国営で安全確実な金融商品を提供すべきであると考える。	一日でも早く、郵便・貯金・保険が一緒になった前の郵政公社に戻ることを期待する。もし、戻れないならば郵便・貯金・保険の各会社は合併して一本化すべきである。	郵政事業は国民の福利向上のためにあるべきなので、営利追求の民営化は好ましくないと考える。
347	大阪府	民営化前に比べ使い勝手が悪くなった感あり。なお、具体例は以下の通り。 (1)各種手数料の値上げ、例えば、定額小為替の発行手数料など。 (2)手続の複雑化。手続の際に提出を求められる書類が多い。 (3)待ち時間の増大。手続の複雑化をうけ、待ち時間が長くなっている感あり。 (4)郵便の遅延。地方における郵便取集・配達拠点の集約化 や郵便ポストにおける取集回数の減少をうけ、配達が遅くなっている感があり。	前項目の通り、民営化前までの「安くて、気軽で、便利。」という郵政に対するイメージが払拭され、利用者にとってとても利用しづらくなった感あり。 前項目の「各種手数料の値上げ」、「郵便の遅延」については、民営化による納税義務の発生等、コストが増大したことをうけ、やむなく、「値上げ」や「遅延」という形で現われているように思え、民営化しなれば、このようなことが起こらなかったように考える。 従って、今後の郵政民営化に対する期待として、また、個人的な意見として、「もう一度、国営化、公社 化時代に戻してほしい。」と強く求めるものである。	ー
348	東京都	各種料金が高くなった。不便になった。	国民の立場になって考えて欲しい。郵便配達の人に貯金を頼めるようにして欲しい。	5つの会社になぜ分けたのですか？ 元の1つの会社に戻せばいいと思う。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
349	山形県	民営化されたらお客様サービスが良くなって国民がより便利になり各種料金も安くなり国民にとってはバラ色の道が開けると言っていたが、現実は窓口では職員が手続きに不慣れで時間はかかるし本人確認とか正当権利者の書類が必要とか委任状とかが必要とか、まずもって窓口が混乱して困ったものである。 いままで郵便配達の時に貯金・保険等各種の郵便局商 品を利用できたが別の会社になったからこれは預かれないと断られて大変不便になった。職員の人も疲れている様子がうかがえる。いままで郵便局の人が小包の取り集めに行くことができたが今度は取り集めが郵便事業会社しかできなくなったのは合点がいかない。 振込み手数料が値上げ・定額小為替の手数料が値上げとなり民営化前の民営化すれば、すべて良くなるという話はまったくの空論とさえなっている。 最低でも郵便事業会社と郵便局会社の合併が必要。一番良いのは3事業枠なくやれる会社にすれば国民にとって日本が世界に誇れる会社になるのではないかと思う。 ましてやかんぽ生命・ゆうちょ銀行の全株放出なんてものは日本を世界に売り飛ばすようなことであり私は納得できない。	謙虚に事業形態を含めていかに国を守り国民生活に必要不可欠の郵便局になるか真剣に議論して欲しい。地方に住んでいる人が都会に住んでいる人が恩恵をうける最低の線くらいは絶対に確保しなくてはいけない。離島に、過疎地に、ひとつも金融機関がないということは絶対にあってはいけない。	民営化は、もう戻れないとするなら、いたしかたないがより国民が利益をこうむるような立派な見直しを期待いたします。
350	宮城県	何が「サービスが良くなる」だ！？ 何も国民にとって良くなった部分はないではないか？ 民間になったから儲けないとやっていけないと、料金の値上げだけは即座に半端じゃないくらい上げるし、手続きがあれやこれや面倒になったし、これだったら前のままが良かったに決まってるじゃないか！？	もっと簡便に利用できた頃に戻して欲しい。	小泉の「わがまま」だけで、国民が右往左往させられてたまるか！政治の力で何とかしてください！！
351	福島県	ー	民営化を維持しつつも、分社化された郵便局・郵便・ゆうちょ・かんぽ各会社の統合を望みます。脆弱な収益基盤を持つ企業を各社補いながら、各郵便局の存続を維持すべきだと思います。 もう一つは、企業としてのモラルをもっと示してほしい。この企業が社会に何をもたらすことができるか。現在の社員のほとんどは、己の雇用形態維持だけが目標になってしまっているように思える。	ー
352	福島県	民営化後、お客様から「民営化になって良かった。」という方は、いない。 また、利用すると、時間がかかるとか、貯金をおろすとき本人確認とかで、めんどうだから、利用しない言うお客さまもいます。このような問題から民営化後、お客様の郵便局離れが多くなっている。	あまり期待できない。	民営化前の特定郵便局は、地域の郵便局として親しまれいたが、民営化後、本人確認で証明資料がないと、払い戻しができないと言われるので、郵便局は面倒くさくなったと感じているお客様が多くなった。
353	岐阜県	会社が分かれたことにより、非常に不便を強いられている。世界に誇るべき便利な日本の文化が破壊されようとしている。地方の心の接点だった郵便局が、改革の名の下に地域の人から離れて行っている。	郵政省時代・公社時代は独立採算で税金も使うことなくやっていた。 早く一体化して、下駄履きでで気軽に行ける地域のコ ミュニティの場として、また、ひまわりサービス等郵便局ならではの動きで高齢者化する地域の拠り所とならなければならない。	本人確認等手続きが難しすぎる、JAはやってくれた のに何故郵便局はやってくれないのか固すぎる・・・ 周知の方でも証明書提出を・・・いいかげんにしろこんな田舎でもそんなこと言うのか・・・ 現場は困惑しています。責任者の責任（裁量）で何と かならいのでしょうか。
354	岐阜県	郵便の配達が非常に遅くなった。夜7時頃の時がある。年賀葉書の購入依頼がいろんなところからくる。同じ郵便局だと思っているのに、会社が違うからと電話等を回される。郵便についてはサービスが非常に低下したと感じている。集配センターと郵便局で別々で年賀葉書の購入のお知らせが来る。同じ郵便局だと思うのに非常におかしく感じてしまっている。民営化後すべてに関してサービスが低下している。	郵便局は一つだと感じているので、変な競争同じ商品の取り合いをするなどもってのほかおかしい。そういうトップの営業方針を考え直してほしい。次から次えといろんな商品を売りつけるやり方も考え直すべきだ。利用して喜んでもらえる郵便局にしてほしい。もうけ主義の郵便局は利用したくない。	郵便局は同じだと思っているが利用すると、社員から違いを話される。民営化後郵便局がおかしくなっていると非常に感じる。あれもこれものセールスするのでなく前の親しみのある郵便局に戻ってほしい。あれもこれもセールスされると行くのが嫌になる。民営化って利用者にはなんの得にもなっていない。考え直すべきだ。
355	新潟県	よくない。地方にとって郵便局と郵便局長は、頼りになりいろいろとお世話をしてくれた存在だった。今では、小包も取りに来てくれない。年金も持ってきてくれなり、ただの事務窓口となってしまった。いつも忙しそうで大変だ。	郵便・貯金・保険の事務をひとつの会社でやってほしい。このままでは、貯金業務を郵便局で利用できなくなるのではないかと心配です。	都市部だけでなく、もっと地方にも目を向けてほしい。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
356	岐阜県	郵政民営化で、郵便局の全てにおいてサービスが低下したと思います。特に、身近な郵便では、不在だった郵便を郵便局の窓口で受け取るためには、配達の会社へわざわざ連絡を入れてからでないと受け取れなくなりました。 また、土曜日や日曜日は窓口が営業をしなくなり、受け取れなくなってしまいました。年賀葉書も、二つの会社で予約をしていたため、どこのどの会社に予約したのか分からなくなり、問い合わせをするにも一苦労する次第です。同じ建物、同じ制服で「あちらでない、こちらでない。」と言われても 利用者には理解出来ません。 また、先日、お祝いで、電報より安く手書きが気に入っております「レタックス」を申し込みに行ったところ、台紙カバーの種類が減ってしまっており、魅力が半減しガッカリした次第です。つい最近に感じました郵便のサービス低下だけでも、このような状況で、民営化で良くなったとはお世辞にも言い難いと思います。	郵便、貯金、保険など郵便局の全てのサービスが低下 したのは、昔の郵便局のままの形で民営化をしなかったからではないのでしょうか。難しい法律は分かりませんが、「それは民営化で別の会社になりました。」、「民営化で代理店となり書類が・・・」という形ではなく、以前の郵便局のように簡単に利用出来る形への変更をお願いいたします。	私どものような地方では、近年になり、もう一つの身近な機関のJA（農協）が、効率化のために、あちらこちらの店舗の撤退をされております。郵便局だけは、地方を切り捨てないような措置も併せてお願いいたします。
357	千葉県	業務については国の機関としての位置付けから、民間金融機関の代理店として、より強い監督監査を受け少人数の店舗としての存立が脅かされている。 特に高齢者にとっては利用しにくい状況ばかり求められ、気軽に行く所ではなくなっている。 営業については、受託業務を強いられており、委託機関からも強い監督監査を受けており、今の手数料だけの収入での体制では地方の多くの局では経営が成り立たなくなる。 また、今後金融2社の株式売却が行われた後再委託がなされるのか何の保障もなく、極めて不安定な立場に立たされており、この事業を行っていきたいと思う人もいなくなり、日本の大切な金融、物流のインフラを失うこととなる。	民営化云々よりも、国民のものである大切な郵政事業が成り立つ方向を考えていただきたい。	ー
358	北海道	民間企業とは、採算性を重視し利潤を追求することがその経営の責務であり赤字経営は許されない。しかし、過疎地にまで赤字なので営業営業と、業績を上げるにも限界があるというのに、とどまることのないキャンペーンと言う名のほとんどお客さまサービスにならない営業強化施策。 過疎地の郵便局の多くは赤字なのにユニバーサルサービスの提供が義務づけられていては、遅かれ早かれ消滅せざるをえないのではないのか？ 評価すべき点はなにもない。	根本的な弊害に分社化がある。公社に戻せ、とは言わないが、分社化を再考していただきたい。	ー
359	北海道	民営化になったものの、目に見えるサービスとしてはゆうちょ銀行の金利優遇だけで、郵便・保険については何もサービス向上はみられない。	もっと利用者の気持ちを考えたサービスを展開してほしい。	ー

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
360	群馬県	(1/6) 小泉元総理やマスコミが「改革を妨害する抵抗勢力は許さない。改革すればバラ色の未来が待っている。」と国民の皆さんの頭の中にイメージだけを刷り込んでしまい、中身もよく議論されないまま、郵政民営化が強行されてしまいました。しかし、この政策は、大きな間違いだったと言わざるを得ません。なぜなら、郵政民営化は国民にとって、メリットよりもデメリットのほうが、はるかに大きいからです。 小泉元総理が主張していたことは「民営化によって競争原理が導入され、サービス改善が図られ、利便性が向上する。」「民営化され、税金を払うようになれば、財政再建に貢献する。」「身近な郵便局はなくなるわけではない。」「民営化により、350兆円もの膨大な郵政の資金が官ではなく、民間で有効に活用されるようになる。」などです。 郵政民営化に対する評価にあたっては、小泉元総理が言っていたことが本当なのかどうか、国民のためになるのか、ひとつひとつ再確認してみたいと思います。 (1)民営化によって競争原理が導入され、サービス改善が図られ、利便性が向上する。競争原理が導入されたといいますが、料金が安くなったかといえば、そうではありません。むしろ、代金引換郵便の手数料や払い込みの手数料など、次から次へと値上げされてしまいました。なかでも、定額小為替の手数料は10円から100円となり、10倍の値上げになりました。民営化に先駆けて、時間外窓口も次々に閉鎖されてしまいました。さらに民営化に伴い、集配局は 大幅に集約され、郵便物の配達日数がこれまでより多くかかる地域も増えており、今まで翌日に到着していた郵便物が三日もかかる事例もあります。また、アルバイトが増えたせいか、誤配達が目立つようになってしまいました。これでは、サービス改善どころか、大きなサービスダウンです。そして、何よりも悲しい大きなサービスダウンがあります。	郵政民営化というまちがいが起こってしまった過去はもう変えられません。しかし、未来はまだ変えられます。どうか気づいてください。株の売却は絶対にやめてください。以前のように3事業一体経営で、安定した郵便局経営を実現できるようにしてください。国民の皆様が安心できるように郵便局のネットワークを守ってください。まだ、間に合います。株を放出してしまったら、日本は終わってしまいます。	よろしくお願いします。
		(2/6) これは民営化前、近くの郵便局で実際にあった話ですが、ある日、郵便局員がひまわりサービスで独り暮らしの老人のところを回っていると、そこに住んでいる方が、何度呼んでも応答がない・・・おかしいと思った郵便局員が、家の中をのぞいてみると、布団の中で亡くなっていたということです。郵便局員の発見がなければ、ご遺体は腐蝕し、たいへんなことになってしまったことでしょう。東京にいる息子さんにすぐに連絡し、とても感謝されたそうです。しかし、民営化されたことで、今までの郵便局ならではの、温かくて細やかなサービスはなくなり、宅配便や銀行と同じになってしまいました。 (2) 民営化され、税金を払うようになれば、財政再建に貢献する。郵政公社時代は、利益の50%を国庫に納付することになっていました。これは国と地方分を合わせた法人税率(約40%)より高くなります。固定資産税相当額の二分の一を、所在する市町村に納付することも法律で義務付けられており、社宅などにかかる固定資産税も含めて、2004年度に百六十八億円を納めています。政府の試算をもとに、郵政公社と民営化後の会社の納税(納付)額を比較すると(2007年度から2016年度の10年間)、民営化会社は郵政公社より約四千億円も少なくなってしまいます。全体では民間企業の税負担より多くの納付金を国と地方に負担しています。民営化は国の財政にも郵政事業の収支にもプラスにはなりません。		

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
		(3/6) さらに民営4分社化されたことにより、非効率な仕事が増えたうえに、人員削減されたために、社員の営業する時間が減り、全体の士気も下がり、収支も悪化しています。政府が望んでいたような税収は期待できません、このまま収支が悪くなった新会社が税金分をすべてかぶるとは到底思えず、最終的には上記で述べたように、各種手数料等の値上げで賄っていくことになり、税金分の付けが国民に回ってしまうことになります。つまりは、知らない間に国民に対して増税が行われたのと同じなのです。 (3) 身近な郵便局はなくなるわけではない。本当にそうでしょうか？現実には簡易郵便局がいくつも窓口閉鎖され、郵便局の数は減っています。さらに今のままでは、民営化後3年以内に、ゆうちょ銀行とかんぽ生命の株式が上場され、2017年までに完全売却されることになっています。となると、間違いなく株式の一部は、米国系の金融機関やファンドが購入するでしょう。そして、株主提案権を得た彼らは、あれこれと経営に口を出してくるはずです。		
		(4/6) まず、間違いなく提案するのは、「経営の更なる合理化」です。現在、ゆうちょ銀行・かんぽ生命は、全国24,700か所のネットワークがあり、地方の小さな町や村にも窓口を持っています。民営化後は、窓口会社に委託手数料を支払わなければならないが、これだけの数の窓口を維持していけるかどうかは疑問です。日本最大の三菱UFJ銀行でさえ、合併時に支店の数は670店程度でした。民間会社になって、採算を重視していけば、とても新会社では、現在のネットワークを維持していけるとは思えません。株式公開後は、株主の提案に従って、合理化が進んでいくことは、誰でも想像がつきます。現在でも、ただでさえ地方には金融機関が少ない。儲からないところから撤退すれば、ますます都会と地方の格差が広がり、金融弱者を生み出していくことになるでしょう。 全国24,700の郵便局ネットワークはわが国の地域社会の宝です。一度崩壊したらもう元には戻せないということを、肝に銘じていただきたいのです。民間会社では、過疎地も都市部も赤字の郵便局は生き残れません。ドイツでは3万あった郵便局が民営化で1万3千に減り、かつ直営の郵便局はわずか5千局となりました。イギリスでは過疎地の郵便局が廃止されたため、社会問題になり、政府は存続補助のため1250億円もの支援をせざるをえなくなりました。1989年に郵便貯金を民営化したニュージーランドでは、金融市場の規制緩和で銀行が次々と買収され、90年代初めには同国の銀行の99%が外国資本に。これらの銀行は口座維持料を取り、さまざまなサービスに手数料を課しました。小口預金者は口座を維持することが困難になりました。さらに、相次ぐ支店の閉鎖で、銀行もATMもない町が生まれてしまいました。いま人口400万人のこの地で、国民の強い要望にこたえて、2002年に郵便貯金が復活、地域に密着した金融機関として再開業以来、堅実に預金者を増やしています。日本では報道さえされませんが、諸外国では郵政民営化を行い、国民に大きな負担や迷惑をかけて、やっと間違いに気付いたのです。とっくにその破たんが証明されているのです。日本は同じ過ちを繰り返してはいけません。		

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
		(5/6) (4) 民営化により、350兆円もの膨大な郵政の資 金が官ではなく、民間で有効に活用されるようになる 民間で有効に活用されるとのことですが、その民間とはいったい誰なのでしょうか？繰り返しになります が、株式を外資系の会社に買い占められれば、会社の支配権を握られます。350兆円もの日本国民の資産が、 合法的に外国で自由に使われてしまうということを意味します。現在、ゆうちょ銀行・かんぽ生命の資金はその3分の2以上が国債(財投債も含む)で運用されています。外資系の株主が「日本の国債で運用しないで、米国債を買うべきだ。」と提案してきたらどうするのでしょうか？大口で日本の国債を買い支えているゆうちょ銀行・かんぽ生命の資金が米国に流れてしまったら、日本にはどんな影響があるか考えているのでしょうか？9月15日にリーマンブラザーズが破産申請し、メリルリンチがバンカメに買収されて名前が消えることになりました。1日で4大投資銀行のうち2つが消えてしまい、17日には、世界最大の保険会社であるAIGが破綻し、事実上、国有化されました。AIGは、倒産を回避するための運転資金を米政府から貸してもらう代わりに、自社株の8割を政府にとられることになり、米マスコミや分析者の間では「金融危機はまだまだ続く」「損失総額の半分程度が出てきた段階」といった見方が多いようです。9月17日には、米国債に対するリスクを示す指標が悪化し、債券のリスクはCDS（債券破綻保険）の価格で示されますが、10年もの米国債のCDSは30ベーシスポイントにはね上がり、13ベーシスのドイツ国債、20ベーシスのフランス国債よりも高くなりました。米国債は、ドイツ国債の2倍以上のリスクがあるとみなされるようになってしまったのです。こんな話を聞くと、米国債で運用するのも決して安全ではないような気がしてしまいます。米国債の価格が大幅に下落した際、同時にドルも暴落しますから、米国債の価値は劇的に低下します。		
		(6/6) そのとき、もし、ゆうちょ銀行・かんぽ生命の資金の大半を米国債で運用していたらどうなるか、その影響は半端ではないでしょう。新しい経営者がどれだけ米国債での運用を認めるのかわかりませんが、そうしたリスクを念頭において、外資系の株主と対応できるのかどうか不安です。かつて日本長期信用銀行が破綻したとき、6兆円もの税金を投入し、わずか10億円で海外の金融に携わる人に売却されてしまいました。郵政民営化で4分割された会社の先にそのようなことは起きないのでしょうか？ゆうちょ銀行の預金高というのは、3大メガバンクを足したよりも多いということを忘れてはいけません。もし、万が一、ゆうちょ銀行が破綻したら、預金保険機構が支払いに耐えられるのでしょうか？かんぽ生命が破綻した時は、過去にさかのぼって予定利率が引き下げられ、年金をもらえると期待して積み立ててきた人が、実際に手にできる金額は予定の3分の2から半分に減ってしまう恐れがあります。実際にこれまでの生保の破綻では、そうした事態が発生しています。ゆうちょ銀行やかんぽ生命の株を売却するということは、国民の大切な資産をそうしたリスクにさらすことになります。政府は、これまで国民に対して、そのことを一言も説明していません。民営化の先はどうなるのか・・・国民にはっきり示す必要があります。		

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
361	山形県	民営化とは正しく「市場原理主義」による競争社会で、強いものだけが勝ち残る、〇〇に代表されるお金を動かし儲けることがすべてのような血の通わない、温かさの無い社会を連想します。特に地方に住む者にとっては、格差社会の大きなつけがお年寄りの暮らし、若者の就職等に非常に厳しい現実を突きつけており心の豊かさもなくなりかけています。 もともと郵便局は地域と密着しお年寄り子供に優しい存在として長い間、国の機関として地域の生活をささえてきました。税金を一切使わずその土地に根ざし高い公共性を地元に還元してきました。なぜ、民営化しなければいけなかったのでしょうか？ 今の郵便局の姿は窓口の中に間仕切りをつくり会社 を4つに分けたことで見た目のイメージも冷たさを感 じ、配達の人は貯金の通帳を預かることができずおじいちゃん、おばあちゃんの年金を届けられませんし、配達の時間も遅れる地域がふえたようです。窓口でも通帳を作るのに長い間またされ、確認資料作成により、いくら顔見知りでも何度も家を往復したという人も少なくありません。それに各種の手数料が上がっているところはやはり会社なんだと感じます。今の郵便局には以前のような温かさを感じられないよ うに思います。やはり民営化は地域にはマッチしません。	やはり、三事業の一体経営で効率の良い仕事をし、温かいサービスを地元に提供してほしい。	民営化前に示した民営化像とはかなり違うように感じます。
362	島根県	郵政民営化は大失敗だったと感じています。私の住む地域は田舎です。たまたま、目の前に郵便局がありますので普段は不便さは感じないのですが、土曜、日曜が休みになったことを不便に感じています。 ATMコーナーを利用しようと行ってみたら、時間が短縮されており、困っていても誰もいない。小包を出そうと持って行ったら閉まっている。郵便局へ電話を しても誰も出ない。以前は郵便局は優しく暖かかった のですが、なんだか冷たく感じることもあります。配達の方に貯金を頼んだら、自分達は金融の関係は取り扱えないと断られます。 民営化前には考えられなかったことです。よくもこんな不便な会社を作り上げたものです。民営化の内容については都会のほうで決めたようですが、日本の国を隅々まで調べ上げていれば、分割民営化の発想は出なかったと思われます。民営化することは仕方がないにしても、分割してまでする必要が本当にあったのか疑問です。	分割した会社を一緒にして以前のように便利な郵便局に戻して欲しい。銀行や生命保険の会社のように都会にしか店舗を持たない会社になって欲しくありません。	都会と田舎は違うのですが、郵便局まで無くなったら大変です。国民として税金も払いこの国に居住しています。この地域に住めなくなる世の中であれば、それなりに国は保証をすべきです。田舎のみなさんは本当に困っています。
363	東京都	民営化で郵便局の状態が悪化するとは思っていたが、ここまでひどい状態になるとは思わなかった。正確な数は把握していないが、極端に利用者が減ってしまっている。先行きが不透明な会社をだれが積極的に利用するだろうか？長い歴史の中で培ってきた信用をだれが取り戻してくれるのか？評価は点数がつけられないほどのマイナスだ。	皆が利用しやすい機関として、他の銀行、保険会社、宅配便とは違う特徴を持つべきだ。民営化＝一般企業という単純な考え方を一度捨てるべきだと思う。	まず、郵便局を後世に残すものとして、整備することが必要かと思われる。民営化したから倒産も売却も何があっても良いという考え方ではいけないと思う。まず、国民にも良く見える形で議論をするべきだ。
364	長崎県	郵便：窓口での小包の受取り等、従来すぐに対応されていたものができず、大変不便になった。 貯金：民営化されたのに1000万円という限度があるのはおかしい。良くなると言いながらそうなっていない。 保険：外務員の皆さんが忙しすぎるように思える。以前のようにいろいろと相談する時間がなくなった。人も減っているようだ。全体的に「良くなる」という民営化前の言葉は私の住む田舎では全く絵に描いた餅である。	期待はない。民営化に対する見直しが行われるならば、早いうちに抜本的見直しが必要であると思う。	政治家が国の絵を描くのは役目であるが、その絵具は国民のものである。大切に使ってほしい。国や郵政グループの上層部は国民の声を大きく反映した経営ができるよう今後見直しを進めて頂きたいと懇願する。
365	東京都	1　完全な失敗です。これまで以上に郵便・貯金・保険の縦関係が強く検査監査が厳しくなりお客様を待たせることとなりました。 2　少人数にも関わらず銀行と同じことを求めることとなり正当化確認等お客様に迷惑が掛かっています。 3　事業会社と郵便局会社が同じことを取り扱っており、お客様に混乱を来している。同じ会社とすべき。	小規模にあった銀行業務、事業会社と郵便局会社は統合すべき。	山間地の年齢を重ねた方にも優しい三事業一体となった事業に戻ることを多いに期待しています。
366	島根県	＜良くなった事＞ 今のところ何もない。 ＜悪くなった事＞ ①分社化によりマネーレタックスが利用できなくなり、弔事が土、日にされることが多いが後納による電話引受を行うことができなくなった。 ②小包の集荷がされなくなった。 ③地元の産品が送れなくなった。	①一般貸付制度の創設。 ②民営化前のサービスはすべて元に戻す。 ③ATM取扱時間の延長。 ④民営化により利益の上がらない郵便局の廃止があると聞くが他の金融機関がない地域は存続されたい。	職員は公務員でなくても良いし、無駄なところは省くことは賛成だが、公的な公平なサービスを行っていた事業所として、公務員らしくない公務員であり、気軽に話ができる、すばらしい施設であった郵便局を民営化するべきでなかった。政府が管理する特殊な民間施設とされたい。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
367	福島県	民営化に伴い、いろんなことが複雑になり郵便局の貯金や保険は利用しにくくなっている。また、郵便は引き受けと配達が別会社の時もあり、苦情や意見がストレートに伝わらない時がある。もう少し制度の見直しが必要では無いかと思う。	自由度も大切だが、今おかれている金融不安や経済不安などに対して、安心して利用できる郵便局として利用者の生活基盤の基本となるような会社にして欲しい。	ー
368	福島県	良くない。 ・お客様の待ち時間が長くなった。 ・事務取り扱いが細かく煩雑になった。 ・職員の処遇面では、会社間の格差が出てきている。	・事務の簡素化。 ・お客様の待ち時間を短くする。 ・営業体制をつくる。 ・人事評価の公平性 。 ・郡部、都市部との違い。 ・2名局との目標困難度の違い。 ・2名局が特昇等評価が高い。 ・渉外非配置の場合2名局は2名、3名は3名、4名局は4名、5名局以上（担当課長配置局）で分け、数字目標を同じくして評価してほしい。	ー
369	長崎県	民営化前まで、小包を郵便局に引き取りに来てもらっていたが、郵便局では引き取りができなくなり、郵便事業会社から引き取りに来るようになりました。しかし、引き取り時間が非常に遅くなりました。また、貯金・保険も手続きが複雑になり窓口での待ち時間が長くなりました。民営化・分社化して郵便局の良くなったところはなく、失敗だったと思います。	今のままでは、何一つ期待できません。もう一度、元の一体経営に戻すべきだと思います。一般の民間会社は、経営の効率化を求め合併等行っているのに、時代に逆行した会社の切り売りをしているようでは、将来に期待をもてません。	我々田舎者は、近くに郵便局しかなく今まで心のよりどころとしてきたのに、最近は規則に縛られているみたいで、少しの融通もきかないし、地域の人から離れていっているみたいです。早く元の郵便局に戻し、心のよりどころを返してください。
370	愛知県	現場サイド：ハード面、ソフト面ともども整備されないまま、民営化ありきでスタートしたため混乱の毎日。 お客さまサイド： 郵便局がこんなに面倒、不便でしたか。	今の流れでは期待はもてない。	最検討のうえ、修正法案を出さない限りこの民営化は近代日本の最大汚点となると思う。
371	宮城県	振込み等の手数料の値上げ、待ち時間の増加などお客さまサービスが低下している。簡易郵便局の廃止は、ユニバーサルサービスが崩壊 している証明だと思う。分社化により、事業効率が悪くなっていると感じられる。	グループ会社間での効率化を進め、三事業一体化を図ることにより、本当の意味でのお客さまサービスの向上につながると思う。分社化自体の修正が必要だと考える。	今の日本に必要なのは、人々が明るい将来を期待できる世の中になることだと思います。そのためには、ただの営利追求の自由競争主義ではなく、すべての国民にあまねく公平に三事業一体のサービスを与えようとする公益性の高い郵便局という存在は、必要だと思 います。アメリカ発世界同時不況の今、国民の財産である郵便局の貯金、保険の保有残高を守る必要から郵政株式処分凍結法案を成立させる必要があると思いま す。
372	群馬県	評価できる点は無し。かつて国鉄は民営化し、サービスが向上したことは周知のこと。郵便局は公社化以前からサービス向上に努めており、好感度No.1であったことも周知のとおり。郵便局が無くなってしまうとの不安をあおっていることはむしろ、マイナス要因。	なし。収益第一の企業となるのか、ユニバーサルサービスを重視し国民のための企業となるのか、目的が不明瞭。	いまさら三事業一体の経営などという非現実的なことを求める気はない。銀行が出店しない山間地の切り捨てにつながる株式売却（不採算地域の切り捨て、利益をあげられない地域にも国民は住んでいる）には、絶対反対する。ライフラインとなる年金の受け取りにタクシーを頼まなくてはならないなど、文明国にあって良いことなのだろうか・・・
373	京都府	サービスがよくなったと感じられない。料金の値上げがあったり、窓口の待ち時間も長くなったようだ。会社単体で見た場合、郵便局会社や郵便事業会社は経営的に成り立っていくのか心配だ。ユニバーサルサービスの維持が不可能になるのでは。	ユニバーサルサービスは絶対に守ってほしい。貯金や保険も全国どこにお住まいの方にも利用できる現在の状況を継続できる法律に直してほしい。	国の優良資産である郵便局網をうまく活用して価値を高めていけばよい。
374	山形県	「こんなはずではなかった」・・・世界的に閉塞感が高まる中で、何につけ、こう思っている人は少なくないであろう。私にとっての郵政民営化も、まさに「こんなはずではなかった」と言える。私は、7年半前に、民間企業を退職し、当地で旧特定郵便局長になった。当時を振り返ると、郵便局の実態を知るにつけ、官のにおいに違和感を覚えたし、その意味では、来るべき公社化、そして突然おとずれた民営化に、ある意味、「面白くなりそうだ」と思ったものだ。 「民営化になれば、規制枠も解かれサービスを拡充でき、お客さまに喜んでいただいて、私たちもうれしい」と、単純なイメージを描いていた。しかしながら、期待はみごとに裏切られた。民営化になって、むしろ官僚的色彩は強まった。中身より形式的な管理が強化され、サービスは低下した。経営陣はビジョンを語ることも無く、目先の数字を追うばかりで現場のモチベーションは下がりっぱなしである。本来、お客さまである国民のための郵便局であるはずなのに・・・こんなのは、民営化ではない。	今の延長では、期待はできない。もう一度、最初から「あるべき姿」を探るべきであろう。そのポイントの一つは、国民生活を支えるインフラ、ユニバーサルサービスのあるべき姿を探ること。二つ目は、景気刺激策としての、これまでやりたくてもできなかったユニークな事業を探ること。これらを一つの会社、事業体で行うことには無理がある。分社化を問題視する向きもあるが、今の4分社でも一つ一つは大きすぎで、身動きもとれない状態である。むしろユニークな会社をたくさん作った方が全体としては活性化するのではないか。小さな会社では、ユニバーサルサービスができないということはない。ネットワークの活用のしかた次第であろう。この時、重要なことは、官が口出しをしないと言うことである。	先日、「国を支えて、国を頼らず」という本を読んだ。「一身の独立なくして一国の独立なし」・・・「独立自尊」の精神に代表される福沢諭吉翁の人生や 思想をまとめたものである。郵便創業期の郵便局長は、こうした思いのもと、立ち上がったのではないかと思う。指針としたい。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
375	群馬県	私は郵便局に勤める者です。郵便局の業務は民営化に向いていないと思っておりましたので民営化反対でしたが民営化以後やはりこの民営化は失敗だったと思っています。 まずお客様に対するサービスが民営化すれば必ず良くなるとしていたものがかなりの部分でサービスダウンとなっていることは明白です。お客様（国民）もほとんどの方はおかしいと感じていられます。 働く側においても多くの仲間が民営化とともに辞めていきました。モチベーションも上がらず将来性の見えてこない職場に魅力はありません。以前は地域のお客様のためになるすばらしい仕事だという自負がありましたが今は目先の利益を最優先にしなければならないことにジレンマを感じます。	お客様は郵便局というブランドに信頼をよせ、自分の生活設計のために貯金・保険を利用していただいています。郵便局が地域でとても重要な役割を果たしているということは毎日の業務からとてもよくわかります。 簡単に倒産したから業務を今日からできませんでは済まないでしょう。赤字になったからこのお店は閉めますということもできません。株式の売却等があれば間違いなく株主は赤字局の閉鎖を要求するのではないでしょうか。民営化を元に戻せとはいいませんが株式の売却には反対です。	持株会社の下に窓口・郵便・貯金・保険の各会社に分かれましたがかえって採算が悪くなったと感じます。お客様の側から見て不都合に思えること・おかしいこ とは見直し論議にならないでしょうか。
376	神奈川県	様々な手続きが煩わしくなったように思う。特に窓口を利用した際、待たされる事が多くなった。明らかにサービス低下と感じる。さらに最近、郵便局やATMの閉鎖が都市部においても目立ってきた。 以上のことから、なぜ民営化に踏み切ったのか疑問を感じている。郵便局の窓口で働く人の応対は民営化でさらに良くなったので、このことが唯一の成功だろうか。	最近の金融危機で、以前のような身近に感じる郵便局に戻ってほしいと強く感じるようになった。至上主義に偏りすぎず、何か起きたときの最低保障はどの分野でも残して置くべきで、金融の分野でいえば郵便局なのかもしれない。	－
377	長野県	性急にことを運ぶために、国民無視のとにかく分割民営化ありきの結果が現在の姿であり、断じて受け入れられるものではない。	国民、特に過疎地域に生活する人々に対するサービスのあり方を再度検討する必要がある。とにかく採算ありきでは、過疎地域におけるサービスは維持できない。 採算を重視しなければならない部分あるいは地域もあるけれども、採算を無視してまでサービスを維持しなければならない地域・国民がいることを再度認識して民営化を見直さなければならない。	郵政事業のサービスの提供は全国均一であまねく公平であるべきだが、事業の運営は各地域に在ったきめ細かな対応が必要である。現在のサービスの提供や事業の運営を見ているとまさに正反対である。何が何でも全国均一の施策中心で、地域にあった決め細やかな対応などまるで考えられていない。 たまたま私が現在貯金の担当をさせてもらっているので、特に感じるのであるが、貯金の金利も全国一律である必要はもはやなくなっている。各地域・他行の動向・金利の状況をにらみながらきめ細かに対応する時代である。ユニバーサルと全国均一を履き違えているのではないか？
378	北海道	民営化後は、時間外、土曜、日曜に郵便局が開いていないことで、小包を送ることができず非常に不便である。また、電信為替の廃止、振替え利用金の値上げ等、民営化以降良くなったことはない。	民営化後期待はできない。今のままでは、地方の郵便局は無くなるのではないか。早急な見直しをしてもらいたい。	早急な見直しを
379	愛知県	民営化したことにより利用しづらくなった。待ち時間が長くなった。面倒くさくなった。民営化によるメリットが見えてこない。民営化したのは良くなかった。	今後民営化によるメリットが現れてきてほしい。	民営化法案の修正が必要だ。
380	新潟県	民間企業であれば、採算の合わないことはやらないし、そうなった場合はそこから撤退すると思います。郵便局も将来、そのような状態になった時、一番影響を受けるのは地方の過疎化、高齢化の地域だと思います。そういう地域に住む人たちを切り捨てても民営化をもっと進めていかなければならないのでしょうか？	－	－
381	山口県	三事業を分断、分社化したため利用者に不便とサービスダウンをもたらし、また、地域社会とのつながりがなくなり、地域貢献の役割が見られない。郵便局利用者が次第に離れ、経営的に次第に厳しくなると見られる。郵政民営化は失敗だと評価する。	民営化を見直し、せめて郵便事業会社と郵便局会社は一体に戻すべきだと思います。利用者の立場からも事業経営上からも合理的だし、自然の姿だと思います。ゆうちょ銀行と簡保生命は株式上場の道に進むのは反対、政府が所管するシステムを検討すべきだ。そして、ユニバーサルサービスとして、「ゆうちょとかんぽ」を全国的、組織的に国民、地域利用者に提供すべきです。	地域利用者は郵便局に対して、「窓口で長く待たせる」「配達が遅くなった」「料金が高くなった」「本人確認が厳しすぎる」「入院保険金の支払が他の金融機関よりも遅い、郵便局が一番遅い」など不満が強い。郵政民営化見直しを法律改正して国民的視点、利用者本位の郵便局を実現してください。
382	栃木県	郵政民営化後に特に感じたことをお話します。 1　効率化を図るためか、正社員が少なくなった。契約社員について、もっと業務指導してからお客さまと接してほしい。 2　小包の配達が、再配の部分でサービスがダウンである。地域を統合している。今まで近くの郵便局で小包を受け取れたが、10km遠方となった。 3　郵便物の消印は近くの局で行っていたのが10kmくらい先の局となった。 4　郵便窓口が何かばたばたしている。今までの三事業一体である方がよい。 5　競争のあまり格差を生じている。 6　利益追求が強くなったことか、サービス面での努力が少なくなった。	今後の方向として、現在の四事業を統合して、郵便・貯金・保険・窓口を一事業体で民営化を進めてほしい。	－
383	大阪府	国民は今、国（政府）に対し、不安を感じているのではないか。自己・企業責任も大切ではあるが、安全・安心・信頼・心のよりどころが日本国には必要ではないか。その意味で郵便局が必要であると思います。	－	－

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
384	福岡県	率直に言って分割民営化は国民、郵便局利用者にとって評価出来る段階ではない利用者にとって不便極まりない事ばかりである。保険にしろ、貯金にしろ遠くの集中局からの営業で社員との親密感が生まれない、特に郵便関係では、夜間や週末、祝日に窓口で郵便物を差し出したり受け取ったりする事が出来なくなった地方の局周辺の住民は大変不便になった、不満が多い。過疎地の郵便局は利益が少なくとも絶対に閉鎖しないでほしい。局社内(窓口)を板壁で間仕切りしてお客さま対応しているが利用者から見れば極めて感じが悪い、特に旧集配特定局が悪い。他社の社員との昔のような相互交流が全く出来ていない、それが営業面に出ていると感じる、相互の社員が情報を共有化しての営業が必要と思われる。そのためには3事業一体の事業経営が大切と多くの国民は思っていると考えられる。備品類が同じ局舎内で他社の物品は使用出来ない経費のムダと思われる。	今後は是非とも3事業一体の経営で効率的運営をすることで、お客さまが期待しているユニバーサルサービスが出来ると考えられる。何事も本社一括の体制処理と聞くが、ある程度は現場の管理者に任せた事業運営をする事がそれぞれの役職者がやる気を持って仕事に励むのと思われるが、今は上からの通達、命令に忙殺され役職者自身の考え知能が発揮されていない事が多々あると思われる、そのため上位役職者を目指す職員が、少ないと聞く、働き甲斐のある郵便局づくりをして欲しい。老人や地方に優しい郵便局を何としてでも存続させお客様にユニバーサルサービスを提供してほしいとせつに願うものです。	今世界中が金融危機で経営者は大変だと考えますが、国内では政府の働きで非正規社員を正規社員として人材を確保している状況のなかJPグループは正規社員をどんどん削減し非正規社員化を進めている現状と聞くがこれでは適切、的確なお客さまサービスは出来ないと考えるが…。
385	長野県	金融機関の少ない農村地帯の小規模局を利用していますが、民営化前はとても親切で手軽に利用していましたが、民営化後は、本人証明とか、いろいろな書類等を出さないといけなくなり、年寄りには大変不便な局になりました。その上に以前よりも長い時間待たされサービスがとても悪くなりました。他の金融機関に移りたい気持ちですが他に機関がないものですから、我慢しながら利用している者で、利用者が不便に泣かされる民営化はあり得ない、誰のための、何のための民営化だったのかと思っています。	1、で申し上げたものは、ほんの一部に過ぎません、他にも問題はたくさんあります。以前のように手軽で、便利で、親切な、国民の財産であった郵便局になりますように、各機関の実態を十分把握のうえ、誤りを直すのにはばかることは無いのでから改善されるよう期待しています。	改革の本丸と銘打って行った郵政民営化に、国民はだまされたと思っています。
386	岐阜県	ー	小泉首相の行った郵政選挙により日本郵政公社は4つの会社に分割民営化された。民営化から1年、一見、順調に推移しているように見える。しかし、19年度の決算を見ると、順調に黒字を出した郵便、ゆうちょ、かんぽの各会社とは対照的に郵便局会社は、惨憺たる利益額であった。郵便局会社の社員1人あたりの儲けは、1年換算で約5万円。自前の営業社員を持たないがため、高利益を計上した、ゆうちょ銀行、かんぽ生命。これに対して、営業の店舗、営業社員を集め、営業の手数料により郵便局会社が成り立つという民営分社化がいかに間違ったものであったかという証です。3年毎の見なおしであっても、国営への先祖帰りは出来ません。そこで、郵便局会社の営業担当社員は、ゆうちょ、かんぽの各会社へ、転籍を提案します。自社商品を他所の社員に販売させるような会社の形態を以っての、郵政民営化自体に問題があると言わざるを得ません。将来的に、グループ各社が安定的な経営が出来るように、社員の配置を代えて頂きたい。	ー

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
387	三重県	郵政民営化こそ構造改革の本丸、私たちの町と暮らしを元気にするもの（郵政民営化準備室政府広報より）。本当でしょうか。 毎年アメリカ政府から日本に対し、様々な要望が提示される年次改革要望書。郵政民営化もその中のひとつである。あるニュース番組が、この改革要望の実現に最も貢献したとしてアメリカに絶賛されている人物、それが小泉純一郎であると報道していた。 小泉元総理は、郵政民営化法案が参議院で否決されたにも拘わらず衆議院を解散するという暴挙に打って出、メディアを最大限利用して小泉劇場なるものを演出し、民営化の本質をその陰に隠してしまった。 「郵政民営化賛成、改革賛成」と唱えれば当選するという異常な事態になり、80名余りの小泉チルドレンなる者が、まるで雨後の竹の子のように誕生した。 ある新人女性議員は当選直後のインタビューで郵政民営化について問われ、「今夜、主人に聞いて勉強します。」と臆面も無く答えていた。これほどにも信念も知識も無い議員たちによって日本の将来が左右されるのかと思うと、心底腹立たしく残念でならなかった。その後、郵政民営化法案は再可決され、07年10月対に民営化はスタートした。しかし民営化すればばら色の日本が待っているとの政府広報に相反し、一年を待たずしてサービスは低下。廃止を余儀なくされている。 簡易局の相次ぐ閉鎖、時間外窓口の廃止、不採算ATMの撤去、定額小為替の廃止、待ち時間の長時間化…。更に2010年の株式売却の結果、膨大な資金がアメリカに流れた時、果たして日本の未来は…。 「官から民に、民間に出来ることは民間に」とする考えは大いに結構である。 しかし、全国一律のユニバーサルサービスの維持は利益を最優先とする民間企業には、到底無理な話である。 郵便局は三事業一体でこそ意味があり、それこそが「私たちの町と暮らしを元気にするものである」	ー	ー
388	香川県	1　郵政民営化は四分社化により従来の三事業一体の効率的な運営と地元住民に密着した温かみのあるサービスがなくなりました。 2　特に郵便局内に於ける間仕切りと各会社間の連携の無さに利用者の不満は爆発しています。 3　このまま推移すればゆうちょ銀行を除き、かんぽ生命、郵便事業会社の顧客離れが進み、衰退の一途を辿ると思います。その結果、郵便局会社の取り扱いも縮小し、過疎地における郵便局の閉鎖に繋がります。 4　強引に郵政民営化と四分社化を進めてこられましたが、国民に見放され、事業として成り立つことが難しくなるとすればドイツ始め諸外国の例もあるように早急に見直しに着手すべきと考えます。	1　前述1の評価で申し上げたとおり郵政民営化そのものを見直すべきであり、期待は出来ません。しかし、直ちに見直しがおこなわれるわけでもありませんので、以下の点について要望と期待を申し上げます。 2　平成の大合併により、過疎地の町・村役場をはじめ、公的施設が無くなる中でユニバーサルサービスの拠点として郵便局会社のサービスの質的充実を期待します。 3　民営化による効率化として正規職員を削減し、大量の非正規職員の雇用が目立ちます。しかし、短時間労働・低賃金・研修指導の不十分さ等でサービスが著しく低下しています。各会社とも人的資源は企業の命です。しっかりとした正規社員によるサービスの充実を期待します。 4　四分社化により各会社間の連携が悪くなり、利用者の不満が募っています。一例ですが、郵便局会社では貯金の窓口に長蛇の列ができ、郵便窓口で閑古鳥が鳴いている状況でも相互応援は無く利用者の怒りを買っています。	郵政民営化がスムーズに進んでいない状況の中では当面、株式の売買は凍結し、冷静に事業の推移を見守る必要があります。懸命な郵政民営化委員会のご英断を期待します。
389	福島県	(1) 民営化1年を経過したが、社員は数々のマニュアル等で混乱し、経営理念にある「将来に夢を持ち働き甲斐のある職場」でなく、多くの人が職場を去った。またコストが最優先され、人員は削減され、一人あたりの業務量は激増したものの残業は削減という相反する指示に、(本社の業務量とは、ひとり一人のお客さまの年齢・知識等を無視した上の計算による1件あたりの処理時間)混乱している。 (2) 社員は、証明書類の不備等の事務ミスや重大事故に対する問責、損益上のマイナスに神経を尖らせ、営業力は下降線を辿り士気を揚げる材料が見当たらない。 (3) お客さまは、分社化されてよりよくなったサービスは、何一つなかったと断言できるのではないか。特に高齢化の進んだ地方においては、何の手続をするのにも郵便局が一番面倒と言われている。お客さまが 離れていく現象に歯止めがかからない。身近で信頼できる郵便局は脆くも崩れ去ってしまった。 (4) 民営化ありきで進んできた郵政民営化は、サービス・利便性の向上を目的としたものでないことは明らかであり、そのツケを我々国民が被っている訳であるから、到底評価できるものではない。	ー	ー

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
390	茨城県	(1／2) 最悪の改悪以外の何者でもない。国民にとって何のメリットがあったのか？私は郵便局はその資産を含め国民の大切な財産であると考えている。今回の民営化は郵便局をなくすためのシミュレーションではないかと思えるほどである。それとともに日本の文化と社会資本を壊してしまったことは、必ずこの国の将来に大きな禍根を残すのではないかと危惧している。「理念なきところに創造はない」という言葉のとおり、先ず郵政民営化ありきで深い論議もなく付け焼き刃で作った形態の会社とグループは今更ながらその意味すら不明である。下記のとおり民営化の問題点を指摘したい。 (1)経営の自由度は下がっている 当初国営の枠から離れることは、経営の自由度が上がることで、郵便局の利便性が格段に向上するのではとの認識があったが、現実は規制の山で民営化前のほうが余程自由度が高く、小回りの利く機動性のある仕事ができた。郵便物やふるさと小包の集荷など局会社には原則許されていないが、こんなことで他の会社との競合に打ち勝っていけるのか、はなはだ疑問。郵便事業会社の収益の悪化にその答えが明確に現れている。 (2)サービス低下、分社化の意味が見えない 分社化によって、三事業一体の複合的なサービスが停止や廃止に追い込まれているものが多数ある。また、郵便局会社と各事業会社とのグループ間の無用な摩擦が民営化前よりも増えている。そもそも仕事の内容がほぼ同じなのだから、利害が発生することは当たり前であるが、このことは著しい非効率を発生させている。今の日本郵政グループはグループ全体の利益でなく各社が自社の利益のみを最優先させる歪なグループになっている。また、経費上の無駄も著しく増えている。使わなくてよい経費(分社化による共通部門等のロス)をたくさん使い、本当に求められる経費(営業面や設備に掛かる経費、交際費など)の使用が大幅に制限されているのが現実である。黒字経営が求められている中著しく非効率である。	郵便局は公的機関ではなくなったが、依然としてどの地域においても欠くことのできない日本的社会保障のシンボルであることに変わりはない。「地域貢献」、「社会還元」をしていく姿勢こそ本来郵便局のあるべき姿であり、民営化後の郵便局が目指すべき新しい枠組みの会社への挑戦である。「経済性」を大切にしつつも、単に「経済性」のみで測ることのできない貢献をしていくことが大切である。そのためにも、下記のとおり根本的な仕組みとシステムの見直しが急務である。 (1)株式売却の凍結による安定的な経営基盤の確保 (2)三事業一体の会社への合併によるサービスの向上と経費的な無駄の排除 (3)金融2社へのユニバーサルサービスの義務化 (4)資金運用方法の見直しによる地方経済への貢献 (5)ゆうちょ.かんぽの限度額撤廃による利便性の向上と他金融機関との不公正競争の解消 (6)郵便事業における集配拠点の再見直し及び増設による業務の正常運行の確保	郵政3事業は、ネットワークと人が財産の事業であります。現状はとても働きがいのある会社とは言えません。民間はこんなに規制が多かったのかと思う反面、公務員であった時代よりも更に小回りの利かない硬直化した組織を暗涯たる思いで眺めているのが現実です。もちろんコンプライアンスは大切ですが、法や指導から取扱いを考えるのではなく、現場の実態に即した取扱いを明文化するというような方法を採らないと現実との乖離が大きくなるだけです。自分で自分の首をしめるだけで、会社の安定的な経営基盤をつくるための将来像が見えてきません。郵政民営化の内容の大幅見直しについて、早期の英断を望みます。
		(2／2) (3)地域への還元はどうなっているの 民営化論議の際に国債での運用への依存が問題となっているが、現在も資金の、ゆうちょ銀行は80%、かんぽ生命は60%が国債で運用されている。これに対し地方債は5%程度である。地方や民間への還元はどうなってしまったのか？国も疲弊しているが、より疲弊している地方への資金の還元が検討されるべき。 (4)株式売却は大問題 株式会社となれば、見解の相違はあるが株主の意向が最優先されるのが当然である。株式を売却した場合、国民の大切な金融資産が規制もなく一部の人間にゆだねられてしまうだけでなく、公益性より利潤の追求が求められることとなり、不採算地域や不採算部門の大幅な切り売り、切り捨てが行われることを危惧している。諸外国の例を見てもこの現実は否めないものがあり、特に外資系企業が日本の文化や現状を認識せずに切り売り、切り捨てを行った場合、金融不安を原因とした社会不安すら起こしかねない。 (5)金融難民をつくってしまわないか 現在金融2社にはユニバーサルサービスは課されていないが、上記(4)のようになった場合、まさに金融難民を作ってしまう事態が容易に想定される。		
391	福岡県	郵政事業が民営化されましたが、国民生活のために改革して「本当に良かった」と思われる点を見出すことが出来ません。郵政事業の民営化はこれまで実施されてきた政治、行政改革の中で、深刻な地域格差を生み出す最低最悪の改革ではないでしょうか。できれば速やかに少なくとも元の公社に戻すべきだと思います。そのことが、国民が望む「安全・確実・簡便」な郵政三事業の姿であり、国民から最も信頼され、親しまれる郵政事業であると思います。	1　郵便事業について （1）利用者に不便・迷惑を掛けない。少なくとも民営化以前のサービス水準を維持すること。（配達局統合のため、一部地域は非常に郵便の遅延、誤配達、差出人戻し等の事例が多発している。） （2）地域住民と配達員との親近感がなくなってきた。 2　ゆうちょ銀行について （1）本人確認手続きの簡素化（請求人と局側担当者が面識あるにもかかわらず証明書の提示を求めている。） （2）高齢者、身障者に対する代書の容認等	1　郵政事業は国民生活の利便のために無くてはならない公共性の高い国家事業として創設維持されてきたものであり、市場万能主義になじまない。 2　大切な国民資産が投資マネー化され、外国のファンドの餌食となることが心配される。
392	愛知県	すこぶる悪い！今まで郵便局で簡単に出来たことが民間になったと同時に必要書類等が複雑になり、手間もかかって事実上、お客さまにご迷惑をお掛けしている、又、お客さまからはとても不便になったとの声も多数お聞きしている。	2　民営化になって期待することは何も無いが、三事業一体に戻す必要性は大と言える。	全特全体にもっと「力」を持っていただきたい。必要なことはどんな理由があろうと、はっきり物申してください。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
393	埼玉県	(1／4) 単に「民営化」は良いものだと改革されなければならないという風潮に流され、民営化されたが、制度設計の不備によるサービスの悪化及び職員の不信を招き悪い環境であ る。 (1) 分社化は、企業経営に逆行 何れの民間企業も、合併等を行い合理化・省力化を図り経営の健全化を図る傾向にあるのに、なぜ5社に分社化されたのか。その狙いと目的が理解できない。ひとまず、企業形態はそのままにして、民営化に移行しその後分社化する過程を踏んでもよかったのではないか。収益性の悪い郵便事業会社・郵便局会社は、元郵政職員であれば人的産業で単独経営では経営困難に陥ることは常識的に承知しているはずである。各社とも元郵政部内経験者が経営陣(取締役)に入っていないという。郵政事業は民間に見られない特殊企業である、なぜ経験者を作為的に参加させなかったのか。元郵政省幹部は、社会に離反する悪人か、または経営の能力が低いと評価されたか余りにも非常識である。利用者は分社化に戸惑い窓口業務では、各会社とも他社間との連携を絶たれ利用者の照会等に不便を生じている。 (2) 垣根を越えた業務の扱い 金融界は、従来の業務の垣根を越え、例えば銀行では証券または損保を扱うなど、金融界相互間で扱い、開かれたサービスをするようになっている。形式的には店舗内で、他社で行っているのかもしれないが、利用者には同一に見える。なぜ、金融業務を行うゆうちょ銀行とかんぽ保険と分離したのか。また聞くところによると郵便事業と金融事業は合併できないという。郵便事業は国策的な要素を持った業務である。全国均一料金・均一サービスを行うのであれば収益性のよい金融業と合併し経営の健全化を図った らどうか。現行法規において、出来ないのであれば議員立法ででも行えるよう考えて欲しい。 このままで行くと委託手数料だけで経営する郵便局の店舗は閉鎖に繋がり、扱い量の少ない僻地の利用者に対する公平なサービス提供が出来なくなる。	(1) 経営の設計について 現在の経営の設計は、ゆうちょ銀行・かんぽ生命保険のみ有利な経営で、他社は弱体化に向かっている。サブプライムローン事件以来経済環境が変わった。小泉改革路線は、今見直しを行う状態になっている。民営化のままでよいが、特に郵便局の経営が持続できるよう他社3社と合併し、総合的に経常収支の強弱を助け合い運営していくことを期待する。 (2) 地方格差 都市と地方の経済格差拡大が騒がれている。従来の郵政省は都市部で稼ぎ地方をカバーしていた。郵政事業も民営化され商業の世界に仲間入りしたが、利潤追求ばかりに走ることなく、過疎地の利用者ならびに経済弱者に利用されやすいよう制度設計されてもよいのではないかと考える。このままで行くと地方の郵便局は閉鎖され崩壊に向かうだろう。過去になるが、大手企業(三菱重工)のトラック車両不備を経営陣が黙誰、ほりえもん、食品の偽造など不誠実なことが横行している、正しくあまねく公平にサービスができ安心して利用できる企業が求められている今日である。すでにアメリカの市場原理主義は、経済恐慌をもたらし失敗に終わった。従来とおり郵便局が利用しやすく堅実な経営が出来ることを望む。 (3) 持株会社・本社と現場の信頼回復を 職員が民営化を喜び、張り切って働ける職場の醸成が急務と考える。本社取締役に元郵政省幹部を50%採用したらどうか。元郵政省幹部は執行役員になっているようだが、執行役員は持ち株会社とコミュニケーションを取ることができていないのか、また旧郵貯振興会でも持株会社の意向が全くわからないと聞いている。大改革には、互いに信頼しあい進めていくべきと考える。	ー
		(2／4) (3) 本社と郵便局との信頼関係 職員は、民営化以来非常に緊張して張り切り勤務しているように見えた。然し現実は、民営化に将来の不安を覚え危機感をもって働いているようである。本社は、現場を信頼せず指示書等を頻繁に発出し、聞くところによると郵便局に対し6万ページに及ぶ文書を発して消化不良を呈している模様である。経営の姿勢は、事故犯罪の発生を非常に恐れ法令等の遵守に重点を置いているように見受ける。持ち株会社の事業計画書を見るとその点が強調されているように感じられる。悪く言うなら、経営陣は無事任期を全うしたい気持ちではないかとさえ憶測される。本社は現場を信用せず、信用されない現場は本社を信用できない環境から、互いに信頼由係が醸成されておらず、現場における志気は郵政省当時に比べ相当低下していると聞く。 (4) 郵便事業会社について ア　従来の料金設定は、例えば大量扱いの定期刊行の印刷物には第三種として低料金を設けていた。宅配便などは、市場原理主義なのか、扱量の多いものなどには料金割引をしている。小泉改革以来、経済的に強い者が有利な経済社会になっている。市場原理主義もアメリカでは大きく経済破綻を起こしている。日本は経済大国というが、小さな島国である。もうすこし日本的な経済社会が構築されないものであろうか。経済弱者または僻地の住民には、ますます住みにくくなる国になるばかりである。例えば、首都高速料金が収入増の一策として一律700円から距離別料金に改定する話がある。郵便料金の第1種、第2種国内一律料金についても、国は大きな組織・会社を嫌うきらいがある。将来地方別会社に分割されることも考えられ、経営が悪化した場合には、地方別料金制を求められないか不安である。 イ　集配局の再編を行ったが、広域にわたるため配達員の労働条件が悪化していると聞く。 ウ　ポストの開函回数が少なくなる。当地の場合は最終時間を切り上げた。コンビニエンスストアーなどは、24時間営業を行っておる。社会の行動時間が、昼夜を問わず動いており事業者の有利解釈でサービスを低下するべきでないと考える。		

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
		(3／4) エ　将来収益性の悪化で大型の作業施設･機械の導入は出来なくなると考えられる。過去においては、宅配クロネコヤマトは都心に作業場が無く路上でトラック2台の後部をつけ積荷の交換をするのを見受けた。事業会社も今後ジリ貧になり設備投資はままならなくなるであろう。 (5) 郵便局会社について ア委託手数料のみで経営するという、商品開発もできず、経営の主体性がない会社と見受ける。直感的に個人受託の生保･損保をイメージした。旧特定局においては、局舎を構え、従業員を使っていた。今後は、同様な構え方で経営をすることは困難になると考えられる。 イ経営の主体性がない会社が、お仕着せの商品を売る。営業戦略をどのように進めていくのだろうか。委託元の意向に従わされ意欲が沸いてくるだろうか、実例として、年賀葉書の販売において、郵便事業会社と郵便局との間に数多くのトラブルがあったと聞く。郵便局会社は、郵便事業会社･ゆうちょ銀行･かんぽ生命保険の営業は委託元とマーケットで競合することになるので、郵便局が弱い立場にならなければと危倶される。 ウ郵便局にコンビニエンス･ストア業務を兼ねさせるようだが、販売商品が多くなり収入は増えるが、事務手続きが細かく、正確を求められる郵便局業務とコンビニ販売を行うことは業態として可能であろうか疑問である。地方では、大型店の進出で旧来の商店がほとんど潰れ、遠隔地の大型店に車で出向く実態からすると、老人など車の運転できない方は、日用品等は喜ばれることと考えられるが、反面経験から事故犯罪が多くなるように感じられる。 エ委託手数料では、地方の扱い量の少ない郵便局は閉鎖に追い込まれることであろう。赤字になれば、問答無用で閉鎖にされること疑いない。その場合、過疎地では、金融商品の取扱のできる農協の店舗数も数少なくなっており、ATM対応では扱いに限度があり、現在よりも大幅に不便になることであろう。		
		(4／4) (6)ゆうちょ銀行について ア　ゆうちょ銀行は、3事業で一番の稼ぎ頭である。膨大な預金量を持ち、他に比べ収益性が高い。しかし、市場原理主義ではないが、高額な預金者には高金利をつけるなど、ここでも、弱者冷遇を行っておる。 イ　従来、特定郵便局においては、業務量の7割は郵便貯金で占めるといわれた。ゆうちょ銀行は委託手数料を払い、自己安泰型経営でよいのか疑問に感じる。 ウ　今後の貸付業務の如何にもよるが、どのような経過をたどるか心配される. エ　一時、利用者の本人確認が異常に厳しく不評買った。金融庁の指導と聞くが、在来銀行においては、さほど厳しくない、どういうことなのか判然としない。 オ　民間になったに関わらず、預金限度額1千万円という、行政はどうしているのか。不利益な選択技しかないではないか。 カ　付属施設の売却郵便貯金会館を二束三文で売却している。国有財産を粗末にしている。収益性の良い施設は、残すことが出来ないものか。 (6) かんぽ生命保険について ア　外来の生保(アリコジャパンなど)は、医療保険を勧めている。クリントンは、健康保険制度の創設に失敗した。今にしてみるとアメリカでは、医療保険の勢力が強く、日本上陸の手がかりとしてかんぽ生命保険を狙っているように思えてならない。 イ　民営化後、特にかんぽ生命は劣勢化している。原因は景気の動向なのか、アメリカに狙われているため志気が上がらないのか、判然としない。 ウ　貯金に同じく、限度額のアップはされないのか、理解に苦しむ。 エ　付属施設の売却、貯金に同じく、売却するという、収益性の良い施設は、残すことが出来ないものか。		

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
394	秋田県	「インタビューに見る、これまでの郵政民営化に対する評価」 小生の把握している、街頭に於ける具体的なインタビュー結果をシンプルに表すため箇条書きに記してみました。 ○ サービス向上に繋がっていないと実感する具体事例の一つに、各種手数料のアップがある。 ○ 部内者としての意見だが四社に分けた事で各社間の対立が激しくなってきた。鈷果サービスダウンが生じている。殊に日本郵便と各郵便局の関係は険悪である。次に、サービス向上の成果判断は早計と考える。部内職員のスタンス定着実態は経過措置期間というのが実情にあり本物は直近に期待して欲しい。 ○ 不採算部門の廃止は当然。地域間格差をなくし公平にと云うのは聞こえがいいが、都市部に住む人間が利用の少ない地方の代金を肩代わりしている事実を直視して欲しい。 ○ 国民は小泉政治に躍らされ、国民財産である郵便ネットワークを失ったが、国民の手に戻して欲しい。 ○ 直近の接遇対応は向上したと感じ取っている。殊にコンビニに窓口を設けた等は利便に貢献しているので民営化は歓迎したい。 ○ 小泉政治の改革路線を完遂の上、一時凌ぎの人気取りではなく、将来を見据えて欲しいと云うのは政局への要請である。 ○ 民営化でもろに被害を蒙ったのは地方である。利潤追求の民営化がサービス低下を招いた典型的なものであります。 ○ 都会の考え方をローカルにそのまま持ち込んだ不都合なものが結構ある考究の余地あり。 ○ 今どの企業でも不採算部門は持っている事だから、公共に対する貢献度も考慮すべきである。従って撤退の図式を必ずしも当てる必要はないと思う。	ー	ー
395	岩手県	① 同じ郵便局にいながら、社員は、他の事業を受けない、受け入れできないと言う、もどかしい。不便になった。もっと、社員協力、委託、提携をしたら、便利で利用し易い。(人がいても、しまっている。5時以降、土曜、日曜が不便を感じる) ② 郵便局会社の、手数料収入での経営形態は、将来とも採算が取れるとは、思われないので評価できない。最近、評判の悪い、派遣、委託会社の社員に見える。 ③ 各会社とも、サービスが落ち、利用の低下で収益が下がっていると見ます。 ④ 郵便事業に民間開放で都市部にメール便で食い込まれ全国を受け持つ郵便事業会社が、赤字になることに、関係しているのでは。	① 4つの会社でなく、事業別に、郵便、貯金、保険会社の各3会社を勧める ② 全国民が等しく利用できる、セーフティネットとして、郡部には、一体経営または、他の手当て等が必要。 ③ 株式売却の話があるが、売却先によっては、利益追求で、規模縮小を心配するので、まだ、国の保持管理が必要。	ー
396	福島県	民営化後の郵嘩局窓口サービスは給体的に低下してきた。例えば、簡単な郵便振替を利用してみると、これまでより待ち時間が長くなったことを実感する。また、貯金の預払いの際、顔見知りであるにもかかわらず本人確認の証明資料の提出を求められるなど面倒になった。	郵便局会社と郵便事業会社が一つの会社に統合されることを期待する。例えば、郵便局の窓口で、郵便物の配達等に関する問い合わせをしても明快な対応は不可。同一建物内の郵便事業会社に回され対処される始末。利用者の立場からすれば、郵便は、切手の販売・引き受けから配達まで一つの会社が責任を持って処理してくれていると思っていた。	貯金・保険の金融2社は別として、郵便事業は公社化すべき。民間会社では憲法第21条②は守れない。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
397	北海道	私は、人口六千人の小さな町に住む者として、郵便局が民営化後不便になった点について、意見を述べさせて頂きます。又田舎では、他の金融機関が閉鎖して引き上げて行っていますので、何時郵便局が廃止になるのではと、特に高齢者が不安になっています。 1　多くの郵便局が、配達をしない郵便局になりました。このことは報道でも取り上げられ一定の理解をしましたが、配達をしている郵便局で外務の配達員がいる郵便局が次の点で不都合になりました。 ＊土曜日・日曜日・祝日の郵便窓口が閉められた。そのために郵便小包や電子郵便・料金別納等が全く出せなくなった。以前のように窓口を開けられたい。又不在であったときに、窓口で受け取っていた留め置き郵便が、受け取れなくなった。よく留守にするため受け取るのに、配達にくるのを待っていなければならなくなった。不在で配達依頼する場合,今までは、電話料金市内料金なのに、今は三十キロも離れた郵便局に連絡することとなり市外料金が、かかるようになった。フリーダイヤル等を設置されたい。 2　郵便局で最も便利であった電倍為替(現金と電子郵便も同時配達してくれていた)制度が、何の説明もないまま廃止された。窓口等で聞いたら会社が分かれたためとのこと、理解できません。朝9時～午後4時迄に窓口へ出せば、全国何処でもその日に着くという最も素晴らしいサービスであったと思います。転勤族であった私には、特にお悔やみの時に、大変便利でした。会社が分かれたために出来ないのであれば、会社を一緒にすれば良いのではないか、利用者を不便にしないで欲しい。 3　地域の情報源として、公私のポスター・行事チラシ等が、郵便局に行けば合ったのが、今は、全て有料になったと言われて、どうなっているんだと思っています。民営化になった方が、自由で縛りが無くなると期待していただけに、残念でなりません。郵便局には、特に地方では、コミュニティの場として期待されています。規制緩和されてきているのに、逆行していると感じています。現場の管理する人に一任して、全て無料にされることを、切望します。	ー	ー
398	山口県	優・良・可で評価するならば可である。（国民の目線からは良くなった点は見受けられず、サービスの低下のみ感じられる。）	郵便局会社のネットワークは歴史的に国民の財産である。これが活かされることは国民がどこに住んでいても同じようにサービスを受けることが可能で、最も期待するところである。そのためには郵便局会社、郵便事業会社、ゆうちょ銀行、かんぽ生命が一体となっての事業経営が必要で、法的措置を期待する。	国民目線に立って良くなったと、実感できるように期待する。
399	山口県	評価出来ない。 ①民営化により、事業サービスの地域間格差の拡大。（特に、離島、山間地） ②郵便局のお客さまサービスの低下。（窓口における待ち時間、提出書類等）	残念ながら期待出来ない。 三事業一体化と株式を政府保有とすれば期待する。	ー
400	群馬県	1　私は、〇〇という匠たちの集まっている村で働いています。ここは色々な地域からやってくる体験者の作った器を焼き上げて、荷造りをして送り届けています。その配送をずっと郵便局にお願いしてきました。民営化する前は近くの支所の局長さんが荷を取りに来てくれたのですが、民営化になってからは専用の車でないと運べないという事で、取りに来てくれなくなってしまいました。民営化すると便利になると聞いていましたが、とても不便になりました。1回に50個から150個も発送するので、自分で持っていくのは大変です。何とかしてほしいと思います。 2　民営化すれば預金も自由化され、今までの1千万以上は利息が付かないということはなくなると思っていたのですが、相変わらず利息なしです。これはおかしいと思います。 3　私の工房も「〇〇」と言われる山の中ですが、ここから更におくに簡易郵便局があります。過疎地の局もなくさないと言いながら、既に500を越える極が消えていると聞きます。約束は守ってください。 4　私のところは、土日にお客が多いので、土日も出店します。郵便局の土・日休みは不便です。	ー	ー
401	北海道	地域社会の中で郵便局は地域のために一生懸命やってきたのだが、民営化移行は、地域へ協力できない状況になっている。他の会社は地域貢献を行って来ているのに、時代を逆行している。また、郵便局長を郵便局に張付け、地域に協力できないようにすることで、郵便局の営業活動にも影響があると聞いている。	株が上場されれば、郵便局は地方では存続できないはずである。	早急に民営化法案の見直しをしてもらいたい。
402	北海道	民営化以降、会社が分かれたため利用しづらく非常に困っている。局員苦労しながら仕事をしているようである。	郵便局を利用しやすくしてもらいたい。	早く見直しをしてもらいたい。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
403	三重県	・入院保険金の支払いに1ヶ月ぐらいかかっている。民営化前は、窓口で待っている間に支払ってもらえたのに。しかも手続きと受取の2回も行かなければお金がもらえないとは、非常に不便です。 ・遠い親戚でも弔辞用袋に入れて即日配達して頂ける 電信為替が非常に便利であったが、そのサービスが無くなり民営化て何だったのだろうと思う。 ・郵便配達に、振込み・保険料の払い込みを預けられなくなり、規制・決まりというものと取り払ってほしい。	・早く以前のような便利な郵便局に戻ってほしい。	・民営化は、お客のためでないように思えてきた。企業の、利益中心・採算優先・存続維持が感じられて予想外である。もっと我々にとって便利になるという話だったのに。
404	青森県	何を行うにしても細かいチェックが厳しくなったような気がする。郵便局は他の金融機関に比べて気軽に簡単にが魅力だったような気がするので残念だ。 ご挨拶、対応もあまりにマニュアル通りなので違和感をを感じる。民営化になってから積極的な部分や消極的な部分がはっきり分かれた感がある。（部門によって） 口座どうしの資金移動の無料は魅力があった。PRなどのシールなどの応募は厄介なだけで魅力が無い。もう少しすっきりした企画を考えた方が良いと思う。	民営化によって大きく変わった感が無いので一度原点に返って以前の郵政を見つめなおしてみればいかがでしょう？ 結論から申し上げて御社は我々庶民に対して魅力ある優しい提案してると思いますか？ まずは社員たちが魅力を感じることでないでしょうか！	ー
405	熊本県	（1）国民利用者の評価 ア．求められる証明・書類が煩雑で、高齢者には特に問題である。 イ．待ち時間が、特に長くなった。 ウ．郵便局社員との信頼関係が特に希薄となった。 エ．郵便局そのもののサービスが特に悪くなった。 （2）社員そのものの評価 ア．局内の間仕切りで、職場環境が極めて悪くなった。 イ．取扱手続が非常に煩雑となった。 ウ．配達センター職員のモラールが、著しく低下した。	（1）三事業一体の体制化が望ましい。 （2）少なくとも、郵便事業関係は一体化すべき。 （3）ゆうちょ銀行、かんぽ生命保険の金融機関はユニバーサルサービスを行うべき。	小局の局長権限は、全会社間に適用すべきと考える。
406	静岡県	小泉・竹中両氏が唱えていた利用者へのサービス向上はまったく実現されず過疎地の簡易郵便局の閉鎖も目立ち弱者切り捨てのとんだ改革となっている。	三事業一体の事業継続がのぞましい。外資の買収ありきの民営化がそもそも間違っている。	利用者である国民の利益を第一に考えるべきである。
407	青森県	以前よりサービスが向上している。窓口の対応が非常にスムーズであり対応が柔らかくなった。郵便物配達の付いても挨拶して配達するようになった、気持ちが良い。郵便局のインターネットバンクも利用しているが便利。郵便局の地域との取り組みも良好である、商店街活動に理解的で積極的にかかわってくれている。	一番大事なことは”信頼”である、民間に移行してサービス、信用が低下するようでは”郵便局”の看板が泣く。”郵便局”は”安心””確実”のシンボルでなくてはならない。	民営化によって他の業種と対比できるので優位性をより如実にアピールできる。”郵便局”にとっては良い機会と捕らえている。又、利用者にとって一番安心の機関であって欲しい。
408	東京都	民営化をすればサービスが向上し、利便性も良くなるということだったが、何が良くなったのか全く実感がない。三事業一体であった時が、あらゆる面で利便性がよかったと感じられた。三事業が分割されたため郵便局の良さが失われてしまった。	以前のように一つの郵便局で用件を済ますことができる、三事業一体の方が、利便性も良く安心して利用することができた。営利を追求するだけでなく、利用者のことを第一に考えて欲しい。	民営化後、一年が過ぎいろいろな問題点が出てきているので、早急な改善が必要。
409	静岡県	土曜・日曜・休日の郵便の扱い、貯金・保険の取り扱い、窓口の取り扱い時間などのサービス全体が人口の少ない地域で悪くなっている。高齢者の多い地域では、高齢者二人又は一人でお茶などの生産を細々と営んでいて、新茶時の小包の発送は郵便局に頼らなければならないが、民営化前のような集荷サービスがなくなり不便している。特に休日は遠距離の郵便事業会社が引き受け所に行かなければならない為、高齢者世帯は困っているのが現状であり改善が必要だと思う。また、一般の利用者には郵便事業会社と郵便局会社の仕事の範囲の区別が、よく理解できていない。	人口が少ない地域の扱いについては、郵便局会社と 郵便事業会社が、それぞれの仕事の扱いの一部出来るようにしたらどうか。郵便ネットワークの水準の維持を堅持することに加えて、サービスを低下させない努力をすべきではないか。世論調査でも、郵政民営化計画の見直しに賛成する人が多いことからも、現場や地域の人たちの声に耳を傾けて計画を見直して欲しい。	郵政株式売却については、参議院で凍結が可決していることや、経営の安定化を見極めてからでもいいと考えるので凍結していくべきではないか。
410	宮城県	1、郵便集配再編により、配達時間が遅れ、当日の用をなさなくなっている。 2、本年5月連休に、3日間連続して配達を休止した。1月2日配達を行ったのに考えられないことだ。 3、田舎の配達センターは郵便事業会社の職員で、そこの郵便局長は郵便局会社の職員であるため、集配関係の苦情は郵便局長が解決できず、この地域を統括する統括センターで解決に当たるため、地域住民の苦情が多い。 4、4分割されたため、地域住民が郵便局員に何でも相談できたものが不可能になり、郵便局に対し冷たさを感じている。 5、郵便局会社と郵便事業会社で同じ商品を競争して売り争い、お客様の笑い種になっている。 6、貯金・保険の本人確認が厳しく、お客様が郵便局から離れていっている。	民営化による緩やかな規制の下で、地域に密着した郵政事業とするため、郵便局会社と郵便事業会社を一本化し、ゆうちょ銀行・かんぽ生命ともにユニバーサルサービスを義務付けて、郵便局で将来とも扱えるようにして欲しい。	1、郵便事業は成長産業ではない。しかし、国民生活の神経の一部を司る重要な役割を果たしているため、ユニバーサルサービスが必要とされる。このサービスを維持するためにはある程度の保護が必要と考える。イギリスのロイヤルメールが自由化により危機に瀕して、国民生活に打撃を与えていることを参考にすべきである。 2、郵貯・簡保は一般庶民の社会保障的な面を強く持っている。これらの集金制度（現在は無い）により、小額の金を積み立てささやかな財産を形成し生活の安定寄与してきた。さらに全国津々浦々の郵便局による庶民の小額の金額の送金・決済等で地域経済を支えてきたと考える。また、行政機関もこれを利用し効率化を図るべきである。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
411	岩手県	人員整理や局統合、事業会社の分割によって地域格差や情報格差が進んだように思う。局内の仕切りの壁を異様に思う。	あまり利益ばかりを追求せず公共性を維持してほしい。	今の経済状態はアメリカの博打投資でなったのだから 株式上場凍結を訴えるには良い機会だと思う。
412	鹿児島県	分社化により、他会社との連携がとれなくなっている。特に郵便局会社は委託により業務を行っているが、下請けとの意識が他の会社にあるようで業務に対して社員のモチベーションが低下している。また、利用されるお客さまからの苦情も増加してい る。	現状のままでは先行き不透明である。特に委託契約が切れる9年後には廃局が相当増える状況である。損益ばかりを追求しており、地域振興が疎外されている。地域の方からの郵便局は無くなるんじゃないかの声が相当数寄せられている。都市部中心の政策は変えるべきである。	役員は現場の声をもっと聞くべきではないか。
413	広島県	民営化されたらより便利な郵便局になると言われましたが、一年経った今、民営化されて良いところは全くありません。これまで時間外や土日にも利用できた地元の郵便窓口が全く利用できず、必要なときは10数キロ離れた町まで車で行かなくてはなりませんし、公共交通機関のない田舎では車を運転できない人は無理です。独居老人がこれまでは郵便配達の人に貯金の引き出しがお願いできたのに出来なくなりました。満期の保険も持ってきてもらえません。前のように郵便・ 貯金・保険が一人の人で出来るように戻して欲しいです。それに地元の郵便局が配達せず遠くから配達に来るようになったせいでしょうか誤配や遅配も多くなりました。地元の郵便局の職員さんもすごく数が減ってきたし、聞くところでは貯金と保険はユニバーサルサービスをしなくても良いそうです。そのうち地元から郵便局が無くなってしまうのではと不安でいっぱいです。	今の民営化には欠陥だらけなのでぜひ見直してくださ い。貯金・保険・郵便のすべてがユニバーサルサービスできるようにして欲しいです。そして以前のように全部のサービスが一人の職員で窓口でも外でも出来るようにしてください。	ー
414	茨城県	1. 民営化後、郵便物の問い合わせを小さい郵便局へ依頼しても会社が違うとの理由で、郵便事業会社に聞いて欲しいとのこと。郵便局の商品を扱っているのに答えられないのはおかしい。 2. 民営化前と比較して郵便物が届くのが遅くなった。知人の地域は夕方、暗くなってから配達されると聞いている。今まで配達していた局を無くしたからではないか。明るい時間帯に配達すべきである。 3. 郵便物を配達する人、書留を配達する人、小包を配達する人が違う。同じ家に時には3人が来る。1回でなぜ済まないのか。	参議院で否決されたにも関らず衆議院を解散してまで郵政民営化を進めたからには、国民利用者の為になる会社とすべき。	この意見公募は何故、マスコミを通じ広く周知されないのか。一部の人間で論議するのはおかしい。郵政民営化に賛成したのは郵政選挙で支持した国民である。
415	岡山県	都市部と過疎地では評価に開きがある。過疎地においては、郵便局というコミュニティセンターが崩れ、同じ屋根の下に存在する郵便配達を別会社が行うという不合理がある。一人の人間が郵便・貯金・保険を取り扱い、何でも頼める安心感や便利さが消えた。民営化されたメリットは何かを考えるに何も浮かばない。顧客にとってデメリットしか浮かばない民営化である。	貯金保険の外務員が少なすぎる。過疎地では増やすべ き。小回りを利かさないといけない。	郵便局網の維持。
416	岡山県	民営化前後の混乱は収束した感がありますが、お客様にとっても現場にとっても、よくなったことは一つもありません。分社化したことにより、例えば年賀状の販売一つとっても、郵便局と郵便事業会社のパイの奪い合いですし、予約を受付ておきながら販売する商品が不足したり。仕事が何事もスムーズに行きません。現場は疲れきっており、今後この状況が改善されるとも思えません。「ありがとうフェア」などというキャンペーンもどうかと思います。「局会社は営業会社」というスローガンですが、窓口でお客様に話さなければいけないことがどれだけ多くあるのか。クーポン券のチラシまで配ってたら、3事業の話なんて出来やしません。民営化に対する評価ですが、本部と現場では大きな壁があり、現場のことを本当に考えてやっているのかと疑念さえ湧いてきます。民間会社なんで利益を追求しなければならない事は十分に承知していますが、あまりにも手を広げ過ぎではないでしょうか。	公営に戻すにせよ、このまま民間会社としてやっていくにせよ、節度ある運営をお願いしたい。	私は〇〇郵便局長です。19年4月に局長に就任しました。それ以前は民間の飲食店チェーンで15年間お世話になっており、会社というものも少しは解っているつもりです。今の郵政の現状はどっちつかずの迷走状態と感じております。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
417	鹿児島県	ー	ー	私は○○県の○○という小さな島で郵便局の局長として働いています。小さな郵便局ですが、毎日お客様がいらっしゃいます。その大半が65歳以上の老人の方です。まだ赴任してきて間もない自分に、地域の歴史や郵便局の歴史等を教えて下さいます。そして、最後に残念そうに「郵便局も変わってしまったからねぇ」と言われます。それは前に比べ「利用しやすくなった」という感じではなく「利用しにくくなった」という、お客様の言葉の裏に秘められた思いを感じずにはいられません。なぜ民営化しなければならなかったのでしょうか？なぜ分社化までしなければならなかったのか？そして、実際に政府が約束した通りになっているのでしょうか？ この島も、IターンやJターン現象で若者は減少し、高齢化という問題を抱えています。その問題に、民営化となった郵便局が更に拍車をかけるのか、それとも本来の目的を取り戻し、現在の間違った加速を食い止められるかは、今後の見直しにかかっていると確信しております。
418	富山県	今まで郵便局で国民から集められていた莫大な金は財政投融資という形で道路や特殊法人などに流れていた事実があった。それは明らかに健全な貸付先とは言えず、返済の見通しのたたない無駄ガネである。そして何の役割も持たない特殊法人が官僚の天下り先となってきたわけだが、そこを排除する意味では良かったかもしれない。また、法人税、住民税、事業税、登録免許税、印紙税が非課税というのが撤廃され、税制面でも既存の民間業者と同じ状況になり、既存の民間業者は事業拡大のチャンスになったことであろう。国家公務員97万人のうち30～40万人が郵政事業関連で、これが全て民間人になり大幅な国家公務員の削減に繋がった事実もある。このようなことからある程度の評価はできると思う。	ただ、自分の家は過疎化が進む農村地域であるが今まで徒歩でいける金融機関は農協と郵便局くらいであった。今年の夏から農協のATMもなくなり、とうとう郵便局だけになってしまった。今後株式が売却される方向でいるようだが、上場となれば株主はもちろん儲けを出す方向性となることは必須である。そうなれば確実に近所に郵便局はなくなっていくだろう。しかも都市部などの金融機関がひしめいているところは一番最後になり、過疎化の進む田舎から順番にだ！それが外資に流れてしまうとしたらもはやほとんどの郵便局がなくなるだろう まだ自分はクルマで移動できるからいいが車に乗れない年配の老人はどうすればいいのか？かろうじて生活必需品を購入できるスーパーはあっても金融機関がないとどうやって生活していけというのだろうか？私の希望としては株式売却までは行わず国がある程度は保有しておくべきだと思う。しかもこの株が暴落したこのご時世。もともと郵便局は独立採算制でやってきたと聞きます。国の裏借金としての郵便局はもうすでに切り離したのだから今後は国がバックアップする民間企業として面倒みていく必要があるのではないかと思う。	これまでの郵政民営化で純粋に国民の生活が改善されたか？答えはノーです。むしろ悪くなっています。
419	愛知県	昨年10月に民営化したが、良くなったと思われることが全く無い。以前より悪くなったと思われることを次に挙げます。 1. 郵政グループ内なのに会社が違うということで、以前に比べて、書類が多くなり、手続きが難しくなり時間がかかるようになった。 2. 郵便物が届くのが遅くなった。郵便局で教えてもらった日に届いていない。間違って届くことも多くなった。	郵便局は銀行以上のいろいろな仕事をしているのに、人数が少ないようだ。分担ができないため、時間がかかっている。雇用を増やしてはどうか。アルバイトが多すぎて責任感が感じられない。正社員を増やすべきだ。	郵政民営化は私たち国民に何のメリットもない愚策だとかんじています。
420	愛媛県	点数をつけるなら0点。当初の基本理念である「多様で良質なサービスの提供を通じた国民の利便性の向上」及び「資金のより自由な運用を通じた経済の活性化」の双方ともはかられていないどころか悪化している。原因は、3事業の分割。物流と金融を全国規模で構築している唯一無二の企業を分割したことにより、ただ図体の大きい愚鈍な大企業4 社に成ってしまった。	・3事業の一体の特殊会社への経営形態の変更。 ・理念として「所得や地域によって、金融格差を起こさないこと」「地域経済の発展に寄与すること」を掲げ、 お客様の声に耳を傾け、地域に応じたサービスを提供できる会社を目指してほしい。	「雇用は最大の社会貢献である」ということも、考慮すべき点ではないか？
421	岐阜県	・ゆうちょ銀行の事務手続きが、郵便局会社と別会社になったことにより、一つひとつの事務が煩瑣となり、処理時間が長くなってしまい利用者離れが起きている。 ・郵便局内に異様な壁が出現し、閉鎖的となり、違和感を感じる。 ・折りしも、年賀はがきの販売期間中で、グループ会社同士で同じ商品を奪い合うという異常な状態で、お客さまに混乱を招いている。 ・民営化前でしたら郵便・貯金・保険の全てを一人のセールスマンに頼むことができたが、民営化後は同じ赤バイクなのに頼むことができない。これでは十分なサービスはできない。	・ユニバーサルサービスを目指すため、三事業一体体制に見直すべき。	ー
422	山口県	今までは外務員に郵便・貯金・保険どれを頼んでも出来ていたものが出来なくなった。手続きが複雑になった。我々過疎の村は切り捨てられた気がする。	公社の時のように三事業一体にして欲しい。年寄りも安心して、気軽に年金を受け取れたり色々相 談に乗って頂けるようにして欲しい。	アメリカに国を売るようなことは絶対して欲しくな い。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
423	岡山県	あまり良くなったとは思えない。郵政が民営化したらサービスが格段に良くなると宣伝されていたが、料金は高くなるし、待ち時間は増えるし手続きは面倒になるし、安心感がなくなっている。中間決算を見ても赤字の会社が出てきており、民営化のあり方に問題があるのでは？	我々国民に、安心感のあるサービスを提供する会社になってほしい。今までの一体経営でいいと思う。何かと手続きが面倒になっている。	経営者の方々も、まず民営化スケジュールありきではなく、利用者への目線に立った将来に安心感の残る会社にしていただきたい。ある程度公共的な役割が残るのは仕方がないと思うし、残さなければ成らないと思う。
424	鹿児島県	「民営化すればサービスが良くなる」と言っていたが、本当に良くなったのだろうか？という疑念を抱いてしまう。民営化直後の郵便局窓口の混雑、複雑化した手続き、振替料金・定額小為替・国際送金など各種料金の大幅な引き上げ等、また、集配局再編による「時間外窓口」の閉鎖、郵便物の遅配が生じるなど結果的にサービスの低下が懸念される。	未来永劫ユニバーサルサービス及び約24000のネットワークの維持を強く望むとともに、郵便貯金の1000万円の限度額並びにかんぽ生命の加入限度額1000万円の引上げ、将来的には撤廃を希望します。	郵政民営化ってなんだったのか？あれだけ大騒ぎをして選挙までしたのにその結果は？官から民へ、市場原理、自由競争、規制緩和、あらゆる規制からの脱却、本当に今日現在、その方向に進んでいるのだろうか？本当にサービスがよくなったのか？疑問だけが残ってしようがありません。
425	宮崎県	民営化になり以前より手続きにおいて複雑になったように思われる。組織自体がとてもわかりづらい。ただ単に選挙の道具に使われたように感じる。民営化でなくても、今以上のサービス提供は十分可能であると思う。	郵政事業は国営が基本と考える。過疎地域など採算ベースに合わない郵便局の切捨てなど合理化策はとらないでほしい。	安易な合理化、民営化だけはやめてほしい。
426	山口県	民営化前まではどの外務員でも何の仕事でもやっても らっていましたが、民営化後は完全に仕事が分かれて頼めなくなりました。郵便局に行っても手続きが複雑で待ち時間も長くなりました。便利になると思っていましたが期待を裏切られました。	郵便・貯金・保険の仕事は誰でも頼めて簡単にしてほしいです。今までの方がよほど便利でした。戻してください。	郵便物の配達がアルバイトばかりで不安です。
427	群馬県	ひどいものである。ひとつの組織として機能していた会社を強引に分社化したため、さまざまなところで歪みが生じている。今まで誰が行ってもやさしかった郵便局が、いまで は時間がかかるやたらと厳しい本人確認、複雑な手続きなど、誰もが使いやすかった郵便局から、誰もが使 いにくい郵便局となってしまった。郵便事業会社と郵便局会社は、到底利益が上がる仕組みとはなっていないため、このままで行くと多くの郵便局がつぶれていくことは目に見えている。郵便局数の維持のために、無人局(ATMと自動販売機と郵便ポストだけを設置)とかができるのでは？いろいろなところで言われていることだが、金融二社の株式を上場すれば、禿鷹外資につまみ食いされ、今まで日本国民がこつこつと築きあげてきた財産がくい散らかされることになるだろう。	現状で期待できる要素は何も無い。	今後のあり方として、一番の理想は元あった形に戻すことだ。外国のさまざまな郵政民営化を見ても明らかなことだが、郵便局と郵便貯金を切り離した分割民営化を図った国はことごとく失敗している。株式公開をした途端に買収され、マネーゲームの餌食となり、当初掲げていた民営化の理想はすべて消し飛んで残るのは残骸のみ。ニュージーランドなどいまだに元の状態に戻れず大変な思いをしている。今の状態で、金融2社の株式を上場すれば、これら失敗してきた国々と同じようにマネーゲームの餌食となり、昨今の金融危機どころではなく、もっと大きな障害が出る恐れがある。壊すのは簡単だが元に戻すのは難しい。当たり前のことである。派手なパフォーマンスと、目の前の利益(利益と言うか甘言)に踊らされ、某首相や大臣の言いなりになって始まった民営化だが、このわずか1年半の間でどれだけ弊害が出てきたかを考えれば今回の見直しで一度元に戻すことが理想である。文筆が無いので文章が支離滅裂になっているが、今回の民営化が失敗であることと、今まで失敗してきた先達の二の舞を踏まないようこれからの見直しにかかわる方たちにぜひ頑張ってもらいたい。
428	神奈川県	郵便局の局員は、もともと親切であり民営化する前とあとでも変わらないが、郵便のことは別の会社になってしまったので郵便事業会社に言わなければならない等、局員の意に反して伝えられる言葉が虚しい。民営化の為の手続きと称し、色々な手続き及び資料を求められ待ち時間も大分長くなった様に感じる。手数料も高くなり、また便利であった商品も無くなってしまい 民営化によっていいことはあったのだろうか？ 小包を持ってくる郵便事業会社の配達員もインターホン越しに「郵便局ですけども」と言う。郵便局とゆうちょ銀行の違いも分からない。民営化されたことは 誰しもが理解しているが、どの様に変わったのかがいまいち浸透していないのではないか。	郵便局の人は、本当に親切に対応してくれる。 民営化されても公の部分を残し地域住民の立場に立った営業をして欲しい。利益の為だけに愛された商品を無くさないでほしい。宅配便会社や金融機関も安くて便利な商品を開発している。他の民間企業に負けない地域の郵便局に期待する。	民営化したのだから、より良いサービスをお願いしま す。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
429	岐阜県	民営化して、サービスがよくなるということであったが、程遠いものである。一番顕著であるのが、過疎地域におけるサービスの低下である。たとえば、今までは郵便配達の人に自分の貯金の出 し入れを頼んだり、振り込みをお願いしたりできたが、それができなくなった。 また、荷物(ゆうパック)を貯金・保険を扱う人にお願いしようとすると、わざわざ郵便事業会社に連絡をして来てもらうようにお願いしなければならない。 明らかに二度手間であり、働く側・利用する側両方にとって非効率である。利用する側にとっては今までと同じ郵便局という意識が強く、なぜできないのかという苦情が多く見受けられる。サービスの低下としか見られないのが過疎地域における大半の意見・感想である。 次に、手続きの煩雑さである。民営化前と比較すると、手続きにかかる時間が格段に増加し、利用する側にとっては迷惑な話である。お金を出すにも、身分証明を見せたりしなければならな いし、契約をするにもまざまな書類に書くことが多くなった。明らかに待ち時間が増え、身近で親しみやすく利用しやすい郵便局という印象は消えつつある。民間企業になって1年が経過したが、民営化してよくなったと思うことは、社員の方々が丁寧な対応になったことくらいで、利用しやすさが向上したとは全く思えない状況である。特に、過疎地域に住む住民にとっては、弱者扱いというイメージが強い。都会向けにはいいのかもしれないが、これから過疎地域を見捨てるのか。それでよりよいサービスを提供するといえるのか。	まず、郵便局会社と郵便事業会社をまずは一つにすべきであると考える。利用する側にとってみれば、郵便局と郵便配達は同じ会社が行っていると思っている人が非常に多い。実際に、郵便配達での間違いは郵便局に電話をしたり、窓口に出向き、苦情等をいうことが多いとのことである。もっと世間に分かりやすい状況にすべきではないか。また、郵便局で荷物を集めてもらえるようにしてほしい。実際にあったことであるが、ゆうパックの不在通知があったので、荷物を届けに来てほしいという電話を今まで通り郵便局にしたが、民営化後は、わざわざ配達センターというところに電話をすることになった。 今までは自分の地域と名前を伝えればすぐに局長さんとかが届けてくれたのに、今は郡・町・地域・番地・名前・電話番号など、さまざまな情報を伝えなければならないし、非常にめんどくさくなった。今迄のように「〇〇に住む〇〇です」というだけでいろいろできるような状況に戻してほしい。 とにかく、弱者切り捨てのような方法で民営化を進めるべきではないと考える。今までのように、利用しやすく、親しみやすい郵便局にしてほしい。利用しにくくなり、サービスが低下する民営化だったのか。小泉元首相は、サービスは向上すると言っていた。現状は全く違うのではないか。後期高齢者医療制度などもそうであるが、政策的に明らかに弱者切り捨てである。もっと住みやすい日本にするのであれば、もう少し住民・弱者のことを考えた政策をすべきであると考える。	ー
430	山口県	仕事が非常に複雑になり、システムも複雑になり、窓口業務に支障をきたしています。目標もすごく高くなり社員のモチベーションも上がりません。残業や休日出勤も多く社員は疲れています。本社はフロントラインを見てないと思います。マニュアルもたびたび変わり、少人数の郵便局では対応できません。苦情も大変多く対応に追われています。	三事業一体の経営にしてもっと仕事をやりやすくするようにすればお客様の利便性も上がり地域の郵便局と して活力が出てくると思います。分社化したのでは利益は追求できません。人件費削減も分かりますは正社員を減らすと営業力が落ちますので儲かりません。必要な正社員は配置してください。	株を上場したら地方は切り捨てられてますます不便になります。絶対売らないでください。
431	岡山県	・郵便局での手続が煩雑化し、待ち時間が非常に長くなった・ ・山間部では郵便配達と同時の年金の支払い等が出来なくなり、利用者が非常に不便になっている。 ・書留、小包等の不在時の受け取りが簡単に出来なくなった。 ・同じ郵便局内の窓口で、たらい回しをされるようになった。(これはゆうちょ銀行、これは郵便事業会社など) ・委任代理人の取扱などで、同じ郵便局の商品だったのに貯金と保険で取扱が違う。 ・接客は良くなった。 ・ともかく不便で仕方が無い。 ・手数料が高い。(特に小為替。10倍になった) ・昔の親しみやすい郵便局が懐かしい。	・株式が売却されたら、今以上に利益追求になり、必ず郵便局の数が減る。(株主が赤字郵便局を減らすように言ったら断れないから) ・だんだん悪くなっているように感じるので、もっと利用者の立場に立った仕事をしてほしい。 ・昔の親しみやすい郵便局に戻ってほしい。 ・もっと便利になってほしい。	・税金を使っていない郵便局を民営化して公務員を減らしたと自信を持って言っていたが、国にとって経費削減になったとは思えない。もっと無駄を省くべき場所があると思うが、一体何がしたかったのか？郵便局の資金の使用方法が問題だったはず。 ・都会にすむ者以外は国民ではないというのだろうか。山間部は泣いています。
432	愛知県	小泉・竹中は民営化によりサービス向上につながるとのうたい文句で民営化を実現させたが、三事業が分社化された現状では、逆にサービス低下になっている。今までスムーズにできた仕事が、分社化という見えない壁により、それぞれが隔てられ、無駄な労力や費用 が生じるとともに営業力の低下につながっていると思う。民営化に対しては、決して前向きな評価などしない。アメリカの言いなりの小泉の負の遺産であったと評価(？)する。	三事業一体の経営ができてはじめて経営が成り立つので、まずは株式売却を凍結する。郵便の外務員が貯金も預かれば、保険も募集できるように、社員全員がすべての商品を取り扱うことができるようにしてほしい。	ー
433	東京都	平成17年頃の政府宣伝では、振込みや為替手数料への印紙税発生等は触れられておらず、また「便利になる」とだけ言われて来たが、実際には分社化の影響か「電信為替」の配達が廃止になったり、配達担当者の貯金払戻しサービスが出来なくなったりと、弊害の方が目立つ。	貯金の限度額1000万円は、通常貯金を除いて欲しい。もっと手軽に使える窓口であって欲しい。	以前のように、どの事業も垣根なく一つの会社でやった方が良い。窓口混雑も時間も人の使い方も効率的になるのではないか。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
434	宮城県	これまでの郵政民営化に対する評価 平成19年10月1日に郵政民営化がスタートして1年が過ぎましたが、民営化する段階の準備不足や民営化できないところまで無理やりスタートしてしまったため、すべてにおいて利用者に不便をかけている。特に分社化による会社間の繋がりがほとんど機能していない。グループ会社にとっては致命的な結果になっている。その結果、いまだに分社化を知らない利用者も多い。世の中の流れで民営化はいたしかたないところはあるが、国民の利用者にとって何が良くなったのか見えていません。不便で面倒くさくなったとの声がほとんどです。郵便局がもっと良くなるために、またお客様から良くなったと言われるように経営自体を考え直すことが早急に必要です。このままの状態で行くのであれば、国民にきちんとした民営化の理由や現在の会社形態等説明していく必要があります。もしそれが出来なければ元に戻すしかありません。 郵便局を利用される方は高齢者等が多く民営化より利便性や公共性を望んでいます。不便になっていく郵便局を早く元の地域の憩いの場としての郵便局に戻していただきたい。	民営化になって期待することは、新しいサービスがどんどん増え、規制緩和といわれるニュービジネスの開発とサービス提供など輝かしい事業展開による収益の確保と想像したと思われます。しかし現実は正反対と なりあまりにも規制がきつく貯金するにも証明書の提出などかえって面倒になってしまっている。ゆうちょ銀行、かんぽ生命の株式売却など国民の皆さんがこつこつ貯めたお金が外資系に売却されその後の 結末は誰でも想像がつきます。今後の郵政民営化への期待は利用者を守ることが会社としての責務だと思います。利用者も安心、便利を望んでいます。現状の早急の見直しと三事業一体に戻す対策を検討願います。 国民の利用者を考えた検討をお願いします。	過疎地域の郵便局はおそらく赤字だと思われます。しかし、そこの地域から郵便局がなくなることは唯一 の金融機関がなくなることになります。国はそんな地域で一生懸命生きている人々を見捨てることはしないと信じております。
435	栃木県	郵政民営化はやるべきではなかったと思います。何のための民営化をするか（したか）今現在でも国民 は理解していません。自民党が民営化したらこんないいことがあると言う事はまったくありません。このままでは、郵政事業は倒産しかありません。自民党はアメリカに郵政事業を売り飛ばしたとしか思えない。国民は郵便局で郵政事業以外のことは望んでないし期待していない。郵政3事業を分割したこと自体が間違いだし、国民が望んでいたことではない。国民は、小泉、竹中、マスコミに誘導されただけ。郵政3事業を一体経営を望みます。	郵政民営化法見直し。 郵政3事業一体経営に戻し、国民のための郵便局のあり方を考えるべきです。郵便局は国民の財産です。国民の財産を他国に売る必要はないです。	郵政民営化は即刻見直すべきです。
436	福岡県	ー	民営化関連法案の成立・施行により、平成19年10月1日郵便局は分割民営化となり現在に至っています。その間、お客さまから寄せられた声は民営化に伴う制度や郵便局存続に対する不満や不安ばかりで、民営化して良かったという意見は耳にしていません。これは、当時の小泉自民党が国民に対し、政府として民営化に伴う説明責任を果たさず、改革の名の基に、まずは民営化ありきで検討も十分な説明もなされなかったためです。他の金融機関が多数ある都市部のお客様でさえ民営化に対する不満や郵便局の存続に対する不安を持っています。過疎地域においては都市部以上に深刻な問題です。 「郵政民営化法」では、郵便局会社は郵便・貯金・保険の各会社と受委託契約を結ぶ。つまりその手数料収入により経営を維持することとなります。また、2017年までに貯金・保険の金融2社の株式を民間に放出し、完全民営化とするとしています。株式が上場され、欧米の巨大ファンドにTOB等で株式が取得された場合ユニバーサルサービス義務のない金融2社は郵便局、特に地方の採算性の低い地域の郵便局と契約するでしょうか？否です！ 合理性・利益追求の外資が契約を継続するとは考えられません。当然、両社と契約できない地域の郵便局は存続できません。郵便局ネットワークの崩壊です。これは、経営努力・社員の頑張りで防げるものではありません。法律により三事業一体の経営、金融2社にもユニバーサルサービス義務を法定、あわせて郵便局会社と郵便事業会社が合併することが必要です。それを実行するためにも、現在、衆議院で宙吊り状態になっている「郵政株式売却凍結法案」を成立させ、3事業一体経営のユニバーサルサービスにより、全ての国民の財産である「郵便局のネットワーク」を維持する民営化となるよう期待します。	私たち郵便局社員は、決して自分たちの保身のために声を上げているわけではありません。お客さまの声を代弁しているのです。同じ建物に違う会社の支店があり、情報交換もなければ人の行き来もなくお客様の引き継ぎもない。利用者からみたら「たらい回し」である。郵便の不着・誤配の申告をしても受け付けは近くの郵便局で、回答は郵便事業会社の支店から。はたして、こんな会社が他にあるだろうか？貯金・保険も同様である。 社員の立場でも、業務は複雑怪奇。なぜその取り扱いが必要なのか全く理解できない。お客さまからも、銀行では「そんなことは言われたことない。」「同じ金融機関なのに郵便局はなんでこんなにめんどくさくなったのか？」など、本当に民営化とは何だったのか、誰のための民営化だったのか。疑問である。 ぜひ、利用者である国民の立場に立ち、特に限界集落で過疎化が進んでり地域の方のライフラインを維持してほしい。お金を引き出すのにどれだけの苦労をかけるつもりですか！
437	大阪府	郵便事業だけでは黒字になりにくい、簡保、郵貯との支え合いが、日本の風土だ、3事業を1体化する必要がある。 総合病院内で，内科と外科が別々の病院が経営していて同居して、複雑に診療の部屋がからまっているようなもの。	3事業を別々にしたのは、やはり無理、支えあって来た経緯がある、特に過疎地では、郵便の配達人が、住民の希望により年金や貯金の世話をしていた、別会社では、違法となっている、簡易局制度の活用をされたい、コンビニに局をもつと施置されたい、ポストの節約にもなる。	ー

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
438	宮城県	民営化はともかく、分社化されたことが弊害を生み出している。特に郵便局会社である「郵便局」に利用者のすべての不満が集まり最前線にいる社員は疲れ果てている。国民は民営化したことしか知らず、分社化されたことをほとんど理解していない。99%の国民はいまだに配達は郵便局が行っていると思っている。これは、民営分社化の内容を国会でほとんど論議せず推し進めた政府の責任である。また国民へ説明せずに公務員の減少のみ前面に出した結果である。このままでは、郵政グループは消滅しかねない。	第1に、今一度国民にわかりやすい組織に戻すこと。つまり、分社化した4社を一つにすること。 第2に、株は全株、国が保有し続けること。世界的に見ても国が株式を手放して成功した国はなく、逆に失敗した国しかないといっても過言ではない。	民営化自体は戻す必要はない。問題は分社化と株式の公開。これを再度検討いただきたい。
439	愛媛県	民営化による業務の効率化でサービス向上を期待していたが、以前と比較して窓口で待つ時間が長くなっている。現時点では民営化によるメリットが感じられない。	今後、分社化による業務の非効率化と地方でのサービス低下が懸念される。全ての事業を一体的な経営とし、業務の効率化によるサービスの向上を期待している。	－
440	福島県	郵便局が民営化され1年を経過しましたが、これまでの民営化に対する評価を関係者として意見させていただきたいと思います。 郵便局は民営化をする以前から地域の皆さまに愛される金融機関、行政機関として現場の社員を中心に企業努力をしてまいりました。また三事業一体としていることにより無駄を省き、お客さまに不便を掛けぬよう工夫をしてきました。しかし、今日の状況はそれまでの努力を無駄にすることも多くあります。 例えば集配業務においては、これまで同一の会社として情報を密にし、窓口でお客さまからのご依頼、ご要望を適切かつ迅速に対応することが出来ました。しかし現在は同一局内と言えども別会社であるため、情報提供や対応が遅れ、お客さまにご迷惑をおかけすることも少なくありません。 また銀行業務においては一部を除き手数料が高くなり、小口の送金機能として役割を担っていた郵便振替や郵便小為替の利用は少なくなりました。 そして何よりも関係者として問題なのは、事務作業が煩雑になったことです。民営化までの準備期間が短かったためか、現在も毎月各事業、各会社の制度改正が行われています。どの企業においても業務改善が行われるとは思いますが、三事業が同時期に改正や変更を行うと利用をされるお客さままでが前回利用した状況と違うと困惑をされたり、社員の確認作業が増え、待ち時間が長くなってしまう状況にあります。そのため、フロントラインの社員はお客さまに迷惑がかからぬよう努力し、業務知識の現行化を図っているところですが、少人数で構成されている郵便局では限界を超えているとも感じられます。煩雑な作業をこのまま続けていくのであれば、大幅な人員の確保が望まれるところです。	上記のような状況を打破するためには、ぜひとも三事業一体を戻していただきたいと考えます。すでに民営化してしまった以上、それを白紙に戻すのは社員や関係者のみならず、お客さまを混乱させてしまうため難しいとしても、それまでの利便性の高い、身近な企業に戻すことは可能だと思います。 今後、金融関係の株式が売却されグローバル化が崩れてしまえば、より一層、郵便局は身近な企業ではなくなってしまいます。地方切り捨て、弱者切り捨てなどと叫ばれる中、郵便局は常に利用者、国民のそばにある企業であるよう、今後の見直しに期待しております。	民営化に伴い、多方面でビジネスチャンスが生れることは決して悪いことではないと思います。しかしながら、地方を重視する声も出ている昨今に逆行している今の状況は改善しなければならないと思います。身近な金融機関、地域のコミュニケーションを繋ぐ会社としてよりよい方向になることを望んでおります。
441	秋田県	（1／2） このたび発表された日本郵政グループの中間決算の内容は郵便局会社は209億円の黒字、一方郵便事業会社は189億円の赤字となっている。またゆうちょ銀行は1501億円、かんぽ生命も247億円の黒字と発表された。ゆうちょ銀行が1500億円もの黒字を出しているのはあくまで資金運用上の収益が概ね良かったからであり、ゆうちょ銀行の大部分を占める事務センターの職員自身は汗水流して営業に歩き回ってはいない。かんぽ生命にしても大半は郵便局会社の職員よる営業活動の結果のよるものであり、肝心のかんぽ生命の職員は事務センターの中でその事務処理をしているだけで黒字の恩恵を受けている。郵便局会社の自社商品といえばカタログ販売であるが、通信販売が成熟し発達した現在においてこれらに対抗して魅力ある商品をそろえるのは無理があるし、価格面でも大手スーパーの低価格競争には到底太刀打ち出来ない。映画のチケットを映画館のない地域の郵便局で売るという無謀なやり方や郵便局で作って販売する記念切手に印刷料を400円も上乗せして販売するという方法ではお客さまの理解は得られない。一方、郵便事業会社では民営化とともにその仕事は配達が中心となり、民営化以前に郵便局職員としておこなっていた各種の営業活動は年賀葉書の販売以外は停滞している。	以上の点を解決するためにはやはり最低郵便事業会社と郵便局会社は一緒になって活動していくべきだし、ゆうちょ、かんぽの利益が直接、郵便局会社に入ってくるような経営体系にすることが今後求められている。	世界を覆っているいまだかつてない経済危機の状況下の今こそ、民営化の形態を見直して危機に立ち向かえる強固な体制が郵政グループに求められていると思う。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
		（2／2） 本来は郵便事業会社自身が他の宅配便からのシェアを奪って収益を拡大、改善しなければならないのに今までの郵便利用者を郵便局会社との取り合いに終始している。年賀葉書の販売にしても機動力のある郵便事業会社は優位性を活かして好調となっているが、年賀規模の縮小傾向は変わっていないので、その反動は郵便局会社の年賀販売の低調となり規模の拡大とはあまりにかけはなれて理想論というしかない。結局、どの事業でも営業活動の中心は郵便局会社の活動によるところが大半で、郵便局会社の存在なくして郵政グループは成り立たないものとなっているがその評価はきわめて低いものとなっている。おいしいところは各事業会社に持っていかれ見返りは手数料だけ、しかもそのうち事務ミスがあればペナルティとして俸給が減額になり身分上の不利益も生ずるというものであれば、郵便局会社のモチベーションは下がる一方である。このようなことからこれまでの民営化を評価すれば、郵便、ゆうちょ、かんぽの3会社は郵便局会社に業務を丸投げして楽をしているが、郵便局会社はその中途半端な存在のため3つの会社にこき使われるという全く不本意な評価となる。		
442	神奈川県	地元の皆様に親しまれて、簡便な方法により金融サー ビスと物流サービスを一店舗内で連携による総合的な サービスを提供してきた、生活密着金融機関である郵便局は、郵政民営化により各事業会社がそれぞれ別々に利益をもとめ、走り始めました。物流部門は窓口会社と同一商品の販売にしのぎを削り、各種金融商品は様々なキャンペーンを展開し、グループの特性を活かした商品開発もままならないまま、他金融機関の真似事をするため、カードや物販等、他民間企業と比べると見劣りするものばかり、義理人情営業による事業拡大は本質的な企業成長に、本当になるのだろうか大いに疑問である。	郵便・貯金・保険の3分野を総合的に提供出来るようにするには、やはりもとの3事業一体営業にもどし、国営事業として、継続していくべきだと感んじます。もともと税金投入をしていない独立採算を維持してきたわけで、先進国でもかなり進んだ人口構造による高齢化社会に対し、年金の不安・医療の不安等が叫ばれる中、生活に必要なお金をやりくりする身近な金融機関が、営利を目的として単一事業だけが勝ち組になるようなシステムでなく、3事業が助け合いながら、国民のみなさまに郵便局サービス及びネットワークをご利用していただき、今後の高齢化社会に対応した、福祉サービスをも担っていくように変化していくことを期待したい。格差を望めば繁栄する企業もあれば、衰退していく企業もあるわけで、郵便局という枠組みでやってきた3つの事業を切り離して運営していくのは 将来の国民の財産を、株という目先の利益をかくとくするために、今まで先人たちが大切に築いてきた、日本中の大切なネットワークを失いかねないと危惧しま す。もう一度民営化をよく見直して、3事業一体で運営し、民間企業圧迫防止のために、利用額の制限をしたまま継続されていくべきだとおもいます。	最後に郵便局の良さは、営利を目的としていない集合体だから、おおらかにお客さまにご対応出来るという点が一番の強みではないでしょうか。お年寄りのお話相手になって、地域の相談所的な場となり、最低限の金融サービスと送達手段を維持するという事だけに特化した金融機関が国の機関として一つあっても良いのではないでしょうか。ぜひ国の機関としてあらたな役割を付加して「新」郵便局として国営事業を継続していくべきだと考えます。杖ついて来局されるおじいちゃま、おばあちゃまを見ていて思います。お年寄りのかたがたは、高度なサービスは必要としておらず ただ生活の基になる年金や大切なお貯金をすぐにおろせればそれで良いわけですから。弱者を救うことを国が進んでやらなければ、いけないのではないでしょうか。
443	石川県	（1／2） 郵政民営化後のサービスの実態と今後の在り方について 郵政民営化後のほぼ13カ月経過し、そのサービスの実態を例示すると次の通りとなる。 1 郵便局に郵便事業会社の集配センターなるものが同居しており、郵便の集配サービスを行っている。不在はがきがお客様宅に届けられて、配達の依頼をするためにまず連絡する先が従来の郵便局となる例が多く、いまだに毎回郵便局が分社化の説明をして、集配センターに転送している実態がある。小規模な集配センターでは集荷等のために日中不在となる時間帯があり、お客様を待たせるケースがある。サービスの低下と言わざるを得ない。 2 これまで電話一本でお客様宅への集荷対応が、民営化後は郵便事業会社の社員しかできなくなった。分社化後の少人数化により機動力をもって集荷にあたる体制が出来上がっているとは思われない。 3 時期的に年賀はがきの販売・購入のシーズンであるが郵便事業会社の商品である年賀はがきを郵便事業会社と郵便局会社の郵便局で同じグループ同士で限られたパイを奪い合う実態が見受けられる。このようなエネルギーは真のお客様サービスの実現に向けて、新たなサービスに提供されるべきものと理解する。 4 これまで郵便局では郵便・貯金・保険と同じ人間が各事業の手続きが行えるというメリットがあったが、分社化以降、郵便事業会社の人間は当然貯金を預かることも保険料の集金もできない。金融業務を行うためのリスク遮断という目的があるそうだが、金融のグローバル化の流れの中で、本家本元のアメリカでは一周先を進んで銀行・証券の垣根がなくなったように 日本は時代遅れのグローバル化対応（アメリカからの押し付け）に載っているだけではないか？	―	―

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
		（2／2） 5 グローバル化の対応という視点では、郵政民営化そのものがアメリカからの年次要望書の項目どおりに 民営・分社化を進めて郵便貯金や簡保の資産を外資に提供するという流れを作っただけと考えられないか？ 6 民営化すれば当然、経営の視点は株主の方を常に向くことになり、特に地方の過疎地では費用対効果で 利益が上がるビジネスモデルができているとは到底考えられない。 7 郵便事業会社と郵便局会社の合併やゆうちょ銀行・かんぽ生命の株式上場の凍結案が議論されているが、これらをたたき台として、先の年次要望書の現実化の流れもしっかり見据えてもう一度、お客様サービス第一の経営形態づくり・ビジネスモデル作りが必要と考える。 8 諸外国の現状をみても民営化の成功事例が少ない中での今回の民営化の実施がある。民間会社から公社へねじを逆に戻すことはないにしても7に示すように国民が納得する議論とビジネスモデルの作成・実行を実現してほしい。		
444	群馬県	『小泉、竹中両氏は全く責任感がなく卑怯である。民間の会社組織であれば自分で蒔いた種は最後まで成長を見届ける気風があり現にそうされているが、蒔きっぱなしでほうっておくとは社会常識では考えられない。こんな人が行った仕事が成功するはずがない。』と率直に思います。現に、先日の日本郵便の失態が代表的。アウトソーシングした結果、『信書』が信書たる役割を果たせなかった。また、誤配から個人情報が他人に漏れ、賠償責任を問われる事案があると聞きます。やはり、公な商いは国の管理・監視のもと、民間に経営判断を全て委ねるべきではない。米国金融市場の市場原理主義の崩壊のように、日本国の市場原理主義の崩壊が懸念される。郵便局窓口での取り扱いにしても、金融庁ガイドラインのもと市場のルールを適用したために、庶民の貯金や保険があたかも企業・法人のものと同様な扱いを受け、郵便局離れ、ゆうちょ離れ、かんぽ離れが起きている。郵便局は金融機関ではなく、郵便局でるということを政府・会社は再認識すべきであると考えます。郵便局ガイドラインが別に必要でしょう。それこそ、ユニバーサルサービスです。 最後に、米国要望の郵政民営化は、即刻見直すべき。小泉が米国から頼まれて行った民営化（変わりに何かもらったの？）は、先に記した通り市場原理主義の崩壊を招くのは必須。縄文時代からコミュニティを形成 して文化を培い成長してきた日本民族と、移動を繰り返して自ら文化を形成しないゲルマン民族との違いを認識し、米国＝正義の考え方を早く修正しないといけ ない。教育にしても医療にしても米国の要望を取り入れた結果、日本民族にそぐわないことが明らかであ る。今こそ失敗に学び、新日本路線の一つを歩み出すべきである。	卑怯な人たちの考えたことは失敗として引き継いだ者が真摯に受け止め、正しい方向に方向転換させればいい。まだ国は大きな損失を被っていないのでそうなる前の分岐点に今あると思う。今後の見直し検討がされ、結果が政府に報告され、与党が国にとって、利用する国民にとって、そこで働く国民にとって正しい判断ができるよう民営化の検討が進むことを期待しま す。	民営化そのものは、郵政グループの内外にとって現状を見つめ直すよい機会であったと思います。現に郵便局の社員の応対がとても良くなったし、より郵便局を身近に感じられるようになった。しかし、民営化法の中身が良くない。せっかくよくなった組織風土を、この民営化法で将来展望の無い会社にしてはいけない。今、政治に携わっているあなた方、とても思い責任が双肩に乗っていることを自覚していただきたい。
445	東京都	民営化前より待ち時間が長くなった。手数料が高くなった。電信為替がなくなって不便になった。	期待が持てない。	採算がとれないからといって郵便局をなくされると大変不便になるので困ります。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
446	東京都	郵政民営化は、大失敗であったと断言できる。私は、当初より、この郵政民営化には断固反対であった。国民の財産といっていい郵政サービスをなぜ性急に民営化したのか？ ある本によると、アメリカの強い要望を受け入れたからとある。民営化され１年が経過したが、郵便局サービスの低下は確実に顕在化していると肌で感じている。初めからこうなることはわかっていた。窓口では以前に比べ待たされる時間が長くなっているし、順番が来ても、事務手続きが煩瑣である。また、「定額小為替」等の手数料も数倍にも跳ね上がり、郵便の誤配達や遅延も頻繁である。百有余年の歴史ある郵政事業は、「奉仕」を主たる事業であったからこそ、国民生活のインフラ的役割を担い、長きに亘り永遠と引き継がれてきたはず。「水」「ガス」「電気」といった国民生活に欠かせない公共的財産を、なぜぶち壊す必要性があったのだろうか？ 先進諸外国の郵政民営化をみても、民営化の大失敗は顕著である。不思議なのは、なぜあのアメリカは、郵便事業が未だに国営なのだろうか？ 国民目線から見て、郵政民営化は大失敗であると確信する。特にこれから高齢化社会を迎えるにあたり、安心の拠点の減少は時代に逆行している。年金問題で苦慮する1億総国民に、さらにダメージを与えている。	現行の三事業分社化の経営形態では、発展はまったく期待できない。目先の利得ばかりを求めることなく、向こう10年、20年、いや半世紀先まで見据えた経営ビジョンを持たなければ、10年を待たずして破綻に追い込まれるであろう。 結論は、まずは、三事業一体の経営形態に戻すこと。グループ内の垣根を払拭すべきである。そして、株式の公開を急がず、まずは民営化見直しを進めることが必要である。性急な株式上場は、アメリカのハゲタカファンドや、オイルマネーの餌食になるであろう。	現行の郵政事業は、早急な抜本的見直しを図るしかないと考える。無論、株式の売却など急ぐ必要などない。万が一、株式上場をしようものなら、国の崩壊に繋がるであろう。ましてや、世界金融危機の中、国民の貴重な財産である郵貯・簡保の資金を、危機にさらすようなことがあってはならない。 小泉構造改革の失政で、郵政のみならず、医療や年金、雇用、治安面も大変悪化している。この小泉構造改革の検証を確実に行うことこそ、健全な日本を取り戻す早道ではないか。
447	岡山県	お客様の立場に立った民営化になっていない。例えば以前は郵便屋さんに貯金の引き出しを頼んだら簡単に引き受けてもらっていたものが会社が違うためにそれもしてもらえない。小包の再配達を電話で依頼してもいちいち大きな支店につながってスピード感のある対応ができない。などこれらは絶対に民営化前の方がよかったサービスです。郵便事業会社の集配センターに部外向けの電話番号もないのは民間企業としてはおかしいのではないか？	国営に戻すのは無理にしても公社のようにした方がよいと思います。せめて郵便局会社と郵便事業会社は同 じ会社のほうがよいと思います。	ー
448	鹿児島県	窓口サービスの低下、無特局での入院保険金の即時支払いが通常払になって、お客離れがおきている。又、事務の煩雑や手続きが難しくなりお客様を待たせるので不満が上がり、このままでは郵便局の存在までが危ぶまれる。	郵政民営化を抜本的に見直し、郵便局を利用して下さる地域の皆さんが喜んでいただけるように、三事業一体を期待する。	各事業部から文書や報告、取扱いの改正等で局長本来の地域の活動がやりにくい現実がある。
449	宮城県	郵便局現場から見た民営化への評価 〇・・・・仕事の動きがスピーディーになった。ある意味仕事がしやすい職場となった。 ×・・・・利用者（お客さま）のメリットは正直「ない」と思う。仕事の複雑化、待ち時間の増大・・・・結果、利用者の減少になっている。また、最大のデメリットは「分社化」だと思う。利用者および郵便局社員にとっ て大きな弊害。	①現在の体制（分社化）を見直すことが第一。公社にする必要ははないが、郵便・貯金・保険のサービスが利用者（お客さま）に一体的に提供できる体制が絶対に必要。 ②民間企業である以上「効率化」は経営上避けて通れない問題。特に貯金・保険会社の株式が上場された場合、経営効率化の名のもと過疎地の郵便局が消滅してしまう可能性が大。	郵便局ネットワークの維持を大前提とするのであれば、現体制では「不可能」。
450	群馬県	私たちの生活を、安心して守ってくれた郵便局を、都会の偉い人達が、勝手にマネーゲームに引きずり出したようにおもえる。田舎では、一緒会社が便利なのに。これからも、地元に一生あって安心して生活したいのに、株を売るだ売らないだの国民の資産をなんだと思っているのですか。	好景気でも不景気でも安定して守ってくれる頼もしいインフラとして、成長してほしい。こんな不景気な時代で、公共的な生活密着型の金融機関絶対必要です。	国民全体のインフラです。売ることを前提に話を進めないでください。郵便局の株主は、私たち国民全員です。いろいろな国の状況を読ませていただきました。酷いものだと思いました。
451	岩手県	何か最近、郵便局の方向性が変になって来ているのではないか？簡単に言うなら一般の利用者を無視し、会社の利益のみを見ているように見えてしょうがない。民営化したのだから会社利益が第一優先！ それは理解出来るが、会社として長い将来を考えた場合、本当に利用者から長く利用してもらえる企業になり得るだろうか？私の知る長く生き続いている会社は、必ず健全 な赤字部門をもっており、それが利用者から絶大なる信用、支持を得ている。郵便局に置き換えるなら、地域との共存、地元社会に溶け込んだ郵便局である。しかし、民営分社化されてから、この郵便局の姿が抹消させられようとしている。今まで郵便局員が保険や年金の集金、又貯金の業務そればかりか、一人暮らしの老人等への「ひまわりサービス」を行い地域社会のライフラインをしっかりと守ってくれた。民営化後残念ながら消え去ってしまった。採算と言う事からであろう。今、郵便局の大変すばらしい一つが消されてしまった。民営化は本当に国民のためになっただろうか？	今後、企業として成長して行くには、地域性を重視したものにするべきである。今、郵便局は行きたい所であるが、一番行きにくい所となってしまった。もっと利便性をもった郵便局になってほしい。	ー

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
452	岐阜県	（1／4） 働く側と利用する側両方からの評価を述べさせていただきます。 まず、お客さまは明らかに離れているように感じています。その一番の要因は、手続き等が煩雑になり、手続きひとつでも時間がかかり、それによって待ち時間も増加しています。お客さまからも「めんどくさくなったね」というご意見を多くいただき、我々は毎回「申し訳ございません」という声をかけ、なんとかご理解いただくように努力しています。毎回同じことをしていますので、この状況はこれからも続くのかと思うと、働く側としても今後もご理解いただくように努力いたしますが、離れていくお客さまも多いと思います。今までご利用いただいたお客さまに申し訳なく思いますし、郵便局ファンの減少は、会社にとっても利益はありません。よくない噂は瞬く間に広がります。一つのよくない噂でお客さまはその3倍・5倍・それ以上減ると思います。噂は非常に怖いです。 次に、サービスは低下しています。今までできていたことができなくなることは、利用するお客さまにとっては明らかにサービスの低下です。例をあげると数えきれません。自分自身は昨年まで過疎地域の渉外社員として働き、現在は窓口社員として働いております。	一つ目に郵便局に「ゆうちょ銀行」「かんぽ生命」からの業務委託を永続的に続けることです。それにより、営業の会社である我々は販売による手数料をいただき、生計を立てることができ、しいてはお客さまを 守ることにもつながります。 二つ目に郵便局会社と郵便事業会社を一つにしていただきたく思います。世間の印象は、2つの会社は一緒だと思っています。それは今までの流れがあるからです。民間になってもやっていることは同じであると思っているお客さまは非常に多いです。お客さまの混乱をなくすには、まず2つの会社を一つにしてください。その理由から考えれば、一番良いのが、以前のように、分社化された5社を1つにしていただくことです。また、正直5社に分社化した意図が分かりません。株式を売却して利益を得たいのかもしれませんが、今まで国民が汗水流して働いて国を信用して預けたお金を、海外の企業に流出させていいのでしょうか。国民は国を信用して郵便局にお金を預けていただいていたと思います。それが株式上場により海外の企業が大半を占める事態になれば、国民はどう思うでしょうか。正直うらぎられたという気持ちを持つ方は少なくないと思います。特に現在金融不安で揺れているので、少なくとも株式売却は凍結すべきであると考えます。	とにかく現状のままの民営化では、喜ぶ人間は少数であり、大半の方が弱者虐待だという印象を持っていると思います。特に過疎地域のお年寄りはその思いが強いように感じられます。一日でも早く見直しが実施され、少しでも国民のことを考えたよりよい民営化となるよう期待いたしま す。質問1・2ではわがままな意見かもしれませんが、少しでも現場の意見として取り上げていただければ幸いに思います。
		（2／4） その中でお客さまからいただいた意見をいくつか紹介させていただきます。 ★郵便配達の人に通帳記帳や払い出しをお願いしてもできないのはなぜ？今までできたのに・・・。 ★今までは、慣れ親しんだ局長さんや職員さんに電話して、荷物を取りに来てもらったが、今は取りに来てくれない。集荷ができなくなってしまったとのことだが、何で？いままでできたのに・・・。 ★郵便局はつぶれちゃうんじゃない？ ★郵便の誤配が多すぎる。 ★郵便の配達時間が夜の8時とか9時ってどういうこと？ ★知ってる人なのに、貯金の払出でなんで身分証明を毎回見せなきゃいけないの？わかってるでしょ？ ★定額小為替の手数料…上がりすぎだよね。 まだまだたくさんありますが、書ききれないので一部のみとさせていただました。とにかくお客さまからのご意見では苦情が割合としては非常に多いです。確かに民営化したことで、金利優遇ができるようになったり、お客さまに対する接遇もよくなったというご意見も頂いております。しかし、以前より利用しにくくなったという意見は間違いなく多くなっております。		

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
		（3／4） 次に働いていて思うことです。 まず、扱う商品が多く、取扱を覚えるのが大変です。郵便・貯金・保険・カタログ等、取扱商品は他の金融機関等と比較して非常に多くなっています。それにまして民営化したことで適用法令が変わり、新たに取扱が変わりました。それにより今までと違う手続きになるものが多く、また新たに取り扱いを覚えることとなり、正直覚えきれません。マニュアルはありますが、膨大なマニュアルの中からその部分をみつけることでまず時間を費やしてしまいます。効率が非常に悪いです。そして、その状況で取扱手続を間違えてしまうと、手数料削減というペナルティがあり、手数料収入で成り立っている我々の職場にとってはリスクが非常に高くなります。そのため慎重に手続きを行うと、お客さまの待ち時間が非常に増えます。それによりお客さまの苦情等につながり、どうすればよいのかわからなくなることもしばしばです。正直悪循環に陥ってしまうこともしばしばで、心苦しく思います。我々だけならまだしも、お客さまにご迷惑をおかけすることが多くなっている現状は、お客さま減少につながり、郵便局の今後を危惧せざるをえません。 次に手数料収入に頼る我々の郵便局会社は、ゆ うちょ銀行、かんぽ生命、日本郵便からの手数料を安定的に頂けなくなるような状況になることは決してあってはなりません。郵便局会社の社員は20万人を超えます。その社員の皆さんは現在頑張って委託企業の商品を営業によって販売し、その手数料をいただくことによって生計をたてているのです。その手数料の主体となっているのは「ゆうちょ銀行」「かんぽ生命」からの手数料です。		
		（4／4） この2社は現状だと最終的には株式売却となり、我々に業務を委託する義務はなくなります。一般的な考え方からすれば、わざわざ手数料を払ってまで委託しようとは思わないと思います。そうするとこの2社は郵便局から離れ、独自で販売等を行うと思います。それにより手数料収入を失った我々は、生計を立てることができなくなります。そうするとう郵便局が成り立たなくなり、社員が路頭に迷うことになります。これは、民営化前に我々に示した明るいビジョンとは全く違います。また、それにより郵便局の閉鎖、それによる金融弱者の増加等につながり、我々だけでなく、地域住民の方々にも多大なる迷惑をおかけする可能性があります。 ですので、委託の義務化が必要であると思います。まだお伝えしたいことは山ほどありますが、現状のままでは郵便局で働いていて、明るいビジョンは全く描けません。実際に働く社員のモチベーションは下がっております。明るいビジョンを描くことができるような職場にぜひ見直しでしていただけると非常にうれしく思います。明るいビジョンが描くことができる会社であれば、民営化は成功したと言えると思います。 それであれば、我々は喜んで民間人として働くことができますし、民間会社にしていただいたことを感謝もします。このままであれば、メリットがほとんどない民営化となり、社員にとってもお客さまにとっても利益はほとんどありません。ぜひ民営化の見直しをよろしくお願いします。		

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
453	熊本県	・ 総じて当初言われていた良くなるといった点が見当たらない。 ・ 事務が煩雑になり、待ち時間の増加、提出書類の増加といった問題が常在化し、それに対する改善があまり進んでいない。 ・ 都市部、それ以外の地域とのサービス格差が生じ、拡大している。 ・ 手数料の値上げなど、なぜ値上げなのかといった説明がきちんとなされていないなどの説明責任が果たされていない。 ・ レタックスの値上げ、従来のものが短期間で復活など先見性がない。 ・ なぜ、分割するのかの意味が、時代に逆行しているとしか思わざるを得ない。 ・ 夜間や休日に郵便を受け取ることができなくなったなどの郵便サービスの低下が顕著となっている。	・ 三事業一体での民営化として見直してもらいたい。 ・ このままでは、郡部などの地域が、ますます、郵便サービス、金融サービスの享受が受けにくくなり、地方の疲弊に拍車をかけてしまう。 ・ 単体での事業環境が厳しくても、他事業でのノウハウを生かすなど、相互で補完しあい事業展開を行う戦略もあるはず。 ・ 一部の人だけが満足であるといったサービスは、サービスではないはずであり、今までの郵便局の在り方を考えるならば、当然三事業一体に事業形態を戻すべきである。 ・ ○○銀行、△△生命保険とは、元々違う道を歩んできたはずであり、使命が違っていたものであり、時代が変わったから、昔の話、では済まされず、強者だけが優遇され、弱者は切り捨てるなどあってはならない。 ・ 中央の意見だけではなく、地方の意見にもきちんと聞いて答えて欲しい。 ・ この国に住む限り、同じサービスを受けるためにも、意見に耳を傾け、それを真摯に受け止め、答える義務があるはずである。 ・ 東京などの大都会における考えが、必ず正当と言ったことはありえず、多面的に考察、検証する必要性がある。	・ このままでは、郵便局がまず地方からなくなっていくといった不安が拭い切れない。また、なくならないといった保障するものもなく、不安が先に立つ状況である。 ・ 何よりも、郵便局がなくなることで、地方が、郡部が元気をなくしていくきっかけとなってはいけない。むしろ逆に元気を取り戻すきっかけになるべきであり、忘れてはならないこととして、本来、郵便局は、国民みんなの貴重な財産であったはずである。
454	栃木県	窓口が大変混雑し、お客さまの待ち時間が長くなり、提出する書類も多くなり、混乱を招いていた。民営化をして、「サービスが向上する」というよりも手数料の値上げや、ATMの撤去、簡易郵便局の閉鎖、集配局再編に伴う遅配・誤配など、大幅なサービスの低下が見られる。このままでいけば、ユニバーサルサービスなどは無視され、採算重視の利益を上げることが求められ、不採算局の廃止、サービスの廃止等、国民が大きな不利益を被ることは避けられない。	まず、第1に三事業一体の経営を行い、貯金・保険も 郵便同様にユニバーサルサービスの徹底を行うことが望ましい。全国で過疎化と、高齢化が進行している地域が増え続 ける中で、農協などに続き郵便局までなくなると、その地域がどうなってしまうのかは一目瞭然であり、今までのように郵便局は、簡便な方法で利用でき、全国あまねく公平に国民サービスのできる「本来の姿の郵便局」になることに期待をします。	郵政株式の売却がされれば、財政の破綻にも繋がりかねません。郵政民営化法の抜本的見直しをするべきです。
455	岡山県	郵便物の不在配達のその後の処理について、なかなか繋がらない支店への電話に始まり、直接こちらから近くの集配局に取りに行った方が早いこともあるのに、それが叶わなかったり・・・と、段取りが悪いというか、イライラさせられることが多いです。民営化前でしたら、このようなことはなかったと思います。それから、直接玄関先に届けていただく際に配達の方がいつも違うお顔の方ばかりで、このご時世玄関の鍵を開けるのをためらわれます。この点につきましても民営化前でしたらこのような心配はありませんでし た。郵便・貯金・保険・・・と3つに分かれて会社サイドは便利なのでしょうか？私たち利用者としましては便利になった点は1つもなく、却ってややこしくなっているばかりです。	何もありません。できましたら、以前のわかりやすく、利用者にとって優しい状態に戻っていただきたいです。	ー
456	千葉県	グループ内において会社同士が競争しており、本来の民営化「どちらを向いて仕事をするか？」が達成されていない。分社化ではなく、JRのような地域分割の民営化のほうが良かったのではないか？	公社時代の３事業一体、地域において分割した方が良いと思われる。また、様々な企業と連携し、便利になることを期待する。	人が少ないので、銀行に比べ混雑しており、社員のモチベーションがあがっていない。
457	群馬県	事業が3分社化されたことにより、事務手続き、記入書類、各事業会社各々の処理の協調性のない煩雑化。分社すること自体が少人数の郵便局では非効率的であると思われます。しかし、損益を通して経営感覚を身につけ、無駄を省き経営努力をすることは、民営化の唯一の評価すべき点であると思われます。	独立採算制で行ってきた国営事業でありますが、民営化に伴い分社され非効率になった今、是が非でも事業一体に戻ることを期待したいです。事業一体で営業できる体制が郵便局の姿であり、少人数の郵便局を民間金融機関と同じ銀行法や金融庁監督下のもとで行うのはおかしな話であり、金融庁のガイドラインを郵便局用に制定すれば良いことであるのではないでしょうか。それくらい沢山の社員・店舗を抱えた企業の民営化なのであります。また、今後分社のまま法案修正されないのであれば、限度額などの手枷足枷を早く撤廃すべきであると思われます。民営化され生き残りをかけているのは、郵便局で働く社員も同じであり、他の金融機関の顔色を伺っているのもおかしな話であります。また、事務処理についても分社化されても同じグループ会社であるので、もっと協調性を持ち、共通した事務手続きに見直しすべき点であると思われます。	（1／2） 民営分社化の法案が出たときに、事業一体でうまく回 っているものをなぜ分社なのか？民間企業でも分社する企業もありますが、民間で言う専門的分野への特化した分社化とは訳が違う気がします。郵便局と言う少人数での店舗での経営に関して、分社化されて営業を行うには非効率的なのは目に見えて分かることであったと思われます。しかしながら、政治の舞台で取り上げられ強引な民営化により、郵便局は解体されたも同 じであります。法案成立から民営化を経て、今現在の経済状況をみると、日本だけでなく世界的に経済不安が増すばかりであり、各企業とも分社・子会社化したものをまた元に戻し始めている。このような情勢の中で、郵便局の分社は時代に逆行していることに思え、見直していかねばならないことであり、早ければ2年後に上場予定もじっくり再検討すべき課題であると思われます。株式上場についても2017年100%放出ではなく、2017年までに上場し、全株式の49%の放出で良いと思われます。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
				（2／2） それから、時代の背景に伴い100%放出を検討しても遅くはないかと思われます。完全な営利目的の金融機関になるのであれば、今後、小規模の郵便局の統廃合は行われるであろうし、山間過疎地の郵便局の閉鎖も目に見えていることであります。2025年まで少子高齢化が加速する今、高齢者の方たちにとって身近な金融機関が失われてゆくことは、非常に不便で不安な事でもあります。また、昨今は車社会であり電子マネーの時代ではありますが、そう言った社会に高齢者の方々が対応できるのであろうか、すべての利用者には当てはまるとは思えない事ではないでしょう か。日本の大企業と同レベルの資金量・資産・社員数を抱え、国民金融資産1,500兆円のうちの約4分の1を抱えた会社を、民営化後3年で上場し10年後に完全民営化することを戸惑う事なく行うことに疑問を感じます。もっと長期的なスパンで行う改革であるのではないかと と思われます。
458	東京都	小泉純一郎の執念とマスコミを味方につけての民営化が実施され1年が経過したが、過疎地は切り捨てられまた、窓口では待ち時間が日非常に長くなる等民営化によるメリットは殆んど見えてこない。このような現状ではお客様離れがますます加速するように思う。	諸々の制約が多すぎる、郵便、貯金、保険の垣根を取り払った事業を展開してもらいたい。	郵便局社員の覇気が感じられない。（業務が複雑のため、食事時間も思うように取れてないように感じる）
459	東京都	郵政民営化は間違いであり、やるべきではなかった。郵政改革をごり押しした小泉元総理は、「民間にできるものは民間にまかせればよい」と国民を言葉巧みに操り、視聴率ばかり気にしているマスコミも同調したことはもはや言い逃れができない。民営化により郵便局はもっと便利になると小泉・竹中コンビは言い切っていたが、民営化になり1年、手数料値上げや取り扱いの停止、地方の簡易郵便局の相次ぐ閉鎖等、不便になったことばかりである。	民営化を直ちに見直し、国営であった以前の形態に戻すべきである。そもそもユニバーサルサービスが基本の郵便事業を三事業一体で、全国津々浦々ほとんどが小さな店舗で行っていたものを民間企業に変える必要はなかった。郵便局員は公務員でも独立採算制で自分たちの給与を自分たちで稼いでいたのだから、税金を使っていない優良公務員と言えるのではないか。健康体の患者を施術してしまい、傷口を化膿させてしまった小泉・竹中の責任は非常に重い。	郵便局員の心の根っ子にあるものは、たとえ民営化されようとも「国民の奉仕者としての使命」であると思う。阪神大震災の際、物流で真っ先に動いたのは郵便局だったことは、神戸の方々の記憶に刻まれていることの一つであると聞いている。民間宅配の最大手の〇〇がなぜ真っ先に動かなかったのか、国民の奉仕者としての使命感の差であると思う。省庁再編で郵政省は消えたが、ユニバーサルサービスを郵便局に求めるならば、郵政省を復活させて三事業を国が責任を持って元に戻すことを期待する。
460	東京都	すぐに結果のでるものとは思えないが、郵便局の利用者から見て以前より良くなったとは思えない。現在の経済状況から見ても経営形態も公社（国の後ろ盾がある）の時の方が安心感がある。「最初から、先ず民営化ありき」で進められているようで、利用者の方を向いていない改革のようである。現場も先ず、黒字をという考えで、要員不足が社員のモチベーションを下げているようだ。郵便局はコンビニとは違うということを新経営陣はわかっているのだろうか？このままでは、庶民の郵便局が、町からなくなってしまう。郵政選挙と銘打った先の衆議院選挙は本当に民意を反映していたのか疑問である。	現状では、貯金・保険は生き残れても、郵便は破綻、郵便局会社も手数料収入だけでは先細ることが見え見えであろう。小さな町での、「手軽」で「気安く利用できて」、「信用もある」機能をなくす手はない。三事業一体なら大きな黒字は出なくとも地域の安心の拠点となるならば、国営化へ戻ることは不可能かと思うが、三事業一体であった公社のころの経営形態が良いのではないか。	郵政グループの株式上場が予定されているが、外国資本が入ってくることが明らかであり、今までの国民の財産である郵貯・簡保の資金が外国へ流失することについては議論が起きてこないのは何か不自然であり、この件については、国民的議論となるようマスコミ等に取り上げていただくよう注文したい。
461	東京都	ー	ー	９月末に届くはずの請求書が民営化してはじめて届かなかったので〇〇局（支店？）に調査を依頼（１０月はじめ）、しばらくして調査不能とかいう手紙が来ました、が、１１月１３日に突然、ヨレヨレになった請求書（９月末に届くはずだったもの）が届きました。しかし、当然付いてくるはずの郵便局からの手紙も無く、やっぱり民営化といってもお役所仕事だな～と思った次第です。また、９月末に届く予定の他の郵便物は不明のまま、配達員の教育もならない分割などやめてしまえと言いたいです。民営化にしろ、公務員にしろ自分の仕事が出来ない人は自衛隊にでも送って教育しなおしたらいいでしょう。とにかく不明の郵便物を早く届けてほしいものです。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
462	兵庫県	小生は、阪神淡路大震災のあった年、郵便局を定年退職した者です。爾来無為の星霜を重ね今日に至っています。 従って、今回責委員会へ私見を提出するに当たって、他人を説するに足る資料・知識の糧を何ら持ち合わせるものでありませんが、あえて感性の赴くまま一筆啓上します。そもそも郵政民営化は、当時の首相小泉が郵政省憎しの怨念から「改革」と言う表現を悪用し、誰もが納得、反対し得ない掛け声を出して"票"を大量獲得し押切り実現したものです。しかし「改革」の中身は何か？郵政三事業をバラバラに解体させた自己満足の何ものでも無かったと評価されます。郵便局の窓口では、職員（社員）のユニホームも新になり接遇も良くなっているように見えますが、言葉の裏側には利用者を信用せず証明書の提示を求め、利用料金の値上げ等サービスの低下があり、配達も集配郵便局の統廃合などで悪影響が出ています。「構造改革」と絶叫した結果は、郵政民営化だけに止まらず、地方を切り捨て格差社会を生み、高齢者等の介護医療問題を惹起し、困窮による自殺者の多発等等全て根は一つから派生していると言っても過言でないと評価します。諺に《覆水盆に返らず》とありますが、いま元の組織形態に戻すのが国難としても、せめて日本郵政グループ各社の株式は、売却を凍結し特に貯金・保険など郵便局を国民最近の新聞記事によると、自民党の中に「郵政研究会」が活動を活発化させているとありますが、間違った政策は是正されるべきと考えます。	ー	ー
463	秋田県	郵政民営化、分社化の誤った舵取りのため、国民が騙されて13ヶ月が過ぎました。民営化後の郵便局の現状を見るに何一つ利用者にとって良くなったこと、改善された点など皆無である。これでは誰のための民営化であるか、小泉純一郎元総理、竹中平蔵元総務大臣に国民誰もがお聞きしたいと思っているし、早急に問いただすべきである。 いつも利用している窓口に行っても本人確認であるため証明書類の提示を求められ、たまたま持参しなかったために家に戻り、時間の浪費甚だしく、これでは安心身近な郵便局は遠のくばかりであります。それに以前より待ち時間が長くなり、おまけに各種の手数料が値上げとなり、特に驚いたのは簡便で利用の大きい定額小為替の料金が10円であったものが100円となり、これからの利用にブレーキがかかること間違いなしである。 次に実際利用された方から聞くにこのような話がされた。毎年リンゴを送っているが、同じは小物で同一あて所であるのに郵便局の料金は250円位は高いとの事である。しかも宅配業者は時間を指定すればその時間にバッチリと取りに来てくれるので無駄な時間が無いのが何よりありがたいとのことであった。自分も確認のため、初めて〇〇急便で同じリンゴ詰め、同一地域に送ったら運賃840円である。郵便局は前回も利用されていることで50円がサービスで差し引かれても1150円の支払いである。宅配との差310円ゆうぱっく高い料金である。前者の方の話は間違いなかった。これではお客さまは他社に流れていくことになる。 上記の記載は一例です。このような状態では国民利用者のためにならないので一日も早く三事業一体の経営でサービスができるようにすべきであると思います。	国民誰もが子供のときから郵便局とかかわり、郵便・貯金・保険と軽い気持ちで多少とあれど利用してきたのでありますが、現在は赤いバイクを見ても簡単に貯金、保険の会話も依頼することも出来ず、家が郵便局と遠いと利用することも出来ず困惑している老人方の声が聞こえる。ここでも民営化にはなじめない。	どこに行っても郵便局があるように絶対に閉鎖しないでほしい。村にあった信用金庫が閉店となり、それに郵便局までも閉鎖されたら住民、特に足弱の老人達が大変なことです。利用するのに困難となる。それから同じ屋根の下で勤務されている社員を見てもまた、あいさつなどを交わしても会社が異なる関係からして従前と大きく違う感じがする。これでは士気も上がらずよその国か町に行っているようです。どうかお願いです。郵政公社時代のように三事業一体で経営されるようにしてください。
464	千葉県	民営化論議の時、政府与党はばら色の郵政民営化をうたっていたが、よくなった点がまったくみえない。決算を見ても会社が持つのか心配になる。もしネットワークがくずれたら益々地方は疲弊する。地方と都市で受けられるサービス格差が拡大するなか、せめて郵便局のサービスだけは均一に受けられるようにして欲しい。分社化は客の側からすると良く分からない。	・まずは郵便局の全国ネットワークを維持すること。そのためには、会社が存続できる仕組みを国が責任をもって作るべき。正すべきはしっかりと正して欲しい。郵便の全国一律料金の維持やネットワークを崩さないためには、どうしても国の関与が不可欠。ここが通常の民間会社と違う点ではないか。中小企業への救済融資や、環境対策の特別融資のような、国策として進める融資を郵便局にさせてみてはどうか。また、市町村合併で行政サービスがダウンすることのないよう、郵便局に行政サービスの補完機能を持たせて欲しい。	・一刻も早く民営化制度を検証して欲しい。特にどこがよくなったか、示してくれれば納得がいく。悪くなった点はいくらでもいえる。小泉劇場の行ってきた負の遺産が、年金や医療の分野で急速に現れているが、郵政民営化がそうでないことを心から祈る。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
465	山形県	窓口を利用しにいって感じたこと。 （1）職員が緊張して客に対応してるせいか、仕事の進み方が遅い。 （2）間仕切りのある窓口の局があり、感じが悪い。 （3）窓口担当者を全部女性にしたことは良いが、ベテランの仕事の早い職員を配置すべきだ。	郵便関係について、最近各種団体から届く便りには〇〇で配達されるものが多い。この原因は料金の関係か、配達時間の関係か不明だが、将来郵便関係の業務の改善が必要ではないかと思う。	（1）休日に小包を差し出しに行った。隅の方に窓口が開いていた。職員は2名。客は長い列になって並んでた。その中には後期高齢者とも思われる人も立っていた。職員を増員して待ち時間を少なくした方がよいと思うし、椅子を置いてサービスをした方が良いと思う。 （2）振替で入金しようと窓口に行ったらATMの方が料金が安いといわれたので、機械でやってみた。間違ってばかりでなかなか入金出来ない。このようなことの無い様に職員が客と同時に操作を教えていただくと次回から順調に行くと思う。
466	青森県	簡易郵便局の閉鎖が相次ぎ利用者の不便さが増している。切手・ハガキを購入するのは今までと変わりありませんが、貯金などは2回足を運ばないと手元に来ない。高齢者にとっては非常に不便を感ずる。これは民営として評価出来ない。	ー	定額小為替、普通為替等の料金値上げなどがあり、利用者としては本当に困ります。元に戻せないものか。
467	千葉県	国営から民営化されて一般国民の意見は本当に困り果てている。郵便局のサービスはスローガンだけでなっていることがはっきりと分かりました。元総理の小泉さんは何で民営化したのか分かりません。	現在の郵便局は減局されている状況で郵便配達も大幅に遅れているし、ポストの取集時間まで削られているようです。	現在の民営化は日本のこれからの郵政事業に汚点を残すことになりかねないと思います。年金郵便の遅配は民営化の責任です。郵政株は凍結すること。ゆうちょ銀行という名前も必要なし。一般の銀行が現存する限り、郵便局内に銀行は必要なし。
468	宮城県	郵便局舎内での間仕切りや簡易郵便局の廃止の増加等々利用者にとって不便を感ずるところが多く評価に値せず何のメリットもない。	国営の場合と違って会社になったお陰で宅配便にしても金融機関にしても利用者は選択自由。集配業務は以前と変わりなく思うが、送金や貯金等は手数料も高くなったし、普通貯金の口座を持っていないと定額(期)貯金もできないというふうに目立つのはデメリットだけなので利用者にとっては郵便局ならではという以前よりも魅力のある商品の販売に力をそそいで欲しい。	民営・分社化して何のメリットも感じられないので10年後のことを考えたとき、素人の考えかもしれないが少しでも早い時期に国営に戻すことが一番いい気がしてならない。
469	長野県	一口に言って、民営化は、何も良いことがないと言えます。利用している郵便局は、普通局でありましたが、集配の再編成により郵便の時間外窓口が廃止、非常勤職員による集配業務の質の低下(態度や乱雑な扱い等)、郵便外務員が配達先で貯金や保険の取扱をしてくれない、局員が少なく取扱に時間がかかる局内に間仕切と監視カメラによる人間性の欠如。これは、利用者無視の厳格なコンプライアンス対応でも同じことが言えます。従って、民営化は、利用者に不便を強いえただけで、何も成果は無かったと言えます。	現場の実態、地域と利用者の声を十分尊重した見直しをしていただきたい。郵便局の三事業が一体となっていた制度は、極めて優れた制度であったと思いますので、これに戻すことを検討いただきたい。間仕切りを無くしサービスの向上を図るうえからも今の郵便事業会社と郵便局会社は一つの会社にすべきであると思います。また、参議院で可決されている郵政株式凍結法案の取扱を早急に衆議院で審議可決するように取扱っていただきたい。少なくとも、民営化の見直しをする間は株式の売却は凍結すべきと考えていますので、委員会で利用者の声が反映され、便利に利用できる以前のような郵便局になるようこ期待をしております。	利用するものも、中で働くものも、大変苦しんでいます、郵便局の創業の理念と言われた、全国あまねく公平なサービスが提供できる郵便局を取り戻してもらいたい。
470	宮城県	郵便・貯金・保険の三事業とも国営に比し、格段とサービスが低下しています。 例 郵便配達の三連休。国営では考えも及ばなかった。 貯金の各種手数料の値上げ。 本人確認等の証明や書類の提出等。	民営化の経営では期待はとても持ち得ない。郵便は国営に戻すべきである。	郵政事業は郵便・貯金・保険の三事業とも国民の福祉の増進、産業の推進、文化の向上に尽くしてきた。130年余りの伝統を持つ、いわば近代日本の国家的インフラの最たるものであった。その仕事振りは迅速、確実、親切で世界に冠たるものであった。そして経営は三事業一体として地域にとけこみ、独立採算の会計は健全で1円たりとも税金の世話にはならなかった。それなのに公共性の高い郵政事業が利益追求を第一の目的とする民営化にする必要があろうか。この事実は万世に記録しなければならない。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
471	三重県	郵政民営化は、利用者として「何のメリットも無い」どころか、以前に比べ「何十年も郵便局を利用しているのに、本人だの正当権利者だのという確認の書類をいくつも出させ、私は郵便局のお得意様じゃあ無いのか」「郵便局の貯金は少額だから担保を出さなくても色々とやってくれるんでしょ。小さなお金を出し入れするけど、銀行はお得意様は別室で話を聞いてくれるらしいけど、そこまでしなくてもほぼ毎日郵便局に来ているんだから郵便局で証明してもいいんじゃないかな。」と思う。民営化の約束は、①サービスダウンはしない。サービスはもっと良くなる。②郵便局は減らさない。③そこに働く社員も働き甲斐のある職場になる等いいことづくしを唱えていたけど、郵便屋さんは郵便を持っていってくれないし、近くの郵便局は小包を集荷してくれないし、職員さんも毎日大変だと言っているし、最初の約束は何一つ守られていないと思う。 銀行、生命保険会社、証券会社等は、利権を狙う人たちが利用する所で、毎日の用事と安心のお財布代わりとして利用する郵便局とは、そもそも目的が違う。「塵も積もれば山となる」で、お財布代わりの貯金でも日本全国が集まれば大きな金額になるけれど、国が勝手に使えるお金でもないし、民営化してどこかの国のハゲタカファンドにでも乗っ取られたら私たちは路頭に迷ってしまう。もしそうなったら、小泉純一郎と竹中平蔵は保障してくれるのか、そんなことは絶対無い。やつらは政治家だから「国民が選んだんだから」と言って逃げるだろう。困るのは私たち国民です。この郵便局民営化は間違っています。竹中平蔵の経済理論の実験と、小泉純一郎の総理大臣になる為の思惑、それに視聴率だけを追い求めて国民の本当の(心理)真理と日本の将来のことを論ぜず、報道を繰り返したメディアの責任である。国民の「安心の砦」である郵便局を無くさないで欲しい。	郵便・貯金・保険のサービスが、今まで同様変わることなく全国何処でも利用できることを強く望みます。そのためにも、公的な役割を果たしてきた郵便局ネットワークは国民共有の財産であり郵便局のサービスは国民の基本的な生活に欠かせないライフラインとして、最善の経営形態の在り方を利用者本位の簡単な事務手続き等により出来るよう、早急に検討していただきたい。	学者論理や都会中心の実態把握ではなく、都会を支える地方の実態を把握して郵便局のあるべき姿を考えていただきたい。
472	長崎県	各種手数料の値上げや、待ち時間は長くなるし各種サービスの低下は甚だしい。	経営形態は民営でも、郵便・貯金・保険三事業一体のユニバーサルサービスを提供すべき。	世知辛い世の中、せめて郵便局だけは、安心・安全・心のよりどころであってほしい。
473	群馬県	お客さま、社員両方にメリットが感じられない。	三事業一体の民営化にしてほしい。	民営化になって色々な商品が出てよい面もあるが、旧特定局のような少人数局では商品がありすぎて対応しきれない。
474	千葉県	・簡易局閉鎖が進み、過疎地では少人数局も閉鎖されると思われ、サービス低下が考えられる。 ・窓口の待ち時間が長くなった。 ・窓口の仕切りが狭苦しさを感じる。 ・地方で集めたゆうちょ、かんぽ資金のほとんどが国債購入といわれており、地方発展に寄与されていないと思われる。 以上のことから民営化は評価出来ない。	ゆうちょ銀行、かんぽ生命の株売却により、資本上の関係が切れる恐れがあり、郵便事業会社、郵便局会社の経営が困難になると思われ、現況では期待出来ないが、以前と同様に郵便、貯金、保険の各事業を一体化経営とすれば期待になる。	ー
475	愛知県	(1／2) 結論は、これまでに比べ、利用者にとって著しくサービスダウンになっており、低い評価をせざるを得ないということである。国の機関から郵政を民営化するに当っては、当初からサービスダウンに繋がらないことを標榜して進めてきたはずである。しかし、わが町の郵便局の具体的実例を示し、如何にサービスダウンになっているかを述べることとする。そして、テーマとは逸れるかも知れないが、今後、郵政民営化委員会の中で少なくとも、郵便事業会社と郵便局窓口会社の郵便関係事業部分は、一つの会社に統合し、以下に述べるようなサービスダウンを解消すべく、議論・検討すべきであると考える。 当日、留守にしていたため「郵便物等お預かりのお知らせ」がポストに入れられていた。早速、指定されたコール・センターに電話した。電話は、2回線あるが、どちらへ通話しても話中でなかなか繋がらない。業を煮やし隣町の郵便事業会社〇〇支店まで受け取りに出かけた。そして、唖然。郵便物は、〇〇集配センターにあるので、ここでは交付できないという。地元の〇〇郵便局のATM室には、「不在の場合は、〇〇のコール・センターに電話してください」と掲示してある。	ー	ー

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
		(2／2) この掲示を見れば、ほとんどの人が、郵便物は○○支店に保管されていると判断してしまうのは当然であろう。郵便物が○○のセンターにありながら、なぜ○○のセンターで直接すぐに受け取れないのか誰もが不思議に思う。民営化前までは、このような場合、○○郵便局へ受け取りに行けば、直ぐに受け取れたのに、それが出来ないばかりか、割高な市外電話を使って隣町の支店まで連絡しなければ受け取れない。これがサービスダウンでなくて、何がサービスダウンであるかと言いたい。また、郵便物の集配に関することは全て、支店に電話するシステムになっており、そのためか、○○の集配センターには電話もなく連絡もとれない。これらのサービスダウンの原因は、2つに会社が別れており、郵便局窓口会社は、郵便事業会社から郵便物を授受してからでないと受取人に交付出来ないシステムになっているからだという。統合は難しいというなら、会社形態は今のままでも、集配センターに「ゆうゆう窓口」を設置し、職員が直接受取人に交付できる方法をとることが出来るように改善すれば、一つの解決方法になろうし、他にも方法論はいくつもあると思う。郵政民営化委員会のメンバーの善処を期待するものである。		
476	和歌山県	(1／3) 1 サービス・ダウン。 (1)簡易郵便局の減少。 ア過疎地を中心に、簡易局が無くなり、過疎地に住む高齢者の、年金の「現金化」が、大変不自由になっている。バス路線の廃止、今まで声かけて、特に一人住まいのお年寄りの安否など、配達員とのコミが無くなったという声を聞く。 イ事務手続きが煩雑となり、高齢者ではついていけない‥とのこえがあるし、後継者がいない(若い人は過疎地離れ) (2)窓口の現状。 ア(例1)小包の不在配達通知書を持って、窓口に受け取りに来た。大勢の後ろに並び順番待ちをして、自分の番がきたら、「これはここではありません○番の方へいってください。」「忙しいのに、なんで別々にしなければならないのか？」と怒りの声‥。(旧普通局窓口)	(1／2) 1 民営化前より利用者へのサービスを、ダウンさすな。(法改正をせよ) 新しい事業への展開などは、一定の評価をする部分があるが、それよりもサービスダウンの面が、より多く目に付く。 従って、今ここに「郵政民営化の見直し」の思い切った法改正を提言する。 (1) 同じ郵便事業なのに、何ゆえ「郵便局会社」と「郵便事業会社」に分ける事を、利用者は望んでいない。より不便を解消するため、これを合併すること。 (2) 地域に必要な郵便局(三事業一体運営化された)にしていくため、ここで、大きく発想を転換し、真に利用する国民のためになるような考えで、再スタートして欲しい。 (3)もっと弱者(高齢者など)に優しい心配りが出来る郵便局(公共性を持つ)にしなくてはならない。そのため、地域のオピニオン・リーダーへの働きかけ(声を聞く会)を、積極的に展開すること。	ー
		(2／3) イ(例2)昨日まで毎度この局を利用している「顔」なのに、なんで今更「本人確認」が必要なのか、銀行だってもこんなことは無い。(旧特定局窓口) ウ(例3)事務室に仕切り、窓口で今までとおり聞いても、教えてくれない。「郵便・貯金・保険」の話が、簡単に開けない仕組みとなってしまっている。 2 局舎の雑居ビル化。 (1) 旧普通局で、4階にいる保険外務員が、地下にある車庫に行くには、当然4階のエレベーターに乗れて、地下まで行けたのに、会社が異なるためこれが使えず、別のエレベーターで2階まで行き、階段を遠回りして車庫まで毎日下りて、上っての繰り返し。 (2) 会社が異なるため、降りられない階段、部屋も出入りできなくなった事務室。 (3) 一日のうち、他の事業の社員との会話はほとんど無い。食事もバラバラとなり、今まで開けたお客様の重要な情報が、全然聞けない状態となっている。 3 地域との交流が不自由となっている。 (1)県・市などの地方自治体から、会議、イベント行事などへの参加が、局会社・郵便事業会社・貯金支店との間では、日常の情報交換が出来ないので、人員の最も多い事業会社へのアプローチ、取り纏めに苦労しており、地方から「郵便局は不便になった 」と嘆かれている。	(2／2) 2 三事業一体的運営で効率を上げ、利潤追求ばかりの考え方を変えること。 (1)目の前のこと(利潤)ばかりを追っていくと、今回のような「年金特別便」の長期間・放置のような事故に繋がることになると思われる。郵便のユニバーサルサービスの確立を求めていかなければならない。 (2)㈱ゆうちょ銀行・㈱かんぽ生命保険のあり方について、株式の一定(2分の1以上)の保有を「日本郵政株式会社」に義務づける。 (3)利用者のための郵政会社として、郵政三事業の情報公開に努め、国民・利用者の信頼を得ること。 3 会社で働く社員が、将来に希望を持てる会社を目指すこと。 (1)効率化が先行しており、働く社員にも、十分な情報を提供して、会社が置かれている現状・課題などを理解させること。(社員の視野を広げる) (2)「人は資本なり」将来に向けて、例えば自分の息子なり娘が「郵便局」に進んで就職したがるような会社にしなければ、会社の将来が危ういのではないか。いま、非常に重要な起点に立たされている。	

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
		(3／3) (2)会社の「利益追求」ばかりが先で、今まで「臨時出張所」として、スーパーなどで「年賀はがき」や「かもメール」の販売も、お互いが競争で出しており、関係の店から失笑されている。 4 今までのように、郵便局としての一体感に欠ける。 (1)局内関係の情報の交流が無い。 元中央局・当局の局長の「死亡情報」が、伝わらない。葬儀・告別式への参加、誰が参列するのか。叙位叙勲の申請の期限など心配される。OB会の組織を通じてはじめて知った等から、OB関係者から不満・不安の声、大。 (2)地域(町内会や、婦人会など)や、OB会などへの、事業PRが、されていない。 今まで、各事業の協力会の部外の方々の会(事業協力会・利用者の会・加入者の会)また、OB会などで出席を求め、三事業への協力を兼ねて、局長・関係の課長から、事業の現況・課題・商品のPRをしていたが、現職とOBとの間に、大きな隙間が出来てきている。 以上		
477	秋田県	①郵便事業会社と郵便局会社の人は一般の人にはよくわからないので困る。 ② 配達されない郵便物を郵便局の窓口にいっても、渡して貰えず、別の郵便窓口にいかないと用が足せなくなったのは困る。 ③ 田舎の郵便局に入っていくと中が仕切られていて、圧迫感を感じてしまう。 ④ 郵便局の窓口の所要時間が、長くかかるようになり、不便になった。 ⑤ ふるさと小包郵便ができなくなり、不便になった。 ⑥ 郵政公社時代にあった郵便振替口座間の振替えが無くなり、不便になった。 ⑦ 利便性が高まったというのは、感じられなくなった。	① 今後の郵政民営化への期待は、まったく感じられなくなってしまった。 ② 臨時職員をもっと少なくするようにできないか。 ③ せめて郵便事業会社と郵便局会社とを統合して、利便性を高めてはしい。	郵政民営化を止めて、元の組織にもどしらいかがでしょうか。
478	富山県	郵政民営化以来、局内の雰囲気がソフトになった。「さあ、民間に参入したのだから」という職員の意気込みが表情からも感じられる。このようなお客さまへのホスピタリティーも大切な要素だが、更にあらゆるシステムの中で高品質で豊富なサービスが求められているのではないだろうか。これから長い年月をかけて新しいスタイルを構築していくとは思うが、まだ現在はあまり大きな変身は感じられない。 例えば ★「小さな政府」実現のため、経済を括性化させていくビジョンが見えにくい。それどころか経済不況の中で深刻な危機を迎えて戸惑いが大きい。 ★ 民間の金融機関が倒産する時代だが、ゆうちょ銀行なら安心だという「安心信頼」のイメージが持ちにくい。 ★ 国民の生活を豊かにするために実施したのだから、人々のライフスタイルの多様化に合わせた時間的商品的なサービスの提供がすすんでいない。何を優先して活性化した身近な存在としての郵便局をつくり上げていくのか、大きな風穴を開けた思い切った柔軟な発想が求められているのではないだろうか。	これからも現代社会はスピードを上げて変化していくだろう。それに合わせたサービスがどの分野にも求められている。人々は早朝深夜にも働いている。それに対応する時間的サービスのコンビニ的発想は当然考えなければならない。「いつでもすぐ用事が済ませる」という感覚は重要である。また、ワンストップで用事が済む窓口での取り扱い販売アイテムを増やしてほしいものだ。巨大な組織とネットワークを活かし、相手の利便性にどう合わせていくか、今後期待したいものである。	―

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
479	大阪府	(1／2) 郵政民営化の必要性・目的は「構造改革のため」と、時の政府は国民に示した。理由は、 ・郵貯・簡保マネーが民間への投資に向けられ経済が活性化する。 ・非効率な官業が廃止され、利便性が図られる。 ・公務員が減少される。 等であった. さらには付帯決議で民営化後のサービスが担保された。要するに日本経済界は勿論、国民生活にも良い環境が構築されるとの説明がされた。では、所期の目的に対し現状はどうなのか。新聞・TVなどのメディアは、郵政民営化による経済界・物通業界に良好な変化が発生したという事例を示していない。逆に、付帯決議で示された約束事が反古されている事象が示されている。簡易局の廃局、振込手数料金の値上げ、ATMの撤収、窓口の長時間待ちなどで、これらは明らかにサービスの低下を示している。	(1／2) そもそも国民利用者の立場から見て、独立採算制で経営されていた郵政を民営化する必要があったのか。利便性の高い郵便局が日本全国に網羅されている。諸外国にも類似の無い企業組織を解体した意図は何だったのか。一部政治家の独断、あるいは郵政に対する個人的確執なる風聞が正しかったのか。さまざまな思いが交錯する。 1項(民営化に対する評価)でも述べたが、民営化後の各社の事業運営は、民営化の目的及び付帯決議に沿わない方向に進んでいる。何故なのだろうか。メディア等から、企業運営の拙さだとか社員の勤務怠慢とか労組の非協力とかは報じられていない。むしろ従業員を削減したり集配局を廃止したりして企業努力をしている様子が報じられている。(これはサービスダウンなのでよくないが)その原因分析は各社においてなされているだろうし、しなければならない。政治の分野においても、 ・金融・物流企業は国民生活に欠かせない機関である。利便性の高い郵便局を衰退させることが国民のために妥当なのだろうか。 ・国益のためとして、日本市場を外国に開放するのがいいのか(特にアメリカ資本) ・民間企業の保護策として国営企業との垣根の高さをどの程度までにするのがいいのか 等を検討してもらいたい。	(1／2) 1項、2項で意見を述べましたが、結論としてこの状況では民営化を容認できません。しかし、全てを否定はしません。「国民のために、真に必要な部分は民営化」すればよいのです。ここにきて郵政民営化見直しの議論が高まっています。当然です。 例えば、 ・私有特定郵便局舎の廃止、ないしは借料金の公正化。 ・特定局から簡易郵便局への移行促進。 等を郵政グループと政治家が知恵を出し合えばよいのです。 ただ、郵政グループのトップメンバーがどこまで「郵便局」を理解しているのか、というよりはその存在が傀儡的ではと…。戦国時代の城乗っ取りのような感がし、不信感は払拭できません。 少し話題を変えます。 1 「政治は邪魔をするな」(朝日新聞08.10.2 私の視点投稿者竹中平蔵) これを読み、民営化見直しを主張する政党への珍奇な牽制球であると判断した。そもそも民営化は国民や郵政が希望したのではない。小泉・竹中両氏が主導したのではないか。いわば生みの親は彼らであり、即ち政治である。その生みの親が育成から手を引き、無責任なヤジを飛ばすとは誠にナンセンス。ただ生む行為だけを楽しむ軽薄でモラルの無い連中と同レベルであると判断した。もっと責任を感じろ、と言いたい。
		(2／2) 経営状況はどうなのか。日本郵政グループは08年9月中間決算報告で、郵便事業の赤字を発表した。(08.11.28 新聞報道)このことは当初から国会審議の中で予測されていたことである。今後どうなるのか、 ・民営である以上採算を度外視した経営は有り得ないのだから、赤字局は廃止されるだろうし料金値上げも必然的に行われる。 ・また企業サイドの効率化を図るためにはサービスの低下は避けられない。 ・郵便事業の経営は益々困難になるだろう。何故なら公社時代は三事業一体経営で「郵政」が成り立っていたが、四社分割財布別々では無駄・非効率が発生し、その結果郵便事業だけでの自立は困難である。さりとてその解決を国民負担とするわけにはいかないだろう。僅か1年経過で、この大事の成否を判ずることには拙速の感もあるが、民営化を論じ合った国会審議の中で危倶されていたことが現実化し、担保したはずの付帯決議が逆に確保できない状況では、何のための民営化だったのかと思わざるを得ない。これからもこの傾向は続き、国民利用者に負担と不便を強いることは明白である。明るい展望が見出せないこの事実は、政治が犯した国民に対する背反行為です。 ここに至り、国民利用者の立場から民営化は否と判断します。	(2／2) その際、アメリカの経済危機に巻き込まれた日本経済と日本の銀行・生保各社の経営状況、対する郵貯・簡保の経営状況などを比較分析してもらいたい。併せてこの1年で、 ・郵貯・簡保マネーが日本経済界、とりわけ銀行・生保に与えた影響 ・郵貯・簡保マネーが国債を購入したことによる国に与えた影響 ・物流関係の業界へ与えた影響 等、各業界・国・国民にどのような変化が起こったのかを分析してもらいたい。真に必要なことは「国民の為の民営化」ではないでしょうか。三事業一体経営を基にして、真に民営化が必要な部分を抽出すること。 これが「民営化への期待」に対する私の考えです。 「覆水盆に返らず」と言う。されど「過ちを改むるに憚ることなかれ」とも言う。登山では、天候の変化や予期せぬアクシデントに遭遇したとき「行く勇気より引き返す勇気が真の勇気」、といさめる言葉があります。今なら間に合います。引き返して次なる道を探そうではないですか。	(2／2) 2 「かんぽの宿」 民営化の波に「かんぽの宿」も何処かにさらわれてしまうと聞きます。公共の宿も厚生省のグリンピア、公務員共済のKKR,国民宿舎等があります。市井の人達が安心して利用できる「かんぽの宿」は、全国に在ります。格差が歴然としてきた時代、高齢者や低所得者が安心して利用できる全国ネットの施設が、日本の国にあってもいいのではないでしょうか。ゆとりと暖かさを感じる保養施設が、国民の為にあってもよいのではないでしょうか。 3 「公共企業と福祉」 郵政は独立採算制の経営。税金で経営していないのなら、上記2の「かんぽの宿」等国民の福祉に役立っものは、公共企業の任務として、独自努力により存続させてはいかがでしょうか。この位のおおらかさが、国民と向き合う政治の世界にあってもよいのではないでしょうか。ただし、このまま民営化が進めば不可能ですが・・・。 4 「官は悪、民は善」 郵政民営化委員会の皆様。もしこの意識があるのなら思い直してください。公平に国民の目線で、この大事を見つめてください。期待しています。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
480	愛知県	（1／3） 1、見直しすべき課題 1) 経営責任の明確化と経営形態 日本郵政(持株会社)の下に「ゆうちょ銀行」「かんぽ生命保険」「日本郵便」「郵便局会社」に分割され、運台されていますが、改善すべき課題について意見を述べます。 ① この経営形態は、相互依存関係が強く民間企業としての各社の自由な事業活動が制約され、各社の経営責任が不明確となる可能性が高い。 ② 公社時のように一体的な形態に戻すか、現行の分社された形態を維持するか、いずれが民間企業として主体性をもって効率的な経営と国民へのサービスが可能か今一度再検討すべきだと考える。 ③ 具体的には、金融(ゆうちょ銀行)と保険(かんぽ生命)郵便事業を再統合して総合的なサービス会社として経営することが現実的対応のように思われます。現行の4社は、独立採算制の部門と位置付け、部門別に経営責任を明確化することが望ましいと考える。日本郵政は、全体を統括・監督する持株会社とし、国との窓口を担当する役割を持たせる。民営化の逆行ではないように思われます。 2)郵便事業と特定郵便局 ①全国に2万を超える営業拠点である特定郵便局は、国民への総合的なサースが提供できる拠点として有効活用すべきである。 ②そのため、事業内容を大胆に見直し、例えばコンビニネンスストアーのような住民に利便性ある総合的なサービスを提供する。このことによって自立した経営が可能にするよう努める。現在のような「ゆうちょ銀行」「かんぽ生命」の委託手数料に頼らざるを得ない体質では自立した経営は困難のように思われる。自立可能などジネスモデルを模索することが肝要と考えられる。	ー	ー
		（2／3） 2、政治の介入と郵政一家意識の排除 1) 民営化に際し、政治に大混乱を巻き起こしたことは記憶に新しいところである。すでに民営化が実施された現在、政治の役割は、民間企業により近い経営が行い得る法的な整備に行い支援を行うことに限定すべきである。卑しくもこの問題を政争の具にしないことが肝要であると考える。 2) JP労使もまた、郵政一家意識を払拭し、民間企業としての自覚を持って経営にあたるべきだと考える。 ①経営側は、郵政グループとしてもたれ合い排し、政治の影響を受けない経営に徹することが大切であると考える。 ② また、労働組合はJP労組として単一組織なっているが、この体制では、各社の経営責任が不明確になるばかりかモチベーションを高めることは期待できないと判断される。 ③ 見直しに際し、労使とも政治(政党)の力を利用することなく、目線を国民・消費者におき、国民か何を求め、何を期待しているか把握して対応すべきである。国民のニーズを無視した改革は、断じて行ってはならない。 ④郵政事業を一体的に取り仕切る「日本郵政」が各社の利益調整(委託手数料)を行うことの弊害は、一時的な対策になっても長期的に見えば経営責任を不明確にするばかりか各企業の意欲を阻害することが危倶される。		
		（3／3） ⑤ JP労組は、業種が異なり業績も異なる組合員を擁している。この体制では各社の真筆な労使協議が期待できない。ましてや、同一労働条件を担保するとしたら大きな矛盾を生むことが予想される。組織形態は、各社別の労組の連合体が望ましいと思われる。(4社が一体化されれば問題はない) 3、株式の上場問題 1)株式の上場は、方針通り実施すべきである。そのことが、本格的な民営化にとって不可欠な条件であると思われる。 ①民営化の果実を国民に還元するために方針通り実施すべきである。その時期については、株価の動向・株式市場への影響などに配慮して柔軟に決定するべきである。 ② 完全民営化を実現するためこは、株の公開は不可欠である。株主の監視の下で開かれた経営が行われることが経営に緊張感が生み、上場することによって経営形態を民間企業に相応しい体制に整備されると考える。		

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
481	山口県	四分社化は完全に失敗である。現場の声が聞き入れられないで有識者だけで実施している。	郵便局会社、郵便事業会社の早期事業統合すること。その後郵政民営、分社化を見直し、国営事業に早期に戻すこと。	早期に衆議院選挙を実施し、与野党逆転させもとの国営事業に戻し、ユニバーサルサービスが出来るようにする。
482	岡山県	小泉・竹中の改革は弱者・地方切り捨てで一部の富裕族のみに幸せをつくる改革となっている。働く意欲をもった若い世代がフリーターにもならず、仕事もなく若いエネルギーをもて遊び、楽に金儲けを企む世のなかにしたのは、必要のない改革をしてしまったからである。郵便局もなぜ民営化が必要か、民営化すれば国民にどれだけの利益をもたらすことができるのかの説明をしなかった。小泉劇場といわれるようなパフォーマンスで国民を欺き、世の風向きが危うくなるとさっさと政治家を辞めて評論家になってしまう。そんな方が唱えた民営化は評価する値打ちはない。社員は疲弊し、お客様は忍の一字で窓口で待たれる。渉外においても、一人の職員が三事業をすべてやっていた時代は、一人暮らしのお年よりも、コミュニケーションの楽しみを待っていた。いまは、どの人がどの会社に所属しているのかを確認しなければ、言いたいことも言えない会社となっている。結論は郵政民営化は失政であった。	民営化された以上、民間企業として生成発展するように、更には世界的企業にもなれるような会社を目指すのか、それとも日本国民の生活のインフラとしての郵便局を目指すのかの方針をしっかり構築して欲しい。私は利益優先で利益に生きがいをもつ郵便局でなく、生活インフラで弱者・地方にやさしい郵便局になってもらいたいと望んでいる。 ⑴「郵貯」及び「かんぽ生命」の限度額の撤廃 民間で自由な競争市場を約束するなら、他の民間機関と同じように限度額をなくすべきである。 ⑵三事業一体の経営を行う。 大都市のように金融機関・交通手段等が充実していない地方及び弱者は日本全国数多い。毎日のように各家を訪問できる郵便局会社・郵便事業会社の社員が三事業全てのサービスを提供できるようにする。 ⑶三事業会社の株式は50%以上国が保有する。 どんな状況になろうとも、24000のネットワーク及び通信・金融のインフラを国が弱者・地方のために保障する。そのためには国が50%以上の株を保有することを法律化する。 ⑷郵便事業・郵貯銀行・かんぽ生命を郵便局会社の子会社とする。 現在、郵便局会社は三会社の代理店となっており、自前の商品をもっていないため先行き経営的に不安定である。郵便局の基本の業務として、郵便事業・ゆうちょ銀行・かんぽ生命の三会社経営を行う企業とする。	―
483	長野県	年賀はがきの販売の時期である。以前であれば、郵便以外の貯金や保険担当の人も、お客さまの要望を受け、年賀はがきを販売していた。それは全てその郵便局としての成績となり、収入は郵便事業の収入であった。だから、経費は特にかかっていない。しかし今は、横のワクを越えての協力体制が取れない組織になってしまった。しかも郵便局会社の人が年賀はがきを販売すれば、郵便事業会社から手数料が郵便局会社に支払われる。世間の人は、そんなことは知らない。言ってみれば、全く無駄なゼニが動いているのである。郵便局会社と郵便事業会社が一つになることにより、無駄な経費を節約し、その分、有効に使えることになる。その意味で、四分割したことは、大きな失敗であったことは明白である。	郵便・貯金・保険の三事業が一体的にサービス提供できるようにすることが、お客さま、特に地方のお客さまに対する最も重要なことと考える。そのためには、横の垣根を取り払い、常に連携し合える組織にすることが必要である。	―
484	岩手県	プラス面だけでなく、マイナス面も目立つ。まず、過疎地の利用者にとって、利便性が低下したと思われる。例えば、民営化前であれば、過疎地の高齢者等の利用者は、郵便物の集配を受ける際に通帳を集配員に預けて預金の入出金ができたが、今はそのようなサービスは受けられない。また、小包の集配業務も大きな郵便局に集中するようになったため過疎地の利用者は不便を強いられている。ゆうちょ銀行に関しては、窓口の待ち時間が長すぎるなど円滑な業務が行われておらず、利用者から不平の声が上がっている。このままでは利用者離れが進むであろう。すみやかな改善が必要である。	過疎地の利用者へのサービス低下など郵政民営化によるマイナス面を見直してぜひ改善していただきたい。	―
485	山口県	評価に値するものは無い。民営化で全て悪くなった。	期待するものは、全く無い。悪くなるばかり。	78歳の夫婦暮らし。民営化までは、外務職員の温かい言葉と御用聞き。唯一の便りだった。先行き不安、利害得失を超えた、元の三事業一体の郵便局に戻してほしい。願い切である。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
486	北海道	昨年の10月より郵政民営化がスタートしましたが､この郵政民営化以来郵政事業の状況は､残念ながら目に見えて地域住民に対するサービスは悪化しております。土曜日における郵便窓口の廃止また集配業務の遅れなど､郵便局は以前のような持ち前の柔軟さや､温かさが失われております。四分社化された会社間の連携が全くなくサービスの低下はもとより業務の悪化は避けられないと思っているところであります。以前の郵便局の事務室では内務職員､外務職員が一体となって業務に取り組んでいたが､今では狭隆な事務室を高額なお金をかけて分離し､連携した業務ができなくなっている､これも業績の悪化また利用者サービスの低下につながる大きな原因だと思います。三年ごとに郵政民営化の進捗状況について見直しをするようであるが､ぜひ郵政三事業を一体経営に戻し､地域住民により良いサービスの提供を行い､郵便局の維持発展を願うものです。	ー	ー
487	青森県	民営化は失敗だと思う。郵便局は､簡便､迅速な取り扱いの庶民のそして地域の金融機関であったが､民営化によりそのよい点がなくなりつつあるといえるし､民営化すればさらによりよいサービスが受けられると小泉総理が声を大にして宣伝したが､現状を見る限り国民はだまされていたといっても過言ではない。理由として､事例を少し挙げてみます。 1.民営化前の郵便局は､簡単な取り扱いとスピーディーな事務処理で､公的機関の中でそのサービスはトップクラスの評価を経ていたが､現在の郵便局は､形式的な本人確認や事務処理のため待ち時間がかなり長くなりサービスの低下となっている､このままでは利用者離れを起こしかねない。 2.過疎地域や他の金融機関のない地域で郵便局の閉局や休止があいついでいる。また､為替料金の値上げをはじめ電信為替の取り扱い等が廃止された､地域の地場産品を販売し地域おこしの一環を担っていたがそれも出来ない状況だ。 3.過疎地や他の金融機関のない地域の高齢者の方々は､年金支給日などには民営化前には郵便配達員に貯金の払い戻しなどを依頼していたが､民営化後はその様な取り扱いはできなくなり(所属する会社が異なるため)自分の足を使って郵便局まで出向かないと年金のお金も使うことができなくなっている。過疎地には公的な交通手段も少なくサービスの低下は歴然としている。	いまさら国営化に戻すことはなかなか困難だと思われるので､株式会社としていかに郵便局のよさを出せるか､郵便局を維持できるかだと考えている。 1.過疎地の郵便局を維持してためには､すべて郵便局で郵貯･かんぽの取り扱いが永続的にできることが必要絶対条件です。 そのためには､各社で株式を持ち合うことができるようにするとか､郵政株式会社を持ち株会社として33%以上の株式を保有することが必要です。 2.郵便配達員が郵貯等の取扱いが出来るように制度か会社の組織形態を改善する。	ー
488	宮崎県	三事業一体で今までうまくいっていたものが､四分社化され､サービス低下が数多く発生し､地域住民である利用者に迷惑を掛ける結果となっている。例えば､今まで郵便配達の人に貯金や保険のことも頼めたが､分社化により頼めなくなり､特に地方の過疎地のお年よりは､そのためにわざわざタクシーを使って郵便局に年金をおろしに行かなければならないなど､何一つ良くなったことはない。手続きも複雑になり､窓口でも待たされ､評価としては最悪である。	今回の民営化は「民営化ありき」で､どう民営化したら国民のためになるかといった支店が全く無かった。今後は､今までに郵政事業が果たしてきた役割をよく検証し､今回の民営･分社化で問題のあるところは抜本的に見直すことが必要である。国営に戻すことは求めないが､せめて三事業一体で､効率的な経営ができ､お客さまサービスを低下させないような形態に見直し､株も100%売却ではなく､ある程度は国が保有し､国益を守る手立てをすべきである。民に全てを委ねてしまえば､過疎地からは全ての郵便局が無くなり､余りにも危険である。世界的な経済不況の今日の状況を踏まえ､この問題に対して政治の役割はきわめて大きく､大いに期待している。	ー
489	岐阜県	① 分社化により不効率､不便になった。支店には､郵便局会社と郵便事業会社の2つの郵便窓口があり無駄。郵便配達員が貯金､保険の業務を扱えなくなり､過疎地では不便。 ② 臨時職員･社長が多くなり､事務能率が低下。将来の要員確保を懸念。	① 国民の利便性､経営効率のため､郵便局会社と郵便事業金野は1つに。 ② 国民に民営化のメリットを示す。	ー
490	大阪府	特段何も変わっていない。確かに金利優遇等のサービス､「その日から」等の商品で変化はあるが､反面､利用者にとって､手続きがややこしくなり､待ち時間が増えたり､払戻し等の際､証明書類や委任状がいるなどとサービスが低下している。ましてや料金･手数料が値上がりするなど､もってのほかである。利用者にとってマイナス評価のほうが大きい。	金融機関として､一銀行､一保険会社が増えるだけでは期待は無い。利用者が民営化で何を望んでいるのか再度見直すべきである。期待どころか民営化で利益優先となり､便利であった近くの郵便局が無くなることになるのが素人でも分かる。利用者にとってプラスを見込めない。	そもそも民営化することに問題があった。国民に民営化することで予想される損得を理解させないまま､小泉人気のもと政府が押し切っただけのこと。肥大化した郵便局にも上層のキャリアの責任があるのかもしれない。ただ､郵便局が経団連､全銀､〇〇の言うように民間企業を圧迫しているのか？原点に戻り､ユニバーサルな組織の継続､地域に根ざし､あまねく全ての人に信頼され､地方自治体的なサービスを展開できる組織として､郵便局は今後の高齢化等の問題にも対処できる金融機関であり､国の組織として存続するのが本来の姿ではないでしょうか。このまま完全民営化となり､株式を上場し､利益優先､ユニバーサル組織の崩壊､そんなことを利用者が望んでいるのでしょうか。再度の是非を国民に問い直すのも必要ではないでしょうか。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
491	宮城県	（1／2） 私は、郵便局ファン（一利用者）です。郵便局を50年間利用しています。「お客さまの利便性向上」ということで小泉元首相が先頭に立って法律改正を行い、昨年10月に実施された郵政民営化は、利用者にとって何1つとしてサービスアップ（利便性が向上）したものはないと思います。例を挙げますと、 ・定額小為替など為替。振替払込料金が引き上げられた。 ・街に設置されていたATMが撤去された。 ・待ち時間が長くなった。（本人確認が厳しくなったなどにより。） ・簡易局の閉鎖（廃止） ・小さい配達局の夜間窓口の廃止 ・小さい配達局が2つの会社になり、対応が悪くなった。 ・一部の配達局を配達しない郵便局にしたため、配達区域が広くなり、配達時間が遅くなった。 ・民営化後、祝日全日、郵便物が配達されなくなった。	①ずっと先まで、時代に合った合理化・効率化等を実施し、郵便料金等値上げされず、サービスダウンされない、あまねく公平なサービスを全国津々浦々に提供する民営化以前のような郵便局であってほしい。 ②前記のような利用者から見た「サービスダウン」は一部であり、もっと沢山ある。今回、「民営化によりサービスが悪くなった」という意見が一杯出てくると思われるが、ぜひ、その意見を取り入れ、見直しをしていただきたい。 ③社員が毎日安心して働き甲斐のある職場にしていただきたい。	郵便局が明治の初めに出来、百数十年になるという。この間、全国津々浦々に配置され、現在は2万4千ほど郵便局が地域の金融機関・郵便を配達する機関・簡易保険を扱う機関等として国民が生活するうえでなくてはならない身近な存在となっている。今、民営化で儲からない郵便局が無くなるのではないかと心配されている。企業のような「儲け主義」では全国津々浦々に「あまねく公平」にサービスを提供（郵便局がなくならないよう）することは出来ないと思う。 今後も全国津々浦々に「あまねく公平」にサービスが提供できるようには現在の郵便局ネットワークを維持する必要がある。 また、四つの会社に分割したため「分割ロス」が色々な面に出ていると聞く。今、世界・日本の会社は、買収等により合併・統合し、規模を大きくして「以下に効率化を図り、経費を節減し、販売を伸ばして生き延びるか」ちうことで必死である。郵政事業会社の四つの会社への分割は時代の動きに逆行している。民営化以前の1つの組織（民営化は維持したままで）に戻し、会社ごとの垣根を取り払い、一人の社員が郵便・貯金・保険の業務が出来るようにして、効率化を図り、ユニバーサルサービスを義務付け（郵便局を無くさないと）、これからも全国津々浦々に「あまねく公平」にサービスができるようにすべきえある。
		（2／2） ・社員からの話だと、 「貯金などの取扱いが複雑になり、業務に追われ余裕がなくなり、営業が出来なくなった。」 「小さい局・大きい局との検査・監査が同じになり、業務に追われ、営業が出来なくなった。」 「職場がどうなるか不安定で不安になり、士気が上がらない」 「企業性（儲け）だけを求めるようになり、お客さまの立場に立った、地域に密着した郵便局（会社）でなくなりつつある。」 など。民営化を実施して、①利用者にとってサービスアップ（利便性が向上）したものがあるか、②JRにように変わったか、郵便局利用者に聞いていただきたい。 民営化後の郵便局を見ると、政治家が選挙・国会で国民に言ったようにならず、私は民営化される前の法がサービス等が良かった。合理化・効率化等の実施により、郵便料金等値上げされず、サービスダウンされない、あまねく公平なサービスを全国津々浦々に提供する郵便局であってほしい。		
492	千葉県	ユニバーサルサービスを求め、提供するには、民営化して採算が合うはずがない。口先だけのきれい事ですまない。国民の福祉の向上、生活の利便性を提供するサービスであり、最近ではサービスダウンが著しく利用者不在です。会社が違う・手数料はあがる、誰のため、何のために民営化したのか分からない。	以前のように、利用者にやさしくほっとできる場所が欲しいです。切り離しではなく一体化して戻してください。最近では、社員も知っている方が少なく、有能な人も辞めてしまい、親近感も薄れ、寂しくまた不安に思います。	社会は極めて不安定になってきています。せめて庶民の利用する郵便局だけは、安心のより処であって欲しい。それは国民のため、ひいては国のためではないのでしょうか。
493	鹿児島県	暑中見舞や年賀葉書のシーズンともなりますと面識の有無にかかわらず、多くの職員の方々がPRと販売に積極的に努めておられるのを感じます。集配業務に従事しておられる方々も以前の方々と異なり、ぴっくりする程に夕方遅くなり暗くなってからも配達に来られるのを時々見受けますが、仕事とは言え全く自然に頭が下がる思いです。	郵便局の窓口のお客さんは申すまでも無く①郵便②貯金③保険④為替、振替等の取扱い客です。待合客の大半で手隙職員でサポートして上げられるのは、①貯金の預入の仕方②記帳の仕方③郵便振替の払込等のサポートを親切にしてあげることによりATM（文明の利器）取扱いに慣れ親しんで貰い、コミュニケーションを図ることにより、一人でも多くのお客さまに来局していただけるのではないでしょうか。	去る9月中旬のことです。小生が20通余りの封筒を持参し、切手を買い求めカウンターの隅っこにて切手貼りを始めましたところ、窓口の若い女性職員の方が「こちらで切手を貼ってあげましょうか」と声を掛けられ、一瞬「えっ」と思いましたが、厚意を無視することなく喜んで依頼することにしてスッキリしました。公共企業体の職員であるならば内外男女を問わずサービス精神を教育・指導すべきです。 （別件）郵退連、退公連他に自治会等の役員会等に参加、出席しているときに最近の郵便局に対しての意見は耳が痛い。「職員が無愛想になった。サービスやマナーも悪くなった。」等です。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
494	岐阜県	悪くなった。 ・配達に来る人が一定ではなくなり、安心感や、親しみやすさが無くなった。 ・年賀状が元旦に届かない。しかも同じ日に同じあて先に差し出したが、それぞれ違う日に届いた。 ・配達する人、貯金担当の人、保険担当の人、郵便局の人全て別会社の人になり、一度で済んでいた事が手間になり、大変不便になった。 ・振替や為替手数料が高くなった。悪い意味で銀行並になった。簡便で安価な送金手段としての役割を果たしていない。 ・三事業別会社となり、会社間での個人情報の取扱が難しくなり、利用者に郵便局の利点である貯蓄と保障等、三事業一体となったサービスや提案ができない。また、三事業一体のサービスを提供しようとした場合、利用者から個人情報に関する同意書を取得しなければならないが、窓口事務が煩瑣になる、待ち時間が長くなる、利用者に同意書の提出をさせる等本来の郵便局の利点が活かされていない。	・4分社構造の見直し。 ・過疎地域における金融サービスの確保。	・郵政株式の売却凍結
495	愛知県	現場（郵便局窓口）レベルの事務取扱いの煩雑さの増加により、お客様の待ち時間が長くなったとの声が多かったが、現場を預かる者としては、現在は改善されそうは思わない。が、手間のかかる、複雑な手続きは多くなった。又、規定や手続きの変更が多く、当然それらに対応する社員の勤務時間の増加につながっている。深刻な問題は郵便に関するクレームの増大である。窓口に寄せられるクレームは誤配、不着、遅延申告がかなり多くなった。集配局再編による1社員にかかる負担増が原因であろう。人不足によるアルバイト社員化、熟練度の低下も大きな要因と思われる。各会社に共通していえることが人員不足。社員疲弊につながる事を危惧してい る。	公的機関ではなくなり、制約も無くなった（少なくなった）ことによる「よりよい新商品開発」に期待する。保険の入院特約変更などは顧客からの評判もよい。民営化による自由度アップに伴う顧客、社員のためのフットワークのよい経営、開発を望む。	ゆうちょ銀行、かんぽ生命の株式公開には不安を感じる。国民のライフライン的な存在を維持するためには多少の国の関与が必要ではないかと思う。
496	神奈川県	民営化してサービスがよくなるより、各種料金や手数料が高くなったと感じる。また、定額貯金の通帳が公社時のものが使えなくなるなど不便になったと感じている。評価できる点は、保険など新しい商品が発売されたり、優遇金利の貯金が出来たりしたところが、民営化の評価できるところであると考える。	既存の銀行や、保険会社と同じことをするより、今までの郵便局のよかった点を効率的に行ってほしい。その上で、国営では出来なかったこと、例えば、金利優遇商品やがん保険の販売などを行ってほしい。	―
497	東京都	国営の良さを国民が本当に理解しないまま、民営化されてしまった。確かに、お役所的な行動があったことは非難されても仕方が無いが、その一方で「お客様のために」誠実に働いていた社員もいたのである。民営化による国民のメリットとデメリットを、郵政部内から表明することが出来なかったことが、返す返すも残念である。周りも、「こんなに不便になるとは思っていなかった、なんであの時に郵便局の人は言ってくれなかったのか」とよく言っている。	郵便局のネットワークは国民の財産であり、利益追求の会社形式では不採算地域が切り捨てられていくことは火を見るより明らかである。そうなれば、生物の毛細血管が壊死し、やがて死に至るのと同じように、日本全体の「国力」が低下してしまう。荒れてしまう。「国民の最低限のセーフティネットの維持」という観点から、会社組織のあり方を再考してほしい。	民営化をしたら、地域の実情に合わせた新しいサービスや活動が出来るようになると思っていたが、実際は「一部の地域で行っても会社として責任が取れない」「採算が取れない活動は出来ない」といった回答が多い。民営化したら利益を上げたいはずなのに、社員の意欲や行動に会社が足かせをはめているような印象である。
498	宮城県	「民営化すれば市場の競争原理が働き、サービスが良くなり利用者にとってはもっと便利な郵便局になる。」との話でしたが、果たして現実はどうでしょうか。少なくともいろいろな面で民営化前よりサービスダウンしているとしか思えません。	民営化自体に反対するつもりはありませんが、少なくとも民営化前並みにサービスを戻すように希望します。新しいサービスを始めたり、なにをすればもっと便利になるかの議論はそれから考えても遅くはないと 思います。	このままのやり方で郵政民営化を進めれば、近い将来地方には郵便局は無くなってしまうのではないかととても不安です。
499	東京都	現在の分割民営化は、サービス等の低下をまねいていると思うので評価に値しない。	現在のままの民営化では、期待できることはない。	郵便事業会社、ゆうちょ銀行、かんぽ生命保険と各会社等から業務を委託された郵便局会社の4つの会社に分けて民営化されたが、現在の状況は、郵便局会社が他の3つの会社から一方的に指示をされ仕事をさせられているような印象を受けているし、郵便に関しては郵便物の授受にしても、わかりにくくなってしまっているように思う。今後は、少なくとも郵便事業会社と 郵便局会社くらいは、一つにしてお客様にサービスを提供しやすい環境にしてほしいと思う。
500	奈良県	民営化に対しての評価は、失敗であると考えます。理由とし国民生活の利便性が低下した。それは民営化前に比べ規制がより厳しくなり、待ち時間の増加、商品が複雑化し高齢の方にとって理解しにくい業務内容である等。又、郵便局で扱う商品が増加した事により近隣の商店、コンビニと商品がかぶり郵便局の地域社会での位置付けがあいまいになっている事。4分社化にした事によって、将来の経営の見通しがたたない。今後もユニバーサルサービスを維持しつつ安定した経営が維持できるのか不安が残る。	まずは、4分社化を見直し、将来にわたって永続的な経営ができるようにして貰いたい。JRのように地域によって会社を分けたほうがいいのではないかと考える。株式の上場について、株式売却の凍結法案を成立させて、日本の安定した資産を守ってもらいたい。	もう一度、社会の中での郵便局の位置付けを明確にし、過疎や地方の郵便局がなくならないように組織の再編を希望します。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
501	佐賀県	これまでの民営化に関する評価として、「誰の何のための民営化だったのか全く解りません。」今まで便利に使っていたサービスが無くなったり、手続きも面倒になった。不在で受け取れなかった書留や小包もこれまで自分の都合がいいときに郵便局の窓口で休日でも受け取れたのに、今では事前に連絡をしておかないと窓口で受け取れません。そして、休日も窓口は閉まっており受け取れません。郵政民営化でサービスが良くなり利用者も便利になる。といったことを小泉元総理は盛んに言っていましたが、実際はサービスが良くなったことがあるでしょうか。国民利用者の目線で見るとサービスは改悪、不便になったように思います。郵便局会社も当初予定していたように利益が出ていないと聞きます。このままでは身近にある郵便局は無くなるのではない かと心配しています。	可能なら国営には戻せないにしても、以前のように郵便、貯金、保険等の総合的なサービスを郵便局一箇所で受けられるようにして欲しい。	地域の身近な公的サービス、金融サービスをいつまでも郵便局で受けられるようにして欲しいと願います。
502	熊本県	郵政民営化後は悪影響が圧倒的に多い。良くなったと感じた点はない。簡易局の閉鎖、集配局の削減で不便になった。高齢者が郵便局へ行くために車で数十分かかり、誤配・遅配が多くなった。休日開いている郵便局がなくなり利用する機会も減ってきた。為替発行手数料や送金手数料が大幅値上げされた。通帳の切り替え、保険金の請求は提出書類や確認事項でとても面倒になり待ち時間が長く利用する機会が減った。郵政民営化で国家公務員が減っても税金の削減になっていない。	安心と信頼のある郵便局に戻してほしい。銀行や生保会社、宅配会社にない郵便局のネットワークを活かしたユニバーサルサービスの義務が果たせるいつも利用できる郵便局に戻してほしい。分社化により各会社の利益追求になり混乱している現実・現状を見極め三事業一体の経営に戻すべき郵便局の最たる基本業務、郵便物を正確に宛先まで届ける地域の郵便局を復活させてほしい。	郵便局と民間会社と競争は国営のときからあったのだから本来の郵便局の使命であるユニバーサルサービスを三事業一体で行うべき。、国民が公平に国民の為の安心して利用できる機関であってほしいし必要としている。
503	北海道	会社が分かれるなどして不便になりました。香典とお悔やみを同時に先方に送れなくなったり、貯金の手数料が値上げしたり、そんなことは民営化前は言っていなかった。便利になるとの話ばかりだった。どこが便利になったかわからない。サービスダウンになったと思う。	新しいサービスよりもしっかりと今までのサービスを維持してもらいたい。田舎では特に基本的な貯金の出し入れなど出来なくならないようにしてほしい。今のままではどんどんサービスダウンになって今では当たり前の配達が毎日あるとか、貯金保険の出し入れが出来るとかも出来なくなるのでは？と心配です。	田舎の目線でも見て頂き、公平に意見を聞いて下さ い。
504	宮城県	郵便局会社で働く側の立場で意見を提出します。民営分社化後1年経過しましたが、残念ながらプラスの評価は出来ません。なぜなら、本当に地域のお客さまの立場に立ったサービスを提供しているかというと、これまで一度も「民営化になって利用しやすくなった、サービスがよくなった」といわれた事がありません。料金は高くなる、手続きが面倒になった、待ち時間は長くなる等々、いら立ちをみせるお客さまも多くなってきています。これまでも分社化に対する説明を一生懸命行ってきましたが、まだまだ理解されていないというのが現状です。今でも三事業一体経営だと思われているお客さまが大半ではないでしょうか。ちなみに今日も「サービスが悪くなった」と言われました。また、分社化された事により手続きが煩雑になり、気持ちに余裕が持てなくなり、お客さまとのコミュニケーションも減りました。中間決算では純利益が平成20年3月に比べ大幅に改善（黒字）されたとのことでしたが、現状からするとなかなか実感はありません。以上のようにさまざまな弊害がでてきていると感じます。	お客さまが民営化前と同じように、利用しやすい環境にしてほしい。三事業一体経営、郵便・貯金・保険とクロスセルに関係なく、何でも気軽にお客さまへ話を出来る環境にしてほしい。三事業一体となってこそ、一番のお客さまサービスだと考えます。	―
505	新潟県	郵政民営化前、民営化されるとお客さまの利便性は向上し、郵便局で働く社員は働き甲斐を持て、新しい事業を次々に行うことができると思っていた。しかし、現実はまったくの逆であった。現実に民営化後郵便局の窓口では、お客さまの利用者数が減少した。お客さまは民営化した郵便局を利用しづらい会社として認識したのである。今までは利用しやすく、親しみやすく行きやすい郵便局が変わってしまったと思われたのである。 具体的には集荷ができなくなったこと、貯金の正当権利者の取扱が厳しくなりすぎたことなどが考えられる。郵便の集荷に関しては郵便事業会社へ依頼しているものの、お客さまの希望の時間に伺えない点や、郵便事業会社の集配センターの電話番号を公表していないことなどはサービスダウンというより理解できない。また郵便局は営業の会社になったと言っていながら、頻繁に行われる制度改正とその中で事務ミスや事故を発生させると問責されたり、郵便局の損益に計上されたりすることで、営業以上に神経や時間を業務に費やさなければならなくなってしまったことにも矛盾を感じる。営業の会社として、営業に力を傾注できる環境やシステムを考えるべきであろう。	お客さまからの信頼回復が第一と考える。それには本来郵便局が生業として長年取組んできた三事業をしっかりと行うことが肝心と思う。新規商品の販売や新規事業の取組はお客さまの信頼があってはじめて成功するものと思う。それにはまず、貯金・保険の限度額の撤廃。郵便の集荷を可能とする（法の改正）。土日祝日においても郵便局窓口または郵便集配センターにおいて郵便の取扱を可能としてお客さまの利便性を向上させなければならない。現在でも集配センターにおいて受付を行ってはいるものの、日中無人となりお客さまが来局しても対応できない状況が問題となっている。この点を解消するには、郵便局会社と郵便事業会社の統合を進めていかなければならないと思う。先日お客さまから「郵便局は三事業一体でなくなって大丈夫なのか」と言われた。民営化後一年もたっていないのに将来、地方、田舎、山間僻地から郵便局が無くなってしまうと年配の方々は心配している。お客さまのためにも三事業一体の会社として見直すことも考えなければならないと思う。	欠員状態の郵便局が多い中で、この問題を解決しないで、次々に新規商品の取扱を開始している。人は増やさずに仕事だけ増やしているというのが現実である。新規採用の社員や中途採用の社員を雇い入れることは一種の設備投資であり、設備投資は新規商売を行う上で必要不可欠のことと考える。定数人員割れ局の解消。新規商品の取扱いに伴うスペシャリストの育成やスペシャリストのヘッドハンティングが必要と思う。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
506	北海道	何が国民のためになったかわからない。国民の中で良かった、便利になったと思っている人がどれだけいるだろうか？郵便局の中で会社が分かれているということでさえ理解している人がどれだけいるだろうか？何かわからないけど、不便になった、値上げになった、待つのが長くなった、手続きが面倒になったと思っている。本当の評価を真摯に受け止めてほしい。	見直すべき所を素直に見直してほしい。改革に逆行する等のお題目をはねのけ、効率的な三事業一体の経営に戻す、株の売り払いはしないなどまだ出来ることはあると思う。バラ色の新サービスではなく、今あるサービスを維持、発展してもらいたい。新サービスであれば、高齢者対策など公共性の高いものにするなど公共性を大事にしてもらいたい。	委員会には現状を精査して、何が国民の為になるかを是非考えて頂きたいと思います。
507	岐阜県	郵便局は減らないと小泉さんは言っていたが、実際に身近な簡易郵便局などが閉鎖されている。生活の一部が奪われている。 民営化されればサービスが向上すると言われていたが、今までの手続きより難しくなり、今まで出来ていたことが、民営化以降出来なくなっている。郵便局を信頼しているのに、今度は身分証明書を見せろだとか自分が信用されていない気がする。親しみのあった郵便局を壊しているのではないか？	今まで通りの簡素な郵便局に戻してほしい。全国どこへ行っても郵便局が存在し、民営化以前の心のこもった郵便局に戻ってほしい。現在、働く人たちは何も変っていないのに、待ち時間が増えたり、なんだか冷たい気がする。元の郵便局に戻してほしい。	民営化は小泉さんの自己満足で決して郵便局を良くしたとは思えない。
508	鹿児島県	・郵便物の配達する時間が以前より遅くなった。 ・貯金の為替手数料が値上がりした。 ・窓口で待ち時間が長くなった。 以上のことを考えると、利用する側の評価としては民営化前の方が良かった。	・何の為の民営化だったのかと言うのが素直な気持ちです。 ・民営化にして郵便局は便利になるとは思いません。むしろローカル地域ではいつまで存在してくれるのか非常に不安です。	・分社化したのは失敗のような気がします。 ・日本は島国です。他の外国とは違います。 ・どこにでも存在し、あまねく公平・平等に国民が安心して利用出来る郵便局であり続けることが大切であると思います。
509	宮城県	あれほど民営化すれば良くなると言い続けた意味が全く分からない。郵便局の努力が足りないというところに全ての責任を押しつけ、新しいビジネスモデルづくりなどと言うのはいかにもお役人の発想としか思えないし、郵政民営化は誰かがほんの一部の人間の利益のためだけに国民を洗脳した成果（結果であって成果とは言えないだろうが…）という評価でしかない。果たして郵政民営化でいくら税金が入ったのか？送金にかかる印紙代はいったい誰が負担しているのか。何が我々国民にとってのメリットだったのか全く理解に苦しむ。地方の簡易局は業務が変ってやっていけないといって閉鎖していく一方と聞く。いくら働き口のない現代でも、素人が仕事を覚えるには相応の時間と予算がかかるのは我々の目から見ても十分理解できる。利益の出ないところは切り捨てられるだろうというのは、民営化の議論があった頃から分かっていたはずである。それなのにそういった過疎の地域にある郵便局に対し、国が何の手だてもしないのは、弱者は切り捨てられても当然という政府の考えなのであろう。また、分社化というのも我々にとってやっかいなものである。切手を多く貼ったから返してほしいといっても、郵便事業会社から返すのですぐには返せないと言われる。窓口も、貯金だけの窓口と、保険と郵便の窓口、郵便だけの窓口と分かれており、何とも分かりにくい。なぜ郵便・貯金・保険と分かりやすく分けないのか聞くと、貯金だけ扱う会社と郵便と保険を扱う会社、郵便だけ扱う会社が入っているためだという。あまりにもお粗末な話である。利用者としては、民営化によって良くなるという期待はあるが、従来からある利便性を排除してまで、あるかないか分からないメリットを求めるものではない。ましてや制度に縛られ我々の利益を害する民営化など望んではいない。 民営化＝悪ではないが、今回の郵政民営化に限って言えばこれまでのところ失敗としか考えられない。	まず、会社を一つにまとめて分かりやすい窓口にしてほしい。また、会社が分かれればそれぞれに総務のような部署が必要となり、非効率的と思う。建物も、どこかの会社の所有物のため借料が発生し、無駄な経費となる。その分を利用者に還元して欲しい。以前世間を騒がせた〇〇ファンドのようなところに買い取られ、私たちの財産がマネーゲームに使われたり、運用先として外国に資金が流出して資産が紙くずにならないよう、株の売却は見合わせたほうがよい。（麻生総理のように高いときに売ればよいではなく、株は売らない方がよい。）地方の採算がとれない地域の郵便局には何かしら国として手当てしたほうがよい。変えるべきところは変え、残すべきところは残し、利用者の要望に応えられる郵便局になってほしい。	民営化は是か非かでは民営化問題は解決しないと思います。ディベートのように意見に対する勝ち負けではなく、どうすればより良い民営化となるのか、本当の意味での国民の利益とは何なのかを考えていただきたいと思います。
510	北海道	メリットを見いだせない。	三事業を一体化した方が田舎ではメリットが多い。	ー
511	北海道	地方の切り捨て。	地方の活性化に役立つことを望む。	ー
512	北海道	窓口での待ち時間の拡大等サービスが低下した。	待ち時間の縮小等サービスの向上。	ー
513	北海道	現場が混乱しているようだ。	民営化して良かったと思われるサービスの提供。（それが何かはわからないが）	ー
514	北海道	メリットが感じられない。	総合的なサービスの提供。	まずは民営化以前の状態に戻してほしい。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
515	千葉県	現場で勤務する立場の1人として、感じたことは、結論としてお客様の立場からみて、不便・マイナスになったことはあっても、それを上回る利便性の向上・プラス項目はなかったと思われる。なぜならば、民営化して不便になった、手数料が上がったとお叱りを受けても、民営化して大変便利になり、助かったとお褒めの言葉をいただいたことは一度もないからである。 100歩譲って、お客さまが、民営化で郵便局が良くなるのは当たり前と考えて、特にお褒めの言葉をいただけないとしても、民営化でお叱りのことばがお客様から出てくるのは、いかがなものか。郵政民営化で、三事業が分社化され、現場では見える壁・見えない壁が構築されてしまった。大規模局では、カウンターの内側にパーティションが築かれ、郵便・貯金・保険とそれぞれ分かれて、仕事をしている。中規模局も窓口事務室と郵便集配部が堅牢なオートロックドアで仕切られ、現在は特段の用事がない限り、そのドアを開けて人が行き来することはない。また、各事業別の事務処理も三事業別にそれぞれ切り離されてしまったため、たとえば、電信居宅払いのような事業をまたいでのサービスもできなくなってしまった。ところが、お客様はそういったサービスの低下を何が原因で取り扱わなくなったのかご理解されていない。つまり、三事業による運営という形態はお客様にとっては、何のメリットもないということである。	現状の事業形態（三事業分社化）を維持するのであれば、何の期待もしない。このままの事業形態では、いずれ、成功する事業部と失敗する事業部いわゆる 勝ち組と負け組みとに別れ、ある事業からは、撤退をすることになると思う。これは、諸外国の民営化の事例から見ても明らかである。今まで郵便局は、決算上の数値の上では、三事業に分かれていたが、各事業が一体となって事業運営をしていたので、ある意味うまくいっていた部分がある。したがって、今後、日本郵政の繁栄のため、お客様のためには、ぜひ、三事業の連結形態を見直す必要があると考える。	そもそも、郵政民営化は、いわゆる「財政投融資」問題から発したものであった。それがいつの間にか消え去り、民営化後の株式売却により巨大な売却益を得るための道具に成り代わってしまった。また、うわさでは、某巨大国家からの圧力による、郵政金融事業部門のＭ＆Ａで当該事業そのものが外国資本に売り払われるとの話も流れている。あくまでもうわさの域を出ないが、現場では、そういった流れが濃厚だと、大多数の社員が感じていると聞く。もし、これらが本当の話なら、最近、良識ある国会議員・政党が提言する、郵政株式売却凍結法案を一刻も早く採択すべきである。郵便局は、今までユニバーサルサービスを全国津々浦々に展開していた、いわば、日本国民のの財産であることを、ここでもう一度確認し、今後とも国民のためになる郵政事業とすることが求められている。よりよき方向への郵政民営化見直しを期待する。
516	岐阜県	分社化により、郵便事業会社の方が配達に見えても、郵便のことしか対応できない、一般市民は郵便局員と いうイメージしか持っていない人が多く、不便になったという声ばかり目立っている。また窓口に行けば、証明書類を提出してくださいとか、時間をくださいとか、以前（民営化前）と比べて手続きが多すぎるという声がたくさん出ている。	民営化をして、何か良かったことがあるのかわからない、という声が多く出ている、また分社化となると更にわからない（というより、そんなことは知らないという声が多い）、はっきり間違っていたと表明すべきではないのか。	何でも、規制緩和だ民営化だなどというのは、儲かりさえすれば何をしても良いと言うことにつながり、そのおかげで、和を大事にしていた日本国民としての品性のようなものがどんどん失われているのではないか、同時に弱者を排除する動きとも重なって、優しさも見られなくなっている、この国の歯車は郵政民営化から狂い始めたような気がしてなりません。
517	北海道	漁村である地域なので獲った魚などすぐに発送したいのに、以前は時間外窓口ということで、8時半には引き受けてもらえたのに、民営化になり9時にならないと引き受けてもらえなくなった、民営化になってサービスが低下したと思う。民営化になって良くなった点が見当たらない。	地域の利便性をそれぞれに考えた窓口開設時間など、もっと柔軟性をもった対応をしてほしい。	ー
518	北海道	政府が主張した郵政民営化のメリットとして、競争原理の導入と経営の自由化によって、業務分野の拡大やサービスの改善が図られ、利便性が向上する。とあったが、これまでの郵政民営化を見る限り利便性の向上は見られない。	もっと利用者の目線に立った、業務の拡大やサービス の改善を期待する。	ー
519	東京都	三事業を独立民分化する必要性が本当にあったのかと思う。誰のための民営化だったのか分からない。	三事業一体の郵政づくりがすべて。今後もすべての郵便局で、三事業、平等なサービスができるよう期待します。	法案の見直しが最優先だと思う。
520	岩手県	社会経済情勢から改革は必要であったが分社化はサー ビスダウンを招き利用者である国民に多くの負担を強いることになったことを考えるとあまり評価できない。	株式を上場することになれば株主の意見が主流となり過疎地の郵便局が切られることになり利用者の利便がなくなるため凍結法案に賛成したい。利用する者にとって利用しやすい環境を期待する。	ー
521	大分県	民営化で謳いあげていたメリットが少しも実現されていない。制限をなくすことで自由な競争や工夫が生まれるはずだったのに、分社化によってあらたな制限や不都合が生まれ、結果的にサービスの低下を引き起こし利用者は不利益を被っている。	郵政民営化委員会が機能しているうちに、将来において郵便局というネットワーク機能を縮小することなく確実に残せるよう、社会資本としての位置づけを明確に法律で保障するとともに、少なくとも民営化前のサービス低下部分を是正・回復する法整備を含めた見直しを期待する。	平成18年1月に内閣官房郵政民営化推進室発行のパンフレット「民営化でどうなる？私たちの郵便局」に明記された民営化のメリットが現在どこまで具体化しているか、また違ってきているかをこのパンフレットと同じ手法で国民に周知すべきだと思う。少なくとも、当時の国民の理解のレベルはこの程度であり、それによって政治判断した結果としての民営化が、かくも多くの問題を抱えているという現実を郵政民営化委員会の議事録という周知の方法だけでは、十分に現状が国民に理解されているとはいえず、報告方法としては甚だ不親切だと強く感じている。
522	岩手県	・現在のままで運営を続ければ利用者の減少につながる不安があるので、早急に見直すべきである。 ・郵便会社そのものに経営基盤がないので評価できない。 ・株式の売却が実施されれば郵便局会社は縮小、廃止される事が懸念される。 ・今の経営形態では、将来、採算が取れるとは、到底思われないので、評価できない。	・政府における株式売却法案の凍結に期待したい。 ・三事業一体で運営することを望んでいる。 ・郵便局は、三事業を通じて国民に大きな役割を果たしていると考えられるので、国民の期待に答えるべきである。	郵便局は、地域になくてはならない存在となっています。もし、色々な情勢で、廃止などになった場合、国民にとっては、大きな損失になってしまうことは、明らかだと思います。まず、第一に国民の利便性を考えていただきたいと思っています。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
523	山口県	（1／2） 小泉改革で「民でできることは民で」というキャッチフレーズで、あたかも郵政民営化で国民生活が良くなるかのような話でありましたが、現実は「郵政選挙」で約束されたサービスの向上は全く守られていません。そもそも「民でできることは民で」という考え方において、郵便局が１３５年以上も担ってきた地域の生活インフラとしての役割を「民」でできるのでしょうか。ユニバーサルサービスは「民」でできるのでしょうか。この点についての議論は、郵政民営化に際してきちんと議論が尽くされたのでしょうか。民営化後全国で郵便局の閉鎖が相次ぎ、郵便の配達は遅くなり、これまで配達の途中にお願いしていた貯金や保険は「会社が違うから取り扱えない」と言われます。どこにサービスの向上があるのでしょうか。鳥取県の郵便局を発祥とし全国に広がりをみせていた「ひまわりサービス」も民営化後はなりを潜めてしまいました。郵政民営化が市場原理に偏った方向で考えられている のではないかと心配しています。国民生活の利便性を考えるならば、市場原理に偏った考え方ではなくユニバーサルサービスと地域インフラ のサービスという点で考えていただきたいと思います。	民間銀行、生保、損保などは提携や合併を進めて業務の拡大を行っています。郵便局はせっかく郵便・貯金・保険という国民の生活インフラといえるサービスを3事業一体で経営していたのですから、わざわざ分割する必要はないと思います。国営にもどす必要はありませんが、3事業は一体で経営を行い、その株式の2分の1以上を国が保有するのが最善の方策ではないかと思います。また行政サービスの代行や福祉サービスへの協力は郵便局への期待の大きくこのあたりでの郵便局を利用する方策を検討していただきたいと思います。また、ユニバーサルサービスについてはきちんと確保できるように法的に確約をしていただきたいと思います。	民営化してゆうちょ銀行、かんぽ生命を完全民営化した場合の「国民」へのメリットについて整理して公表していただいたいと思います。
		（2／2） 小泉改革で「郵便局は無くなりません」「サービスは良くなります」「いろんなことが自由にできるようになるんです」と話しをされましたが、何も実感することができません。投資信託、ガン保険や変額保険など新しいサービスがでてきていますが、国民はそんなサービスを望んでいません。国民が望んでいるサービスは生活に密着した郵便、貯金、保険や行政のワンストップサービスを「簡易」にできることです。大切なことは「広く」あまねく「公平」に「簡易」にできることです。それが国民の望むサービスです。それを「民」でもできると約束されたのですから約束は守ってもらいたいと思います。「郵政選挙」として国民に信を問うた政策です。民営化してよくなった点（メリット）わるくなった点（デメリット）をきちんと国民に説明をしていただきたいと思います。そして、デメリットがあるならばどうすればいいのかを真剣に考えていただきたいと思います。ニュージーランドやドイツで民営化が失敗に終わっています。世界の状況をみると必ずしも民営化が国民生活にプラスになっているとは言い難い状況です。平成１９年１０月に民営化して１年が経過しましたが、民営化してこんなところがよくなったと評価できるものが一つも見あたりません。		
524	東京都	従前の郵便局の良さがなくなった。待たせる、面倒であると言われ、お客様離れが心配である。	今後地域に合わせた民営化の郵便局社員数（必要とされる金融機関）少人数2人局で、金融機関としての業務を続けていくのは、難しいと思います。法案の見直しに期待してます。	局長会の結束。
525	愛媛県	昨年１０月、日本郵政公社は１３０年余りの国営に別れを告げ、民営化と同時に分社化されました。以来、一年余りが経過していますが現状はどうでしょうか。 1.過疎地の高齢者が配達途中の社員に気軽に依頼するふれあいがなくなった。 2.窓口の応対が機械処理による作業が中心となり、待ち時間も長くなった。お客様から不平不満の声が多く、引いてはそのことがカウンターセールスにも影響している。 3.集配局合理化を実施した結果、書留郵便物の不在通知票による当日の受取が一部遠距離の郵便局まで出向かなければならない状況になっている。 4.通常配達の郵便外務社員の多くが、非正規雇用社員によって占められており、責任感欠如（誤配達苦情申告）等につながっている。 5.上記4が一因ともなって信書の秘密遵守がおろそかになり、お客様の苦情の原因にもなっている。 6.年賀はがきの予約にあたっては、郵便局会社と郵便事業会社間で捕り合いが生じている。	全国市町村のうち特に過疎地域に居住している高齢者を中心とした住民は民営化後の郵便局のサービス低下に寂しさと怒りを禁じえない状況にあります。折しも、来年3月は3年ごとの見直しの時期。現在各社の持株凍結等が話題になっておりますが、上記の項目を早急に改善しながら、せめて国民が切に望んでいる「郵便局会社」と「郵便事業会社」の一体化、将来的には「ゆうちょ銀行」を含め、国民の皆さんに愛され、親しまれ信頼されて、気軽に利用される郵便局づくりの構築を期待をこめ万感の思いで見守っておりま す。	ー

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
526	愛媛県	私は、郵政事業とは全国津々浦々にまで公平で良質なサービスを提供する公的事業と考えております。しかし、事業の効率化・企業性の追求のため、昨年10月に郵政事業は民営化されました。現在、田舎では役場の支所や銀行の支店、小中学校までも統廃合されている中、郵便局は地域のよりどころの最後の砦として存在しております。	郵便局は地域での貴重な役割を果たしています。これまで以上に地域住民から安心して利用される存在であり続けなければなりません。そうであるならば、効率化。企業性を過度に求めて民営化・分社化すべきではないように思えてなりません。また地域のよりどころである郵便局で働く人たちが、明るい将来展望が思い描ける職場であって欲しいと思います。郵便局の上記のような貴重な役割を果たすためには、民営化・分社化ではなく、郵政3事業一体とした経営の中で、一定の企業性を考慮しつつ、より公共性を重視した会社として今後ますます発展していくことを期待しています。	ー
527	東京都	民営化になり良くなった点が一つもない。長い歴史の中で培ってきた郵便局の本来の姿を取り戻してこそ、国民に対しての利便性・更には安心感を与えるものと考える。	郵政三事業の一体化。お客様も目覚めかけてきている。	小泉、竹中路線の誤った改革が今日の経済、貧富拡大の差に繋がってきている。
528	愛媛県	1.利用者に対する取り扱いの、心なき厳しさ。 2.都市と地方の画一化。田舎と都会は違うんです。 3.高齢者に対する配慮の無さ、不足。 4.他の同業者との矛盾。 5.料金等々値上げ。 6.施設面（防犯カメラ等々）利用者を犯罪者扱い。	1.身近で親しみのある郵便局 2.心、誠のある、温もりのある郵便局 3.高齢者、年少者を大切にする郵便局	1.正直者が馬鹿をみない社会の構築を期待する 2.政治屋（家）高級官僚の机上論はもう期待しない 3.身近な郵便局づくりを目指すべきである
529	愛媛県	1.職員が商品に対して責任感、また事業に対しても危機感がない。 2.都市と地方との格差がありすぎる。 3.保管商品のサービスが〇〇、〇〇より劣る。保管商品の対応が悪い。特に郵便局の職員と配達職員間の連携がひどい。携帯電話を持ったらどうか。 4.窓口での応対に時間がかかりすぎる。	1.郵便会社と郵便局会社が分かれ、双方のサービスが悪いので早く一体化してはどうか。 2.窓口業務の職員、アルバイト職員の商品内容、業務知識をもっと向上させ、的確に応えられるよう訓練してほしい。	郵便事業を国営に戻してはどうか。国民にもっと信用されると思う。
530	岐阜県	① 郵便、貯金、保険3つの仕事を郵便局ですべて行っていたときは非常に便利であったが、今は、不在時の郵便物ひとつ受け取るにも非常に不便です。 ② 同じ郵便局のなかで働いていた人たちが、年賀の予約だ、販売だと何度も訪問してきます。聞くと会社が違うとのことなんと非効率なことをさせているのかと心配になってきます。	① 郵便、保険、貯金の仕事が以前のようにすべて同じように取り扱えるようにしてください。 ② 以前のように3つの仕事を一人の人がこなすよう効率よく働ける要改善願います	今年、私が住んでいる近くの農協が3カ所合併し遠くに行きました非常に不便です。 郵便局は無くならないといっていますが大丈夫でしょうか。
531	東京都	（1／3） 【郵便・物流】独占が続く郵便事業では、目立った利便性の向上は見られず、人員の適正化といった経営の効率化努力もいま一歩との印象を受ける。たとえば配達記録郵便の廃止は、カード類を中心に年間3億通もの需要があり、利用者も年々増加するなか、明らかに国民利便性の低下である。赤字事業からの撤退は民営化の効果とも言えるが、一方で、普通の民間企業なら、ニーズが伸びている商品を簡単に切り捨てる発想はあり得ない。どうしたら黒字に転換できるか、創意工夫や効率化努力を行うはずで、こうした点からみても、まだ民間企業としての経営努力が十分とは言えないのではないか。また地方では、簡易局の閉鎖や集配拠点の減少などによって、民営化後にサービスレベルが低下し、競合会社に顧客が流れるケースも少なくない。それでも全体で取扱個数やシェアを伸ばしている状況をみると、効率性・収益性の高い都市部でのサービスを強化し、地方でのサー ビスを切り捨てているようにもみえる。郵便事業会社の公共性に鑑みても、効率性・収益性を優先し、地方でサービスを低下させるのは好ましくない。一方、競争が激しい物流の分野では、民営化前から、ゆうパックのサービス拡大やEXPACK500などの新商品の投入が相次いでいる。また、ゆうパックの料金体系に伴う値下げは、国民の目からは、競争のメリットと感じられたことであろう。しかしながら、独占領域を有する郵便事業会社が、競争領域において先行の民間企業に価格競争を仕掛けるのが、はたして公正な競争と言えるのかは甚だ疑問である。	ー	【郵便法の独占規制について】 郵便事業会社は、ユニバーサルサービスを維持するためには、独占領域による利益で過疎地などの赤字を補てんすることが必要と主張するが、郵便事業会社と同様に全国あまねく集配サービスを提供している〇〇は、ネットワークの3分の1が赤字でも、顧客ニーズに応え、ネットワーク全体で利益をあげる観点から、何らの優遇措置を受けることなく、企業努力によって全国への集配ネットワークを構築している。信書便法に厳しい参入条件が課されている所以は、クリ ームスキミングの発生などによって、ユニバーサルサー ビスが維持できない懸念にあると思量されるが、他国の 郵便事業民営化の事例とは異なり、わが国には、このように、全国あまねく集配サービスを行う企業がすでに存在している。 そうした市場の実態からも、わが国においては、郵便法の独占規制を撤廃し、郵便事業会社を含む各企業が、対等の条件で自由な競争ができる環境を整えるべきである。まずは、市場における競争を通じて、コストの補てん措置なく、ユニバーサルサービスを維持できる方向性を目指すべきであって、最初からユニバーサルサービスは赤字となることを前提に補てん措置を用意するのは、官業の発想であると言わざるを得ない。市場で自由な競争を行ったうえで、万が一どの企業もユニバーサルサービスが提供できない事態が生じた場合には、補てんコストの最も低い企業を選定したうえ、国が委託すればよいと考える。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
		（2／3） 【郵貯・簡保】経営の効率化に努める一方、徐々に新規事業や運用手段の多様化への取組みを開始したところ。株式を上場し、経営の自主性拡大が認められるにつれ、これから国民利便性の向上や経営基盤の確立といった成果が現れるものと期待している。民営化前から開始した投信販売は、地域住民への投資機会の提供という面からも意義深いものであった。また、来年1月に予定される全銀システムへの加盟が実現すれば、目に見えて利便性の向上が実感されるだろう。現在は民業圧迫に配慮したソフトランディング路線をとっており、特段の問題は生じていないと思うが、民間とのイコールフッティングが実現されないまま新規事業の拡大に走れば、巨大さゆえに市場をかく乱する懸念も残る。 地域密着型の競争力に優れる郵貯の民営化によって、競合する地域金融機関が、ATM提携等の顧客サービスの向上や、システムの共同開発等のコスト削減に力をいれはじめた。特に、地銀による「住宅ローン共同研究会」の設置や「女性専用住宅ローン」の共同開発は大きな成果。競争の効果によって、金融機関がこれまで慎重であった女性や個人事業主などへのローンが拡大していく方向感は望ましい。 郵貯には、今後とも地域密着型の金融機関として、既存の地域金融機関とコラボレートし、また切磋琢磨しながら、地域経済の活性化につながる金融サービスの提供を期待したい。		
		（3／3） 一方、国債保有に偏る資産構成は、経営のうえでも大きな金利上昇リスクを内包しており、バランスのとれた適正なポートフォリオへの移行が求められる。金融2社が資産構成を変化させることにより、資金の流れが公的部門から民間部門にシフトし、わが国経済活性化への貢献が期待される。 特に、シンジケートローンへの参加など、機関投資家的な資金供給者として、日本の金融市場にとって課題である、市場型間接金融モデルの発展に寄与することを期待したい。イコールフッティング実現の観点からは早期の株式処分が望まれるが、資金規模があまりに莫大であることから、急激な資産構成の変化は金融市場に大きな影響を与えかねない。昨今の経済状況に鑑みれば、資産構成のシフトや新規事業展開を性急に進めるのではなく、市場と対話しながら、漸進的に進めるべきであると思量される。		
532	愛媛県	私は〇〇郵便局の近くに住んでいるため、朝夕、犬を連れて散歩している。また身内に正社員とアルバイトで働いている者がいるので、区分作業の仕事と職場、トラック運送についての意見を述べる。 1.トラック運送について 民営化以前は永年、赤い郵便専用のトラックが制服も着て安全運転に気をつけている様子がうかがえた。さすが「信書」という大事な荷物を運んでいる車という品位があった。現状はというと、洗車もいつしたのだろうか、運送会社名も無く、あまり聞いたこともない会社名の車が出入りしている。特に大型トラックに多い。手紙＝信書＝通信の秘密が守られているのだろうかと心配している。民営化とはコストの問題であることは分かるが、信用も大事である。百数十年、国営で安心と信頼をモットーに利用してもらっていたことを忘れずに、品位ある業務運行をしてもらいたい。 2.職場について 民営化以降、急速に非正規雇用社員が多くなり、今では半分以上にもなっているとか。先日、麻生首相も、非正規雇用社員が多くなり責任感も無くやる気も無く将来に希望を持てない労働者が増え、企業として困ったもんだと言っていた。正社員化を進めるべきだと答弁していた。郵政グループは日本で有数の大会社となったのだから、あまり安易にコストのみにとらわれず品位ある企業努力をしてもらいたい。今の職場は両社共に不満だらけ、将来希望も無く、その日が終わればいいというところ。正社員も指導力や業務知識も乏しく、聞いてもしらんぷり。アルバイトも嫌気がさして早期にやめていくのが現状である。誤送、誤区分が多発し、責任体制も明確ではなくほったらかしであるとか聞く。これでは高い料金を払って利用している我々としては納得がいかない。信書の秘密は守られているのか、安心して任せられるのか不安です。	百数十年、国営として、安全と安心、信用を売ってきた企業です。コストのみを追うことなく、もう一度責任ある通信企業として、改善見直しをお願いしたい。	―

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
533	宮城県	5段階評価の2。できるだけ新しいものを取り入れできるだけ早く改正等をして進もうという考えは見えるのはいいことだと思います。しかし、業務の輻輳等により国民の不安と利便性を損なっただけでなくサービスの低下を著しく損なったのも事実。また、能力、やる気のある職員の処分ばかりを押し付けプラス指向でなくマイナス思考とし、さらに心の病を抱える人が後を絶たない。中間ポストにいる事務社員（管理者含む）の民間的考え方をもった人間が少なく足を引っ張っているのが現実である。もっと、本社・支社の事務社員の格段のスリム化が必要と考えます。	日本郵政は、国民の目で、特に田舎の一人暮らしの人たちにどうすればいいサービスができるのか。基本は民営化といっても郵政本来の持ち味にある全国あまねく公平に・・・同じサービスが受けられるようにグループを全体で改善すべきではないでしょうか。 また社内においては、お役所考えが変わった、といいますが、私から見れば現場は変わっても現場をよく見ていない人たちの考え方やり方がまだまだ変わっていないようにおもいます。支社、本社の格段のスリム化を行い、あるいは網の目組織とし根本的改革を打ち出せば今後の期待は大きいと思います。民営化になった以上この現実をしっかり把握し先を見て、社員の育成をしっかり考えることがグループ会社の発展につながるものと大きな期待を込めております。	国民の目をよく見て、国民の声をよく聞いて、進化したらいいと思います。
534	愛媛県	小包配達時において以前より対応が良くなったが、不在時の場合、再配達依頼時に〇〇郵便局に電話をかけなければならない。要領が悪く、同じことを何度も聞き返される。今までは〇〇郵便局に電話すれば、すぐに対応してくれていた。また土曜日、〇〇郵便局前のポストの取り集めが少なくなり、午後4時すぎると1日ポストの中で止まったままとなる。当然配達も遅くなっているのではないか。窓口対応については良くなっているので評価したい。ただ、郵便局会社と郵便事業会社の連携がうまくいっていないようだ。アルバイト等が増加し、プロとしての自覚が不足しているように思う。	ライフラインの郵便局であってほしい。民営化前であった時は全員でお客様対応ができていて、配達時において振込み等の依頼も受け付けてくれていた。貯金や保険に用事のとき、配達職員に訪問依頼をすればきちんと連絡してくれていた。	ー
535	徳島県	私は、51才です。今は、〇〇市で住んでいます が、36歳までは、県南部の〇〇市で住んでいまし た。〇〇県は、人口80万人、県南部や県西部などでは、過疎化が進行しています。高齢化が進み、限界集落と言われる持続不可能な集落も散見されるようになっています。〇〇市でも、第一次産業の衰退から、高齢化が進んでいます。又、特に、山間部、中山間部、漁村部などでは、過去から、郵便局の果たす役割は大きく、高齢者にとって、年金の受け取り、郵便物の集配、局員とのふれあいなど、住民にとっては、なくてはならない存在だったと言えるでしょう。 しかし、民営化が決定して以降、本県では、山間部を中心として、局が廃止・縮小され、集配を停止したところもあり、サービスが低下しました。民営化で、住民サービスは低下させないというのが方針なのではなかったのでしょうか。又、窓口での処理が遅くなったとか、サービス低下の声も聞かれます。又、分社化されたため、同じ建物で仕事してるのに、お互いが助け合うことができなかったり、2重の手間を掛けることになったり、窓口の職員にとって、大きなストレスが生まれているということもお聞きしています。お客様が、サービスが低下しているのではと感じるのは、このようなことも影響 していると思われます。分社化して、郵便局会社と郵便事業会社に別れたと説明を受けましたが、わたしは、そのことで、混乱が生じているのではないかと思っています。郵便局というのは全国にある窓口で郵便を受け付け、集配局がそれを運び配達するというのが、基本だと思います。それならば、同じ会社で業務を行うほうが連携がうまくいくと思います。なぜ、分社化しているのか分かりません。	新自由主義、市場万能主義という、小泉構造改革路線は間違っていたということが、アメリカ発の経済、金融危機で、露呈しました。これほどまでに、影響を受けるものなのか、私は唖然といたしました。経済のグローバル化といえば、聞こえはいいかも知れませんが、常に、リスクと向かい合っているということなのです。一たび、歯車が逆回転し始めると、その結果、苦しむのは、コツコツと頑張ってきた、勤労国民であり、圧倒的多数の庶民であります。今、日本の自動車産業や、電機産業などで、派遣社員の首が切られています。雇用の調整弁として、使い捨てられています。とても許されるものではありません。郵政民営化は、小泉構造改革の象徴と言われましたが、郵政3事業（郵便、貯金、保険）をばらばらにし、世界の金融市場に日本の郵貯、簡保の資金の流入を許してしまうことになるのです。郵政分割、民営化を要求してきたのは、アメリカだと聞いています。簡保、郵貯の多額のお金を利用して、アメリカのビジネスチャンスを広げていこうとする戦略があると聞いています。しかし、この度のアメリカの株価大暴落に端を発した金融危機を見ると、大切な国民の財産であるゆうちょ銀行、かんぽ生命の残高を、市場にさらし、不安定な投機資金に使うべきではないと私は考えています。現在、100%政府保有の日本郵政の株式は、絶対売却してはならず、売却凍結すべきであります。このことが国民の利益につながると思います。又、事業を分割し、民営化がスタートしましたが、分割の意味はないように思われます。むしろ、今までのように、郵便事業、預貯金、簡易保険の、3事業一体化のほうが、効率的で、国民へのサービスがうまく機能していたように思います。3事業一体的サービスの復活を求めておきます。	〇〇県でも、財政運営は大変厳しくなってきています。三位一体改革を契機に、地方交付税の大幅な減額が行われ、基金も使い果たし、「禁じ手」と言われる、職員給与の臨時的削減をも行っています。ゆうちょ銀行、かんぽ生命のお金は、いままで、中央に集められ、財政投融資資金として、地方に還流され、地域格差を是正してきたのです。ゆうちょ、かんぽ資金は大切な地方の資金でもあるのです。この流れを分断してはならないと思います。
536	神奈川県	〇良い点 行員の接客サービスが良くなった。 〇悪い点1 老人がアメリカ製の投信を買わされて、暴落し損をしている。 販売ノルマを課された郵貯銀行職員が、老人の家に何度も訪れ、郵便貯金よりも高利回りの投信を勧めた。郵便局なら減ることはないだろうと高く信頼していた 老人は、数百万円購入したが、その後暴落して大損している。そもそも、経済的に安定させなければならない老後に、ハイリスクの投信を勧めるのは間違っていると思う。元本リスクのない郵便貯金で保有すべきである。そもそも、貯蓄から投資への流れは間違っており、金融立国アメリカの金融界の策動によるものだ。 〇悪い点2 地方の老人が、郵便局員から、年金の受給を受け取れなくなった。自分の足で取りに行かなくてはならないが、高齢で難しいようだ。明らかにサービスの低下である。弱者切り捨てなのは明白である。以上を考えると、弊害のほうが大きい。	ゆうちょ銀行は、永久に上場などする必要はない。アメリカ政府やアメリカ金融界が郵貯資金を狙っている。 1. 郵貯資金をアメリカ製の投信に切り替えさせ、販売手数料、運用手数料を稼ごうとしている。 2. 郵貯資金で米国債を買わせようとしている。償還時に現金化されない米国債など持っていても、日本のためにならない。要は、返ってこないのだから。日本自身も資金調達に困っているのだ。 3. ゆうちょ銀行が上場したのちに、アメリカの金融機関が買収し、郵貯資金を自由に運用しようとしている。民営化させ、買収し、利益をアメリカへ移転するのは、アメリカが南米で行ってきた常套手段だ。 4. 郵便局の民営化で一番湧いたのは、ニューヨークのウォール街である。「これで350兆円がわれわれの自由になるぞ！！」と。こんな連中に利して、老人を騙して投信を売り付け、元本割れさせ、地方の高齢の老人を切り捨てたのは、間違いだ。	結局、ゆうちょ銀行の組織と資金は、日本国、日本の国民の利益のためになる使用の仕方をすればよい。アメリカやアメリカの金融界に献上する必要はない。ゆうちょ銀行は、日本国および日本国民のために、業務の効率化、サービスの向上だけを目指せばよい。これは、株式上場とは、また別の次元の話だ。上場後、日本の富がニューヨークに移転されるはまっぴらだ。上場せず、組織を効率化、向上させることは可能である。それを業務目標にし、貢献した職員に報償する制度を作ればいい話ですから。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
537	東京都	民営分社化が、これほど仕事をする上で不自由な状況になるとは思いませんでした。評価としては×です。なぜなら、被害を受けているのは、お客さまとフロント業務を行っている社員、管理者、その家族が主だからです。まず、経営陣が事業の体系を知らな過ぎる、また、本社が現場無視の施策しか打てない（収入ロス、人件費のロスが私からも見えてしまう。）、郵政事業は独自の文化を築いてきたものと思います。新しい民営化後の形態と、現状の融合をしっかりと図っていなかったことが現状噴出しています。時間がたつにつれ、各事業会社が独自の路線を歩み始め、ユニバーサルサービスをしっかりと実現でき、かつ収支もしっかりと取れる仕組み作りがまったく出来ていない。このままでは、空中分解する結末しかない。そして最後にUPUで定めているとおり、郵便の国際条約に反することは出来ないので、郵便事業に税金の投入（金融部門は切り離され独立採算は無理。）・・・。貯金・保険等金融部門は、国民の大切なお金を外資のマネーに、郵便局会社は委託元が手を引き縮小し、この大恐慌の時代にまた、多くの失業者が町にあふれるなど・・・、誰もが結末を想定できるような現況です。幸せな将来像がまったく見えてこない。ですから一言で×です。	三事業の収益をしっかりと把握していただき、グルー プ会社として、金融部門を切り離してやっていけるのかをしっかりと検討していただければ、おのずと一体経営の必要性がでてくる。その中で、いかにお客様により利便性を提供するか、社員の幸福を追求できるかをしっかりと考えていただける会社を求めます。具体的には、郵政事業というものを新たに金融庁等々にも認知していただき、郵便局というあまねく公平なサービスをより便利に、自由度が高い経営が出来るように、方向付けをしていただくことを期待する。また、いまや日本を代表する大企業ですから、しっかりとしたシステムづくりに、しっかりと先行投資していただき、まずは、仕組み（基礎）をしっかりしていくために、採算のとれる「三事業一体経営」、ロスをなくすために「オペレーションの簡便化」を期待します。	
538	兵庫県	・郵政民営化になってメリットがない。1つの家庭に郵便事業会社、郵便局会社、ゆうちょ銀行、かんぽ生命と4社の社員がくる。本当にムダだと感じます。これで本当に儲かるのかなと思います。やはり郵便局は仕事として高齢化社会に貢献するべきだと思っています。しかし、民営化されたので利潤追求もしなければいけないので、郵便事業会社と郵便局会社と統合させ効率化して営業力をアップ。 ・民営化となり、精神疾患の社員が増えている。会社として成り立っていない。改善が必要。 ・郵便事業会社は、経費削減のため賃超を減らしています。しかし現場では業務がふくそうし、それに対する 必要な労働力が確保できず、超勤となっています。その超勤もなかなかできず、サービス労働となり、どの職場も蔓延しています。要員対策が必要で、新規採用をもっといれるべきだと思います。	・CSR企業としてもっと地域社会に貢献すべきである。例えば、年賀ハガキは毎年売れ残っています。若 い世代な中・高生は年賀ハガキを書かない。携帯メールで終わりです。このままいくと年賀ハガキは20年でなくなると思います。そこで全国各地で保育所、幼稚園、小学校に出向き、年賀ハガキを無料配布し、絵手紙教室を開催してハガキ、手紙文化の普及に全力をあげるべきです。社員が休みであってもボランティアで参加して努力するべきです。 ・民営化となり、非正規社員が増えた。正社員のハードルをさげてもっと正社員を増やすべきだと思います。 ・かんぽ生命、ゆうちょ銀行の限度額を民間レベルに引き上げるべきだと思います。	・民営化になったからできる仕事を追及するべきです。例えば、企業の名簿整理（転居してどこへ行ったか等個人情報との関係もあるがきちっと承諾を受けた上で）を仕事化する。 ・転居届けを有料化する。
539	東京都	分社化されたことによって、あれもだめこれだめ、窓口の待ち時間や、手続きの煩雑な点が増え、非常に利用しづらくなった。株式売却についても自民党からも出るような状況であるので、しっかりと再度検証し、手遅れにならないうちに、株式の凍結および一体経営が必要である。	以前のような三事業一体的な経営を行っていただくことを切望する。これ以上サービスダウンにならないように、更なるサービス向上についても切望する。郵便局が減ることは断じて許さない。	郵便局で扱っている商品に節操がない。なんでもやればいいというものではない。文化を守ってほしい。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
540	熊本県	（1／2） 民営化となり1年2ヶ月が経ちました。郵便局職員としてその間の出来事を振り返ってみて強く懸念するのは、この民営化の評価が内外ともに芳しくないという事です。その理由ですが、 第1はお客様サービスが著しく低下し、様々な面で評判が悪くなり、お客様が減少してきている。 第2は局長及び職員のモチベーションが著しく低下している。 第3は民営分社化されたなか、国民に安心安全で支持されていた郵便局ネットワークは手数料収入のみで維持できるのかどうか？という懸念です。 第1の具体的例は、地方の方ではもともと郵便局が無くなっては困るという意見が大多数で、最初は「民営化されて大変ですね。」と同情的に見て下さっていました。しかし金融関係の取扱い、特に正当権利者の確認事務がひどく厳しく、隣近所、友人知人関係でその関係を十分知っている人に対しても一律に健康保険証等の証明書を持参するよう促され、ぶつぶつ言いながら取りに帰られる事例が頻繁でした。局長はお客様に気を遣いその度ごとに出て行きお詫 びし頭を下げていました。そのせいか多数が「まあ仕方がないね。」と従われていました。しかし、なかには怒りだし、「今まであんなに親切に迅速に対応していたではないか。しかも民営化になればサービスが良くなると宣伝していたのにこれでは逆ではないか？いままでの郵便局の良いところを何故なくすのか？手数が面倒になり、しかもこんなに長く待たせて、もう郵便局は利用しないぞ。」と怒られ貯金を解約しその後来局されなくなったお客様も何人もいます。実感として最近お客様の利用数が減ってきたなと感じています。	全国ネットワークが壊れないように望みます。	郡部の田舎の郵便局が残るように要望します。
		（2／2） 第2の具体的例は、局長は民営化以降局長の裁量権を剥奪され、まさに「名ばかり管理職」になり、ひたすら事務要員の役割を担わされ、それまでの地域貢献という役割が評価されなくなったばかりか、局内の監視ということで防犯セキュリティカメラが配備され仕事振りを終日監視されている状態にあります。営業面では、目標達成の為の努力するのは当然として、従来から全員参画のもと、いろいろ施策を協議しながら取組んでいましたが、地区グループ会議の中には毎月中間組織としての目付けという意味か支社から地域人事担当が出席し、実績の上がっていない局長を叱責し、営業の具体的ノウハウを提供するわけでもなく、とにかく数字一辺倒の会議があります。これこそ「やる気をそぐだけ」で有益には思えません。それは、中間組織を衣替えし局長に任せないという事かも知れません。しかし、やはり現場はお客様に最前線で対応している局長に責任を持たせ、中間組織は従来に戻し、もっと現場に伸び伸びと仕事をさせるべきだと思います。 第3はこの程発表された郵便局会社の中間決算では209億円の黒字となり安堵している所ですが、安心出来ません。細かくは資料がないので分かりませんが、発表では人件費、物件費等の経費節約の努力ともあります。おそらく金融会社（ゆうちょ銀行、かんぽ生命）の手数料が大きなウエートを占めているのは当然でしょう。法律ではユニバーサルサービスは郵便事業は義務付けられていますが、ゆうちょ銀行、かんぽ生命の2社には10年間しか義務付けされていません。 金融2社は営利を追求すれば当然儲からないところは金融の委託をなくす方向に舵を切ります。そうなると採算の合わない田舎の郵便局から廃止される事になる筈です。地域の郵便局がなくなれば、他に金融機関のない地域にお住まいの方、足を持たないお年寄りやまた身体の不自由な方は死活問題となります。金融のユニバーサルサービスは是非、郵便局会社に義務付けがなければ国民のライフライン機能を果たしている郵便局ネットワーク網の存続は出来なくなります。 以上の点から、委員会の先生方には、是非、真に国民の為になる議論がなされます様、要望するところであります。		
541	東京都	何のための民営化なのかが、いまだによく分かりませ ん。たとえば東京中央郵便局の建替えについても、オフィス供給が飽和状態の丸の内で文化財相当の建築を壊してまで不動産事業を行って、そのリスクは誰が負うのか、今回の計画の責任者は誰なのか、さっぱりわかりません。また、東京駅前から窓口業務を撤退したのは大きな間違いで、大手町や銀座まで行かなくては郵便を出せない不便さは、まさに利用者を無視したやり方です。当たり前の挨拶が出来ることがサービス向上と思っていたら大きな間違いです。	民営化しても公共事業としての社会的責任を果たせないようでは・・・期待していません。	いままで郵便局を信頼していましたが、今後は、他の事業者のメール便などを利用したいと思います。ゆうパックより宅配便です。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
542	静岡県	1．郵政民営化で郵便事業会社と郵便局会社を分離したことは大きなマイナスである。民間会社として人的資源、施設面で効率化を図るべきところが非効率的になり無駄が多い。郵便局舎を会社ごとに分割したが、特に小規模な郵便局まで一律に郵便局舎を分けているのは使い勝っても悪いし無駄の最たるものである。 2．各種料金の値上げ、窓口の混雑と長時間の待ち時間、必要以上と思われる本人確認、不在郵便物の窓口交付の不便さ等利用者にとってはマイナスのことばかりである。唯一よかったと評判なのはゆうちょ銀行の口座間送金が1年間（1年延長された）無料になっただけと言うのが巷の評価である。 3．特定郵便局制度が形は変わったが存続されたことは、民営化の趣旨に反する。事業の将来にとって禍根となるだろう。 4．効率化を急ぐあまり、人材の養成、職員のモラル、モチベーションを高める施策がなおざりにされている。どの事業所でも恒常的な人手不足に陥っていると聞く、欠員がなかなか充足されないことで社員に疲労感、絶望感が生じ職場の士気低下に繋がっているようである。人手不足の解消は喫緊のことと思われる、郵便の仕事は単純作業だから誰でも直ぐにできると言うのは誤った考えだ、私自身経験したが、最近郵便の誤配達が増えていることも無関係ではないだろう。人材の育成を怠れば将来の人材枯渇というツケが回ってくる。事業を存続させるならばもっと長期展望にたった人材活用を考えるべきだ。 4．郵便事業は2008年度中間決算は189億円の赤字であった、収益を挙げることが民営化の目的ではなかったのか。	1．郵便局会社と郵便事業会社は統合して人的、物的両面で効率的な運営を図って欲しい。 2．全国ネットワークを維持することと収益を挙げることは二律背反だが、あらゆる手段を講じて全国一律サービスの提供、ネットワークの維持に努めて欲しい。	1．今年度の中間決算を見る限り郵政事業各社は単独で民間会社として成り立っていくことは困難ではないか、何が国民、利用者のためになるのかという視点で会社のあり方をじっくり検討しなおすべきだ。 2．各社の統合が無理であるとするならば、郵便事業会社だけでも国営にすべきである。あのアメリカでさえ国営（郵政公社）ではないか。それが出来ないなら株式の上場はすべきではない。国民生活にとって大切な郵便事業が外国のファンドなどに買収されるようなことがあってはならない。 3．当面全ての株式の上場には反対である。
543	島根県	民営化すれば、バラ色のように言われたが、現実は仕事はやりにくい。将来展望は持てない。仕事に対して燃える気持ちがなくなった。モチベーションが低下しすぎている。 取扱いの改正が度々、それも訂正の連続。今なにが現行なのかはっきりしない。本社、支社、職場がそれぞれが、それぞれの思いで、それぞれの仕事をしており、連帯感はまるで感じない。支社に問い合わせても、本社まわしとなりすぎる。インセンテイブが多すぎて、把握が出来ない。人参ばかりぶら下げて、局、人を動かそうとしている。予算があるなら、社員研修、期間雇用社員の研修を多く開催し、しっかりとした組織作りをすべきである。各局に予算はほんのちょっぴり示達して、インセンティブは湯水のごとく使用し、各局の独自施策が出来ない。営業はやれやれ！体制はバラバラ、やる気にならない。足を引っ張られる。誰が引っ張るのかとふりかえったら、それは支社、本社であった。机上論ばかりで、現場を知らない。	このままでは、お客さまの局離れが進みであろう。そして田舎の局は、廃局が多くなり、民営化の方針とは逆行するだろう。民営化はいいが、三事業一体としなければ、生き残りは無理である。無理に無理を重ねようとしてるから、お客さまサービスが出来ない。	現場を知らなすぎるから、いつまでも同じ状況が続いている。
544	茨城県	○収集回数が少なくなった様にみうけられる。 ○配達時間が遅くなっている。	○各郵便局の駐車場を充実させてほしい。 ○銀行、郵便局間の振込みを早期に実現させてほしい。 ○1のマイナス事項について、見直しを求める。	－
545	新潟県	民営化による、プラス面よりマイナス面が強く国民生活の利便性が失われている。もしかりに株式を売却すると、国民の財産の叩き売りの感があり、明治維新後の国有財産の払い下げの、一部または外国資本を喜ばせる施策の再現を思わせる。	民営化そのものは否定しないが、手直しの必要を感じる、たとえば郵便物の責任の所在が、利用する国民には大変理解しにくい、受付る郵便局と配達処理する、郵便事業会社が別で責任の所在が、利用する国民には理解し難い。その他、地方では郵便局が閉鎖されており当初のサービスは低下させないの約束が反古にされてきている。早急に手直しされたい。国民の財産は大切にしてほしい。一人の人間の頑なな思い込みでのゴリ押しの手直し頑張ってほしい。	－

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
546	岐阜県	(1)行政改革の名のもとに郵政を民営化したことは、営利目的のためで国民の利益にはつながっていない。 (2)市町村においても平成の大合併ということで、過疎地域の切捨てであり、簡易郵便局や特定郵便局の存続が出来ない状態である。 (3)国民に平等のサービスを提供することが低下した。 (4)窓口の開設時間についても過疎地域においては不便になり、それぞれの会社の独立採算制であるため、従来住民に対してのあらゆるサービスが1人の郵便局員によって行なわれてきたが、それが出来ない状況である。 (5)過疎地域は特に少子高齢化が進みいわゆる限界集落地域が増加している。その住民の唯一の頼みは郵便局員のサービスである。 (6)郵便局員への相談がそれぞれの会社の社員に相談しなければならなくなった。 (7)ATMの稼動についても、利用率が低いということで、数多く廃止がされたので、不便になった。 (8)人口の多い都会では民営化が歓迎され評価も高いかもしれないが、地方においては特に過疎地域では不評であり評価は最低である。	(1)郵政民営化について、今国会において見直しをしていただき従来の全国一律のサービスを継続してほしい。 (2)都会においての机上での考えでなく、地方の考え特に過疎地域における特定郵便局の利便性の向上をお願いしたい。	地方と都市圏と同等の全国統一のサービスの提供をお願いしたい。
547	東京都	〔 郵政民営化を生活者の視点で見直して下さい。〕 郵政事業に業務効率を求めるのは当然のことですが、民営化後の郵便局の対応は、総じて内部業務処理を優先し、お客様に対する対応が二の次(お客に対するサービスダウン)になってきた感を強くします。また、従来郵便局が持っていた対応の温かみが薄れてきました。	このまま分社化された各会社がそれぞれ事業効率を求めていくと、近隣の不採算郵便局は遠からず閉鎖、又は極端なサービスダウンに向かい、生活上不便になると危惧の念を抱いています。従って、現行の民営化を見直し、郵便・貯金・保険一体となった組織として、地域生活の利便性向上の視点をもった経営(運営)形態を切に望みます。	郵便局は単に営利企業としてではなく、時代の変化に対応した地域における生活者の利便性を高める手段を提供する組織として存続させて頂きたいと考えます。(地域コミュニティに温かさをもたらす組織であって欲しいと思います。)
548	岐阜県	民営化になりサービスがよくなると言っていたのがすべてが嘘だ貯金の手数料は高くなり、手続きは難しくふるさと小包は高くなり局のノルマがあり何でも進められ郵便局に行くお客様は激減している。小包、書留は不在の連絡が複雑で郵便局へ取りに行くには3日後にしか受け取れない。どこがサービスがよくなるのか分からない	JRみたいに西日本、東日本というわけ方で三事業一体の経営の方が効率的ではないか。去年の年賀はがきも12/20頃差し出したのに5日過ぎの配達が相当目立った。新聞報道とは全然違った。	三事業一体で効率的な運営ができていたのに何故分社化しなくてはいけないのか疑問に思う。サービスが悪くなって当たり前。
549	島根県	郵便と窓口が分かれ、電話がでないので、とても不便になった。聞きたいことを、どこに聞けばいいのかわからない。分社化は失敗である。	三事業を一緒に取り扱うべきである。	アメリカでも、郵便は国がやっている。郵便の民営化は、必ず赤字になる。
550	東京都	郵政民営化は失敗でした。内部の者の意見として、今まで以上に規制が厳しくなり、効率化を目指すあまり残業代を減らされ、経費も削られ各局の個性や意見は出せなくなりました。全て上からの指示のとおりに動かざるを得ない為、社員のやる気もそいでいます。	民営化をしたのだったら、もっと現場からの意見や要望を反映した経営をしていただきたい。このままでは、現場は窒息してしまいます。民営化に対しての文句とあっても、期待はありません。民営化を進めた方々の民営化をすれば、事業の自由度が増して活気づくと言っていたのは、うそとしかいい様がありません。	現場は疲弊し尽くしております。早急に改善策を示してください。社員は雑巾のようにただ絞ればいいものではないはずです。
551	岡山県	手続きに長く時間がかかる。待たせる。説明が長すぎる。	ネットワークの維持がなくなっては困る。三事業一体の営業をして欲しい。	公社の時のような取り扱いに戻して欲しい。難しいことが多すぎる。
552	鹿児島県	民営化してお客さまへのサービス向上を図るとしているが、サービスは低下していると思う。郵便に関しては、転居届を本社で一元管理するために転送に相当日数かかるようになった。貯金については、全銀システム接続に力点が置かれて、その先には総額制限撤廃が見え隠れしているが、お客さまサイドの利便性追求ではなく、株式上場のためのものとしか見えない。他にも、分社化によって業務は煩雑極まりなくなりそれぞれの会社の指示文書や報告文書等で溢れている。郵便局の業務はパンク寸前だと思う。損益重視のために超勤時間のつかない管理者にも多くのしわ寄せがきている。国家公務員、国民の奉仕者として、地域の人々のためにと今まで献身的に仕事をしてきたと自負する社員の多くがやりがいを無くしている。	ー	ー
553	東京都	民営分社化から一年、簡易郵便局の閉鎖など住民サービスが大きく後退、限界集落等の過疎地域のコミュニティの崩壊に拍車をかけています。とりわけ金融のユニバーサルサービスが危機に見舞われているのです。庶民のささやかな郵便貯金・簡易保険など、リスク商品＝投資信託などとして金融バブル、カジノ市場に巻き込まれる要因ともなりました。	2万5千の郵便局ネットワークを維持し、高齢者社会や地域コミュニティ再生のための生活拠点と位置づけ、市民・利用者・労働者参加による事業運営を図ることです。事業展開はユニバーサルサービスを基本に公共性を高め、とりわけ郵貯・簡保の資金運用方法を改めることです。庶民の貯蓄・決済・生活保障手段としての事業展開を図り、資金運用はカジノ的投機金融とは峻別し、国債偏重をも改め、地方自治体への還元拡大、地方の資金は地方で運用するシステムを確立し、地域の中小零細企業への資金供給が容易に可能な仕組みです。	世界金融恐慌と日本経済の閉塞状況・・・郵政民営化を見直す時期を迎えました。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
554	岡山県	1　民営化後に良くなった点は一つもないと思います。 2　悪くなった点は以下のとおりです。 ・郵便局の窓口で長時間待たされるようになった。 ・窓口での手続きが非常に煩雑になった。高齢者にとって困難なことが多い。 ・郵便の配達が遅くなった。 ・保険金の支払いが2か月以上後になった。	以下の理由により、今の民営化計画では全く期待できない。 1　余りにも市場原理主義を重視しており、利潤の追求のみ追及し郵便局を利用する大多数の弱い立場の預金者などのお客様を無視した行動は利用者の減少を招いている。 2　郵政の民営化は金融全体の効率化、活性化を目指したものであったはずであるが、郵便局の預金できる最高額は一千万円に抑えられたままで、イコールフィティングとなっておらず、銀行間の切磋琢磨することによる活性化が図られていない。	1　米国が発生させた金融不安は、民間第一、市場原理主義第一の終焉ではないでいしょうか。 2　今から10年前に郵政民営化が実施されていたなら、今回の金融不安で郵政は解体されていたのではと考えると恐ろしい。 3　このような米国から押し付けられた郵政民営化は決して成功しない。小泉、竹中は総括する必要があるのではないかと考えます。
555	栃木県	評価しない。4分社化により、利用者には何だかよくわからない部分がある。 為替の手数料などがびっくりするほど値上げされて、別の送金方法を考えなければならなくなった。小額の送金に小為替は有効な手段だったのに。日曜日に郵便が出せなくなった。不便。結局、民営化により便利になったと実感したことはない。その意義もよくわからない。この施策を推進した人の意地に国民が付き合わされた感あり。今後、外資に株が買われてしまうなどというウワサもあり、もしそれが本当なら事前に何とかすべきだろう。国民の財産だった郵政が、この民営化によって外国のモノになってしまうとしたら、大問題である。	「こういう規則になってしまったんで、申し訳ありませんが・・・」と窓口でよく言われる。適用される規則などが変わったからしいが、そんなことは利用者とは関係ない。今までどおり、地域の郵便局であってほしいと思う。より便利で使いやすい郵便局になることが一番。銀行のように他人行儀ではなく、地域のお年寄りや子どもたちが身近に感じられるような郵便局に戻ってほしい。収益のことが先にたつようでは、庶民の切捨てでしょう。「それが民営というものだ」などと言うのなら、そんな民営化には大反対します。約束が違います。今後は、あの選挙の時に約束した、よりすばらしい郵便局になるよう期待しています。	1. で書かせていただきましたが、外資の餌食になることだけは絶対に回避してほしい。郵便局ネットワークは日本国民全体の財産ですから。国民全員がいつでも、どこでも公平に利用できるシステムであること が今後の（今後も）絶対条件です。
556	北海道	民営化に伴って、従来のきめ細かい国民本位のサービスがなくなってしまった。 いったい、誰のための、何のための郵政民営化だったのだろうか。	民営化以前の、国民（弱者）のための郵便局に戻って欲しい。	郵便局の職員は一生懸命です。是非、報われるように なって欲しいです。
557	鹿児島県	民営化に対する評価ということですが、今のところ全く良いところはありません。強いて上げれば来年1月からどこの金融機関でも送金ができるようになることだけでしょうか。5・6年前にはJAも一度に3カ所も閉鎖されました。郵便局が唯一の金融機関というところも少なくありません。高齢者がほとんどの集落では、ご主人が亡くなると車を運転する人もいなくなり郵便局が民営化され不安を感じている人が大半です。小包の集荷にしても今まではすぐ近くの郵便局から取りに来て頂いていたのですが、今では40キロも離れたところから取りに来なければならないとかでお願いするのも気の毒です。郵便局の民営化は、田舎に住む者や、高齢者などへのいじめとしか思えません。	せめて郵便・貯金・保険を同じ会社で取り扱ってほしいです。また、株は政府が100%保有するように改正してほしい。	ー
558	東京都	窓口の待ち時間が長くなっただけでなく、払い込みの手数料も高くなった。民営化されて、良くなったことが何もない。	民営化される前の方が良かった。以前の郵便局に戻して欲しい。	郵便局が、どのように分かれたのか判らない。
559	東京都	振込みの手数料が高くなり、民営化されて良くなったとは思えない。	郵便だけでも、以前のように国営に戻して欲しい。	国債を買うのにたったまま30分もかかった。
560	岩手県	ゆうパック等土曜日、日曜日窓口利用出来なくなり不便になった。平日も郵便局に集荷依頼しても出来なくなりましたと云われる。郵便配達員に貯金、振替払込を依頼できなくなった。窓口利用も手続きが複雑になり待ち時間も長くなった、手数料も高くなり民営化により利便性等良くなったことはない。	郵政公社時代のように外務員等に何でも依頼出来るようにしてほしい.窓口も貯金・送金・簡易保険等以前のようにもっと簡便に利用出来るようにしてほしい。貯金・簡易保険も辺地等切捨てをしないでユニバーサルサービスを続けてほしいです。	郡部ほど郵便局が必要です、無くなればお年よりの年金受取り等出来なくなりますよ。
561	石川県	・ひまわりサービスが中止され、高齢者への安否確認がされなくなった。サービスダウンではないか。（〇〇県〇〇市〇〇町） ・ローカルの小規模局の郵便局では、民営化前は集荷に来ていたが、民営化後は来てもらえない。不便である。 ・グループ会社で、年賀ハガキの取り合いをしている。ナンセンスではないか。 ・以前郵便局では、簡単に貯金を引き出すことができたが、民営化以降は、証明資料の審査が厳しくなった。 ・民営化前は、年金友の会に加入していて旅行の楽しみがあったが、民営化以降廃止された。	・ローカルの郵便局がなくなるか心配。なくしないで欲しい。 ・ゆうちょ銀行とかんぽ生命の株式は、半分国で管理し、ユニバーサルサービスを維持して欲しい。 ・郵便局会社と郵便事業会社は1本化し、地域サービスして欲しい。 ・現在、バラバラに運営されているが、三事業一体とならないものか。JRのように東日本と西日本に分割すれば可能ではないか。 ・ゆうちょ・かんぽの総額制限を撤廃して欲しい。	・郵便局の株式は、10年以内に全部売却することになっているが、サムプライムローンにより世界的な株安で金融危機となっている。安い時期に株を売却すれば大きな損失となる。できれば、見直しする間は、株式を凍結すべきである。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
562	千葉県	世間では民営化すれば便利が良くなると思っている人が大半を占めた事ではあったと思いますが、いざ、蓋を開けてみれば、簡易郵便局が閉鎖されたままの状態が続く等、日本全国のいわゆる過疎地へのサービスの低下が目立ち、本来の郵便局の存在意義と懸け離れてしまっていると感じています。	今の民営化が成功しているとは到底感じてはいませんが、郵便局の仕事とは、国民生活の安定に寄与する事を、先ず、第一としなくてはならないものだと思いますので、例えば、会社の株式が国外の投資の対象になるなどは、言語道断であります。少なくとも株式は公開すべきものではないと思います。そして、今まで郵便局のモットーであった民間金融機関にはない「近所の手軽な利用場所」であり、国民的財産ともいえる郵便局ネットワークを潰さない事が生命線であるという観点から、最低でも、公社時代並に、安心感のあるサービスを提供する必要性があり、そのためには事業の統合一体経営に戻し、公共性を高めていかなければならないと感じています。	是非、三事業一体の企業体としての郵便局に戻して頂きたいです。
563	秋田県	一番使い悪い郵便局になってしまった。通帳一冊作るのに何分待たせるんだ。簡易保険が簡易でなくなった。	田舎では郵便局しかないいんだ、都会と一緒にしないでくれ。もっと利用しやすくしてほしい。うちの年寄りが嘆いてます。	とのかく、元の郵便局に戻ってほしい。
564	岩手県	民営化に伴い、1つの郵便局の建物に仕切りをつけ、郵便局会社と郵便事業会社が同居している。お客様にとって、理解しがたいものと思われる。今までのように、不在通知のはがきを持って、郵便局窓口に訪れる。そのたびに、郵便事業会社に連絡し、時間をかけてお渡しできればいいが、今、配達に持ち出していますので・・・・・・・せっかく取りに来局したのにお渡しできない。そのような事が、何度行われたのか。これが民営化の実態である。集荷の依頼はいまだに郵便局にかかってくる。それをいちいちいまだに郵便事業会社に取り次ぐ。お客様に民営化され、別の会社になったのです。と言ってもなかなかピンと来ないのであろう。PR不足と言われればそのままであろうがこれも実態である。民営化したことにより、お客様が得したとこはあるのだろうか！ただ、複数の会社に分かれて、理解しがたくなっているだけではないだろうか？	やはり、速やかに、見直しを行い、お客様にとって分かりやすい、便利な郵便局にするべきである。	ー
565	長野県	民営化に際し政府が主張した内容でいわば国民に対する政府公約といっても過言ではないと思うが果たしてこの3年間でその公約が果たされているかを考えたい。 1　民営化すれば、サービスがこれまでよりもっとよくなる。 ・土日に郵便物を出したいが営業している店舗が少なくなった。 ・不在郵便物を取りに行きたいが以前よりも遠くまで行かなければならなくなった。 ・窓口での待ち時間が長くなった。 ・電信為替などの取扱いがなくなってしまった。 等の分社化、代理店化の弊害が目立ち、サービスダウンと言わざるを得ない状況となっている。 2　経営の自由度が増し、経営基盤も確立される ・委託元の金融二会社と郵便局会社との間での手数料の決め方に疑問がある。 ・違約金の存在が郵便局会社の経営を圧迫している。 ・ユニバーサルサービスを義務付けられた郵便事業会社は赤字である。 郵便局会社は手数料収入が収益の大部分を占めているが、その手数料収入が事業計画を下回っており到底安定した経営基盤が確立されている状況とはいえない。 3　将来に明るい夢のもてる、活き活きとした働き甲斐のある職場となる ・雇用契約を結ばせておきながらその予算を配算しない。 ・人事評価や給与に反映する目標設定等の経営管理の内容が不透明である。 などの理由によりモチベーションが低下している。マンパワーによるサービス及び営業が基本である郵便局会社にとって由々しき事態である。	以上3つの政府公約はいずれも実現していないことが 明らかである。より良い民営・分社化を達成するため、基本的な制度上の見直しを行い、更なる改革を推進することは絶対必要であり分社化の是非をもう一度考えていただきた い。	ー

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
566	島根県	郵便局が民営化されておよそ1年が経過したが、私の感想は「予想どおり」だし、国民の多くは「こんなはずでは・・」と思っているのではなかろうか。この「民営化」は、日本国民にとって何らメリットがなかったばかりか、逆に大きな損失を与えたと思う。ましてや、「分社化」は、とりわけ地方にとっては　不便、不合理、不都合以外の何ものでもない。130年余りもの間、公共性を生かしながらきちんと経営され、地域から慕われ愛されてきた「あなたの町の郵便局」が、一瞬のうちに市場原理主義の悪魔に破壊されてしまった。・・という思いです。「市場原理」はもはや時代遅れとなりつつあるが、そもそも日本社会になじまないし、特に郵便局にそれを持ち込んではならなかったし、持ち込む理由も何一つなかったのです。 評価は「最悪」 私の意見で、民営化委員会の方向が変わるとは思いませんが、「市場原理」に汚染されたアメリカからの圧力により作られた根本の「民営化法」から、アメリカではなく、日本国民にとってより良い方向に見直すべきです。	「これから良くなる」という説もあるかと思います が、地方の人々は郵便局に対して、「コンビニ」や「映画のチケット」や「〇〇の割引券」を期待してはいません。普通に手紙が出されて、普通に荷物を送ることができて、年金を受け取れて、僅かなお金でも安心して預けることができる、そして何でも相談できる「昔ながらの郵便局」を待っているのです。	とにもかくにも、法律からの見直しが必要です。
567	静岡県	貯金関係・・・取扱いが複雑化しお客さまへ要求がふえた。各種手数料も上がり、文句を口に出さないまでも表情・口調から不満を滲ませるかたは多い。キャンペーンなども、他の金融機関がやっているものとかぶっていて、尚且つお客さまに求めるハードルは、郵便局(ゆうちょ銀行)の方が高かったりもする。 保険関係・・・自分としては特に感じるものはないが、こまごまとした部分で公社時代できた請求ができなくなったり・・・やはり利便性は良くなったとはいえないような気がする。 郵便関係・・・配達の誤配も多くなったというか、ありえないような誤配のしかたが増えたような気がする。人件費をケチって質を落とした当然といえば当然の結果だと思う。つい先日も書留を当郵便局に誤配して行こうとする配達のひとがいました。 物販関係・・・コンプライアンスハンドブックに自爆営業は会社に対する背信行為だと記しておきながら自爆しなければ売れない商品(と、いうか価格設定)を、なんとかしてもらいたい。まったく同じ商品(型番も同じ、価格が二千円から三千円台、勿論、配送料金込みで)が地元に根付いた小売店で五百円程度安い値段で販売されていた。ただでさえ不況の世の中、お客さまはシビアだ。 供給関係・・・欲しい商品(需要のある商品)は来ない。いらないもの(配りきれない×2以上の量のチラシ)は処分にも困るほど来る。現場の分析をされているのかどうか疑問だ。これこそ紙代、印刷代の無駄遣いではないのかと思うが・・・。	分割民営化の撤廃。三事業一体の経営。利益主義に走らないでほしい。高齢者に優しい「郵便局」であり続けてほしい。	周知品の予算が激減しました。他の金融機関と比べると貧相なものしかなく、それに対する苦情もありまし た。今は社員みんなで自腹を切って周知品を買っています。それを差し上げて「民営化してサービスがよくなりましたね！」と言われたときは複雑な気分でした。
568	宮城県	本来目指すべき民営化とは程遠い。一段と不便で(身近な簡易局の閉鎖)、手数料を多く徴収して、時間がよりかかる状態となっている。 再度、身近で安心のできる日本独自の郵便局のありようを再検討すべきである。	郵便局の存在意義、その機能(銀行との違い、歴史的に果たしてきた成果の評価)、果たすべき役割等を再度徹底的に検討・議論が必要。郵便局に公共的な任務を担保させることは、必要不可欠であると思料される。	再度、日本人の将来のため、日本のあるべき郵便局について、アメリカに支配されない、しっかりとした議論が必要不可欠である。
569	山形県	民営化後1年が経過しましたが、各種料金の値上げ、窓口での事務処理手続きの煩雑化による待ち時間の増加、時間外窓口の閉鎖など多くの郵便局を利用するお客様が民営化前と今の郵便局に大きなサービスダウンを実感しているのではないかと思います。民営化すれば「サービスが良くなる。」「小さな政府にしなければ。」と言われ民営化に賛成したのですが、この1年を検証してみると、何のための、誰のための民営化だったのか改めて考えさせられました。 全国津々浦々に在る郵便局は、小さい子どもからお年寄りに至るまで幅広く、「安全・安心な情報通信・金融サービスの拠点」として広く認知されて参りました。しかし、離島、山間地に在る簡易郵便局の1割にあたる400局が一時閉鎖という状態は、他に代わるべき金融機関の無い過疎地にとって大きな問題です。これまで電話1本でゆうパックの集荷依頼ができ、郵便配達の人に振替や年金の受取りの手続きを依頼できたが会社が分社化して規則も変わってできなくなったと言うご意見もいただきます。過疎地域に暮らすお年寄りにとって別会社の人には頼めない、ATMもない、あっても使えないなど、利用者から見れば非常に不便になったのではと感じられます。	身近な郵便局として地域に親しまれてきたのに、民間の銀行・生保会社になろうとするのは郵便局の存在意義さえも無くなる。「民」「公」の区別なく、郵便局だからできること、お客様に愛され信頼されていたからこそできたことを改めて見直しする必要があるのではと考えます。公的役割を担う国民共有の財産である郵便局ネットワークを維持し、国民生活の基礎的なライフラインとして3事業一体の経営形態ユニバーサルサービスの確保は今後も期待するところである。民営化後、郵便局を利用されるお客さまの数も少なくなったように感じられるなか、郵貯簡保のユニバーサルサービスがなくなれば、金融に多くを頼っていた郵便局にとって大きな痛手となるばかりではなく、郵便局ネットワ ークの崩壊にもつながりかねない。民間企業として効率性を高めるためには、三事業一体の経営に戻すことが効果的と考えます。やはり、現在のシステムでは郵便局の経営努力だけではユニバーサルサービスを 維持することは困難ではないでしょうか。4分社化の見直し、JPグループシステムの見直しにより郵便局の健全経営が図られ今後も維持発展するように期待します。	ゆうちょ銀行・かんぽ生命の金融2社は2010年の株式上場を目指しているが、上場して市中に放出することが経済活性化につながるのかは疑問である。郵便局が民間の一金融機関としてだけではなく、お客様に愛され地域になくてはならない郵便局で、公的な使命を今後も失わずに民間企業として存在意義を発揮、維持、発展していくうえでは「郵政株式処分凍結法案」など、早期に実施すべきものと考えます。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
570	鹿児島県	民営化になって、以前より利用し難くなりました。役所に送るため、定額小為替を購入しましたが、手数料が1枚につき、100円かかり驚きました。また、証明書類の提出などがあり、待ち時間も長くなっているように思います。私の周りでは、以前より間違った配達が多くなったとの声を聞きます。	郵便局は、国民にとっても身近な存在です。国民の生活を支える民営化を望みます。	ー
571	三重県	過疎地へ行くと簡易局等が休業や廃局になっている所があるようで、是非存続するよう希望する。	ー	ー
572	東京都	民営化することによって郵便局はサービスは良くなるという触れ込みであったが実際は全くの逆でサービス低下も甚だしい。待ち時間は長くなるし、手続きはうるさく面倒になるし、手数料はあがるし、今まで利用 できたものができなくなるし、いいことはなにひとつない。今まで手軽に気軽に利用できた郵便局はどこに行ってしまったのだろうか。所詮、郵便局と銀行は違うもの。銀行並みのものを求めるのであれば、もっと社員を増やさなければダメである。社員も何かギスギスしている感じ。こんなはずじゃなかった。国民は小泉さんと竹中さんに騙された思いだ。	分社化したやり方は間違っている。まして株式売却ともなれば、儲け一本槍の資本が入り、日本の財産「ユニバーサル郵便局」は崩壊してしまう。今の経営形態は見直すべきである。	ー
573	愛知県	郵政民営化の実態を見てみると、分社化により三事業はバラバラになったことから各事業間の連携がなくなり、サービス・能率の低下、また、お客さまの不満の増加、各種料金の値上げ等々、多くの問題点が浮上 してきております。このような状態が今後も続くことになれば、お客さまの郵便局離れに繋がることから大きな不安を感じるところであり、郵政民営化の見直しを早急にすべきであると思います。	民営化により郵政事業は四分社化され、郵便、貯金、保険の三事業はそれぞれに分断されました。これまで郵政事業は、三事業一体の運営により効率的にサービスの提供がされてきたところですが、分社化により各事業との連携は途絶えた状態となり、お客さまへの円滑なサービスの提供も十分にできていないなど、サービスの低下を招いているのが実情であります。これはお客さまの郵便局離れに繋がるものであり、それぞれの事業にとって重大なことであります。言うまでもなく郵政三事業は市民生活に密着しているものであり、民営化後においても三事業が一体とな り効率的にサービスの提供をすることが強く求められます。このことから郵政三事業の分社化についてはこれを改め、三事業一体の運営に戻すことが必要と思います。また、民営化された郵政事業を維持発展させていくためにも、三事業が一体となった運営をすることが最善であると思うことから、分社化については早急に見直しがされることを期待しております。	郵政事業の民営化をより良いものとするため、過去の良い部分も採り入れるなど全面的な見直しが必要と思います。
574	千葉県	(1)郵便局の窓口の接遇(声かけ等)が良くなった。(使用している郵便局) (2)夏でも外務員がネクタイをするなど服装が改善されている。 (3)マスコミに出る事業の悪い記事が少なくなった気がする。 (4)外から見て労使の対立が少なく協調路線になったのかと思う。	(1)分社化は、人的・物的非効率をもたらすとともに一部事業の財政状況を悪化させ、郵便局の閉鎖や窓口サービスの低下など民営化によるほころびが出て経営危機が現実となるので、見直しをして三事業(郵便・貯金・保険)一体経営にすることを期待する。郵便事業の信頼を勝ち取ることにより貯金事業・保険事業の拡大も望めるのではないか。 (2)研修等を充実し三事業(郵便・貯金・保険)の総合服務・循環服務を徹底するとともに三事業間の人事交流と相互応援を積極的に行うことを期待する。 (3)郵便局の全国ネットワークを活かし、これからの高齢化社会に対応し国・地方公共団体と提携し、介護事業の一部に参入する。将来的には特養ホーム的施設の経営にも一部参入することを期待する。	全局で約400局という簡易局の閉鎖状態を早く解決して欲しい。当面は出張サービスにより過疎地の郵便局網の応急措置の徹底を図って地域間格差が生じないような配慮をして欲しい。
575	宮城県	最悪。煩雑な手続により待ち時間が非常に長い、手数料も上がり、必要書類も増えサービス低下。	ー	ー

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
576	佐賀県	平成19年10月1日、郵政民営化がスタートしてから1年2ヶ月ほど経過し、現在まで身近な郵便局として利用してきました。民営化前の郵便、貯金、保険の三事業を一体的運営から四社の会社に分割され、それぞれの会社の運営になり、全体的にいろいろな面でサービスが低下しているように感じます。郵便局を利用する地域住民の一人として、民営化前のような三事業一体で効率的な運営で高度なサービスを提供してもらいたいと切に念願しております。以下、日頃、利用して感じている事項です。 1、郵便物の自宅に届く時間が遅くなった。自宅の地区は配達する順路が終わりの方であるとのことで、遅くなるのは理解していますが、以前は17時前にはポストに配達できていました。民営化（集配局統合）後は18時過ぎが多く、現在の冬期は既に暗くなってからです。待っている郵便物もあるので、なんとか改善して欲しい。 2、我が家は配達時に不在の日も多々あり、書留やゆうパックの配達時には外務員に迷惑をかけている。その都度、「不在通知書」を入れてあるが、その通知書に記入してある連絡先に何回もかけるが、いつも「話中」で連絡がとれない。再配達や窓口に受け取りに行くのも手数がかかり、不便である。 3、郵便局の窓口で貯金の払戻しや振替送金の一定以上の金額で、本人確認の証明書が必要とのこと。本人であるとの面識があっても、その都度、免許証等の提示を求められる。取扱手続（法）で定められているのは理解できるが、なんとか簡素化できないものか。 4、以前はお年寄りや障害者などに郵便局まで利用に行けない人に対して、要望があれば、外務職員が郵便、貯金、保険など三事業の利用を所定の手続きで預かり処理してくれるサービスが好評で手助けしてもらっていたが、それらも出来なくなったと断られている。 以上、日頃感じている点を列記したが、反対に良くな った事項はあまり見当たらない。改善をお願いした い。	1の項の改善を	ー
577	福島県	民営化したら、もっとサービスがよくなり、いいことばかりだとの説明とは、まったく違った結果になり失望しています。今振り返ってみると、一部の政治家、一部の学者の選挙目的、権力闘争、自己主張に利用された民営化だったとの思いです。効率的経営ためには、組織を統合、併合するのが一般的なのに、分社化したのは逆行ではないでしょうか。	民営化したことで、さらに国民に取って利便性が向上するなど、国営の時よりもメリットがなければいけないと思います。 麻生総理が言うような、ゆうちょ銀行、かんぽ生命の株を高く売ることとか、郵便局が不動産事業で儲けるとかを、国民が一番期待しているとは思えません。国民は、簡易、便利、安全、信頼を期待しているのです。	完全な民間企業にユニバーサルサービスをやらせよう とすることに無理があると思います。何のための民営化なのかもう一度原点に戻って考え直す必要があると思います。本来、国営事業と民間企業とでは、設立目的、経営手法が違うのに、民営化すること自体が目的となり、結果として矛盾が表面化しています。 もう一度民営化の制度設計をやり直すのか、それともこのまま進めていくなら、ユニバーサルサービスの維持が困難になること、今後不採算部門（郵便局等の廃止、過疎地から撤退）を改廃することを、国民に説明する責任があるのではないでしょうか。将来どうなるのか、不安に思っている人がたくさんいます。
578	山口県	郵便局は公営事業のなかで優等生でした。もし何らかの不都合があれば、それは公営事業のなかで改善できるものでした。民営化によってすこし改善されたところがあったとしても、失われたもののほうがはるかに大きいといわねばなりません。国民みんなの財産を安易に民営化して、破壊してしまうような政策をとった責任者の犯した間違いは容易に取り返せるものではありません。	地方では、銀行や農協の数もどんどん削減されて、生活が大変な圧迫を受けています。バブル以来、金融事業は不良債権でガタガタになり、国の支援を受けなければ存続できなくなったではありませんか。今では郵便局が唯一の信頼できるパイプです。私たちがこれまで安心して利用してきた郵便事業、貯金事業、保険事業をすべて回復し、はじめの郵便局を復活させ、国民の信頼をとりもどしてください。	郵政民営化と非正規社員の一斉首切りとは、根底においてつながっています。軽率な経済主義で人間をモノとして扱う政治の行き着く先がこれです。はじめからそのことはわかりきったことでしたが、わからないふりをして暴力的な政策を強行した人、それを許した国民は、今きびしく反省する必要があります。
579	北海道	サービスレベルを下げないと言いながら、私の周りでは「不便になった」という意見がほとんどである。民営化して誰がどんな得をしたのか、経済的にどんな効果があったのかまるっきりわからない。	利便性の高い、経済的に効果のある民営化に改善していただきたい。	小泉氏には言いたいことはあるが、他は特に無し。
580	岐阜県	民営化し、競争原理が働くことは良いと思うが、民営化し、4分社化したことについては、サービス面でも低下したと思う。民営化前は、1人で行っていた仕事を民営化後は、会社が別々の2人が行っている。時代は、効率化、合理化により低コストでサービスを行っていこうとするときに、逆のことを行っている。故にサービスも低下している。民営化前が当たり前だと認識していたことが、今はなされていない。郵便物の受け取りも不便になったし、配達にも負担になっている。2箇所で同じ仕事をするのであれば、要員も増えればサービス低下も避けられるが、要員は増えず、2箇所で同じ仕事をするのであれば、ロスが生じてくるし、以前よりもこなせる仕事量も減る。とにかくもっと効率的な仕組みにしな いと、郵政の未来はないと思う。	もっと効率的な仕事ができる仕組みに変えてもらいたい。以前の郵便、貯金、保険の三事業が一体となった形態が望ましいし、以前の方が効率的であった。今は非効率である。	ー

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
581	福岡県	平成19年に民営化して現在までに郵便局が減ったと いうことは私の住んでいる地域では無いのでサービスの点では維持されていると思います。また、来年1月から銀行への送金が可能となる点も評価できると思います。しかし現在のような金融不安の中では国の機関としての金融機関が1つは必要ではないかと考えます。	今後も郵便局の数が収益などにより激減しないことを期待します。	ー
582	長野県	全般的にわかりにくい分社化である。国民利用者にとっての郵便局となっているか、1つの建物を区切ってメリットがあるのか。なぜそれが必要なのか、基本的な制度設計が果たして時代にあっていたのか。大変疑問点が多い。	国民利用者と接点が多い郵便局を前面に出すべきで、主体は利用者や窓口社員や外交社員であるべき。規則的に縛られ、利用する側からは、不便さばかりが全面的に目についてしまい、離れてしまう。郵政グループ本社が直接郵便局を管理監督し、郵便・貯金・保険の委託元との関係をフェアで強固な関係にすることで、より郵便局の幅が広がるのでは。全て委託だけ会社が維持できるとは誰も思っていない。	一部の意見だけが通る世の中では、閉塞感のみが先行し、誰も付いていかず政治が混迷する。（今の状況）経済の建て直しは、広い見識の下に広く浅くが原則。深く、きつくは政治離れを生み、経済は閉塞感を生む。
583	三重県	国民生活、サービスが良くなると言われていたのに何も良くなっていない。簡易局の閉鎖がよくマスコミ等に取り上げられているが、それ以外にも会社が分かれた事により、窓口をいくつか利用しなければならず不便になった。（満期保険金を貯金できなかった）ゆうパックの集荷や不在配達を依頼する電話もほとんどつながらない。	今、合併して大きな会社となり利益を生み出す努力がなされている時代に、分社化は流れに反している。三事業一体にしてほしい。	貯金限度額をなくしてほしい。銀行のように小さい規模でも人数を増やし、いろいろな対応をしてほしい。
584	福岡県	民営化して1年余りが過ぎるが、現在の状況では低い評価しか出来ない。評価項目を細分化して考えることも大事だろうが、民営化の基本方針として掲げられた『国民の利益を実現する』という観点から考えると疑問符がつくからだ。新規サービスの提供など実感出来ないどころか、過疎地等では簡易郵便局が閉鎖して利便性の悪化を招いており、定額小為替に代表される手数料の値上げで国民負担は増加している。更には、少人数で収益だけでなく公共性を維持する為に社員の負荷が増大して、ストレスにより会社や仕事に対するビジョンを描けない社員も発生している。政治家や学者が描いたバラ色の民営化は何処へ行ったのだろうか？	不採算な郵便局を切り捨てて黒字化するのではなく、事業発展の上で本来の黒字化を進め、国民の利益となる企業になるべきである。その為には、窓口である郵便局会社 は不確定要素が多いインセンティブ（手数料）だけでなく、核となる自社商品が必要と考える。新規サービスを乱発することはリスクが高いため、郵便・貯金・保険の事業をあわせてブランド化することで高品質のサービスが提供できるのではないだろうか？	そもそも民営化することによって、『何が変わって、誰がどのように幸せになるか』が明確でなく、抽象的な理想論ばかりが先行して、国民やマスコミが踊らされただけではないか？2007年の流行語大賞は受賞しても、国民の生活は切実で『流行』などの理由で解決できないと思うのは私だけじゃないはず。 時代は流れた。資本主義の手本としたアメリカ経済の金融バブル崩壊により日本国内の経済も不景気となり、拡大した格差や雇用に対する不安などの問題に取り組む必要が出てきている。最近、私の勤務する郵便局窓口でお客様から『他社の保険を検討していたが不安になったから郵便局に来た。』『どこも利息が低いし、その中では郵便局が安心と思った。』など聞くことがある。民営化することで利益を追求することだけでなく、国民に安心していただけるライフラインづ くりから見直しても良いのではないだろうか。
585	岡山県	都会では変わらないか良くなっているかもしれないが、地方に行けば行くほど不便になっている。分割民営化によって、地方の高齢者がライフラインとして頼りにしていた外務員が機能しなくなっている。もっと地方の国民のことを考えてほしい。	民営化は仕方ないが、分割化については見直ししてほしい。	ー
586	岩手県	石油元売り最大手の新日本石油でさえ、コスト削減のため新日鉱HDと合併するというときに、郵政は4分社化だという。あの時の小泉さんと竹中さんにそれで経営が成り立つという勝算があるのかと思って見ていたが、今の4会社の状況を見れば、ただ単に「民営化ありき」だったことがよくわかった。自民党議員の多くが反対に回ったのもその良識ゆえのものだったようだ。今、改めて冷静に考えれば、民営化賛成は「民意」だったとはいっても、それは「勉強していない人たちの世論」が大勢を占めての不幸な結果だった。	郵便局は地方の人たちの生命線なのだから、貯金も保険もどんな経営状況になっても絶対地方から撤退しない保証がほしい。そのためには、ふたたび国営というのは無理としても、以前のように郵便と貯金と保険を統合して運営することが一番効率的で国民の利益となる。上場などもってのほか、株は政府が保有し続けるべきである。	この民営化委員会には、本当の過疎地の痛みをわかってくれる方がいてほしい。2～3分すれば次の電車が来るような所にお住まいの方には、わかってもらえるような気がしない。（偏見でしょうか？）
587	岐阜県	民営化すれば、町や村に活気がありサービスが良くなると言う約束が違う。山間地の利用者にとって郵便局が遠くなり、休みの日の取扱いがなくなった。集荷をしてくれなくなった。手続きが面倒になり料金が高くなった。郵便局主催のイベント行事がなくなった。ATMがなくなった。	従前のように、土日曜でも近くの郵便局を利用できること。山間地でも三事業一体のサービスを受けることができること。	公共性にウエイトを置いて欲しい。
588	東京都	民営化自体が失敗だったと思わざるをえない。サービスの向上を唱えておきながら、集配局の統合により郵便物の遅延、誤配等が多発し、窓口においては待ち時間、処理時間が長くなった。また、簡易郵便局の廃止が増えたことで利用していた人たちは不便を強いられている。こういったサービスの低下により、郵便局の魅力がなくなってきているのが残念。	今までは、全てとはいかないまでも局員さん頼めば、ある程度の対応をしてくれたが、現在は、会社が違うということで対応できないことが多々あり、分社化されたことにより、利用者側にも弊害が発生している。国民の利便性からも見て、郵便・貯金・保険は一体化することが望ましいと考えます。	民営化されたからには利益を上げなければならないことは理解できるが、「何のための民営化だったのか？」国民にとっても利益があると言ったからには、その国民の生活を第一に考え、見直しが必要であればしっかり見直すという姿勢で臨んでほしい。
589	岐阜県	内からも外からも民営化してよかったという声を一度として聞いたことがない。だから、何をどう評価していいのかわからない。	国民も郵政に働くものも、民営化してよかったと思えるものにして欲しい。	ー

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
590	岐阜県	・民営化したが何一つ良くなったことがない。 ・効率的に3事業一体で運営されていたものを分割したことによって、不効率事業を作り、国益の損失を招いた。	1．国営に戻す。 2．国営に戻せないなら、せめて3事業一体化には戻す。 3．1、2、が不可能ならば株式の全部を国の保有とし、効率的な運営を可能とする。	・田舎では、元々銀行の支店がなかったのに、いまは農協も撤退し、金融機関は郵便局のみである、民営化によって郵便局も姿を消すのではないかと、高齢化した住民は大きな不安を持っている。 ・物流に於いても、不便であった田舎が、民営化によってさらに置き去りになりつつある。 ・山河を守り、日本を守っているのは地方であり、田舎ある、これらを否定することは日本を放棄することにほかならないのではないか。
591	広島県	・国民を騙したとしか言えない、サービスが良くなると小泉と竹中が言っていたが何一つ良くなっていない。 ・4分社化して今までの効率の良い郵便局をずたずたにした。 ・早く前のように郵便・貯金・保険全てを取り扱ってくれる郵便局にもどして欲しい。	・早く前のように郵便・貯金・保険全てを取り扱ってくれる郵便局にもどして欲しい。	・日本全国を考えた郵便局にしてほしい、都会と中山間部の暮らしは違うし、これだけ過疎化が進むと郵便局の役割は大きいと思うし、絶対に現在の郵便局数を減らしてはいけない。だからこそ、株式処分凍結法案を早期に法案化しなくてはいけない。
592	岡山県	郵便局がもっていたこれまでのユニバーサルサービスが分社化することで、ロスが生じ、金融サービス、物流サービスともに切り捨てられている。郵便局のサービスは営利至上主義の民営化にはそぐわないものである。東京では、気付かないかもしれないが、地方の意見をもっとよく聞いて、見直しを行うべきである。少なくとも分社化は、サービスダウンの象徴である。	分社化の見直しを行い、三事業一体化での業務遂行を行っていく。株式は、政府保有の特殊会社とする。民営化しても、ユニバーサルサービス維持できる収益の上がるビジネスモデルを議論していただきたい。	今回の民営化は、結論ありきの動きで、マスコミを含めた議論が進んだ。今回の見直しでは、地方の意見を真摯に受け止めた議論をお願いします。
593	岡山県	私は小さい郵便局ですが局長をしています。民営化当初は制度改正により事務繁忙、お客さまの苦情等に翻弄されました。この時期を乗り切れば落ち着くお客さまも戻ってくると信じて日々遅くまで郵便局で仕事をしました。しかし、お客さまの声箱に「行列の出来る郵便局・・最悪」の投書、局長も社員も一生懸命やった結果がこのご意見かと思うと民営化が悔しくてしょうがありません。新制度になれて来たときには、お客さまの多くは郵便局不信となり離れていることを実感してます。今まで以上にお客さまに声に答えるよう頑張って来たのに残念で仕方ありません。民営化前より良くなったことを探す方が難しいような気がします。全く評価できません。	貯金保険の渉外社員によるきめ細かなサービスをすることで高齢者の方との信頼を保っているわけですが、今後、渉外社員は集約されいなくなる予定です。片道10Km以上ある集約局から貯金を下ろしたいのですが来てくれ等の要望に応えられるでしょうか、高齢化が進んでいる当区域ではサービスダウンが予想されます。宅配便でも支店を増やし地方の要求に応えているのに現在健全に運営できている郵便局から集約する意味があるのでしょうか。サービスダウンにならない集約方法もあると思います。地方は切り捨ての政策はストップすべきです。	三事業一体、株売却凍結、新事業凍結。
594	山口県	日本社会を混乱に導く第一歩となっている。教育（小学校）司法（派出所）通信・経済（郵便局）が国の機関として全国津津浦々にある日本社会は人の住む社会の手本としてアメリカの世界的社会学者も世界に繁栄と平和をもたらす仕組みと評価してきた。これを守ることは世界的に大事なことであった。世界平和へのモデルを無くし日本社会の混乱ももたらした。サービス低下は、あらゆる所に来て国民の不安は小泉に騙されたというのが本音。	郵便局を国の仕組みとして残さなかったことに最大の失政がある。「国の仕組みを民間が受託してやる。」今はこの方法で日本の窮地を乗り切る以外にはない。そこに戻すまでは、日本社会の安定はなく混乱が続く。かって民営化がタブーと言われたのは、そういう意味であって特定局長の利権から言われたのではない。憲法・教育基本法に続く良き日本の伝統を完膚無きまでに失わせる悪魔の最後の仕業で、撃退が必要。	今、日本社会は頓に混乱している。悪魔が民営化をやったからだ。郵便局は発足後70年余り全国各地の有志の奉仕と土地建物の無償提供で制度と利用者を守ってきた。これを金儲けに利用しようとする今回の民営化は、奉仕して日本社会を守ってきた多くの先祖を冒涜し、真心を尽くして来たこれらの先祖を悲しませている。今の社会不安はこれらの心も反映している。社会安定の基幹となる郵便局は国の仕組みとして存続することが必須である。そして民間委託でやればいい。今の国の政治家で、天皇陛下を無視している人が多い 野に呆れる。郵政改革を実現に導いた小泉さんもその一人、最近、昭和天皇が靖国参拝を止められた事情があきらかになったとき「誰がどう言おうと関係ない。」と参拝を続ける姿は日本人として醜い。こういう人が民営化をすると日本社会が破壊する。本当の日本の政治家はあの報道で靖国参拝を止めれば本物。何 故なら今上天皇陛下も父陛下の意志を継いで参拝されていない。 これは一例、自分の得になる方向にしか向かない今の政治家達が右往左往する報道を見ると、日本の根底を誤らした郵政民営化をやったのも頷けるが、将来日本国民が目覚め平沼赳夫さんという本当の政治家に心ある政治家が集まってきて日本政治が復活する時は必ず 来る。
595	高知県	郵政民営化が行われて今に至っているわけですが、コスト削減や効率化が進んだのかもしれませんが、私が住むところでは少なくとも午前中に配達されていた郵便物が午後2時ごろに配達されることがあります。郵便局前に設置されたポストの集配も半分以下の回数となりました。書留郵便物の受け取りが遅れると、〇〇駅前にある郵便局まで取りに行かなくてはならなくなりました。郵便局の人員が減らされたことで、処理がわからないとか対応に時間がかかるなど、業務サービスが遅くなってしまったと思います。郵政民営化は誰のため？地方切捨てのための民営化であったということでしょうか。 業務サービスを向上させるなどということに、民営化は必要なかったと思います。	郵政民営化はするべきでは無かったと思います。『はじめに、民営化ありき。』は間違っていたと思います。今のままでは郵便物が届かないところが増えるなど、郵便業務は破滅してしまうでしょう。とてもではないですが、期待は持てません。すぐに民営化は廃止してもとに戻すべきだと思います。	民営化をするにあたって保障すると言った部分が、次々と犯されています。民営化は辞めるべきだと思います。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
596	東京都	郵便局の現場を預かる郵便局長としては、利用される皆様に多大なサービスダウンと、郵便局で働く社員にやる気をなくしているとしか思えない。まずサービスダウンは集配局再編で郵便物の配達が遅れていること、不在配達郵便物も遠くの郵便会社支店まで取りに行く必要があること。貯金では手続きが煩瑣になり、待ち時間が長くなっている（以前は待ち時間の短さが郵便局の売りであった）。郵便局自体も一時閉鎖の名の下で都会部でも減少している現実。社員のやる気は指示文書の洪水で、これらを処理するため本来の営業活動ができず、業績にも悪影響がでていること。郵便局会社の将来像が見えず、若い社員の持株会への加入率が低いこと等々。民営化の理念であった「サービスダウンはしない、郵便局は減らさない。営業実績はあがる。希望の持てる職場が実現する。」からは逆の道を歩んでいるとしか思えない。	期待ではなく、郵便局が抱えている様々な課題を解決してことが優先課題だと思う。まず金融2社の株式公開を当面凍結して、ユニバーサルサービスを課すこと。株式が公開されたら株主の意向により、採算のあわない郵便局への委託がなくなるのは自明の理。郵便局の手数料の大部分が金融2社から賄われている実態 からみると委託がなくなれば郵便局は立ち行かなくなるのは明らかである。	市場万能主義が現在の世界的金融危機を招いてる一つの原因。地域に密着し、全国津々浦々にあった郵便局は金融のセイフティネットであった。郵便局長は地域に密着し地域とともに歩んできた自負がある。郵政事業を分割した弊害が地方の離島に起きている現実を鹿児島の一女子高校生の弁論大会で知ったときは涙が出てきた。そこでは弱者を切り捨てる現実が否応なしで語られている。感情論と切り捨てるのは簡単であるが現実にそこで暮らしをしている人たちがいる。民営化前までは郵便外務員が貯金の引き受けや保険の話もできていたが今はそれもリスク遮断という名のもとで出来なくなっている。現時点では民営化の果実をみることはできない。以上感じるまま申し上げました。郵政民営化委員会の先生方におかれてましてはどうか郵便局の現実を直視されて賢明な判断を願う次第です。
597	東京都	手数料の値上げ・待ち時間増・配達ミスと以前よりサービスダウンしたと感じている。私個人だけかと思ったが、町内会の方々との話題でも利用し難くなったと感じる方が多い。民営化議論では全てが良くなると説明していたが利用者（国民）に対して何が良くなったか全く不明である。ニュース等で地方は簡易局が撤退し以前より不自由になっていると報道されており、市場原理に基づく経営がされている事を強く感じ、生活を支えていた郵便局から離れてしまったように思える。	以前のように不自由な生活環境の地域にも平等な取り扱いを行なう体制にして頂きたい。また国民の為になると言う事はサービスダウンした手数料や待ち時間等も以前のようにする為の見直しを行なって頂きたい。このままでは利用したくても郵便局がメリットが感じられ無い。	法案成立当時はマスコミも視聴者をのせる報道多かったが、最近では本当に正しかったのかといった報道を目にする。利用者へのサービスダウンが起こってしまった以上、大胆な見直しが必要な時期に来ていると思う。
598	宮城県	民営化すればサービスが良くなるということで郵政民営化がスタートしたが、総体的にサービスが低下して いると指摘せざるを得ない。例えば ①はがきが翌日配達にならないところができた。 ②病院のATMが知らぬ間に撤去され不便になった。 ③貯金を引き落とす場合、顔見知りなのに都度、免許証などの提示を求められる。 ④貯金窓口の待ち時間が長くなった。40分も待ったことがある。以前は、長くても10分位であった。 ⑤郵便局長に郵便のことを相談しても何の権限もない。これを郵便局長と呼ぶのはおかしい。 ⑥定額小為替の料金が大幅値上げにはおどろいた。これでサービスが良くなったとは云えないのではないか。 ⑦地域の小さな郵便局が元気をなくしている。地域の行事に顔も出さなくなった。郵便局が暗い。以前の明るさがない。 ⑧民営化されても局が狭く改善の動きがないと聞く、サービス上から改善されるべきである。 民営化後、良くなったことがあるか、探したが、見当たらなかった。残念である。	郵政事業は、もともと民営化に馴染まない事業である と見ている。全国ネットワーク維持を守ると云われているが、多くの不採算地域を抱えて、民業では至難の業である。全国民に全国ネットワークサービスを提供させる郵便局を国の力で堅持されるべきであり、そのような経営形態に見直すべきと考える。郵政グループ会社を国有会社としはどうだろうか。それが、将来、国家国民のためになるのではないか。	―
599	岩手県	民営化実施前から心配されたとおり、地方切捨てで国民のためにも、郵便局のためにも、職員のためにも、国のためにもならず、単純な言葉で表現するなら「失敗」ということになる。例をあげると切がないが、敢えてならべると ・郵便の時間外窓口の廃止 ・簡易郵便局の一時閉鎖。再開しても郵便だけの取扱いの局も出現し、田舎であればあるほど貯金保険の恩恵が受けられない。唯一の金融機関を奪った。 ・ふるさと小包の地方切捨て。手数料の値上げにより、事実上小規模業者は参入困難となった。 ・送金・決済サービスの料金値上げ。印紙税分はしっかり料金に上乗せして利用者負担。 ・窓口における待ち時間の増加。 ・あらゆることが性急な取り組みで、準備不測のままスタートし、後手後手の対応に追われる。 ・ゆうちょ銀行、かんぽ生命の株式が上場になれば外国（特にアメリカ）の金融機関やファンドに買われ、経営に不安が生じる。	1　郵便、貯金、保険の三事業一体の経営形態に戻して経営の安定化を図る。落ち着いて施策を展開、地方も生かすこと。 2　株式が上場となっても経営権が奪われることがないよう万全の対策を講じること。	経営陣は職員の声にも耳を傾けながら、全職員が力を合わせて、国民のため、地方のため、働く者のためになる事業展開で社会に貢献してほしい。
600	福岡県	民営化に際しての混乱は、十分な準備をしてもゆうちょ銀行通帳への切替による煩雑な手続きや取扱商品の削減により避けられず、お客さまに多大なご迷惑をおかけし、利用の減少を招いたことは否めない。また、サービス向上を謳いつつ、分割民営化により、小包の集荷やチルドの引受はできなくなり、積立貯金が廃止される等、提供するサービスは低下した。	利益追求のために、リスクの高い商品を販売するような会社にはなって欲しくない。また、郵便局会社と郵便事業会社が、分かれていることは、契約と履行部分が分離している為、矛盾している。二社は統合すべきだと思う。	既存の商品とは競合しないグローバルネットワークを生かした高齢化社会に適した新しいサービスが提供できれば良い。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
601	東京都	郵政三事業は、国民生活に深く根ざしたものであるという点において、各種行政サービスと全く同種の公共性を有する。このことから郵政三事業は本来、民営化すべき性質のものではなかった。民営分社化は、市場原理主義者の誤った見解に基づく政治的蛮行であり、制度的不合理が齎すサービスダウンはその必然である。また、民営分社化のもうひとつの目論見は、米国の市場開放要求に国民の財産を差し出すことにあるため、関連会社の株式上場は断固として阻止しなければならない。	分社化は、制度的不合理によるサービスダウンを必然化する仕組みであるため、これを見直し三事業一体経営に改めることが必要である。また、関連会社の株式は、その7～8割を政府保有とし、ユニバーサルサービスの保障維持発展を目指すべきである。さらに、利用者サービス向上ひいては地域社会の活性化に寄与する新サービスの充実に向けた会社の抜本的組織改革が必要であると考える。	1980年以降顕著となった「小さな政府」論に基づく規制緩和～民間活力導入と称する各種政策は、国民生活の安定と向上に必要な公共サービスを全て市場原理に委ねるものであり、結果、格差社会と呼ばれる今日の状況をもたらしたといえる。この方向の過ちは、米国発の金融危機の世界的広がりと、米国の経済政策転換により最早明らかである。郵政民営化も、この流れの中でまともな議論なしに小泉政権によって強引にもたらされたものであるから、現行法の廃止を含む抜本的法改正により利用者本位の見直しを行うことが急務である。
602	大阪府	税金を使ってなくって（独立採算制）儲かっていた日本郵政公社を民営化しても麻生総理大臣が「株を売らない」と言うては、なんで民営化したのか？民営化しない方がよかった。小泉元総理大臣の考え方が間違っていたからこんな状況になっているんだと思う。というのも、色々な手数料が高くなって利用しにくくなったからだ。米国に日本の貯金を奪われるのが民営化の結果から明らかだ。	分社化は失敗している。ゆうちょ・かんぽ・郵便・窓口各会社を一つにして再編成しないと三事業を展開する利点がなにもない。新商品の開発や、販売を手がけるためには多角的な商品にしないとダメだから貯金保険物流産地直送の利点を複合的に組み合わせることにより安価でより有利な商品が生まれると思うから、5つの会社を一つにするべき。都市銀行の合併が相次いだことを考えると必然的にくっつけるのが良い。	5つの会社にしたのは、米国等外国資本が参入しやすいようにしようと画策したためと容易に推測できる。これでは日本の財産が脅かされることになる。小泉元総理大臣はどんだけ郵政省を嫌っていたかが伺えるが、個人の気持ちだけで、日本の経済・将来を変な方向に向かわせる訳には行かない。
603	岐阜県	民営化で小泉元首相、竹中元大臣が言っていたようには全然なっていない。だまされたと思う。郵便は 誤配も多く、翌日配達が出来なくなった。ほんのす ぐ隣の県に出すのになぜ3日もかかるのか？貯金も保険も民営化によって国民にメリットがあったのか？まったくない。むしろ悪くなった。民営化によっ て郵便、貯金、保険が崩壊しただけでなく、それを利用する人々の生活、コミュニティーまで崩壊しようとしている。そのことに気付かない政治家、田舎を捨てたひと、都会に住む人、若い人が理解できないでいることに悲しみを感じる。利益を生み出すことがそんなに素晴らしいのか。なぜプラスマイナス0ではいけないのか。働く人々に明るい未来が見えない。	民営化の動きを今すぐ止めるべき。三事業一体に させ経営を安定させる。普通の考える頭のある人な らこの民営化は間違った方向へ行っていることは理解できると思う。 ぜひ、正しい方向へ導いてほしい。本当にこの日本の郵政事業をどうするのが我々国民にとっていいことなのか考えてもらいたい。個人的な偏った考えを改めてもらいたい。	この国に住む一人一人が幸せに暮らせるように心から願います。
604	長野県	民営化とともに郵政事業を四分割にしたことは、各事業の責任の所在が非常にあいまいになってしまっている。 郵便が誤配達されても、郵便局が配達したものではないという。 貯金の件で郵便局に提案しても、ゆうちょ銀行へは簡単にはその提案内容が伝わらないし改善は難しいという。かんぽ生命に関しても同じである。すべての事業が、決定権のない郵便局を通じてサービ スを提供するようになってしまったことに問題がある。民営化前は郵便局が、郵便にしても、郵便貯金や簡易保険にしても責任を持って対応してくれていた。小泉元総理や竹中元大臣が「民営化してサービスが向上する」と言っていたことは、今となっては信じることができない。 高齢者の医療や年金問題にしろ、製造業の非正規雇用社員問題にしろ、今のような生活しづらい世の中に小泉元総理が変えてしまったことを考えると、郵政民営化も、ゆくゆくは我々の生活を苦しくさせることにつながると思わざるを得ない。だまされたという感じでいっぱいである。 国営に戻すことまでは求めないが、四分社化は即刻やめ、元の郵政公社のように郵便・郵便貯金・簡易保険を一体で経営していたような方向に戻すべきである。	株価が下がり、金融不安のこの時期に、郵政株を売り急ぐことはない。郵便局が、郵便・貯金・保険の各商品を、単に取り次 ぎではなく自分の会社の商品として責任を持ったサービスを提供していけるようにすることを期待する。	四分社化は、今までの郵政事業の良かった面を、非常に不都合なものとした。
605	岡山県	分社化による弊害が、散見される。例えば、郵便配達は郵便局会社がやっていると思っていた、誤配達などの苦情の持って行き場がない。客の立場からすれば郵便事業会社の顔が見えない。郵便局で保険に入ったのに、違う会社から電話がかかってきたり、見たことのない人が家に来る。集金も毎月いろんな人が来て信用できない。昔は気軽に話ができたのに、親しみ安さがなくなった。	昔のように郵便局はひとつの会社でやってほしい。都会の論理で物事を押し進め、地方を切り捨てる小泉的考えは捨ててほしい。日本は東京だけで成り立っているのではない。	良い点をあげるとすれば、目新しいサービスが出てきたこと。国営では、ああはできなかっただろう。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
606	三重県	郵便局で局長をしています。郵便局が民営化されて1年が過ぎましたが、働いている人間から見て希望の光が見えてきません。お客さまからも賞賛の声を聞くことがなくなりました。過渡期だからという理由だけではないように思います。民営化とは株主主体への業態変更だと思います。過疎地等田舎に住む人にとってはなくてはならない存在であると思うのですが、そういった郵便局は、ほとんどが赤字で利益優先の民営化された郵便局としては、不要論の理由となりそうなことが予測できます。都市では郵便局がなくとも代替のサービスは受けられると思いますが、郵便局がなくなるとその近隣に住む地域住民が代替サービスを受けられなくなるようになります。(郵便局が廃局となったあと近隣に新しく同じようなサービスを提供する会社が過疎地に出店されるでしょうか。)そういったなくてはならない郵便局は社員がどれだけ頑張っても利益をあげられないでいるのが現状だと思います。利益重視と相反する地域の郵便局が住民から一番必要とされている郵便局なのです。このまま民営化を進めるのが正しい選択であるのか、もう一度よく考えてほしいです。	利用者、働く人間が喜ぶ形態をもう一度、考えなおしてほしい。	ー
607	岐阜県	「郵政民営化をしても、お客さまにとって良いことは何もない」と思っていたが、まさにその通りであった。手続きの複雑化、窓口待ち時間の長さ、郵便物の受け取り、ATMの減少、手数料の値上げ等々、不便なことばかりである。このままでは、利益を追求する会社ゆえ、利益の出ない郵便局は無くなってしまうのではないか。ネットワークは維持し、郵便局数は減らさないと言ってはいるが全く信用できない。	あまり期待はしていない。まずは、株式売却を凍結し、ネットワークの維持を確実なものとし、すべての国民が安心して利用できる郵便局にしてほしい。	ー
608	富山県	(1／4) かの郵政選挙の際、小泉・竹中は郵政事業があたかも税金で運営されているかのような説明を行い、民営化して”小さな政府”になれば三十万人の人件費はもとより、税金まで入ってくると言葉巧みに国民をたぶらかしたが、それは全くのでたらめで、(創業基金の一部に国の金は使われたが、)創業以来税金は一銭も使っていない。これは郵政事業が三事業一体の経営であるがゆえ、三事業がそれぞれ収支相償のバランスの上に経営してきたからに他ならない。それを四分社化して、しかも稼ぎ頭の金融二社の株式を上場しアメリカに売り渡すほど、馬鹿げた話はない。しかし、民営化は現実のものとなり、小泉・竹中の売国政策は国民 には秘密裏に進められようとしている。今になって、郵政三事業の会計の仕組みや経営の成り立ちを知らない人であっても、現実に民営化されたことによる不都合を日常生活の中で身をもって実感し、良くなるといった約束が、ことごとく民営化のための詭弁であり、構造改革という聞こえの良いフレーズとは正反対に、伝統や地域までをも破壊されたことを、多くの人が直接的に体感している。また、民営化の狙いがサービスの向上・利便の向上ではなく、金融二社の株式を売って不足する財政をカバーする目的と、もう一つはアメリカの要求による売国政策の推進にあったことにも、多くの人々が気づきはじめている。そもそも赤字でもなく、税金を投入している訳でもないのになぜ民営化する必要があったのか。四分社された郵政グループの収益はその9割以上を金融二社が稼ぎ出している。この偏った四分社化は、金融二社の株式を上場しアメリカに売り渡すという売国政策に基づいて推し進められたとしか言いようがない。このような売国政策は許す訳にはいかない。	ー	ー

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
		(2／4) 郵便局ネットは単に国内を結ぶネットにとどまらない。郵政事業が全国二万四千の郵便局を結ぶネットワ ークから成り立っていることは極めて大きな意味を持っている。それは、一局一局が日本全国津々浦々の郵便局・地域と連結し、他に類を見ない素晴らしいネットワークであり、これまでの百三十年の歴史が築き上げた国民の財産である。(現に過疎地においては、この郵便局ネットワークがライフラインとしての役割を担っている。)この二万四千の郵便局ネットワークを活用した地域社会への貢献こそが郵政事業にとって重要な使命なのである。しかし、この他に類を見ない貴重なネットワークも市場原理中心の経営になれば、収益の上がらない地域からの撤退は火を見るよりも明らかであり、株式が市場で売却されれば、経営は株主の意向に支配され、重要な使命であるはずの"公共性"は後回しにされ、配当を期待する声が全てに優先されることとなり、儲からない局は当然姿を消すことになってしまう。現状で株式が上場されれば、「かんぽ」、「貯金」は外資の手に落ちることも当然のごとく予想される。それが売国政策を推進する小泉・竹中の狙いだったと公言する自民党幹部もあるそうだから、まずなによりも先に株式の上場にまったをかけなければならない。株が売られたら覆水盆に返らずとなってしまう。郵政三事業は四分社化に分割され、形式上は持株会社の「日本郵政」のもとに統括されているが、四分社が協力協調した一体的な経営とは最初からなっていない。		
		(3／4) グループ全体の利益の9割以上を金融二社が稼ぎ出すという偏った制度設計になっているのである。そしてその金融二社が株式を売り、完全に民営化されると郵便局ネットワークは成り立たなくなり、他に類を見ないこの貴重なネットワーク(国民の財産)は崩壊してしまう。民営化の目的やその経緯・背景が国民の理解とは全くかけ離れたものである以上、民営化そのものをもう一度考え直すべきである。現実的にそれが困難であるなら、少なくとも現行の「株式を売って財政不足をカバーし、アメリカの要求に従って売国政策を進めるため」の民営化法は抜本的に見直しを行い、「サービスの向上・利便性の向上」を目的とする真に国民のための民営化法に修正する必要がある。アメリカ郵政公社の元総裁の話しでは、無体なアメリカの規制緩和により郵便事業がその高波をもろにかぶったという。郵政当局は一年かけて料金改定を実現したが、改定実施日にライバル企業は料金75%引きに出た。このような無理を許す政府の規制緩和政策を許す訳にはいかないと、政府と対立したことで総裁は辞任に追い込まれた。アメリカが国内で失敗したため、もう手の打ちようがなくなったから、日本の門戸をこじ開け、失敗した規制緩和を日本に押し付けようとしていると元総裁は主張し、また、同社の国際郵便部長は、世界に冠たる郵便制度を作り上げた日本が民営化により制度を崩せば、世界の郵便制度の崩壊につながる。		
		(4／4) だから日本に頑張って欲しいと繰り返し力説されたという。早くから公社化されていたアメリカでも、効率化と市場原理では郵便局は成り立たないとの理由から、郵便局の民営化は行わないことが法律で定められている。新自由主義のもと、無謀な規制緩和によってアメ リカ社会がガタガタになり、その波を体験したアメリカ郵政公社は民営化すれば公共サービスという大義を失うばかりか、存在そのものが危なくなるということにアメリカは気づいているのである。ところが、そのアメリカからの民営化要求をそのまま受け入れたのが日本なのである。これは郵政問題だけでない。小泉・竹中政権がアメリカの要求により行った会計制度・保険制度・医療制度等の政策の失敗から生じた地域格差、所得格差等々、国民生活のことごとくにかかわる大問題である。		

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
609	岩手県	郵政民営化すれば全てが良くなると大改革を推進した方々は、現状をどう思われているのでしょうか。自分達が予想したとおりでしょうか。利用者は、サービス等が良くなることに期待したのに、期待が大きかった分、以前のほうが良かったと感じられている人も多くいるのではないでしょうか・・・	民間会社になったことにより、利益を上げなければならないことは当然のことだと理解します。1通の手紙の配達を待っている人、町にある唯一の金融機関・銀行、まさかのために馴染みのある保険会社等、一人で三役をこなしてきた郵便局。利用者は、全ての人たちが、変化を望んでいるのでは無いのでは・・・国営や公社の時代に良かった点は、継続(復活)できないのでしょうか。	歴史を大切にして欲しいです。
610	岩手県	郵便(配達)の事で窓口に行っても会社が違いますからこちらにTELして確認して下さいとの回答がある。以前は丁寧に回答してくれたのに疑問に思う。貯金、保険の手続きも面倒になり時間が掛かり郵便局に出向くのがおっくうになった。	以前は郵便局の窓口で年配の方々が井戸端会議をしている姿が見受けられたが、最近はこのような姿は見受ける事がなくなった。職員も余裕が感じられないし、年配の方々もそれを、感じていると思う。このままでは、地域の郵便局では、なくなってしまう。ずっと、ずっと、地域の郵便局であり続けてほしい。特に田舎では、民営化前の三事業一体の姿が望ましいと 私は、感じている。	ー
611	宮城県	民営化になってからサービスを始め色々良くなると言われてきましたが、郵便局の窓口では民営化前より待ち時間が長くなり、内容も厳しくなり、田舎の方では郵便局は無くなるし、非常に行きずらくなりました。銀行も時間はかかりますが、何かが違うような気がします。職員は、一生懸命態応しているようですが、窓口で一般的なお話も出来ません。昔から庶民の行きやすい郵便局では無くなってきているような気がします。このままでは、郵便局に行く人は減ってきて、近い将来無くなるのではと心配です。良くなるどころか、悪くなる一方です。郵政民営化は、失敗だったと思います。今からでも遅くありません今の郵便局を民営化前に戻すよう考えてください。	これまでの民営化前の、親しみやすい、利用しやすい郵便局、町にはなくてはならない郵便局を、後世まで残すのは民営化を見直すほか無いと思います。絶対に民営化前に戻すべきです。期待する物は、何も出てきません。不安だけです。絶対に民営化前に戻すべきです。	郵政民営化委員会で、本当に国民のためになることは何か一人の考えで無理矢理変えるようなことはしないで下さい。
612	宮城県	すべてが不便になり、民営化の意味が利用者にとって感じられない。	三事業一体の事業経営で利用者に便利な事業運営に戻すべきである。	ー
613	岩手県	金融機関としてはサービスや商品など良くなった部分も感じるし、全体的には無駄な部分が整理され良くなった部分もあると思うが、窓口が確実に減ったため、郵便局の最大の特徴でありメリットであったはずの地域密着性が無くなり、不便さは否なめない。都市部では便利さが増したのかもしれないが、農漁村部では不便さが増し、地域間格差を助長している。	民間ならではのサービスの向上に努めていただきたいということ以外には無し。	民営化されたとしても、公共交通機関、電気、ガスなどと同様に非常に公共性の高い事業(特に郵便事業)であることを念頭に置いて欲しい。NTTのように利益の上がらない事業(公衆電話など)の極端な撤廃などのようなことはするべきではない。
614	宮城県	評価は最悪。民営化は仕方ないし、時代の流れに乗っていると思う。しかし、分社化したのは最大の誤り。先日、不在留置きの郵便を受け取りに〇〇郵便局へ行った。窓口でその旨を話したところ、郵便事業会社の窓口を案内され郵便物を受け取った。引き続き、切手を購入し、前年の書損じの葉書を交換しようとしたら「ここではやっていない。そちらの郵便局会社で、、、、。」同じ郵便事業の商品なのに、客はあっちへ行かされこっちへ行かされ。公社当時は、いつもの窓口ですべて済んでいたのに。理由を聞くと分社化されたため、との事。また、電信為替が廃止されてしまった。これも、ゆうちょ銀行と郵便事業会社に分割されたため。サービスは劣化し、待たされ、ワンストップサービスはどこへやら？とにかく処理する時間がかかり過ぎる。また、ちょっと字が違うだけで訂正を求められるゆうちょ銀行。他の銀行、官公庁の他の届出では、旧字体と新字体は同じとしているのに郵便局だけが特に厳しい。戸籍が正しいと信じている無知。知人に菅原という人がいる。ご両親も姓は当然「菅原」しかし、娘の戸籍は「菅」の草冠が左右に分かれている。このように同一の戸籍謄本上に2つの違う漢字が使われている。戸籍の作成は、昔は担当官が筆で書いていたため、担当者の書き癖が出てしまい、同一の戸籍であっても違う姓になってしまう。こんないい加減な戸籍をさも真性なものと信じている郵便局が幼稚すぎる。もう少し他の銀行を見習い、運用を考えて欲しい。	この不況を乗り切ろうと普通の会社は体力をつけるため、同種企業の合併や、異種企業間の提携合併を進め、メガ企業の誕生などと新聞紙上を賑わしている。なぜ、郵便局は世の中の動きと相反する分社化をしたのでしょうか？全く判りません。せっかくのネットワーク。三事業一体となった事業経営。意味不明です。今後に期待することは「国営に戻す必要なし」「分社化を止め、三事業一体経営とする」「アメリカのための株式上場はせず政府が持つ」	インターネットで配達を受け持っている局(？)の電話番号が出ていない。郵便局は検索できても、配達局はどこか、さっぱりわかりません。なんとかして欲しい。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
615	鹿児島県	これまでの郵政民営化に対する評価について私自身が感じること、町内の知人から聞いたこと等を記述します。 1、正当権利者の確認方法について。自分名義の口座を引き出す際、局長と付き合いもあり互いに知っているにも関わらず、なぜ証明書が必要なのか理解できない。 2、頻繁に事務取扱の変更があるのでは？前回必要だった証明書類等が不要になったり、逆に不要だったものが複数枚必要になったりと、一貫性がないので今後に不信を抱く。 3、とにかく待たされる！簡単な取り扱いのはずなのに、以前の数倍待たされる。社員さんも忙しそうで、今まで日常的にしてきたコミュニ ケーションをとるための会話が邪魔になるようで出来ない。 4、郵便局に行くたびに何か営業をされる。銀行ではそのようなことはない。 5、転居届を東京に申請する？配達郵便局に転居届のことで問い合わせたら、こちらにまだ届かないので分からないとの返事があった。 6、電信為替がなくなったり、定額小為替の料金が10倍にもなったり‥地方に住むものにとって、冠婚葬祭に現金と電報を即日届けることはとても重要なことであるので、以前のようにしてほしい。 7、民営化になったのに貯金等の限度額があるのは、おかしいのでは？	1の改善。高齢化社会の到来、金融不安、不景気等、将来に不安がある中、絶対に安心できる金融機関（郵便局）が必要である。そのためには、ゆうちょ銀行の株式を国が保有する等、これまで通り郵便局と一体とするべきである。	ー
616	東京都	利用者にとってよくなっているとは思えない。サービス低下で不便になった。郵便局での待ち時間の増加や各種の払込料金が大幅に値上げされ、会社が分かれたせいで、電信為替も無くなり、フレーム切手も他のシール式切手と同じなのに切手代よりも高く販売されている。また、大きな郵便局では同じ業務を仕切ひとつ隔ててておこなっており、無駄だと思う。私たちからすれば郵便局はひとつであって、いろいろな会社の集合体のような現状は理解できない。	前と同じように、郵便・貯金・保険と会社が分かれて運営されているより、郵便局として三つの事業を一つにした形で運営し、利用者にとってわかりやすい運営やサービスの提供をすべき。民営化の方法が間違っていると思われ、会社ごとではなく、郵便局として一体 の運営・経営にすべき。	民営分社化では、経営破綻しかねないと思われる。分社化ではなく、JRのように地域ごとの会社にするとか、利用者からみれば、郵便局の商品やサービスは郵便局のものであり、他の会社に問い合わせたり、会社が違うから詳しくわからないことのないようにしてほしい。
617	宮城県	民営化により待ち時間が民営化前より長くなりとても不便になった。民営化は誰のためだったのだろうか。	4分社化は不都合なことばかりで、今の金融不安の中で金融2社が外資へ･･･というようなことになれば町の小さな郵便局は採算がとれず廃止とならざらを得ない。利用者の利便性を考えるのであれば、三事業一体に戻し、安定した健全経営を図っていくべきである。	ー
618	福岡県	郵便局の存在というもの改めて考えてみたい。郵便局の9割以上は小さな郵便局が集まって全国ネットワークを構築し、国民の生活に欠かせない大きなサービスを提供しています。現在は、19年10月に民営分社化され、新たに誕生した郵便局会社の窓口業務の拠点として活動しています。現状を見てみると郵便局の中身が様変わりして煩雑になっています。	誇りが持てない環境になっています。 あまり期待してません。	政治に我々の組織は変えらたのですから、政治による見直しを！
619	福島県	今の状況は、残念ながら目に見えてサービスが悪く集配回数が減ったり誤配が多くなっています、窓口では待つ時間が長くお客様ルームには、それを癒す雑誌等はなくなり、郵便局持ち前の柔軟さや温かさを失い、四分社化された会社間の連携は断たれ、業績は悪化するばかりです、局長も社員もこれではモチベーションが下がってしまうことは、問題だと思います。	四分社化廃止あるいは、郵政民営化廃止して地域を中心とした国民のための郵便局にしてほしい。	ー
620	神奈川県	郵便局利用者にとってメリットがひとつも無くデメリットが多く生じた。 ⑴業務手続煩瑣によるお客さま待ち時間の増大 ⑵定額小為替手数料アップ等による利用者負担増大 ⑶マネーレタックスの廃止による利便性の低下 ⑷集配統合に伴う郵便物の誤配・遅配 ⑸分社化による郵便配達社員の貯金・保険業務の取扱い不可など。 また、簡易局の大量閉鎖等からみて推測できるように、地方部では将来的にゆうちょ銀行・かんぽ生命の株式売却が開始された場合、ユニバーサルサービスが受けられなくなるのではないかとの危惧がある。さらに、郵便局利用者にとって何一つメリットが無いばかりか、社員に対する日常業務の過重な負担からモチベーションも下がっている状況にある。公社時代の経営ビジョンにある「明るい将来展望をもてる働きがいのある公社（会社）」の実現にはほど遠いと言わざるを得ない。	国民全体は廃止された郵便貯金法第1条の「あまねく公平に利用させる」サービスを維持しつつ、郵政民営化による新たなサービスやメリットを求めているところであることから、企業損益ばかりにこだわることなく、CSRに重点を置いた企業経営を心掛けるべきと考える。	民営化は民意だとしても、分社化まですべきではなかった。旧普通局が分社化され、局長が各事業ごとに3人に増えたようなものであり、人件費的に見てもデメリットが多い。また、他の企業の動向としては逆に部署を統合して人件費を削減する方向にあることを考えると、分社化はゆうちょ銀行・かんぽ生命2社の株式売却の思惑のみになされたものであると言わざるを得ない。郵政3事業は一体となっていたからこそ、国民に利便性・安心性を提供できたのであるから、可能な限り統合していく努力をしていくべきである。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
621	千葉県	過疎地を含めた日本全国民の生活上の必要サービスを提供することに郵便局の存在価値を見出していたはずなのに、実際には過疎地切捨てご免（郵便の配達遅延等）など、格差（儲かる所は手厚く、赤字の所は縮小）が広がっているように思える。また、郵便局会社の社員では人員整理で人で不足の中、配送業、銀行業、保険業と民間でさえ行っていない複雑な業務を1つの頭で3通りの思考、判断をもって接客しなければならず、非常に疲弊している。	現在の間違った事業別の分割の仕方では、待ち時間の長時間化や作業量の増加、事業拡大、それに伴う人員不足、各会社間で連携をとりたくても障害となる法律等々、サービスダウン以外の何者でもない郵政民営化。三事業の一体経営として、郵便局で民営化以前のようなサービスを安心して受けられるように改善する必要がある。いたずらな事業拡大や市場原理のみの経営では、大多数を占める過疎地の郵便局ではもともと黒字経営は成り立たない。過疎には過疎のキャパシティがあり、それ以上のものは無い。企業性があれば公共性もある。全ネットワークでの問題としてとらえるべきである。民営のノウハウの無いところで人を減らせ、業績を上げろとの短絡的な思惑から非正規社員が増大したのも今日の雇用不安の一端を担っているのではないか？三事業一体経営として企業性（都市部での収益）をもって公共性（過疎地を含む全国サービス）を確保することが、利用者にとって親しみやすい身近な郵便局を守る事につながるのではないか？	民営化の見直しは構造改革の全否定につながるとの意見もあるが、格差社会の元凶になったのも構造改革であり、本丸と位置づけていても改悪ならば、素直に「失敗」を認め、見直しをするのが政治の務めではないか？
622	岩手県	1全体評価としてサービスは著しく低下した。都市部より農山村俗に言う所の過疎地でのサービス低下が著しく顕著に現れている。 2民営化によるサービスは良くなると言う政府の根拠がわからない。何が民営化よるところのサービス向上に当てはまるか疑問であるし、お客様にとって解りづらい。	1末端の郵便局はあくまで地域密着型郵便局で在るべき姿であって、さまざまなお客様対応に臨機応変に対処ができ、ユニバーサルサービスが提供できる店舗でなければならない。 2基本はお客様サービス。全国あまねく公平にかつ利用者本位の簡便な方法で利用できる仕組みの再構築をする事が条件である。	国民の声を十分分析し、より良い方向で民営化後のサー ビスが計られるようよろしくお願いしたい。
623	神奈川県	民営化はしたものの、利用者にとってのメリットが何もない。働く社員にとってのメリットも無く、何のために民営化したのか全然理解できない。因って、評価できない。	利用者にとってのメリットを明確にして欲しい。三事業一体でないので不便な事が多い。三事業一体に戻して欲しい。	以前より時間が掛かる事が多くなった。もっと簡素化出来ないのか。内部の検査・監査ばかりが多く、自由に営業に時間を取れない。
624	宮城県	郵政民営化後一年が経過し、構造を含め歪みがいたるところで出てきている。当時の小泉首相は、構造改革、行政改革という大きな目標があって、その目玉に郵政民営化を据えた。郵政民営化を現場から見ての功罪についてあげるとするならば、お客さまサービスの低下がある。都市部では手数料が高くなり、本人確認などで待たされるなどのク レーム。特に地方の人はサービスが良くなったと答えた人は一人もいない。グループ内の局では最高の待ち人数が四十人を越えたことがある。あるお客さま曰く、この局は座るどころか立ってる場所もないと・・・。お客さま離れは加速する。	郵政民営化は日本文化の良さを壊している。民営化してしまった事業を元に戻すことは出来ないが分社化した四つの事業体は自分のことだけでなく相互に助け合いの精神を持って行くことが大切だ。特に郵便局会社は常にお客さまと接し、その活動がお客さまを引き付けそれが信頼の拠り所となっている。郵便局が置かれている立場を理解し更なる発展のため取り組むべきです。	経営の効率化を目指すあまり、各所で人員不足の状態がある。全く計画性がない。現場だけにしわ寄せが来る。現在、非正規社員を三名雇用してどうやら業務を回せる状態だ。中長期的視野に立っての社員育成、人員配置をするべきと考えます。
625	広島県	私は、郵便局に勤務し直接お客様に接している者として意見を申し上げます。今、仕事が非常にやりにくいと感じています。それは決定的に準備不足だったということもありますがもう一つに会社が5つに分割されたことに起因していると考えられます。郵便局会社は「郵便局」という器を持っている会社ですが、この実務を行う郵便局が効率的に仕事ができる環境にないのです。想像ですが、実務を受け持っている郵便局会社が委託元である3つの事業会社と調整がつかない、つけられないのです。郵便事業は郵便法、運送法等、ゆうちょは銀行法等、かんぽは保険業法等と全く性質の違う法律に基づいて、3つの違う会社からの委託を、最小が局長1名社員1名、計2名の規模の郵便局で全ての業務が運営できるように調整しなければならないのです。日本郵政の下、郵便局会社はこれら3つの事業会社と同列にあるため受身的な調整を余儀なくされていると想像され、そのしわ寄せは全て現場に及んでいます。それは取りも直さずお客様にしわ寄せが及んでいるのです。現に今郵便局のお客様の数は激減しています。口々に「郵便局は手数料は高くなったし、手続きは銀行、農協と比べて一番面倒になった。」といわれます。お客様によく聞かれます。「民営化になって何か良くなったことはあるの？」本当は私のほうがお客様に聞きたいのです。「国民の皆さんが民営化に賛成したのだけれど、民営化して何か良くなったことがありますか？」	（1／2） ●現在、郵便局という公的サービスは役目が終わったと考えている人も多いと思いますが本当にそうでしょうか。民間金融機関はやはり利益の出る店舗規模、配置基準で営業しています。山間島嶼部はもちろんですが、都市部の周辺地域でも店舗を撤退させている金融機関は多くあります。公共交通機関がある地域ではまだしも、タクシーか自家用車でしか移動できないような地域のお客様は、年金を引き出すにも一定の負担や家族への負担がのしかかるのです。今は自分で運転できる人でもいずれは一人で異動することが困難な年齢になるのです。また業務面でも郵便局は民営化されても公的サービスとしての性質を失うべきでは無いと考えます。それは直接お客様に接していてわかりますが、いくら機械化されようがキャッシュレス化されようが、お客様が社員と直接やりとりして、納得して、安心して利用したいという思いをひしひしと感じるからです。特に高齢の方は、自らの体力、記憶力、理解力が衰えたと感じて非常に不安を抱えている方がとても多いのです。地域社会の齢化が進むということは、自分がいずれそうなると言うことなのです。つまり、そこに郵便局があって、そこにきちんと話を聞いてくれ適切なアドバイスをしてくれる職員が居るという公的なサービスは、これから高齢化が深刻化する時になおさら保障されなければならないサービスだと考えています。 ●今の民営化法には付帯決議に郵便局の配置基準を変えないことが謳われていますが、小泉元首相が公社法に謳われていた「今後民営化は議論しない」という付帯決議を無視したことでもわかるように、あってないようなものです。法律では保障されていないのです。それでは郵便局会社は安定して黒字経営ができ、2兆円の積立金が確保され、郵便局の配置基準を存続させることができるでしょうか。郵政事業の利益を生み出している「ゆうちょ」と「かんぽ」を完全民営して切り離し、赤字体質の郵便事業会社と自前の商品を持たない郵便局会社が残ったとして、どうやって郵便局の配置基準を守っていけるでしょうか。もちろん、「ゆうちょ」と「かんぽ」を残しても、安定した黒字経営は努力なくして実現はできません。しかし、「ゆうちょ」と「かんぽ」を完全民営し切り離してしまったらドイツの二の舞になるのはわかりきっていることではないでしょうか。	この民営化が今成功しているのか、もっと良い民営化にできるのかどうか検証する時間が必要だと考えます。西川社長はできるだけ早い株式上場を実現しようとしています。しかし上場してからでは後戻りできません。急ぐ必要があるのですか。上場はもっと先でもかまわないのです。本当に国民のためになる民営化はどういうものなのかを時間をかけて検証し、間違いのない舵取りを希望します。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
			（2／2） ですから3事業一体経営は、郵便局を存続するための経営努力をしていく重要な条件だと考えています。金融2社を完全民営化してしまっては取り返しがつかないことになってしまうと考えています。 ●実は現在の5分社化は非常に効率が悪いのです。国営時代、郵便、貯金、保険の各部局が独立しており、縦割り行政の弊害で効率が悪い事業形態だと思っていました。民営化されればこの弊害が無くなりもっと効率的に仕事ができると考えていました。しかし、5つの会社に分割民営化されてからは国営時代よりもっと縦割りが進んでしまいました。例えば年賀葉書の販売について、郵便局会社と郵便事業会社は同じお客様を取り合うような競争をしているのです。本当は共同して、いかにお客様の数を増やしていくか、いかにトータルの利用枚数を増やしていくか努力しなくてはならないのに、おのおのの会社が自前の売り上げを伸ばすことのみに専念しているように思われます。貯金では、少人数の郵便局では対応しきれないような業務手順になっていても、現場の意見や実情はなかなか改善に反映されません。郵便局会社と他の事業会社間での調整がつかないのです。私は日本郵政、郵便局会社、郵便事業会社は一つの会社にし経営主導権を持たせ、「ゆうちょ」と「かんぽ」をその子会社とすると今よりははるかに効率的に経営できるのではないかと考えています。郵便局株式会社は窓口での実務を受け持っており、郵便事業とともに郵政事業の公的サービスとしての中心的役割を担っている会社ですから、金融2社の持ち株会社となり主導的立場をとって3事業を一体的に経営すれば、公的サービスという性質を十分残しながら一定の自由度を持った金融部門を効率的に経営できるのではないかと考えています。素人の考えですからどこまで現実味があるのか、効果があるのかはわかりませんがいかがでしょうか。	
626	埼玉県	民営化になって、サービスダウンになった。定額小為替料金が、10円から100円となった。国民生活の事を考えず、小泉・竹中が米国のいいなりになり、日本の文化を破壊した。	以前のように三事業が一体となり、これからの高齢化社会に対応出来るサービスをして頂きたい。	小泉・竹中が「改革、改革」と言い、国民に痛みはしかたない言い続け、小泉・竹中に群がった人間が潤った。その付けが今の状態である。
627	東京都	サービスが悪くなった。なぜなら、各手数料の値上がりが目立つ。ATMでの口座間送金は無料だが、払い込み料金等、とりわけ、定額小為替においては50円のものでも手数料は何と倍の100円がかかる。信じられない。また、他の金融機に比べて職員数が少なすぎるのでないか。そして、民営化前と民営化後とで同じ取り扱いのものでも民営化後の方が時間がかかりすぎる（待たせ過ぎ）時がある。前の方が良かった。	民営化前に戻すか、以前の形態に近づいていくよう見直していくべき。	とにかく以前のほうが良かった。
628	千葉県	会社が、別々になったことにより不便になった。特に、近くの郵便局で休日や時間外に不在郵便物の受け取りや、小包の差出が出来なくなってしまった。又、貯金などの対応が面倒になり、窓口の待ち時間も長くなりサービスの低下になっている。	サービスをもっと良くしてほしい。（利用者の目線で）	―
629	熊本県	民営化することで国民の皆様により良いサービスを提供するといった謳い文句とは裏腹に良好であった郵政サービスを大幅に悪化させ、利用者は不便になっている。市場原理に任せた経営では郵政の目指すユニバーサルサービスは維持できない。	再び良好な郵政サービスを提供してもらいたい。そのためには、三事業一体の経営に戻し、長期的、安定的に郵政サービスが提供できる担保を政府は国民に約束するべきである。	ゆうちょ銀行、かんぽ生命の株式については、郵政事業の安定的ユニバーサルサービスの提供が担保されるまでは、絶対に売却されることが無いようにすべきである。
630	宮城県	集配局が無集配局になったため郵便物をすぐ受け取れない。公務員でなくなった。今まで出来なかった新商品、キャンペーン等の開発はされるが結局はお金持ち相手の企画で、収益につながらないお客さまの切捨て。挙げれば限がない。地域のための郵便局とは言っても、損益を考えると以前のようにあまねく公平にとはいかず、お客さまを選んでしまっている。よって、よくなった事が思い浮かばない。	今まで出来なかった事が出来るようになったとはいっても、ただ他社のまねばかりしていては飽きられてしまう。しかも、まだまだ役所的発想がダサさを感じさせてしまっている。他社にはない郵便局のオリジナル性をアピールし、若者が気軽に足を運びたくなるような郵便局になることを期待します。そのためにも四社一体で。	―

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
631	大阪府	今更、民営化された状態から以前のような状態に戻すことは無理だと思われるが、明治以来「公の精神」を基本に育まれてきた郵政について、もっとその本質を日本国民に周知すべきと考える。営利を目的としない経営形態で全国に隅々まで網羅されたネットワークを活用し日本の国民のため有益な事業展開を図ってきた世界にも希に見る郵政制度は我々日本人が世界に誇れるものと信じる。昨年実施された民営化は郵便局が自分勝手に変わっただけで、利用者にとってはデメリットの部分が増大し、小泉が郵政解散までして行った民営化はまさに国益に反するものである。小泉・竹中によって推進された民営化について2人が述べていたことは、おおよそ現実とはかけ離れたものであり、永々と培われてきた日本の財産とも言うべき郵政の経営形態を破壊しただけで、政治犯罪と呼ぶにふさわしいものである。今後この2人には民営化に対する政治責任について追求してい事を強く望む次第である。	期待できない	現場の責任者である郵便局長の声をもっと反映すべきである！
632	宮城県	A・B・C・D・Eの5段階評価でEランク 1．一つの会社でしていた仕事を郵便事業会社・ゆうちょ銀行・かんぽ生命・郵便局会社にしたために地方の利用者は不便を感じている。 2．利益最優先となり、利益のでない郵便局は10年はなくさないと国会決議されているが、なくなるのではないか。私たちは10年だけ住んでいるのではなく子供・孫の代までこの地域に住む。 3．郵便局に電話すれば、郵便・貯金・保険の用事ができたが、ゆうパックの集荷にこれない、書留を取りに行ってもすぐに受け取れない。 4．貯金の手続きが煩雑で長時間待たされる。 5．保険を利用するときも加入するのに2時間・3時間もかかる。 6．「官から民へ」がすべてではなく、郵便局を利用する私たちは安心して利用できる郵便局を求めている。	ひとつの会社に戻しユニバーサルサービスを徹底してほしい。	株の放出をしないでほしい。
633	岩手県	簡易郵便局などが廃止され全国全地域へのサービス提供崩壊が気がかり。ゆうちょ銀行を利用するが、待たされる事があたり前となった。	従来のユニバーサルサービス提供の堅持。	このままでは、ユニバーサルサービスが提供できるのかが疑問。
634	山口県	以下の理由で評価は、0点である。その原因は、4分社化の体制と考える。 1　お客サービスが著しく低下している。郵便局、郵便、貯金、保険の各会社間の連携がまったくない。持株会社が、機能していない。 例、郵便が遅い。郵便局からの集荷ができない。（自家用車が使用できない）（以前は近くの郵便局が集荷できた）郵便の人に貯金が頼めない。郵便局での手続きが複雑で以前のような郵便局の良さが失われた。共通、管理事務がそれぞれ必要であり、分割ロスが大きい。郵便局に無駄な壁（社員相互の業務応援、連携が不能であり、お客様支援などでサービス低下）郵便局会社の手数料算定基準が不明確で決算が信用できない。特に郵便局会社は、手数料基準を少し変更すれば、意図的に赤字にも黒字にでもできる。このようなビジネスモデルは、経営基盤が弱く将来にわたり生々発展できるとは、思えない。過疎地域のサービスダウンが心配。（集配局再編成、渉外社員再編成など）（将来、不採算地域の金融部門撤退など）同じ商品で会社間の過剰な競争が起こりお客様は迷惑を感じている。（年賀葉書：郵便局と郵便事業会社）（貯金：郵便局とゆうちょ銀行直営店）要員不足で社員のES低下となりお客様サービス低下となっている。（優秀な社員・管理者がグループ内で活用されていない） 2　働き甲斐のある会社づくりができていない。執行役員等幹部が、現場の状況を知らない。郵便局をどのような形にしたいのかビジョンが伝わってこない。（お客様、社員が何を求めているのか聞こうとしない）社員1から2名の郵便局は、金融庁が考えている金融機関の体をなしていないにもかかわらず、同等のレベルを求められ、混乱している。経費、要員問題でも困っている。	郵政民営化は、お客様が郵便局に何を求めているのか、社員が何を求めているのか等検証し、あり方を見直すべきである。過疎地での生活インフラとしての郵便局を期待したい。公共性≧利潤追求が今後の生き方と考える。情報の拠点、安心の拠点、交流の拠点としての位置づけを期待したい。（郵便局の活用）郵便局ネットワークは、国民の財産であり、壊れると再構築不可能。郵便局長の地域貢献により地域振興が図られている現状を認識し、さらに進めることが重要。以上のような期待を実現するためには、次のような見直しが必要と考える。 1　経営の安定の観点から三事業一体の経営とする。 2　ユニバーサルサービスを義務付ける。（郵便、貯金、保険の三事業） 3　安心して働ける会社づくりとして定年制の見直しを早期に行う。（社員及び管理者を対象）（年金支給開始年齢を原則定年とする） 4　グループ会社の体制として、日本郵政（持株会社）は廃止、お客様サービスの源である郵便局株式会社が3事業会社の株式を所有し、コントロールする体制が将来にわたり事業継続可能体制と考える。	なぜ、民営化をしたのか未だに不明。国会での付帯決議はまったく守られていないし、以前よりサービスが悪くなっており、まったく意味のない民営化と考える。金融部門をアメリカのために開放し、株式を売るという国民に対しての背信行為としか考えれない。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
635	新潟県	民営化になると、公務員が減り税金から給与が支払われなくなるので、税金がいかにも安くなるかのTV報道があったが、一切変わらず、何かよい点があったのか疑問。為替料金は高くなるし、配達員に貯金保険の話をしても答えられない。配達は遅くなるし、カタログ・年賀状の勧誘は入れ替わり立ち代り来る、郵便局へ電話しても荷物を取りに来てもらえない。会社が分かれたことはわかるが、内容がさっぱりわからない。メリットもまったく見えない。	元に戻る事を期待する。それ以外ない。株式が公開されれば、株主の経営判断にゆだねられ、過疎地や田舎の郵便局はほとんどなくなってしまうのではないか？農協などもほとんどなくなってきている。今程度の民営化の内容なら、法整備さえすれば、以前でも十分できたと思う。わざわざ非効率にしているとしか考えられない。	国民に民営化したことによる、税制面などの公の公表があったのだろうか、あれだけもめた郵政選挙、ほとんどの方は、変わったことに気づいていないと思う。周知がまったく不足している。配達は郵便局だと思っている。郵便事業会社なんて知らないと思う。
636	岡山県	よかったこと 貯金通帳を貯める通帳、送金用通帳と複数作ることができた。 困ったこと 郵便物ポストの収集回数が減った。郵便局で待たされることが多くなった。郵便局の社員と面識があっても委任状や証明書類がたびたび必要であった。以前は郵便局に何でも頼んでいたが、これは郵便事業会社、それはゆうちょ銀行、あれはかんぽ生命と分かれている ため面倒くさくなった。	今、CMでも放送しているが金融機関同士で送金可能となること。隣町の銀行でしか払い込みできなかったのが郵便局で可能となること。	私の住んでいる町は戸数800程度で、しかも人口減、老齢化をたどっています。以前は公立の幼稚園・保育園もあったのですが、いま公共の施設といえば駐在所、公民館と私立保育園だけになりました。金融機関は郵便局だけで、民間金融機関は以前から儲けの少ないこの地区には進出して来ません。郵便局が民営化されて「このまま残るのか」この点が不安です。ただでも公共投資がされていない辺境の地、凹凸のない歩きやすい路面、エレベーター・エスカレータ ー、医療機関など私の町にはいずれもありません。年をとったら都会（地方都市）かなあ．．．と、考えるこのごろです。
637	山口県	現在の方向で進むなら、早かれ遅かれ倒産する。評価に値しない。	政府が事業運営に関与する、全国どこででも同じサー ビスを受けることができる三事業一体の経営を望む。	株を早期に販売することだけに重点がおかれ、当初の目的とはかけ離れた方向に進んでいる。民営化前の郵便局は、地域の中心的な役割を果たし、地域住民も地域の郵便局として心強く思っていた。以前のサービスはどこに行ったのか。弱いものを切り捨てているように思える。戦前、戦中、戦後と郵便局が果たした役割は計りしれない。そのことを忘れ、目先のことに囚われ、永い歴史を忘れ、公務員の削減を理由に、民営化の旗振りの小泉が一時的な波に乗り、あたかも錦の御旗を取ったようなことを言って、民営化を進めた。心ある人、冷静に考える人は今日になっても民営化に反対している。物事は壊すことは簡単だが、元に戻すことは並大抵ではできない。今後必ず郵便局が必要になる。政府が関与する三事業一体経営を望む。
638	新潟県	「今、不便さを痛感」高齢で荷物を局へ持っていけず、電話をすると局長さん自ら集荷に来てもらっていた。しかし、今は別な局へ電話して集荷に来るのは午後、また何時来てくれるのかも分からない。留守にも出来ず、何とかしてほしい。	ー	ー
639	新潟県	郵便局が民営化になり大変不便になったと感じています。今まで大切な年金が必要になった時は配達に来た職員さんに午前中お願いすれば午後には持ってきていただいた。足の悪い私は今ではタクシー又は近所の人にお願いして局へ行く状態です。会社が違うからとの理由で大変不便に感じています。	ー	ー
640	新潟県	昨年10月1日に郵政民営化がスタートしましたが、その後の郵政事業の状況は目に見えてサービスが悪くなりました。 1　郵便関係は二分化され、配達関係は普通局長の指示によることで小包集荷は今までのように気楽にお願い出来ない。特に老人者には大変困ったと苦情多い。 2　唯一の金融機関だった簡易局が閉鎖や休止になり、不便になった。 3　提出する証明書類が多すぎて高齢者には不便で利用できなくなった。（顔見知りなのにと、トラブルが多くなった。） 4　このままでは特に地方はどんどん不便になってしまいます。以前の三事業一体（郵便・貯金・保険）に戻して信頼とやさしさの郵便局を返してほしいです。	ー	ー
641	新潟県	民営化になってまず感じたことは、嫌だと思いました。局へ入っても皆様そろって声を掛けてくださったのに、郵便の場所が別になり、他人みたいな感じ。宅配より不自由になってしまい、本局まで頼みの電話しなければいけない。大体、無集配局が増えてすごく田舎は困る。挨拶だけは丁寧だけどなかなか親しめない。遠いところ（名古屋）など3日目に付くことが多い。（小包、手紙など）局便りなど無くなったり、2ヶ月に1回になり寂しい。こまめに連絡がなされていたのに絶えてしまった。	元の局のように何でもお願いできる明るい人間関係がほしい。老人だけの家には貯金、年金など一番頼りで大切なものだけにサービスの手立てがなされればいいと思う。	ー

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
642	埼玉県	(1) 窓口関係　お客様への対応は、総じて、良くなっている。(懇切・丁寧)掲示物は、時宜を得た内容のものが掲出されている。(整然)人員配置は、利用者の多い少人数局の人員は、多人数局の人員と比較して少ないのではと感じた。(適正な人員配置) (2) 郵便物の配達関係　従前と比較して、誤配達が極端に減少している。(お客様意識の改善)配達時刻は、従前と比較して遅くなっている。例えば、道路一本の違いで郵便局に近い方は、午前中に配達され、そうでない方は、午後5時以降に配達されることが多い。幹部の方に聞くと、募集しても人が集まらないとのこと。(配達順序の変更・時間給の引き上げ) (3) 貯金・保険関係　営業について、従前と比較して、訪問回数も多くなり、営業の説明もより懇切丁寧になっている。(お客様意識の改善)	(1) 郵便配達従業員の配置について 「郵便事業会社」は、経営が伸び悩んでいるということで、経費の節減の一環して、郵便配達の従業員は、責任者のほかは、時間給の従業員とした方が、その分雇用人数が増やせて、延いては、配達時刻の極端な遅れがなくなると思われる。 (2) 貯金限度額の撤廃について　民営化されたのであるから、銀行と同様に、1,000万円枠を外すべきである。(銀行への流出額は、大きい額になっている。) (3) 四つの事業会社の一体経営について　郵便事業会社の経営は、現状のままで推移していくと、破綻は必然と思われる。「郵便局会社」とも関連するが、一例として、郵便料金一つをとっても、民間のそれは、〇〇の料金は、定形外(A4で厚さ1センチ以内)で、一通80円ということで、急がない場合は、私も、年2～3回利用しています。300通×3回×80円＝72,000円(郵便料金で換算すると定形外120円×900通＝108,000円) 以上の一例からしても、四分社化の見直しが急務であり、早急に検討し四事業会社の一体化経営に本腰を入れる時機に来ていると思われる。 (4)「郵便貯金会社」「郵便保険会社」の持株について　民営化が軌道に乗り、安定経営を確認してから考えるべきことであって、現時点では、売却を凍結するのは当然のことである。	最近の、新聞・テレビ等で、政府関係者から、持株売却の一時凍結とか、民営化の見直し等々が言われている。 全国的には、簡易郵便局の減少過疎地の少人数局の合併とか廃止とかで、本来の、あまねく公平の姿はなくなりつつある。私は、本来民営化ついては、総論賛成、各論反対を持論としていたので、このままの四分社化経営では、先細り必然だと思われる。今こそ、きちっと見直し、全国津々浦々あまねく公平の姿を取り戻さなくてはならない。会社になった以上、従来のように、マスコミ等からの民業圧迫論等々には一切耳を貸さず大胆で斬新な、事業や営業施策を推し進めることが、経営の拡大安定につながっていくことは明確である。
643	山口県	郵政事業は国民の生活を支える基盤であり、全国にあまねく公平にサービスを提供し、山村部農村部過疎地域等のセーフティネットとして機能し、またコミュニティの拠点として地域に密着して安心を与えてきました。民営化後、簡易局等約400局が廃局となり、集配局は統合され無集配となりました。その結果、郵便物の配達は遅延し、レタックスはイベントの開始に間に合わないことが起きています。又、郵便事業会社は配達専門となり、今まで地域の産物をゆうパックとして開拓してきたにもかかわらず集荷を行わず、サービスの低下を生じています。又、集配の際に行ってきた貯金・保険等の業務も分社化の為に取り扱いが出来ず過疎地域の住民、高齢者に対し、不便を生じています。四分社化は見直しが必要です。	郵便局が三事業のサービスの提供のみならず地域のセーフティネットとして機能し、地域のコミュニティの拠点として、農山漁村の活性化、過疎地域の高齢者の生活支援等に寄与されるよう望みます。	簡易保険、郵便貯金の限度額は現行の1000万円は少ないと思われます。郵政事業のユニバーサルサービスの堅持の為に株式は全額政府の持株とし、売却は避けるべきです。
644	鹿児島県	(1)郵便事業について 評価しない 事由 ア書留、小包等配達時、受取人不在の場合受領しにくくなった。一般の局では、窓口で受け取れなくなった。再配達を依頼する場合も当該配達センターではなく、親支店まで電話伸ければならないが、通話が込む場合が多くすぐ繋がらない。 イ配達に対する、苦情意見等があっても、当該配達センターには責任者がおらず親支店に連絡することになるが、支店では状況把握が十分でなく、サービスの低下となっている。 ウ年末始繁忙期等、郵便事業用のバイク(90cc)と貯金保険事業で使用しているバイク(50cc)とを交換して(高校生アルバイトは免許が50cc)いたがこれも出来ず、バイク借り上げ料が多く必要になっている。 エ年末始繁忙期等アルバイト雇用を各配達センターで行うが、これらの配達センターには監督指導者が居ないため、別に経験のある退職者等を雇用するため、この雇用経費が必要となっている。(従前は当該局の局長が監督指導していた。) (2)貯金事業について 評価しない 事由 ア各種料金等が高くなった。 イ郵便貯金自動預払機を撤去される箇所が多くなった。 ク独居老人等が、金を必要とする場合、郵便配達の外務員に依頼出来なくなった。 (3)簡易保険事業について 評価も否定もしない	現状の民営化で期待するものは無い。郵便局を民営化すれば、何でもできる、地方の郵便局でもコンビにも出来るなどと喧伝されたが、現実は、地方の郵便局にコンビニを併設出来るようなスペースは無い。地方の郵便局でコンビニが設置された箇所はどれほどだろうか。	郵便事業会社と郵便局会社は統合し、郵便局会社(郵便物の運送・配達を含む)とするよう提案します。 郵便事業会社と郵便局会社に分けるメリットは何も無い。 統合することによるメリット (1)配達時受取人不在等の書留・小包等の受け取りが当該局で出来るし再配達の申し出も当該局あてで済む。 (2)配達当該局への意見苦情等も、居住地の局の局長で対処するため、きめ細かいサービスができる。 (3)年末始繁忙期における、アルバイトの指導監督も当該配達局の局長が行い別に経費は不要となる。 (4)年末始繁忙期の車両借上げ経費も、交換使用するため経費が少なくてすむ。 (5)独居老人等が金を必要とする場合、郵便配達員にも依頼出来る。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
645	千葉県	・もともと郵便局の存在価値は、過疎地を含め全国至る所においても生活上の必要な一定レベルのサービスを提供することにある。 ・この度の郵政の民営分社化により、今までのサービスは向上するどころか逆にサービスの低下が著しい。 ・民営化以降、取扱手数料も上がり、窓口の事務処理も面倒になり、待ち時間もかなり増えた。 ・別々の会社になったことで、今までのように一人の外務員に郵便貯金、保険を一緒に頼めなくなった。 ・書留郵便や小包の不在通知を受け、郵便局の窓口に行っても、事業会社とは別の会社と言うことで、すぐに受け取れないし、土日の休みに郵便局に行っても閉まっていて、受け取ることが出来ない。 ・特に、田舎に暮らす者にとって、郵便局のサービス低下が著しく、老後の生活に不安が増すばかりである。	・過疎地を含め全国至る所で、民営化以前のような郵便、貯金、保険三事業の一体的サービスを安心して受けられるように改善して欲しい。 ・更には、生活関連の各種サービスも加えた総合的生活関連拠点として、地域住民の拠り所になってもらいたい。	・今後、少子高齢化が一段と進む中で、全国どこでも安心して一定レベルの生活が営めるように基盤を整備することは必要であり、国民生活の基本的インフラとして築かれた郵便局のネットワークを維持発展させ、ユニバーサルサービスを維持すること必要不可欠である。
646	新潟県	・民営化になって直ちに郵便振替料金が上がったのはマイナス評価。 ・今までの比較的簡便な手続きで郵便局の会議室等利用できたのに、使用できなくなった。地域交流の場が無くなった。 ・配達時間が午前中だったのが、夕方（6時以降）のときがある。 ・郵貯会館が廃止となり、会議や催物ができなくなった。	・郵便窓口、集配、貯金、保険の事業を一体化し、相互の経営努力とムダを排し、経営の効率化を図ってもらいたい。 ・民営といっても、今まで郵便局が地域に対して貢献してきた事柄を続けてもらいたい。具体的には都市部における道路、河川等の非常時通報。過疎地における高齢者訪問、年金の配達等の実施。	ー
647	新潟県	1　窓口の取扱いが複雑になったせいか以前より時間が掛かっている。 2　取り扱いによっては今までは1枚であった用紙が3枚も記入しなければならないものがあって利用者としては不便になった。 3　用紙類が全て変更になり、今までの用紙は全て窓口から撤去されたが、全国的には甚大なムダを生じたと思われる。 4　定額小為替を購入したが、種類が少なくなり、しかも1枚の料金が驚くほど高額になった。今後はもう使えないと思う。 5　職員数がいつ行っても少なくなり、窓口がいつも混みあっている。 6　外出したついでに今まで使っていたATM（局外設置）が無くなった。その場から歩いて郵便局まで行かなければならなかった。	民営化したら様々なサービスが受けられるとの事だったが、一向にその気配が無い。この分ではあまり期待できそうに無い。	ー
648	東京都	以前よりよくなるとさかんにTVで言っていたが、どこが変わったのか、良くなったところが見えない。	ー	郵便貯金、簡保を利用している。株式会社になり、将来は全ての株式を売却してしまうと聞いたが、それはやめてもらいたい。個人の財産を安心して預けられる機関であって貰いたい。以前と同じ安心がほしいと願っている。
649	千葉県	19年10月1日～今日に至るまでの経過機関、制度改正、改善等のマニュアルの変更等、改善改善の波が押し寄せ、部内の民営化移行の度合いが高く感じられ、利用者のお客さまへのサービスの向上へ十分結び付けられているとは現実にはそのようには思われないような気がしてなりません。	郵政民営化への期待としまして、何よりもお客さまが利用しやすい郵便局を第一に考え、民営化することにより、国民一人一人が今まで以上に郵便局を拠点としたユニバーサルサービスの更なる向上、誰もが簡便に利用が出来る郵便局が全国の至る所ににおいて地域の方々に満足いただけるような郵便局作りを目指していただきたいと思っております。	利用者が一番。郵便局を利用する手段は今までの内容の様に三事業が一体となっている郵便局のあり方が一番望ましいと強く感じられます。
650	長野県	郵政民営化論者は、民営化すれば今よりずっと良くなると主張してきた。民間の持つ活力で、郵便局は利用者にとってもっと使いやすくなると宣伝されたけど、民間になっても使いやすくなっていない。むしろ郵便局の待ち時間は長くなり、郵便の受け取りは不便になるなど利用者にも不便を強いてきている。これでは郵便局の機能が発揮されない。民営化しても一つも良くならない。最近ではJAが撤収してしまい、このまま推移すると、運転免許証の無い年寄りだけが取り残され、年金を下ろす郵便局までなくなってしまいそうで、とても不安な毎日です。郵便局を廃止に追い込む郵政民営化法には絶対に反対します。	ー	ー

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
651	千葉県	私は、郵政民営化について「評価しない」。 評価しない理由は、次のとおりである。 ① 郵便局の局舎に2つの会社が入っている。(間仕切り等により会社を区別しているのが異様な雰囲気に感じる) ②「民営化によってサービスがよくなる」といっていたが、サービスダウンしている。 ・待ち時間が長くなった ・時間外の窓口が減少した ・各種証明書等の提出を求められることが多くなった ・郵便等の配達の際に貯金や保険の頼みを聞いてもらえなくなった ③ 郵便物の問合せ等をどこに問い合わせてよいかわからなくなった。 ④ 同じ年賀葉書を販売するのに、二つの会社(郵便局会社・郵便事業会社)から営業に来るのでどちらの会社で買ってよいか迷ってしまう。 ⑤ 振替や小為替等の手数料が値上がりし、使いにくくなった。	① 株式の売却を凍結してほしい ② 民営・分社化を見直し三事業一体の経営に戻すべきである ③ ユニバーサルサービスの義務付けを必ずしてもらいたい ④ 地方の郵便局を切り捨てるようなことは絶対ないようにしてもらいたい ⑤ 市町村との協力体制を図り、証明書等の発行事務を積極的に進めてほしい ⑥ 国民の財産でもある郵便局が、健全な経営ができるよう改善してもらいたい	今まで蓄積してきた郵便局の安心・信頼・期待が保たれるように法令・法案等の見直しを期待している。
652	鹿児島県	郵政民営化になって良かったと思う点は郵便局の窓口や職員の応対が更に良くなったことです。このことは応対の資格審査があると聞いている。ただし、これはサービス全体の話ではない。窓口の待ち時間がも早くなったとは言えず、郵便の配達時間も午前とか午後になったりで一定していない。民営化になって、危惧の面が多いようだ。四つの会社に分社化されたことにより、郵便、貯金、保険、郵便局の横の連携、意思疎通がスムーズに行かず、縦の組織系統が顕在しすぎている。特に三事業を扱う郵便局は仕事がやり難いようだ。郵便局の幹部や職員と話しても、何か元気がいまひとつで将来に不安を持っているように思われる。 私の住んでいる行政地域内に空港があり、簡易局が設置されていたが、民営化後に閉鎖され、何ヶ月も続いた。全国で400局もの簡易局が一時閉鎖されたと聞いている。地方にあっては、郵便局は日常生活に欠かせない機関であって、このような現象が今後とも起きると、これは地方の切り捨てであり、許されるものでない。 外国でもゆうちょ銀行、かんぽ生命保険が郵便局へ義務付けられていないことから、それらを手放したニュージーランド、ドイツでは郵便局の7～8割が閉鎖になったといわれている。もちろん、ユニバーサルサービスも確保出来ない。	日本郵政グループ全体の中間純利益2224億円のうち、金融二社の純利益が1748億円と8割近くを占めている。二社の従業員数は全体の7%の1万6千人で、全体の40%の従業員を締める郵便事業会社は赤字決算である。1年間の郵便事業の純利益は当初見込みより23%少なく、郵便局会社は36%も少なかった。金融二社頼みのグループであることが浮き彫りにされた。郵政民営化法には参議院で15項目の附帯決議がなされ、その第4項に「民営化委員会が行う三年毎の見直し」があり、「必要があれば経営形態のあり方を含めた総合的な見直しをおこなうこと」と書かれている。 郵政民営化後の実態を見ていると分社化に最大の問題点があると考える。政府は郵便事業会社と郵便局会社の統合を考えているようだが、地域の皆さんが安心して郵便・貯金・保険のサービスを受けることができる郵便局を守るためには、日本郵政グループとしての三事業一体の経営が求められている。	ー
653	新潟県	昨年10月1日に民営化され、1年が経過しましたが、地方に住む市民としては今までのサービスを低下させないとのことでしたが、以下の不便を痛感します。 (1)郵便の配達時間が夕方の5時過ぎに限定され、各種通知案内が日時に遅れる場合がある。 (2)保険の即時払いが出来ず、大変不便である。 (3)年金等が集配、貯保の外務員から届けてもらえなくて、相当の距離を時間を掛けて、支払いに行かなくてはならない。 (4)小包の集荷がしてもらえなくて不便(特に田舎に住む老人)である。	(1)高齢者、過疎地に住む一人住まいの市民にとって安心、信頼できる身近な郵便局としてのユニバーサルサービスの提供と市町村代行機関として各種証明書の交付が可能なシステムを構築していただきたい。 (2)三事業一体の経営で過疎地の郵便局が存立する法律を願います。 (3)一つの窓口で同じサービスがうけあっれるように改正する。(年賀状の販売で、時間帯によって品切れ、在庫あり等不満であった。)	アメリカへの要求による民営化では、20年・30年後の歴史の批判に耐えられなくなる心配がある。歴史に名を残す民営化を願います。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
654	千葉県	郵政民営･分社化から早1年が経過し、当初ユニバーサルサービスは変えず今よりサービスが良くなり、利用者の利便性も良くなるをかかげスタートしました。しかしながら、スタートしてみると、業務取扱の煩雑化とともにお客様の待ち時間が長いなど、苦情等不満の声が聞かれ、窓口フロントラインでの混乱が大で有りました。尚かつ、郵便においては配達が遅くなったとの声が聞かれ、集配センター併設局では、郵便事業会社あての集荷･再配達依頼の電話また誤配等の苦情や問い合わせ電話が多く、子機を持っていき取り次いでいる現状です。昔から地域になれ親しまれてきた郵便局は、地域の皆さんから見たら民営･分社化になっても郵便局一つと思っているとの声が聞かれ、窓口に電話すれば全て対応してくれるとお客さまは理解されています。営業面での競合が見られ、お客さまはどこで買っても(年賀はがきの予約)同じでしょ、との声を聞きます。今後、フロントラインサイドから見ると、業務の簡素化と共に郵便局会社･郵便事業会社との統合し、地域に根ざした郵便局は一つにと考えます。渉外配置局･非配置局間での業務取扱及び検査監査に相違点があり、営業目標に関しても格差が見られる、両方経験したなかで感じ統一改善が欲しい。長年、培ってきた三事業一体でのユニバーサルサービスを再度見直し、窓口業務･事務処理の緩和により、管理者･社員のモチベーションを上げる必要があると思う。	―	―
655	群馬県	前回の衆議院選挙で小泉さんは、民営化すればサービスが良くなると繰り返し主張されていました。国民の大半が小泉さんに騙されたとおもっています。私の知り合いで、サービスが良くなったと感じている人は一人もおりません。小泉さんは引退、竹中さんもさっさと辞めてしまい、無責任甚だしい。日本中を滅茶苦茶にしただけです。小泉ブームはもう醒めました。	―	―
656	京都府	サービスは低下させないとの総理大臣の約束は守られていない。地域に親しまれてきた郵便局の印象が無くなり、私たち利用者にとっては利用しづらく、不便となった。郵便について、もっとも不便に思うことは、時間外に利用したくても20kmも離れた郵便局まで出向かなければならず、事実上利用できなくなった。田舎ではどこも同じ状況と思う。貯金や保険では窓口での手続きが煩雑で時間がかかるようになった。また、郵便配達の方に用件を依頼出来なくなったことも不便に思う。全銀システムの振込サービス導入については評価する。	期待というよりも、田舎に住む者の不安を解消してもらいたい。田舎の郵便局は、どこも採算が取れず赤字との事。民間企業であれば採算が取れなければ、いずれ閉鎖される方向に向かうのではないかとの不安を持っている。農協の廃止、バス路線の廃止等、田舎のライフラインがどんどん失われていく中にあって、民間企業としての良いところは採り入れつつ、採算の取れない地方の郵便局が存続していく仕組みづくりを早急に確立してもらいたい。このままでは、田舎に人が住まず、限界集落が急増、地方の崩壊を招きます。今でも、高齢者にとっては年では考えられないほどの厳しい条件化での生活強いられています。国の政策として、最低限のセーフティネットとしての郵便局の存続をお願いしたい。	―
657	三重県	民営化後、郵便局の業務が銀行法、金融庁所管の関係で、あらゆる手法が変更となり、煩雑な取り扱いを強いられているようである。特に、今までは簡易的な取り扱いでお客さまに支援されていたものが、お客さまの情報取り扱いを慎重にするあまり、お客さまにご迷惑を掛けたVで、顧客満足の低下が著しくなっていると思う。	郵便局のユニバーサルサービスを基本に、地域による温度差を生じさせないように利用者は期待する。	―
658	千葉県	"あなたの町の郵便局"とはほど程くなてしまったと感じる。簡便であったものが利用者の事がないがしろにされている。四分社化そのものがうまくいっていないと思う。	民営化されたものは元にはもどらないが、郵便局株式会社と郵便事業会社は一つの会社とし、(局の建物自体が一つなのだからその方が利用者にも理解しやすい。)国民が安心してずっと利用出来るように、株は国が保有すべきと思う。他の外国においても株は国が保有しているし、通信は国の要であるので･･･。平和な今の時代は大事がおこるとは考えられないが、しかし、それらの事もふまえておくべきと思う。	―

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
659	宮城県	創業以来営々と築きあげて来た従来の郵政三事業、郵便局仕事の社会的任務貢献姿勢はどこに行ってしまったのでしょうか。 明治の新しい日本国建国、日本国生成発展、日本国民生活向上に資して来た、正にそのシンボルとも言うべき郵政郵便局事業は、民営化立法成立と同時に消えうせてしまった感がする。端的に表現すると、いわゆる日本的社会構造まで変わってしまった感がする。とりわけ地域の発展の一翼を担って来た郵便局の仕事、一部都市部を除いた大方の地域においての郵便局は、その地域社会形成のシンボル的存在であった。もとより、職員意識形成が長い長い時間を要してようやく到達した地域密着意識なのではあったが。今は、これら従来郵便局、郵便局に課せられていたものが、民営化の当然の帰結として消滅させられて来ていることを、今地域住民として実感しているところである。良き日本社会全体の過疎化を象徴している現象をここに見る。良い評価が与えられる何ものもない。	12月8日朝日新聞社説「民営郵政－改革阻む政治と経営陣」には驚きました。郵政見直し論は改革の後退であるという。小泉自民党大勝させた民意、改革の原点をみつめなければならないという論点である。民営化、改革、効率化という一見耳に聞こえが良い言辞を弄して、小泉は民意を得たことで結果して来た。郵政事業をご破算にして出発させようとの目論見であった。そういうマスコミもこぞって、その改革なるものを指示したものである。さて、今、日本の社会経済政治状況を見るとき、地方は、老いた者は、身体の不自由な者は、いくら努力してもどうしても環境を変えれない者は、日常生活上途方に暮れている。全ての日本国に住む者の当然の権利として、平等公平公正に、あらゆる社会的サービスを受けなければならない。国は、先ずもって、いわゆる弱者といわれる人々の生活向上発展の機関とならなければならない。少なくとも、これまでの日本的社会思想においては、このことがあったのである。が、昨今の世情は、改革、効率、規制緩和・・・・の名のもとに、国が担うべき公的分野を消滅させようとしている。結論的に申せば、郵政の民営事業（郵便局事業）は公的分野を堅持して、日本の社会が培ってきた人のつながり、地域のつながり、地域社会の発展を社是として進んでもらいたい。	ー
660	長野県	評価は出来ない。【理由】 ・手続が複雑化し、特に本人確認及び保険のお客さまに記入していただく書類が多すぎお客さまが敬遠し、お客さまが減少した。 ・郵便関係の苦情が、局会社にダイレクトに来局又は電話をしてくるので、郵便事業会社の支店の電話番号をご案内すると二重手間とお叱りを受けている。 ・土.日曜日及び祝日のゆうパック等の引受けが出来なくなり(事業会社は無人になる時間がほとんどである。)、宅配便に流れていっている。 ・正規取扱いの確認と称し、カメラによる監視により、社員等の会社への不信感の増幅。 ・住民票の郵送のパンフレット等の撤去など、地域への貢献に対する施策が絶たれてしまい、今までの良好な関係が崩れはじめている。 ・いろいろな施策を通して、管理者及び社員を本社はまったく信用しておらず、モチベーションを下げてしまう。	・現段階の本社の姿勢では、期待は全くしていない。 ・民営化前の集配の再編成は、住民の皆様に身近な郵便局ではなくなった等問題点が多くあったにもかかわらず、再び渉外局の再編を考えているようですが、住民サービスの低下は目に見えており、絶対に反対である	ー
661	長野県	① 民営化してもサービスの低下はない。と断言していたが、人口10万人のわが町の近くの簡易郵便局が閉鎖され、遠くの本局まで行かなくてはならなくなり大変なサービス低下ではないか。 ② 小為替という便利な送金手段が廃止された。サービス低下である。民営化で便利に、良くなったことはなにもない。国民の選択の失敗だった。	民営化での期待すべきことは、「郵貯限度額の撤廃」くらいだ。 3事業一体の経営と運営で国民の期待にこたえるべきだ。そして以前のようなきめ細かなサービスの提供をしてほしい。	日本郵政株式会社2社の株式を公開すべきではない。アメリカ資本にのっとられてしまわないか。 政治とは、日の当たらないところに日を当てるようにすることではないか。地方切捨てしないで、温かみのある政治を期待したい。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
662	宮城県	ー	先日あるお客様から郵便についてのクレームをいただいた。支店併設局に問い合わせをしたら郵便事業会社にまわされ、いわゆる「たらいまわし」をされるうちに問い合わせ内容本件よりも、その対応に立腹しての申告となった。これは「民営化」の弊害なのであろうか。確かに民営化でお客様に今まで以上のご迷惑をおかけしているものは多分にある。しかし、民営化されたことは現実であり、今現在も進行している中で私たちもお客様も郵便局に携わっている。今回のクレームも、民営化で不便をおかけしている代表的な例だと思うが、クレームにまで発展させたのは「民営化」という現実ではなく私たち社員の対応であり、それ次第によってはクレームにはならなかった事例かもしれない。どんなに非合理的な民営化で、どんなにお客様にご迷惑をおかけしている現状であっても、それが今の現実である。お客様にご不便を感じさせないよう業務運行にあたることも、民営化見直し運動を行うのと同じくらい私たちには大切な仕事ではないだろうか。今のこの現実も真筆に受け止め、真にお客様の立場にたった対応やCSを心がけていないと、いざもし民営化が見直された時に、システムサービスが良くなってもCSは何も変わらない、民営化見直しされようがされまいが関係ない、という意見が国民からでてきてもおかしくない。民営化見直しに全力投球することはもちろんだが、何もかも民営化のせいにしていないだろうか。確かにお客様がご不便を感じれば「民営化は失敗だった」と思ってくれるかもしれない。しかしその前に郵便局からも離れていくことを忘れてはいけない。	ー
663	宮城県	4分社化によりサービスの低下を招いている。	郵政株式処分の凍結と金融サービスのユニバーサル義務化	各会社を統合し一体経営することを希望します。
664	愛知県	これまでのところ、民営化に伴い、郵政事業全体を通して、利用者が目に見える成果を享受できるほどの変化をしていないため、評価の材料に乏しいのが実態である。簡易郵便局が閉鎖になり不便になったといったニュースが時たま報道機関に流されるが、ごく一部の地域のしかも限られた内容のサービスであるため、大多数の国民・利用者には、あまり関心がないこと、4事業会社に分割されたことに伴う奇妙な取り扱いに戸惑うこともあるが、一度体験すれば慣れてしまうことであり、これら些細な事象で民営化を評価する材料にはならない。最大のメリットとしての関心事・料金引き下げが全く行われていないことは失望である。民間からの参入に厳しい障壁を設けたことにより、民営化メリットは封殺された。シビルミニマムとしてのユニバーサルサービスを確保するためには止むを得ないという見解であるが、経営体をほとんどなぶらずに、高コスト体質を温存したままでは、コストダウン(料金値下げ)は不可能である。中間管理機関(旧地方郵政局・監察局等)、特定郵便局制度(民営化後はそう呼ばなくなったが)の改廃等が不可欠であるが、最近は、政局の思惑も絡み、旧態に戻ろうとする動きがみられるのは、誠の残念である。国民利用者から、民営化を評価されるため、経営体の思い切ったスリム化をすすめ料金引き下げと、サービスの向上に努め、あらたてめて国民利用者の評価を待ちたい。	ー	ー
665	長野県	最大の問題は、国税を使わず全国津々浦々の地域で三事業一体で国民の利便のために奉仕してきた郵政事業を、分割して民営化した愚かさであります。今は、異業種であっても企業合併をして効率化を図る時代、全く相反することを断行したわけで、当時の為政者の勉強不足と、改革、改革、官から民への単一用語でマスコミと共に国民を欺いたことが、現在の経営状況を見ても歴然であり最悪の事態になっています。私の評価は最悪の一語であります。	○当面、3年ごとの見直しに当たっては、郵政事業の現場を熟知した有識者を交え、真に国民の(過疎地も含む)利便に供する、三事業のユニバーサルサービスを確保していただきたい。 ○ 郵貯・簡保の株式処分は、遠からず米国のハゲタカファンドの餌食になるだけです。郵貯・簡保の大部分の財産は、民営化以前に利用者がこつこつ蓄えたお金であります。この資金を食い物にされてはたまりません。 本気で国民のために、民営化の見直しをするなら、先ずは参議院で既に可決している「株式処分凍結法案」の成立に全力を挙げるよう期待します	年賀はがきの印刷について、最近のチラシによると、申し込みと同時にはがきを購入しなくては受け付けないとのこと。事前に年賀はがきを購入したお客は対象外。このような扱いは上部における、ある印刷業者との談合でなければよいのですが。年賀はがきの購入者はみな郵便局の上等なお客です、もっとお客の立場に立つべきです。民営化されてから上層部には「してやる」でなく「させてもらう」意識が不足していると思います。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
666	岐阜県	地方の一郵便局長として意見を提出します。 民営化するとき小泉総理は、「郵便局はもっと便利になってよくなる、職員ももっと夢や希望が持てる。」と約束していましたが、何一つ約束は、守られていません。 民営・分社化から1年が経過しましたが、手続きの煩雑化、グループ各社間の連携不足(対立)、モチベーションの低下、利用者サービスの低下等々、郵便局の現場は混乱が治まりません。 民営・分社化後、新しい業務、新しい制度が一方的に次から次へと分厚いマニュアルとともに送り届けられます。手続きの煩雑化は、現場の局長や社員の業務負担を増やし、お客さまの待ち時間は長くなり、さらに必要性を疑うような書類の提出要請など多大なご迷惑をおかけしています。 グループ各社の連携にも問題が多々あります。たとえば年賀状の販売を郵便局と郵便事業会社とが販売所まで巻き込んで、お客様を奪い合いトラブルにまで発展するという、お客様には戸惑うことはあってもとても理解できない現象が、昨年と同様今年もやはりおきています。 郵便局の渉外社員が集金先で、お年寄りから頼まれてはがきを1枚お預かりすれば、コンプライアンス違反で問責を受けます。お預かりできない理由をいくら説明しても、お年寄りには、不親切な郵便局員が醜い言い訳をしているとしか思われないかもしれません。 そもそも、三事業一体化でこそ効率的な運営が行われ、地域におおきな貢献が可能だった郵政事業を、民営・分社化する必要は何もなかったと思います。 郵政民営・分社化は、利用者からの要望ではなく、小泉政権の改革の名の下に、国民の大切な伝統ある財産をただ破壊しただけと思います。	ー	ー
667	愛知県	鳴り物入りで進められた郵政民営化ですが、実際にスタートしてみて、これほど想定との格差の大きな改革(改悪)は、なかったと思われます。 十分な検討とビジョンがないままのスタートは、一部の強引な為政者に翻弄された結果であり、「誠に残念」と言わざるを得ません。 民営化前の郵便局員は、本当に良く頑張っていたし、効率的・効果的運営が図られていたと思われます。しかし、民営化と同時に利用者への「しわ寄せ」が始まり、窓口処理に長い待ち時間を要するサービスダウン、地方切り捨ての窓口機関の閉鎖又は休止、同じ郵便局建物内の間仕切り使用に伴う不便さ、分社化に伴う非効率化等々、一体何のための民営化・分社化であったのか疑問でなりません。 郵政事業は、人力依存度が極めて高く、また、全国津々浦々にあまねく公平にサービス提供をする事が本来の姿では、ないでしょうか。その為には、郵政三事業のタテ割りによる分社化・民営化を見直して、三事業一体運営の再構築,または、少なくとも郵便局会社と郵便事業会社が合併し一つの会社として、運営出来る形に改める必要があるものと思われます。 従って、一年が経過した郵政民営化は、「評価出来ない。」と言わざるを得ません。 もっと、地方の実態・現場の実態を十分に観察して頂き、利用者の生の声を十分、反映させた郵政事業として頂きますよう、是非ご検討下さい。	ー	ー
668	岩手県	民営化ありき、が優先し具体的営業販売労務に民営の、ノウハウがないためただお題目を唱えていた、感があった。	品位の高い営業販売を目指し単なる儲け主義の民営化に反対する。	営業販売部門のみ民営化し貯金保険及び管理統括部門を官営とし国民が安心して預託運営できるシステムの構築に改善されたい。 なお、今の郵貯、かんぽ、とも預金、払い戻し満期返戻など非常に面倒になったとの苦情がいっぱいでている。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
669	岐阜県	(1/2) 国民に対する政府公約として、民営化すれば、サービスがこれよりもよくなるとし、紙芝居まで演じ民営化後はバラ色の世界があるがごとき風潮を作り上げ、民営化に「イエス」か「ノー」かで迫った選挙結果、平成19年10月1日明治時代から国の機関として、全国各地で愛され親しまれ地域密着した郵便局が民営化され1年経過した結果がどうであったか、以下述べることとします。 ①サービス面の低下 ・特に小為替の手数料が高くなり、利用しにくくなった。 ・利便性観点から郵便局以外に設置され便利であったATMが突如として撤去され、非常に不便になった。 ・民営化前より窓口での手続き書類が多く又複雑になり、なおかつ待ち時間が非常に長くなった。 ・郵便の配達時間が遅くなった。 ・郵便の外務員に貯金、保険も頼めたがそれができなくなり不便になった。 ・最寄の郵便局に集荷依頼ができなくなり不便になった。 以上のように、政府公約とは違ったサービス面での低下が現れているのが実態である。	ー	ー
		(2/2) ②ユニバーサルサービスの確保 ・郵便にはユニバーサルサービス義務が民営化法に定められている。 ・貯金、保険の金融面にはユニバーサルサービス義務が民営化法に定められていない。 以上のように金融面にはユニバーサルサービス義務が民営化法に定められていないため、貯金、保険の株が売却された場合、金融を扱わない郵便局ができ、利用者は不利益を被ることとなる、金融サービスにもユニバーサルサービス義務を法で定める必要がある。 上記に述べた① ・②の実態、不安がある現状での民営化は成功とは言えない、特に郵政事業の培ってきた地域での信頼等は長い歴史のなかでできたものであり、利用者もその関係を望んでいる。 都市部・山間部・離島を問わず全国でサービス提供する郵便局を利用者が望んでおり、そのためにも郵便・貯金・保険を一体で行う法定化が急務であると考えます。		
670	岐阜県	近代産業の創生期に、日本は「教育」「鉄道」「郵便」を先行整備しました。そして銀行制度を整えて信用創造を行う一方、郵便貯金制度を広めて子供のお年玉まで貯金をさせ、国内資本を蓄えることで、近代産業の育成を図りました。国策としての「郵便局の誕生と発展」です。その後も戦後の復興資金に、また、新幹線、高速道路の建設のためにと、郵便局は国策として存在してきました。その大きな役割が終わったことによる民営化でしょうか。しかし、一方では社会保障制度として存在してきたことも事実です。どこでも利用することが出来る郵便局、どんな小額でも預けられる郵便貯金と。日本の現状はどうでしょう。誰もが望むわけではない「貯蓄から投資へ」というキャッチコピーが氾濫し、世界一多いコンビニと自動販売機は、「買い物の無言化」と「地域商店の衰退」を生み、公共事業費の削減や請負事業の談合禁止は事業者数を激減させ、東京に集中している全国マスコミの地域軽視の論調と。いづれも日本という国の社会的分断を生みかねない状況です。中央と地方、富める者とそうでない者等、日本の未来図をしっかり画いてからの民営化が正しい選択ではなかったかと思っています。	ー	ー
671	岐阜県	民営化によりサービスがよくなると公約されていたが実際には田舎の局が閉鎖されたり、局員数が減ってサービスが悪くなっている。局員の仕事が複雑になったのか応対も悪くなり待ち時間が長くなって不便となってきた。民営化前のように職員にも働きがいのある職場にもどしてほしい。	ー	ー

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
672	宮城県	簡易郵便局の一時閉鎖どころか廃局となる恐れが出てきています。廃局となった理由は、民営化になって、仕事をしていくうえで、以前よりもいろいろと縛りが多くなったために事務処理の量が多くなり大変なためとも耳にしています。 そのようなことから、老齢化している局では、交代要員を確保仕様にも、成り手が出てこない状況に成っているようだ。当地域でも2局が廃局(過疎地域だけではない)となやも知れない現状です。サービス低下は、既成の事実であることを厳しく受け止め、サービス低下と成らないための改善策をとっていただきたい。	ー	ー
673	岐阜県	「郵政民営化」の賛否を国民に問うた本人、すなわち小泉元総理すら、自らの責任をとる前に議員を辞職し雲隠れしようとしているこの「郵政民営化」は、世紀の大失敗と言わざるをえない。 1 これまでの郵政民営化に対する評価 サービスが良くなると聞いていたが、どこが、何が良くなったのか。良くなった部分が見えない。 (1)貯金をするにしても、保険をするにしても、従前の民間会社以上に煩雑になった。住まいも、顔も知っているのに、自分をお金が出すのに証明書が必要だ。 (2)郵便局の人に、郵便、貯金、保険と何でも一人の人にお願いできたのに、会社が違うのでできないと断られる。本当に不便だ。一人で済んでいたのに、何人にも頼むということは、他人事ながら人件費の無駄使いと思う。 (3)前は、小包をすぐに取に来てくれたのに、民営後は、なかなか来てくれない。 (4)振替の料金や為替の料金が上がった。振り込む金額以上に手数料を取られることがある。 (5)郵便が届くのが遅くなったし、配達の時間も遅くなった。大体、翌日に届いていたのに、今は2日はかかる。 (6)一つの商品を会社が違うからと言うことで、何人もから頼まれる。特に年賀葉書がそうである。 (7)訳のわからない内容の郵便物が、関連の会社からいろいろ送られてくる。内容が理解できない。出しているという責任逃れとしか思えない。そこらの怪しい会社と同じである。	現行のままでは、何も期待できない。益々不便になるだけで、ひょっとしたら、この地域の唯一の金融機関である郵便局が無くなってしまう恐れが有る。民営化前に戻すことを期待した。悪くても、郵便局が無くならないようにするために、郵便・貯金・保険を別の会社で経営するのではなく、一つの会社でやって欲しい。そうすれば、一人の郵便局の人に、何でも頼んでもやってもらえるようになる。過疎化が進む地域において、銀行、生保会社の代理店もない、農協(JA)の支店すら統廃合され、ATMが平日稼動するだけという現状である。そんな地域において郵便局までもが撤退とならないようにして欲しい。郵便局の存在は、他の民間の会社とは有り様が違うと思う。郵便局が将来的に、民営化前のサービス水準で、いつまでも存続して欲しい。	ー
674	鹿児島県	郵政民営・分社化から1年が経過し「サービスのダウンは行わない・郵便局はなくならない・郵便局でも色々なことができる・社員にとっても希望の持てる職場となる」と言ってスタートしたが過重な業務負担で現場壊滅寸前である。一日の局長の業務内容をスケジュール化した「郵便局長マネジメント必携」を朝から晩までそのとおりにしたら、一日中IDカードを肌身離さず持って机にずっとへばりついていなければならない。基本的な事は必要だと思うが現実には無理であり現場の実態を本社は理解していない。地域に密着した現場力が大事とよく言われるが、一日中郵便局にいなければならないようなことが「コンプライアンスマニュアル」「犯罪防止マニュアル」など細かい内部処理を押し付けられ、地域活動等局長が営業する時間がとれない。したがって自ずと実績は上がらない。民営・分社化前は地域行事に参加したり、地域の役員をしたりして来たが、郵便局と地域との良き信頼関係が希薄化しては会社にとっては大きなマイナスとなるし郵便局と地域との共同体も築かれない。また、分社化されたことにより、それぞれの委託元会社との連携もうまくいっておらず、色々な施策等を実施する際にも委託元の許可が必要なため、実施までにかなりの時間を要するし現場におりてくる予算があまりにも少なすぎる。また現場にとって重要な案件を郵便局会社の支社に問い合わせても委託元会社の判断だと言われ納得のいく回答も得られない。日頃の業務の中においても支社・本社の営業方針が短期間のうちにころころ変わりすぎて現場はついていけないし、中間組織の機能がうまく発揮されず、現場、の局長任せのところが多すぎる。また、お客さまにとっても窓口での手続きにかなりの時間がかかるようになり、電信為替や年金配達の廃止、定額小為替の料金については民営化前と比べると10倍になるなど各種料金の値上げ等によりお客さまサービスダウンとなった。このような事から郵便局の利用者も大変少なくなり社員にとっても大変働きづらい会社になった。	ー	ー
675	群馬県	利用者として民営化となり特に大きな支障は出ていないが時間外窓口の取扱いを行う郵便局が減ったため、遠方まで郵便物を取りにいかなければならなくなり、不便さを感じている。	郵便局は利用者の利用があってこそ成り立つので、今後も常に利用者の視点から民営化問題を考えることを要望します。	ー

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
676	福岡県	(1)分社化で貯金・保険のユニバーサルサービスが確保できなくなっている。 (2)分社化で郵便局窓口での相互応援の機能がなくなり窓口での待ち時間が長くなっている。待たされる時間が長くて腹立たしくなる。 (3)簡易局での運営(採算取れず)ができなくなり閉鎖する局が出てきて不便になっている。 (4)夜間取扱い窓口の取扱時間が短くなり不便となった。 (5)従来の全国翌日配達の原則がくずれ局によって異なるが何時迄に差し出さないと明日の配達にはならないことになった。	分社化を取止め郵便、貯金、保険の三事業一体による効率的な運営を図ること。	ー
677	福島県	ー	ー	<サービス水準の維持について>現在、地方に居を構え、郵便局を利用してきた者として、郵便局会社と郵便事業会社に分離されたことにより大変不便をきたしています。特に、利用者の都合(もちろん、職員在勤中ですが)で利用していた「夜間窓口」が利用できなくなった点。本当に戸惑っています。三年毎に見直しをすることになっている様ですから、この機会に是非、郵便局会社と郵便事業会社の合併を考えて欲しい、と思います。
678	埼玉県	ー	ー	民営化までは、貯金をするといろいろな品物を局情に応じて購入し、お客さまにあげることができた。今は物品を買う予算もなく与えられたものを少しづつあげるだけ。こんな小さな事でもお客さまは離れてしまう。
679	東京都	弊害ばかりで、有益なことがない。最も大きな弊害は分割したことで、社員はもとより、お客さまに多大な迷惑をおかけしている。	郵便事業会社と郵便局会社は一体で経営して行くべきだと思う。	ゆうちょ銀行は、直営店を減少又はなくす。※郵便局の局舎から出て別の場所へ移すべき。
680	群馬県	小泉･竹中の国民的詐欺により実施された郵政民営化。郵便局に勤務している私にとって、郵政選挙時の異常さは今思っても異常でした。一番感じたのは、メディアが小泉の改革路線は○、反対意見は抵抗勢力と評して×。公社のままで良いという意見は悪でありという意見を流し続け、世論を操作してしまった。選挙によって郵政民営化法案の中身を知らない議員を大勢作りだし、悪法を成立してしまった。このために現場では民営化準備と民営化後の混乱によってお客さまは激減して現在も公社時の勢いはありません。民営化になってから郵便局株式会社は損益に対して多くの要求があり、現在私の局はマイナスが続いております。民営化によってお客さまが減ってマイナスを攻められてもという思いもあります。手数料も上がり、お客さまにしてみれば郵便局をあえて利用しなくても済んでしまう構図をこちらから作ってしまったのではないかと。私のいる駅前の郵便局だけだからでしょうか?山間僻地の郵便局はこのままでは死滅するでしょう。信金や農協がそうであったように。小泉･竹中がやった規制緩和は地方に住み人に対して、東京に住みなさいと行っているようなものです。それで良いのでしょうか?現在、この歪みが出始めております。この歪みが出始めたとき、小泉は政界からいなくなります。放り投げて。竹中はもっとひどく民営化法案が成立したとたん全てを放り投げて逃げてしまいました。「アメリカさん私はやりましたよ」 と言いながら。現場の4分社化で良いところは1つもありません。ただ、1つだけ良かったところをあげろとと言われれば、ゆうちょ銀行の人がいっておりました。年賀状の時期に郵便課の応援に行かなくて良くなった。年賀はがきを売らなくて良くなった。お歳暮ゆうパックを買わなくて良くなった。だそうです。マイナスのことばっかりです。	小泉が壊して逃げてしまった負の遺産を、困難でも元に戻す努力をしなくてはならないでしょう。4社を元に戻し、お客さまが今までのように利用しやすい郵便局に戻し、働く私たちが働きがいのある職場に戻し地方の郵便局も都会の郵便局もあまねく公平にお客さまにご利用いただける郵便局作りを行っていかなければならないと考えます。 そのためには、何も分からない国会議員から、国民のために汗をかく国会議員を送り出さなくてはならない、これに尽きます。	ー
681	新潟県	不便になった。	民営化以前のように、地域に密着した郵便になってほしい。	ー

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
682	岐阜県	民営化になって早いもので1年を過ぎたものの、お客さまは4分社化の構造を理解されている方は非常に少なく、戸惑いと不安がサービスが悪くなったと感じ信頼を無くしている気がします。特に地方では長い歴史の中で地元の局員が配達や集金等の業務をこなし個々の家に立ち寄り地域の方に声掛けをしながら信頼関係を築いていたものが崩れてしまった気がします。私の局は昨年の3月に集配局の再編により旧無集配局となり前段で述べたことをもろに実感しています。特に窓口に来れないお年寄りの方にとっては外務員がいない局になったことは非常に不便なことになってしまいました。又、郵便(配達)関係についてはお客さまに説明しても仕組みを理解される方は特に少なく誤配や不在留置の配達要望等がいまだに電話が掛かってくる状態です。お客さまから見れば「何故同じ郵便局なのに、なににしろ難しいことばかり言うのか?」と思っている方が本当に多く、郵便局を利用されるお客さまが少なくなってきたことを実感しています。営業の会社としてこの局を存続していくのは地域の方の信頼関係が非常に大切なことは言うまでもないが、一度、離れたお客さまを取り戻すのは大変なことであり、これからのことを考えると非常に不安です。	ー	ー
683	岩手県	利用者として民営化のメリット実感なし。手続の複雑さだけを感じる(他金融機関よりも)。	郵便については同一建物内にあって会社間の競合により利用者に不信感を抱かせている。郵便事業会社と郵便局会社を統合すべきであり、今後の見直しを期待する。	集配局だけでも土、日の窓口(郵便)業務を復活させて欲しい。
684	山口県	民営化当初に多少の混乱はあったがおおむね順調に移行できたように思う。しかし、全体的に民営化にしたにもかかわらず、より官僚主義になり郵便局と利用者の距離が遠くなってきた。民営化前の規制をそのままにして、新たな規制を増やし郵便局を利用しづらくしているように思える。	先行き不透明な世の中になってきた今日、郵便局に求められるのはやはり昔ながらの安心、安全でありセーフティネットとしての役割です。特に高齢化社会においては歩いて行ける距離に郵便局があることが重要だと思います。今後とも、地域の拠点としてあり続けて欲しいと思います。	民営化論議の中で、なぜ4つの事業会社に分割する必要があったのかが示されていない。今一度、国民に納得できる説明をして欲しい。
685	青森県	ー	そもそも「郵政事業民営化」が必要だったのか。聞けば郵政省は国営事業の中で唯一税金を使わない(一部税金を使う部門があるそうですが)役所だそうです。現状は、採算重視で過疎地切捨ての方向が見えております。今からでも真に国民のための郵便局を目指した見直しを切に希望するものです。	ー
686	青森県	そもそも「郵政事業民営化」は間違いだったと言える。税金を使わない独立採算制を維持し健全経営をしてきた。単に国家公務員を削減するためだったのか。現状のサービスを直視すればどうか。間仕切りはする、待ち時間は長い、手続が面倒だ、又料金が高くなったetcです。これからでも、真に利用者のための郵便局にする見直しを切望します。	ー	ー
687	福岡県	評価は出来ない。郵政民営化によって、今までのサービスが低下することはないと、国民の国民の意見を無視して、強引に強行した。その結果、多くの弊害がみられる、その幾つかを列挙し早急に改善し国民のための郵便局にされたい。 (1)窓口の待ち時間が長くなった(人員削減による) (2)配達業務の廃止、時間外窓口の廃止 (3)過疎地の郵便局の廃止 特に復活されたいのは過疎地での郵便局が果たしてきた身体障害者・お年寄りの年金受け取り等々、地域貢献をしてきた郵政事業を理解されていない。 小泉さんは「郵便局が減ることは無い」と明言した。 (4)総合担務の廃止 待ち時間の増加の最大の要因である (5)郵便局外務員 過疎地での外務員が、高齢者の一人暮らし家庭に一声かけるなど田舎での光明をさしていたものを取り上げた (6)料金の値上 定嶺小為替、普通為替について値上された。値上の理由が理解出来ない。 (7)郵便差出ポストの取り集め回数の減少 1日、5回取り集めから、3回に減少されたため、翌日配達の原則が破られ、午前中に差し出さなければ、ポストの中で1日眠ることとなる。	(1)郵便局会社と郵便事業会社を合併すること (2)窓口事務の改善 以前の総合担務制に戻すことでお客様が利用しやすく待ち時間の減少となる ☆民営化前の郵便局に戻すことが第1 私共高齢者の拠りどころである郵便局。近くにあり、気軽に利用できる郵便局にするためには、国民の意見を良く聞くと共に職員の意見を十分取り入れ民営化されて良かったと言う声を聞かせて欲しい。	ー
688	茨城県	国民の利益を無視した改悪そのものである。	現状を見直し早急に抜本的改善を行う必要がある。	現場の職員は、やる気も希望もなくしている者が多い。このままでは事業の存続が危ない。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
689	千葉県	*郵便、ユーパックに関して不在のため後から受け取りに行くのに、局が遠くなり不便を感じる。 *ユーパックは他の会社とは違い、規制が少なく(箱の上にもう一つ縛り乗せてもOK 等)が良い。 *窓口に関して、丁寧にはなったが今ひとつ伝わってこない部分がある。(職員にまだ余裕がないため?) *今までよりも混雑時の待ち時間が長くなった。 * 事務処理に関し融通がきかなくなって不便を感じていますがそれに対しての利用者への気配りを(納得のいく説明と温かい一言)を望みます。	*大きな決断をし民営化に踏み切り、それにより失うもの得るもの‥‥それは討議され尽くしてのことであり、専門的なことはわかりませんが、私達はその巨大な組織の存続そして安全・安心を与えてくれる経営を期待し願うだけです。	* 進捗状況を総合的に見直した結果を利用する私達に提供してほしい。(おおまかなところ利用する者が直接関わっている部分だけでも‥‥)
690	千葉県	郵政民営化前は「民営化によって創意工夫が発揮されサービスが向上する」と宣伝されたが、実際に民営化されて良くなったことは一つもない。	民営化により映画のチケットなどが郵便局で購入できるようになったが、それよりも今までどおりの郵政三事業のサービスが提供されることの方が大事である。	郵政民営化法では、郵便局会社、郵便事業会社の二社と、ゆうちょ銀行とかんぽ生命の金融二社の将来について明確に区別している。郵便局会社と郵便事業会社は今後も日本郵政の100%子会社のままであるが、ゆうちょ銀行とかんぽ生命の株式は10年以内に全株式を売却することが義務付けられている。そもそも郵政民営化がアメリカの対日構造改革要望書によって推し進められたことは明白であり、アメリカだけでなくロシアや中東の新興国などもゆうちょ銀行とかんぽ生命の株式取得を希望している。もし、こういう国に株式を買い占められたら利益の出ない地域の郵便局に業務委託をする訳がなく、不採算地域から郵便局は撤退させられることは間違いないであろう。ゆうちょ銀行とかんぽ生命は日本国の財産であり他国に売り払うようなことは断じてあってはならない。そのためには郵政株式凍結法案を1日も早く国会で成立させなければならない。
691	埼玉県	政府が叫んできた構造改革、その中でも最終的には国会で否決、国会解散、総選挙を行なってまでしてやっと実現のメドが立った郵政民営化は、昨年10月から動き始めて1年を径過しました。この間、自宅周辺郵便局における民営化の動きをどう感じたかを申し上げ、評価意見をのべることします。当地では、数年前に信用金庫が移転して以来、金融機関は郵便局のみとなったため、年金受領をはじめ種々の業務取扱いが増え、繋忙度が高まりました。そして制度改革を前提とするためか取扱手続が複雑となり、来客も増えて待時間が多くなったことは想像以上になりました。事業民営化により、「親切、丁寧」をモットーとする係員の姿勢には拍手を惜しみませんが、店舗の業務保全にこだわり過ぎる態度が目立つのは、再考すべきです。体験した例では、郵便貯金を利用する場合、その貯金が団体のものとして利用する場合、その団体名は文字数が長くてもそのまま字数を使用し、代表者名を付記して利用することとなりますが、団体の取扱いには、団体組成の規約を提出しなければ団体としての預金をしてくれない。したがって、団体では、団体の略称を規約に定めて利用できるよう簡素化を考えて提出したのです。にもかかわらず、局側が団体名の略称を認めないため、団体規約条文の是非をめくるやりとりに発展しました。この例は、処理を急ぐため団体が局側の言い分どおりに訂正して決着した形になりましたが、条理を無視した局側の対応は問題であると指摘せざるを得ません。この一例をもって評価することは難しいが、民営化以前の事業運営と比較すると各業務の機械化、簡素化が促進され、正確性、迅速性が格段に向上したことは喜びにたえません。しかし、反面では、 1. 四分社化したため、それぞれの会社の連携にヒビが入った。 2.郵便部門の収支が懸念され、郵貯銀行、かんぽ保険の資金量減少も問題である。 3.事務処理に関する時間がかかりすぎるようになった。 4.都市、地方間の格差が拡大し、国民への業務サービスが偏在化している。 等々、由々しき課題が山積しているように思えてなりません。	郵政事業を四分化する等一連の組織改革、事業運営の改善等をしこスタートし、一年を経過しての事業収支は、郵便及び保険部門に憂慮すべき結果が発表され、その現況に驚いています。国会では、民営化推進上、事業運営についての附帯決議をして成立させたが、施行過程では郵便局数、集配区域の統合等国民の期待に反する問題を残し、郵貯銀行等会社株券の売却方式実現も視野に入れようこすること等を思うと何か不思議な遠望深慮があるような動きに悩まされています。民営化以前に郵政三事業が一体化の中で企業的に運営され、国民への等しいサービスの提供に努力してきたことは、国民の多くが認めてきたところであり、民営化の進行により郵政事業の基本的理念が埋没することを恐れるものです。	ー
692	群馬県	変更点、、改正点が多い。 国民の多くの方は、郵政民営化とは、どういうことなのか理解していない。 郵便事業会社の支店と集配センターの関係。 不在配達の連絡をどうして遠くの支店まで連絡しなければならないのか。同じ建物のなかに別会社。電気代、ガス代、水道代はどうするのか。三事業一体であれば無駄なことがない。	三事業一体的な経営。お客さまの利便性を重視。株式売却は不安。	全国ネットワークを維持する必要があり、過疎地にあっては採算性を考えないサービスも必要と考える。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
693	福島県	(1)プラスの効果なし。(理由)規制緩和＝効率化＝正義の図式で郵政選挙の反省必要。人間性重視の状況がかいま見られる。ただ私は郵政民営化を否定するものではない。 (2)従って今後に不安。	(1)職員の士気 (2)組織間の問題:早急に検討してはどうか。 (理由)親戚の者(郵便局員)の話では、局内バラバラの感で将来の展望がないこと、かつ、郵便の仕事、窓口の仕事と果たして会計的にどうか。しかし、私は永年の伝統と庶民に親しまれた「〒」マークは消えないと思う。将来に期待しています。	ー
694	静岡県	料金の値上げ、新たな商品(物販関係、第三分野関係)の販売等、利益を追求するのは民間企業からしてみれば当然のことだが、郵便局を利用されるお客さまにとって今のところ何のメリットも無い。物販関係(チケット、DVD etc.)についてはほとんど押し売りの感があり、大きな比重で局長、社員が購入している。郵便局長、社員は一生懸命自社製品を販売しようとしているが、お客さまは必要としていない。(ニーズに合っていない)	地域に生かされている郵便局というものを今一度思い起こし、お客さまのためになる、ニーズにあった商品販売を期待したい。民営化といえども組織が大きいだけに、そう簡単に事は運べないと思うが、一般庶民の期待している限度額の撤廃等々、経営の自由度を確保しながら民営化を考えていかなければ、規制緩和とのバランスが崩れ、将来の見通しが非常に不安である。	今年の年賀販売に象徴されるように、内部の形態はボロボロである。「予約した年賀がなぜないんだ。」「ものが無いのに予約する意味があるのか。」等々、各局お客さまから頂いたご意見は1件2件ではない。その度に局長がお詫びを申し上げた。これは正しく現場ではどうにもならない問題であり、上層部の失態である。その失態を棚に上げ、「今までのことを議論してもしようがない。これからどうするんだ。」と販売推進の遅れた原因を一切言わせない。こんなやり方で内部統制などできるはずがない。上層部の経営責任として総辞職をお願いしたい。現場はかなり怒っている
695	群馬県	民営化を進めた人たちはそれをすることによって郵便局は自由にのびのび仕事ができるし国民にとっても利便性が向上するとプロパガンダしていた。2005年8月8日、小泉首相は衆議院の郵政民営化解散を受け、こう言った。「なぜ、三十八万人の公務員じゃなければ、この郵便局のサービスは展開できないんでしょうか。私は郵便局は国民の資産だと思っている、過疎地でもなくなりませんよと、今の三事業のサービスは過疎地においても、地方においても維持されつつ、民間人に任せても十分できますよということを言っているんです。そういうことから、今回、私は本当に国民に聞いてみたいと思います。本当に郵政民営化は必要ないのかと。公務員の方が民間人よりも公共的な大事な仕事をするのかと。私はそうじゃないと思います。民間人でもどんどん公共的な仕事をできるものならやってもらいたいと思っております。」･･･現在の郵便局のサービス低下はだれの目にもわかる程顕在化しており、また過疎地、地方において、ネットワークをいつまで維持できるのか、･･というか、もう既に一部は崩れてきている。まだ、1年しか経っていないのに、である。この短い期間の中の「民営化現象」はこれから起こる黙示録の単なる序章か。心配性、ペシミストの被害妄想か。「約四百年前、ガリレオ･ガリレイは、天動説の中で地球は動くという地動説を発表して有罪判決を受けました。そのときガリレオは、それでも地球は動くと言ったそうです。私は、今、国会で、郵政民営化は必要ないという結論を出されましたけれども、もう一度国民に聞いてみたいと思います。本当に郵便局の仕事は国家公務員でなければできないのかと。民間人ではやってはいけないのか。これができないで、どんな公務員削減ができるんでしょうか。どういう行政改革ができるんでしょうか」と･･･わずか3年経過した今、現在の状況を検証してみると、ガリレオは。「抵抗勢力」であり「民営化反対＝抵抗勢力」つを異端視、迫害した小泉氏が当時のカトリック教会ではないのか。また、郵政民営化法案が衆議院で可決されたにもかかわらず、参議院で否決され廃案になったことを理由に、小泉内閣は衆院を解散までしたのであったが、ここまで偏執狂的なことをする意義はあったのか?現在、何か評価できる事があるのか?あえて探すとすると、唯一、全銀ネットへの接続によって国民利用者の利便性が向上した、ということか?負の評価の方がはるかに凌駕している。	「改革なくして成長なし」･･･「改革(?)しても成長なし」現在の日本の経済状況等みてもわかるとおり、この改革によって良くなったことがあるのか?このような時代だからこそ、国民にとってセーフティネットを無くしてしまったことへの不安のほうがはるかに大きいのではないか。一日も早く(傷の浅いうちに)元の状態に戻さないと手遅れになり「国民の資産」が失われてしまうことになってしまう。ほぼ1年の「民営化実験」によって「過ち」、「失敗」は実証されたのであるからガリレオになるためには「天動説(民営化)」は過ちと認め改めるべきである。早く「地動説」に戻していただきたい。ローマ教皇庁ならびにカトリックが正式に天動説を放棄し、地動説を承認したのは、1992年の事である。ガリレオの死から359年が経過していたのである。	ー
696	大阪府	ー	ー	民営化後一年経っても郵便ヘルプデスクや支社業務指導部への電話がつながりにくい。本当に聞きたいときに聞けない状態が続いている。
697	岐阜県	郵便局窓口において手続のこともあり待ち時間がながくなった。農山村の人口の少ない地域は郵便局外務社員に、貯金、保険業務についての依頼ができず不便。	全国いたるところで国民が等しく利用出来る郵便事業、それと同じく生活にかかせない金融の貯金・保険一体となった経営をすること。	人口の少ない地域においては郵便局の利用者が多くない為単局では経営が困難であり、郵便、貯金、保険3事業一体となった全国運営が望ましい。
698	埼玉県	評価するところは、どこにもない。	ー	・郵便では翌日配達が崩れ、期待できなくなっている。 ・地域に愛される郵便局という精神が薄くなっている。
699	群馬県	小泉さんと竹中さんは「改革はイタミを伴う。イタミを伴うから改革だ」と声高に叫んでおりました。でも現実は、格差社会が拡大しました。イタミを感じているのは高齢者と地方の人ばかりです。日本の良さは失われつつあります。是非、民営化を見直していただきたいと思います。よろしくお願いします。	ー	ー
700	東京都	・郵便局で待ち時間が長くなった。 ・いろいろな手続がめんどうになった。 ・民営化によってどこが、何が良くなったのか不明。	・郵便局のグローバルサービスの継続を確実に行って欲しい。 ・郵便局のネットワークは国民の財産。これを失ってはいけない。	ー

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
701	群馬県	郵政民営化のお手本としたニュージーランドやドイツでは、ペイしないつまり利益が出ない郵便局（全体の7～8割）は閉鎖されたそうです。我が国でもこのまま推移すれば同じような状況になってしまうのではないかととても心配です。田舎では、郵便局は単に郵便・貯金・保険だけではなく、心のふれあい場であり、心のオアシスです。また、リーマンブラザーズ、AIG、シティバンクなどのニュースに触れるたびに、日本の郵便貯金、簡易保険の重要性を再認識します。農村では農協も統廃合しており、郵便局こそが日本の社会生活の基盤です。利益のみ追求する民営化はヤメて下さい。弱いものイジメはヤメて下さい。日本国を外国に売り渡すのはヤメて下さい。このままでは、子々孫々がバカをみるだけです。民営化は必ず歴史が断罪します。	ー	ー
702	宮城県	会社が別になったことにより、様々な問い合わせについて何かと問い合わせづらくなっている。	三事業一体でやっていかねば、本当に国民の期待する成果は出せないのではないか？三事業の一体化を望む。	無理に民営化をおし進めたしっぺ返しがこれまでも出ているが、これからも表面化していくと思われる。国民の本当の利便性を求めていくのであれば、三事業一体で経営をおしすすめるべきと考える。
703	愛媛県	私たちの住む〇〇県は、平成の市町村大合併により70市町村が一挙に20市町に再編されました。合併後、最も顕著に現れたのは、ひとつは行政の効率化であり、今ひとつはそれに関連して住民へのサービスが徐々に薄くなってきていることです。したがって、住民の暮らしは利便性が薄れ、あらゆる分野で採算性優先の行政対応が目立ちつつあります。郵政事業に関わっていくつか指摘してみます。 イ)12市町村が1市に統合されたり、山間辺地や島嶼部の多い地域の合併もあり、そのような地域では、何よりも簡易郵便局の廃止について、地域住民の不満の声が多く出されています。委託についても、スムーズになされているとはいえません。 ロ)さらに、このような地域は、高齢化がどんどん進む実情にあります。郵便局と自治体との話し合いにより、「ふれあい郵便」が大変高齢者や体の不自由な方の暮らしを支えてきていましたが、この事業も段々困難になり、高齢者へのサービス低下の声がよく聞かれます。 ハ)都市部の大きな郵便局は分社化が進み、郵政事業の一体的サービスが低下し、郵便局と住民の距離が段々薄れつつあることから、利用者の不安と不満の声が聞かれます。窓口での貯金ほか金融事務について、身元確認の厳格化、番号札によって順次事務処理される仕組みで待ち時間が長すぎるなどの点で、利用者に不満の声が高く感じます。 ニ)本県では、上記のことを補完する立場から、「ローソン」に郵便局窓口機能(切手・ハガキの販売など)を併設し、ポストを設置し、業務を執り行なっている所もあります。しかしそれには、違和感のみならず、郵便事業にいささか不便さを訴える声も聞きます。 ホ)民営化以前にはなかった郵便の遅配、誤配、差戻しが増えていること、加えて各種手数料も増額となっていることなどに、不安・不満の声を聞きます。	(1) 郵政事業の持つ公共性から、採算性優先の事業経営ではなく、特に郵便や金融のネットワーク、ユニバーサルサービスの回復を期待します。 (2) 自治体との連携を強め、「ふれあい郵便」に見られるような地域住民の暮らしを高めるコミュニティ推進に可能な限りのサービスの配慮がほしい。 (3) 私たちはかねてより要望していたことですが、貯金・簡易保険の資金等の運用について、自治体の公益的事業に融資ができる制度を充実させることにより、積極的に地域づくりに貢献してほしい。 (4) 非正規職員の正規化ならびに待遇改善、勤務条件の適正化を図ってほしい。 (5) すでに、評価、住民の意見の一部を述べました。それは郵便局が地域における生活のあらゆる分野において、必要かつ不可欠なものであり、学校、公民館、農漁協などと同じ役割を担ってきた所以です。しかし、郵政民営化法の施行以来、徐々に従来の機能を低下させ、それが長い歴史と伝統によって築き上げてきた地域のライフラインを崩壊しつつあります。それはさらに辺地を過疎化させ、都市と農漁村、埠域内におけるいろいろな格差を生みだしています。したがって、三事業の一体的経営の必要性をあらためて認識し、期待しています。 (6) 創意ある事業運営を進めるための研修を設けてほしい。	私は21世紀の郵政事業は、「地域住民の地域住民による地域住民のための地域づくり」という国民的課題に沿って、あらゆる分野の出発点としなければならないと思います。 その立場から、郵政民営化法の施行から来年3月で3年目の見直し時期を迎えます。郵政事業は地域における郵便局を中心にした事業でした。言うまでもなく、それは極めて高い公共性・公益性を有し、地域における生活・文化はもとより、産業・経済の基盤を成すものであり、住民による「自治」の創造に不可欠な公的事業であります。さらに維持・発展させねばなりません。少子高齢化、環境・エネルギーの問題をはじめ、特に以前にまして地域福祉に貢献する事業運営の展開が求められています。なお、三事業のネットワークとユニバーサルサービスの維持・発展のためには、三事業の一体的経営が必要です。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
704	千葉県	(1)民営化とはどんな合理化をしても採算のとれない。事務所を切り捨てる結果となる。もともと郵便局の存在価値は過疎地を含め日本全国の住み心地を良くするために生活上の必要サービスを提供することであろう。この存在意義に照らして切り捨てご免の民営化は全くなじまない。その観点からの不都合が至るところに生じているように感ぜられる。 (2)サービスダウンが激しい。 ・待ち時間が長大化した。 ・従業員の業務知識不足が生じた。 ・3事業の連帯感が希薄となって共助共援不足となった。 ・夜間窓口が大幅減少した。 ・郵便物が翌日配達にならない。 (3)積極的営業への意欲が失われた。・・・窓口会社を切り離したことの結果と思われ、5分社化に大きなムリがあると思われる。 (4)局内に不自然な間仕切りがあり、客は阻害感を感じる。	期待(?)⇒改善方向 (1)最低線でも3事業の一体経営を追求し、郵便局で民営化以前のようなサービスを安心して受けられるように改善する必要がある。更には一般行政サービスの窓口の一端ともなってか措置のワンストップサービスの拠点や高齢者見守りサービスの一環として、国民的財産＝郵便局ネットワークを活用すべきである。 (2)いたずらな競争や市場原理のみの経営は改める必要がある。例えば7～8割を占める過疎地の郵便局はもともと独立採算はできない。全国ネットワークとして考えるべきである。 (3)法人税を免除されていたと言われる国営時代にも独立採算は達成されていた。法人税分が過疎地対策の財源となっていたと考えれば新たな税金を要しないかなり安上がりの過疎対策である。この使命を郵便局に果たさせることが国民的利益に通ずるのではないか。 (4)非正規雇用が日本の労働者の三分の一を占めワーキングプアが生じ格差社会への進行が止まらない。郵政民営化はまさにその傾向を強める一要因であり非正規雇用(ユウメイト等)が大幅増されて社会の不安定化をもたらした。それのみならず使命感や業務知識の低下を生じている。しかしこれに対して教育が十分に行われているようには見えない。基本給を見直してでも正規雇用への回帰をすべきである。 (5)国民生活の基本的インフラとして築いてきた郵便局ネットワークをせめてかつての郵政公社のレベルに改善する必要がある。5分社化をやめ3事業一体経営が望ましい。企業性(都会の収入)をもって公共性(過疎地を含む全国サービス)を確保することである。	ー
705	長野県	(1／3) 4分社化した結果、サービスがよくなった実態は一つもないのが現状で民営化によって「サービスは変わりません・郵便局でも日常の業務は変わりません」と盛んにPRしていたのが全くの嘘の結果になっている。お客様にとっても、経営面からも、働く社員にとっても「良くなった」ことは一つもない。 以下、郵便局現場の実態を検証すると 1. 全国で集配業務を扱っていた郵便局が4000局から1048局に減らされたことにより「遅配」「誤配」が多くなり、事業所等から仕事に影響が出ると苦情がある 2. 公社時代までは郵便局で近くの企業等にゆうパックの「集荷」が可能であったが「郵便事業会社」でなければ「集荷」できないことになり郵便局会社で近くの生産者等に出向いて受付て、その後に郵便事業会社に連絡し、事業会社の社員が改めて集荷に伺うなど、二重の手間をかけコストを考えると全く非効率 3.コストがかさむことを理由にマネーレタックス・配達記録郵便の廃止で利用者は困惑している(利用者、お客様の視点で業務改善をしていない) 4. 定額小為替の発行手数料が10円から10倍の100円に、普通為替は10万円まで200円だったのが、3万円までが420円に、3万円以上は630円に値上げされ、窓口通常払い込みは、10万円まで150円だったのが330円となり民営化後に利用するお客さんはただ唖然としながら、利用している 5. 貯金通帳の作成時間は5分くらいだったのが、不要とも思われる説明や手続きで20分かかり、国債販売は40分かかる状況でお客様離れの原因になるのではと憂慮する 6. 毎月1兆円の郵貯減少、保険の新規契約の減少等が報じられているがこれは本来の「基本的な郵便局商品」を販売できない営業環境にあることに起因している、新規業務への力配分を基本商品に傾注すべきと考えます	郵政民営化委員会は会社の経営陣からのヒヤリング、説明だけでなく、郵便局会社、郵便事業会社の利用者からの意見を尊重し、更に委員自身の目で郵便局を理解した上で対応願えるものと思いますが、どの角度から見ても、「郵便事業会社」と「郵便局会社」の統合はこの最初の見直し時期に取組むべきと期待します。郵便貯金銀行・簡保生命保険、両社のユニバーサルサービスの義務付けは「郵便局」であるための必須条件であり、100%の民間会社は「消滅」へ進める策に終わると思われます。 日本郵政が「中期経営計画」の発表もできないのは会社が病んでいる証拠であり、理想的には、郵便・貯金・保険の一体経営とするべきですが、最低限今回の見直しには郵便事業の一体経営に取組むよう期待します。	ー

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
		(2／3) 7. 1つ屋根の郵便局に、郵便局会社(金融代理店)と郵便事業会社が同居しているからとの理由で局内に「仕切り」を入れて、わざわざ不効率の作業環境を作っている。実質上意味のない間仕切りであり、制度上別会社の認識で足りることと思う。なお、両会社を統合することで即解決することでもある 8. 郵便事業会社の「遅配」「誤配」の苦情も郵便局会社が9割は受けている状況だが、このための会社間の連絡方法を定める等全く無駄な作業を強いられ、苦情申告者には理解できない対処方法のため二重申告に発展するケースがある 9. 昨期の年賀広告宣伝費80億円は西川社長会見で「無駄な部分があった」課題を洗い出すとされていたが、今期も大手代理店での広告宣伝は検討を加えた結果だろうかと疑いたくなる(無駄はないか) 10. 年賀はがきは、昨期4億枚が売れ残ったのに、今期の発行数が、昨期の実績に10-20%上乗せも合理性がなく、「経営判断」でしょうが、郵便事業の収益が厳しいので「数字の足りない部分」を全て年賀はがき販売に転嫁したように見えるのは思い過ごしだろうか 11. あらゆることに「ローカルルールを作ってはいけない」手作りのポスターやチラシは全くできない。「全て用意するのでこれでやれ」と画一的な運営しかできないため地域にあった施策、工夫も出きず社員の意欲を無くしている、更に地域との関わりを殺ぐような、営業方針のため責任者である「局長」の自負、プライドも失われ「地域のための郵便局」の存在価値が損なわれる心配がある		
		(3／3) 12. 特定の企業に請け負わせ、郵便局で大量に無料配布の冊子(モヨリノ)は高額の「広告宣伝費」と思われますが、効果に疑問があり、民間会社になっても、商品の宣伝はともかく、改めてこのような手段で「郵便局」の宣伝は無駄と思う 13. 郵便局で使用する文具なども「一括購入システム」を利用することが原則義務つけられているので、繋がりのあった地域の商店との関係も断っている状況で営業にも影響がでている 14. グループ会社であり、連携をとって運営できるはずであったが、実態は、まさに別会社そのものの対応が生じている、例えば、郵便局会社の局長の打合せに、郵便事業会社の「会議室」の利用を申し込んだが対応できないと断られたり、また、本社管理の施設(グランド)の使用を申し込んだら空いているにもかかわらず「売却」予定のため使用させないと断るなど、地方事情など全く考慮しない「本社」と「地方」間の結びつきも薄れている事象がある。「営業の原点は郵便局である」という言葉が、空言に聞こえるほど、本社独善傾向にあり、経営陣は「郵便局」を理解していないのではないかと危惧している 15. 「集配センターにおける作業状況等の確認事務委託」と称し、配達センターとなっている「郵便局」に出勤してくる郵便事業会社の社員の出勤状況の確認や残留確認を事業会社の人手不足を理由に郵便局会社の「局長」に委託する方式をとるなど本音と建前が違った運行が随所に出始め、大きな躓きの基になると危倶される		
706	宮城県	結論全く評価しません。 理由 1 民営化前の郵便局は、独立採算制度の事業でありながら極めて公共性の高い事業として安易で安価なサービスを国民に提供していたので多くの国民から信頼を得ていたが、民営化により利潤を追求する事業に様変わりしたため以前のようなサービスを期待できなくなった。特に各種料金の値上げと非正規職員の大幅な増加については、期待を裏切られた感じをしている。 2 郵便事業については、事業の合理化ということで集配業務をしていた郵便局が無集配郵便局になったため利用者が多大な不便を蒙っている。特に窓口の取扱時間と留置郵便物の受領については、不便を感じている。	三事業は、国民生活の安定と向上に多大な貢献をしている現状を踏まえ公益事業として非課税にし、ユニバーサルサービスを維持すべきである。また貯金の総額制限などの限度額は、撤廃すべきである。特に三事業は、一体として経営すべきである。	株式の売却が話題になっているが、売却すれば外国資本に買い占められるおそれがあるので反対である。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
707	福岡県	そもそも民営化の始まりは、財政投融資に関するムダ使いの排除と政府のスリム化から始まったもので橋本内閣での省庁再編に伴う郵政省の廃止そして公社化と続いての民営化実施だ。何も不便を感じない郵便局制度を根幹からぶっ倒してしまう暴挙としか言えないものだ。しかもそれらの経過もありながら何ら具体的設計もしないで強引に法案を通してしまうという過去に例を見ない愚策だ。制度を守る、民営化はしないと言う法案も「旧法より新法が優先する。」との一方的な解釈により滅茶苦茶な手法は容認されるものではないと考える。小泉内閣の最大の汚点であると考えている。	元に戻せるものなら、戻して欲しいのだが、既に相当の経費等もつぎ込みスタートさせてしまった現在においては止むを得ない部分も認めざるを得ないが、せめて三事業一体の推進だけは確保すべきである。地方における現状では、利用者に不便を掛けるだけであることは事実だ。特に郵便事業会社と郵便局会社の一本化は全国の郵便局で最低の要件だと思う。郵便局の良さをもっと理解して欲しい。地方は大変な現状である。	全国一律のグローバルサービスの提供は郵便局でなければ出来ないサービスだ。三事業一体での運用はその根幹をなすもので何も分割運営をする必要性はない。
708	新潟県	民営化以前の郵便局は三事業一体・全国一律・公益性確保を原則に特に〇〇島のような過疎地にあっては、地域密着型サービスにより、島民生活を支え、ふるさと小包の開拓や全国発信等地域活性化の拠点として大きな役割を果していた。民営化による4分社化に対しては、利用者不在のサービス低下と受け止める島民が多い。特に郵便事業と窓口取扱いの制度的な問題への不満から、築き上げてきた郵便局への信頼が崩壊しつつある。具体的な地域の声は同封の「〇〇の新聞」をお読み頂きたい。	(1)利便性.公益性・一体性の視点から ・まず郵便事業における一体的運営と利便性確保の為に、不在留置き、不着や誤記等への対応・小包集荷等の郵便会社での取り扱いを可能に。 ・利用者に異常に映る局舎内の仕切り壁を撤去し、グループ会社としての一体的経営と管理体制検討を。 ・郵便窓口取り扱い時間の見直し(8時から18時) ・時間外取り扱い局(土日祝日)の拡大。〇〇島内にあっては4局程度。 ・ATM取り扱い時間の見直し(平日8時から20時、土日祝9時から18時) ・地方における郵便局に求められるのは、分社化後といえども三事業一体の運営。日本郵政会社の権能を強化し各社間の連携強化と一体性確保の取り組みを。 (2)地域の真ん中の郵便局の視点から ・行政や地域と協働した「ふるさと小包」の発掘、全国発送による地域活性化をサポートし、行政や地域に対する影響力と営業力を高めることが必要。地域の拠点である郵便局会社の営業体制の強化を。 ・地域雇用に貢献し事業への信頼度を高める為に、非正規雇用者を正規雇用に。	・郵貯・簡保における限度額は民営化メリットとして廃止を求めるべき。 ・損害保険分野への業務取り扱い等新たなサービスの振供。 ・高齢化率35.7%、限界集落86集落という超過疎地の島。郵便局が頼りの島民の声も大切に見直しを検討頂きたい。
709	岐阜県	(1／2) 郵便局は平成19年10月1日に郵政事業の民営分割化で実施されました。民営化については、良かれ悪しかれ時流によるもので、国営・民営は私たち職員にとっては、同じ職場で仕事をすることに変わりはありません。しかし、郵政三事業分割は、私たちにとってもお客様にとってもプラスになることが少ないように思います。まず、一般的に考えて、効率化・合理化という場合、組織を合体し一人の人が複数の仕事をして共通部分を削減し、業務を平準化して要員削減するのではないでしょうか。しかし、分割化により、今まで一人でしていたことを各事業で分けてすることになり、部分的には三倍の要員となっている状況が発生しています。小規模の旧集配局の外務職員は、分割前まで、総合担務と言って三事業の仕事を一人で行い効率化を図るという事を進めていました。例えば、郵便の外務員は郵便配達が終わってから続けて貯金・保険の仕事をしたり。また、逆に郵便物が多いときは貯金・保険の外務員が郵便配達の応援に入り郵便配達が遅れないようにするという相互応援を行っていました。しかし、分割後、郵便外務は郵便事業会社が専門に行い、郵便外務員だけで作業しています。郵便物が多くても他の会社の外務員は助けてくれません。また、配達途上、お客様から貯金・保険関係の仕事の依頼を受けても、会社が違うので受け付けることさえできません。分割前までは、郵便外務員が貯金・保険関係の仕事も受け付けることができたものができなくなっています。会社が違うので相互応援はできません。特に、旧普通局の中のゆうちょ銀行直営店がある局では、貯金専門、保険専門の単一業務の外務員となり、相互応援もできず更に無駄の多い状況になっています。	ー	ー

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
		(2／2) また、お客さまが郵便配達業務について郵便局会社の窓口に照会すると、郵便局会社の窓口職員は受け持ちの郵便事業会社支店に連絡し、郵便事業会社の支店は同じ局舎内にある集配センターに照会し、郵便事業会社支店から回答をするということになります。三事業一体の時は、窓口職員がその場で外務職員に尋ねすぐ回答できていました。次に、株式処分の凍結について見直しの意見が出ています。現在、ゆうちょ銀行及びかんぽ生命保険は郵便局会社-の委託を義務づけていないことから、株式が完全に売却された場合、現在のユニバーサルサービスが確保できる保証が無くなるのではないでしょうか。一般の銀行は、過疎地に支店はありません。株主の利益を考えれば、採算の取れない支店を開設はしないと思います。株式が完全に売却されれば、株主は自分の利益を中心に考えるのが当然だと思います。そこで、自分の利益が減るがユニバーサルサービスのために過疎地の郵便局を残そうと考えるとは思えません。それでは、その部分は国が経費を負担するとした場合、それは、その負担は国民に転嫁することになります。三事業一体経営の時には、郵便局全体で支えていたものを、株式売却により国民に転嫁させる可能性があるということではないでしょうか。以上のことから、私は、以前のように三事業一体経営にすればユニバーサルサービスが確保され、お客さまサービス的にも、更に業務の効率化・合理化による健全経営的にもより良い状態になると思います。		
710	福島県	最悪の結果。 1.4分社化されサービス低下。 2.運用多様化、金融二社の資産、国民財産の危機。	以前の郵政事業に近いシステムが必要。	利用者はセーフティサービスを望む。
711	岐阜県	昨年10月に郵政民営・分社化がスタートし、1年余りが経過しました。 郵政民営・分社化により「サービスは良くなる」「郵便局は減らない」など等当初、考えられていた理想の姿と、大きく解離しているのが現在の実態です。 特に国民・利用者にとって、最も大きな問題はサービスが良くなるどころか「郵政民営・分社化によりサービスが低下」したことです。 「サービスが低下した」主なことを挙げると 1 会社が分社化されたことにより、いままで一人の社員が郵便・貯金・保険の手続きを出来たが、それが出来なくなり利用者が不便になりました。 2 手数料が上がったこと(定額小為替の発行料金、通常払い込み手数料等) 3 貯金、保険の手続きは煩雑になった(待ち時間が長くなった) 4 集配郵便局の再編で配達時間が遅くなった。また、不在時配達の受取りも不便になった。 5 郵便局会社で、ゆうパックの集荷が出来なくなった。 6 その他サービスが低下した取り扱いは、多数有ります。 以上は、ほんの一例ですが、このようなサービス低下は郵便・貯金・保険事業を三事業一体として効率的なサービスを行っていたものを、民営・分社化により効率的な運営が出来なくなったためです。もし、このまま民営・分社化が進展し、10年後にゆうちょ銀行、かんぽ生命が株式を上場し、株を100%売却すれば利潤追求のため、採算の取れない地域の郵便局は廃止となり、今まで以上に、地域住民サービスに大きな支障をきたすこととなります。したがって、今までと同様なサービスが出来るよう、三事業一体的な経営に見直す必要があると思います。サービスの低下を招き、国民・利用者にとって、何らメリットのない郵政民営化・分社化を見直し、国民・利用者が真に安心して利用できる郵便局になるよう是非、郵政民営化委員会にてご提言いただきますようお願い申し上げます。	ー	ー

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
712	福島県	①郵便局の局舎や、区切りの多い窓口、職員のユニフォーム等が模様替えとなり、新鮮さを感じるものの、現場で働く職員は分社化された各会社の厳密なコンプライアンス対応を強いられ、お客さまに対する待ち時間が長くなり、サービスの低下が余儀なくされている現況にある。 ②このことは、郵便局の従来まで設置されていた局数も減少し、僻地等に多い簡易郵便局は三分の二位まで減少し、ポストまでも極端に減り、今までは3分位歩いた場所にあったのが、10分以上も歩かないと手紙も出せない現況である。 ③また郵便事業会社にしても同様であり、集配区の統合と集配郵便局の縮小により受け持ち集配区域が拡大し、同時に集配員の減少によりアルバイト、請負区員により実施しているため、遅配・誤配が多く、地域から大変不評を受けていることも事実であり、経営の採算性にのみとらわれた結果が謙虚に現れている。 ④ゆうちょ銀行、かんぽ生命にしても従来までの同一郵便局なのに、民営化に移行した日から自分が預けた財産を厳格なコンプライアンスによる本人確認の厳しい対応により、付加に間を与えるだけでなく、信頼性も失い郵便局離れにもつながり、他の銀行へ移行している利用者が多くあることも見逃せない現況である。	①郵政三事業は一本化ではじめて本来のユニバーサルサービスが可能であり、地域のサービスの提供は維持できない。 ②もう一つは、経営体系のあり方であり、郵便グループと一本化し、効率の良い運営を図ると共に、経営採算性も事業会社としての基本と考える。従って、採算性とサービスの提供を両立させるために是非とも郵政三事業一体を切に望むものである。	ー
713	山形県	(1／2) 民営化の論議のなかで、「『全国津々浦々まで、あまねく公平に』というサービスはそのまま堅持し、少なくともダウンはしない。」との甘言にだまされた感じがしてなりません。 郵便局の窓口では、身分証明書とか、委任状とか、以前からの顔なじみの利用者にさえ画一的に手続きが求められ、所要時間は、以前の何倍もかかり、待ち時間も長くなって、利用者は不満がいっぱいといったところです。特に郵便貯金は、一家の財布がわりとして利用してきたものです。家族名義の通帳で貯金の払い戻しに行ったら委任状を求められ二度手間、三度手間を強いられたと不平不満をもらす利用者は何人もおります。自分以外は全て他人という理屈は理解はできても、これまで通用していたことが否定され、怒りさえ感じてきます。さらに、職員が勝手に便宜な取り扱いをすると、それが自分にマイナスとなってはねかえってくるというのには、驚きとともに、職員が可哀そうです。以前は、利用者の出入を監視するために防犯カメラが設置されていましたが、今は、複数台のカメラが職員を監視するために設置されているようです。また、郵政には、監察という制度がありますが、今は、郵便・貯金・保険と三社となったため、各社それぞれから監察を受けているようです。それも、防犯・不適正取扱防止といった指導的な監察から、不正を指摘するための監察になってきているようです。現場の繁雑さを取り除くためにも三つの業務を一体とした監察ができないものだろうかと思います。このままでは職員を萎縮させ、やる気を失い、気力がなくなるのも当然だと思います。	先日、中間決算が発表されましたが、予想通り郵便関連決算は赤字となっております。以前から言われていたように、田舎の小さい郵便局は貯金、保険を取扱っていても経常は赤字であったのに、このままでは、赤字が拡大し、廃局に追いこまれるのではないかというのが我々利用者の最も心配するところです。以前のように、郵便・貯金.保険を一体とした運営をしてもらいたいところですが、無理であるとしても、少なくとも、今の郵便局(窓口)会社は郵便会社と合体させるべきだと思います。そして、経営面・営業面・人事面でも民営化前の長所をもう一度見直して取り入れる等しないでは、先細りは目に見えているのではないでしょうか。我々利用者が一番望むのは、活力ある郵便局、明るい郵便局、行って楽しい郵便局である筈です。そのためにも、意欲ある、活力ある、思いやりのある職員の育成にも十分配意していただきたいものである。	(1／2) (1)経費節減のためでしょうが、郵便局からの周知・説明等が少なくなっているように思われます。新聞やテレビでの広告が多くはなっているようですが、やはり、地元の郵便局からの「お知らせ」が温かみもあり、説得力も違うように感じます。民営化前に取扱っていたものが廃止されていたものがあったり、料金が引き上げられたり、新しい取り扱など、窓口に行って知らされ、とまどうことが度々です。全てマニュアル通おりにやらなければならず、現場での裁量が極端に制限されているような感じがしてなりません。画一的にではなく、その地域にあった方法もある筈ですから、現場にまかせる部分は、大いにまかせても良いのではないだろうか。 (2)記念切手等の特殊切手の発行の種類が多すぎる感じがします。以前は、1つの件名について1種類の切手を10枚または20枚のシートとして発行していたものが、この頃は1シート10枚でも全部違った10種類の図柄のものとなっているのがほとんどです。売らんかなの魂胆が見え見えといったところです。収入の確保のためにはいたしかたないところでしょうが、切手収集家には大変不評であることをご存知でしょうか。切手収集家は、切手を購入してストックすることにより郵便の収益に大変な貢献をしているところです。そういったことも考慮し、そういった方々の声を聞き、切手の発行やその他の参考にすべきではないかと思います。以前には、各郵便局に郵便利用者の会とか、貯金利用者の会があって利用者の声を反影させる機会がありました。これからも、こういう利用者の声を聞きくなどして、取入れるものは大いに取り入れ、改善できるところは改善し、国民、利用者のための郵便局づくりに努めて欲しいと切に希望いたします。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
		(2／2) 郵便配達員も以前は、気軽に「貯金」や「保険」の話や相談にものっていただいたことがありましたが、今は、黙々と配達のみといった感じで声をかける余裕もないような状態で、親しみが感じず、さびしい気がしてなりません。民営化前には、小さい郵便局でも職員が外に出て、貯金を奨めたり、保険の説明をして地域の皆さんとコミを図ったものでした。今は、窓口にへばりついたようにして、気力も感じられません。郵便局では、郵便・貯金・保険の各会社のいわゆる商品を委託販売し、その手数料が収入だと聞いておりますが、自社の商品がないというのも職員の気力低下の一因ではないかと思われます。少なくとも、郵便会社と郵便局(窓口)会社を合体させて運営すべきではないかと思います。年賀はがきの予約の案内が郵便局から参りました。追っかけて、郵便事業会社支店から同じ案内が届けられました。郵便局だの支店だのってどうなっているの?と思ってしまいます。民営化の際には、一つの郵便局を間仕切等をして郵便事業会社と郵便局を隔離したということですが、経費を使ってまでこんなことをする必要があったのか不思議でなりません。昨日まで同僚として共助共援でやってきた職員に境界を作って区別する、何と新生郵政は、情のない職場なのかと感じざるをえません。職員の気持までも分離させ、やる気をなくさせ、定年を待たずに退職する職員が多いと聞いております。ATM等の拡大により、郵便局へ行く機会も以前に比べれば、少なくなっておりますが、気楽に行けて、明るく用事ができ、会話のできる郵便局、職員に活気のある郵便局になって欲しいとつくずく思います。従って、郵政民営化に対する評価は50点にも満たず、何のための民営化であるのか全く評価に値しないとっても過言ではないと言いたい。		(2／2) (3)郵政民営化委員会は、郵便の収益にも関わっていると思いますが、料金・コスト・取扱量等について、他の取扱会社との比較もできていると思います。それを公表していただきたいと思います。我々利用者には、その術がなく、目の前にあるものをただ利用するだけで、選択の余地がないのが現状です。郵便の長所、短所もはっきりし、将来の展望もあるいは見えてくるのではないでしょうか。
714	岐阜県	① 開口一番、民になって窓口が9時まで開かない事に対し、お客様から「民間になったらよけいにサービスが悪くなった」といわれた。 ② 本人確認等面倒な事が多いため、「農協はこんなに面倒でない」JAに変更する。 ③ 郵便事業会社併設局なので、誤配・問い合わせ、集荷等何かしら毎日電話がかかる。その都度の対応で、郵便事業会社に誰もいないとお客さまにご迷惑をかけている。 ④ 近々では年賀の販売で、窓口に予約分を取りにこられても郵便事業会社分は渡せない。また、たまに臨局してくる担当課長がいても「今、社員がいないのでわからないとの」返答。 ⑤ 年賀は郵便事業も局会社も同じ商品なので、取り合いとなり併設局では社員同士ギクシャクしている。(人として良くない) ⑥ 事業会社は請負社員が多いため、朝の区分等ではペチャクチャ、ペチャクチャとうるさいほど聞こえ、窓口のお客さまに迷惑。社員だけの集まりでは、管理能力がだんだん薄れ郵便事業から崩れ、お客さんは離れている。 ⑦ いまのところ、以前と比べこれがよくなったとは考えられない。	① やはりなんといっても、郵便と切り離しを早急に改善する事 ② このままでは、三事業全てがジリ貧となる ③ 山間地で採算重視せよといわれても、もうけを出す事が土台無理な話。 ④ 損益のみの郵便局では、我々のモチベーションが上がらない ⑤ ゆうちょ銀行、かんぽ生命の株は凍結しないと、アメリカで起きたように一変に崩れてしまうことにもなりかねない。絶対に阻止をしたい。	特に、山間地で郵便局を考えると、このまま進んでいく事は非常に危険だと思います。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
715	山形県	1. サービス低下をもたらした郵便局再編 郵政民営化に際しての公約は「今までのサービスは低下させない」ということが大前提であったが、集配局が無集配局となったり、簡易局が廃止になるなど地域住民、特に過疎地や地方におけるサービスの低下が著しいものがある。 2. 窓口における手続きが極めて煩項になり待ち時間が増大 郵便局の窓口に行くと貯金の預払い等の際、保険証や運転免許証など本人を証明する書類の提示が毎回求められる。その上毎回コピーを取られるなど待ち時間が多くなり客離れが起きている。このような取り扱いは他の民間金融機関には見られないことで民営化とはいうものの不当な差別的制限ではないかと思う。 3. 非効率な分社化 民営化になって効率化が図られるならまだしも経費的にも営業活動面でも極めて非効率になっている。その象徴的なこととして、各事業部門別に独立した体裁をとるためなのか局舎の内部を間仕切りして、各会社ごとに隔絶した状態にするなど連携や提携を重視する民間の手法と反し本末転倒な事が行われている。これに要した経費は莫大なものがある筈で経済効率を考えた場合正に民間の手法では考えられない驚くべきことである。また、小規模局では郵便・貯金・保険と共通部門が相互に共助共援することでムリ・ムダを排除すべきなのにお互いに手空き時間の有効活用をはかるでもなく民営化による効率化とはまったく逆行した形になっている。 4. 三事業は国策として位置づけるべきである 郵便局は全国にあまねく公平に展開される社会的なネットワークであるべきで、それが過疎地にも都会にも平等で均一なサービスを提供できる基礎であるが民営化による単純な経済効率追求を優先するあまり利益があがらない地域の切捨てにつながっている。郵便事業・庶民金融としての貯金事業・低廉な掛け金によって安心と保証を提供する保険事業は国策として位置づけることが大切だということは今問題となっている世界的な金融恐慌のしめす教訓である。よしんば国営としての経営形態をとらないにしても国の保証によって国民の安心と信頼を得るべきである。	ー	ー
716	愛知県	(1／3) 麻生太郎首相が誕生してから、3ケ月が経過するが、アメリカ発の金融恐慌が瞬く間に全世界に派生し、日本もその煽りを受け自動車産業をはじめあらゆる業種が大きなダメージを受けているところです。麻生首相の誤読と放言、其の言い訳と謝罪つづきの毎日でいささか元気がない。解散選挙管理内閣といわれ、年内に解散を、と全国民が待っていたがのらりくらりと言を左右で政治的に国会が疲弊の感がある。小泉前首相のライフワークである郵政民営化が昨年10月スタートして、早や1年が経過した。郵政民営化になっても今までどおりのサービスを提供、全国均一のサービスを提供する等以前からの取り扱いに何ら変更は無いと国民にアピールしていた。しかし、この1年を回顧してみると、郵政事業の株式会社、四分社化は多くの問題点を抱えることになった。相次ぐサービスダウンや料金引き上げが行われ、利用者にとって慣れ親しんできた郵便局がこれほど使い勝手の悪い公共事業に改編されるとは思いもよらなかった。手紙、ゆうパックの差し出しを例に出すと、小さな郵便局はスムースに受付されるが、中、大郵便局へ差し出すと窓口が2ヶ所あり、どこの窓口で受付されるのか非常に分かりにくい。窓口職員に尋ねると郵便局会社と郵便事業会社があるようだ。なぜ郵便物を2つの会社が取り扱いするのか、従前どおりの体制ができないのかである。郵政事業を民営化し、効率化を図り、ムダを省き従前より増してユニバーサルサ-ビが可能であることを期待して民営化に国民は理解したはずである。期待を裏切られた感じがする。諸外国では民営化が実施されたが、郵便局の数が激減、営業成績の悪い郵便局を閉鎖、ポストの数が減り郵便物の差出しさえ支障を来たす状況で、弱者を切り捨て、地方をないがしろにするものでしかなかった。結果的には元に戻さざるを得なかった国が多かったと聞いている。日本の郵政事業も諸外国の悪例そのままであるような感じがする。	ー	ー

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
		(2／3) 単純に事業別に分社化すればいいとの発想にはいささか疑問を持たざるをえない。民営化直後より1年が経過し、郵便局職員は当時の業務混乱から少し落ち着きができ、業務の流れも幾分良くなってきていると思われる。景気の後退が更に進み、可処分所得が更に減少すれば私達の生活にも一段と厳しさが否応なしに襲い掛かってきます。物の流れ、貯蓄の減少等市民生活に多大なダメージを与える兆しが、目前に迫って来ている。郵政グループの売上げが減少すれば、自ずと利益が上がらず経営が立ちゆかなることは必至である。公社時代であれば三事業一体経営でそれぞれを補ってきたが、今になればその手段は取れない。2009年度は純利益は減少し、郵便事業会社は多額の赤字経常が予想される。民営化のメリットは何であったか甚だ疑問である。その上、経営が苦しくなってきたので、郵便料金値上げをと、くれば全く国民を馬鹿にした結果となることは明白である。最近は郵政民営化の見直しについて、与野党で議論がされているが、先ず参議院で可決されている「株式処分凍結法案」を早く衆議院で可決成立すべきである。民間株主の支配する会社となれば、郵貯銀行も簡保生命も、赤字を出して地方の郵便局に業務委託することは無い。結局、郵便局の多くが閉鎖され、国民利用者が迷惑する。そうならないうちに、制度全体を見直し、必要な法改正をおこなうべきである。自民党の「郵政事業に関する検討・検証プロジェクトチーム」の会合で、分社化されたことで、郵便事業のサービス低下を招いたとの声が利用者から出ているため両会社の効率的な運用がもとめられる。との報告を受けている。郵便配達を行う郵便事業会社と窓口業務を担う郵便会社の効率運用が求められている。ここに至り、三事業一体国営事業には戻れないと思われるが、郵便事業会社と郵便窓口会社を合併一体、金融部門、生命保険部門を一体化すれば、現在の四分社化よりも効率化が図られ、事業経営にも大きな成果が得られる。		
		(3／3) 前段で記したように、諸外国(ニュージーランド、ドイツ)も民営化したが、利用者である国民の反対で、元に戻さざるを得なかった経緯がある。民間で出来ることは民間での発想は、この1年で既にほころびが出ている。何よりも、民営化の設計図そのものに問題があると考える。従って郵政民営化の評価はゼロである。一刻も早く、国民の大切な資産である郵便局を従前通り全国津々浦々に設置し高齢者にも気軽に利用できることを切望する。		
717	福島県	1.郵便局の窓口は全部郵便局会社に統一して運営すべきと考える。 お客様の立場から、三つに仕切られた窓口に入ると物々しさが漂って、どうも馴染めない、後戻りしたなるような雰囲気さえある。職員の応対も民営化されてからは表面的には立派だが、全般的に堅さがあって明るさが足りない。 大きな局も簡易局も全部特定局と同じスタイルで、せめて窓口だけはお客様が気軽に入れるような雰囲気を作ってほしい。	2.無理のない集配要員の確保 これまで午前中に配達されていた郵便物が午後になり、郵便物の多い月曜日などは夕方になることも珍しくない。数日前、庭で仕事をしていた私に「郵便です!」と手渡ししてくれた時はまわりが薄暗く4時過ぎになっていた、「ご苦労様、遅くまで大変だねえ、もう終わりでしょう」と声をかけると「いいえ、まだまだです」。自転車にかけてあったカバンの中を覗くと、未配達の郵便物がぴっしり入っている。「ご苦労様、頑張ってね!」と激励すると「有り難うございます、頑張りますと」街灯のつきはじめた道路を走り去って行った。これまで暗くなっても配達するのは速達ぐらいのもので、無理をして、がんばって仕事をしている職員の姿を見ていると、可哀想な気がする。これまで午前中に配達された郵便物が夕方に配達されると仕事も翌日回にするしかない。これは大変なサービスダウンである。原因はどこにあるのだろうか‥	―
718	福島県	さきに国鉄、NTTなど民営化に移行されたが、郵政民営化はあまりにも利用者からの評判が良くない。 ・国会等でもっと議論を重ねて欲しかった。 ・利用者は選挙のための民営化だと思っている。 ・「サービスは低下しません。」と言って来ましたが特に過疎地における簡易局の一時閉鎖はサービス低下どころではない。 ・集配局等は窓口事務が細かく分けられ入口が違って利用者は大変不便な局もある。 ・現実がこのような現実となった以上CM等で一つ一つフォローして欲しい。	・民営化により利用者(特に老人、障害者)等のサービス低下を速やかに改善することを特に期待したい。 ・郵便局員(特に)外務員の不足解消。 参考:年賀ハガキも品物によっては発売前予約により発売品「品切れ」とのこと。 ・次年度も机上の計画ではなく窓口担当者との知恵を出し合って・・・・・。	―

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
719	滋賀県	今回の郵政民営化実施には各種制度サービスの拡大及び全国一律サービスの充実向上等に大きな期待をしていたところですが、制度スタートから一年余り、どこの郵便局を利用しても以前に比べれば待ち時間の長いことや、どの職員にも郵便、貯金、保険等の商品説明が堪能となっていないことを感じます。最初は新制度による職員の不慣れ、不勉強が原因と感じていましたが、拝見しているとそうでもないように思われます。関係職員は一生懸命やっています。私の感じるには以前のような三事業一体経営から事業分割化による事務の再検が最も大きな原因ではないかと職員の行動を見て思われます。各事業の指示・指令が上部組織からの一本化であったものが三本、四本とそれも他事業会社の事情に関係なく各会社から乱発され、受け皿は一つの郵便局職員に異常なほどの事務繁忙状況を発生させ、引いてはお客さまサービス低下に結びついているのが起因ではないでしょうか。例えば年賀状販売はまだ独占商品なのに早々九月からの販売を開始してお客の実情無視の営業活動や、コンプライアンスの重要性は理解できるものの同意書とか確認書等々、長々とした説明を聞くことになるなど、それだけでも加入意欲がなくなります。自主的な検査監査の緻密化もよろしいが、そのための事務煩雑による待ち時間の延長やお客に書かせる書類の多さが利用者の負担になってきていることも知っていただきたいと思います。反面、各種手数料が値上げされなど納得がいきません。どれだけ以前の郵便局が良かったか何一つ民営化で好評価できるものはありません。国営ならこそのサービスが郵便局の特性、民間銀行等のサービス追従なら郵便局を民営化した意味もお客にとっての優位性もありません。一日も早く以前のような三事業一体経営方式の郵便局に戻して頂きたいと存じます	折角民営化されたのだから国営に戻してほしいとは言いませんが、せめて三事業一体経営か各事業会社の連携を円滑に職員は三事業共通で雇用し、関係職員の共助共援体制を図るなど、窓口取り扱いサービスの一体化を図ってほしいと思います。 そのためには部内検査・監査等をもっと簡便化させ事務量の軽減を図り、職員に余力と意欲を持たせる仕事の仕組みで以前のような親しみやすい郵便局の雰囲気、お客さまサービスの再演を堤起します。やはり三事業一体経営の再考がベターと心得ます。 違反を犯す職員がいたならその裁きは民間会社なのですから司法制度に任せれば良いはずです。もっとお客さま視線での郵便局存立を望みます。以前の郵便局がどんなに良かったかと日々利用しながら感じる今日です。	―
720	長崎県	私的に意見を申します、郵政民営化法案が出た当初から絶対反対の立場でした。都市部と過疎地の利点、欠点等々過疎地の問題点が多く、民営化された今でも当時の考えと変わっていません。郵政民営化以降、知り合いの郵便局職員と話す機会を作っています、郵便局に勤めているにもかかわらず、現行では郵便局ではないと嘆いています。 よくよく聞いてみると、民営分社化にともなって四事業会社に別れ、窓口業務を除く郵便の配送関係は「郵便事業会社」が受け持っており、知人の職員は「郵便事業会社」の所属だとのことであった。また、彼は民営化前までは郵便局の窓口業務していた関係もあり、多くのお客に今までの郵便局関係を尋ねられるがその都度自分の職場は「郵便局ではない」と説明はしているものの理解して貰えないと言っていた。私たち田舎に住む者としては「郵便物を配達してくれるのは郵便局」とは常識であり、尋ねられるお客、職員の立場ではとうてい納得しがたいと感じている。また、先日ゆうパックの不在通知が投函されていたので、配達先の郵便局に取りに行ったが、郵便局には無いとのことであった。少し時間いただけませんか言われ、受け取りはできたものの、同じ建物内にありながら別会社であることに大変な疑問を感じました、この件が足を持たない高齢者であるなら等考えさせられた。民営化による極端なサービス低下はないと信じているが、私たちにとって身近な郵便局が身近でなくなるのではないか心配です。民営化議論の中で、さまざまサービスが提供できるとのことであったが、かんぽ生命の商品について、新型保険の発売を期待していたが、一年経過後も実現していないがどうなっているのか、新会社として新型保険に着手していないのか、それとも他に出来ない障害があるのか、障害があるとすればどこにあるのか、明らかにする必要があるのではないか	―	―
721	千葉県	―	―	民営化後1年2ヶ月経過しましたが、郵便配達時間の遅れや窓口サービスの低下等余り良い話は聞きません。いずれ時が経てばそれ等は改善されるとは思います、しかし、現在簡易局の閉鎖が続く中、旧特定局では販売手数料等で運営されているようですが、民間である以上利益が上がらなければなりません。全国の各局がすべて黒字になるとは到底考えられません。旧特定局でも徐々に閉鎖が行われるのではないかと思われます。したがって、郵便局は三事業が一体で運営した方が良いと思います。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
722	長崎県	郵政民営化法案審議の際、小泉首相や竹中担当大臣は、(1)郵便局は減らしません、(2)サービスは良くなります、(3)労働条件は低下させません、と、何度も答弁しました。しかし今となっては全く詭弁だったことが判ってきました。全国4500余りある集配局の中、1045局の配達業務の廃止や、簡易局の閉鎖、地方のATMの撤去、郵便の遅延や誤配の増加、間仕切りによる三事業化の遮断、職員数不足、事務手続の複雑化などにより、郵便局は大混乱に至っているように思えます。「民営化後の郵便局の実態について」郵便局長へのアンケートを見ても、郵便局のサービスが悪くなったが73.8%とか、勤務条件でも業務システムが以前より煩雑になった64.5%、ことなどもあり、勤務時間が1日10～12時間が50.6%、等、8時間以上が98.9%。休日出勤・有給休暇も取れないといった実態のようであります。このようなことから職員のモチベーションは72.1%も低下した等、聞くと抜本的な見直しを願わずにはいられません。	私達も郵政事業の民営化は避けて通れないと考えています。かつて郵政民営化の成功例として紹介されていた、ニュージランドの急進的改革路線は破綻していました。それでも小泉首相やマスコミは、同国の民営化をこぞって持ち上げ続けました。郵政民営化の揺り戻しが起こっているのはニュージーランドだけでなく、民営化に進んでいるといわれる欧米も同じであります。市場万能主義のアメリカでさえ、郵便は国営で、欧州では多くの国が民営化に踏み切ったと思われがちですが、イギリス・フランス・スウェーデン等のように、政府が全株式を保有する、つまり国営企業が殆どであります。わが国の郵政事業民営化法では「上場してから10年間で全株式を売却する」こととなっていますが、そうなると採算の合わない郵便局は立ちゆかなくなり、廃局ともなりかねません。そのため、わが国も全株式を国が保有できるよう、すでに参議院で可決された「郵政株式売却凍結法案」を衆議院でも早急に可決成立させることが喫緊の課題だと思っています。次に、三事業一体の経営であります。今迄三事業が一体となって、お互いに補完しあって全国的に収支トントン赤字を出さずに、お客さまにサービスを提供して参りました。今回の民営化で、機能別に郵便・銀行・保険それに窓口会社の四事業会社と持株会社の5つの会社に分かれました。郵政民営化関連法案で、「郵便局は郵便局会社の出張所であって、郵便窓口業務を取り扱う」と定義されておりますが、貯金と保険の業務については「取り扱うことができる」となっていて義務付けられておりません。株式の売却が進んで個人株主により経営されるようになれば、さきに述べたように多くの郵便局の経営は成立たなくなります。この際、以前のように三事業一体の経営に戻し、従来の不備の点は改善し、民営化によるメリットを生かす郵政事業になって欲しいと考えます。	ー
723	山形県	(1/2) 平成19年10月1日郵政の民営化が実施された。以来郵便局が非常に遠い存在になったような気がする。本当に国民のための民営化だったのか疑問だ。郵便局は昔から地元に密着しいろいろなサービスを展開しており、地元人の情報交換の場であったがはずだが、今はその雰囲気もなくなったような気がする。職員の方は必死に仕事を行って心の余裕も失い、張り詰めた空気は銀行と同じ空気になっている。郵便局はエプロン、草履がけで行けたのに今は敷居が高くなって郵便局らしさが無くなってしまったような気がするのは自分だけだろうか。それに近頃は田舎の郵便局でもいろいろな証明書類を求められるようになった。職員さんも局長さんも本人であることがわかっていながら本人確認書類を求めるなどと言うのは、求める本人も大変だろうが求められるほうもいい気分ではない。地域と密着した郵便局とは郵便局と利用者が心を交わしてこそ実現するのではなかろうか。民営化により新たな業務のサービスは出てきているが、失ったサービスも大きい。この間、郵便配達の人に貯金での相談があるため、誰か来てもらえないかお願いしたら「自分とは会社が違うので」と断られてしまった。同じ郵便局なのにと思ったが分社化で郵便を配達する会社と貯金等扱う会社がと分かれているとのこと。民営化前はことをお願いすると対応してくれたのにと残念である。外から見ても分社化は非常に非効率に思う。また、民営化により地域の郵便局がなくなるのではないかという心配も心より消えない。	ー	ー

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
		(2/2) 民営化が始まって1年が過ぎたばかりで、今のところなくなる話はないがこれが5年10年と時が経過すれば採算の取れない郵便局は閉鎖するのが民営化と思っている。株式が売却され株主の意向を反映するとすれば儲けのない郵便局は無くなるだろう。そうなると郵便局の他に金融機関のない地域では今受けているサービスを求めるために遠くまで足を運ばなくてはならない。公共の交通手段のない地域では高齢化がますます進む中で非常に困ることになる。民営化という手法をとってもユニバーサルサービスを絶対に守って行かなければ、地域自体が無くなってしまうのではないか。いま、郵政の株式を売却するのは好ましくない等の首相発言があったがまさしくそのとおりであると思う。本当にこの郵政民営化が国民のための民営化だったのかもう一度問いただすことも必要であると思う。株式が売却され外国資本がその株式を手にするようであれば、国民の財産である唯一のユニバーサルサービスを失い、国が滅ぶことにつながるものと思うのである。		
724	鹿児島県	ア　郵便の配達がサービス低下となった。特に不在時の再配達。 イ　分社化され外務職員に貯金保険等頼めなくなった。 ウ　地域に身近な郵便局のイメージが薄れた。	ア　三事業一体のサービスを期待する。 イ　外務社員の取扱範囲の拡大。	ー
725	愛媛県	ー	郵便局の存在は、国民の大切な心のつながり、経済生活の向上安定、不慮の災禍に対する安心、更には各種情報の交換や地域の防災・防犯等の地域妥全にも大きな役割を担っている。時代の変化とともに昨今は、人間同士の交流・関心が薄れ、経済不況も重なって、雇用不安や犯罪が増加の傾向にある。こうした中で他者(とりわけ、山間・へき地・離島等)は活力が失われ、高齢化、過疎化が極端に進みつつあり、地域住民は信頼できる公的機関としての郵便局、真に国民全体の奉仕者として公共のために仕事をして呉れる職業人の配置を強く望んでいる。そのためには、地域に密着し、基盤の固い郵便局の組織を活用し、優秀な職員(公務員)の配置が最適と思われるが、それが無理ならば、せめて郵政三事業(郵便・貯金・保険)一体の強固な企業を作り上げ、国民生活をサポートしながら、利便性・普遍性・公共性を兼ね備えた郵政会社として未来につなげて行って欲しいと期待している。尚、現在の内外の経済構達に目を向けてみると、最近は生保・デパート・電機、更ににアメリカでは、自動車産業の大企業が合併して、効率化.合理化を周ろうとしている状況の中、世界の模範であった日本の郵政事寮は、わざわざ子会社化(四分社化)して小さくする等時代に逆行する政策といわざるを得ない。これでは、投資効果の悪い郵便事業などは、採算が成り立っていかず、結局は収益・営利を目的とする民間事業としては事業の縮小、廃止、郵便局の閉鎖に繋がり、国民の不安は益々増大して行くものと思われる。	ー
726	福島県	あまり評価できない。 民営化に際し、サービスは現状維持を約束したはずだ、現実は山間僻地等の窓口(特に簡易局)閉鎖が続出した。 敢えて簡易局の経営が出来にくくなるような条件を付し閉鎖に追い込んだのではないかと判断している。 また、利用数が少ないと思われる「ATMの撤去」、これでは他の金融機関を利用せよと言わんばかりである。 郵便局のモットーである「あまねく公平」の理念は半減し、求める証明書類の複雑化煩雑が増大し利用者の減少を招いたと思っている。	少なくとも郵便局会社と郵便事業会社は一体とすべきである。 同じ経営体の中で、業態が同じでありながら二つ事業体に分割されているなど理解できない、改善すべきことである。 一つの物を双方で奪い合う等とんでもないことである、利用者は局会社と事業会社の双方へ不信を抱き、利用の減少を招くだけである。 郵便事業・貯金事業・保険事業一体であることが理想ではある。	①株式は、経営権を外資系に握られないような対策を今から講じておくべきである。 ②郵便局から利用者が求められる証明書類が複雑で煩雑である、改善すべき。 複雑な書類をミスなく説明しようとして多くの時間を費やすため待ち時間が長くなったのではないかと思う。ミスすれば処分の対象となるので、ミスのないようにということのみに囚われ、仕事への前向きな姿勢が出しづらくなっているのではないかと判断している。 ③現場の郵便局長が同じ部屋にいる郵便事業会社に対し監督権がなく、利用者からの照会に回答が出来ないなど、どういうことなのか、郵便局への信頼感を減滅させ不信感を募ることであり、改善すべき。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
727	秋田県	待ち時間が長い、手続きが煩雑、利用料金が高くなった、顔見知りの手軽さがなくなり、機械的に処理され親しみがもてなくなった。自然足が遠のき、利用者が不足になっていると思う。郵便局の隣に住んでいるが、身分証明書の提示をもとめられた、郵便局どうなったのと言われた。これでは郵便局は持続出来ない。	郵便の配達のこと(不在配達、不達、問い合わせなど)を窓口で聞いても分からず、事業会社の職員を呼んで問い合わせるが不便この上なし、配達の人に貯金、保険のことを聞いたり、依頼出来なくなり、簡単なことでも直接郵便局に出向くことになり、われわれ老人にとりましてはこの先大変心配であり、どうにかして貯金も保険も今まで同様に郵便局で一緒に運営して欲しい。	郵便物の取り扱い物数が減少していると聞くが、他業者が参入し、今までも貯金、保険に依存、3事業一体で運営してはじめて予算的にも成り立っていた事業を解体してしまい郵便事業が成り立つと考えるのは理解できない。山間僻地まで郵便物を配達する制度は保てるのか、かって郵便法85条適用地があり奥地集落の1箇所に郵便物を一括配達して各人が到着を確落して受取りに行き郵便の用を成していたことを考えれば、そんな不便な扱いに逆戻りすることを懸念する。三事業一体にして予算面で補い合うように制度を変えないといけないと思う。
728	福島県	(1) 同一建物内に郵便局会社と郵便事業会社が入居して現状において、2組織の会社の区別がつかず、大量のゆうパック及び一般郵便物等を搬入する時など、最初に郵便局窓口に持参すると、郵便窓口では処理しきれないために、裏口(郵便車の発着台)に持参して欲しい旨告げられ、裏口へ持参すると、郵便事業会社の職員が引き受けてしまい、会社間および職員間のトラブルに至るケースがある。 (2) 集配局が無集配局になったがために、土曜日の13時以降に郵便局前のポストに出した郵便物は、丸二晩ポストの中。せめて旧集配局前のポストは集配局時と同等の取り集めをするなどして三日遅れにならないような配慮が必要。 (3) 集配局が無集配局となったがため、局外の営業活動が手薄となっている。そのため、お客は不便を強いられ、郵便局との取引きを止める傾向にある。 以上のように、民営化後のサービスダウンに伴い、お客さま離れをしている。また、山間地域の高齢者等とのコミニュケーションが薄れるなど、安心・安全を守る手だてが無くなってしまった。	現在の民営化では、単なる郵便局の組織崩壊と同じである。 利用者の立場に立った目線で、民営化を見直す勇気が大切と思う。例えば、上記民営化に対する評価に記したとおり、郵便事業会社職員と郵便局職員は、ひとつの建物内に同居しているので、また、同一内容の業務を取り扱っているので、合体化を図り再出発をする方が良い。	ー
729	岩手県	私は81歳の老人です。いつも近くの郵便局を利用しております。平成19年10月に郵便局は民営化された訳ですが、局長はじめ職員の方々は、いつもと変わらぬ対応をしてくれます。ただ気になるのは貯金など今までになかったような面倒な手続きをやらされたり、待ち時間が長くなったり、それから料金が高くなりましたね。また、郵便小包の集荷もして呉れない。・・・・・など沢山の不便が増えましたね。小泉さんは今までより以上にサービスが良くなると国民に約束して国会を解散されたね。私達は本気になって自民党に票を入れましたが、聞こえてくるのはこのままでは地方の郵便局が無くなるかも知れないよ・・・・・と言うことなんです。実は私は田舎の過疎地の出身です。私の田舎の郵便局がどうなるのか心配です。私のような老人が唯一年金受給金融機関として郵便局を利用している訳です。田舎で暮らしている小学校時代の同級生は、郵便局が5kmくらいの所なので、民営化以前と同様に年金や貯金を下ろして貰うように郵便配達さんに頼んだ所、今は会社が違うので駄目だと断られ、大変不便になったと嘆いていました。お願いです。会社を一つにして郵便局員なら郵便も貯金も保険もやって貰えるようにして下さい。 以上	ー	ー
730	岩手県	ー	このままでは、地方の郵便局がなくなるのではないかとの不安が拭えません。 三事業をバラバラにして民営化したら、郵便局がやっていけないことは、最初から誰もが心配したことでした。 過疎地における郵便局全般サービス問題、郵便局の窓口でのあれこれや、いろいろな手数料の値上げ問題等、言いたい事は沢山ありますが、ぜひ実現してほしいことは、『配達業務をする郵便事業会社と、窓口業務を担う郵便局会社』を統合してほしいことです。	ー
731	秋田県	地域で利用する郵政機関は集配特定局、無集配特定局、簡易があるが、会社になってから横の連携が悪い故か、これまでのように郵便局に対する声が届きにくく親しみがなくなった。職員も臨時が多くなり、利用者の要望が分からない。聞くところによると、職員も会社別に分かれているため横の連携が全然なくなり忘年会どころかお互いに知らぬ振りなど同じ屋根の下に働く者同士の親しさがなくなった等、非常に淋しい職場になってきたようです。これでは、サービスの向上など余り期待できないと思います。	これまでは三事業一体ということで、郵便局に行けば郵便、貯金、保険も同じ対応でやって貰えたが、局内体制が一体でないため、親しみをもって利用できない。	現在までの進行状態の中で、余りにもサービス事務の改変が多くて困る。例えば福袋の利用など。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
732	埼玉県	① 郵便局内部が仕切られ、無理した拙速の分社化に地域庶民の拠り所としての郵便局に違和感を感ずる。 ②ポストの取り集め時刻も変わり、翌日配達も崩れ、翌々日配達が出来た。 ③ 選挙関係、納税、各種振込み通知、年金通知、裁判員通知、契約書交換、友人との安否通信、郷里の親への送金などあらゆる通信の基本は現代でも郵便だと思う。最近は個人の信書でも、都会では料金を安くした宅配便で届くが、通信の秘密保護など不安である。全家庭の配達地図管理の郵便局に比較し、誤配など心配である。この郵便の仕事は、単独で存続することは極めて困難と思う。3事業からの分離は郵便事業の崩壊につながる。 ④ 子供が誕生と同時に学資保険に勧奨し、各家庭に積立貯金を勧め、庶民の生活安定に大きな役割を果たしていたことを評価せず、外圧と財投批判の対応からバラバラとしたが、近い将来、老後不安や困窮家庭の増加、進学困難学生増大など心配である。	① 三事業一体経営は不可欠と思われるので、株式の処分は凍結すべきである。 ② 効率化の影響か、外務員による意欲的営業活動は見られないように思うが、この面の強化は必要と思う。	一般には何も分からず、勢いで民営化されたが、国家全体でも何もプラスには成っていない。郵便を守るためにも、又、格差の問題も出ている庶民の生活安定のためにも、信頼に足る郵貯、簡易保険は一体経営として存続に期待する。
733	秋田県	・郵政民営化後、この1年間を顧みるにあたり郵政民営化に対する評価は無い。 ・郵便事業会社における郵便配達の臨時職員による誤配及び配達態度の悪さ(他地域の臨時職員の増加の為の) ・各種の郵政事業への問合せの複雑化(四事業化により) ・各種証明類の煩雑化(本人確認証明等、地方金融機関はもっと簡素) 従来の取扱業務の廃止及び各種の手数料料金の値上げ(電報為替、定額小為替の千円以上の廃止、定額小為替の手数料の値上げ) ・郵政職員の地域住民へのサービスの低下(業務繁忙、制度改正等により)	・郵政民営化により四分社化に細分化されそれぞれの会社の独自制がだされサービスの増加が期待されましたが見受けられない状況と感じられ、益々会社間の溝が生まれお客様に迷惑を掛けているを状況です。 今日に当たっては、四分社化の統一は無理としても、郵便事業会社と郵便窓口会社は統一して地域住民の為の郵便事業とされる事に期待する。	・秋田県北部過疎地域高齢者比率40%の地域で郵政事業は必要であり生活手段でもあります、従来の営林署の縮小、国鉄の民営化により過疎地に過疎の拍車をかけて参りました。 過疎地の生活手段の郵政事業を、郵政民営化のときに確約した「現状を維持する」約束を守って頂きたい。 郵便局は地域住民の国の情報の発信機関でもあり憩いの場所でもあり現状の郵便局ネットワークを残して頂きたいと強く希望します。
734	東京都	ー	ー	① お客さまは分社化の内容は、ほとんど理解されていないのが現状であるが、このような状況の中、個人情報利用同意書取得・転居はがき受付証の交付等、窓口での手続が多くなるとともに複雑になった。 ② かんぽ生命保険契約での2回目以降の入院保険金の即時受け取りが出来なくなった。サービス低下である。 ③ 定額小為替の手数料が高すぎる(利用の多い住民票取得等1枚での定額為替を望む) ④ 業務用郵便物の差出方法が分社化により複雑になった。 ⑤ 郵便事業会社、及び郵便局会社はユニバーサルサービスが義務付けられており、赤字体質の経営は営業努力・経費削減・新規事業展開だけで、安定した利益を得るのは非常に厳しい。一体経営のもと国の支援が必要である。(現状で経営を維持するには地方切り捨て、多くの合理化が必要) ⑥ 国債購入時の事務取扱時間がかかりすぎる。(少人数の局では窓口業務がスムーズに回らない。又混雑時お客さまが遠慮して、購入を控えているケースもある) ⑦ 定額貯金新規預入のとき、普通貯金口座を開設していないと、即時に証書を交付できないのは、納得できないとの声がある。 ⑧参新規企画商品が、順次展開されているが、システムが追いついてなく、販売時、及び販売後の手間が多く異常である。末端の郵便局の負担を全く考えていない。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
735	福岡県	当時の総理大臣と一人の担当大臣によって強引に民営化した郵政事業であるが、政府の約束した民営化の三原則が全く守られていない。何が良くなったのか。以前より悪くなっているではないか。 ① 待ち時間の増加や手続きの複雑化 ② 手数料の高騰 ③ 郵便局の廃局やATMの撤退 ④ 郵便物の配達遅れ・誤配達 これも四分社化した制度設計に根本的な原因があると言わざるを得ない。また現行民営化法は全国津々浦々の各地の郵便局は郵便事業を取り扱うことを義務付けてはいるが、貯金・保険の事業については「取り扱う事が出来る」となっており、二社の完全民営化までの9年の歳月が過ぎれば取り扱いを廃止する地方が出てくることが予想され、これは国民が望む民営化象と違ってくるはずである。税金を使わず独立採算で事業展開していた郵政事業をそもそも民営化した訳とは何だったのか。国家財政の立て直しの一環として法人税確保のためか、大国からの要望を従属者として果たしただけなのか。「税金の無駄遣いをなくす」「官から民へがベター」当時の風潮に国民が洗脳された感は未だ拭えない。 また分社化したことは組織としての自由度を減少させ、よりよいサービスを提供するといった体制には到底なっておらず、現状はサービスダウンしており、各地で国民の苦情が相次いでいる。分社化自体が間違いである。	一番の望ましいのは三事業一体に戻すことである。以前はこの体制で独立採算性を維持してきたのであるし、お客様サービスの面からみても当然である。 少なくとも日本郵政株式会社が全株を保有するとされている特殊会社の二社である郵便局株式会社と郵便事業株式会社は一体にし、9年後に全株式売却を予定されているゆうちょ銀行・かんぽ生命の二社完全民営化を中止しなければ300兆円を超える国益を損なう事態となるであろう。 今の民営化法は「ゆうちょ・かんぽ」を全国の郵便局で取り扱うことを義務付けてはいないばかりか、いつでも委託契約を解約することができる内容である。これこそ地方切り捨てであるし、日本国民の意思を全く無視した法律そのものである。よって次のような法改正を期待します。 ① 三事業一体に戻す。 ②全国の郵便局でゆうちょ銀行・かんぽ生命の取り扱いを義務付ける。 ③9年後の貯金・保険会社の株式完全売却を中止する。 ④ 貯金・保険事業の限度額を撤廃し、民間他社と同等に競争させる。 次期見直しでは真に日本国、日本国民のことを考えたよりよい法律へと変更することを強く望みます。	国民の代表として努めておられる国会議員の皆様、周囲に流されず、国民の一票、一票を大切に、大事に思ってください。そして、そう思うのなら真によい決断とは何かを考え行動してください。お願いいたします。
736	群馬県	ー	ー	（1／2） 近所の郵便局に4月からアルバイトで入っています。とてもいい職場で大変感謝しております。ところで、私は独身時代は大阪の〇〇電器に勤めていました。電化調理関係の事業部で海外営業をしておりました。〇〇では4ヶ月以上毎日研修をさせて頂きました。 今回、意見を聞いて頂きたいと思ったのは、郵便局の評価(A～E?)のことです・・・。「この局はこの評価・・・」というのは一概に決められるものではないのはご承知だとは思うのですが・・・これは無理があるのではないでしょうか・・・? 私の勤める局は、とても雰囲気がよくて、明るく、局長さん局員さんも非常に親切で、お客様のポイントはとても高く人気があると思います!当然お客さんが多いです。多い時局員さんは4時になっても昼休みが取れないほどです。でもお待たせせずテキパキと応接し、スピードを重視しています。なぜならお忙しいお客様が1番求めるものは、スピードだと思うから。だと思います。また局員さんの親切な対応も大きなポイントだと思います。そういう意味でお客様にご満足頂けてるようなことが見てとれます。(またお客様から喜びの声も伺っています)それに加えて、正確さ＝事故のないように・・・というのは当然求められるとは思うのですが、評価でそこだけ取り上げるのは、片手落ち・・・という感が否めません。矛盾していると思います。「事故さえなければよい評価」というのは、納得できない気がします。ではお客様をお待たせしてでも、正確さを重視する方がよいともとれます。また、お客様への親切をさし落してでも事故を防止することに専念していた方が得ということにもなりますよね??限られた短い時間の中でどちらを重視するかと言えば。極端な話、お客さまからの評判のあまりよくない他局の話を伺うことがあるのですが、それでお客さまが来なくなったりしてもかえってその方がいいことになります?!なぜならたっぷりある時間で処理すれば、間違い事故も当然?少ないからです。 “お客様に誠心誠意尽くして喜んで頂くこと”・・・こそが1番の発展につながるのではないでしょうか。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
				（2／2） であるなら、評価をこそ、その基準に改めるべきではないでしょうか。（事故などはっきり言ってむしろあまり大きく取り上げるべきことではないような気がします。）担当者の感情に左右されるようなことではないでしょうか。そのような瑣末な事柄に囚われて大元の幹をおろそかにしているような気がしてしまいます。 その評価でお給料まで大差がついてしまうとなればなおさら気の毒でなりません。私の勤める局は通常よりも売上げが上がっている、局長局員はその売上げに大いに貢献している！ と思います。なのに少し事故が多いということで評価がEとは大変残念に思いました。こんなにいい局なのにどうして??と思いました。しかも超～忙しい中テキパキしていれば事故がたまにあるのはしかたのないことではないでしょうか。一日暇にしていて、一点二点の書類に集中できれば当然事故は少ないし、お客様をやんわり断れればもちろん事故だけは減りますよね。でもそれでよいのか疑問です・・・。 売上は色んな局の事情や立地条件を加味した上でのことで一律に測れるものではありませんが、普通の会社は売上が命ではないでしょうか。弱点や欠点を暴き立てて大きく取り上げるのはあまり企業の発展という観点から見て、よくない気がします。日本の大企業を興して日本立国に貢献した人物の企業理念や信念に反するのではないかと心配です。衰退の方向に向いていくことのような気がします。〒が。 どうか、1番評価するべきポイントのピントをずらさないで、正当な評価をしてあげて頂きたいです。郵便局という企業の発展に貢献している局を高い評価にしてあげて頂きたいです。それが民営化の評価の重要な鍵になるのではないでしょうか。どうかよろしくお願い致します。
737	新潟県	―	―	昨年10月の民営化時、お客様、地域に迷惑を掛けないで従来どおりのサービスを提供するという使命で業務、営業に取組んで来ました、以前は三事業一体で効率的な業務運営を行って来たが現法律の下では不可能です、郵便を配達しながら貯金の払い戻しに対応してきたことが出来ない等非常に利用者、お客様(特に高齢者)から苦情が出ています。 民営化の問題は業務改善で解決できるものとは思えません、法律的な見直しが絶対に必要と考えます。
738	大阪府	特段何も変わっていない。確かに、金利優遇等のサービス、「その日から」等の新商品で変化はあるが、反面、利用者にとって、手続きがややこしくなり、待ち時間が増えたり、払戻し等の際、証明書類や委任状がいるなどとサービスが低下している。ましてや料金・手数料が値上がりするなどもってのほかである。利用者にとってマイナス評価の方が大きい。	金融機関として、一銀行・一保険会社が増えるだけで期待はない、利用者が民営化で何を望んでいるのかを再度見直すべきである。期待どころか民営化で利益優先となり、便利であった近くの郵便局がなくなることになるのが素人でもわかる。利用者にとってプラスを見込めない。	そもそも民営化することに問題があった。 国民に民営化することで予想される損得を理解させないまま、小泉人気の元、政府が押し切っただけのこと。肥大化した郵便局にも、上層のキャリアの責任があるのかもしれない。ただ、郵便局が経団連・全銀・ヤマトの言うように民間企業を圧迫しているのか?原点に戻り、ユニバーサルな組織の継続、地域に根ざし、あまねくすべての人に信頼され、地方自治体的なサービスを展開できる組織としての郵便局は、今後の高齢化等の問題にも対処できる金融機関であり、国の組織として存続するのが本来の姿ではないでしょうか。 このまま完全民営化となり、株式を上場し、利益優先、ユニバーサル組織の崩壊、そんなことを利用者が望んでいるのでしょうか?再度の是非を国民に問い直すのも必要ではないでしょうか。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
739	福岡県	(1)良い点 貯金の金利優遇キャンペーン、かんぽ生命の特約新商品等のお客さまのニーズに沿った商品が提供されるようになった。 (2)悪い点 〇先日引越しをするので転居届を郵便局に出しに行ったのだが、平成20年10月以降転居届けは一度東京江東区に郵送され一括処理されるシステムと説明を受けた。転居先は同一の配達区域内なのに、郵政公社の時は2日くらいで処理されたいたものが、3日から1週間処理に時間を要すると説明を受けた。また、郵便局で問い合わせても郵便事業会社じゃないと詳細な目数は分からないと言われるなど、分社化してなんのメリットがあったのか。なぜ、これまでよりもサービスを悪くするのか、誰が勝手に決めているのか、改善して欲しい。 〇郵便の配達の人が年賀はがきやお歳暮などのカタログを配達の際に持ってきて薦められることがあるが、これまでと何か変わったものを販売しているのか。私の知っている限りでは郵政公社時代でも郵便事業は赤字で、貯金と保険の三事業でなんとか運営していたと認識している。もともと郵便事業は儲けが出るものでもないのだから、民間会社になったからといって以前と変わらない商品を発売して郵便事業だけで黒字が出るはずがないのは中学生でも分かることではないか。郵便事業だけで黒字を出すつもりが本当にあるのか、真剣にどこまで考えているのか疑問を感じる。 〇株式の売却を早い時期に推し進めている内容が新聞等で記載されているが、本当にそんなことをする必要性があるのだろうか。現在の様に世界的な金融不安が起こっている状況を考えると、郵便事業だけでなく、貯金・保険に関しても政府管理の会社が存在したほうが国民は安心する。実際に、日銀は民間会社の政府管理で存在しているのだから、法にも何の問題もないと思う。万一、株式の売却を行うのであれば、其の必要性をもっと議論する必要があると感じる。	〇 日本国政府が管理する郵便、貯金、保険三事業一体となる株式会社の構築をお願いする。 〇老後の年金額が期待できない現状を考えた場合、現在販売している年金保険よりも国民にとってメリットの高い、有利な商品を郵便局で発売して欲しい。 〇西川社長は、経営に関して大きな銀行を一つ増やしたいだけのように感じる。大きな銀行はこれまでにも存在しているし、地方に住んでいる国民には大きな銀行の必要性を感じない。地方のことを考え、これまでの郵便局の必要性を真剣に考える経営者に早急にバトンタッチする必要性があるのではないか。何らかの政治的な指示を受けて、取り組んでいるように見受けられるので、不信感を抱いてしまう。	ー
740	東京都	手数料の値上げや、会社が分かれた事によりサービスが低下し不満である。	民営化されてサービスが向上したとは思えない。以前のままがよかった。以前の郵便局にもどしてほしい。	ー
741	東京都	良い結果が出ているとは言えません。というのも「民営化後、今までより、便利になると言っていたのに、不便になった」とのお客様の指摘が、数多く寄せられています。 具体的には、 1)待ち時間が長くなった。(一つの作業に民営化前より処理工程が増え、処理時間が増大) 2)積立貯金、電信為替等のサービスの廃止 3)求められる必要書類(公的証明書)が多くなった。 例)保険の委任の場合、委任者の証明資料が2種類必要 4)定額小為替の手数料の値上げ 5)定期貯金を積むとき、通常貯金を持っていないとその場で貯金証書がもらえない。 6)貯金非課税の廃止　など 郵便局は、お客さまあっての事業だと考えます。そのお客さまからサービスが低下したとの指摘を受けるようでは、いかがなものかと思います。	一つ目は、お客さまが安心して利用できる郵便局の体制作りの構築。株が売却されて、営利会社となった時、不採算地域の銀行、保険事業が撤退となっては、利用者の更なる不便が増大します。ゆうちょ銀行、かんぽ生命のユニバーサルサービスの義務付けが必要だと考えます。 二つ目に、株式を上場するには安定した経営が必要です。金融会社だけが安定経営で、郵便事業会社・郵便局会社は不採算といった不平等では、利用するお客さまが不安に思われます。全事業が安定経営となり、将来に安心と夢が持てる経営とするために、三事業一体経営とし、郵便局株式会社として上場、また、利用者にも分りやすい経営形態にするべきかと考えます。	ー
742	千葉県	千葉県でも有数の高齢化地域にとって郵政の民営化は、ただでさえ若者を正規雇用する会社が少ない中で、正社員の効率化により就業機会が減り地域にとってはマイナスばかりだ。 バラ色の民営化と言われ信じていたが、民営化になって良い点は「0」と感じる。	地方は金融機関の支店統廃合により年々不便になり、郵便局は高齢者や交通弱者の拠り所となっている。その郵便局が金融機関として高齢化率30%以上の地域に残るのか非常に不安であるし、自分の子や孫にとって地域唯一の金融機関である郵便局が将来に渡り必ず残るような制度設計を再構築してもらいたい。	ー
743	東京都	悪いところばかりでいいところは無い	地方まであまねく公平に色んなサービスを提供するようであって欲しい	分社化をして、郵便局株式会社は手数料収入を収入源とし、運営している。例えば年賀販売においては、郵便事業会社、郵便局会社で販売しているが、ゆうちょとかんぽは全く関係なしといった感じである。郵便局グループとして、全社員が力を入れられない状況がとてもさみしさを感じる。 収益を考えれば、山間部の郵便局など収益の上がらない局は、無くなってもおかしくない。不変のグローバルサービスのためには、分社化するべきではない。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
744	埼玉県	(1／2) 本来郵政事業は、郵政事業特別会計及び郵便貯金事業特別会計並びに簡易保険事業特別会計(発足当時は通信事業特別会計)として、国の会計に負担をかけず、しかも過分の利益を得ないことを条件に発足し、全国の受益者に対し、郵便事業にあっては、あまねく公平に、郵便貯金にあっては、利用者の財産の安全安心をモットーにお預かりして運用を図り、簡易保険も郵便貯金同様、利用者の老後の安心確保をテーマに、それぞれ経営をされてまいりましたが、行政改革の名のもとに、国鉄の民営化、電電公社の民営化に次いで郵政事業の民営化が、話題に乗り始めてまいりました、しかし、土光臨調当時は、財政支出削減、許認可等の整理合理化、三公社改革、行革推進体制、特殊法人改革などであって、その最大の功績は、三公社の民営化といわれ、国鉄の放漫で且つ膨大な赤字経営や、電電公社の単独経営による過大な利益追求とは違い、郵政事業は。全国の零細な過疎地域にあっても、あまねく公平に、国民の利益のための郵政事業であり、平成9年度に行われた世論調査でも、70%の多くの方々が民営化に反対し、更に全国の地方議会3.302議会のうち、3.252議会で郵政事業の国営支持を決議し、その割合は、98.5%に達し、政府に対し要望書を提出されましたが、これを無視し、更に国会において、否決されたにもかかわらず、国会を解散し、平成17年度の第44回衆議院議員総選挙において、反対をした衆議院議員に刺客を送り、国民に対し、何ら説明を行わず、民営化の是非だけで、選挙を実施し、劇場的ムードで三分の二を獲得し、国民の真意を無視し、再決議を行い民営化を決定し、今日に至っています。 すでにその公害は、実施以前から出始め、一部集配郵便局の無集配化、小規模集配郵便局の郵便区分業務の停止や、更に全国で、1.600余の郵便局が、無集配化や廃止になっているようであります。	①全国を将来にわたり、あまねく公平なサービスの提供が出来るような民営化以前の組織を崩さず、そのための人的資源の確保と利用しやすい環境を作っていただきたい。 ② 零細な利用者の財産を不安な方向になるような、株式の処分については、絶対に反対であり、日本の国自身が保有すべきであると考えます。 ③ 世界的にも、各国この種民営化は、失敗をしており、それぞれ国営等に戻している。なお米国は、公社であります。	せめて郵便事業だけは、国営に戻し、すべての国民が、安心して安価に利用できる制度にするべきであると考えます。
		(2／2) 当初郵便局を減らしたり、サービスの低下となることは、絶対にしないと約束をしていたことが、守られておりません。 一方、ゆうちょ銀行並びに簡保会社においても、取扱手続きの複雑化などによる、お客様サービスの低下や待ち時間の大幅な拡大による、お客様からの不満が噴出しており、利用者の大幅な減少が起きているようであります。 いずれも予期していたことでありますが、今後の運営に大きな困難は目に見えており、早急に見直しを行い、四分社化を廃止し、三事業一体の経営に戻すべきと考えます。		
745	東京都	ー	ー	今日の郵便局の現状を見てみますと、郵政民営化という法律のもとに、郵便局を機能不全にしてしまいました。 郵便局の仕事が4つに分割されてしまい、戸惑いが現在まで続いています、しかしながらお客様のためにどのようにしたらよいか毎日試行錯誤していますが、朝礼暮故のような指示・マニュアル等変更によって混乱が持続しているのが現状です。 この現状を、お客様・窓口社員にとってより良い方向に導くための方策を熟考していただきたいです。
746	山梨県	あまり評価できない。 1)待ち時間が以前より長くなった。 2)手続きが複雑になった。(提出書類が多すぎる。確認方法がめんどう) 3)職員の数が減っているのでは(アルバイトが多すぎる)	・分割化の見直しをしたら良いのではないか。 (郵便局会社と郵便事業会社の一体化) ・金融機関としての整備が必要ではないか。(職員数や設備について)	・三事業の一体感がなくなった。 ・郵便局会社のような委託を受けて事業を行う会社は主体性がない。 ・分割の方式を変更したら(JR、NTT方式に)

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
747	北海道	ー	融和不能な民営賛否の激しい対立、広い国民の安心感のよりどころであった郵便局、それだけに民営化で郵便局はどうなるのか、また、市場原理主義の過度な競争の渦中での経営、多くの国民は不安の中で郵政会社の発足を見守った。 郵便局の歴史は、言うまでもなく郵便を毎日各戸をおとなって配達する結び合い、簡易保険や定額貯金を局員が加入者に親身にしてきた信頼、郵便局の親しみやすさ等々から生まれ育まれた、一般国民の郵便局を寄る辺にして行ったのがその姿でしょう。 今後の郵便会社の前進のために、利用者の関心と利便性に副う工夫は当然必要だし実現しつつあると思うが、最も基本にあるのは、局の歴史が物語っている。一人一人の一般国民を大切にする視点をいかに困難があっても真正面に据えて行かなければならない。 それは社員と郵政会社の関係において、また、社員と社員の関係において、人間を大切にすることに徹し実現して行くことが、遠回りに見えても、また、競争社会では無益だとの考え方にも打ち勝っていけばこそ、未来が見える筈です。 その郵便局のあり方が、先行きの見えない不安の中にある国民に望みを与えます。 そして、一般国民の郵便局に対する一層の信頼を培うことになると思います。人それぞれの考えは、そう簡単に変えてはもらえません。出来る限り話し合い話し合いそれでも残る違いは許容し合いながら前進して行けます。	ー
748	岐阜県	便利になると言われていたが、お客様からは「手続きが難しくてややこしい」「全く融通がきかなくなった」「待ち時間が長すぎる」「料金が上がり利用しにくい」等の意見をいただきます。しかし社員全員マニュアル通りに仕事をすすめてこの結果です。「便利になる」とはほど遠いと思います。	分社化の弊害がそもそもの原因であると思いますので三事業一体化を期待します。	民営化前に比べ、事務量がとても増えたと思います。「営業」の会社であるなら、もっと少なくしていただき、営業ができるようにしていただきたいです。
749	岐阜県	丁寧に対応してくれる所はしてくれますが「勝手にどうぞ。」というような態度の郵便局が多い。むしろ、公共でない配達業者の方や受け付けの方の方が能率がいいと思う。あと、サービスわるいし、ゆうずうきかない時が多い。	ー	ー
750	岐阜県	よく頑張ってみえると思います。	ー	ー
751	岐阜県	書留を配達された時に留守じゃないのにすぐに不在票を置いていかれたので疑問に感じました。	ー	ー
752	岐阜県	とにかく不便になった。	窓口での待ち時間の短縮と小包の再配達の依頼方法を改善して欲しい。	ー
753	岐阜県	郵便宅配便で不在の場合に問い合わせ再配達が地元局でなく〇〇への対応は良くないと思う。	ー	ー
754	岐阜県	店内での対応が遅くなった。	ー	ー

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
755	北海道	ー	ー	(1／3) 百害あって一利なしの郵政民営化 即刻凍結し、税金の浪費を防げ 一　郵政民営化は、小泉元総理の、重大誤解から始ったものである。 それは彼の著書「郵政省解体論」を読めば明らかであるが、それには、「アメリカですら民営化して、郵政事業を運営しているのだから、民営化は駄目だと、一概にいえるはずはない。」と、明記している。しかしそれは誤りで、アメリカの郵便事業は、現在も国営である。なおこのことは、アメリカの郵政公社総裁マーヴィン氏が、平成9年5月、来日の際「郵便事業は、政府の最も価値ある事業とし、民間業者では、不採算地域まで均一料金のサービスは不可能である。」と語っている。このことは、平成9年6月4日の日本経済新聞に掲載されている。(以上の2点について、郵政省解体論及び日本経済新聞のコピーを添付) 二　小泉元総理は、郵政三事業は、税金によって賄っているとの、誤った先入感から、民営化に進み、それを改めようとしなかった。そのことは、いろいろな場面に表れているが、主なものを次に列挙する。 郵政大臣に就任当時の平成五年一月二十日、衆議院逓信委員会において、武部(文)委員が、小泉郵相(当時)の行った、郵政三事業は税金を使っているという、NHKテレビでの発言に対し、「郵政大臣ともあろう者が、郵政三事業は、国の税金でやっていると発言したことは間違っている。」と指摘を行ったことに対し、まともに答弁しようとせず、終始、のらりくらりのまま、時間切れになっている。(平成五年一月二十日、官報議事録) また、小泉元総理は、平成十三年十月二日の参議院本会議において、代表質問に立った自民党の青木議員の質問に対し、「三事業を民営化し、税金のむだ遣いをなくす。」と答弁している。(官報議事録) なおまた、文芸春秋(平成十三年三月号)の中で、小泉元総理は、桜井よしこ氏との対談記事で、次のように発言している。「国営事業だから、赤字になれば税金で補填するしかない。郵政三事業はすでに税金の金食い虫になっているのです。」
				(2／3) 高い地位にある政治家が、これ程精力的に、郵政事業は税金を使っていると発言したら、国民はそれを信じるのが当然であろう。 三　民営化と同時に、新たに発足した「郵貯・簡保管理機構」は、独立行政法人である。即ち、税金を使う機構である。郵政事業は税金を一銭も使っていない。それが民営化によって、税金を使う新たな機構が増えたのである。こんな馬鹿げたことが何故許されるのか?! 四　そもそも郵政民営化の論議は、官業(郵貯)が大きくなり過ぎて、民業(銀行)を圧迫するとの、銀行サイドの非難が始まりであった。それが最終段階では、小泉元総理の強弁する「小さな政府」と「サービス向上」の二点に集約され、宣伝された。 ところで、「小さな政府」について、竹中元郵政民営化担当大臣は、その著書『郵政民営化「小さな政府」への試金石』で、「小さな政府」と「大きな政府」について述べているが、要は、税金を多く使うのが、「大きな政府」で、その逆が「小さな政府」であるということである。これは極く常識的で分かりやすい。しかし前記のとおり、税金を一銭も使っていない郵政事業が、民営化によって新たに税金を使う「郵貯・簡保管理機構」(独立行政法人)の増設によって、「大きな政府」になったということである。 民営化の目的の「小さな政府」ではなく、「大きな政府」ができたということである。 五　三事業が一体化すれば、民営化してもよいのではないかという意見が一部にあるが、それは誤りである。例えば、内容証明郵便と、特別送達郵便は、公務員の時代は問題がなかったのだが、民営化した現在、公的資格(管理、監督等)の持つ「郵便認証司」が行うことになっている。それが守られていないため、受取人と最高裁判所から指摘を受けたことが、平成十九年十月二十五日の北海道新聞に報ぜられている。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
				（3／3） 同紙によれば、郵便事業会社で約二千百件、郵便局会社で約六千六百件の不適切な処理が判明しており、件数は増える可能性が高いと報じている。これは公務員から会社員になったための問題である。公務員に戻せば解決できることである。しかも、公務員に戻したところで、税金は一銭も増えはしない。何も隘路はないはずである。会社員では問題の解決はできない。 民営化と共に、多くの簡易郵便局が廃止されていて、大きな社会問題になっている。郵政三事業は、福祉を推進する公益企業であったものが、民営化と同時に、営利を目的する企業に変わったため、郵政事業を見る社会の目は変わってしまった。地域のために、若干の犠牲はあっても、郵政事業に協力的であったものが、営利企業に変わった郵政事業には、冷徹な態度もとり得るようになったのかも知れない。田舎の簡易郵便局は、そこに住む老人にとってかけがえのない、灯のような存在なのである。郵政民営化は、地方と弱者を切り捨てるだけのものである。 アメリカの保険会社が、日本の簡保に狙いを定め、ブッシュ大統領を動かし、郵政民営化を、小泉元総理に迫った。小泉元総理は、自分の野望を満たすため、アメリカの要求を国民には、ひた隠しにし、法治国にあるまじき、ファッショ的なやり方で、郵政民営化を実現した。しかしそれは、百害あって、一利なしの結果になっている。これは衆目の一致するところである。
756	福岡県	1.お客さまサービスの低下 事務処理の複雑化、公社時代よりも増した規程等を重んじる仕事により、お客様の待ち時間が増加。その事により来局されるお客様が減少傾向が続いている。 2.社員のモチベーションの低下 前年度比200％以上にも及ぶカタログの目標。内部統制・コンプライアンス・検査・監査等のこれまで以上の徹底。また郵政の将来展望が見えないが為のもの。等により「営業の職場」と位置づけるにはふさわしくない職場環境となり、社員のモチベーションが低下。 3.分かりづらい損益管理。 民営化当初「損益管理」を重要な位置におき経費削減・収益増大に努めてきた。また、対前年比を重んじる評価のため、経費と収益のバランスを調整（おかしな話と思うが・・・）しながら運営を図ってきた。しかしながら、その損益管理の計算等が分かりづらいものであった。	（1／2） 1.郵便局の地域性・特徴・客層・社員の営業力等を生かしたバランスを考慮した営業目標の設定 公社時代・民営化後もほぼ変化が無いものは営業目標の設定である。民営化後の将来展望として会長挨拶の中に「必ず売れる商品の開発、そして売れるところで」とあったと記憶する。現実は大きくかけ離れたものになっている。 そこで三事業の利益率を考えた上で、どの分野をどれだけというように局段階で判断させ、目標の設定する。そうする事で「売れる物を売れるところで」「社員のモチベーションアップ」が実現可能と思われる。 2.局間の社員数の是正・適正化 現在の定員は旧態依然としたものであり、改善が必要と思われる。取扱件数のみを判断材料とはせず、営業目標の達成率・お客様層・来局数・取扱商品の種類数・郵便事業収入・損益収支率等を考慮した社員数とすることが重要であると考える。その事がお客様待ち時間の減少・お客様サービスの向上を図ることが出来ます。その事牽いては自局収益に対する機器等を感じさせ社員の意識向上と、事業の発展につながると考える。 3.利用率の低い（収益が上がらない）商品（サービス）・改廃及び取扱局の選定。 郵便・ゆうちょ・かんぽ生命の商品の中に利用頻度が低かったり、殆ど取り扱ったことが無い商品が存在する。その様なサービスについては改廃の必要性を感じる。その商品（サービス）自体の改廃も考えなくてはならないが、事業会社の本店・支店等で扱う商品とする。あるいは、取扱店を希望等により選定することもなく考えなくてはならないと思う。	ー
			（2／2） 4.事業会社からの営業・内務事務担当社員の派遣・出向 郵便局会社の現況・実態を知っていただくためにも、営業・内務事務担当社員の派遣・出向を依頼する。地区GPに数名、在籍してもらう事で、事務ミス・重大事故の減少を図る。また事務手続き上の無理・ムダ・ムラをはぶくことができる。 5.窓口閉店開店時刻の変更 民営化し、金融庁検査・コンプライアンス・検査等の徹底が叫ばれている。それに平行して社員の時間管理・超勤時間等の削減も叫ばれている。現在の窓口閉店時刻では無理が多い（社員数・お客様来店数によっても違うが。）。現在の16時から15時閉店を実現頂きたい。お客様サービス低下ととられる部分もあるが、地区GP内の渉外担当配置局を時間延長で対応していただき、そのカバーとする。	

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
757	東京都	集配特定局が郵便局会社になり、郵便、ゆうちょ銀行、かんぽ生命の外務業務を20キロも離れた郵便事業会社から行くようになり、集金等約束した日に来てくれなかったり、不在の郵便物を20キロ先の郵便局まで取りに行かなければならなかったり、大変なサービスダウンがあります。都心では、20キロさきまで外務員が行くようなことは考えられないと思います。「都心中心、過疎地はどうでもよい」というような考えがあるようにさえ思ってしまいます。 近くの郵便局から受けられたサービスが、遠くの郵便局からになるとサービスダウンは避けられません。そのために、いろいろなことを聞いて検討されたと思いますが、改善されていないように感じます。 あまねく公平なサービスの継続をお願いします。 「サービスダウンはしない。郵便局は減らさない。営業成績は上がる。希望の持てる職場が実現する。」いいこと尽くめの民営化スタートでしたが。実際には、全て平均点以下の評価しかできません。 現場の努力が足りないといわれれば、「申し訳ありません」と、頭を下げざるを得ませんが、人も減らされ、国債購入や保険の説明に40分から1時間かけなければないない状況の中で、休暇も出し休憩もとらせ、その間に応援に回る人もなく、営業成績を上げなければならない。働きやすい職場、生きがいのある職場とは、かけ離れ、働きづらい職場になっています。 企業ですから業績をあげなければならないこと、そのためには無駄を省くこと、はもちろん必要ですが、人を大切にすることが最も重要ではないかと思います。人は企業にとって財産であると思います。私たちの職場は、機械相手にただもくもくと仕事をしていればよいという職場ではなく、郵便、ゆうちょ銀行、かんぽ生命、お客様に真心も一緒に販売している事業です。 希望の持てる職場が業績アップにつながると確信いたします。	ー	ー
758	東京都	ー	ー	私の住んでいるところから、1．5キロほど離れたところに、局長と職員一人の郵便局があります。以前にはそこの近くに農協もありましたが、撤退して今はありません。民間の農協が撤退したところに、民間になった郵便局が残れることは考えられません。もし、そこの郵便局がなくなったら、近くの金融機関まで7キロあります。車が運転できるうちはよいのですが、運転できなくなりますと、お金を下ろしに行くにも、本数の少ないバスで一日がかりになってしまいます。 外務員も民間同様に減らされ、約束をしていても来ていただけなかったり、一日どこへも出られず、ずーと待っていなければならない状況もあります。 高齢化社会で一人暮らしの方も多くなってゆきます。お金を下ろしてきていただいたり、話し相手になってあげたりと、いうことがとても暖かい気持ちにさせるのではないでしょうか。利益追求だけでなく、郵便局だからできる人に優しい郵便局であってほしいと思います。
759	大分県	小泉総理大臣により昨年10月に郵政が民営化になりました。郵政はもともと日本国民にあまねく公平にサービスを提供し、生活と財産を守る目的で発足し国営で管理されてきたものだと思います。 民営化とは営利主義であり儲かる事業を儲かるところにおいて経営するものであり、儲からない事業や儲からない営業所は縮小するのが原則であると思います。郵政は3事業と郵便局に分割されて一体運営であったはずの郵便局が違和感のある郵便局になって来ました。各種請求においても時間どころか日数を要し、サービスの低下になっている。私の町では農協の合併による窓口閉鎖の支店があり不便を感じています。残された金融機関は郵便局だけとなり今後の郵政のあり方に不安を抱いています。どう考えても地方切捨ての政策であり国民無視の政治であります。 昨今の社会情勢を見ますとどうも企業優先、国民切捨ての政策しか見えてきません。人を国民を大事にしない国に私たちは怒りを覚えるだけです。	民営化された郵政は元の国営に戻すことは不可能です。上記で述べたように郵政を国民の生活に密着したものにするには、株を国が一定以上保有しユニバーサルサービスを提供出来るものとすることだと思います。特に郵便局と郵便事業に関しては地方や離島においてサービス低下にならないよう維持していただくよう特にお願いします。	都市部には人口が集中し日本経済を動かしているように思えますが、本当に日本のことを思うなら地方に目を向け第一次産業を大事にすることが第二次産業・第三次産業の繁栄に繋がると思います。1がなければ3はありません。今こそみんなで考える時期だと思います。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
760	千葉県	まず、はっきり言って、「誰の為の」「何の為の」郵政民営化なのかサービスダウンが激しく、評価不能である。小泉純一郎は何を目的に民営化を行ったのか?この民営化に伴い、一番悪くあおりを食ったのは国民ではないか。今まで、ひとつの窓口でお金を下ろして切手を買っていたのが、ついたてがあり、お金を下ろす、切手を買うの2度行わなければならない。新規の通帳を作る、新規に定期貯金をする、今まではほんの数分で出来ていたものが20分から30分位待たせられる。これでは「もう結構です、銀行に行きます。」となってしまうのは、当たり前である。 そもそも、郵便局の存在価値はどちらかと言うと都会地よりも過疎地ではない か?JA始め、多くの金融機関が採算性から過疎地から撤退して行っても、郵便局はその使命感の元、サービスを提供してきています。しかし、民営化となると将来的には不採算地域は廃局であろう。そうなった場合、一番あおりを食うのは高齢者の多い過疎地の国民ではないか。 1,000円の年金を下ろしに行くのに、2,000円のタクシー代を払って町中まで行かなければならない。これがどうして民営化の評価になるのか? また、民営化により郵政事業は4分社化になりました。これについて、一番困っているのは国民の皆さんではないでしょうか?例をあげると、従来お客さまの所に近くの郵便局から集荷に行っていたものを、局会社では集荷が出来なくなりました。郵便事業会社に集荷を依頼しても、時間も不規則であり、かと言って高齢者のお客さまに郵便局まで持参してくださいとは、到底言えない事であります。 さらに、従来は特に過疎地にある郵便局は、「地場産業の育成による地域活性化」を視野に、積極的に「ふるさと小包」の開発に力を入れてきました。民営化により、本社・支社の考えは、利益追従第一に変わってきており、お中元・お歳暮等においても、見栄え・聞き映えのよいデパート商品を中心とする施策に変わって来た様に感ずる。これでは、過疎地切り捨てにならないか? この様なことから、民営化により、あまねく公平なサービスはもちろんの事、サービスダウンか激しいと言うのが評価である。	言わずと知れた「三事業一体経営」にすべきと考える。これは、国営事業に戻せと言う意味ではなく、事業の効率性、あまねく公平なサービスの提供、国民の視野に立った見解から、民営化前のように安心してサービスが受けれる様にするべきである。 今の日本社会を見た場合、高齢化の波は防ぎ様にない。その為に、特に高齢者が安心して生活できる環境を維持していくのか、公共性を持った事業としての宿命ではないかと考える。そのような高齢者の皆さんが「地元の金融機関」として郵便局にかける期待は大きい。その期待を裏切らない様な解営をしていかなければならないと考える。	この郵政民営化を執念の末行った当の本人、小泉純一郎は郵政民営化の行く末も見ずに政界を引退すると言う。あまりにも身勝手ではないか?最低限、3年ごとの見直し時期まで見守る必要と言うか、べきであると考える。
761	東京都	何も評価できるところはありません。多少商品は増えましたが目新しいものはなく、手続きばかりが煩雑になって待ち時間は増え、実質のサービスは低下しています。会社が分かてしまったために各会社間でコミュニケーションも取れず、「自分のところさえ良ければ良い」という風潮を呼び、グループ全体としての効率は下がるばかりです。 コンビニエンスストア業界も飽和状態であるというのに、郵便局がコンビニのような役割を受け持つ必要はありませんし、そのような役割を社会も期待していないと思います。 郵便局で働いている人から、民営化してよくなったという声は一度も聞いたことがありません。働いている人が働き甲斐のない会社が社会に貢献できるとは思えません。	現状のままなら何も期待するところはありません。今後新たな事巣へ展開をするとしても、それは同業他社への圧迫に繋がるだけで、郵便局という組織が大きいがためにそれこそ民業圧迫ということになるでしょう。例えば、印刷をしてある年賀はがきが郵便局で発売されましたが、この影響で従来から印刷済みの年賀はがきを販売してきた文房具屋さんや写真屋さんには売り上げの低下という結果が必ず待ち受けているはずです。 株式の売却にしても、社会に還元することはなく、一部の富める者がさらに富む結果になるに違いありません。 今ある銀行・保険会社と同じような全社がどうしてさらに必要なのでしょうか?民営化前と同じように、そこに行けば郵便も出せ、貯金もでき、保険金も受け取れるような組織が何故あってはいけないのかもう一度検討していただきたいと思います	構造改革の本丸と言って行った民営化の結果は大失敗であり、選挙時の自民党の公約は全くの"うそ"でした。現在の社会情勢を見ても、民営化したがために日本の国が良くなったということは何もありません。"うそ"で行なった選挙で大勝したために、かえって社会構造の歪みが生まれていると思います。内閣は非を認め、後退ではなく進歩いう意味で100年以上の伝統で培ってきた組織の良さを三事業一体の経営で生み出す方向をいま一度検討していただきたいと思います。
762	東京都	ー	ー	居酒屋の飲仲間に郵便局社員がいます。以前は郵便局という一つの組織でしたが、民営化後、仲間は三つの会社に分かれ、勤務状況等はバラバラのようです。 郵便事業会社で、配達を担当している者は、残業をやり放題のようですが、郵便局会社の社員は残業の予算が無いと言われ、仕事がたくさんあるのに困ったと言っていました。 皆、仕事で疲れて外で飲む回数も減っているようです。 私も、郵便局の窓口を利用する際、いろんな意味で待ち時間が長くなり、仕事に支障が出て、手数料等の値上げにも納得いきません。 以前は窓口にいる仲間に気楽に頼めたことも、今は規律が変に厳しくなったために頼めなくなり、その為のタイムロスを発生しています。 郵便局は、民営化前の方が活き活きしていたと思います。社員も客側も三事業一体が良いと思っている人が多いと思われますので、もう少し住民サービス等を優先させた制度に戻すべきだと思います。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
763	東京都	ー	ー	私は昭和五十四年四月に同じ地区会内の〇〇局に採用され、外務員として郵便物の配達をしながら、貯金・保険の募集をし、お年寄りに頼まれると、年金を届け、柱時計のネジを巻いたり、依頼されたことは何でもしていました。 これと同じことが、全国の特定集配局等では、民営化前まで続けられてきていたと思います。 先月、ポスティングで〇〇村を訪ね、あるお年寄りと会話させていただきました。老夫婦だけの世帯で、車が無く民営化前まで〇〇局の郵便屋さんに、貯金の払出し等をいつでも頼めたのに、民営化以降、週一回は担当の人が来てくれると言っていたのに、二週間に一回になり、今では、月一回がやっとで大変困っていると嘆いていました。 小泉劇場にやられ、今の政権でも国民を惑わすような政治が続いています。 お客さまのための郵便局を守り、ユニバーサルサービスが継続できる制度にしなくてはいけません。 解散総選挙も延々となり、苦しい時が続いていますが、お客さまに迷惑をかけない品質を維持し、根比べに勝ち、企業の発展が遂げられるよう闘います。
764	熊本県	1.「改革の本丸」と、国民を騙した郵政民営化という蛮行は、現下の政治、経済諸問題の元凶をなしている。 嘘で、国民を騙すことから始まった郵政民営化は多くの不都合(矛盾)を露呈してきている。 2.「全国津々浦々、三事業一体、全国均一適正料金」というユニバーサルサービスは、「国民の安心の砦」であり「国民が希望を委ねる星」でもあったが、今や辺地を切り捨て、高齢者など弱者から目を逸らせて、競争原理主導の貧富の格差拡大製造機構を構成しようとしている。 3.「三事業一体」の経営は、国民利用者にとって「一箇所、一人サービス」の利便が享受できて、世界に類のない効率的なサービス形態であったが、民営分社化によって、サービスは孤立化し複雑化そして煩瑣化したためサービスの低下は甚だしい。 4.民営化前の郵便局の経営組織は、個々の事業所に明確な役職を有した責任者が配置され、利用者にとってはスピードと安全と安心を保障されていた。しかし,民営分社化後の経営形態は明確さを欠き、事案の照会、問題の提起や解決の方法が要領を得ず、郵政三事業のサービスが遠い存在になりつつある。 5.個々のサービスで検証すると (1) 24時間利用できたものが、利用時間が限定されるようになった。 (2) サービスの遅延(郵便の配達時間、窓口の待ち時間)や煩雑化(窓口の本人確認方法等)も著しい。 (3) 小学校児童の社会科見学を「要員不足」を理由に断って、郵便局の存在を希薄にしている。 (4) 不在時配達郵便物の受取りも、比較にならない程遠い郵便局に行かなければならなくなった。 (5) 速達などその他の窓口サービスも遠い郵便局に行かなければならない。 (6) 年金の受け取りも不安である	1.国民の財産と労働の捷供から生まれ、育ってきた三事業一体の郵政事業を、国民利用者にとって最も利用し易すく、且つ安全、効率的にサービスを提供できる事業形態にするように見直してもらいたい。言い換えれば、国民の手に返してもらいたい。 人口の都市への集中と地方の高齢化はインフラとしての三事業一体の郵便局サービスが不可欠である。郵便局には資源に乏しい国土ながら、舫いと助け合いと和みの継続の中で培われ、“相互扶助”の精神で支えられてきた地域社会の伝統的な文化と円満な風土が息づいている。安全と安心を拠所に、働く希望と掲げ、生きる糧として郵便局にその零細な汗の結晶を託したものが郵貯と簡保である。三事業一体による郵便局サービスの復元を通して現下の政治・経済にわたる諸問題は解決される。 2.また、以上のような国民的財産である郵貯・かんぽ資金の安全管理のため、株式の売却は行わない。 況してや、外国資本への売却など論外で、「国民に返す」意味で、地方での有効活用が期待される。 3.当面、利用者のサービスを早急に回復し、真に経営の効率化と健全な発展を図るため郵便局会社と郵便事業会社の統合が急務である。 4,働き甲斐、生き甲斐を実感する職場づくりが肝要である。 窓口で垣間見る職場の雰囲気は過酷である。諸事務の簡素化と教条的な管理手法の排除が待たれる。かって、職場に展示閲覧されていた「職場開発」の手法による自由闊達な自主的・進取的な職場活動を期待したい・	1.ややもすると、地域から忘れられようとしている郵便局から、むしろ地域のランドマークとして、または地域コミュニティー(地域の情報集積所ないし交流センター)として存在するようその復活を期待する。 2.時に、島嶼・山間の辺地にも「生括・命」が存在していることを片時も忘れることなく、インフラ(命綱)たる郵便局は、そのあり様を考えなければならない。
765	群馬県	1)民営化になって得をしている人がいる。いったい誰なのか？政治家ではないのか？疑ってしまう。お客様は、誰一人として得はしていない。郵便局会社と郵便事業会社が同じ郵便局内にあるのに、違いがわからない？一方、問い合わせをすると、会社が違うので「そちらの電話してください」と言われた。小包の集荷を頼むと、郵便局会社の社員が出る。しかし集荷に来るのは郵便事業会社の人である。おかしいとおもわないですか？郵便局自体がなくなるのではないかと？不安です。	2)民営化になった以上もっとわかりやすい郵便局づくりをして欲しい。誰が見ても、簡易にして利用しやすい郵便局づくりを形成してほしい。郵便事業会社と年賀はがきを取りっこしている。同じ郵便局(集配)なのに、とても囲りからみても、みじめなさけない。郵便局を一つの会社にして欲しい。早急に臨む。節に願望する。	ー
766	静岡県	民間企業ならば当然であるが、民営化に成ってから「営業推進」「利益追求」にあまりにも突き進んでいる気がします。もっと、暖かみのある、国民のための政策を考えてほしい。	国民が期待しているサービスの低下にならないような方策を考えてほしい。分社化も、もう一度見直してほしいです。	郵便局の業務は公共性が強いので、民営化はなじまないように思います。国民の為を思った政治を期待いたします。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
767	長崎県	毎日のお仕事お疲れさまです。郵政事業が民営化されましたが、このことについて利用者の立場から若干の意見を述べさせていただきます。 そもそも郵政事業の民営化は、利用者の意見を集約した上で進められたものではなく、聖域なき構造改革という政治の情勢の中で、いわばトップダウンの意志により行われたものです。衆議院総選挙という民主的手続きをとり民意を反映したと当時の権力を掌握していた人たちは言うでしょう。しかしながら、民営化による事業展開が進められている現在、民営化以前の状態とは矛盾したものがあると思います。 郵便局内部の状況が分かりませんので、窓口ではかり知る範囲、利用者として郵便を受け取る者の立場として、コメントをさせていただきます ① 年賀状等の誤配がある。 ・集配局の変更により、配置転換された局員の方により配達されたと思います。地域の郵便局から、地域を知った局員により配達されるものと違い、誤配が生じるのは当たり前のことなのでしょうか。 ②郵便局の活気がない。 ・かつて、地域の郵便局として地元出身の多数の郵便局員によって運営されていた郵便局と比較し、局員が少なくなった局では、いわゆる職場としての活気も乏しくなっているのではないか。 ③効率重視による運営は、サービス低下につながるしかない。 ・「サービスの低下」はしないということを強調して郵政民営化を進めてきたはずでしょうが、効率・利益を優先した場合、とくに弱者といわれる人たちへのしわよせが来るのではないでしょうか。サービスには、黒字・赤字という観点だけではないものがあるのではないでしょうか。	ー	ー
768	大阪府	◎評価するに価しないと言わざるを得ない。 (理由)「民営化はお客様サービスの向上につながる」をうたい文句に実施されたが、現状は「サービスの低下」である。顕著な事例を挙げてみる。 ・窓口の待ち時間が異常に長い。貯金窓口はいつも待たされているお客の列で座る場所もない。担当者に聞くと、以前に比べて必要な書類や、証明資料が要り、その照合・写しの添付、事務の複雑化があるとのことである。毎日顔を出して顔見知りの隣の住人でも身分証明が必要とのことである。 ・地域との連帯が薄れている。これまでは「あなたの町の郵便局」として、地域の人から手軽な金融機関、物流拠点として愛され利用されていたが、全てが法規や規則でがんじがらみであり、年寄りなどに優しかった、地域に愛された姿は薄くなった。過剰サービスとか違法行為ということらしい。文字が書けないとか、字が読みにくい人に温かく接することが無くなった郵便局になった。 ・簡易局が激減している。利用者の極僅かな山間部や、過疎地の唯一の金融機関が閉鎖に追い込まれていると聞く。理由は事務専担者を置くことを義務化されたが人の配置ができないからやむを得ず廃止されたところが多いと聞く。利用者が少ないため必要経費を捻出できないが、地域住民の利便を考えて配置されていた簡易局は、農協などの協力でやってこられたが、専担者を当てるほどの手数料がなければ、廃止は当然でお年寄りなどを苦しめることとなっている。	◎ 経営形態にまで踏み込む見直しが必要である。 ・民営化ありきで突き進んだ結果が、歪を生じている。「お客様サービスの向上」とは何かの原点を忘れた民営化ではないのか。地域に愛され、地域とともに歩む郵便局とはどうあるべきか。もっともっと論議して、結果として経営形態の見直しが必要との結論ならそうしたらいいし、改善すべき点があるなら、それらを改善して、本当の意味の「お客様サービスの向上」になる民営化にしてほしい。	ー

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
769	北海道	民営化に至るまでの国会での議論では「サービスは低下させない」という答弁のくり返ししであった。しかし、結果は従来のサービスは確保されず 1、郵便の集配に関しては、地域住民の反対にもかかわらず集配局の統廃合が強行され、配達時間の遅延、再配達の減回と遅延、集荷時間の遅延等々、加えて独居老人の声かけや、自治体への情報提供など、付随するサービスは不可能となっている。 局間距離が延びたことによるサービス低下は明らかであり、今日もなお理解を得られないままだ。 2、貯金に関しては本人確認などでこれまでにないきびしさと、繁雑さが加わり利用者の不信を買い、確実に顧客を失っている。 貯金、保険とも、局外営業が全くなされていない。このままで分社化後のそれぞれの会社が維持できるのか、憂慮すべき状況と思う。	何を期待していいのか、とてもひとことでいえる状況にない。 民営化によって分社化する必要があったのかについてははいまだに多くの国民の理解は得られていない。グループ会社が連携し一体となって利用者に接することが信頼回復につながると思う。 グループ内の会社すべてが健全に運営されること、不採算だからといって過疎地の郵便局を切り捨てることのないよう願うばかりだ。	ー
770	愛媛県	山間地の特定局長として、郵政公社時代から民営化に至るまで、その準備に相当な時間と労力を要した。特に集配業務の再編成には、職員の配置換え、村の住民との話し合いなど、局長に過重な負担がかかり、自らも左半身が不自由となって、定年前に退職せざるを得なかった。 その結果、民営化にはこぎ着けたが、その成果には今でも疑問を持っている。配置換えを命じた職員には喜ばれず、地元への郵政サービス、例えば「ふるさと小包」などの地元貢献がおろそかとなり、今でも「民営化とは何か?」と振り返っている。	このような集配業務の再編成は、郵便事業会社だけに郵便外務員を統合集約し、旧集配特定には外務員を配置せず事業規模を縮小するという、郵便事業会社と郵便局会社との)分社化計画に基づくものと考えるが、このために、上記のような地元との連帯感の喪失、定員減による過疎化の進行、局長の過酷な負担などが生じたものと考える。 したがって、利用者の利便、地元の振興、事業経営の立場から、郵便局会社と郵便事業会社は直ちに合併・一体化することを、強く期待します。 ただし、民営・分社化前後から郵便局長の業務と責任は、著しく増加しているので、その負担軽減のため、物心両面から支援することが肝心であります。 また、山間地には他の金融機関がなく、郵便局は年金受領、預貯金の受払い、送金など、高齢者には無くてはならない生活の拠点であります。郵便貯金、保険業務を、永遠に郵便局サービスとして存続するため、両会社の株式売却は中止していただきたい。	ア　利用者の利便のため、郵便局ATMは、全局通年、午後6時まで運行してほしい。 イ　統合された郵便局の事務室・車庫等のスペースは郵便事業会社に貸付・活用すべきである。
771	岡山県	民営化が実施され１年が経過しましたがその中で特に問題となるのが次のとおりです。 （１）三事業を個別の会社にしたため、利用者である国民にその不便をかける部分を周知しなかったことによりいまだ窓口で混乱が生じている。特に郵便物の配達に関してはサービスダウンになっているため、民営化になればよくなると言っていたのは「ウソ」かとの苦情が発生しています。 局会社と郵便事業会社を分社化した利由が不明です。一本化しより利用者にとって利用しやすい郵便局にして下さい。 （２）貯金・保険の場合は民間企業になったんであれば法の規制は民間と同一であるべきです。貯金・保険の上限額は1000万円であり公社時代と同一です。民間になれば何でもできるとの話しはこれも「ウソ」でしょうか。 （３）利用者の方々は国鉄の大赤字が国民生活を苦しめているだから民営化を承知したと思います。郵便局は不良債権もなく、銀行と違って国からの公的資金投入もなく、安心できる金融機関であったはずです。その上大都市銀行の一部は法人税をも払わずとの声もききます。 このことから、この民営化が一体何のため、だれのためのものであったか理解できていないのが現実ではないでしょうか	民間企業として持続的に発展し、国家・国民の福祉等の向上を図っていくためには （１）郵政株式会を本社としその子会社に三事業の会社をぶらさげる方式がベターである。 （２）その理由 　同時に利用者が用件がすむ。三事業一体で仕事をすることで一人当たりの人件費が安価となる。 （３）郵便局は今まで利用者本位であったものが民営分社化後、手数料が一部ではあるが１０倍になった。これはサービスの低下である。 （４）地方経済を活発にするためには郡部の郵便局をもっと活用すべきである。 （５）民営化したものを国営にする必要はないが現状の会社が横展開できていない今まで以上の「たてわり」になっている。自由度が増すはずがいまはそうなっていない。 以上の理由で民分社化の郵便局にあえて期待と言うことであれば郵政本社、郵便事業会社、郵便局会社を一本化しその下にグループ企業としてゆうちょ銀行、かんぽ生命をぶら下げるようにしていただきたい。	ー
772	千葉県	民営化が始まったばかりなのでサービス状況など今後の進み方によるが、現状では従来のシステムとさほど変化なし。	民営化によって仕事が細分化して、より良いサービスが提供出来るか不安だが、よりきめ細かい住民サービスを期待したい。	ー

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
773	岐阜県	・公社から三事業が分社化されたことによって、すべての業務が変化し内容が複雑となりお客様が待つ時間が長くなり、局離れが加速した。 ・私たち簡易郵便局は地域のお客様とのふれあいを大切に、それぞれが一生懸命頑張っていますが、業務の複雑さと情報の変化に対応するのが大変です。 ・全国で閉局のニュースがある度に、あなたの局は大丈夫ですか? などとお客様に不安を与える事による局離れも多いと思われます。 ・簡易郵便局の閉局になる原因に高齢化と、業務の複雑化、受託者・補助者などの研修の仕方にも原意があるかと思われます。 ・分社化された事によって、この一年お客の数が減り、収入も減少して生活にも影響しております。 ・国民に対して政府公約であった全国くまなくユニバーサルサービスも、ほど遠く弱者いじめのごまかし公約であったのかとさえ思われる。 ・お客様に親しく信頼され利用して頂くために、郵便局会社と郵便事業会社が合併し事業を行うことが、利便性においても必要であり信頼を取り戻すことになる。	ー	ー
774	鹿児島県	郵政民営化直前、私は山間の僻地校に勤務していました。ちょうど学校の前に小さな郵便局があり、地域の人々がよく利用していました。特にこのような僻地は高齢者が多く、年金の受給や預金の出し入れ、子や孫へ山の幸等の送付等々重要な役割を果たしていました。 このような地域での経営は決して容易なものではなく、赤字経営がつきものだと思います。経営効率のみで存廃を判断していいものでしょうか? 郵便事業のような公益の要素が大きいものについては、すべての国民が平等にサービスを享受できるようにしなければならないと考えます。そういう意味では、高齢化が進む僻地には都市部以上に配慮が必要ではないでしょうか! 益にのみ走っているような気がしてなりません。是非元に戻していただきたい。	窓口に行っても分かりにくい。同じ空間にいるのに会社が違う。昔は会話もあちこち飛び交ったりして、温かさを感じていました。今は何かちぐはぐな感じを受けます。集配局の統廃合だったり、特定郵便局の廃止など費用対効果のみで動いているようで残念です。本来の趣旨・目的に沿ったものに戻して欲しいと思います。	公益事業の運営は利潤追及のみの視点ではいけないと思います。すべての国民が全国どこでも平等に、安心して暮らせる条件整備という側面を最優先すべきです。できれば一昔前の郵便屋さんのような存在が復活できればと切望します。
775	愛知県	民営化により、地域の切捨て、サービスの低下が心配されたが、思ったよりは混乱なく移行された気がする。しかしながら、地域によっては、ATMが撤去されたり、郵便収集時間が早くなったり、配達時間の大幅に遅くなったりして日常生活や事務所、会社の業務に支障が出ていることもしばしばある。 窓口においても、今までは、どこの係りに言っても、ある程度のことまで教えてもらえたのに、「それは、かんぽ会社に‥」「それは郵便事業会社で‥」等の答えが返ってきて、地域の身近な郵便局という親しみが無くなった。 「なるほど、これが分社化による民営化」と実感するが。ますます、超高齢化社会になる、我が国で、このような改革がはたして必要だったのかと疑問に思う。機械や、コンピューター、複雑な経済社会についていけない高齢者に安心して利用出来る郵便局は、国の責任で維持し改革すべきではないでしょうか。	民営化しなければ出来なかった、利用者の立場に立った新しいサービスを開発してほしい。	ー

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
776	愛知県	マイナス面として「郵政事業を民営化しなければならない」という説明が、当時の小泉内閣から十分に国民に説明・発信されていないことがあげられる。「郵政事業は民営化」一辺倒の小泉劇場が残した爪あとは、「サービスの低下」というあってはならない状況を招いている。 最近の報道によれば、「なくさない約束」の郵便局が減ってきているとのこと。地方の簡易郵便局は住民の安定した生活を後押しする役目があると理解してきたが、民営化の実施により400有余の局が郵政事業の取扱を廃止したことは、利用されてきた住民には大きな問題であろう。金融機関の合理化による金融サービス低下を補う機関としての役割が期待される簡易局の減少は、国民の財産の減少と見るべきではないか。 地方の郵便局はその地の宝といわれ、高齢化が進む地方の人たちにとって何事にも代えがたい重宝された存在であったと聞く。ところが民営化の実施により「重宝」が「不便」に変わった。ワンストップサービスは闇の中に消えた。老人が遠い役所まで本数の限られたバスで出かけなければならなくなった。遠くに住む息子や娘に手づくりの野菜など送るにも郵便物の戸別集荷がなくなった。 窓口では、同じ地域に住み顔見合わせている郵便局長から“身分を証明書するものを”と求められてどぎまぎする老人の姿・・・などが現実化している。 都市部の郵便事業会社の郵便交付窓口はいつも行列。郵便局窓口は別会社。利用する国民には理解するのが難しい。	民営化法による見直しは、「改革」という言葉や文字に惑わされない内容で現実を正しく見つめた上で論議され、「サービスアップ」が具体化されることを期待する。 郵政事業の今後は、何をおいてもサービスの向上と事業の信頼を確固たるものにしてほしい。そのためには、民営化した枠の中で郵便、ゆうちょ銀行、かんぽ生命そして窓口機関が一体となって全国一律の普遍的サービスを根幹として運営されていくのが望ましい。 民営化として株式の問題が残っている。全額放出せよとの民営化法ではあるが、株式の自社保有も相互保有も、国民の財産としての郵政事業として認めるべきで、ファンドなどによる勝手な運営は排除されなければならない。 大きな格差を生んだ地方の郵政事業ほど従来の形で運営され、地方自治体との連携も復活させて住民の宝として存在し続けてもらいたい。	郵政民営化が残した成果は何か?と自問しても窓口サービスや集配区域の変更やらマイナス成果ばかり。これは矢張りスタート時点で明瞭な理由説明や、国民・利用者のはらに納まる将来像の提示などが十分できていなかったことにある。反省すべきではないか。 民営化といえども、国民全体が均一で普遍的サービスが享受できる日本国の自慢できる郵政事業である。国民全体の財産として、郵政事業が発展してくれることを望みたい。
777	愛知県	・ユニバーサルサービスの実施で国民の評価が高い。 ・三事業一体型の経営で経営が案定している又国民の利便が良い。	・郵便事業と窓口業務を一体化しサービスの向上を図る。現状は窓口の待時間が長くなる等、職員の知識が浅く説明に時間がかかっている。郵便事業と窓口業務で同じ仕事をしており非効率である。 ・郵便・貯金・保険の三事業一体の経営とする。現状の分社型では、過疎地域の経営が成り立たず窓口の閉鎖に追い込まれる。	・三事業一体の経営により人事交流と相互応援を可能にする。現状では、同一局舎に二事業、三事業が存在し、会社間での人間関係が希薄になっている。
778	広島県	お客さまをお待たせする時間が長くなった。書いて頂く用紙も多くなり、お客さまからのクレームとなっている。「分社化」には「郵便局」が非常に弱い立場となり、ますますの事務繁忙の原因となっている。	まずは銀行・かんぽ生命の株式売却凍結。郵便局会社への統合・合併。限度額廃止。(貯金・かんぽ生命)	H19.10以降、郵便局の現場で働く私たちには「委託元」の三事業会社より、日々手続の改正等の文書が送られています。民営化前よりも分社化のせいでますます縦割り組織となってしまい、現場の職員の能力の高さに支えられているのが現状です。お客さまの方に向いて仕事をしたいのに、会社の姿勢からは反対の思いをしとるのかと疑いたくなるような文書の多さ・まずさばかりが目立つ文書が日々届きます。乱筆文で申し訳ありません。何とぞいい方向への見直しをお願いします。
779	栃木県	(1／3) 郵政民営化は、何もかもうまくいっていません。早急に根本的な見直しが必要です。そのためには、郵政の株式を売却してからでは間に合いませんので、まず、真っ先に株式の売却を凍結する手立てを措置して載かなければなりません。そのうえで、以下に申し上げますような問題点について、早急に見直しして戴きたいと強く念願しまして、意見を申し上げます。 先の、いわゆる郵政選挙において、当時の小泉総理は「民営化をすればサービスが良くなる」と声をからして叫んでいました。しかし、民営化から1年2月余を経過した現在、郵便局会社はじめ郵政4社の現状は、小泉総理の言っていたこととは全く正反対の、実に嘆かわしい現状が出てきております。 一方、郵便局会社等に働く職員は、民営化以前と同様に、真面目に真剣に職務に精励しております。このことは、私の知る限りにおいてどこの地域の郵便局であっても真摯に勤務されており、その仕事振りは高く評価出来るものであります。 しかしながら、民営化されて関係4会社は、関係法令、制度、仕組み等が公社時代と全く異なる組織となり、お客様不在の営利会社となってしまい、国民の失望、不信、不安、不満、戸惑い等々がどの会社にも満ち満ちていまして、現在の郵政事業は弊害だけが目立っています。 公社以前の時代にサービスを享受してきた国民・利用者にとっては、あまりにも大きな変革に、戸惑い嘆き、憤りを感じているのです	ー	ー

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
		（2／3） 例えば、次のような問題点が顕在化してきております。 ①窓口における同意点として ・求められる本人確認の証明や書類が繁雑化 ・待ち時間が大変長時間化 ・各種手数料の値上げ ・職員の事務処理が円滑に行かない(不慣れによる遅延・誤処理等を含む) ・ATMの撤去 ②郵便物の問題点では ・誤配の増加 ・差出から配達までの所要日数の増加(配達の遅れ) ・不在持ち戻り郵便物の受け取りの遅延 ・時間外窓口の閉鎖 ③多数の簡易郵便局の閉鎖		
		（3／3） その他にも、利用者・国民が困惑、迷惑している問題が少なくありません。郵貯銀行で唯一救われることは、ATM送金で振替送金手数料を0円に留めおいていることです。もっとも21年9月末までの措置とは聞いていますがありがたいことです。 130年有余営々と発展してきた郵政事業は、国営公社として三事業一体の経営で、国民の汗の結晶である税金のお世話になることもなく、しかも郵政三事業全体として黒字経営を維持してきました。そして、多くの国民・お客様から親しまれ、愛されて、それぞれが我が地元の郵便局という意識を持って利用されてきました。 現在の民営化された会社を見るとき、制度面はじめ要員面でも、施設面からも非効率、不合理な経営が顕在化してきており、日本郵政の西川社長が「連帯感を持って経営にあたります」と叫んでみても、昨年の年賀はがき販売時のトラブルのように利害の相反する会社組織では、合理的、効率的な経営が期待できないばかりでなく、このまま推移すれば、会社として存続し得ないような経営状態に立ち至ることが大きく懸念されます。経営形態を見直すことは不可能であるとしても、民営化前のように三事業一体経営に見直すことを強く望みます。 郵政事業を深く愛する者の一人として、民営化された郵政事業の現状に、強く真剣に憂慮するものであります。国民にとって大切な郵政事業を今後発展していけるような見直しを是非お願い申し上げます。		

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
780	兵庫県	郵便局は極めて公共性が高く身近な存在で利用者の立場に立った事業内容で有ります。山間部の小さな町の住民からすると極めて有り難い企業です。昨年に民間の仲間入りをされ、 ① 接遇も良くなりました。 ② 公金取扱手数料も一部無料になりました。 その反面、 ① 分社化による業種間の連携が利用者からみて一体性がなく違和感をうけます、一体性が見えるように見直しをして貰いたい。 ② 小さな局でありながら会社間の隔壁が設置され私達から見ると異常感を感じます、見直しが出来ませんか。 ⑨ 地域の大きな雇用場所であったが非正規社員が半数近くにもなったようです、正社員化出来ませんか。 ④ 貯金保険の限度額据え置きは、利用者としては他の(民間)会社を使うしかありません。郵便局も限度額をはずして競争原理で経営ができるようにすることが、利用者サービスの向上になるのではありませんか。現状では郵便局を使いたい利用者が不利益をこうむることになると思われます。改善を望みます。 ⑤ 国家事業の安心感と人と人とのつながりによる倍額感が希薄になった様に思えます。 ⑥ 提出書類が煩雑になり時間が掛かる様になったと皆が感じています、簡素化は出来ませんか。 ⑦ 不在時の授受が20数キロも離れた局が管理局では、老人の利用や車利用が前複の地域では非常に不便になってしまいました。 総じて、利用者が不安感や不信感を抱く状況下で、職員の職業に対する使命感が醸成出来るのか危惧をし心が痛む思いです。	民営化間もない過渡期で有るが故に緻密な配慮で、住民や利用者が心が豊かになるようなサービス提供を願い期待するところです。 ① 町の雇用創出の場として発展をして欲しいです。 ② 民営化した以上は限度額の撤廃を願い、特に集落等の公金的資金の限度額撤廃を早期に実施していただけるようお願いします。 ③ 特に郵便事実に於いて、対等な競争原理の名の下で、山間部や離島が価格を含めて取り残されないように期待します。 ④個があってこその集団です。大企業や大口利用者だけに目線をおかずに国民の利便性安価性に主眼を置いた民営化にしてください。 私達の願いは多種多様ですが、民営化に期待するがためのものとご理解下さい。	ー
781	千葉県	使い勝手が悪くなった。	民営化になって良かったと感じられる様なシステムにして欲しい。	元の郵便局にもどって欲しい。
782	福島県	民営化によって良くなったことは認められません。郵便、貯金、保険事業が一体となって連携運営してこそ、効率が良く、行きと届いたサービスを提供出来たと思います。分割のロス、サービスの低下が目立ちます。 窓口に行っても事業会社ごとに分かれているので、利用するに不便となりました。待ち時間も増えました。郵便配達の回数も減りました。簡易郵便局数も減少して不便となりました。 貯金事業に関しては手続きが煩瑣すぎるのではないでしょうか。	三事業が連携して運営できる方策を考究して頂きたい。それまでは郵政株式の売却は見合わせてほしい。外国資本に買収されることも考えられて将来が不安で一杯であります。	ー
783	山口県	簡保の入院の手続について必要書類を求められるもの全て提出して保険金が支払われたのは約1ヶ月？？？以前は手続きして1週間以内に支払われていた様に思う。	インターネットが普及し郵便局には全国ネットワークもある。もう少し早く処理？？その都度お客に経過を知らせる。	ー
784	岩手県	地方の簡易郵便局では、業務量の割りに委託手数料が安い為、契約解除し廃局が増加している。従って、遠方（10km～15km）地帯の高齢者は窮地に陥っている。	安定した経営にするため、三事業一体化が必要。	簡易生命保険限度額1,000万円に決って30年。限度額引上げが時代の波と思われる。
785	岩手県	良くなった点　接客態度　防犯意識の高揚が図られている。 悪くなった点　窓口での求められる書類等が非常に多くなったこと。(本人確認等) 地域に開かれた郵便局づくりの姿勢が無くなってきたこと。 利潤追求のあまり、他企業には無い郵便局の良さが薄れてきたこと。	三事業一体で、ユニバーサル・サービスの提供が出来る国営を願うので民営化への期待は特に無し。	1)採算の取れない地域の郵便局を無くさないこと。 2)貯金、保険の限度額の排除。
786	静岡県	1.これまでの郵政民営化に対する評価→非常に悪くなったと感じています。 ① 郵便の配達では、私の家のまわりの配達日時が午前11時～12時だったものが、最近では、夕方の5時以降になっています。 ② 窓口の対応も遅く、紋切り型の対応や、今までは、簡単に取り扱ってくれた事ができなくなり、なんでですかと聞くと、上からの指示でなどという返事がかえってくるなど、親しみのある対応、親切な対応が消え、ここ1年くらい前から、郵便局のファンだった年配の女性等から、郵便局は嫌いになったといった声を数人から聞きました。 ③ 保険や貯金のセールスの方の訪問が、最近の1年なくなりました。 ④ 職員の仕事ぶりからは、明るさが、見られなくなっています。	2.今後の郵政民営化への期待→今の状態が、かってのように親しみのある、親切な事業になるよう期待しています。 ① 郵便事業会社、郵便局、ゆうちょ銀行、かんぽ生命の職員がもっと伸び伸びと仕事のできる環境を整えて、国民が便利に、気持ち良く利用できるようになることを願っています。 ② かつての郵便局は、郵便、貯金、保険の3つの事業が一体となって、取り扱ってもらえたので、とても便利でした。 民営化になっても、それに近い扱いをしてくれる体制になることを願っています。	ー

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
787	北海道	「非常に不便になりました。」と、申しあげる理由として、民営化以前も貯金、保険の金融部門は土曜日、日確日は完全に窓口閉庁でしたが、郵便部門は午前中引き受けて頂き、その時間内で「郵便レタックス」の送信引き受けはしていただけました。しかし、民営化後の、土、日の二日間は郵便部門も完全に引受けなしで、土日の急な催しや弔辞に利用できなくなりました。郵便部門や小包、宅配は、土曜日の配連や日曜日も営業しております。土曜日、日曜日の「郵便レタックス」の連続二日間の休みは非常に不便になりました。	ー	ー
788	北海道	郵便局が民営化になって不便になったこと ・電信為替で送金出来なくなったこと ・定額小為替の料金が高くなったこと ・窓口に行ったら時間がかかること ・郵便局が元気でなくなった 以上不便な事を記入しました。	ー	ー
789	北海道	民営化になってサービスが良くなると言っていましたが良くなっていませんね。電話で小包の集荷をお願いしましたが集荷が出来なくなりましたと言われました良く知っている郵便局に出したかったのに残念です。	ー	ー
790	神奈川県	・郵便局の窓口について 郵便局の窓口についてですが郵便局が民営化になってから何かめんどくさいことがありませんか?例えばこの間、書留などの不在通知があったため郵便局に行ったのですが、その時郵便局に行ったついでに葉書と切手を購入したかったので、書留の不在通知を局員に渡したときに、私が局員に「葉書と切手がほしいんですが」と言ったら局員がこちらの窓口ではなく、あちらの窓口で」と言われ、今の郵便局では、書留の不在通知での受け取り窓口と、葉書等を売る窓口は別です。会社が違うと思います。 葉書等を売っているのが、郵便局㈱の人で、書留を受け取るのが郵便事業㈱です。この為に同じ窓口で一度にすることが出来なくなりました。 でも窓口の人も、郵便配達の人も一生懸命に仕事をしています。とにかく事務手続きが増えたようです。不在郵便とは別に通帳の住所変更などもろもろの手続きをしに郵便局に行きましたが、手続きに1時間20分かかりました。一人の局員が一生懸命あちらこちらから書類を出して説明したり書類を揃えたりしていました。 ちょうどお昼前に行ったのですが、その手続きが終わったのが13時20分でした。 でもその時間まで窓口の人は他の2人の人も含めて、昼食抜きでした。 今の窓口の人は、手続き代行業のような存在で、郵便関係は郵便事業㈱、貯金関係は㈱ゆうちょ銀行の、簡易保険関係は㈱かんぽ生命のための手続きを代行しているだけのようです。 これだけ手続きが面倒になれば、代行業だけでは利益が少なく、到底ボーナスなどは出ないだろうと考えてしまいました。 振込み手数料等も大幅に値上がり、私たちに対応してくれる人は、忙しくなり待ち時間は長くなり民営化された郵便局はとてもお客には不便になったと感じます。	公社から民間会社となり業務なども複雑化してきている様子があるため、以前の郵便局とまでは行かないまでも業務・サービスの改善を行ってもらいたい。	ー
791	群馬県	かなり不便になってしまった。小泉氏、竹中氏にだまされたかんじがする。バラ色のようなこと言ってたのに・・・現状は真逆である。	本当のサービスレベルアップをしてほしい。できないなら、国営、公社にもどすべきだ。	ー
792	愛媛県	少し混乱しているように思えます。	安定した経営をされ、地方から郵便局がなくならないことを過剰なサービスよりも、希望します。	ー
793	高知県	郵政事業を分散化して、地方(過疎地)・高齢者の切り捨てを推進するだけの民営化は絶対許せないと思います。アメリカの要求ばかりを優先するような政策には疑問を感じます。民営化し、振り込み手数料も値上がりして、新しい切手や設備にどれだけのお金がかかったのか？それが私たちにどれだけのサービスとなって返ってくるのでしょうか？郵便局だからという安心感が崩れているように思われますが？ノルマノルマで走りまわっている職員も大変でしょう！	民営化前に戻せないだろうか？	ー

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
794	岡山県	ー	（1／3） 昨年10月から4つの会社に分かれて新しい郵便局が始まりました。郵便局はどこに向かっていくのかも新しい事案を始めていくのか。今までの仕事はきちんと続けていけるのか。非常に楽しみにしていました。私の利用しているのは、昔は特定郵便局と呼ばれていた町の小さな郵便局ですが、職員さんはいつも笑顔で郵便局に迎えていただいていました。そのことは今もぜんぜん変わりがないのですが、事務室の中で仕事をされているところを見させてもらうと、非常に忙しそうにたくさんの書類を作られているのを見受けます。私のお願いした仕事は民営化前となんら変わらない内容のものでしたが、待たされた時間は今までの倍以上ではなかったかと思います。記入した書類もたくさんありました。そのたびに「民営化に伴い必要となった書類です。大変お手数ではありますがご記入ください。」と、窓口で一緒に待っている人たちに頭を下げながらお願いしておられました。そんな状態をみていて、どうして民営化をしてしまったのか。簡便な利用をうたっていた郵便局はどこに行ってしまったのか。国営の郵便局だからこそ国の機関として郵便局があるからこそ、気軽に「あなたの街の郵便局」というキャッチフレーズでいつも利用させていただいていた私たちの「郵便局」はどこにいってしまったのか。残念でなりません。	ー
			（2／3） どう考えても、かの小泉内閣がただただアメリカのために国民の大事な資産をアメリカのために開放したとしか思えない。いまの状況で絶対に株式の売却だけはしないでほしい。民営化したものを国営化にすることはできないかもしれないが、国有化は可能であると考える。 今後の郵便局の進む方向として、一番に望むものは、4つに分かれた郵便局を一つに、つまり民営化前の状態に戻してほしい。 特定郵便局をみていると、郵便事業会社・ゆうちょ銀行・かんぽ生命・郵便局会社という4つの会社の商品チラシがそれぞれに分かれて置いてある。これを一つの会社として経営をしていけば、郵便・ゆうちょ・かんぽという3つの看板商品をもつ一つの会社として業績も上がるのではと思われる。 バラバラに行っているセールス活動も、軸となる一つの会社主導のもとで人数的にも厳しい状態であろうとも効率的に行うことができる。働いている社員の人たちの意識の統一も図れる。というのも、民営化後はとてもたくさんのキャンペーンを見てきたが、どんなキャンペーンなのか、いつまでなのか、どうすれば参加できるのか。社員さんに聞いても、たくさんの資料を広げて回答してもらうのだが、即答いただけることは少ない。たしかにたくさんのチラシはロビーにおいてはあるが、それを紹介するアナウンスもない社員さんが声をかけて教えてはくれるのだが、いつも忙しそうなので、わざわざ時間を割かせるのも申し訳ない。	
			（3／3） そこで、なにかアナウンスのテープでも流してくれればいいと思い、提案してみたが、著作権のからみがあり単独ではできないとのこと。いまの世の中、目で訴えているだけではなにも変わらない。目で見て、耳で聞くことでいま何をしているのかがわかるということが少なくない。ましてや営業の会社などと言っているのであれば、CDにでも音声をいれてバックミュージック的に流して、耳からの情報を発することによるキャンペーン等の浸透のスピードは速くなると思われる。 郵便局という一つの会社として活動ができるようにしていくこと。これこそが次のかたちであろうと考える。一つの会社にしてからのほうが今後の民営化のありかたというものが見やすくなる。 私の求める今後の民営化への期待は、郵便局という一つの会社にまとめることによる、会社の統一性を図ることである。	
795	岐阜県	窓口が以前に比べ待ち時間が長くなり、不在時の郵便物を受け取るのに遠くの局まで連絡が必要になって、すぐに受け取れないため大変不便になったように感じる。	以前のような一つの窓口で全ての取扱いを行ってもらえる郵便局にしてもらいたい。今すぐの郵政グループの株式売却は行わず、再度郵便局利用者の意見を聞いて再検討するようにしてほしい。	政府には郵政民営化の見直しを再検討してもらいたい。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
796	山口県	民営化されてもサービスは変わらないと思っていましたが、明らかに低下しています。システムが変わったということがあるようで窓口の待ち時間がとにかく長い。保険の満期金を受け取るために30分も待たされました。郵便の不在再配達の連絡をするため電話をしても話中が多く遠い郵便局からの配達になるため時間がかかる。	三事業を一体化して一人の職員の人に何でも頼める今までのシステムに戻して欲しい。誰のための民営化だったのでしょう？国民のニーズに合わせて欲しい。	ー
797	北海道	民営化前は、民営化後は郵便局が良くなると言っていたが、実際は、振替え料金の値上げ、電信為替等の廃止など不便になることばかりである。特に電信為替の廃止は、香典等を送る手段として必要だったもので、書留で送ったのでは間に合わない。地方ばかりが切捨てられ、格差社会が広がっていくのではないか。	今までは、特に期待もできない。	公社時代の郵便局で何も問題無かったのではないか。早く元の姿に戻してもらいたい。
798	岐阜県	私は郵便局長です。特に最近、ある意味当然かもしれませんが利益を追求しています。ただ、それが度を過 ぎ、いわゆる「自爆営業」に走っています。目前の純増が欲しいあまりに保険を解約したり、「ポストマンDVD」を自費購入したり、数え上げればきりがありません。またその手法にも既に疲弊感すら覚えます。	国営に戻すことは難しいにしろ、せめて三事業一体経営としない限り、近い将来ドイツの二の轍を踏むことになるでしょう。	自爆営業、三事業バラバラの将来が見えない会社では、働き甲斐も消え失せます。明るい未来を形成するため、三事業一体経営に戻ることを強く期待します。
799	宮城県	庶民感情を無視した極めて不自然な自由競争主義の一方的な改革理念の強行であり、評価できない。	まず、庶民感情の根源にある危機感とは何かを議論するところから洗いなおすのが政治の常道と反省し、明らかにアメリカなどの圧力と感ずる前提条件を除外してから、勇気ある見直し論議に再構築することを期待している。	足元ばかり見ず未来を見据えよ 郵便貯金は庶民の心の支え ○○県の南部、○○市にある○○公園の一角に「○○町二百三年据置郵便貯金碑」と彫られた大きな石碑がある。平成18年7月13日付け河北新報記事によると、「大正15年、当時の○○町長○○　○○が私費100円を拠出し、『これを郵便貯金とし、203年間払い戻しをしてはならない』と書き残し現在に至るまでその通帳を歴代の首長が守り続けている。当時の町財政規模は年間10万円。百円を当時の郵貯利率5.04%で計算すると、203年後には元利合計203万円になる。年利は10万円と利子だけで町財政を賄えるようになる。その後の金利変動もあり貯金の現在高は3,500円余り、目標達成は予定より遅れ気味になろうが、○○現市長は『壮大なロマンだ。足元ばかりを見ず未来を見据えよ、との戒めと受け止めている』と志を受け継ぐ決意を語っている。」と記している。 私は大恐慌期の昭和○年生まれ、戦中戦後の貧乏人は 麦を食えの窮乏生活を経て、消費は美徳と騒がれた時代にも無縁に過ごし、親と子供の世話から解放された退職後は「さあこれからゆとりある文化生活」をと夢見た矢先にバブル崩壊後のゼロ金利政策で夢も瓦解、ささやかな退職金を安全な郵貯に預けたら、制限オーバーだから払い戻せ、その行く先をどうしたらよいかと相談したら、投資信託にと勧められお任せしたら途端に大暴落。経済や金融の行方をしっかり見据え、老後も困らぬよう勉強し家計を固めなさい、と識者が言っておられるが、自分の生活を省みて浪費もせずに、ギャンブルにも目もくれず、平凡だが手堅い生活を送ってきたつもりのどこが悪かったのだろうか？と悩んでいる。郵便貯金は、物心ついたときから安心して付き合ってきた私の大事な金庫。郵貯が民間銀行を圧迫しているから、民営化して危険分担せよ、何も知らない庶民はもっと金融経済の勉強をし家計の危機管理にも責任を負担して貰おうではないか！と政府は経済失政の付けを、何も知らない、何もできない庶民に押し付けてきたとしか思えない。政府は足元ばかり見ずに未来を見据えて欲しい。明治初期に、お寺の和尚さんが地域の貧民たちに5厘を与え、貯金通帳を持たせて貯蓄心の涵養に努めたという先賢の教えを改めて想起し、郵便貯金の存在を今一度見つめ直して欲しいと願うあまり、この機会に意見を申し上げました。
800	神奈川県	大失敗。評価すべきところは何もない。分社化した会社がそれぞれパイの奪い合いをしている。郵便局に仕事を委託しているとは思えない。	郵便局は国民が安心して利用できるインフラであるべき。現在のような経済情勢では特にそれが求められる。	株式処分凍結法案を支持する。絶対に郵便局を海外のハゲタカファンドの手に渡してはならない。
801	宮城県	郵政民営化がスタートして1年が過ぎましたが郵便局 を利用する人たちにはすごく不便をかけていると思います。国民の多くは、郵便局を民営化にすればもっと郵便局がよくなると思っていた人は大半だと思います。しかしながらどうでしょう、よくなるどころか待ち時間は長くなり、手数料は上がり、書留は遠くまで取りに行かなくてはならず不満ばかりです。国民は、このようなことを望んでいません。もっと身近な郵便局になるよう早急に見直しをしてください。	利用する人が利用しやすい郵便局にしていただきたい。そのためには、手続きを簡単にし、手数料をもっと安くして気軽に利用できる郵便局を望んでいます。郵便局はその地域に密着した金融機関であり、安心して利用できる郵便局になるよう期待します。	ー
802	福島県	まったく、利用者（国民）をないがしろにした改革だ。自民党の手前味噌、米国の言いなり、国民不在の改悪だ。いったい、郵政事業を何処に向かわせようと言うのか？こんな事をしていたら、日本はいずれ崩壊する。	分社化は事業の運営に大きな支障を来たしている。また、国民に迷惑をかけると共に、困惑を与えている。三事業一体に戻すべきだ。	競争原理だけに基づく社会づくりでは、国は滅びる。
803	北海道	民営化して良くなったところはなく、全てが不便になった。再度配達を郵便局に連絡しても、会社が違うため に、○○まで電話をしなければならず、とても不便である。また、今まで、配達の方に貯金や保険のことを頼むことができたが、会社が違うのでと言われる。しかし年賀葉書は両方の会社で売りにくる。いったいどうなっているのか。	今のままでは何も期待できない。悪くなるばかりである。	元の郵便局に戻してもらいたい。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
804	東京都	利用する側の意見として、大変不便を感じる。 1．手数料の値上げ。為替等の振り出し手数料が3～10倍。 2．商品の廃止。電信為替は全国何処でもその日の内に（手続きの時間によっては翌日）配達となる非常に便利な商品であるが廃止となってしまった。 3．待ち時間。手続きが複雑と成っているせいか民営化前に比べ待ち時間が長くなった。 以上の点以外にも不便を感じる事もあり、民営化したことにより弊害しか感じられない。	郵政三事業は分割されているが、民営化前のように一体化となれば解消される部分が多いのでは無いでしょうか。	郵便局の良さは、全国何処にいても同じサービスが受けられ、信頼のあるところがすばらしいと思います。ゆえに、郵便局の数を減らしてはならないと感じています。
805	群馬県	民営化当初、局数は減らさない方向でしたが、簡易局においては閉鎖局が相次ぎ、お客様へ大変なご不便をかけているとメディア等により報道されたところです。現在は簡易局の閉鎖による弊害は再開局の増加によりまして幾分緩和しつつある状況ではありますが、減少させては元に戻すという流れの中でいったいどれだけの、資金の無駄や利用者へのサービス低下を招いたのか計り知れないものがあると思われます。民営化スタート時の局数にほぼ戻ろうとしている現在の簡易局再開の現状は、お客様の利便性とユニバーサルサー ビスの展開を行っている郵政グループには朗報であると思います。しかし、サービスの提供を行う時コスト面を考慮しますと現状のサービス提供方法は、3事業を分割した為、非効率となっていると思われます。なぜなら民営化以前に行っていたサービスと同様のサービスを提供しているにも関わらず、直営店、支店、郵便局等とサービスの提供箇所を増加させたに過ぎないからです。ご利用されるお客様からすれば3事業の取扱を行っている郵便局で事が充分に足りてしまう環境は依然と変わらないはずです。民営化後を振り返れば、お客様サービスが低下した部分がクローズアップされていますが、むしろ3事業を分割してしまった事がクローズアップされるべきところではないかと思います。その事が必要以上にコストを上昇させ、それがお客様への負担やグループ各社で事業に携わっている社員等への負担に繋がっていることと痛切に感じています。しかしながら現状の中で、今後お客様へ良質なサービス提供をする上で最も大切な事は、グループ各社で3事業に携わる全社員が、やりがいのある会社と思える職場環境下で民間会社としていかに営業利益を挙げそれをどのようにしてお客様へ還元してゆくのか、これに尽きると思います。その為には、簡易局の閉鎖そして再開というような経過を辿ることなく、今後の民営化見直し論の中では民営化ありきの視点ではなく、真に利用されるお客様の利便の向上を図る為に、グループの事業展開をどうすべきかという事を念頭に置き議論されることを期待します。	過疎地における、他の民間金融機関等の撤退が進む中で郵便局の果たす役割は今後も必要不可欠であり、且つ大きいということ、又それを今後も引き続き実現できるのは、ユニバーサルサービスの展開を現在も行っている郵政グループ関連会社以外に無いと確信しております。あるお客様から以下のようなご意見を頂きました。「郵便局が民営化された時はそれで良いと思っていました。しかし民営化された今は、民間になったということで少々過剰なサービスを提供しているのではないか、民間金融機関でも行っていない事をする事により、窓口等で働いている社員の皆さんに事務の負担がかかり、それが返って利用者へのサービス低下を招いているような気がする。ひとり暮らしのお年寄りを大切にするような配達員による声かけや、嘗ての郵便局のような隣近所のお客様との関係が必要ではないか…人と人との結びつきを考えた公共的な機関であって良いと思います」 このお客様のご意見は一例に過ぎませんが、お客様の立場を考えたグループ会社の今後の取組は基より、日本の国内において地域の中で果たすべき役割というものを、視野に入れ今後の郵政民営化を考えなくてはいけないと思います。	郵政を民営化すれば、経済に活気がでて税収は増え…etc…良いことばかりが目立った民営化だったと思います。今から元に戻すなど到底できない事ですが、せめて国民の資産として郵政事業を役立てることを再検討しても良いのではないかと思います。
806	広島県	分社化によりとても不便になった。郵政グループとしての、一体感が無い。良いことばかり言って、民営化されたが、良いことは何一つない。〇〇市内でも1局閉局となり、ネットワークの維持をするどころか、まったく住民の意見を聞かず合理化だけを進めている。 今のままだと、郵便局のこの先が、不安です。	分社化を撤廃して欲しい。もしくはゆうちょ銀行とかんぽ生命の株式は、100%国が保有し郵政グループを守って行くことを期待する。また、郵便、銀行、保険の業務委託先を郵便局会社へ委託することを義務化すること。	民営化後、〇〇でも緊急移転局に指定され、郵便局会社の本社が承認をするということで、私費を何千万円も出し土地購入まで行っている局長がいるのにもかかわらず、郵便局会社本社は移転の話を急に頓挫させ、音沙汰もない状態が続いている。せめて、平成20年2月に進めていた移転計画を続行させていただきたい。郵便局会社本社の理不尽なやり方を是正して欲しい。本社決裁事項ばかりで、支社は決裁権をもってなく、緊急を要することに対し、会社として対応できず機能していない。当該局長は、土地購入費用はもとより取得税や固定資産税などを払っていかないといけないので、食べていくのに夜アルバイトを探そうとしている。
807	大阪府	私は郵便局期間雇用社員です。窓口でお客様から「民営化になって何が変わったの？」とよく訊ねられますが、その度に即答できず、もどかしい思いをしております。特にサービスが向上したとも思えず、お客様の手間を取らせて申し訳ないという印象の方が強いです。あれほど国民の為と唱えていた「郵政民営化」、利用する国民もその結果の不十分さを唱え続けた人達に声を上げてなぜ追求しないのでしょうか。郵便局の現場の人間にもお客様にも不明瞭な民営化、無理やりの見切り発車の民営化、うまくいくわけが無いです。	政権が変わらないことには期待できません。	私は期間雇用社員で、どちらかと言えば第三者的立場で感じることですが、現場は会社から言われるがままに振り回され、気の毒に思います。
808	北海道	民営化後は非常に不便を感じる。職員は一生懸命頑張っているが、お客さまの立場に立っての内容と思えない。例えば小包を出す。貯金をする。保険に関する話を聞きたくても会社が分かれているとの理由で話してもくれないし、預かってもくれない。郵便局から離れてすんでいる人たちが、特に不便を感じている。	今後の期待としてまず郵便局会社と郵便事業会社が一体となれば不便さは幾分緩和されるのではないでしょうか？もちろんその後ゆうちょ銀行、かんぽ生命も一緒になって不自由さを解消してもらいたい。	高齢者などの弱者の立場に立って見直してください。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
809	福島県	民営化後1年以上が経過しましたが、民営化して良くなったという点があまり思いつかないのが現状ではないかと思います。確かに、新商品や新しいサービスが出来ましたが、逆にこれまで便利であったサービスがなくなったことにより不便な思いをした方が多いと思います。 例えば、電信為替ですが民営化前までは、現金を当日に届けてもらえる大変便利なサービスでしたが、口座への振り込み等の方法を取るしかありません。口座振り込みだとわざわざ郵便局まで足を運ばなくてはなりません。都会のように郵便局や銀行が歩いていける近い距離にあれば良いのでしょうが、私が住んでいるような田舎では、近くの郵便局まで行くのに数キロあります。ましてや銀行など何十キロになります。 今回の民営化は、当初私たちが思い描いていたものと少し違っているような気がします。私たちは公社時代の郵便局がそのまま民営化されるようなイメージでとらえていましたが、「郵便事業」「ゆうちょ」「かんぽ」「郵便局」と4つに分かれていて、なんだかよく分かりません。さらに、同じ郵便局なのに会社ごとに間仕切りされていてとても圧迫感を感じます。今、格差社会といわれていますが、郵政民営化についても、地方と都市部の地域格差が徐々に現れてきたのではないかと思っています。	都市部も地方も同じサービスを身近で受けられることを期待します。	3年ごとの見直しでは、是非「これまでの郵政民営化に対する評価」を参考にしていただきよりよい方向に見直して頂きたいと思います。
810	北海道	郵政を民営化する際すべて良くなるようなことで民営化したわけですが、民営化されサービスダウン（料金値上げ、郵便配達が遅い、各種手続きが煩雑等）も甚だしい。このまま行くと田舎から郵便局が無くなることが危惧される。	郵便、ゆうちょ銀行、かんぽ生命三事業一体の事業が望ましい。出来ることなら民営化前の姿に近づけるよう早期に見直しを図ってほしい。	都市圏ではなく田舎のことをよく思って見直してほしい。
811	山口県	ー	ー	私は郵便局に勤務するものです。この1年間、民営・分社化を経験して感じていることです。郵便局の民営・分社化は、経営の自由度を増し利用者の利便性を高めることが目的と言われていました。私も期待に応えられるように頑張っているはずなのでありますが、お客さまからは良くなったとの声より、サービスダウンのおしかりを受けることが多くあります。当然、努力不足もあるかと思いますが、本当に今のままの仕組みでいいのかと疑問も感じます。郵便局は、これからも国民の生活を守ってゆく役割も担っています。郵政民営化の見直しは、利用者の視点、国民の立場に立った見直し論議が為されるようお願いいたします。
812	東京都	三事業が分社化された事により、マネーレタックス（電信為替とレタックス（文書）の同時配達）の取り扱いが出来なくなり、特に予定の立たないお悔やみの香典が葬儀に間に合うように届けられなくなった。等 小さな、沢山の弊害により日本の文化が失われていく。	郵政事業の抜本的見直しを行い、三事業の経営形態を一体にすること。	郵政株式処分凍結法案を可及的速やかに審議可決していただきたい。
813	山口県	民営化以前は、郵便局の外務職員が郵便、貯金、保険の手続きをすべて取り扱うことができたが、民営・分社化後は、いろいろな制約があり、郵便事業会社、ゆうちょ銀行、郵便局会社のそれぞれの社員に手続きをお願いしなければならなくなった。利用者側から見て、とても不便になり手続きに時間がかかるようになって、明らかに、サービスの低下である。グループ会社にとっても一人で済むところを3人でしなくてはならないので費用の増大につながるのではないか。	同じ民営化でも、もう少しスリムでわかりやすい経営形態にすべきである。利用者が郵便局に求めているのは安心、安全、利便性である。民間会社は利益を追求するのは当然のことであるが、全国にあまねく公平なサービスを提供するのも会社としての義務であると考える。そういうことを考えると利益が上がる業務（ゆうちょ、かんぽ）が利益が上がらない業務（郵便）をカバーできる経営形態にすれば、利用者もより良質なサービスを受けれるのではないかと思う。そのためには今の分社化を見直さなくてはならない。	ー
814	北海道	不便と不満と不安があります。不便は、会社が分かれたからか便利だった電信為替がなくなったり、配達の人に貯金をたのめなくなった。不満は、料金の値上げ、証明資料の煩雑さ、民営化したら安くなる、書類も少なくなると思ったら全く逆。不安は、田舎では利益が出ないと郵便局が無くなってしまうのではないかと思うこと。	分かれた会社を一つにして不便をなくす。他の銀行とかも参考にして取扱いを変えて不満をなくす。利益第一ではなく公共性を第一にゆうちょ銀行、かんぽ生命にも全国サービスを義務ずけ、田舎でも郵便局サービスが無くならないように不安をなくす。	机上ではなく、田舎の生活の目線で見直してくださ い。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
815	東京都	(1/2) 郵政三事業を民営化することで、我が国に様々な利点をもたらすと宣伝されたことが幻想に終わり、逆に格差社会を拡大させ地域社会(特に山間地域)に不便をもたらしている。まず、郵便事業においては、効率化の名目で実施された集配局の再編による配達エリアの拡大、および人員再編成化(ベテラン職員から期間雇用社員へ)による、スキルダウンによって、郵便物の遅配、誤配等が著しく増加したと聞く。スキルダウンは、社員の努力要素だが遅配については物理的に解決しない問題と思われる。また、三事業を別会社にしたことで、配達員が貯金、保険のサービスを提供できなくなったことにより、高齢者(特に山間地域で足腰が弱い方)にとっては非常に不利益な事態を引き起こしている。国営時に、このようなサービスを提供できたり、不採算地域において統廃合が行われなかったのも、三事業一体だったからある。竹中氏は民営化担当大臣時代、国会の特別委員会 (H17.5.31第62回民営化特別委員会)において、三事業一体に対する反論として、金融のルールの観点から、市場で自立させるためにお互いの損益状況が及ばぬようリスク遮断のためにデバイドするという趣旨の発言をしたが、裏を返せばどれか一つの事業が破綻することを想定した考え方である。	国営で三事業一体にすべきである。民にできることは、民にやらせればよいが、すべての国民の最低限の権利を守るためには国がやらなければならないこともある。	(1/2) 民営化について議論されていた平成17年当時、日本の経済状況とは、国民のセイフティネットを奪ってまで発展させなければならないほど、幼稚で脆弱で危機的なものだったのかどうか、私には解らないが、平成20年12月9日現在では、米国発の世界金融恐慌により、もはやアメリカ主導型の市場万能主義の考え方は崩壊したというのが一般的である。このことはつまり、H17.5.31第62回民営化特別委員会において、小泉龍司委員(当時)が、竹中氏に対し将来の不安要素として延々と質問し、最後に「マーケットをどうしてそこまで信じてしまうんだろうか、そういう思いを多くの国民が持っていて、それが民営化の議論に反対する根拠である」と論じた説が正しかったことを証明している。〇〇島のある生徒が、「3日に1回くらいしか郵便配達員を見ていない。このままでは、島が国から捨てられる」と〇〇県立高校弁論大会で訴えている。この訴えが事実ならば、〇〇島の住人は 日本国憲法第十四条1 すべて国民は、法の下に平等であつて、人種、信条、性別、社会的身分又は門地により、政治的、経済的又は社会的関係において、差別されない。第二十五条1 すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有するに反して、社会的関係において差別され、健康で文化的な生活を営む権利を有していないこととなる。この例えは、多少、屁理屈に近いかもしれないが、現実に似たような状況におかれている地域(特に山間地域)は少なくないはずである。
		(2/2) 貯金事業においては、定額小為替などの料金値上げ、電信為替の廃止等、民営化後、現実面で実質的サービスダウンとなっている。また、民営化し、株式公開となると市場原理に左右されることとなり、リスクを望まぬ人にとっても、安心して財産を預けるべき方法がなくなってしまう。保険事業にしても、同様である。つまり、形式的なサービスダウンである。郵貯や簡保は限度制限があり、リスクは預金保険機構の範囲内にあるから大丈夫というなら、預入等の制限は市場における平等と矛盾するではないか。竹中氏は、同委員会のなかで、「市場ははよく失敗 します。私は市場は頻繁に失敗をしているというふうに思っております。市場の失敗が無ければバブル経済などは起こりません。しかし同時に市場の活力を得ることなくして経済を発展させることはできない。」と 答弁している。つまり、国民が安全を主たる目的として、唯一利用できたシステムを、経済の発展のためにはリスクにさらされても良いと考えているということになる。担当国務大臣のそういった考え方のに沿って進められ、利点をもたらすどころか、実質的、形式的にサービスダウンを現実にもたらしている郵政民営化は、全く評価できない。少なくとも、三事業を別会社にしたのはあきらかな失敗である。		(2/2) 「現在の金融危機を乗り越えるために、今後日本は、内需の拡大をしていかなければならない」とある政治家が云っていた。石破農林水産大臣も、内需拡大、特に農業政策の抜本的改革が必要であると、つい最近ある番組で力説していた。農業を活性化させるためには、地方の農村地域(山間地も含めた)の利便を図ることが重要である。郵政民営化とは、そういった地方のインフラの一つである郵便局をそうでないものに変えてしまったことに他ならない。郵便貯金法や簡易生命保険法等は、60年前に作られた法律であるから、時代に合わない感もあるが、基本精神はあくまで「あまねく公平に、すべての国民を守る」のを目的としていた。竹中氏の言うように、市場は失敗することもあるし成功することもあるというのはもちろん正論であるし、景気もあと数年で突然、上向くかもしれない。日本は、民主主義国家であるから、競争の自由も当然あってしかるべしだが、民が主ならば、安全を選択することも出来なければならないし、卑しくも国家と云うのならば、主のために「安定した環境」を提供する義務があるのではないか。少なくとも、郵政民営化の原因が旧国鉄のように赤字が原因でないのならば、民営化する正当な理由が見当たらないと私は思う。
816	岩手県	ゆうちょ銀行の料金が高くなった。集配局が減り、簡易局もへ閉鎖されている。	ユニバーサルサービスの維持。	株が上場されると、ユニバーサルサービスが維持されないのでは。
817	岡山県	単に政争の道具として利用されただけで、真に国民の為の民営化とは全くなっていない。内政干渉とも取れる米国の圧力に屈し、国民の財産を危機に晒した政治家は糾弾されるべきで、強権を持って通過させた民営化法そのものが憲法違反である。昨年10月以降の政治・経済の失速状況をみても、民営化が齎す影響の大きさが解る。十二分に審議を尽くさないまま行った民営化は、将来に大きな課題を残した。	期待より、このままでは会社は勿論、日本経済の礎が崩壊するという不安の方が大きい。分社化された会社を一つに戻し、利用者に混乱や不便さを掛けないようにするのが先ず第一である。民営化の是非はその後から考えればいい。	公的資金が導入されにくくなった今、全国の小中学校 の耐震補強工事や公園・道路・環境保全事業に至るまでその整備が滞って来ており、生活権や生存権まで脅かされる状況にある。各自治体の財政が逼迫している現状においては、インフラ整備を行うために、国民の財産である郵貯・簡保資金を継続的かつ有効に使えるよう経営形態も含めて再検証すべきである。
818	岡山県	不便になり、国民から遠ざかった存在になった。特に、税金を使わない福祉行政としての位置づけは完全に失われた。税金を使わずに高齢者福祉行政をする最高の手段であったのに。	国営に戻せとはいわないが、本来福祉行政としての意味合いが非常に濃かった郵政事業の本質を取り戻してほしい。役割が一般金融とも、運輸とも違う。国民が最低限の生活を安定的に続けるために簡便に利用できるよう戻すなり、改善されたい。特に、郵便局会社は3事業一体にし、昔のように高齢者や、不自由な方々のかゆいところに手が届く体制にしていただきたい。管轄は総務省に戻すべきだと思う。もう少し本気で郵便局のなんたるかを議員先生方は勉強していただきたい。	以前のように職員さん方に笑顔がないし、かわいそう。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
819	東京都	各種取り扱い料金の値上げや窓口での一人あたりの処理時間の延長は目に余るものがあり、利用者にとっては利便性の向上とはいえない。四分社による各社間の連携は完全に消滅し一つの窓で出来うるはずの事務処理が完全にその機能を失っている。	現在行われている民営化は利用者にとっても、取り扱う各社にとっても、取り扱いマニュアルを見れば混乱を起こさせ営業を破壊する意図的な力を感じるところは火を見るより明らかである。郵便局を収益企業に仕立て上げるのではなく国民の福祉拠点としての存在にシフトすることを期待する。	ー
820	秋田県	現場の社員として意見を述べます。民営分社化されて早1年が過ぎ、その間の状況はどうだっただろうか。旧集配郵便局の事務室は郵便事業会社集配センターと郵便局会社が壁で間仕切られた状態での業務を行っている。お客さまにとって一つの狭い建物に二つの会社が存在しているということはほとんど理解されていない。なぜかというと窓口も郵便配達も同じ場所にあり社員も同じであるがため変わったという感覚がない。地方では集荷や再配達の依頼は支店のコールセンターよりも、今まで通り郵便局への連絡が多く、その都度「郵便局ではなく集配センターから伺います」とお伝えしているがピンと来ないようで、その後も郵便局へ電話を下さる。分社化であれば集配センターは郵便局局舎とは別の建物にすべきであり支店の集約化が望まれる。配達が別の場所から来るとなれば、お客さまもわかりやすいだろう。しかし、お客さまにとって遠く離れたセンターからの配達となるので配達の遅れが懸念され、現に離島などは集約化により配達の回数も減っておりサービスダウンとなっている。郵便事業会社は貨物自動車運送事業法の適用を受けているが、このことにより1トン車（普通自動車）を配備できない支店が多く、軽四輪しか使用できず、ゆうパックの大量集荷に対応しきれない状態である。（軽四輪は積載重量330kg、1トン分の量だと3往復必要、普通自動車配備認可には営業所に5台以上の普通自動車を配備しなければならず、駐車スペース、維持コストの面で現状配備できない。ちなみに近隣の営業所（支店）から一時的に拝借するということもできない。）年末繁忙期においては作業スペースが不足し郵便局側の会議室や近所の空き事務所を借りて作業しているところもある。郵便に限っていうとこの通り一箇所に集約して大規模なセンターを作らなければ機能しない状態である。お客さまにとってわかりやすく利用しやすい環境を整えるとなると、コストを無視できないので分社化しない以前の状態（組織面）がベストではないかと思 う。各事業の会社の店舗を見直さない限り今後の発展は望めない・・・相反してサービスダウンの地域が必ず発生することは民間会社の道理である。	ー	ー
821	熊本県	失敗であると思います。	三事業一体の元の体制に戻さなければいけないと思います。	民営化以降の郵便局は、サービスの低下が目立ちます。土・日の郵便窓口が閉ったり、簡易郵便局の閉鎖（一時休止？）が出てきています。当初の郵便局が民営化されれば、サービスが良くなるとの話は、まったくのデタラメです。元に戻すことが、一番国民のためになると思います。
822	宮城県	デメリットしかないと思います。	全くありません。	（1／4） 「独居老人は、公務員で無くなった郵便局員の代わりに誰に相談できるのか？」ある年配者の一日。今日も朝5時に起床して体調もいい。今日は、孫のために一仕事しなくてはならない。前だったら近くに住む郵便局のシンさんかチュウちゃんにタベのうちに頼んでおけばすんだのに、今は自分で郵便局まで行かなくてはならない。ここも市町村合併で「市」になったが、市役所まで1時間、前の役場の支所にさえバスで25分かかる。（支所にさえ、顔見知りは誰もいない。）郵便局に行くため、通帳と孫の通帳番号を書いた紙と印鑑を忘れないように持つ。この前、「郵便局に行く時は、面倒くさいから必ず証明書持たないと駄目だよ。忘れると、自分でまた取りに戻らせられるよ！」と隣のハルさんに言われていたので「後期高齢者証明書」も持つ。暖かくなってから出かけると10分の道が、途中であちこちの家に呼ばれて30分や1時間になってしまうので早めにでかける。前は、いくら早く郵便局についても局員が、中に入れてくれ待たせてくれたが今は時間まで入れてくれないので余り早くは行けない。経費節減ということで、お茶などだされる事も全くなくなった。顔見知りの郵便局の配達員が、挨拶だけして中に消えていく。あと、5分だけだから外でがんばろう。体のあちこちが痛み、だましだまし動いている事など若い者は理解できないだろう。局員が、朝に郵便局前を掃除する余裕さえ無くなったそうだ。さあ、時間だ。以前のように局に入るのに手を貸してもらえない。自分で慎重に中に入る。入り口に訳のわからない文字（取り扱い業務）がごちゃごちゃ張ってある。以前きれいになった郵便局もまた汚くなった。必要なら局員に聞くのに何で・・・・。もう12月中旬なのに郵便局の中は、あまり暖かくない。夕方、凍えて戻る配達員のチュウちゃんが、かわいそうだ。局中も、蛍光灯があまり点灯されていないでうす暗い。客商売なのに部屋がうす暗い店なんてあるのか？局内は、新しい壁ができて息苦しく狭くなったようだ。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
				（2／4） まず、通知の来ていた孫からの代金引換小包を渡してもらう。郵便局の商品の名前はみなカタカナに変わり、それぞれ何の事かわからないが、「代引小包」で通じた。ただ、渡して貰うには、証明書を見られ印鑑を押させられた。顔見知りの近所の局員シンさんがそこにいるのに、証明書を出させられた。念のため80円切手を買おうとしたらこの前窓口で進められて作った郵便局の（JP）カードでは、払えないそうだ。前に、配達途中のチュウちゃんに切手を分けて貰おうとしたら　とても忙しそうだったのと「500円以上のセットの切手しか持っていない」と断られたので買っておく。現金で買うが、必要のない領収書を機械から出して渡される。時間ばかりかかる。必要のないお歳暮のカタログ商品をすすめられるが「民間では座ったまますべて記入して貰え、会計できる」と断る。念のため、聞いたら、（JP）カードでは、やっぱりこの代金を払えないそうだ。簡易保険でも（JP）カードは使えないそうなのに何でこの前窓口の局員は、あんなに必死に私のような年寄りに勧めて作らせたのだろう。郵便局でさえ何の証明書にもならないそうだ。やはり、ノルマとかあるのだろうか？貯金も下ろさなくてはならない。窓口で言うと赤 い紙を渡され住所と名前を書くように言われた。手が震えて住所が枠に入らない。名前もこんな字では自分で恥ずかしい。「代わりに書いてもらえないか」と聞いたが断られる。聞いていた知り合いのAが、「ATMだと早くて面倒がない」と言ってくれたが、何度教えて貰っても使い方がわからない。ATMで使える（JP）カードは、持っているだけだ。孫のためひとがんばりだ。やっと書いて窓口に出して待つ。前は、知り合いの窓口の局員がいろいろ声をかけてくれたが、今はみな下ばかり向いている。局員も減ったようだ。何にでも時間が余計かかるようで待っている人が多く、いすが足りない。顔見知りのBが椅子を譲ってくれた。お礼をいいありがたく座って待つ。こんなに待っている客が増えているのに、なぜ窓口の局員は、少なくなっているのかわからない。郵便局を利用する人間が、減ったのでこの程度の混みようですんでいるらしい。
				（3／4） 前は、郵便、貯金、保険の担当局員がいて、貯金をみんなで応援したのに今は保険の局員が（貯金が兼ねて）いないし、郵便の窓口の人は下を向いて忙しいそうに何か別の事をしている。後ろにいて、窓口を応援していた局員もいないようだ。そういえば、家族のいる（送迎のしてもらえる）者は、年金を郵便局で受け取らなくなった者も増えた。利用する人が減ったので、局員を減らしたならしょうがないが、それぱかりではないようだ。貯金の窓口局員が、必死で一人でみなやっている。銀行のやり方なら後ろにも人がいて何人かで仕事を している。窓口も複数あるから、時間がかかる手続きがあってもでも（郵便局のように）全体がストップすることは無い。この前、Fが「銀行では、両替に5人も手をかける」とびっくりしていた。沢山の人で処理する手順を、人の少ない郵便局で行うのは無理があるのではないか。あれ局員は、プロなのにメモを見ながら仕事をしている。後で、局長に確認したら「取扱いの変更が多く、マスターする前に変わってしまうので確認しながら行っている」そうだ。上のほうの、郵便局の仕事を解らない人が、テストも無く机の上で考えて、いきなり郵便局で実施するのでしかたが無いそうだ。民営化前は、お客さまに迷惑をかけないように一部地域でしばらく試行して問題箇所を修正してから全国で実施していたそうだ。以前いたやさしい若い局員は、嫌になって、先月退職したそうだ。アルバイトもすぐ辞められてしまい、職安から「（他の金融機関では絶対お金に近づかせない）サラ金に借金があるので働きたい」と言う人まで紹介されてしまうそうだ。局長は、下ばかり向いて何か読んでいる。前に聞いたとおり、わかりにくい指導を理解しているのか。私にも「いらっしゃいませ」と声をかけただけで難しい顔ばかりしている。やっと自分のが終わったのか、名前が呼ばれる。証明書を出すように言われ、コピーを取られる。局員は忙しいのに、いちいち一人で立ってコピー機に行っている。局長が、「銀行のやり方に変わった」というが、銀行のように沢山の人がいない郵便局は以前の郵便局のやり方をやるしかないのではないか。それではと、銀行と同じように夜、遅くまで残ろうとしても「法律違反」「経費の節減」ということでできないらしい。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
				（4／4） また、しばらくして名前を呼ばれた。「ありがとうございました」と、通帳と現金を渡された。「孫の通帳」に送りたいと言うと記入するよう用紙を渡された。「（細かくて）どこに何を書くかわからない」というと窓口の人が一つ一つ書くところを教えてくれた。10万円以上ということで、また、証明書のコピーを取られた。席を譲ってもらいしばらく待つ。私のせいで、郵便局の中は、更に混雑している。文句を言う人はいないが、（私のせいなので）肩が狭い。待たされて文句を言う人は、みな他の金融機関に行くようになったそうだ。私も考えたが、往復1000円以上を出して1日数便のバスでは出かけられない。そういえば、この前投資信託を勧めていた隣町の外回りの郵便局員は、この頃ぜんぜんこなくなった。利殖に精をだしていた同い年のEもすっかり元気が無く なってしまった。離れている娘が言っているように「自分たちが、儲けるため仕事をする郵便局員は、以前のように信用しては、駄目」なのか？近くに住む郵便局のシンさんやチュウちゃんは、何か頼むとこの頃は困ったような顔ばかりするが、いつも急がしそうに一生懸命働いているようだが……。郵便局を信じて駄目なら年寄りが相談できる人が近くには誰もいなくなってしまう。ここまで2時間、もう午前中は終わってしまう。やはり……。
823	宮城県	サービスが良くなったとは言えません。例えば手数料の値上げや、郵便局によってはゆうゆう窓口が無くなったりして不便になりました。	各種手続きの簡略化を期待します。各種手数料も値下げして下さい。	民営化で利益を求めるのはわかりますが、このままだと採算の取れない郵便局は無くなってしまうのではないでしょうか？また、銀行業務と保険業務の採算が取れない郵便局は、貯金と保険の窓口が無くなって郵便しか取り扱わない郵便局になってしまうのではないでしょうか？地方の方だと農協すら無くなった所があり、郵便局が唯一の金融機関の所もあります。3つの事業をひとつに戻し、郵便局を無くさないようにして欲しいと思います。
824	秋田県	私はいわゆるかつての特定郵便局長です。日頃働いて感じていることを述べさせて頂きます。4分社化により郵便局会社は委託元である日本郵便、ゆうちょ銀行、かんぽ生命の各社から業務を委託され、その見返りに受け取る手数料が主たる収入の会社となりました。唯一の自社事業は物販即ちカタログ販売ぐらいのものです。かつて特定局長は代々その土地に住みながら長い年月をかけて地域住民からの信用を得、その結果、郵便・貯金・簡易保険の普遍普及を図って来ました。ピーク時の郵貯残高240兆円、簡保資金120兆円という膨大な金額はそういう長い年月を掛けて先人が汗水垂らして頑張った結果であります。現場の郵便局の人間からすると汗して掻き集めてきた郵貯・簡保の資金が分社化により余所へそっくりもっていかれた上、いろいろ厳しい条件を付けられながら、彼らの下請けとして仕事を貰っているというのが現状です。唯一の自社事業である物販も本来地域のお客様が郵便局に求めているものでは無いように思います。利用者の皆様が求めているのは生活に必要な基礎的な通信・為替貯金・保険の手段だろうと思います。郵便局がコンビニストアになることを求めてはいません。4分社化の制度設計はミスであり、このまま突き進んでいけばいずれ地方にたくさん存在する赤字局の再編・統廃合に進まざるを得ないと思います。	企業の合併・統合が目まぐるしい勢いで進んでいることを考えるとやはり郵政三事業は「統合」の方向で進まないと企業として存続できないと思います。特に、郵便局会社と郵便事業会社は早期に合併しないと、現場でお客様を奪い合っている状況でお客様からも「おかしな会社だ」と不信感をもたれております。土・日の窓口営業も早い時期に再開して不便さを解消しないと、ますます地域からお客様が居なくなり、ひいては過疎化につながるだろうと思います。	郵便局で働いている職員はかつては公務員という誇りがあって、”公”（Public)の意識が働いた結果、地域の中でボランティア活動などが熱心にやられていました。現在はそういう活動ができる余裕が無くなりました。郵便局は小さいながらもひとつの情報拠点として地域コミュニティの中核になりうると思います。（かつては立派にその役割を果たしてきました。）民営化されたとはいえ未だ政府が100パーセント株式を保有する特殊会社であるので「国民共有の財産」としての活用を是非お願いしたいと思います。
825	東京都	民営化の目的が何であったのか未だに分からない。当時の小泉首相や竹中大臣いわく、顧客にとってサービスが向上し利便性が高まる、一方で社員にとって、働きがいのある職場になるなどの発言を繰り返し行っていたが、全くの嘘である。民営化以降、窓口は大変待たせるし、小為替の手数料は高くなるし、郵便局は統廃合されなくなるし、ゆうちょ銀行の担当者に郵便をお願いしてもダメだし、一方で、人員不足による社員の労働時間は増大するし、夢や希望の持てる会社ではないなど、結果として、マイナス面が多々あるのではないか。	当時の小泉首相や竹中大臣は、ぜひ民営化の検証を実施していただき、説明責任を果たしていただきたい。つまり、いったい何がプラスになったのか、それともマイナスになったのかをはっきり公表してただきたい。もしその二人にできないのなら、郵政民営化委員会によって、公表していただくことを強く望みます。できることなら、そのマイナス面をぜひ改善していただきたい。	委員会の方々には、ぜひ顧客の立場に立つと同時に社員の立場にも立っていただき、議論を進めていただくことを強く期待致します。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
826	広島県	1　窓口が三事業一体でなくわかりにくく、コンプライアンスの徹底が強すぎて年寄りには理解しにくく、事務が複雑すぎて時間がかかりすぎる。 2　外務員は郵便事業会社に別れたため取扱が不便である。 3　民営化後郵便局では遅くまで電灯がついていて局長さん職員さんが頑張っておられるが業務が複雑になったのではないか。 4　「かんぽの宿」の国民の福利厚生施設が切り離され利用が不便になり簡易保険の利点が無くなった。	1　郵便貯金は1円でも1000万円を超過すると減額を求められる。利子や年金等の振込が発生すれは個人で管理することが困難であり、他の金融機関へ移動しなくてはならなくなり金融機関が2カ所となり不便であるので郵便貯金の総額制限を廃止願いたい。 2　郵便局ネットワークを活用することと、地方行政の代理業務（住民票取得・住所移転手続等）を双方のメリットがでて行政のスリム化となる。 3　郵政株式売却凍結法案の成立を願う。 4　郵便局の歴史的貢献度を十分考慮して地方・弱者をまもり日本の文化を継承していただきたい。 5　ふるさと小包など地方の特産品を有効に物流するため、零弱な業者も簡単に参入できるゆうパックの取扱を可能にしていただきたい。	1　少子高齢化の進む中、安心・安全で近くて便利な郵便局ネットワークの維持を護っていただきたい。 2　日本の社会、市場原理主義ばかりでは日本の発展はない。
827	東京都	民営化後1年、局舎は会社間の区間工事で狭隘になり仕事がやりづらく無駄な仕事が増加。従来一人でできたこともそれぞれの会社ごとに仕事を行うために会社ごとに要員不足が発生しておりいまだ後補充はない。仕事も非常に複雑化し時間がかかり過ぎる部分も多いので職員も日々くたくたの状況である。未だ社員のモチベーションも上がらず、正常な業務運行にするのに一苦労で、このままだと経営的にもマイナス面が多い。	・　ネットワークを維持するためには、分社化の見直しを早急に行い、三事業一体の経営に戻したほうがベターと考える。 ・　最悪でも、郵便局会社と郵便事業会社は合併したほうがいい。	株式の売却については凍結法案を通してもらう。株が売却されば株式の意向で、配当を中心に会社経営が変わります。そうなると、「採算がとれない田舎では契約の維持難しくなる」ので切捨てられ、経営の効率化が極端に進められ、国民が平等な「郵便・貯金・保険」のサービスが受けられなくなる可能性が出てきます。
828	岡山県	民営化されて1年が経過しますが真に国民のためになったのか疑問に思う。弊害が地方、特にお年寄りにしわ寄せが及んでいる。民営化以前に比べ郵便局のサービスが一段と悪くなっている。	誤った改革は早く以前の経営形態に戻すことが必要。国民は大半が民営化されて喜んでいなし、希望することも無い。むしろ、民営化により郵便局が無くなっていくのではと心配している。	このまま民営化を維持していくなら自民党議員が真に国民のことを考え政治に取り組んでいるとは思えない。
829	岐阜県	―	「官から民へ」という小泉元総理の構造改革に振り回された数年であり多くものが変化した。そのひとつが郵政民営化である。小泉元総理は竹中元担当大臣を知恵袋として郵政民営化を進めた。郵政民営化は構造改革の本丸であるとしてマスコミに喚起。今までと違った「改革」という政策は国民世論を動かしたが、参議院では否決。その途端、小泉元総理は衆議院の解散を強行し、小泉劇場を演出して民営化法案成立を図った。奇策と銘打った小泉劇場として盛り上げられた郵政民営化だが、その主役である我々の意見は水に流されたと言ってもいい。我々、郵政公社は民営化準備のため徹底したコストダウンを実施した。その結果、年賀状の遅れが発生し、一般の郵便物にも遅れが出てしまいサービスの低下となった。原因は急ぎすぎた民営化である。演出された劇場の元では、早急な改革の経営変化や規律強化により、現場の職員の疲弊は溜まっていくばかりであった。民営化により郵便局は統廃合され、業務が縮小となり、日常生活が脅かされる事となった地方、職員が疲弊し、職員からは不満増加。当然の原理である。小泉元総理の基本方針「市場原理主義」は、増税や医療介護、教育の格差をもたらしただけではなく、より一層に拡大させる要因となってしまった。「改革」として大きくとり上げられた政策であったが、それは悪循環の歯車を回してしまったのではないか。問題は山積みである。不十分な準備もなく強行された民営化は、早急な見直しが必要である。郵便局はやはり、郵便、貯金、保険が一体となったサービスの提供を行う、三事業一体とした経営が国民のためであり、地域のためでもある。今こそ歯車を止めなければならない。	―
830	福島県	民営化により、国民全体への今後ユニバーサルサービスが維持されていく補償は難しいと考える。これまで国民の生活の土台となってきた郵政サービスを今後も国民の財産として、全国どこでもサービスが受けられるような「見直し」が必要と思われる。そのためにも、「ゆうちょ銀行」「かんぽ生命」の株式の上場売買は凍結し、扱いについては、再度見直しをはかっていただきたい。	上記の様な見直しが必ず必要。	―
831	東京都	民営化すればサービスがよくなる、国民にいいことがいっぱいできるという触れ込みで、選挙をし民営化を実施したが、触れ込みとはまったく逆で、料金が上がったり、待ち時間が増えたり、手続きが面倒になっている。また、地方では、郵便局がへり過疎地は生活にも影響がでている状態である。民営化は失敗だったと思う。	貯金、保険の株式上場することを一時凍結し、もう一度見直すべきだと思う。まさに世界恐慌になろうとしている現在、株式上場という行為は、自殺行為だと思う。	貯金保険の株の上場はアメリカの意向であったことが、新聞等で取り上げられているが、そのことを明確にしてほしい。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
832	岡山県	民営化になったら、もっとサービスが良くなり、便利になると聞いていたが、ぜんぜん違う。何をするにしても手続きが複雑になり面倒だ。以前は配達の人に貯金のことを頼めたのにできなくなり不便。配達する局が少なくなり不在の郵便物を取りに行くのが不便。	民営化前の方が良かった。以前の形態に戻してほしい。	民間になり近くの郵便局が無くなるのではないかと心配だ。
833	岡山県	民営化した郵便局は民営化前よりよくなる、便利になるといわれていたが、民営化前に高齢者等へ行っていたひまわりサービスなどは廃止されたと同様の状態となっている。都会に住む人であれば、多くの金融機関の中から自分の利用しやすいところを選ぶことができ、短時間、短距離で利用できる。田舎の人（特に高齢者、独居で交通手段がタクシーに頼らざるを得ない人など）は、民営化前には郵便配達人に貯金や振り替えを依頼していたのに、その場では預かってもらえないのが今です。郵政民営化でよくなったこともありますが、民営化以前の郵便局が担っていた公共性がものすごく低下したことは、ユニバーサルサービスを掲げている郵便局ではあるが、地域の利用者にとってはとても大きなサービスダウンであり、お互いに助け合っていかなくてはならないことからも民営化は利用者から見れば失敗であったのではないでしょうか。	郵便局を利益追求の株式会社に完全にするのではなく、限りなく公社に近い状態に戻すような政策を採ってもらいたい。	社会では勝者とか敗者とか言われますが、生活していくうえで民営化前の郵便局に頼っていた多くの勝者以外の人が安価に利用できる郵便局、安心できる地域を求めたいと思っていると思います。
834	長野県	政府は、よくなることばかりを事前にPRしていたが、実際は不便なことばかりだ。国民はだまされたと感じている。	郵便局が存続するため、大胆で、大幅な見直しが必要だ。郵便局会社と郵便事業会社との統合し、利潤追求が最優先にならないような公社へ戻す。先進国でも、今まで失敗してきたではないか。	民間会社として、増収と支出削減が厳しく求められるが、郵便局の金融窓口を3時までにすると、大きな問題がいくつも解決できる。営業時間や能力向上の時間が確保できる。残業が減り人件費が大幅削減できる。民間会社としてやっていくならこれしかない。
835	長野県	郵政民営化になり大変不便になった。荷物の集荷を頼むために郵便局に電話をしても、「会社が違うので郵便事業会社のコールセンターへ連絡して下さい」と言われるし、配達員に振替や貯金を頼もうとしても引き受けてくれないなど、田舎に暮らすものは民営化になり何も良いことがない。竹中、小泉の言い放ったことはまるででたらめで、国 民のセイフティーネットを破壊しつくしてしまった。	今の現状から考えれば郵政民営化でもって国民生活が良くなるとはとても思えない。期待は何も無い。	税金を投入していない郵政公社を民営4分社化し、かえって不便にした。アメリカの意向ばかりを気にして、政府は国民生活を破綻の方向へ導こうとしているとしか思えない。このまま、株式の売却が行なわれれば、国民の預貯金等は外資に乗っ取られてしまうことであろう。 郵便の配達エリア等も広くなった割に人員は減らされ、窓口の人も減らされ大変である。2名で金融機関の体をなしているのだろうか。農協では4名以上でないと金融機関として認められないとのことで、地域から撤退しているのに、郵便局は2名でよいのか。
836	宮城県	民営化されて良くなると思っておりましたが、良くなったと思えることは、全くありません。例えば、先日母が不在書留を窓口に取りにいったところ、受け取りできませんでした。理由は、事前に電話しないと配達員が普段は持ち歩いているためとのこと。民営化前は、いちいち電話しなくても受け取ることができました。また、集荷等で電話すると「郵便コールセンター」へかけ直してほしいとよく断られますが、同じグループ企業であるならば、転送くらいしてほしいと思います。その他手数料もかなり高くなりました。サービスダウンはさせないとの約束がこれでは全く弱者の切り捨ての改革ではないでしょうか？	利益追求することは、民間企業として仕方ないと思いますが、一方で郵便局らしさ「公共性をわすれず」「思いやりの郵便局」であるべきだと思います。	利用者の立場をよく理解すべき。
837	岐阜県	時の総理は「民営化をすることで、良くなる」と言い続け実施されたが、いったい何が良くなったのか示していただきたい。利用者も郵便局で働く人も組織も誰もが不便でサービス低下を実感している。評価としてはマイナス評価しかできない。	現状では、期待できるものは無い。見直しをするのなら、早い段階で見直さないと手遅れになる。郵便局を民営化した諸外国は、大きな失敗だったといまさらながら手の打ちようが無い状況の中事業はますます衰退してきている。	政府首脳陣の方々及び郵政グループのトップの人たちは現状をどのように理解しているのか？疑問に思う。なぜ、現状分析を自ら行わないのか。現状を国民に説明しないのか。
838	新潟県	○○の放鳥○○が一月過ごした○○村の郵便局の局長です。お客さまから苦情を頂いています。遠方で急に不幸があった場合、電信為替とかマネーレタックスという便利なサービスがありましたが、民営化・分社化とともに無くなりました。積立貯金という手軽な貯蓄手段は様々な暮らしの計画に役立っていたのに無くなりました。利益追求、効率追求だけではお客さまがどんどん離れて行ってしまいます。	お客さまの本当のニーズ、地域の暮らしのサポートを考えればやはり三事業一体の経営形態でないと小さな局はさびれる一方、地方の疲弊につながるのみ。お客さまの声、現場の声をもっとしっかり聞いて経営をして頂きたい。	いろいろのキャンペーンにかなりの経費を使って必死の増収増益を考えているようですが、お客様たちのニーズをより的確に把握した上での商品開発、サービス開発が必要と考えます。
839	愛知県	国民は対するインフラの破壊。失敗の責任をとり、小泉、竹中は処分されるべき。	元の形態にもどすことが望ましい。	日本の将来を見据えたしっかりとした政策を考え、お金儲けに走る一部の企業または個人に人間としての考えを持って欲しい。
840	岐阜県	郵便局が分社化されたことによって、貯金の事を保険の渉外社員に、保険の事を貯金の渉外社員にまた、郵便配達社員に貯金保険の事を聞くことも、頼むこともできなくなってしまいました。一言で『サービスの低下』だと思います。今年の年賀状の配達が大幅に遅れたのも人員削減のせいではないでしょうか。	今一度、民営化前の利点を見直していただきたいと思います。特に分社化をいただき、不便を解消してください。	今後、郵便局の数を減らすことをしないでください。過疎の所から減らされていくのでしたら、年寄りが不便になるに違いないと思います。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
841	新潟県	(1/2) 郵政事業の民営化の際は、お客さまサービスはダウンさせないというのが基本にあったはずである。ところが1年を経過した現在、事態は全く逆である。そもそも、サービスをダウンさせない民営化というのはあり得ない、全く国民を騙すやり方だったのだ。郵便関係でいえば、例えば、郵便局会社となった、旧集配局における郵便局は、時間外窓口がなくなり、小包や書留の窓口引受時間が短かくなったことである。特に、土・日、祝日は郵便事業会社の支店しか引受をせず、近くの郵便局（旧集配局）で差出できたものが地域によっては30分～40分もかかって支店まで行かなければならなくなった。また、不在時書留等の窓口交付は原則なくなり、これも場合によっては、支店まで受取りにいかなければならなくなった。また、郵便局では、郵便物、小包の集荷が出来なくなり、地方、特に高齢者の多い農山間過疎地域の人たちにとっては不便を強いられているのが現状である。また、郵便事業会社と郵便局会社の違いがわからず、郵便局は郵便物や小包の配達を一切しなくなったということを理解できない人がほとんどである。だから、新聞の投書でも「親切な局員さんが配達・・・」等の記事をみることが多い。さらに郵便事業会社は「日本郵便」の名称を使い「日本郵便の〇〇です」等の言い方をするので、利用者にとって、違いが益々わからなくなっているのが現状である。	郵便局は地域にあって、経済的ライフラインとして、信頼感・安心感のよりどころとしての役割を果たしてきたし、今後もその役割を地域の人たちは望んでいる。地方では「郵便局がなくなってしまうのではないか」という不安が大きい。都市部のように郵便局がだめなら、近くの銀行や宅配会社を利用すればよいという地域ばかりではない。都市部だけを基準に考えるのでなく、地方の農山間地、過疎地域で生活する人たちのことも考えなければならない。どうして、うまくいっていたシステムを壊す必要があったのか、すべて元に戻せとはいわないが、まず、分社化でなく三事業一体の経営に見直しすべきと考える。	郵便局に勤務する局長、社員は地域に奉仕する気持ちで仕事をしているし、地域に必要とされる郵便局でありたいと考えている。郵政の職場で働く者、地域の人たちの望む方向での郵政民営化の実現を期待したい。
		(2/2) だから、郵便物のことは郵便局に聞けばわかるだろうと思うのが当然であり、実際、聞くのだが、郵便局は責任をもった対応ができないため、そこで余計なトラブルとなることも多い。郵便物に関する苦情の窓口は郵便局会社（郵便局）となっているのが実態である。貯金・保険関係でも、郵便局会社は委託で業務を行っているので、各種手数料は高くなったり、手続きが複雑になり、事務処理に時間がかかり、お客さまの待ち時間が長くかかるようになった。そのため、「郵便局は対応が悪くなった。今後利用できない」とあからさまに言うお客さまもいる。「ゆうちょ離れ」「かんぽ離れ」の原因ともなっている。それに対して郵便局段階での判断が出来ない、どうすることも出来ないというのが現状である。委託元会社からの手数料収入により、経営している、郵便局会社にとっては重大な問題である。民営化になれば、自由度が増し、益々便利になるというのは嘘である。地域のお客さまからは、民営化後、郵便局はサービスダウンした、利用しにくくなったという声が圧倒的であり、郵政民営化はまやかしの多い、マイナス面の大きな改革であったという評価を下さざるを得ない。		
842	三重県	民営化となり、郵便物の配達が遅くなったように思います。郵便振替の手数料、小為替の手数料も非常に高くなったことに驚きを感じます。また、郵便料金の値上げもあるようであればメール便、宅配便を使うしかありません。民営化になって何が良くなったか全く分かりません。	近くの郵便局を利用していますが、いま過疎地郵便局 の閉鎖とか噂でよく耳にしますが本当でしょうか？絶対に困ります。現在銀行の撤退もあるので近くの郵便局の閉鎖は困りますのでよろしくお願いします。	民営化となり、色々と取扱いが変わったのか時間がかかり不便さを感じています。気軽に行ける郵便局なのでなくならないようお願いします！
843	北海道	「非常に不便になりました」 その1　不在通知での郵便物受領に時間がかかる。仕事柄不在が多く、家族も仕事上不在が多い。受領する郵便物は「配達記録」が多く持ち戻りになり、郵便局に行っても郵便事業会社扱いなので、ここには無いしどこにあるのか分かりません。との事。書かれている連絡先は集配センターとかで地元の局ではなく局で受け取ることもできず、再配達で受領に時間がかかる。近所の共稼ぎ夫婦などは、書留類の受領に郵便局で受け取れないと、苦情が多い。 その２ 2～3日家を留守にすると書留など「特殊郵便物」は郵便局で受け取れない。〇〇のセンターに保管しているとかで、早くて翌日、下手すると3日目になる。 その3 受領印が必要な郵便物は、自分の住んでる集配郵便局で受け取るようにして欲しい。共稼ぎ家庭や独居が多く、不在の機会が多く、郵便局に取りに行って受け取れるように様にして欲しい。	現状のままの運営では、顧客は今迄以上に離れると思います。地方の利用者は年配が多く、先輩の苦情が多い。	期待はしません。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
844	山口県	当時の権力者によって仕組まれた郵政民営化は、そのつじつま合わせに追われている。国民生活に大きな影響を及ぼす郵便局㈱の経営ビジョンは、一年以上経過した今でも示されていない。民営化後の郵便局について、利用者からも社員からも失望の声ばかり聞こえる。本社は現場の処理能力とは無関係に、膨大な情報と作業を押し付けてくる。新規事業・制度改正研修、コンプライアンス、検査監査、業務事故防止などなど。加えて人件費等の削減で手足を縛っておきながら結果責任で脅す始末。個々の重要さは理解できるが、社員から笑顔やゆとりを奪っておいて営業営業では悲しすぎる。お客様はその場の空気に敏感だ。安心を感じ取れない店や社員からは買わない。誰のための民営化だったのかを検証し、大幅な見直しが必要である。	郵便局会社だけで生き残る術は営業力の強化しかない。委託元との手数料交渉においても切り返せるだけの販売実績がいる。さもないと安い手数料で妥協したり、売りにくい商品を引き受けて社員を苦しめることになる。全社員が営業の会社であることを実感できるよう、事務処理や検査監査の大幅な削減を早期に実施すべきだ。自社商品の開発も重要だが、それを売り切るだけの営業力が不可欠である。株式凍結法案が出されている。これを早期に成立させなければ多くの郵便局は確実に廃局・統合されてしまい、生命線である“もより”の利便性を失ってしまう。赤字体質の郵便事業会社などが経営破綻し、国民の血税を投入する事態を避けるためにも、公社時代の三事業一体経営に戻すことが最善策だと思う。	経営陣は本気で郵政グループの未来を考えているのか。社外役員などの本音は、本業への利益誘導ではないかなど、勝手に想像してしまう自分が情けない。どんな指示文書を読んでも、疑心暗鬼から「やらされる」と思ってしまう。将来に希望が見い出せないからか、“アメ”にも“ムチ”にも反応しない社員が増えている。心を病む者、現状逃避から多重債務に陥る者、犯罪者などをこれ以上出さないためにも、本社トップが本気で信頼関係の再構築に向けて踏み出してほしい。
845	広島県	サービスが悪くなった。	株式を売却してしまうと利益追求となり、今のままでは、田舎の郵便局は無くなってしまう。民営化以前のサービスレベルに戻し、ユニバーサルサービスを続けられる体制にしていただきたい。	田舎は少ない企業も減っており、今の経済状勢の中、郵便局も無くなってしまうと田舎へは住めなくなってしまう。
846	東京都	郵便局に勤務する者ですが、民営化とともに各種手数料の大幅な値上げに印紙税も利用者が負担することになったり、利用の少ないサービスを廃止するなど、悪くなったと思います。また、分社化により、郵便局会社の利益は手数料収入となりましたが、３月期の決算でグループ他社と桁違いに少ない利益となっていたことに、愕然としました。もともと、郵便事業は赤字とされていたのに、黒字の決算となっているのは、郵便局会社へ支払う手数料が少ないからではないかと思います。	分社化により、ビルの１階にゆうちょ銀行が陣取り、２階に郵便と保険だけを扱う郵便局を設置する状況になりました。重い荷物を２階まで持って行きますか？分社化による郵便関係の弊害は、もっと多いと思います。郵便局会社を正当性の無い手数料収入で経営していくという、分社化を止めて、郵便局と三事業が一体で経営していく形をとってもらいたい。	－
847	長野県	・職員の対応は良くなってきた。 ・はがき・切手など販売活動も積極的で好感が持てる。 ・アメリカの要請が強かった民営化によって、金融・保険など何が変わったのか、その効果は不明である。 ・アメリカの金融・保険会社の破たんによって、郵政も民営化のリスクだけが高まったのではないか。 ・郵便事業において数グラムの差の料金不足で配達されない事象があった。競争に打ち勝つためにはいかがかとも思う。	・良質なサービスと低廉な料金。 ・土日祝日などの開店時間延長。 ・官庁街にある郵便局だけでなく、ゆうパックなどは他社のように郊外に店舗を開設し休日でも受け付けられるようにしていただきたい。	－
848	福岡県	・苦情に対して解決が下手、質問にきちんと答えられない ・郵便の配達時間が遅くなった。午後4時以降となった。 ・窓口の待ち時間が煩雑になったためか、人員が少なくなったためか笑顔も少なく気の毒。 ・大きな局の窓口では応対で臨機応変さがなく縄張り意識すら感じられる。 ・職員に夢や希望があるのか、土曜日曜の勉強会が当たり前のごとし、連日栄養剤を飲みながら夜遅くまでの勤務。各種商品の販売ノルマ。ゆうメイトの収入カット。 ・各種料金の値上げ、為替、振り込み手数料などの値上げ。 ・効率化や利益優先のため集配局などの減。 ・分社化によるコストの増加と利便性の悪化。	・郵便事業は、国民生活のインフラであり全国一律料金で信書が届く制度として誰が責任を持つかは国以外にはあり得ない。	－

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
849	北海道	民営化当初の目的とされた、「お客さまサービスの向上」は全く実現されていません。民営・分社化によるお客さまへのサービスダウンが顕著に現れています。郵便については集配再編により、時間外窓口廃止によるアクセスポイントの減少、併せて合理化により期間雇用社員が多くなったため、誤配・遅配が非常に多くなりました。商品販売においても年賀はがき販売に代表されるような、グループ会社内による顧客獲得争奪戦が展開され、お客さまも辟易している現状です。ゆうちょ銀行・かんぽ生命については、各種手続事務が複雑・煩瑣になり利用客が減少している他、手数料の値上がりや商品の廃止（電信為替）による苦情が多数寄せられています。 問題は「初めに民営化ありき」として民営化を行った事です。特に郵便局会社の制度設計については、収益の柱である貯金・保険の逓減が見込まれる中、新規事業にて収益を確保していくことが前提で民営化されましたが、その新規事業も順調に展開されている訳ではありません。平成19年度決算に見られるとおり、「民営化による経営の向上」は成されておらず、将来においても不可能であると思われます。混乱した職場環境と将来展望が開けない会社では、社員のモチベーションも低下しています。退職者の増加、人員不足により営業実績の低下、待ち時間増加等のお客さまサービスの低下と、全てが悪循環している状況であり、「職場環境の向上」も実現されていません。現状では「ユニバーサルサービスの確保」は不可能であり、金融弱者を生み出さないためにも三事業一体となった特殊会社にならざるを得ません。具体的には、貯金・保険についてもユニバーサルサービスを義務化する事と、三事業の連携を強化して、一体的なグループ経営を確保することです。職務上地域のお客さまから多数ご意見をいただきます。郵政民営化を含め、小泉構造改革路線を非難するものが殆どであり、地方の大きな声となっている現状です。民営化法案採決時と世界・経済情勢も大きく変わりました、ゆうちょ・かんぽ株式売却を含め、再考されるのが肝要であると思います。	地方の声を取り入れるべきと思います。	ー
850	長野県	(1) 地方の郵便局は民営化前はその地域に住む人達にとって、大切な生活のよりどころだった。頼みや相談事など地域で郵便局は、それを受け止めてくれる拠点であった。特に外務員の存在はその役割を果すもう一つの大切な仕事だった。 (2) しかし、民営化によって4つの会社に分割されたあとは、他の会社のことは一切かかわらないばかりか、今までのようなお客さんの要望などに一切応えなくなってしまった。大切な社会インフラが崩壊してしまった。 (3) お客さん(国民)は民営化になればもっと便利になり、サービスも良くなるだろうと思い、民営化に賛成した。しかし、結果はその期待を裏切ることになった。サービスは悪い、お客さんのことより会社のことだけ、まったく良いものが見られない。このような郵便局の劣化は、郵便局からのお客さま離れをおこし、今後の経営に大きな影響をもたらすだろう。すでに郵便物の郵便局離れが始まっている。郵便局を壊すための民営化としか見えない。	(1) 期待できるものは何もない。三事業一体の民営に戻さないと郵便局は崩壊するだろう。 (2) 三事業一体の民営こそ合理的で効率的なものはない。一刻も早く三事業一体の民営に戻すべきだ。 (3) 民営化委員会のみなさんが、現在の4つの会社の民営実態や劣化したサービスの現状を十分調査されるよう望みます。	ー
851	鹿児島県	郵便局の現状は 〇待ち時間が長い 〇提出書類が多い 〇取扱手数料が上がった（例：定額小為替の料金10 円から100円に） 〇電信為替（居宅払）が廃止となった 〇三事業一体ではないので郵便配達に貯金保険を頼めない 〇郵便業会社配達エリアが広くコールセンター等が繋がらない 〇業務が煩雑で職員がバタバタしていて職員の絶対数が足りない 〇ATMが減っている（採算性） 〇地方では採算の事もあり局が廃局になるのではと言う不安が根強い。と言うことは貯金保険については郵便局のサービスをあまねく公平に受けられなくなる可能性がある。 以上のことから現在の郵政事業には国民生活の利便性が低下している。全国で金融サービスが受けられなくなる可能性がある。	利用者本位の観点から簡便な方法で利用できる仕組みに見直す。今後も国民が郵便局のサービス（郵便・貯金・保険）を全国あまねく公平に受けられるよう明文化する。	ー

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
852	静岡県	利用者へのサービス向上は見られないばかりか、かえって不便を強いている。 1.地方にあっては、簡易郵便局の閉鎖により、高齢者であっても遠方な郵便局まで出向くこととなり、交通手段に苦慮しているのが現状である。 2.民営化され、なお且つ、四分社化されたことにより、利用者の希望に対応できない事が起き、利用者に不便をかけている。 3.非常勤勤務者が多くなり、業務に関する事故・犯罪が多発。利用者の信頼が低下している。 4.赤字となった会社を黒字会社が救済をしてきた従来の方式が、利用者の安心・信頼となって企業の安定経営に結びついてきたと思われる。	三事業一体で経営し、利用者にサービスを提供することがよいと考える。	ー
853	栃木県	手続きが面倒、待ち時間が長い等、お客様からお叱りを 受けることが多くなりました。社員はサービス向上のため必死にがんばってきましたが、事務の複雑化などにより限界があります。郵政民営化という改革のもとで、サービス向上させる、便利になるという言葉はいったいなんだったのでしょうか。「こんなはずじゃなかった」と いうのが、お客様、そして社員の本音ではないでしょうか。	金利優遇等、お客様に喜んでいただける施策がこれからも増えることに期待しています。	社員が働きがいを感じてこそ、お客様が満足するサービスの提供ができるのではないでしょうか。今の現状では社員のESという考え方がどこかに消えてしまったようです。
854	岡山県	国民の不便さは増大している。見直すべき。	ユニバーサルサービスの維持を最優先に考えてほしい。	ー
855	岩手県	郵政民営化から1年以上経ちましたが、地方の郵便局も四社化になり、かつての郵便局としてのまとまりが欠けてきたように見受けられます。民営化に伴って弾力的な運営が行われるものと一定の期待感を持っていましたが、会社毎の縦割意識と連携の悪さから、目に見えてサービスが低下しており、その苦情も市に寄せられています。また、郵便局職員の地域行事への参加も減少しており、事業経営面のみならず、生活基盤としての郵便局と地域住民とのつながりもといった機能までもが、みるみる失われており、非常に危機感を覚えます。	郵便局のユニバーサルサービスは、郵便のみならず金融業務や物流業務の分野においても、今後とも引き続き必要であると考えます。本市においても、住民票の交付サービスなど、市役所と郵便局の連携は、今後ますます重要になっていくものと思われます。事業の経済性、効率性は当然大事なことだと思われますが、持ち株会社側においては、地域活性化のパートナーとしての郵便局への配慮が必要だと考えます。	農協の再編によって、農協の支所の統廃合が進み、結果的に郵便局が唯一の金融機関となっている地域においては、郵便局の弾力的なサービス展開が、そこで暮らす住民の生活を支える基盤となっています。例えば、地元自治体との施設の共有化などにより、経費削減の知恵を絞りながら、今後のサービスの維持に努めていただきたいところです。
856	岡山県	分社されたことによる非効率な部分が多く、お客様のためになっていない。	◎民営化以前のように、郵便・貯金・保険を一体的にできるように改善してもらいたい。（特にお客様の利便性の観点から） ◎貯金・保険の限度額の緩和又は撤廃	ー
857	埼玉県	東京、大阪両中央郵便局の扱いについては賛同しかねる。取り壊し、あるいは表面だけ保存というには、あまりにも酷い。多くの専門家や文化庁までもが、重要文化財としての価値があることを認めているにも関わらず、それを行政に近い側があのような形で超高層にしてしまうというのは、良識を欠いているといわざるを得ない。	建物の美的完成度に加え、日本の近代化を建築の空間によって象徴する遺構であり、是非とも全面保存と活用を行ってほしい。そうした行為こそ、新しい時代へ変革させるメッセージになるはずである。自らの歴史を振り返り、その価値を、認識してこその未来であろう。そのことは、郵政の新体制にとってもプラスに働いていく筈です。東京駅前は、地価が高いから高層化するべきといわれるが、同時に東京あるいは日本の顔というべき場所です。だからこそ、歴史的由緒のある建築物を遺していかなければいけないのです。ご英断を期待します。	世界に誇れる建築物です。是非とも全面保存を実現させてください。
858	宮城県	民営化になるとサービスが良くなると言ってましたが、私には実感できません。逆にサービスが低下したと思います。長くなった待ち時間、高くなった手数料、どこに電話したらいいかわからない…。どれもこれも私たち利用者にとっては大きな「ダメージ」でしかありません。	本当の意味でのサービス向上を期待します。いままでの体制（窓口に行けば一度で用が足りる等）が私たちにとっては有難いのですが…。見直しのできることは、しっかりと改善して欲しいと思います。	良いところ、悪いところをしっかりと見極めて、私たちが納得できるような改革を大いに期待します。
859	群馬県	ー	現在分社化されたことのよりお客さま、社員等に様々な不便が起こっている。特に郵便関係では、郵便局会社と郵便事業会社 の連携が悪いように思え郵便物の遅配・誤配等に対応することが難しい。郵政グループが一体となって仕事のできる体制を期待する。	貯金・保険にもユニバーサルサービスを義務づけてほしい。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
860	広島県	（1／2） 正直申し上げまして、これまでの郵政民営化に対して評価できることはほとんどありません。あるいは郵政関係者の意識を変えてもらうという点では意味があったかもしれませんが、少なくとも業務上、見るべき成果はまだ上がっていないと思います。むしろデメリットばかりが目立つのが正直な感想です。配達できないということで返信される郵便物が増えました。昔は多少住所が間違っていても、郵便局員さんが配達先を探してでも届けてもらえました。今はアルバイトの方が増えたとかで、そこまでのサービスは期待できません。また、郵便物の転送も時間がかかるようになりました。集配局も統合されたようですが、その結果、地域のサービスはあきらかに低下しました。郵便物が届くのは遅くなりましたし、休みの日に小包を受け取ってもらえなくなりました。それぞれの窓口で担当が厳格になり、自分の担当で無ければ絶対に受けてはくれません。また、杓子定規な対応も返って増えたような気がします。諸々の手数料も高くなりました。これらのサービス低下は予想されたことだったのでしょうか？郵政民営化の議論の中では、これらのサービスは、料金に対して過度なサービスだったとでも言うのでしょうか？そもそも、郵政民営化におけるメリットとしては以下の3点が上げられていたと思います。 1.競争原理の導入と経営の自由化によって、業務分野の拡大やサービスの改善が図られ、利便性が向上する。 2.民営化された各社が民営に移行したことで、法人税や印紙税の納付義務が生じるために国の税収が増え、財政再建に貢献する。 3.自由に資金が運用できるようになり、従来のような郵政から財政投融資への自動的な資金移動がなくなり、特殊法人の合理化が進む。	（1／2） 今後の郵政民営化への期待というか注文になりますが、まずは三事業一体化、特に郵便事業会社と郵便局会社の一体的運営ないし合併を考えるべきです。郵便事業は郵政三事業の中心的業務であり、それを支えているのは全国25000の郵便局ネットワークです。また、郵便局の活動を地域と結び付けているのは配達を担当する郵便事業会社の職員です。2つの職務は不可分であり、2つが一体的に仕事をしているからこそ、地域との結びつきが強固となり、郵便事業を進める上での効率化にも資することとなっています。ましてや郵便事業がユニバーサルサービスとして要請されていることを考えると、2事業の一体化は不可欠と考えます。一方で、郵便事業の今後を考えた場合、郵便事業だけでユニバーサルサービスの維持と採算を両立させるのは不可能です。そうすると、税金投入を除けば、他の事業で補填を図っていく必要があります。最近の地域動向を考えた時、危惧されるのは金融排除とも言うべき現象です。日本における金融排除は、地域的に金融機関を利用できなくなることを指すことが多く、事実その意味でもJAの統廃合により危険性は高まっていますが、金融手数料が増えたことによって、貧困層が金融口座を持てなくなるという本来の意味でも金融排除の危惧が高まっています。こうした情勢を踏まえると、三事業一体というこれまでの経営は、実は極めて合理的な方法だったと考えます。そもそも、民営化を考える上でユニバーサルサービスの提供は大きな足かせです。私自身は、本来郵政事業は民営化に適さない部門ではなかったかと考えていますが、3年前の衆議院選挙の民意を重く受け止めれば、ここでそもそも論を繰り返すのは控えたいと思います。	これ以上、日本を住みにくい社会に変えないために も、三事業の一体的経営と株式売却の凍結を提案いたします。
		（2／2） 1について、利便性が向上していないのは、最初に指摘したとおりです。むしろ競争によって、手数料が増えるなど、サービスの質は低下しています。唯一、ATMで他の銀行カードが使えるというのは便利だと思いますが、これは民営化しなくても実現できたのではないでしょうか。 2について、税収が増えるとあります。実際に増えたのかどうか確認をしていませんが、たとえ増えたとしてもその税収を負担するのは利用者です。ましてや郵政各社はその財源を経営努力で捻出しているのではなく経費に転化しているわけですから、税収が増える意味がありません。 3について、資金の流れが変わるとありますが、既に財政投融資制度は廃止になり、郵貯資金等が、特殊法人に直接流れる制度は廃止になっています。郵政会社が買っているのはいわば国債と一緒であり、特殊法人の整理と結びつけること自体が、ごまかしに過ぎません。また、資金運用が自由になれば、運用効率の向上という意味でリスクの高い商品にも手を出すことになると思いますが、今回の米国発の金融問題を見ていると、果たして郵貯や簡保事業が、しかも性格的に預金者にとっての最後の砦とも言える性格のお金を使って、そこまで金儲けに走るべきかどうか疑問に思います。 結局、「民営化」の意味がコスト意識の向上だったとすれば、今はコストに見合う（？）サービスが並べられているだけであり、昔の曖昧だったかもしれないけれど「お値段以上」のサービスを受けられていた感のある郵政事業の方を懐かしく感じています。	（2／2） しかし、郵政事業に期待される役割というのは改めて見直す必要があります。都会と地方の格差が問題視されている今、地域に拠点を持つ郵政事業に期待されることは、たとえば地域でコンビニを経営するようなことではなくて、むしろ公的な仕事を補完する役割なのではないでしょうか。そして、公的な仕事を担うのは公務員でなければならないという発想は古くなってきています。地域の見守り活動や、市役所の出張所機能などは、かつて公務員であった郵便局員にうってつけの業務だと考えます。しかし、株式が本当に民間に放出されれば、こうした公的仕事を補完する役割というのは全く果たせなくなる可能性が高まります。公的仕事の補完が経営的に難しくなった段階で、或いは公的仕事の補完に振り向けていた経営資源をより利益の高い業務に振り向けたくなった段階で、打ち切られるのは容易に想像できます。それが民営化というものでしょう。そうなれば、ユニバーサルサービスも、実行は担保されるけども、サービスの低下は十分考えられます（僻地への郵便物配達は実施するけれど、一週間かかろうが1ヶ月かかろうが構わないとか・・・）。それでもまだ株を持つ人間が日本人であれば、同情心も手伝ってそうした合理化を手控えることもあるかもしれませんが、海外投資家に渡ればそれも期待できません。あるいは、日本国民の財産が、たとえば海外資産への投資に使われ、結果的に今回の米国発の金融危機と同様、何かの拍子に損失してしまうこともあるかもしれません。郵政事業を単なる金儲けの手段としないためには株式開放の凍結は必要だと思います。経営合理化を追求する余り、郵政ネットワークの本来の役割を否定してしまっては意味がありません。	

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
861	北海道	郵政に席を置く者として民営化を歓迎したい一人です。サービスの多様化など将来が楽しみな会社になると思います。しかしやはり問題はかなりあります。国民、お客様が分割民営化された企業形態であることを理解していない。民営化から1年以上経過しているのに『郵便局』と『日本郵便』の違いがわからず苦情等が『郵便局』に寄せられる。『日本郵便』の名称の変更や国民へのPRを改めて行う必要があります。 民間になった『郵便局』のネットワークを活用出来ていない。特定郵便局や簡易郵便局が無くなると地方が不便になるという意見があるが、誤解があります。普通郵便局から社員が特定郵便局や簡易郵便局に出向く店舗に切り換えることで不便にはならないと考えます。 議論されるべきは、特定、簡易郵便局の廃止論ではなく、『特定郵便局長の廃止』こそが、郵便局株式会社の最優先課題であり即効性のある効率化です。民営化以降特定郵便局長の権限が強くなり、普通郵便局長が旧特定郵便局長会に吸収される事態になっています。郵便局株式会社の健全化には『特定郵便局長が居なくても郵便局は存続出来る』という、『特定郵便局長の廃止』が最も必要なことです。特定郵便局長として雇用する経費も非効率ですが、会社の意志が正確に伝わらない。古い公務員体質から脱却出来ないのは社員ではなく、特定郵便局長であることを報告したい。事務が非効率～事務の流れが公務そのもの。現場に権限がないので責任がない。	『郵便局株式会社』としてブランド化を目指してほしい。社内ベンチャー企業を立ち上げて新規事業を展開したい。	郵便局の民営化が成功するかしないかは先に報告した。各地の郵便局の内部を検討しないと正確な論議は出来ない。特定郵便局長をなんとかしないとJRやNTTのような会社にはなれません。このままでは優秀な社員がリストラされ、特定郵便局長が生き残ることになります。郵便局株式会社が将来、社会に貢献出来る企業になるためにも、特定郵便局長廃止を行ってほしい。
862	宮城県	前略　郵政民営化後の現状について一言申し上げます。以前、公務員の時代は公共性が表面に出て、国民のためであれば多少国が負担が増であっても公共性が優先することがあった。民営化が進められる時点で、私が一番心配したのは、利益が伴なわないものは切って捨てられるのではないかということです。まず、採算が取れないところは郵便局もなくなるのではないかということです。丈夫ではそのようなことは無いと言い切っていたが、第一に簡易郵便局はどんどん姿を消しています。私の友人は70歳に近い元職員ですが、頼まれて簡易局へ勤めていますが、仕事は農協があるので貯保は取り扱いません。切手はほとんど売れず、一日勤めているだけとか。お客さまのための駐車場の借り上げ料月10万円とか、人件費と諸経費で何10万円の経費をそれで簡易局を存続していけると言えるのでしょうか。現在の作業内容をはじめ、住民のための事業を見直す必要があります。	―	―
863	新潟県	電話一本で集荷が難しく、遅い時間にやってくる。分社化になったおかげでサービスが悪くなった気がする。	―	―
864	東京都	手数料の値上げ、待ち時間の長さなど、お客さまにとってのメリットがない。	会社の垣根をなくしてほしい。	―
865	鹿児島県	今まで、何気なく手紙をポストに投函していたポストが、今は撤去されなくなりました。 幼いときから馴染みのポスト、今は遠くのポストか郵便局で手紙を出してます。サービスの低下につながっています。又、民営化前は郵便物が午前中届いていたのが今は午後です。配達をしている方も以前は色々話をしていたのですが、今は余裕がないのか、仕事に追われているのか、バタバタして様子が伺えます。郵便局では職員の方が一生懸命、丁寧に説明をしながら応対されている姿に感心しながら、もう少し待ち時間を短縮できないものかと思います。以前より職員の方が少なくなっているように思います。民営化前よりサービスが悪くなっていると思います。 小泉さんの言っていた郵政民営化、私たちにとって何の利益があるのか、小泉さんはサービスは変わらないと言われていましたが、不便になっているのが現状です。以前の身近にある郵便局に戻ってほしいです。	―	―

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
866	栃木県	小泉首相や竹中大臣は民営化になればもっとサービスが良くなると言うことをキャッチフレーズにして参りました。ところがいざ民営化されると、郵便局での待ち時間が大幅に長くなり、さらに過疎地では簡易郵便局が400局以上も廃局になるなど、そのためか措置の住民は時間を掛けて遠方の局へ行かなければならなくなり、大きなサービスダウンとなりました。小泉・竹中両氏は国民にうそをついたことになります。今思うに自民党議員の大半は郵政法案の内容を理解していなかったのではないでしょうか。、もしりかいしていれば外資との関係が連想され、恐ろしくてとてもこの法案は通せる代物ではないことが分かったはずであります。木内実先生が安倍氏の説得に最後まで応じなかったのは、法案の恐ろしさをよく理解されていたからではないでしょうか。民営化になって良かったと思うことは残念ながら全くありません。むしろ大きな負の遺産を国民は背負わされたことになります。	現在のままでは期待することは全くできず、ジリ貧状態となることは目に見えています。早急に行わなければならないのは、機構を改革することです。郵便局のユニバーサルサービスは郵便・貯金・保険の三事業が一体となってはじめてスムーズな運行が出来るのであり、国内隅々までサービスを行うことの出来るいわば130年余にわたり築き上げられた国民の財産であります。それが一瞬の内に失われようとしております。いわば国民は負の遺産を背負わされようとしているのであります。三事業のうち一事業でも欠ければ郵便局の運営は成り立たなくなります。それからは廃局、撤退ということになるのは申すまでもありません。郵政三事業を1という整数に例えれば、それを4分の1に分解し、窓口事務室に壁をめぐらし、苦肉の策として郵便局会社という生産性の無い請負会社を作り、小局で利用者に対応するという全く常識では考えられないことが行われるようになりました。郵便局会社の基盤は脆弱であります。郵便事業に2つの会社が存在し、年賀葉書の予約販売を競い合うなど目を覆いたくなるような事態が出現しています。また、ゆうちょ銀行では郵便局への文書に宅配便を使うという非常識なことが行われ、唖然とさせられました。 今後の民営化に望むもの、それは言うまでもなく、三事業の一体化であります。それも相互応援を可能にする柔軟なものでなければなりません。これは官営に戻せといっているのではなく、全株を国が保有するようにして上場は絶対に行わないように、根本的な法的見直しを行わなければならないと思います。	郵政事業は民営化される前は、一銭の税金も使わずに健全運営がなされておりました。しかるに小泉氏はこの健全事業を多額な税金を投じて民営化し、その際、大見得を切った「民営化すればサービスはもっと良くなる」は民営化と同時に大幅に逆行しております。竹中氏は早々と議員を辞職し、小泉氏も引き際の悪い引退を表明しました。これは品の無い言い方をすればトンズラ以外の何物でもないと思います。自民党総務会の郵政民営化法案可決の様子は、まさにルールを無視した惨状でありました。私は、最近自民党議員の方と話をする機会がありました。彼は郵政民営化には反対であった。しかし、とてもそんなことを言える状態ではなかったと申しておられました。小泉恐喝政治の前では黙するより仕方が無かったのだと思います。フランス革命のロベスピェールと告示しており、除名・離党勧告など、準ギロチン的なやり方は、カリスマなどというものではなく、スターリン式独裁以外の何物でもありません。日本は戦後民主主義国家として発展してきましたが、小泉式やり方は首を傾げたくなります。130余年、営々として築き上げられてきた職員の血と汗の結晶がごく僅かの期間で水泡に帰してしまったことは大いなる悲劇であります。様は三事業一体によるユニバーサルサービスを絶対のものとし、過疎地のお年寄りが安心して気楽に利用することのできる条件を整えなければなりません。また、かつては郵便外務員が道路の破損事故につながる懸念のある場所の連絡や配達途上での利用者からの貯金、保険業務への連絡などを行うことが出来ましたが、民営化後は組織が分断されたため出来なくなりました。とにかく一刻も早く三事業一体としたサービス機構に再編することが国民に対する政府の責任であります。
867	岐阜県	現在の郵政事業は民営化前と比べ、国民の利便性が低下している。 (1)郵便事業所間の集荷等の対応が困難であり、サービスの低下を招いている。当局は併設局であり、不在配達、誤配等の連携対応がある。 (2)会社間手数料の問題　各会社により、手数料が違う。当然、手数料の多い事業を行い、手数料を多く頂くのが事業でもあるのに、手数料の少ない郵便事業(物販、切手、ハガキ等)を何故、他事業よりも時間をかけてやらなければいけないのか。窓口会社だから郵便が無くなれば郵便局もなくなるという意味合いは分かるが、これから生きていこうと思うならば、ゆうちょ銀行。かんぽ生命の事業に力を入れたほうが利益は確実に出るのではないか。 (3)特定局と旧普通局との垣根が無くなり事業をやることは良いが、社員が少し多いからといって目標が多すぎる。損益計算すると小さな局で目標値を達成すれば社員局長の給与が確保できるのか。ユニバーサルサービスだから経営が成り立つことで一会社であればいつか倒産しています。 (4)業務品質も大切だが、利益を上げないことには給与はもらえない。郵便局は営業の会社です。コンプライアンスは遵守して当たりませだが、もう少し、検査、監査をゆるくし、営業がしやすい職場作りをしてゆかないと、この事業は低下する方向へ行くと思う。	(1)来年、衆議院選挙で民主党が政権を取り、郵政見直し法案を通していただきたい。 (2)地域の格差を無くすこと。 (3)業務を簡素化し、お客さまが利用しやすい郵便局にすること。 (4)管理者を多くすること。(担当課長以上)。	ー

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
868	福岡県	ー	ー	（1／2） 郵政事業の官、民営化については国民全体の視線から洞察した場合は賛否両論のご意見が出ることは必然のことです。昔、「中庸をもって徳となす」と太子の言葉にありますが、民主主義の多数決制をもってしても中々難しい判決です。総ての行事について利害関係が伴なうことを考えますと、官民問題を簡単に一方が善で、片方が悪であると区別して比較論ずることは適切ではありません。 一般に現行の行政指導方針が民営事業は即、民営化に改革されるとの風潮にありますが、その結果として幾多の難問が派生していることは事実であります。一例を申し述べますとサービスの低下、利用料金のアップ等、市民生活に支障を来たす要件となっています。勿論、資本主義における基盤は利益追求を第一目的とした産業発展にあるわけで、異論はありませんが、総事業総民営化については、果たして行政指導として適切なものか否か疑問を呈するものです。 現在のグローバル化世界経済を見ますと、ケインズ経済の市場原理主義が崩壊しつつあることは周知のとおりです。他方、公的資金の投入、市中銀行の公営化現象などを推察しますと、民営化全体論は正当性にかける経営体質であるとも受け取れます。自由経済社会での規制緩和により競争社会のモデルも結構な施策ですが、他面、規制による統制経済社会も制度として必要なことです。小生の主観的な自論を申しますと、民営化論を全面的に否定するわけではありませんが、各事業体について、官営モードが必要な部分も多くあると思います。官と民は車の両輪と考えるのが小生の自論です。製造、物流、金融…等各部門ごとに官営制度を1箇所設けることです。
				（2／2） 官営撤廃の議論が広く叫ばれていることに小生は”何故”か分からない。官営であれ、民営であれ、共通する事項は沢山あります。官営にも運営、運用の段階でいろいろな処方箋があります。官営ゆえに民営の処方箋が使えないといった主張は近代経済、及び近代社会のビジョンを阻害するものと思えます。資本主義社会といえども、民営化が万能ではないことを認識すべきです。 郵政三事業も金融、流通の面で、一般市民に愛されてきました。庶民の望むサービス機関として今日まで改善するところは改善して現在の制度がなされてきたわけですが、民営化指向に改革され、非常に残念でなりません。格差社会の改善にも、サービス改善にも官営としてしかるべき方策があったのでは…と思います。こと21世紀に至り、今後の郵政事業の方針を明確に表して、明治以降に築いた業績を絶やすことなく、改革改善を行い、国民の期待に応えるべく、優秀な制度の元で発展していくことを望みます。ご意見が大変抽象的な言葉となったことを不覚お詫び申し上げます。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
869	新潟県	H19.10.1郵政事業は長い歴史を経て、民営・分社化し、民間会社としてスタートしました。郵便局を利用する立場から、民営、分社化した郵政事業の現状について感想を述べさせていただきます。〇〇市内では、郵政省時代は集配普通局1局、集配特定局4局、無集配特定局6局がありました。それが民営、分社化となり、窓口会社11局、集配センター2局となりました。このことは、事業会社と窓口会社が同居している局が2局あり、集配局が3局減となったということです。支店は〇〇市内には1局もありません。郵便を利用する立場から見てみると、集配局が減ったことによって配達時間が遅くなってきた地域も出てきたと聞いております。雪深い〇〇地方は3メートルも、4メートルも積雪することもあります。従来の配達局に戻し、配達局から配達地までの距離を近くする必要があります。そのことが利用者の利便性を図り、配達の効率化と配達員の体力の消耗を防ぐことが出来ると思います。又、現在、集配センターの電話番号をお客さまに知らせてなく、小包、書留、その他の郵便物等の誤配などのトラブルは支店と連絡を取らなければならず、利用者としては非常に不便です。郵便の窓口と集配センターが別々の会社というのも不便です。過疎地の魚沼地方では、民営による採算が合わない場合には、郵便局会社の局が廃止されるのではないかと不安が広がっています。郵便事業における民営、分社化は利用者にとって不便と不安が一杯です。早急に元に戻してもらいたいものです。	―	―
870	北海道	結論から申し上げると郵政民営化には反対である。なぜならば完全なサービスダウンになっており、郡部においては多くの郵便局が廃止になっており、高齢者の年金受給にあっても大変な苦労をしているのが現状である。このことについては分かりきっていたことであるが残念であるが郵政選挙において数票の差で負けてしまい現状のとおりである。私は郵便局を退職して、すぐにスイス、ドイツ、フランスの郵便事業の現況を見聞かつ住民の声も聞くことが出来た。特に民営化時のドイツでの郵政事業は、小泉改革の名の下に郵政民営化がなされた状況と似ており、結論から言って完全に失敗をした国営にもどしたのである。なぜならばライフラインである郵便局が無くなり、一極集中が始まり、大変政治不信がおきて再度国営に戻したとの事であった。日本郵政の民営化はアメリカに指示をされ民営化を選択したものである。一時的に若くて元気な小泉マジックに多くの国民が良識ある判断能力を失い、何でも改革の大合唱の元に民営化されたわけである。改革という目新しい二文字がまさに現在の社会の経企不安定に結びついているといっても決して過言ではなかろう。誤りを正す勇気こそが大事なことであり、政治の責任においてやるべきであろう。私は国営でやるべきものと民間で出来るものを明確にしていくべきであろうと考えている。もう一度。郵政三事業は一体でやってこそ、真に国民に対しての政治の責任であろうと考える。	―	―
871	東京都	郵政民営化は、じっくり時間をかけて、きちっとした会社作りをした後だったら国民にも理解してもらえたと思うが、今日を見ると利用者の利便性等を見るとあまり高まっていない。むしろサービス低下しているように見える。社員も仕事量増大し、残業が多くなっている。ひとまずここで大きな見直しを図って、利用者が喜んでくれて社員の働き甲斐のある会社になってもらえることに期待したい。	―	―
872	東京都	民営化でサービスが良くなるとの事でしたが、そのようには思えません。 ・待ち時間が長くなりました。 ・手数料が高くなりました。 ・両替をしてもらえなくなりました。 ・郵便局の良さがなくなったように思えます。以前は貯金の窓口で保険の話をしたり、お中元やお歳暮の相談が出来たのに今はとても出来ません。	―	―

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
873	岐阜県	ー	ー	民営化といっても具体的な展望もなく、現場は大打撃を受けている状態です。何も自社商品を持たずにこれから先本当にやり続けていけるのかも不安ですが、とにもかくにも、利益を追求していこうと効率化ばかりが先立ちお客様というよりも働くものが先にくたばっていく気がします。自分の局は2名局ですが、常時3人体制を作ることも難しく、この12月などは息づく暇もないといったところです。利益を追求することは絶対していかなくてはならぬことですが、働く人を大事にしない会社は明るい展望はないと思います。是非日本の文化といっても過言でない郵便局の文化が高まる民営化・改革にならないものでしょうか。
874	長野県	郵政民営化法案が成立して3年が過ぎました。この間感じたことを中心に、これまでの郵政民営化に対する評価に関して以下意見を述べたいと思います。 (1)地方(村部)の住民にとってかけがいのない存在である郵便局を守ってほしい 様々な選択肢のある大都市圏の住民ならともかく、地方に住む住民にとって郵便局はほとんど唯一の身近な金融・情報サービス機関です。日本全国どこにでも郵便局はあって通帳さえあれば何処ででもお金の積み下ろしが出来るし、切手を貼れば全国何処へでも郵便物を届けてくれる。何故「民営化」をしなければならないのか。民営化すれば経営効率の悪い地方は切り捨てられるのではないかという不安は最初から持っていました。法案成立時の為政者は「サービスの切り下げはない」と断言していましたが、実際はどうでしょうか。民営化によって私の住む地域郵便局の職員数は激減しました。当然のことながら以前と同じ水準のサービスは受けられなくなりつつあります。地方(村部)切り捨てにつながる「民営化」の見直しを求めます。 (2)庶民のお金(郵便貯金)は大切に国内で運用してほしい 「民営化」を強く求めたのはアメリカ政府であったとお聞きしています。 日本国民(庶民)がこつこつ貯めた貯金の総額は莫大で確かに世界を股にかけた金融資本にとっても魅力的でしょう。しかし民営化によって私たちの貯金が国際金融資本の影響下に完全に置かれたら一体どうなるのか。今回の金融危機の経験からもそれは絶対に避けてほしいと考えます。(国民のお金は国民の意見を聞きながら運用してほしい。その意味では従来の運用の仕方-財政投融資も問題があったと思います) (3)市民の活動を支えてくれる「郵便振替」 私は現在、環境関連の市民活動に関わっています。会費等の徴収(送金)に銀行と比べて少額の手数料で済み身近な郵便局から送金が可能な「郵便振替」制度はたいへんありがたいものです。民営化が更に進むことで手数料が銀行並みになるとしたら活動の継続も困難となることが予想されます。市民の活動を支えてきたこれまでの郵便局の役割(公共性)が失われることのないようにお願いいたします。 以上よろしくお願いいたします。	ー	ー
875	岐阜県	(1)待ち時間が長い。 (2)ゆうちょの手数料が上がった。 (3)不在の書留の受取が面倒になった。 (4)郵便局の中に2つ会社があるのはおかしい。	分社化してお客さまが便利になっていることは1つも無い。三事業一体が望ましい。	民営化に比べて事務量が増え、社員のモチベーションは下がっている。
876	東京都	・新規業務が次々と始まり、手続き改正も多すぎる。又、改正日当日まで、手続きを見ることも出来ない。民営化前には前もって手続きを見ることが出来たが、分社化したとはいえこれでは十分な準備も出来ない。 ・お客さまにもお待たせする時間が増し、ご迷惑をお掛けしている。	このまま進むなら期待出来ない。	ー
877	東京都	郵政民営化によって、利用者はさらに便利になるものと期待されていたが、その期待や思いが裏切られている。待ち時間は以前より長くなり、商品によっては手数料が倍以上になっている。またお祝いやお悔やみが急に発生したときに便利であった、「電信為替」の取扱いもなくなってしまい、当日中に住所あてに送金することができなくなっている。あまりにも効率性を求めていて、利用者の希望や利便性を反映していない。会社が4分割されてしまい、責任の所在もはっきりしていない。郵便局の職員と利用者の親密度や信頼性も薄くなってしまった。	もう一度国民全体に郵便局がどうあるべきか問いかけるべきだ。地域によっては、郵便局の存在がその地域の生命線であり、都会に較べて重要度も高いはずだ。また、4分割された形態では、利用者にとっても不便な面が多い。(民営化以前なら、貯金と保険の手続きが一度にできたのに、民営化後は2度の請求手続きを要する等)利用者が欲している形態を法案等の改正により再構築すべきだ。	昨今のアメリカに端を発する不景気状況により、企業の減収減益が増大しており、非正規雇用社員のリストラが問題化している。郵便局も仮に株式公開でアメリカ等の資本が導入されると、(または導入されていったとすると)効率性一本やりで職員の数や局数も減らされ、利用者にさらに迷惑をかけることになり、日本のすばらしい制度・文化の崩壊につながる。利用者に目を向け、地に足のついた仕組みを再構築するためには、公営に戻すことも視野に入れて郵政民営化を再検討すべきである。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
878	新潟県	郵政民営化になって早いもので1年が過ぎました。この間郵便局会社には、利用者から「民営分社化になり不便になった」とよく言われます。たとえば、土曜、日曜日のゆうパック・速達・書留類の引受けですが、引受け場所が、身近になく遠くに行かないといけないので、過疎地に住んでいる高齢者の方々は、たいへん難儀をしています。またそれに加え、郵便局会社の時間外窓口が、廃止になり日中不在の方が、夕方・休日など郵便局の窓口に出向いて書留を受け取りたい場合など、対応が出来ないので利用者は、たいへん困窮しているのが現状です。また、ゆうパックの集荷の電話は、郵便局会社にかかり、実際伺うのは、集配センター社員なので、取次ぎがスムーズに行かない場合、あるいは、すぐ対応しないといけない集荷の場合は、時間がズレてしまい、今までのご利用者からは、苦情が寄せられています。 これらの、郵便に関する現状を目の当たりにしていると、「果たして郵政民営化になって良かったのか」と問われれば、「NO」と言わざるしかありません。 法律では、3年ごとに見直しされることになっていますが、現場の現状を今一度、総点検して利用者の立場に立って、原点に帰って不便を解消していただきたいと思います。	ー	ー
879	東京都	この度の郵政事業の民営・分社化により、郵政事業が国民生活に欠かせない重要な事業としての将来展望が開け、事業に携わる職員の気持ちも事業の発展に向かい高揚したものになると期待していたのは、私を含めた大多数の国民利用者の期待であったと確信していたところです。しかしながら、新聞等各種マスコミの報道や、最近の与野党の中での議論等により、また、実際に郵便局の状況をみて分かることは、民営・分社化実施後1年1ケ月余が経過した今日、郵政事業はどうなったのかと心配せざるを得ない感じです。現状、実態を知るにつけ、その目指したこととは大きくかけ離れた、憂慮すべき実態となっているのが現状ではないか、と感じることしきりです。お客様サービスの面からは、待ち時間が長くなり、その上各種手数料は上がり、手続きは複雑煩墳となり、お客様の苦情や不満が目だって多くなりました。また、貴重な生活ネットとも考えられていた過疎地等における郵便配達や貯金・保険の外野活動に併せての老人や弱者への声かけなど地域社会に貢献していた数々の有益な付加サービスが、行われなくなるか、極めて少なくなったようです。現場の管理者を含めての働く職員の側から見ても、将来を見据え意欲を燃やし我を投入して事業に取組める環境なのかどうか、問題多しとの調査結果もあるようです。何が問題なのか。必ずしも民営化したことが問題ではないと考えます。郵政事業の継続的な発展と将来展望のためには、経営形態として国から民営になるのも世の常であるなら、それはそれで、その目的とすることを活かせばよいわけです。最大の問題はこの度の民営・分社化の仕組みにあると考えます。郵政事業は、創設以来三事業一体の事業として運営されてきたところであり、ここに利便性と効率性を兼ね備えた事業として継続発展し130年余の歴史を築いてきたもので、我が国の文化とも言える存在になっている事業であります。この三事業一体こそ最良の事業体であるものを、この度の民営・分社化では、あろうことか机上の形式的な空論盲論により四つの会社に分割したことが最大の問題であります。	国民生活の貴重な基本的インフラとして存在している全国ネットの郵便局が、国民生活に不可欠の通信・輸送・金融等の生活基盤的なサービス提供組織として、将来的にもこれまでと同様な有意性を持って存在し機能していくためには、事業運営の枠組みの見直しが喫緊の課題であり、次の見直しを早急に行うことが肝要であります。先ず根本的な見直し点としては、郵政事業の民営・分社化が郵便局に混乱と利用者の不便を生じさせ、併せて事業としても人的、物的非効率をもたらしている現実を直視し、これを早急に見直し、四分社化を廃止し、三事業一体の経営枠組み事業体に改めるべきであります。同時に、今後の郵便局機能を確保継続して国民生活の基礎的インフラとしてのサービスを提供していくためには、郵貯・簡保サービスを安定的に提供することが国民的視点から肝要であり、このため、両会社の株式の処分を停止し、将来に亘りあまねく全国に現行のサービスを継続するようにして頂きたいことです。	この度の民営化は、そもそも何だったのでしょうか。巷間、マスコミ報道、各種書籍上で論じ報じられているように、外圧を受けての他律的な圧力に強いられての判断・実施であったとしたら全くもっての暴挙であり、国民生活の利便性を蔑ろにする見せかけの改革であったと言わざるを得ません。早急な見直しが必要です。
880	福岡県	ー	ー	僕は、今年の4月5日に結婚しました。親しい知人・友人や4代目の父の関係者等取引関係者に案内し自分達のイメージ通りの式が出来ました。そして初めての正月を前に、一つ心配事が有ります。それは、12月3日の新聞によると大阪のJR梅田駅に2ケ月間も配達されずに放置された郵便物が12万通発覚したとのこと。僕は、式の案内状を82通出しましたが、この内2人から返信が届かず困りました。直接は聞きづらく、結局知人を通じて尋ねたところ届いていなかったのです。早めに対応したので、事なきを得ましたが。僕の件も梅田の12万通も、郵便の大切さは同じです。こんな事が何故起こるのでしょうか?郵便物が届かない事は、地震等自然災害で道路・電気が不通になったのと同じです。是非、早急に原因究明し2度と繰り返さない様にして貰いたいです。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
881	岩手県	（1／2） 私は○○町議員から○○町長になり永年にわたり、地方行政に携わってきました。3年前に引退し現在は一市民として暮らしていますが一言申し上げたいと思います。約41年間地域住民と常に接し、住民の生活と暮らしを第一にそして、住民の幸せと利便性を考えてきたつもりです。私の近くには、大先輩の局長さんがいて、大変お世話になったものです。惜しくも三年前にお亡くなりになり私も大変ガッカリしています。何かと役場の行事等には、常に同席して頂き挨拶をもらいました。私が、町長として挨拶した後、局長さんが挨拶することにより、住民も安心して私の話と局長さんの話を聞き安心と理解を得ていました。ところで、昨年の十月から郵便局が民営化となりいろんな面で郵便局の利用が不便になったと感じています。 ①一つは、郵便局が土、日等が休みになり窓口が開かれなくなった事。役目柄、地域の住民に弔慰やお慶び等の挨拶をしなければならない立場ですが、自由に出せなくなったことです。レタックスは大変便利な挨拶文と考えていました。自分の書いた文がそのまま相手に届くし、料金も大変安く重宝だと感じていました。郵便局が、土日休みになった事で、いつでも自由に差し出せなくなった事は本当に不便です。郵便局員に聞くと、郵便事業会社(別会社)ではいつでも引受けが出来るとのことだが、電話番号も分からず、どこに連絡してよいかも不明であります。人と人との最低限の挨拶である慶弔も自由に出来なくなった感がするものです。	ー	ー
		（2／2） ②もう一つは、何か用事を頼もうとすると、「会社が違うので出来ません」と簡単に断られてしまいます。同じ建物の郵便局で仕事をしていて、どうしても理解ができません。これからは高齢化がどんどん進んでいくと言われています。今は○○市になったが、私の町は高齢化が進み年金や貯金の利用の際はバス、タクシーで出かけなければなりません。以前のように誰に頼んでも当日、翌日は利用できるようになってくれればよいと思います。役場(今は支所)と郵便局は地域住民に無くてはならない機関と考えているから余計に感じているものです。 地方も合併になり、住民からから余計不便だといわれてきて私も心を痛めているところです。地元には、信金、農協、と郵便局が2局、簡易郵便局が1局ありますが、民営化になれば、儲けを第一に考えなければならなくなると聞いています。それは、当然かとは思いますが、地元の郵便局が赤字だけで切り捨てられるのは絶対反対です。安心する為には法律でしっかり確約していただければと思います。 郵便局が、以前のように便利に何時までも利用できるようにと心から願う一市民です。	ー	ー
882	岐阜県	元々、郵政民営化した段階で、国民不在の憲法だと実感していた。しかも分社化したことで、それぞれの会社間同士の仕事が見えにくく、サービスが極端に落ちた。例えば、郵便事業会社の分野だと言われる、郵便の送達に関しても以前より遅くなって、困っている。普通1日で届いていたはずの郵便物にしても、1週間かかるなど、年賀にいたっては、いくら遅く出しても、郵政省のころなら、元旦に届いていた葉書も「松の内」に着かないなど弊害が多い。貯金や保険についても手続きが、ややこしくなって、利用しずらくなった。全般的に見ても外からも中からもサービスの減退である。	折角、民営化しても、活気が沸いてこなし、将来像が見えてこない。まずは、いままで、やっていた三つの事業を一体的に行うと同時に、貯金保険の民営化後の株の売却を凍結し、ユニバーサルサービスを実現することである。車一台も通らない山奥においても、郵便物を届けたり、金融や保険業務をあまねく公平に行える体制を構築していくことが、郵政民営化をより発展していくことになる。	このままの民営化を続けていけば、それぞれの会社ごとで、赤字を作り、銀行不安どころの話ではなくなる。国民負担は更に増えることになるのではなかろうか。
883	東京都	郵便物の遅配、誤配、誤転送が著しく増加した。複雑な書類作成、事務処理のため待ち時間が増えているため民営化後、サービスが低下した。	お客さま離れと営業力低下の回復のためにも十分なお客さまサービスの提供と全社員が明るく元気でやりがいのある仕事となる会社を目指してほしい。	ー

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
884	岡山県	ー	ー	郵政民営化が施行され、特定郵便局は郵政三事業の代理店として位置づけられ、営業主体の会社として発足されました。郵便局会社の最大の財産はこれまで培ってきたお客様への信頼と、お客様の情報であると考えられこれから将来も絶対に守らなければならない一線だと思われます。しかしながら貯金営業について言えば、郵便局の顧客情報は、全てゆうちょ銀行に帰属するものと考えられており、ゆうちょ銀行の渉外部は、その情報を自由に活用することができるようになっています。都合のいい情報のみ活用し、効率的に営業ができるようになっています。さらに言えば、同じお客様を同じグループ内で奪い合いをしているということです。節操のない事態が今現場で起きています。お客様にとっても、そこで働く社員にとっても大変つらいものです。これからも、郵便局会社を三事業の代理店として位置づけていくのであれば、委託元会社は委託先の顧客に手を出さないという代理店ビジネスの基本は必ず守っていただかなければならないと考えています。そうでなければ、代理店制度そのものが成立しなくなってしまうのではないでしょうか。郵便局会社にとって商流の整理は最重要の項目であるであるのではないでしょうか。それらできないのであれば、三事業一体の会社として仕切り直しが必要であると考えています。
885	岐阜県	私は、人口16万人ほどの〇〇県〇〇市に住んでおります。今年の春頃だったと思いますが、中国地方でテレビ放送された、山間部の郵便局を題材にしたDVDを見る機会があり、びっくりしました。民営化前は、郵便・貯金・保険三事業一体でやっていたので配達人に貯金を下ろしてもらえたし、保険料の払込なども頼めたのに、民営化となり、配達人は、配達のみとなり、山間部の高齢者が、何キロも離れた郵便局へ、不自由な足で歩いている映像でした。また、郵便の集約で、配達する郵便局が統合され、配達時間が永くなり、今までは、配達人が、配達時に独居老人に一声かけたり、軒先で話をしたりしていた、高齢者も、楽しみにしていたと映像の中で話していました。民営化をして、良くなるのではなかったのですか、都会に住んでいては、分からない、山間・僻地に住んでいる人たちの暮らしを考えれば、民営化は、見直していただきたいと思います。国営に戻すのが難しいのなら、郵便・貯金・保険の事業をもう一度一体に戻してください。今、全世界が不況に陥っています、郵便局が、国営ならば郵貯資金を国内の資金対策に回せたのではなかったのかと思います。	ー	ー
886	東京都	三事業一体でなくなり、勝ち組のゆうちょ銀行・かんぽ生命、負け組にされた日本郵便・郵便局会社となっているのが現状である、サービスダウンは当然であり、私どもの郵便局会社に来るお客さまが「小泉・竹中に騙されたとアメリカに売られてしまうぞ」と営業中にも係わらず訴えてくる事もあります。郵便局会社は手数料収入がメインの会社、カタログ・物販販売は独自の商品であるがシステムは他会社の資産であることで1つの商品が発売されるたびに、分厚いマニュアルが作成され、販売時には非常に原始的な手書きの領収書・2つのシステムに複雑な手入力をしなくてはならない。会社に要望をしてもお客さまに配布する物品経費もないに等しい郵便局会社なので、独自のシステムを開発・全郵便局に配備をすれば即会社の経営が傾くであろうと思う。現場の社員が19年末のボーナスが支給され「ボーナスを無理に出したら会社がつぶれてしまうのではないか」との言葉には驚きました。勝ち組・負け組がはっきりと分かれてしまう民営化はあってはならない、三事業一体に戻すべきだと思います。	民営化を戻せとは言わないが三事業一体であるべき、例えば郵便事業会社併設局では会社が2つになったため人も車両も備品すら共用できない、もちろん郵便配達がお客さまの通帳を預かるなんてできない、三事業一体で効率よく経営ができていたのに民営化後は経費が大幅に増となる仕組みになっている。民間会社でありながらお客さまが公平なサービスを受けられ、スリムで効率よく経営ができる会社になることを期待しています。	ー
887	東京都	サービスダウン ・会社が分割したことにより、会社ごとに行える業務が制限された。郵便配達員が貯金保険業務を取り扱えないことは大きい。都市部ではさほど不便ではないかもしれないが、高齢者の多い過疎地では問題。 ・各種手数料の値上げ。特に貯金に関するものは以前の数倍になった。 ・各種申込み時おける、説明事項も増え、一つの用事でも時間がかかるようになった。	三事業一体の経営 ・会社が分割されたことにより、業務が制限された。一体経営となることで、今までのように一人の職員が何でも扱えるようになることが望ましい。特に今後の高齢化社会に向け、過疎地でも安心して暮らせるようにするべき。	ー

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
888	東京都	小泉総理の偏執的な郵政民営化で、少しでも良いところが出てくれば良いと思っていたが、手数料は上がる、貯金の窓口はものによっては今まで10分位で終わっていたものが1時間かかったり、証明書をやたら要求されるようになった。郵便局には十分な職員も配置されていないようで待たされることが今までの銀行のように長くなり、民営化の影響は悪いところしか見当たらない。小泉総理は良いことばかり言っていたがおかしい。最近はマスコミも良いことは言っていない。	公社時代の気軽に利用できるような郵便局に戻してもらいたい。	アメリカの圧力で郵政民営化が行われたことを知ったが、このまま株式を上場して、われわれ庶民が信頼して預けた貯金、保険のお金をアメリカのハゲタカファンドに持っていかれては困る。民営化の検証をしっかり行って、禍根を残さないよう慎重に検討されることを要望する。
889	神奈川県	昨年の10月1日に郵政事業が民営化され、1年が経過したが果たしてお客さまにとって本当に良かったのか疑問である。民営化の大きな目的である「お客さまサービスの向上」については、利用されるお客さまが直に感じているのではないか。郵便事業では遅配、誤配の数々、貯金事業では本人確認による手続、委任状等、さらに、ゆうちょ各種手数料の値上がり、保険事業では団体政の削減、委任状等の複雑化、マニュアル等の改正で、窓口業務は煩雑となりお客さまの待ち時間は増加し、郵便局会社のサービスダウンでお客さまの苦情になっている。お客さまにとってどこが良くなったのだろうか。身近な郵便局が遠くの郵便局になったようで利用者が減ったが、複雑な手続きのものが残り窓口は何時行っても混んでいる。郵便局会社は郵便、貯金、保険の各社からの委託を受けての仕事だから、いろいろ規制があって、お客さまの要望にすぐには応じられないのではないか。郵政政民営化の大きな問題は分社化という制度に問題があることはあきらかです。総合坦務による3事業の連携を強化してお客さまサービスの向上に向け、将来は三事業一体経営がコストの削減・営業収支の面で健全な経営が出来るのではないか。今後の郵政グループに期待したい。	―	―
890	東京都	―	―	(1／2) ● 損益を無視した年賀はがきの販売により経営を圧迫している。当グループは、年賀はがきの売上額のみを注視しているようであるが、年賀はがきの製造・輸送・販売コスト、年賀状の配達にかかるコスト(短期アルバイトの給与・確保・管理にかかる経費も含む)を計算に入れた損益を明らかにするべき。年賀に限らず信書(はがき、手紙)については、採算がとれるとは考えられない(民営化したとたん〇〇が信書便への参入等について何も言わなくなったことを考えても利益がでる事業でないことは明らかである)ため信書便については慈善事業と割り切り、国際物流等へ重点をおいた経営を事業会社へ求めるべきである。利益を追求する民間企業である以上、採算の取れない事業を継続するべきでないし、年賀状の配達は慈善事業の範囲を大きく超えている。中間決算で郵便事業会社のみが赤字を計上したことをよく考えるべきである。グループ内で1社でも倒産すれば、郵便局会社の経営も危なくなるのであるから、他会社の経営に注意するべきである。(社員) ● 地域性を無視した郵便事業会社の営業により旧特定局と地域住民との信頼関係が崩壊しつつある。郵政省時代から、旧特定局は地域に根ざした営業等を行い地域住民と良好な関係を築いてきたが、民営化後、郵便事業会社外務員による地域性を無視したモラルを疑うような営業により信頼関係を傷つけられている。(お客様、社員) ● 犯罪・事故の増加 管理者の減少、総務担当の減少により、各種チェック機能の低下等によるもので組織編制を見直すべき。また、余剰資金の銀行への送金手数料等を社員立替としているが、予算措置すべきである。一時でも私金を使用することは、犯罪を誘発することとなる。(社員) ● 設備、機器の修理等について、修理基準額を超えた場合更改要求等々となっているが、修理する現物を見なければ、見積もり額が出ない。修理するしないにかかわらず出張費を請求する業者がおり、その場合無駄な経費の使用となる。(局長)

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
				（2／2） ● お客さまの声が委託元へ届かない。 お客さまは、郵便、貯金、保険についての疑問・意見・苦情等はほとんどの場合、郵便局の窓口または、郵便局へ電話をしてくる。委託元へお客さまの声を引き継いだとしても”郵便局”というクッションがあるため、お客さまがどれほど怒り心頭で郵便局へ来店しているかわからず、そのため真筆に受け止めず真剣な対応を行わない。真摯に受け止め対応していれば、郵便物を2ケ月近くもコンテナに積んだまま放置するはずがない。（社員・局長） ● 民営化前に約束したこと反古にしている。 公社時代、集配拠点の再編を行った際、「不在持戻郵便物は原則再配達する」と報道発表していたが、民営化後1年以上経過するが、事業会社において、再配達を行うための要員配置やシステム構築を行っている気配がなく、相変わらず「配達時にいなかったのだから郵便局へ取りこい」といった感じがある。（社員） ● グループ各社が対等でない グループ各社はそれぞれがパートナーであり対等であるべきだが、郵便局会社が各社の代理店であることから「郵便局は下請け」的感覚があり、各社は「上から目線」（特に郵便事業会社においては臨時出張所の日程を勝手に決めてくるなど目に余るものがある）になっている。そのため郵便局の社員は「自分たちは負け組み」的感があり、社員の士気にも影響している。（社員）
891	岐阜県	ア　お客さまは、分社化により頼みたいことを頼めない郵便局会社の社員がいなくなった事で、非常に不便を感じておられる、同じ郵便局なのにと何故今までのように頼めないのか、お客さまは不満を感じておられる。 イ　外務員がいなくなったことで、お客様の不満が爆発しています。 ウ　ひまわりサービスができなくなった。 エ　貯金の預入等で、証明書類等を必要とするので郵便局離れが進んでいる。 オ　このままだと農協と同じように統合されてしまう不安が、お客様の意見として広がっている。	ア　従来どおり三事業一体で、だれもが親しみある郵便局に戻すべきだと思います。 イ　郵便局の職員という気持なら、お客様の望んでおられる情報（郵便だけではなく、貯金・保険の情報）を郵便局会社と連携を取ることで、お客さまに安心感を与えるのではと思います。	ア　過疎地の郵便局は近い将来なくなるのではないかと、職員・お客様とも感じておられます。
892	岐阜県	民営化すれば自由度が増し、社員にとってもお客さまにとっても、便利になり、郵便局がすばらしいものになるといわれてましたが、実際、ふたを開けてみると手続きは面倒になり、複雑になり、お客さまはお待たせし、苦情になり、実際に多くのお客さまも離れて行ったのではないでしょうか。特に分社化の弊害が大きいと思います。	手続き上の不便さや複雑化は分社化したことによるものが大きいと思いますので、今までのような（公社時）三事業一体の手続きの流れのままに戻してほしいと思います。	防犯、コンプライアンス等、今の世の中では一番大切な企業の考え方ですが、それにしてもチェックや検査しなければならないことが多すぎます。もっと簡潔にしてほしいです。
893	岐阜県	ー	ー	三事業一体での業務推進の体制確立について 民営化で多様なサービスが出来るようになるとの話があったが、サービスは低下しているように思われる。分社化により、郵便局は今までの仕事をすべて取り上げられてしまった。郵便は郵便事業会社が、貯金はゆうちょ銀行が、保険は簡保生命保険が持って行ってしまったからである。お客様からすれば、それぞれの会社から手数料を貰い、別々の仕事を窓口がしていることは解らないし、郵便局が窓口だけの会社になった事も知らないのです。三つの商品の中で、お客様に合った商品をお勧めするのがサービスなのだが、基本的には、貯金のお客様に保険のお話が出来ない、保険の満期を迎えられたお客様に貯金のお話が出来ないのである。また、今まで郵便外務員が配達の際に、貯金等の金融サービスをお客様から頼まれれば、お預かりすることが出来たのに、法律上、郵便事業会社の社員は金融サービスを扱うことが出来なくなり、遠くにお住まいのお客様や高齢のお客様にとってサービスダウンとみなされることが起きている。働く社員からしても、今まで郵便局として一緒に働いてきた者同士が、別会社になってついたて1つで仕切られている。忙しい時は、一緒に助け合い、問題が起きたら、共に助け合ってきたのに、不思議な感じだと思います。お客様が郵便局に寄せる期待に応えるためにも、民営化・分社化の見直しを断行していただきたいと思います。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
894	岐阜県	ー	ー	（1／2） まず、民営化はともかく、分社化そのものに大きな問題があると思います。一般的に考えて、効率化・合理化という場合、組織を合体し一人の人が複数の仕事をして共通部分を削減し、業務を平準化して要員削減するのではないでしょうか。しかし、分割化により、今まで一人でしていたことを各事業で分けてすることになり、部分的には三倍の要員となっている状況が発生しています。小規模の旧集配局の外務職員は、分割前まで、総合担務と言って三事業の仕事を一人で行い効率化を図るという事を進めていました。例えば、郵便の外務員は郵便配達が終わってから続けて貯金・保険の仕事をしたり。また、逆に郵便物が多いときは貯金・保険の外務員が郵便配達の応援に入り郵便配達が遅れないようにするという相互応援を行っていました。しかし、分割後、郵便外務は郵便事業会社が専門に行い、郵便外務員だけで作業しています。郵便物が多くても他の会社の外務員は助けてくれません。また、配達途上、お客さまから貯金・保険関係の仕事の依頼を受けても、会社が違うので受け付けることさえできません。分割前までは、郵便外務員が貯金・保険関係の仕事も受け付けることができたものができなくなっています。会社が違うので相互応援はできません。特に、旧普通局の中のゆうちょ銀行直営店がある局では、貯金専門、保険専門の単一業務の外務員となり、相互応援もできず更に無駄の多い状況になっています。また、お客さまが郵便配達業務について郵便局会社の窓口に照会すると、郵便局会社の窓口職員は受け持ちの郵便事業会社支店に連絡し、郵便事業会社の支店は同じ局舎内にある集配センターに照会し、郵便事業会社支店から回答をするということになります。
				（2／2） 三事業一体の時は、窓口職員がその場で外務職員に尋ねすぐ回答できていました。次に、株式処分の凍結について見直しの意見が出ています。現在、ゆうちょ銀行及びかんぽ生命保険は郵便局会社への委託を義務づけていないことから、株式が完全に売却された場合、現在のユニバーサルサービスが確保できる保証が無くなるのではないでしょうか。株主の利益を考えれば、採算の取れない郵便局に業務を委託するでしょうか。株式が完全に売却されれば、株主は自分の利益を中心に考えるのが当然だと思います。郵便局は、ゆうちょ銀行、かんぽ生命からの業務委託がなくなれば、郵便の手数料や、その他の収入ではとても維持できなくなります。郵政民営分社化は、一体誰のためのものなのでしょうか。お客様にとって、郵便局のサービスは良くなったのでしょうか、利便性は向上したのでしょうか、少なくとも現場の者として、お客様からそのような声は聞こえてきません。むしろ手数料の問題や、手続きの複雑さに不満の声しか聞こえてきません。働く者にとっても、将来に対する不安や、お客様からの不満に対し、夢や希望のある働き甲斐のある職場になっているとはいえません。そもそも、国の役割と責任は一体誰のためのものなのでしょうか。過疎地の郵便局がなくなっていっても、都会にに住んでいる人にとっては、何も困ることはないかもしれません。車に乗れる人であればどこへでもいけるでしょう。しかし、全ての人が、都会に住む訳にはいきません。全ての人が、そのような移動手段をもっているとは限りません。過疎地であればあるほど、移動にも大変苦労をするのです。確かに、弱い者を切り捨てて、強い者だけを残していけば、国は強くなるでしょう。しかし、大多数の国民は切り捨てられる側にいるのです。本当にそれが国民のためなのでしょうか。
895	岐阜県	民営化になって特に良いと思ったことは無い。民営化前に利用していたもの（積立貯金、電信為替など）がなくなってしまったのは不便である。また、会社が別々になってしまったのも不満である。民営化前は一人の外務員に総て頼めばよかったことができなくなった。すべてバラバラになってしまい、とても面倒になった。	郵政民営化への期待としては民営化前と同じような形態に戻してほしいと思う。三事業が一体となったほうが利用する側としてもとても便利である。	民営化には反対であったが、法案が通ってしまい残念である。郵政公社のほうに戻ってほしいと思っているくらいである。
896	岐阜県	地方では営業に関して何のプラスにもならなかった。	郵便局と郵便事業が統合することを希望します。	小包の引受が宅配便に変わってしまう。早く見直しをしてほしい。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
897	岐阜県	法(制度)が改正されるという事は、何らかの形で国民にとって少しでも良い方向、希望の持てる方向、便利な方向、安心の持てる方向になるものと思っていたが、郵政民営化については、何一つ良い事はない。それが、窓口や訪問先でのお客様の声であるし、社員の声でもある。例えば、 ① 土日等には、郵便を扱ってくれない。 ② ゆうパックの集荷を依頼しても、いつ来てくれるか分からないし、来てくれても遅い。 ③ 配達の人に、貯保の事は頼めない。また、渉外の人にゆうパックの引き受けは頼めない。 ④ 各種取り扱いの手数料が値上げになった。 ⑤ 簡易局が閉鎖になった。 ⑥ さらに長年同じ局を利用しているにも関わらず、保険証、免許証、あるいは委任状の提出を求められ、何か今までの郵便局と変わってしまったという声がより多く聞こえます。 社員(局)にとっても ① 手数料の値上げで、苦情をお客様から聞かなければならない。 ② 手続きが煩雑になり、1人のお客様の処理時間が長くなった。 ③ 検査監査項目も多くなり、少人数局では時間がかかりすぎる。 ④ 文書も相変わらず多い。 ⑤ 報告関係の事を支社に問い合わせても、電話がなかなか繋がらないし、また時には本社の指示というだけで、明確な回答がもらえない。 ⑥ 慣れないシステムが導入され、それを使いこなすだけでも大変な労力と時間がかかります。 等々です。	公務員でなくても良い。公社時代の郵便、貯金、保険の三事業一体になる事を望みます。悪くても郵便事業会社との統合が必要だと思います。(同じ建物の中に入っていますし、お客様は今だに誤配とか留置き郵便物等の関係で窓口にみえたり、電話をしてくるからです。また、現状の体制なら、営業、業務(検査監査を含む)勤務時間職場環境等などについて、現場の意見をもっと取り入れて欲しい。そして、社員のモチベーションがもっとあがる経営を期待します。	最後に過疎地だから、儲からないからというだけで郵便局を即統廃合する事のないよう望みます。田舎に住む高齢者にとっては、最後の金融機関であり、地域のよりどころなのだからです。
898	福岡県	①ゆうちょ銀行、かんぽ生命はそれなりの業績は残しているが、委託先の努力あってのもの。郵便局会社の献身的な努力と過去の郵政一体としてのお客様の対応があるからこそである。 ②民間他社に委託しても高額な手数料は目に見えている。 ③民営化後のお客様の動向、窓口の混雑、時間がかかる等、客離れが進みつつある。お客さまアンケートによる。(独自の) ④郵便事業会社、郵便局会社の赤字は予想通りである。 ⑤小泉政治、米国に乗せられての結果、地方でも退潮傾向である。	①早期に少なくとも三事業一体に戻すべきである。 ②二社株式放出は絶対にやるべきではない。 ③長年にわたり地域と密着し、開発してきたふるさと小包、復活に努力すれば今なら間に合う。	①配達局集約はお客さまに目を向けていない。会社の効率化のみでは品質の低下、デパート等大口の利用中止等。 ②お客さまがまず安心して利用できる体制にすべき。 ③職員の処分に汲々としている。これではサービスは落ちるはずである。
899	岐阜県	事務手続きが複雑になり、お客さまの待ち時間が長くなった。為替の手数料が上がり、サービスが低下した。分社化で、同じ郵便局の窓口でありながら複雑な事務処理が必要となり、お客さまに迷惑をかけている。郵便事業会社との連絡がうまくできず、不在留置きの郵便物等のお客さま対応がスムーズにできず、結果お客さまに迷惑をかけている。	三事業一体の経営に戻し、無駄な事務等を減らすことで、本来の姿であるお客さま第一のサービスそして、営業、地域貢献に集中できるようにしてほしい。	―
900	東京都	―	―	諸手続き(転勤、退職等々)の全てについて、書類の送付先がおのおの担当部署に1部程度の書類を送る、特に『退職』に関しては、5か所程度の部署へ関係書類を送る、こんな非合理的な事務は本末転倒である。これは一つの例であるが、民営化になり一事が万事こんな具合であり、あまりにも非効率でありその作業1つで局長としての1日の仕事の多くの時間を費やして、場合によっては関係部署へ問合わせ等をして2-3日もかかる時もある、何故こんな事で時間がかかるのか？ 例えば『退職』について全ての書類は「共通事務集約センター」へ一括して送りそこから各担当へ送るようにしないと、「共通事務集約センター」の存在意味がないのではないかと思うし、うがった見方をすると、各部署はあたかも「官僚」のように、自分の仕事は無くさないようにしているように思え、全く局長を一日中そんな事務に忙殺されているのが、現実であり、本来の一局の局長としての仕事が出来ない。以上はほんの一例ですが、もっともっと『営業』と『事務』双方の分担を明確にして欲しい。最後にもっともっと、本社・支社等は現場の実情を見て欲しい。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
901	岐阜県	政府の予想に反して、総じてなっていない。 ①郵便を例にとれば、再配達依頼に電話をしても通じない。「どうなっているの」との当郵便局への問い合わせに、申し訳ないのですが配達は郵便事業会社ですので、ご理解をと伝える。そんなケースの受け答えが、今も一日2件はある。地道に、地域のお客さまと接している窓口会社の者にとって、営業でのマイナス要因は拭えず、地域サービスは当然欠如となっている。 ②ユニバーサルサービスのゆうちょ、かんぽの手数料依存は未来永劫のものとの確約不透明。今後株式処分凍結等々が取り出さされているが、どこまでの信頼性にかける。凍結は、絶対である。 ③社員は、いま必至に営業に活路を求めている。あまりに手数料の低さが明白。「働き蜂的郵便局」に再度、真に柱となる自社商品の確保確立、手数料での妥当性の数字が公正を欠いている。もっとも働く郵便局会社をなんと考えているのか。	ー	ー
902	岐阜県	ー	ー	平成19年10月1日に実施された、郵政民営・分社化では、郵便局の業務に負担が大きくなるとともに、手数料の値上げなどサービスの低下が生じました。また、民営化と同時に分社化され、効率的な運営が非常に厳しくなっています。四分社化して成り立つのは、マーケットボリュームがある都会だけです。地方では郵政事業を一つの郵便局で一体として行ってきたから、何とか持ちこたえていました。それを分割してサービスとして成り立つわけがありません。郵政事業を三つに分け、さらに郵便局を別会社にしてしまっては、そこまでのマンパワーはないし採算がとれないのは明らかです。事業インフラは共通にしておく方が採算性がよいのは当然で、民営化の一つの目的である効率化に逆行しているとしか思えません。民営化は小泉内閣の本丸として押し進められました。行きすぎた規制緩和で大きな格差が社会に生じているのが現状です。民営化といっても、真の株主は国民です。その視点が全く欠けているとしか思えません。本当の株主の目線で経営が行われることが基本だと思います。ユニバーサルサービスを義務づけた郵便事業でさえ現場は混乱している現状です。義務づけの無い貯金、保険に至っては利用者にとって不便な状況が生じています。地方の郵便局で統合が行われた結果、郵便を配達する郵便事業会社の社員は、貯金・保険の集金や申し込みといった金融関係商品は扱えなくなりました。その結果、貯金・保険を利用するためには、離れた郵便局まで足を運ばなければなりません。「ゆうちょ銀行」の貯金残高は減少し、「かんぽ生命」の新規契約件数も減っています。これは全て経営者の責任だとすまされるものでしょうか。「郵便局のサービスは低下させない」と誰かが言っていました。しかし、今の枠組みを見直し再構築しない限りますます地方切り捨ての社会となっていくと感じます。高齢化がますます進む日本において、地方で安心して住まうことができる社会であってほしいと願うひとりです。
903	愛知県	郵便物の配達時間が一定せず、誠に残念。郵便関係の自己などの報道多く、心痛む。 いつまで待たせるのと怒って帰られるお客さまを散見。今までとどうして違うのと嘆いているお客さまも目にします。突然あのボランティア貯金が廃止され、冷ややかな印字にあっけにとられた。貯金の利子が10月に記帳され、びっくりした…そんな声が聞かれます。評価は、誠に残念ながら普通以下です。	昔が良かったとはいいません。総ての利用者のことをもっときめ細かに良く考えて、郵便も貯金も保険もサービスに努めてほしい。働いている人の誇り、レベルアップにも力を注いでほしい。生活に欠かせない郵政ですから。	現行の郵便番号簿、利用のしおりなどを全世帯に配布すべきでないでしょうか。
904	愛知県	評価は全く出来ません。ユニバーサルサービスが泣いております。諸先生方の猛省を促したい。今からでも間に合います。現状を見て正しく直していただきたい。	国民が安心して任せられる郵政事業にしていただきたい。そして社員が胸を張って誇れる会社にしていただきたい。	今朝のニュースで郵政民営化の見直しの国会審議、採決が伝えられていました。ぜひ、諸先生の誠実な対応を期待しています。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
905	新潟県	ー	ー	○総評として、 民営化になったのに、サービスがお役所のまま ①ゆうちょの限度額が1000万円のまま、同じ民間という土俵なのにおかしい。 ②ゆうぱっく等の不在通知は、1回来て不在の場合に入れていくが、他の業者は、その時点では入れず、再配達して不在であれば入れていく。 ③酒を送る箱には、酒の化粧箱を入れることができず不便。他の会社ではそのまま入れられる箱が用意されている。 ④郵便局を利用する際、貯金、保険とも、手続が複雑、面倒になってしまい、OBの私でも不便と不快感を強く感じてしまっている。そのうえ、局会社は自前の仕事をほとんど持っていないので、こんな状況で「大丈夫なのか？」とこの会社の将来に不安を感じている。
906	鹿児島県	評価出来ない。一体感は無い。郵便局会社と郵便事業会社は常に敵対関係にある。	郵便局会社と郵便事業会社の統合を望む。会社の株の売却を延期してもらいたい。10年間くらい。	郵便、貯金、保険、三事業一体経営に戻してもらいたい。
907	山形県	「国民のインフラを維持する」ことを基本として、民営化構想を構築すべきなのに、現在の姿は単なる政局争いの姿になっていて、全く評価しない。ビジョンが無い。	前記1と同じ。民営化は時代の流れで決して悪いことではない。但し、本当に国民のインフラを守るという基本に返って推進すべき。三事業を一体として経営する道はベストである。現在の郵便局ネットワークを維持する方策を考えるべきである。	ー
908	新潟県	民営化・分社化は地域において利用者にご不便をお掛けし、また、事業としても人的非効率的であって利用者、職員共、互いに不便ですので早急に見直し、人的効率上、三事業一体とした体制で経営していただきたい。特に郵便事業会社と郵便局会社は一体とすべきです。	やはり地域の郵便局は地域の職員を雇用し、その地域の局、職員として三事業を活用した方がよいと思います。	ー
909	新潟県	窓口は、無集配特定局を利用しているが、三事業一体ではなくなったことから業務知識不十分の社員が多くなり、各業務の連携が良くない。従前より利用者を待たせる時間が長くなっており、これは社員個人の意欲が減少しているのではなく、訓練研修等組織の問題ではなかろうか。 郵便配達は従前通り普通局の配達だが、配達日、時間が一定していなくまちまち。また、消印のない郵便物は計画配送のため期限が経過したものが配達となり役に立たないことが多い。	三事業一体の組織に戻し、会社で運営することが望ましい。百歩譲って株式会社にするなら、分社化ではなく旧郵政省本省を日本郵政株式会社本社とし、各地方郵政局を支社とし、全国の郵便局を事業所として運営すればよい。分社化のメリットは全く無い。	ー
910	新潟県	民営化という美しい言葉に踊らされて始まったが、計画不十分のため、大変現場並びに利用者に不便をかけている状況であります。利用者に迷惑をかけております。新聞等の当初を読んでもたいへんつらいことばが多い。 ①郵便局の分社化について利用者は理解していない。 ②地域に生かされた郵便局になっていない。 ③職員も分社化により連帯感が無い。 ④職員に非常勤者が多く、利用者と離れている。	①分社化をなくし、利用者のための事業に戻してもらいたい。 ②職員が信念を持って働ける事業にしてもらいたい。 ③利益を求めるだけで何でもありきでは困る。 ④局舎の利用も地域の大事な建物として、料金を取るなら安く利用できるようにする。	民営化は良いが、十分に検討してもらいたい。
911	千葉県	ー	一体何を期待しろというのでしょうか？期待など全く出来ません。海外の郵便局もしばしば利用します。日本の郵便局は日本中どこでもすばらしいサービスを受けることが昨年までは出来ました。民営化後は待ち時間がとてつもなく長くなり、手数料は大幅アップ、また本人確認書類など煩わしいことばかりです。今後の民営化への期待ではなく民営化前に戻すことを期待します。	ー
912	北海道	利用者にとってどのようなことが良くなったのか実感が無い。 窓口の待ち時間が銀行に比べて長くいらいらする時がある。 同じ建物の中に会社が二つあると聞いたが、その仕組みがよく分からない・ 民営化が良かったのか悪かったのかはまだ分からないが、民営化前に政府の言っていたように利用しやすくなったとは思われない。	民間会社なので利益を追求するのは当たり前であるが、都市部以外の地域の郵便局が今後とも存続できるよう願っている。	ー
913	北海道	テレビで民営化後、窓口の応対が良くなったと報道されているけど、その前から良くなってきていて、民営化で良くなったというわけではないのでは。窓口においてある商品の種類が増えたのは、利用者の立場からすると良いと思います。	一部の郵便局では実施されていると聞きますが、窓口ロビーに誘導員又は相談員がいれば利用しやすいと思います。利便性が増した点を大いにPRしてくことも郵便局利用増にらながると思います。	ー

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
914	北海道	自営業という仕事柄、貯金窓口における手数料が高くなったの非常に負担となっている。手数料が安くなったり、スピーディになるものと思っていたが逆の現象で「なぜ？」と言う思いが強い。手数料が高くなることが利用者にはどのように知らせたのでしょうか。少なくとも現在の郵便局のサービスは望んでいなかったですよ。	元の郵便局に戻すということは不可能なでしょうか。不可能であれば、利用者の目線でもっと利用し易くなるように改善してくれることを願っています。	ー
915	北海道	同じ建物の中に2つの会社があって、2つの窓口で郵便関係の物品を扱っていますが、コスト面から見たら不経済だと思います。利用者の立場からは不思議な現象に映ります。銀行窓口と比べると待つ時間が長く、郵便局では人は足りているのですか。もっと利用しやすくなると思っていたのにがっかりです。利用者が求めているのは迅速、正確な取扱いです。	近くにある郵便局をよく利用していますが、利益が出ないからといって閉鎖することがないように祈っています。	ー
916	北海道	最近の郵便局ロビーは飾り付けや商品PRなどに工夫が見られ明るくなりました。しかし、全部ではないと思いますが長く待たされることが多くなったと思います。窓口が混んでいても事務室奥の方に人がいても手伝うわけでもなく思わず「何やっているのよ」と言いたくなることがあります。民営化で利用者が利用しやすくなったのは具体的にどんなことがあるのかを新聞などで発表してはいかがですか。	今ある郵便局が減らされることのないようにしてください。	ー
917	熊本県	仕事の関係で、週に2-3回〇〇市内中心街に近い小さな郵便局を利用するが、最近、気がついたこと。 (1)民営化で良くなると随分宣伝されていたが、不便さが先行している。一例であるが、少しややこしいことになると、すぐに答えが出てこない。預貯金関係の例では、「ゆうちょ銀行に確認が必要ですので、しばらくお待ちください。局で勝手に答えられませんので。」と。そういえば、他の銀行の窓口は全部直営だから、自社で完結するが、郵便局は委託で仕事をしている。委託の仕事だけで経営している会社で、これだけ大規模、全国ネットの会社はどの業種を見てもないようだが、これでお客様サービスの維持・向上できるのか、また、経営的に成り立っていくのか心配。代理店契約は損保があるが、小規模で兼業とか、損保会社が実質丸抱えのようであり、郵便局のような全国ネットで大規模な会社が、自前の仕事がなく委託業務のみで経営している例はないのでは？ (2)最近は、郵便局窓口のお客さんが少ないようだ、今利用の郵便局はなくなるのではないか心配である。統計をとっている訳でなく、一利用者としての感覚であるが、以前は結構待ち時間があったのに、今は、行ったらすぐに受付してもらえる日が多い。事務処理が別に早くなったということではない。本人確認の証明を見せろとか手間はとられるようになっているのに。利用者としては、待ち時間が短いので助かるが、会社にとっては、お客様が少なければ売り上げが伸びない、これで経営が成り立つのかなと思う。採算が合わないと、間違いなく潰されることになるだろうから、そうなると随分不便になる。	郵便局は、窓口のお客様の数をみると、郵便と貯金利用のお客様が多いようなので、郵便局は、そのいずれかの会社の直営店として、直営会社以外の会社の仕事は、直営会社が受託するということに変えたらどうか。直営であれば、最低限直営業務のお客様サービスは安定し、販売力は大きく伸び、郵便局経営も安定する。始終、利用する近くの郵便局が責任をもった仕事をしてもらうのが一番。	なぜ民営化したのか理由はよく分からないが、一般国民にとって、不便、不利益にならないようにきちんとしたあり方を考えてほしい。
918	岐阜県	郵便局で働く者にとっては、新しい業務が増えて、仕事をしていく上で負担になっていて、良いとは言えません。また、利用者にとっても為替等の諸料金の値上げで川瀬等を使用しづらくなっていますし、郵便局での待ち時間が長くなり、デメリットの方が多いと思います。	民営化前の三事業一体の方が効率が良いと思いますので、三事業一体の経営が出来るような組織作りを望みます。また、ユニバーサルサービスの存続を第一に考えてもらい、郵便局がなくならないように(特に過疎の地域で)してもらいたい。	郵政株式処分凍結法案の可決を望みます。
919	東京都	民営化をすると「サービスがもっと良くなる。」という言葉だけが一人歩きしてしまい、未だに会社内部のシステムがうまく働かずお客さまに多大な迷惑をおかけしている。また過渡期のためかいろいろな改正が多々あり、社員はその改正に必死に追いついて行こうとして、疲労困憊しているような状況でもある。「公社のときとは違うのだ」という意識のもとに、今までとは違う思想・方法を模索し、手探り状態ながら社員全員で協力し合い、助け合いながら一致団結してがんばってきた一年であったと思う。	年賀葉書はニーズのリサーチ等をもっと正確に行い、売れる商品の開発を行って欲しい。販売枚数の見直し等もあればいいと思う。これからの会社の財産は人材だと思うので、人材の育成に力を入れ、社員の異動を増やして職場の活性化を図り、働きやすい会社になってもらいたい。	ー

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
920	群馬県	郵便局が民営化して一年が経ちました。民営化して良くなった点、悪くなった点様々な意見があると思います。私の評価は後者で、民営化前のサービスができなくなってしまっているのが現在の郵便局の姿だと思います。窓口業務においてもあくまでゆうちょ銀行、かんぽ生命の代理業務としての取り扱い業務で、その手数料収入で郵便局を経営していくわけですが、お客様にしてみれば内情がどうであれ、今までどおりに郵便局が利用できれば良いと思っている。私もお客様の立場からすればその通りだと思います。民営化後、郵便局は手続きが面倒になった、時間、日数がかかり過ざる等様々なご意見を頂きます。民営化して良くなるどころか今までのサービスに追いついていないのが現状ではないかと思います。また、郵便事業会社においても、郵便物の不在通知の取り扱いがわかりにくい、配達に日数が以前よりもかかる等の声を聞きます。明らかに以前よりもサービスが低下していると言われるのが国民、お客様の意見だと思います。ユニバーサル・サービスの維持継続が困難になりつつあるような気がしてなりません。郵便局が民営化されれば、あれもできるこれもできるといった空想論は間違いでした。現場で働く社員の混乱、お客様の困惑は目に見えて明らかです。今後、郵便局を民間会社として経営していくにしても、3年後の見直しまで待つのではなく、早急にこれまでの郵政民営化方針を見直し、まず民営化前のサービスまで回復させることが必要だと思います。傷口は浅いうちに手を打たないと取り返しのつかない事態になってしまう。	ー	ー
921	栃木県	当初説かれていた民営化の目的はどの程度達成され、その良さはどれほど現実できているのか、何一つ聞かされていないと思う。逆に不便になった。サービスが劣悪になった。職場の中で働きづらいという声が多く聞かれる。何のための民営化だったのか考え直すべきだと思っている。	郵政事業の社会的意義、価値、目的を全職員が自覚し、認識し、自信と誇りを持って職務専念できる事業となってほしい。単なる利益追求、成果主義優先のための監視と管理を強めたあり方はどうかと考える。利用者のための事業を再確認した民営化を期待している。	金融二社が頼みの決算という記事を見た。三事業一体は、全国民のために必要なサービスを提供するすばらしい形体であると考える。先人の作り出した良いものを他からの圧力で壊す悪を繰り返してはならないと思う。
922	新潟県	ー	ー	窓口業務・営業活動において民営化前は貯金・保険について効率的な活動が可能だったが民営化後は貯金の満期支払時に保険の勧奨する為にはお客様に同意書の必要等非常に煩雑化し窓口での業務・営業がやりずらいのが現状である。時代の流れを考えると民営化はしかたないと思うがやはりサービス提供の効率という事踏まえると三事業一体での会社運営が必要不可欠である。
923	岐阜県	① 分社化による取扱の廃止 ・電信為替が廃止された 香典等、現金の当日送付が出来なくなり、サービス低下となった ・ゆうパックの集荷の廃止 過疎地等、高齢者宅よりの集荷は必要 ② 取扱等複雑となり、高齢者に不便をかけている 高齢者の郵便局の利用離れ ③ 取扱手数料の改正 ・定額小為替の料金改定 50円の定額小為替･･･料金100円 ・振替の料金の改定 以上、一例ですが、利用者泣かせの改悪ばかりです。三事業一体となったサービス向上が必要です。	ー	ー
924	熊本県	各種取扱い手数料の大幅アップ（為替料金、振替払込料金等）、窓口取扱時間の縮減（郵便区統合による集配局の無集配局化）、並びに約2割とか聞く簡易郵便局の閉鎖等々利用者にとって大幅なサービス低下。窓口待ち時間の増大等々誰のため、何のための郵政民営化だったのか？利用者にとってはマイナス面ばかり目立つ。	国民新党が唱えている貯金、保険の株式売却の凍結、並びに民営化法案の見直し、三事業一体経営に戻し国民のためになる郵政事業に戻してもらいたい。	今のままの民営化では早晩壊滅してしまう。元のスタイル、経営形態に戻すべきである。小泉総理が残した不の遺産の最たるものである。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
925	大分県	◎ 分社化による事業資質の低下 ・国営企業時には三事業の一体的取組みを実施して相互関連のメリットを国民から好評を得ていたが分社化により消滅。 (国民は三事業同時の関連情報を求めている) (地域振興を図っていた「ふるさと小包」などは郵便事業会社・郵便局会社と別会社となったため地域括性化も出来なくなった) ・独立事業別にコンプライアンスの徹底を図っているため、三事業関連説明が得られない。 (市中銀行、生保会社への顧客離れが進んでいる) ・分社化のためそれぞれの個人情報の保護とコンプライアンス徹底との取組み方に違和感がある。 (貯金通帳の切り替え事務等長時間を要しているため申請者から不評をかっている。郵便局を利用したくない) ・正規職員の減少による責任ある対応・応対が低下 (長時間待たせる割には説明に一貫性がなく親切心もない) ・事業運営におけるサービスの低下 (郵便事業は取扱い事業所をセンター化したためレタックスは統括局宛て郵送している) (全国ネットワークを維持する建前から取扱事務が煩雑になった) (回答期限経過後に「要回答」郵便が配達される)	ー	◎ 現今の三事業分社化では消滅必至 ・時流に逆行 (現在も企業間合併・寡占化が進んでいる) (国際的には国営に戻した国もある) ・国民生活の不安 (限界集落では不採算金融機関は撤退している) ◎ 三事業一体の必要性 ・高齢化社会は特に望んでいる (行動半径が狭いことからの要望) (限界集落での要望)
926	愛知県	小泉内閣において、郵政民営化が国民にとってメリットがあるように言われていたが、実際は何のメリットも無い。四分社化され、かえって分かりづらく、利用しにくいものになっている。また、この世界的な不況で民間企業ではリストラがどんどん進み、大きな社会問題となっている。小泉内閣が進めた何でも民営化、改革路線が誤った方向であったということは実証されている。	まず、四分社化されているものを1つに戻すこと。そして株式を市場に出さず、政府が保有し続けること。	ー
927	山形県	(1／3) 郵政民営化1年余、四分社化への対応に追われ、ようやく組織変更、システム変更への対処が一応一段落し、本来の業務遂行にやっと移行し得た段階。ここで評価をするのは困難であるが、そもそも民営化の構想内容自体、最初から誤りであったことが既に顕在化しているので、その数点について述べたい。 1. そもそも郵便局に顧客が期待するのは、永年の歴史から、地域に密着し、何かの時に頼りになる存在としての機能であった。地元の局長への地域の方々の信頼と期待は、郵便局内部の者が考える以上に大きい。本来機能である通信の担い手(郵便)、庶民財産の保全者(貯金)、生活設計の相談役(保険)としての期待は基本であるが、これに付随しての地域の方々-のサポート、即ち、 ・老人福祉への関与 ・青少年育成への参画 ・地域文化の保護等々 を通じて地域構成の不可欠な要素であった。 成程、新会社も地域密着を重要な課題としている。しかし、これは単なる商売上の歌い文句で、その真髄は急速に崩れようとしている。何故なら、局舎制度と局長人事への益々の無策化、無関心化が顕在化しているからである。ご承知の通り、永年、郵便局の大半は局長が保有し、その親族が引継いで来た経緯がある。全くの第三者からは、旧い世襲制として非難を浴び、かつて労働組合から強い批判をこうむった時もあるが、地域密着、地域に根ざした郵便局作りの基本は、局舎制度(局長保有)、不転勤がなければ全く実のないものとなろう。会社は民営化を皮切りに本問題を完全に捨象している。局長会との多少のやりとりはあるが、前向きな姿勢は見当たらない。郵便局が郵便局たる所以は地域との有機的つながりであり、これなくして郵便局の存在意義はない。この第一の担い手である局長も既にこの点は殆んど諦めつつある。	ー	ー

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
		(2／3) 一銀行の支店長のように次の転勤先を考えていなければならないようでは、地域の信頼と期待に答えられるはずはない。今となっては、本問題は政治・法律問題とはなり得ないだろう。むしろ社内制度として柔軟に対応できるはずであり、社内制度面での担保を期待したい。即ち、局舎保有制度の再構築・局長人材確保面での人事・給与制度の再構築である。 2.第二点は、サービスの著しい低下であろう。 (一)特に郵便事業と郵便局会社の分離による弊害は著しい。顧客からすれば、同じサービスを受けるのに何故会社を違えて訳のわからない手続きや、問合せ先のたらい回しが起こるのか素朴な疑問が生まれ、あきれ顔となっている。勿論、社内の手続きは煩雑となり、そのメリットはない。この点では営業拡大にも大きな影響を及ぼしている。特産品(さくらんぼ・りんご・ラフランス)取扱は、〇〇の大きな特色であるが、取扱のシェアは少ない。郵便局の地縁を生かした十数年の努力で相当なまでに拡大したが、ここ数年来の制約と分社化により、現状維持が精一杯で営業面、サービスの向上面でかなりの阻害となっている。 (二)次に貯金・保険についてである。懸命の努力で未だ大巾な顧客離れは免れているが、これは国全体で庶民の財産を守ってくれているという永年の信頼があるからで、民営化の実態が浸透してくれば、急激な凋落は免れないだろう。いかに規模が大きいとはいえ、逆にそれだけに世界の金融機関と同様の土俵に立たされた時にもはや庶民の味方とはかけ離れた存在となろう。我が国程、貯蓄率の高い国はない。利を追わず堅実に暮らしてきたよき国民性を下支えしてきたのが、郵便局の貯金・保険である。大げさにいえば、日本の国民精神の大きな柱が民営化により、もろくも崩れようとしているのである。二社の株売却の凍結の話が出ている。当面の問題延命にはなろうが、将来を保障するものではない。民営化法では、「ネットワークは守る。」ということになっている。		
		(3／3) これは基本的に大切なことであるが、これは、単に「タバコ屋さんを残せば良い。」という問題にすり替えられては全く意味がない。これまでの三事業の上に更に住民サービスを付け加え、地域のよりどころとして機能しうるものでなければならない。 (三)第三は郵便局内部のモラルの問題である。単に民営化により雇用の保障された国家公務員ではなくなったこと以上に、将来に対する大きな不安を抱えており、次第に大きくなりつつある。何故かは明白である。先の二つの問題と深い関係にあるが、将来に対するビジョンが不確定だからである。郵便局の収益は言うまでもなく、三社からの手数料であるが、今中間決算にも示されたように、郵便事業会社は大幅な赤字。手数料の大半を占める貯金・保険会社からの手数料は先方会社の経営動向次第で大幅に低下する可能性が大である。従って、郵便局会社独自事業のカタログ販売に相当の努力を傾注せよ、というのが目下の経営施策の大筋である。貯金・保険手数料の安定した収入が担保されない限り、安定した経営基盤となり得ないのは誰もが思っていることであり、両社が完全分離された時の不安は想像を絶する。カタログ販売は現状の営業態勢ではかなりの限界がある。 以上、とりあえずの三点について申し述べてみたが、各々についての具体的な課題は山積している。 政治・行政改革は間断なく必要であるが、必要なことが骨抜きにされて、最もその弊を除去しつつあった郵政事業が、他の問題と一緒にされてやり玉に上げられ、一時的な熱に浮かされた勢いで顧客にとって何のメリットもないまま民営化実行に移されたのは、誠に遺憾。三年目の見直しの機会に冷静な目で再検討を切に願う次第である。		
928	群馬県	評価はよくない。郵便局がお客さま本位で無くなった。	三事業は一本で行うべきである。	ー

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
929	三重県	(1/2) (1)お客様は、民営化によってサービスが良くなったと期待されたと思うがそうではなかった。そう思われる理由は ①手続きに時間がかかり待ち時間が増えた。 ② 代理店としての手続きでその場でお客様に即時処理できず一旦預かりゆうちょ銀行やかんぽ生命保険から郵送されるシステムとなりお客様にとって複雑なシステムとなった。 ③ 電信為替の廃止によってマネーレタックスも廃止。残念だとの声をいただく。 ④ 小為替料金が高くなったので以前のような送金手段としての利用が減ったし、カタログ小包のデパートの商品は定価どおりとなって昨年の冬と今年の夏は無理を聞いていただいた大口のお客様(約20万円くらい注文のあったお客様)がこの冬から「見合わせます」とのこと。割引の条件もあるようだがその条件には合わないケースが多いと考えられる。お客様離れとなってしまった。 ⑤ お客様に渡す粗品は民営化前より少なくなった。注文できるカタログの品がずいぶん高くなって示された経費での注文数が減ったことも理由のひとつである。 ⑥ ゆうちょ1000万円の枠が民間になったのになぜ外れないのかと質問される場合がある。	郵便局が取り扱っているゆうちょ銀行、かんぽ生命保険はこのままずっと全国どこでも扱えるようにそして取扱店がなくならないように定めていただきたい。郵政株式処分凍結法が可決され今までどおりの手続きが存続されればお客様離れに歯止めがかかり社員も不安に思うことなく励むことができる。	「郵便局が民営化してから世の中がおかしくなっている」とお客様が言われた言葉にどう返事してよいのか咄嗟に出なかったが、現在サービスダウンと思われていることも含め良い方向に行けるよう努力したい。
		(2/2) (2)社員の立場から業務、営業に複雑 ① 郵便局会社社員は3事業すべてをこなさなければならない。それだけの時間を見つけるのが困難な状態です。業務改正は頻繁に行われ、文書を理解していないと次から次と。そしてひとつでももらしてしまうと事故照会が届く。もっと理解できる方法はないのかと思う。これは公社時代でもあったことだがそれ以上の改正の回数が増えている状態。金融庁の監督の下にあってのことであるが今の少人数局では難しいところである。営業も、3事業ばらばらで発信されてきてもこなさなければならないしそれを一緒に行うキャンペーンとなるといつもいっもキャンペーンをやっている状態で複雑である。 (3)郵便局会社として存続できるのか不安 損益評価が行われているが、手数料収入だけでこのままやっていけるのか心配になる。人件費即減が益々厳しくそれでも間違いのない仕事を行い実績を挙げていくにはどうすればよいのかいつも考えているつもりであるが。		
930	長崎県	ー	ー	(1/2) 私は日本絵手紙協会の会員で全国の同好会の皆さんと交流を続けている者です。郵便を利用している立場から今回の民営化について意見を述べさせていただきます。 1.郵便のスピードダウンについて 民営化以降の郵便の送達日数はスピードダウンしたように思います。同じ市内からの郵便が3日以上かかったり、東京からの郵便も予定より遅くなっています。先日12万通の郵便が二ケ月以上放置されていたという新聞記事を見ましたが、郵便も宅配便と同じように下請け会社が運送しているんだなあと思い、なんだか郵便に対するイメージが軽くなったような気がします。 2.対応のサービスダウンについて ゆうパックの配達の時、留守にしますと配達希望日を連絡する葉書のようなものを置いて帰りますが、そこに書いてある電話がなかなか通じません。日曜日など一日中通じないこともあります。電話に応対できないのなら、このサービスはやめるべきではないでしょうか。民営化前は時間外に配達してもらっておりました。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
				（2/2） 3.責任感の欠如について 先日、大事な書類が届かなかったので郵便局に問い合わせをしましたら、住所や名前など散々尋ねられた挙げ句、調査は郵便事業会社でやりますとの回答でした。幸い郵便は二日後に届きましたが、郵便事業会社からは何の連絡もありませんでした。こちらから届きましたと連絡しようにも連絡先も分かりません。これでは郵便を利用するにも不安です。 4.郵便貯金について一言 最近郵便貯金を利用するのが億劫になっています。顔見知りの局員さんに証明書はありますかといわれました。え、と思わず言葉がでません。すると民営化になって五十万円以上は証明書が必要になりましたと言われます。私を知らないのと尋ねますと、よく知っているのですが、郵貯銀行の指導ですからと言いながら、局長さんとひそひそ話をして、今回はお支払いしますが次回からは証明書をお願いしますと言って払ってもらいました。自分のお金なのに疑われているようで気分が悪くなりました。次の利用の時、証明書を渡しますと、必要ありませんとのこと、何故と聞くと、五十万円未満は必要ないんです、との答え、五十万円の区切りは何だろうと思い釈然としませんでした。
931	栃木県	郵便局の雰囲気・応対は以前より良くなったように感じるが、手数料の値上がり等を考えると、マイナス評価になるのでないか。	利益優先ではなくて、利用者の立場にたったサービスを継続してほしい。郵便局は今までどおり皆から親しまれ、こどもでもお年寄りでも気軽に立ち寄れる庶民的な場所であってほしい。	―
932	静岡県	―	―	要員の適正配置切に願います。
933	静岡県	郵政民営化は、国民の利便性向上のためであったはずである。しかしながら、実際はどうであろう。サービスや経営などに不備が目立ちはしないだろうか。利用者は、民営化による実益を享受しているだろうか。窓口での接客レベルが向上した。大いに結構なことである。しかし、実感できるのはそれだけともいえる。待ち時間が長くなった。手続が複雑になった。手数料が上がった。利便性向上はどこへ行ってしまったのであろう。やはり、利用者本位の簡便な方法の実現が必要である。日本人がコツコツと長年にわたって蓄えてきた貯金を、米国にあっさりと引渡しかねない制度設計で良いのであろうか。疑問点ばかりの民営化である。	民営化したことによる国民のメリットを実感できるようにすべきである。それも一部の利用者だけでなく、全国津々浦々の利用者が実感できる利益である。国民の基礎的な生活手段である金融二社は、ユニバーサルサービスの提供が法律で保障されていないため、人々の不安につながっている。特に現行のままでは、過疎地域での利便性の大幅な低下は免れない。それをいかに修復するかである。全国の郵便局で三事業の義務を課す。そのためには三事業一体の経営、一歩譲って持ち株会社にぶら下がりの形態が望ましい。平和憲法を掲げ、経済・金融で世界と渡り合うしかない日本は、国益を守るためにも郵政民営化の見直しは必要である。	―
934	新潟県	民営化後の実態は、様々なサービスの提供は全く無い。むしろ、毎日のように利用している我々村中の者まで証明資料を提出しなければならないような不便さをどうしたら解消していけるのか。どうしたら少しでも待ち時間を短く出来るのか。どうしたら民営化前の簡便な手続きですむように出来るのか。等を考えてくれた方が我々にとってより良いサービスの提供になることを分かってほしい。我々は民営化になって新しいサービスなどは求めていない。いまさら、他の銀行や保険会社が既にやっているようなJPカードの発行や損害保険のサービスの提供などを求めているのではない。なぜ、地域の御用聞き的存在だった親しみやすい郵便局の良さが分からないのでしょうか。 郵便局ネットワークについては、TVや新聞報道等によると、全国的に簡易郵便局が閉鎖し、少なくなったと聞いています。同様に私の市内でも、何局か閉鎖したと聞いています。離島では郵便局がなくなり、島全体の過疎がいっそう進んだと聞いています。ただ、これは民営化の自然の流れだと思います。民営化になり、一般会社が採算の取れないところに営業店舗をおくはずがありません。これから株を一般個人・米国大手企業等が株主になったらいっそうこの現象は進むでしょう。過疎地から郵便局を失い過疎化が一層進んだ離島のように、今後、日本全国から郵便局をどんどん失ってしまうと日本全体も…想像するだけで怖いです。格差社会・競争社会がどんどん進む中、わが日本の郵便局はほっとする場所としてこれからも、地域のよりどころであってほしい。	―	―

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
935	岐阜県	ー	ー	郵政民営化について現場の意見として ①4分社化により各事業会社との間で事務作業が煩雑となっている。三事業一体の経営をもとめるものであること。 ②民営化した今、利益をあげるため、営業の会社としてなにをなすべきか考えること。考えなくてはならないこと。 ⑨ユニバーサルサービスの維持をすべき。将来的に貯金保険について株式を売却するのでなく、経営の維持の計れるようにする。 ④我々のような小規模局では、貯金がメインの手数料収入となっている。 これを維持すること。 ①～④ について郵政民営化見直しを求めるものです。
936	岐阜県	郵便事業は、ユニバーサルサービスを放棄せざるを得ない仕組みとなっており、ゆうちょ銀行、かんぽ生命の動向を見る限り、グループ会社としての体をなしていない。	事業の健全経営によるユニバーサルサービスを保持するために先ず分社化の見直しを図り、三事業一体に戻すべきである。	行き過ぎた民営化は国民だけでなく社員にも大きな負担を強いている。
937	岐阜県	私は郵便局長として働いておりますが、お客様にとって便利になるという約束が全くの嘘であり、守られていないのが何より腹立たしいことです。サービスが良くなるどころかかなり悪くなっています。当然ここでいうサービスは接遇の良し悪しではなく制度上の問題です。旧の集配局は郵便事業会社と壁で仕切られ、土曜日曜に郵便事業会社の社員が出勤して電話帳に載っている郵便局会社の電話が鳴っていても出ることができません。郵便事業会社の電話番号は公表されておらず、別会社になっていることを知らないたくさんのお客様から月曜日に「なぜ電話に出ないんだ」と苦情が寄せられるのです。電話番号を公表しない会社なんて振り込め詐欺と郵便事業会社しかないと私はいつも思っています。馬鹿げた分社化のため現場はとても困惑しています。年賀はがきも競争で販売していてふたつの会社の社員は険悪な状態にあります。電信為替という制度も分社化のためなくなってしまいました。お客様にとっても私たち働くもののとっても、何のための民営化なのかと首をかしげるばかりです。	自由な発想で何でもできるようになるということでしたが、民間の銀行になった、民間の保険会社になったと言いつつ、なぜか預入限度額、加入限度額だけは今まで通り1000万のままなのはなぜでしょうか。私たち過疎地では採算がとれないからと郵便局しか金融機関が残っていない地域がたくさんさんあります。そして採算がとれない過疎地のほとんどの郵便局長は、自分の郵便局が残るのだろうかと心配しています。お客様のためにも地域インフラとしての郵便局が残る方向でぜひ再考していただきたいと思います。	ー
938	岐阜県	働き甲斐の無い職場になり、複雑極まりない会社となり、お客さまサービスが大変悪くなった。	株式凍結法案を通し、金融サービスにもユニバーサルサービスを義務付け（法律で定める）全国ネットワークの永久的な国民財産を保持することを確立してほしい。	かつての郵便局のように三事業一体化を求める。分割で仕切り、お客さまサービスを何故悪くするのか意味が分からない。
939	福島県	民営化から1年を経過しましたが、現場は未だに混乱しています。社員のがんばりで何とかここまできましたが、たび重なる手続き、マニュアル改正でついていくのがやっとです。少しのミスで事故になり、そのため社員は委縮してしまい、早期退社などが起きています。もっと仕事をしていて、本当にやりがいのある会社にならなければといつも思っています。	ー	ー
940	埼玉県	何が変わったのか見えにくい。かえって混乱しているように見える。特に地方では、簡易局の閉鎖等、不便になった。	利用者にとって目に見えるサービス向上を望む。民営化前と比べるとかえって厳しくなっているように思う。1月から他銀行への送金が可能になると聞いた。ATMでの送金だと安いと言うが、郵便局のATMはたいがい1台なので待ち時間が長くなりそう。こういう便利なサービスは増やしてほしいが、今の郵便局の実情に合わないようでは困る。	民営化になったのだから、もっと目に見えるサービスがほしい。局員はいつも忙しそうで、じっくりと話をする余裕がないように見える。何かというと証明書を見せろと言われる。以前はそんなにうるさくなかったのに煩わしい。もう少し融通が利かないものか。保険の借り換えで利息を払うだけなのに委任状をもってこいと言われた。お金を払うのになぜ委任状が必要なのか、納得がいかない。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
941	長野県	・郵政民営化がスタートした。夢・希望・将来像、誰もが喜ぶすばらしい企業を期待していた。国民の皆様もサービスが更に向上し進化した便利な郵便局を期待していたと思います。しかし、分社化が起こしたサービス低下は、地域の皆様の期待と裏腹に絶望へと変わり、郵便局離れが後をたちません。例えば、休日の郵便局の窓口、民営化前は郵便、ゆうパック、書留等の引受けから交付まで、平日利用できない方は、休みの日に用件をたす「ついでに」そんなサービスが出来た、しかし今は「ついでに」ができなくなった。 集荷のシステムが煩雑で(前はすぐ取りに来てくれたが、今はすぐにとりに来てくれない)めんどうになった。小さい局は、ポストの収集時間の回数が減ったなど。いままで、やってきた事をやらない。普通、誰から見てもサービス低下である。不便になった郵便局となる。とりわけ地方の田舎の元特定集配局ほど郵便局が不便となったという声が多い。 ・貯金・保険に対しても、民営化の期待は薄らいでいる。預入限度額、商品の内容等民営化前とほとんど変わらず利用したくても出来ないなどの声が多い。「貯金をしにきて預金を断られた(限度額オーバー)こんな民間見たこと無い」とお客さまより、現在は、保険等商品が多くなって来ているが、全局対象でないため、地方の局ほどお客さま離れは大きい。このままで生き残れるかと不安がある。 ・民営化になってシステムが複雑になり「郵便局とゆうちょ銀行、何が違うの？わかりづらい」と言う声が多い。また、システムが煩雑で知りたい情報なく、すべてにおいて郵政グループはわかりづらいとの声が多い。(どこに相談したらいいの) ・誰が見てもおかしな手数料。(50円の定額小為替に100円の手数料) ・一方、20代・30代はコンビニ内の郵便局は好評。 評価としては、民営化して地方はどサービスが低下している。手先の改善を行ってカバーしてきているが更に複雑になっている。誰もが簡単で利用しやすい郵便局でなければ。「人はいずれ歳をとる、歳を重ねるごとに、複雑な機械は使いにくくなるのだから…」	★サービスが更に向上し進化した便利な郵便局 貯金・保険限度額の廃止。 複雑なシステムの撤廃(三事業一体) 地域の特性を活かした自由に活動ができる郵便局(規制、承認緩和)	「誰のための民営化か何の為の民営化か」疑問はつきません。
942	佐賀県	(1／2) (1)メリットとしては経営の自由度が増したことが挙げられる。具体的には、新規事業として保有資産の利活用や物品販売、広告媒体の設置・配布等である。これまでも、第三分野の保険商品の販売などが実施されてきたが、今後も、試行錯誤を繰り返しながら、収益の柱となるものが出てくるかもしれない。 (2)民営分社化したことにより、郵便局会社以外のグループ内の各会社では、それぞれの商品を販売することとなったため、これまで貯金課(現ゆうちょ銀行)の職員が年賀葉書を持って渉外活動することもなくなり、郵政グループ全体の販売力が低下していると思われる。 (3)また、民営化して1年あまり、社員だけやなくお客さまに対する不都合が増加している状況である。 A 社員に対するもの ・カタログの部数が少なくお知らせしたお客さま全てにカタログを渡せない状況であり、カタログ販売実績を挙げるのに苦慮する。また、同一の時期に別々の施策で同種の商品を扱うなど、営業しづらい。お客さまに喜ばれるような商品ラインナップと価格にしてほしい。 ・周知しなければならないチラシ、キャンペーンが多く、一度にお知らせすることが困難である。株式会社となり営業実績が重要なことは理解するが、本社が想像している以上にフロントラインは取り組みに苦慮している。 ・年賀葉書を管理換えするにも、郵便事業会社支店あてと受領局あてのラベルを作成し、梱包の仕方も手間がかかる方法になり、また、翌日には届かない状況。	(1)お客さまにとって不便となるような制度改正・変更は行わない。また、一つの業務をするにしても複数の手続きやマニュアルを見なければならない状況であり煩雑であるので、事務の簡素化を積極的に進めて、社員が営業に力を入れられる環境を構築してもらいたい。 (2)郵便局株式会社の将来展望が見えない状況で様々な状況で取り組むことは、フロントラインの士気を低下させることにもなることから、新規施策・事業をする際は、今後の具体的なビジョン等を明らかにした上で取り組める環境を構築してもらいたい。 (3)検査・監査の徹底などに相当の時間と労力を割くのではなく、営業活動や新規事業の開始にその時間と労力を章やす会社となるべき。部外監査に耐えうるべき検査・監査態勢を構築するためにも、業務指導部等の社員が臨局し不備事項について、指摘ではなく、アドバイス.改善・アフターフォローを行うべき。業務内容を聞いても答えることができず、指摘のみに終止する(生産性のない)監査室は不要である。 (4)ゆうちょ銀行・かんぽ生命保険からの委託がなくならないように、株式の売却を止めるよう郵政民営化法の見直しを行い、お客さまに三事業一体となったサービス提供を行えるようしてもらいたい。	(1／2) (1)ユニバーサルサービスの維持に関すること ・ユニバーサルサービスの維持について、今後の展開予定や対応について中期計画・長期計画を教えてほしい。目の前の業務・営業だけでは行く先不安で取組みが中途半端になってしまいがち。 ・郵便局は全国津々浦々に存在することに価値があるのはずなのに、本社は採算ベ⊥スで考えてし与るように思える。郵便局の存在価値は、ユニバーサルサービスであり、採算を元に事業を行っていてはユニバーサルサービスの維持は困難である。やはり三事業を統合した会社とし、ユニバーサルサービスを維持すべき。 (2)営業.業務に関すること ・営業目標の達成、収支バランスの黒字化など、管理者は多岐にわたりバランスを保ち業務をしなければならない。経営者としては当然のことであるが、今後は、得意とする分野を伸ばし、不得意な分野については削減していくなど営業・業務の効率化を図ることも必要。 ・営業・業務に関して責任の所在がはっきりしていない。ほとんど(全て)現場に責任を丸投げされて、会社(支社・本社)としては責任を取ろうとしない。 (3)カタログに関して ・カタログについては、目標数値のみを示し、あとは各局の取組み任せとなっている状況である。取り組み強化を図る前に、市場調査を行い販売実績が確信できるなど調整を図った上で展開してほしい。また、そうしなければ、今後のヒット商品が生まれないと考える。 ・カタログ販売によって受ける利益がどのくらいあるのか教えてもらいたい。(実際の収入がどれくらいあるのか分からない) (4)目標算定に関して ・自局の業務に対する本来の数字(収入など)が見えない。自局の業務や営業に対する正確な数字を管理者に対し明確化してもらいたい。 ・市場調査によるものではなく、過去の実績や社員数のみで決定する目標の数字もあるので、各局の詳細な実態を把握した上で算定すべき。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
		(2／2) ・郵便局活力向上宣言により、取扱が変更になる場合があるが、度々の変更に現場はついて行けない。廃止される場合はいいが、様式の変更を伴う改正が度々行われると現場は混乱する。事務付加軽減のため、細かい内容まで改正をするのは評価するが、根本的な解決となっていない場合もあるので、根本的な解決策を検討していくべき。 ・欠員局が多いため、日常の窓口業務で手一杯になり、点検や報告などに手が回らない。局長が遅くまで残るか非番日等に処理している状況。 ・民営化後、内部事務の量が増加し、特に役職者(局長含む)が行う業務が増えた。一般社員から見ると、業務量が増加するだけで魅力がないと考える社員もおり、社員育成の観点からも魅力ある役職者となる処遇をするべき。 B お客様に対するもの ・不在配達となったゆうパック及び書留等を受け取るのに、集配拠点局に取りに行かなければならないなど、お客さまにとって不便となった。また、コールセンターの電話も繋がりにくいという声もある。 ・我々は窓口で様々な営業をしなければならないが、お客さまからは「窓口に来るといろんな商品を勧められてよく分からない」という声がある。		(2／2) 特に、新しい業務を展開させるときは、民間企業の場合市場調査を行い、確実に収入が見込めるところにしか展開しない。市場あった目標設定を行えるようになるべき(お客様の反応、支持を待って目標設定してもよいのではないか) (5)収支関係(予算含む) ・手数料収入以上に費用(目に見えない費用を含む)をかけて、取組み強化を行っている業務がある。そのような無駄な経費を使ってまで行うべき業務なのか検討してほしい。 ・今まで行ってきた見えない業務効果に対する予算組みや人員配置(必要労働力の配算)などをきちんと評価・管理し予算配算を行ってほしい。 ・3年後、5年後に効果が出るような施策や予算化がされているような取組みをしてもらいたい。(今年を乗り切ればいいような施策ではなく、イニシャルコストとランニングコストにかかる費用をきちんと算出して無駄の無い費用の使い方を行い、そこで浮いたお金を少しでも各局に配算してほしい。(単年度予算の組み方は公務員的な考え、民間企業は数年またぎの予算の使い方をしている) (6)人員配置等に関して ・これまでグループ会社全員で行っていた業務を郵便局会社の社員のみで行っているため、人員不足になるのは当然のこと。 ・各事業会社は、業務範囲が狭まったが、郵便局会社では人員は減り業務量が以前と同等であるため、人員不足となり、完全に実施できない業務が増えることも当然だと思う。 (7)その他 ・経営陣と現場との意識、意見、見解にずれがあるように思えるため、本社・支社の経営陣は、自らの足で現場に訪問し、自分の目で実態を見て、自分の耳で社員の意見等を把握しなければ、社員が働きやすい会社とはならない。現場の実態把握が不十分であるため、実態に即していない制度改正などを行ったり、不可能とも思える指示文書を発出するのではないか。本社・支社の社員は、もっと現場の実態を把握すべき。
943	千葉県	一市民としての素朴な意見。 1当時のニュース、マスコミは郵政民営・分社化は国民の利便性がもっと良くなると、何度も言っていた。だが、結果はどうであろうか。郵便は書留等が近くの郵便局に取りに行けない。年賀はがきは各々違う会社の社員が何度も来る。判りづらい。身近な郵便局(金融機関)であるはずなのに気軽に行けない。なぜなら、待たされることが多くなった。やはり「銀行」になってしまったのか、と嘆く毎日である。地域にある金融機関はそういうものではない。	2今必要なのは、分社化ではなくて、郵便局に行けば郵便も貯金も保険も一人の社員さんが丁寧に対応してくれることである。所謂、「三事業の一体経営」である。我々地域住民は「銀行」はもういらない。ますます高齢化が進む中で拠り所とするところは、やはり郵便局なのです。簡便なわかりやすいサービスを再構築して頂きたい。	3何故ゆうちょ・かんぽの株式上場を急ぐのでしょうか？これも米国の圧力なのでしょうか。国民の財産ですから慎重にも慎重に。再検討すべきであろうかと考えます。早急に「株式凍結法案」を衆議院で可決すべきです。
944	新潟県	私は地方の郵便局長(2名局)を勤めているものですが郵政が分割民営化されて1年余り、その評価と申しますと最低の評価しかできません。 その理由として ①事業をする会社が4つに分割されたため業務が非効率的になった。特に郵便局会社は請負手数料収入しか入らないため今後の見通しは暗い。また、ゆうちょ銀行・かんぽ生命はユニバーサルサービスが義務付けられていないため採算の悪い地方の郵便局に対して委託業務を行わない可能性がある。 (交通手段の少ない地方・高齢者の切り捨て) (郵便局は地域の小学校と同じくらいの距離に設置されている) ② 民営化直前、集配局の統合があったか集配局からの配達距離が伸びたため午前配達された郵便が午後からとなったりサービスダウンとなった。 ③ 地方の特産である「ふるさと小包」の取扱が郵便局段階で困難となり地方の経済に対し貢献できたのができなくなった。 (中間組織が介入するため生産者にとって取扱は難しく消費者には価格が高くなってしまった。) ④ 責任の押し付け合い 各委託会社とも自己の会社の責任をすべて郵便局会社に押し付けて責任を取る姿勢がない。縦割りが進みすべて本社の指示がないと行動しない。本社は現場の体制を把握しておらず机上で物事を判断するため的確な指示をしていない。 ⑤経営の自由度がない。民営化されたのに貯金・保険の限度額等は公社時代と変わらず、制約のみ増加し公社時代より不自由になった。 (お客さまからサービスダウンの苦情が増加)	① 分割された会社を元の三事業一体経営とし非効率な現在の経営体制を元に戻す。民間企業では合併を行い効率化を進めている。 ② 郵便局は全国に24000のネットワークがある市町村合併等による地方の不便になった部分をカバーする公的サービスを復活させる。 (住民票等で郵便局受取民営化で廃止されたサービスの復活)	郵政民営化は小泉元首相の個人的意見が強く反映されたものである。構造改革改革で公務員の削減の名目で民営化されたがもともと郵政は現業公務員であり自分たちの給料等は自分たちの収入でまかなってきた。税金で収入を得ている一般公務員とは性質が異なっている。また給与水準にしても一般公務員より低い水準であった。また、利益がでるとそれは国にすべて吸収され国の財政にも大きく寄与していた。民営化が成功したといわれたニュージーランド・イギリス等の現状は失敗に終わり設置ポスト・窓口の減少となって現れ国民は不便を強いられている。その現状をしっかりと把握してもらいたい。以上の観点がすべてでないが問題が特に多い現行の郵政分割民営化を直ちに見直し以前のような三事業一体化を早期に行い、誤った民営化の是正を望む。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
945	秋田県	一つの手続きを行うにも一人のお客さまに時間がかかりすぎて大変である。	これまで長い間親しまれてきたネットワークを今後も存続していくために、三事業一体で運営していくことが重要。	ー
946	秋田県	利便性が損なわれたので悪くなった。	会社の統一が必要と思う。	お年寄りなど弱者に対して優しい郵便局であってください。
947	秋田県	分社化により、各事業の基盤が弱くなったと思うし、それにより、社員のモチベーションが低下している要因の一つでもあると思う。三事業が一体となった経営が望ましいと思う。	ー	ー
948	秋田県	◎郵政事業は、ユニバーサルサービスという国策の実現のため、全国津々浦々にネットワークを築いてきたものであり、民営化にはおよそなじまないものであった。なおかつ、三事業一体であるからこそ、効率的な経営・サービスが可能であったが、四分社化という非効率的で無理な制度設計では、時代の流れに逆行しているし、到底成り立つとは思えない。特に郵便局会社は、各事業会社からの委託手数料が主な収入という、到底ビジネスモデルとして成り立つものでないことは明白である。 ◎民営化されれば、全て良いことばかりとの謳い文句であったが、いざ民営化されて、以前より便利になった・サービスが向上したと感じている人が一人でもいるのだろうか？ 一体、誰のための・何のための民営化であったか？	◎国として効率化のみでは無く、国民の人間生活における最低限度のサービス維持を保障する義務があるのではないだろうか。 ◎根本的な制度設計が間違っている以上、まず、そこから直さないことには始まらない。真に国民(特に他金融機関の無い過疎地等)のための制度改革を望む。 ◎ユニバーサルサービスや現在のサービス水準・ネットワークを維持していくためには国策として、三事業一体経営の国の特殊会社形態にすべきである。	◎諸外国でも郵政民営化の成功例は皆無であり、ゆうちょ・かんぽの株の売却益で国の借金に充てたい推進者と郵貯・簡保の保有資金が欲しい外資のための民営化であることは明白である。民営化推進者は勿論、中身を全くと言っていい程解りもせず、自己保身のためだけに民営化に賛成した大多数の議員達の責任は重大である。
949	秋田県	社員の方のお客さま応対が向上したと思う部分は評価できますが、民営化になったことで断られること(郵便物・小包の集荷、電信為番など) や、都度に証明書の提示を求められ郵便局に行ってもすぐ手続きが出来なかったこと(保険からの貸付の更新、通帳の切り替え等) などありサービス低下を感じることのほうが多いです。郵便局の方は「この取扱いは銀行なので」「この取扱いは郵便会社なので」など言われますが利用者にはそんなこと関係ないのです。民営化になっても郵便局は郵便局なのです。縫合的に考えて分社化がいけないのではと思います。	いままでどおりのサービス、それ以上のサービスができるのであれば、民営であることは問題ありません。ただ、上記で述べたとおりひひとつの郵便局に行って、中身がバラバラなのでは大きな期待は出来ません。しくみ(組織)に問題があると思います。利用者のことを第一に郵便局に縛りをなくしてください。	ー
950	秋田県	「民営化すれば、郵便局はもっと便利になり、あらゆる面で日本は豊になり国民は幸せになる。」何度も政府が説明してきたことですが、民営化になった今、その兆しすら見えない現状です。国民の注目をあれだけ集めたのにもかかわらず、分社化されていることすらも知らないのは、誰の責任でしょうか。各種手数料の値上がり、必要書類の煩雑化、分社化による不便等、冒頭に述べた公約は守られているのでしょうか。民営化に反対するのではないのですが、制度設計(法律)が悪すぎます。	郵便局でいろいろ新サービス等がやられていますが、お客さまが望んでいることは、今までどおりに簡便で迅速に三事業のサービスを受けることであり、お客さまの目線にたった見直しをお願いいたします。	郵便局は国民一人一人の財産であり、安心の場であります。地域から駐在所も無くなり、学校も統廃合で無くなります。せめて郵便局は存続できるような見直しをお願いいたします。
951	秋田県	(1)本人確認、正当権利者確認等手続きの煩雑さと窓口待ち時間の増加により、来局者数が大幅に減少した。 「郵便局はそんなに手続きがめんどうなのか。銀行や農協はそんなことはない」というお客さまの声がある。 (2)民営化前は、お年寄りから荷物の集荷依頼があれば訪問していたが、民営化以降集荷に伺うことができなくなり、不便になったとの声が多数寄せられている。 (3)郵便局会社唯一の自社商品であるカタログだが、民営化前と民営化後の商品にほとんど差がなく、お客さまから見ても魅力のある商品とは言えない。グルメ会、お中元、お歳暮等全て他業者と競合しているわけであり、このままではじり貧になる。 (4)会社が分割されたことによる弊害 ア郵便関係 ・誤配、不着、遅配等お客さまからの苦情に対して民営化前であれば苦情を受けて担当者が郵便局の問題として迅速に対応していたが、民営化後は別会社に苦情を引き継ぐことになるため、お客さまに誠意を持った対応ができなくなった。 ・年賀はがき販売が郵便事業会社と郵便局会社で競合しているため、年賀の奪い合いが民営化前よりも激しくなってきた。そのため他の地域に年賀はがきを販売する傾向が強まり、無駄な労力が発生している。 イ貯金・保険関係 ・民営化前に比べ各種手続きに時間がかかるようになり、お客さまに待っていただくことが多くなった。 「保険への加入審査に時間がかかり、お客さまから苦情となった。結果そのお客さまは保険に加入できず、郵便局を離れてしまった。(期間を置けば保険に加入できるお客さまだったが。)」 「死亡保険金を通常払請求したが、一週間ほどしてから書類の不備のため戻され、直ぐに処理をして返送したものの、結局支払まで1カ月ほどかかってしまい、お客さまにご迷惑をかけた」	(1)地域のお客さまに郵便局の現状を説明する機会があり、「ゆうちょ銀行とかんぽ生命の株式が売却されれば、採算のとれない郵便局は閉鎖される可能性があり、私の局も危ない。やはり郵便局は三事業一体でないとやっていけない」という話しをしたところ、「この地域は農協もなくなった。これで郵便局がなくなれば大変だ。なんとか残してもらいたい」という意見があった。民営化された郵便局を公社に戻すということではなく、「日本郵政」「ゆうちょ銀行」「かんぽ生命」の株式売却を凍結し、郵政三事業の一体的サービスの提供を求めるお客さまが過疎地域ほど多い。 (2)郵便局株式会社はサービス業なのであるから、他社が既に販売している二番煎じのような商品を提供するのはやめていただきたい。お客さまが魅力を感じるような商品開発を期待する。(お願いセールスには限界がある。特にカタログ。) (3)この時期、「年賀販売」「金利優遇キャンペーン」「冬のありがとうキャンペーン」「お歳暮、福袋、クリスマス等カタログ販売」「全銀システムへの準備」の5つの施策が展開されている。それぞれやらなければならないということは分かるが、郵便局にも限界がある。今後はキャンペーン等施策の実施時期を計画的に立てた営業戦略で、集中して取り組むことができるようにしていただきたい。	今、社会は不景気のため、リストラの嵐が吹き荒れている。そのような環境の中、社員は、郵便局株式会社が本当に会社として成り立っていけるのか不安の気持ちで一杯である。社員一同が明るい展望のもと、生き生きと仕事ができる環境を整えていくためにも「日本郵政」「ゆうちょ銀行」「かんぽ生命」の株式売却を凍結し、郵政三事業の一体的サービスの提供が実現することを希望する。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
952	秋田県	評価に対する意見を述べさせていただく前に、民営化後の問題点をいくつか挙げさせていただきたいと思います。 1 お客さま一人あたりに要する時間が多くなり、お客さまを待たせる時間が長くなった。 2 上記の理由により、窓口以外の業務を行う時間を捻出するのが難しくなり、超過勤務の増加に繋がっている。また、ひとつひとつの仕事の質的低下、ひいては社員個人のモチベーションの低下にも繋がっていくように感じる。 3 郵便事業会社との連携が取れていないのではないか。(注:センターではない)結果、お客さま離れが進んでいる。 4 単局で使用する予算(物件費等)の自由度が少なくなり、施策を実施する際の障害となっている。 5 支社をはじめ、担当部署に問い合わせをしても明確な回答が無いことが多く(本社に聞いてみないと～)、回答がきても時間(何日単位)がかかることが多い。 6 ヘルプデスク他、支社・担当部署に電話がつながらない。 7 公社時代に約束したことが民営化後実行されない。 8 指示文書が遅い。(実施日までの準備期間が少ない等) 以上のことから、郵政民営化については当初思い描いたようなものではないと思いますし、準備不足が原因と思われるトラブルも続出しました。特に分社化についてはお客さまに負担を強いる事例が多く(特に郵便事業)、会社間の連携の悪さは、業務(品質)面においても、営業面においても影響をあたえています。個々の会社に限らず、グループ全体を見回しても評価は低いと言わざるを得ないのではないでしょうか。私自身も社員でありますが、より良い民営化への道は他になかったのだろうかと非常に残念に思っています。多くの社員、多くのお客さまは、なによりも三事業の一体経営を望んでいます。そして気がついているはずです。分社化は失敗であったと･･･ 社員一人一人は、与えられた環境の中で精一杯の努力をしています。それでも多くのお客さまから「郵便局は不便になったね」と言われる現実が、現在の「郵政民営化」の評価なのだと思います。	三事業の一体経営を期待する。	ー
953	秋田県	(1/2) 私は、〇〇県内の郵便局に勤務する郵便局会社の社員です。この郵便局は国道沿いにあり、車での来局が比較的容易な立地環境にありますが、貯金・保険の取扱件数は民営化前に比べて3割も減少している状況です。また、〇〇市の中心市街地にあるゆうちょ銀行直営の〇〇支店は、私が利用した際は、銀行とはいえ訪れるお客さまは少なく、他の都市銀行の混雑とはとは比較にならないほど店内は閑散としていました。郵便局会社全体の状況は資料もなくわかりませんが、都市部にあるゆうちょ銀行でさえこのような状況であり、民営化前に比べてお客さまは確実に減少しているということを実感しています。 お客さまが減っているのは何故なのか？ 貯金に限っていえば民営化以前は、郵便貯金法の下、簡易で確実な貯蓄の手段として郵便局はお客様にサービスを提供してきました。民営化後は、銀行業法により監督官庁の指導の下、銀行と同レベルのコンプライアンスが求められているため、従業員が50名の郵便局も2名の郵便局も同じ取り扱いをしなければなりません。本人確認など事務処理に時間がかかるばかりか、お客さまにとっても証明資料の提出など煩雑になり、「そんなに面倒なら銀行に行く。」と言って帰られたお客様が何人もおられました。また、かつて郵便貯金は小口の金融手段として政府の保護を受け、不測の事態になった場合でも貯金が全額保護されており郵便局を利用するにも安心感がありましたが、民間会社となった今、政府保証もなく、金利や商品の優位性もなく、郵便局でなければならない理由もなくなりました。全国24,000の郵便局ネットワークはユニバーサルサービスとして維持されているものの、今まで郵便局を利用していただいたお客さまが、郵便局に魅力を感じなくなった、特に郵便局を利用するメリットを感じられなくなったのではないかという思いを強くしています。民営化して良くなったことはひとつもない。良く聞くお客さまの言葉です。	ー	ー

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
		（2/2） 民営化してサービスが低下したもの ・お客さまの待ち時間が長くなった。 ・定額小為替の手数料が10円から100円に10倍アップ。 ・電信為替サービスの廃止。 ・貯金を担保とした貸付の廃止。（民営化前の貯金で、貯金保険管理機構が管理するものを除く。） ・4分社化による弊害(郵便の配達時に振込を預かるなどができなくなった。） など ゆうちょ銀行及びかんぽ生命の株式が、平成29年9月末日までに全株市場に売却処分されることが郵政民営化法第7条により決定しておりますが、このことこそが郵便局社員に将来に対する不安を抱かせる大きな要因となっているのです。なぜならば、全株式が市場に売却処分された場合に、外資による株の買占めが懸念されるためです。これは、アメリカ合衆国の年次改革要望書により、郵政民営化が要求された経緯をみても容易に想像されるところです。外資による株の大量保有は、大株主となる外資の意向が反映され、収益性の低い郵便局の廃止又は郵便局会社への委託の全面廃止につながりかねず、このままでは郵便局が地域から、消えてなくなる日が近い将来必ずくると思われるところです。全株式が市場に売却処分された場合は、民営化したニュージーランドと同じ道を歩むのではないかという危惧があります。そうならないためには、郵政民営化法第7条を見直し、全株式の処分を凍結すること、お客さまから評判の悪い郵便局会社と郵便事業会社の分社化をやめ、一体経営とすること、その上で、民営化したのだから、最低限他の銀行及び保険会社と同じ土俵で競争させて欲しいというで次のことを要望します。 ・ゆうちょ銀行の一人1000万円までの預入限度額の撤廃 ・かんぽ生命の一人1000万円までの加入限度額の撤廃 郵便局がお客さまに喜ばれるサービスが提供でき、民営化前よりも利便性が上がるよう、また、民間会社として利潤の上げられる制度設計となるよう政治の場において、見直しが行われるよう切望します。		
954	千葉県	昨年10月1日、郵政事業は民営化され、早くも1年が過ぎました。本当に「お客さまサービスの向上」は実現されたのでしょうか。時間外窓口の廃止、集配再編による郵便物等の誤配や遅配の増加、ゆうちょ手数料利用料金の値上がり等、お客さまにとってサービス低下は明らかです。お客さまばかりか、働く社員さえ、民営化後のモチベーションは下がりっぱなしなのだ。長い間、三事業一体でユニバーサルサービスを提供してきた多くの社員にとって、現在の職場環境にはとても耐え難いものがある。「将来に明るい夢の持てる、いきいきとした働き甲斐のある職場」とはとてもかけ離れた現実となりつつあります。お客さまのためにも、社員のためにも或いは会社全体のためにも、三事業一体で、ネットワーク維持の出来る体制を一日も早く作り上げてほしいものです。	―	―
955	千葉県	○ 民営化が利用者にとってこれまでより、サービスが良くなったとは思えない。 ○ 民営化により手数料の値上げ、待ち時間の増加等のお客様の不満を、民営化に反対してきた局長に向けられ、その対応に悩まされるのは納得がいかない。	○ 全国のネットワークが守られるように、貯金・保険の金融2社の株式の一定比率を持ち株会社が保有してもらいたい。 ○ 郵便局会社と郵便事業会社の合併をしてもらいたい。	―

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
956	千葉県	民営化すると小泉、竹中は良くなると言っていたが、何一つ良くなったことはない。先ずは三事業一体化することにより、以前のようなサービスを提供することが出来る。そして民営化後の1年の経験を生かした改善等がされることにより、更なる発展を期待できる。	ー	三事業を分割した事により、元集配局においては、郵便事業会社と郵便局会社を間仕切りで分け、そして局会社は、社員の削減が行われているにも拘わらず、お客さまが、民営化されただけで、取扱い等は今までと変わらないと思っているために、配達関係の問い合わせ、苦情等の対応は、従前と変わらずしなければならない時が多く非常に苦慮している。サービス面では、民営化前に配達しながら、貯金保険等のセールス及びお客さまの貯金等払戻しの要望に対応できたが、現在は、分割のため配達員に頼めず、自らタクシー等を利用する方が増えてきた事、そして、手数料のアップ、電信為替の廃止等によりサービスの低下になっている。ネットワークを活かし、ふるさと小包を販売する事により、地場産業の発展及び地域の活性化を図っていたが、集荷の廃止等に伴い取扱いが減少し、地域に影響がでている。郵便事業会社と郵便局会社で、同じ商品を販売することにより、お客の争奪戦がおこなわれている。このような現状とその他様様なサービスの低下があるにも拘わらず、政府は、貯金保険の株式を10年以内に売却すると言う、売却されれば、利益追求のため地方の郵便局は、そして郵便局のみの地域で暮らしている老人等は、どうなるのか解かりません。従って株式凍結法案の成立及び三事業一体化、見直し法案等の成立を一日でも早く実現させなければなりません。
957	千葉県	郵便局は簡単・便利に利用できるところがメリットであったが、民営化以降会社がいくつも分かれて複雑化したように思える。貯金、保険に関する手続きも面倒になって、時間もかかり待たされる。郵便の不在受取もこちらの都合で郵便局で受け取りたくても、その場に無かったりする。連絡も複雑なようだ。	今までの郵便局（民営化前）の方が利用しやすかった。これまで以上のお役所仕事的なやり方は改めてほしい。利用者が望んでいることを真剣に受け止め、より良い郵便局にしてほしい。	民営化は良いが、十分に検討してもらいたい。成功したとは思えない。今までの三事業一体となった郵便局の方が良いと思う。
958	千葉県	・分社化したことによりお客さまが混乱している。 ・サービスダウンになった。	・三事業一体が望ましい。 ・ネットワークの維持。	ー
959	千葉県	ー	ー	郵便局会社が生き残るためには「ゆうちょ」「かんぽ」との代理店契約が絶対条件として必要である。（郵便以外が80%以上の収入源）三事業あっての郵便局会社であり、お客さまサービスの基本である。お客さまサービスの基本が出来ない郵便局は存在価値がなくなり、お客様の信頼がいただけない。
960	千葉県	手数料の値上げや、局によっては利用出来ないものもあり、煩わしいし、お客さまへのサービス低下が著しい。	以前のような三事業一体の方が効率的な仕事（処理）ができるので、希望する。	ー
961	千葉県	社員は忙しく働いているが、ほとんどの手続きが煩雑になったようで、待ち時間が非常に長くなった。その上、手数料も高くなった。貯金の手続きは近くの地銀の方が、まだ融通が利く。他でできる手続きなら、他で済ませるようにしている。同じような客が多いのか、客の数は減っていると思う。	取扱い手続き等、民営化前に戻した方が良い。	ー
962	千葉県	民営化になり、料金が値上がり（送金手数料等）サービスの低下が著しい。	一つの郵便局に郵便局会社、郵便事業会社があり、分かりづらい。元に戻してもらいたい。	ー
963	千葉県	郵便局の利用者は三事業（郵便、貯金、保険）が一体でなくなって大変な不便を感じている。例えば、郵便配達の人に貯金、保険の頼みを聞いてもらえたものが、出来なくなってしまった。お年寄りにはこれだけでも大変である。	国民不在の四分社化を見直し、郵便と同じように貯金、保険の金融サービスについても、ユニバーサルサービスを行い、三事業一体経営できるような会社にしてほしい。	少子高齢化、独居老人が多くなっている昨今、安心して生活できるよう一定レベルのサービスを保証するユニバーサルサービスを行ってほしい。
964	千葉県	サービスダウンとなり、特に地方に大きな影響が出ている。メディア、国民の失敗の声が多い。	組織体制を変えないと、ゆうちょ銀行と共倒れする。	損益評価以前に現場に応じた事業目標設定を考え直す必要がある。働き甲斐を感じさせる会社にすること。
965	千葉県	最悪である。ばら色の未来が見える。利便性があがるといっていたが、待ち時間は長くなり、手続きも複雑になっている。	利便性の向上、手続きの簡素化	経営形態の見直し、三事業一体が望ましい。
966	千葉県	事業一体の経営とか株の問題、営業収益のことしか取り上げられていない。	将来、局長になろうという夢を描いている社員が少なくなっています。今後は夢と希望を持てるようなお客さまと一番に接するフロントラインが元気良くなるよう期待します。	ー

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
967	新潟県	(1／2) 日本の憲政史を小泉純一郎首相の独断により、大きな汚点を残した。当時の国会における議事運行を見ても甚だ民主主義のルールを外れた断行のみであった。地方議会の反対決議は全国総ての都道府県・各市町村・全国津々浦々から沸いた反対の声を一切無視して進められた。与党の中から、総務会でも反対が決議されたが、すべて無視された。各都道府県議会の反対決議、請願、総て小泉純一郎首相は一切顧みなかった。国民の声は中央議会、内閣に届けられた。幾多の苦労を重ねて地方から送られた民営化反対の切なる声に一切耳を貸さず、小泉純一郎首相は強行採決を通した。12月8日共同通信社の世論調査結果報道によれば民営化反対が賛成に対し、52対32と大きく差を開いている。小泉純一郎氏が、国民世論に背を向けて強行した郵政民営化はようやくその実態が明らかになって反対世論が再び盛り上がっている。当時小泉純一郎氏と竹中平蔵氏が国民に対して説明したことが、全くのデマでであったことを示している。私の住んでいる新潟県で見たことを示して具体的に郵政民営化について評価したい。 1　便利にならず、不便になった (1)郵便局へ行けば、郵便、貯金、保険を同時にお願いできた。しかし、民営化後は仕切りが出来て、別々にお願いしなければならない。 (2)金融庁の下になったため、貯金は全て規制が変わり、検査、確認が異常に厳しくなった。これが、郵政省の頃はもっとお客さまを信用していただいたと思うが、現在はお客さまを北朝鮮やビンラディンの者と同じ扱いをしている。	直ちに民営化を中止し、国営で三事業一体に戻すべきである。そもそも小泉、竹中両氏はかつてのホリエモン氏を高く評価し、金儲け主義の2人である。その結果が原課の経済混乱を生じているのである。郵政民営化も経済混乱も根は一つ。すぐ正すべきです。	ー
		(2／2) (3)郵便と貯金と保険が分離され、何一つ良いことはない。郵便を貯金の人に頼んでも持って行ってはいけないという。郵便法も郵便貯金方も簡易保険法も廃止され、大きく法律体制が変わった。そのため、今までは頼めたことが頼めなくなった。 (4)郵便区が大きく合併し、小さな集配特定局はすべて廃止され、遠くの大きな郵便局に集約された。そのため、見も知らぬ遠い所から配達に来る。そのため、時間に大幅に遅れている。不在になるといちいち遠くへ取りに行かなければならない。 2　郵便局の経営状態が悪くなり、あと何年持つか不安である。 まさにこの状態こそ、郵政民営化の真の狙いである。小泉、竹中両氏は目的達成したといっているのではないか。郵政事業は国営で三事業一体で進められていた。その中で少しも赤字を出さず、税金を使わず、逆に国の財政に大きな貢献をしてきた。それが、今や、経営はズタズタに引き裂かれ、経営悪化が進行している。小泉、竹中両氏の目的どおりになっている。この点をどう説明されるのか。責任のある説明を頂きたい。日本国の大事な郵政事業を壊し、一部外国資本に易々と売ろうとした目的を小泉、竹中両氏は果たしつつある。 3　少額貯金を大事に扱うことが無くなった。郵政省の頃は日本人本来の勤勉性を大切にして、日掛貯金や町内の貯金が奨励された。しかし、民営化以降郵便局は大きく変わってしまった。利益追求のため投信に力が注がれている。大損をさせて、何が郵政民営化でありましょう。		

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
968	長野県	ー	ー	（1／2） 郵政民営化・四分社化には沢山の不満・欺瞞・不信が渦巻いています。その主因は、この民営化が「政治の道具・政争の道具」として「足早に」、しっかりとした議論も無く、将来像を描き、明示する事も無く創り上げられてしまったからです。小泉元総理は郵政を「政治の道具」にし、ある程度順調だった（当時の生田総裁も今後１０年は全く問題ないと言っていたはずです）郵政公社を、準備期間たった2年という短期間で民営化し、その結果、竹中作の「バラ色の紙芝居」とは裏腹に、四分社による弊害や顧客サービスの低下を招き、冒頭申し上げたように沢山の弊害が渦巻いています。そしてその中でも何より問題なのは、郵便局会社が「制度設計・しくみ・土台自体」に大きな欠陥と言うか致命的な欠陥を抱えて創られてしまったと言う事です。致命的欠陥とはつまり、9年後「ゆうちょ銀行・かんぽ生命」が完全民営化し、委託義務がなくなると諸外国を見ても明らかなように田舎の郵便局は無くなり、田舎からライフラインの1つが無くなってしまうと言う事です。 郵政だけが政策ではないでしょうし、私どもの自己保身だと言われればそれまでですが、人口減少時代・少子高齢化の中、田舎は益々活力がなくなってくるのは日に見えています。そんな中、ライフラインやセーフティーネットが失われていくのを政治は見て見ぬふりをして良いのでしょうか。私は政治の道具として使われた郵政が、本来の役割を礎にした、利用者本位の、しっかりとした制度設計をしてもらうためには、政治の世界で再度検討いただくしか無いと思っています。
				（2／2） このまま行けば最悪の場合、早晩、大リストラが始まり、その後「ゆうちょ・かんぽ会社」が完全民営化し、委託義務の無くなる9年後からは、いよいよ店舗の大リストラが始まるのは目に見えているような気がします。又、郵政グループ全体を見ると、経営陣は「ゆうちょ・かんぽ会社」の上場のみに力点を置き、極論すると「後は野となれ山となれ」、9年後に在職している経営陣はいないのですから（当然、無責任に決めた政治家も）、将来の姿は眼中に無いような気がします。しかし、地域に暮らすお客様や職員も含め「後は野となれ山となれ」では困るのです。「ゆうちょ・かんぽ会社」の上場のために帳尻を合わされ「後は知らない」では困るのです。 本当に、利用者本位のしっかりとした制度設計を一からやり直して頂きたい。未来に夢が持てる会社にして頂きたい。未来永劫地域に残る会社にして頂きたい。「ゆうちょ・かんぽ会社」が完全民営化した後の姿を明確にしてから議論をして頂きたい。切に願望いたします。宜しくお願いいたします。
969	千葉県	私は田舎の小さな郵便局に勤務しています。高齢化率31.2%、75歳以上の独居生活者は265人と凄まじい勢いで高齢化か進んでいます。従前は、こうした生活弱者を守るため、町行政と連携をとって「貯金の払い出しお届けサービス」更には「さわやかメールサービス」（独居生活者に対して職員の担当制による安否確認と併せ下記の項目により行政に対する意見要望等聴取）、等々を実施してきました。 1 身体の具合はいいがですか? 2 困ったことはないですか? 3 行政に対する意見・要望はありますか? 上記情報は町福祉課・社会福祉協議会.シルバー人材センター等に情報提供し、速やかな対策を行ってきました。 また、オートバイで配達という面の作業を活かして「道路決壊情報の提供」「不法投棄情報の提供」・「防災協定」・「防犯協定」（PPネット）（ポスト&ポリス）等々行政と一体となって活動してきました。この活動は職員の士気の向上にもつながっていましたが、民営分社化がこうした活動と職員の士気もを全て閉鎖してしまいました。 現在の分社化はこうした町にはそぐわない。「従来の姿に早く戻して欲しい」と言う地域の声と、行政からの依頼は益々大きくなってきています。特に日々の生活に必要な現金が頼りの高齢者からは、悲痛な叫び声が大きくなってきています。 国営の復活を急ぐのではなく、とにかく分社化の見直しを早期にお願いします。このままでは地方は崩壊してしまいます。	ー	ー

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
970	鹿児島県	お客様の意見 ・事業が分社化されたことにより、事業間のつながりが絶たれ、今までにないような不便さを感じている。郵便局の窓口は3事業すべて取り扱っているのに、郵便の配達のことを聞いても、別会社であるため答えられない等利用する者からすれば、同じ窓口なのにと不思議な気がする。 ・貯金の取扱いなど、煩雑な感じをうける。民営化されてから、お客様の立場になって改善が行われていない。民営化前よりかえって、国の機関のように感じ、柔軟性がなくなった。地域に身近な郵便局だからこそできることをやって欲しい。データの管理も他の金融機関だとすぐに手に入れられるものが、郵便局だと時間がかかったり、手続が面倒だったりするものがある。 ・商品の効率化(積立貯金の廃止など)をみていると、利用者の意見とは関係なく、利益の上がらない商品はなくなっていき、効率的な商品ばかりが残っていくような感じがする。民営化後サービスが向上された部分があるかも知れないが、少なくとも過疎地においては、サービスが向上されたとは感じられない。 以上、窓口を利用されるお客様の声の一部をまとめました。大部分のお客様が民営化によりサービス向上につながったとは感じておられず、むしろサービスダウンになったという意見を多く聞きます。現場は、損益を意識した人員配置の中で、今まで以上のサービス提供を目指してやっていますが、現実とかけ離れている面もあり、期待どおりの成果があがっているとは思えません。ますますの改善が望まれると考えます。	ー	ー
971	群馬県	郵便局は全国ネットに広がり政府と市町村で高齢者の気持ちを集める一番良い公共機関であった。特に高齢者はお金を積むとか手紙を出す場所としてだけでなく中央の出来事や情報を聞くもっとも適した機関であった。それが一内閣の思いつきで廃止され一番こまっているのは都会とはなれた過疎の所の居住者であり高齢者である。前よりむずかしいことを言われたり、サービスも悪くなり待ち時間も長くなった。民営になってよくなったことは何もない。近くて便利な公共的金融機関は必要である。	今まで3事業が一つであったが、やはり、貯金・保険・郵便を一帯になるのが一番使いやすいと思う。少ない局員がみんな一生懸命お客に対応している。ただ利益を求められており営業になるのはわかるがからまりしているようだ。あかるく笑顔で元気で親しみのある郵便局でなくなってきた。今一度民意を聞いて是非以前に戻していただきたいと心から願う。	ー
972	宮城県	お客さまに対するサービスの低下が感じる。窓口係職員、あまりにもマニュアル通り。あたたかみがない。管理者の指導力の低下あり。	民営化前のサービスを期待する。	郵便局のATM、土曜、日曜の祝日利用の場合、ATMに資金不足の場合、ストップして他の近くの局へ行けとの貼紙あり。また、機械トラブル障害なると、長時間利用出来ない状態。民営化でサービス向上と思っていたが、お客に迷わくかけるのが民営化だったのかギモン。もう一度、民営化の見直し、願いたい。
973	福井県	①不便になった。配達の人に払込をお願いしても、きいてもらえない。 ②配達のことでお願いしても時間がかかる。すぐに通じない。 ③配達の人が知らない人ばかりになった。	地方の切捨て、弱者切捨てにならないか心配。	ー
974	山口県	70%以上の国民が反対していた郵政民営化であったのに、構造改革、本丸の名のもとに断行されました。今地方(特に過疎地方)では民営化されたことにより、いろいろとサービスダウンし、日常生活に不便を被っている。早く以前の状態にかえしてほしい。評価は低下。	都市、地方を問わず、銀行、生命保険会社などは、この時代を生き残る為に、資本提携、統合、合併などして、健全経営の道を模索しているのに、三事業一体で効率的運営を行っていた郵政事業を民営化、分社化(4つの)に何故したのか。今後、不採算地の郵便局はどうなるのか。永年構築された全国あまねく公平サービス、ネットワークはどうなるのか。期待は不安だけです。	先の参議院選挙では野党が圧勝し、時の首相は即刻ら衆議院を解散し、改革の本丸、郵政選挙と称して総選挙を行いました。国民の目から見えたのは、参議院選挙で大敗したので個人的感情が半分入っての選挙であったように思えた。 今、その後遺症で国民は病んでいる。政治は常に国民の為、弱者も国民である事を忘れないでほしい。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
975	千葉県	平成19年10月に郵政民営化が行われましたが、国民からの要望でもなく、社会的な必要性からでもなく、入念な準備期間もなくただ民営化という目的だけで実施されました。 その結果、様々な弊害が生じています。 ・世間一般では企業の競争力強化のために合併や統合が行われているにも関わらず、郵政は分社化し、非効率的になってしまった。 ・民営化したことにより印紙税が発生し、これが料金に転嫁され、利用者への負担増につながっている。 ・分社化したことにより事務手続きもより煩雑になり顧客情報の取り扱いも複雑になってしまった。その結果事務処理に要する時間が長くなり、待ち時間の増加につながり苦情の原因となっている。 ・郵便では小包の集荷もできなくなり、郵政事業の独自商品である年賀はがきは郵政グループの独占商品でありながら9月から1月半ばまでの4ケ月半という長い間、郵便局と郵便事業会社とでシェアの奪い合いをしている。郵便局での販売枚数は減少しているにも関わらず目標自体は収益確保の名目で増加している。このようなことを続けていたら現場は疲弊し郵便局の崩壊につながりる。 ・金利優遇をはじめとする各種キャンペーンは預金者の選別につながり、あまねく公平の精神が崩壊してしまった。 ・郵便局会社がの収益の基盤が委託手数料収入だけでは完全民営化された場合ユニバーサルサービスの提供は困難で郵便局のネットワークの崩壊につながる。 ・10人以上いる銀行の支店と1名で窓口をこなす郵便局が同じレベルの業務品質を維持するのは不可能に近い。ましてや郵便局では、貯金のほかに保険や郵便の業務を行っている。しかも窓口営業時間は銀行よりも1時間長い。	・分社化をやめ3事業一体経営にする。 ・少人数でも短時間で業務が処理できるよう取り扱い手続きや内容をを簡素化する。 ・真に利用者の利便性を考慮し、現場の職員が無理なく働くことのできる職場づくり。	現在、定員が同じ局でも目標に差が大きい。定員が事務量によって算出されているのならば定員によって目標を同じにするべきである。 ・高すぎる目標はモチベーションの低下につながる。目標設定を実態に即した水準に設定し、目標を越えた部分を評価する方がESの向上につながる。 ・地方では定員2名の郵便局が多いが、突発的な欠務、事故等により、職員が出勤できなくなった場合現在のシステムでは対応できない場合が生じる可能性がある。最低定員は基本的に3名にするべきである。
976	東京都	郵便局でのいろいろな手続きが複雑になった。転居届がとても遅くなった。貯金・保険とも時間がかかるようになって、何が民営化でいいことがあったのですか？料金もとても高くなった。分割をやめて一つにするか。郵便は本当は国営に戻すべき。	―	―
977	岐阜県	① 民営化により「国民にとって便利になる」とのことであったが、具体的にどんなところなのか見えてこない。「映画チケットが買える。」であれば、人気のチケットをなぜ売らないのか?カタログ販売商品、申込から受け取りまでポスタルサービスセンターより早くなったのは良。業者申請は、期日がかかりすぎ。 ②これまで、出来た土曜・日祝日の郵便関係の受付窓口が支店でないと受付出来ないのはサービスの後退、やれる方法を見つけ出す方法はないのか? ③ 事業会社と局会社の棲み分けがなっていない。(かんぽ生命は、個人部門と法人部門と分けて営業)系列会社で全く同じ商品(年賀・かもめーる)をお客さまに気を遣わせてまでなぜ取り合いをやっている。全く無駄である。	① 小手先でなく、民営化の良さを出すことを考えてもらいたい。(法律・規則でマイナス面ばかり) ② 地方の郵便局が残っていくと言う確かな未来が見えてくること。 第二のドイツにならないよう全国に点在している郵便局を行政・福祉あらゆる分野から「うまく使う」策を期待したい。(委託事業等)	―
978	岐阜県	昨年10月の民営化以来、すでに1年以上過ぎたところでありますが、以下のとおり数多くの問題が発生しています. ① 郵便局の外務職員は今まで郵便、貯金、保険、を一人で取り扱っていたが、それぞれ別の職員が取り扱うことになり、貯金や郵便物を預ける際など、非常に不便である。 ② 今まで土曜日、日曜日、祝祭日でも郵便やレタックスを取り扱っていた多くの郵便局が、その取扱いを止めたため、遠くの郵便局へ行かなければならなくなった。 ③ 郵便局の悪口が間仕切りされ狭くなり、取扱手続きも複雑となり、持たされる時間が多くなった。 ④ 留め置き郵便物を受け取るために出向いても、すぐに受け取ることができず、再配達を希望しても時間がかかりすぎる。 ⑤ 年賀はがきは毎年決まった数しか買わないのに、予約に何人もの職員が訪れる。非常に無駄なセールスである。	郵政民営化で良くなった点は見あたらない、逆に不便になったことが多く、利用者は非常に困窮している。上記のような弊害をすぐにでも是正するべきである。 ① 早急に民営化の見直しを検討し、郵便、貯金、保険は一職員が同時に取扱うべきである。郵便局会社と郵便事業会社は一体化し、間仕切りを取って以前のように広く使用すべきである。 ② 昨今、ヘッジファンドが横行し、混乱する世界の経済状況の中、郵政民営化に伴う株式の公開は非常に危険をはらんでおり、慎重でなければならない。少なくとも、国民の重要な生活基盤であり財産でもある郵政グループの全ての株の半分以上は政府保管とし、健全経営を図るべきである。	―
979	岩手県	・郵政民営化による分社化で国民へのサービス増強のメリットが見えない。 ・〇〇県内で簡易郵便局が次々廃止され、地域住民が大変困っている。郵便局は看板を変えただけで、返って事務処理が複雑化して、迅速な処理に懸命である。	・国民へのサービスメリットが見える型態に ・全国各地域の国民が不便をきたさない型態に ・地方の実情を反映した型態に ・職員の勤務意欲が出る型態に	―

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
980	群馬県	分社化により、お客さまに、ご迷惑をおかけしています。集配センター併設局（郵便局会社）へ、土・日・祝日に電話をかけても、誰も出ません。	ー	ー
981	岩手県	民営分社化が実施されたが、未だ方向性を見出せないままといっても過言ではない。民営化になって各事業毎に分社化されより利用者にサービス低下をきたしていると思います。成績をつけるとすれば低下と言ったところであると思う。	民営化されたのであるから、地域サービスにより一層密着した郵便局になったと言っているが現実はそうではない。郵便局の地域性の特色を十分発揮出来る柔軟な施策の展開について私は期待したい。	普通局と特定局は民営化され同等の職場となったのであるから一体であるといれているが、職員の質の問題として普通局勤務者は仕事に対し甘く、利用者とのやり取りでも見ても甘いと思う。特定局の職員もそのような事を見て、だんだんと同化されているように見受けられ部外から見ても判断出来、誠に残念に思います。そのような事柄から民営化前の成績から下降線をたどっているように思う。
982	山形県	ー	郵政が民営化して1年半。地方に住む私にとって郵政民営化は「不便になった」の一言につきます。「そういう仕組みになったのでは仕方がない」と不便を感じながらも、「制度の問題で、郵便局の職員や局長さんに責任があるわけではない」そうは解っていても、その不便さに郵便局ではなく、他の機関を利用してしまうのが現状です。地域の仲間に聞いても、半ば諦めのような言葉が返ってきます。 かつて同じ郵便局で用事が足せていたものが、同じ建物にありながら別会社ということで二度手間になったり、貯金や保険の手続きにしても複雑になり、面倒になりました。民間になり金融庁の監督を受けることでの影響もあるのでしょうが、これまで簡単に出来ていたものが出来なくなると言うのは、私たちにとって非常に不便なものです。 郵便局が地域の中で果たしてきた役割は、「ゆうびんやさん」と親しみを込めて表現されてきたように、その安心感は大きいものがあると思います。その上に私たちの暮らしがありました。なぜ、これまで通りでダメだったのかな、といつも思います。 民営化にする必要性があるとすれば、それはそれとして、せめて内容だけでもこれまでのサービス基準を維持してほしいと考えています。郵便局は、これまでもこれからも公の機関です。公共性と企業性のバランスをうまくとりながら運営されてきたのがこれまでの郵便局だったと思います。 現在進められている民営化の内容では、お客さまが離れていくばかりで、いずれ地域から見放され、なくなってしまうのではないが、という危機感があります。これでは地方が益々寂しくなってしまいます。郵便局がこれまで果たしてきた地域での役割を考えたとき、従来の形に限りなく近い形に、もう一度組み直した形での運営に変更されることを望みます。	ー
983	岐阜県	「郵政民営化でサービスは向上する」というううたい文句で、民営化されたが、実際、サービスは低下。不便になったと言わざるを得ない。 ・年賀状の遅配 12月25日までに投函すれば元旦についていたのに、今年は、市内にもかかわらず25日までに出しても1月7日しか着かなかった。 分社化されたので、バイト(素人)が多く、配達に時間がかかったのか? ・分社化で業務が分かれ、今までできたことができなくなった。 ・市民病院のATMが撤去された。 郵便局、銀行、農協、信金のあるATMコーナーから、郵便局のものだけが、撤去された。今までも土曜・日曜は郵便局のATMが使えず不便だと思っていたが、完全に無くなって、とても困った。病院では急にお金が必要なことが多い。資金の投入や回収の業務が人員削減による人手不足でできない? ・人員削減で郵便局が混雑。 家の近くの郵便局は、とても忙しい局だが、局員さんが減り、バイトの人が多くなった。普段からとても忙しい局なのに、なぜ人員を削減するのかが分からない。 局員さんは本当に一生懸命やっているのに、怒るお客さんもいて気の毒だと思う。	・完全民営化しないように、郵政株式売却を凍結してほしい。 ・今までのようなサービスが期待できる郵便局にしてほしい。	ー

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
984	長野県	―	民営化して1年が過ぎるが郵便局の将来像が見えない。ユニバーサルサービスを継続する事が郵政民営化法案に盛り込まれている、郵便局会社と郵便事業会社は赤字決算となっても不思議ではないのに経常利益を求めている。不採算郵便局をどうするのか?過疎の取扱いが少ない局所では収益を望む事は無理。また3種4種郵便物等の廉価なサービスを継続するには、採算を度外しする外無い。現状のままでは、果たして郵便局並びに郵便事業を存続させる気があるのか甚だ疑問である。全ては利用者である国民に対してのサービス低下である。現場の経営責任者である郵便局長は職場のマネージメントより検査、監査だけしていれば良いのか?非営業部門の検査監査部署を増員させ、営業社員が欠員だらけでは収益が見込めるはずがない。新規ビジネスの開拓というが仕入れのシステムがないがために制約されてしまう。組織の上層部はどのようなビジョンをもっているのか?自己がいる2～3年の事だけ?疑心暗鬼になる。業務でも監督官庁が金融庁になったが故に民間レベルを求められている。営業停止になるからと、煩瑣な手続きと検査監査が必要という。民間レベルとは何?2名3名で営業している銀行はない。銀行の代理店というのも聞いた事がない。元来、郵便局と銀行ではシステムと要員が同じではない。郵政だけのルールは認められないというが、郵便局を存続させる気があるのなら特別ルールを認めさせる事が不可欠である。株式凍結法案にしてもそうだが郵便局の窓口で銀行業務が営業停止にでもなったら、その時こそ国民は黙ってはいないだろう。余りにも物が申せない立場の弱い会社からの脱却を望む。余りにも物が申せない立場の弱い会社からの脱却を望む。	―
985	茨城県	(1／3) 郵政民営化から一年余りが経過し、事実上の民営化元年も、はや終わろうとしている。フロントラインの経営者・管理者として、郵便局長の立場から、これまでの郵政民営化の及ぼした影響について、郵便局の現状・お客様の意見を交えながら、私個人の考えを以下に述べていきたいと思う。 フロントラインにおける郵政民営化は、準備期間を含めるならば平成18年度未より始まったと記憶している。評価云々の前にまず意見したいことは、民営化とともに変える必要のあったもの・その必要のないものの精査がそもそも行われていたのかという点に尽きる。グループ全体を巻き込んだ大混乱の中において具申する余裕も暇も与えられなかったが、平成20年度現在と、平成18年度とで変わらない業務・様式・端末アプリケーション等を挙げる方が難しい。そしてそれは民営化直後と今現在を比較しても同じことである。活力向上宣言というありがたい方針は示されてはいるが、フロントの悲鳴を形にして頂いたはずのそれは次なる改正を生み、現場での混乱は未だ続いている。(これについては簡便化を謳いながら却って細分化されているものも数多い。) 話を戻すが、もともと公社は改正好きな組織ではあった。ただ、本当に改善するための改正が行われていたのかという疑問も離れない。制度のスタートは常に見切り発車であり、フロントからの照会と、それに対するQ&A集の山はあって当たり前の状態である。それは今も変わりがない(民営化前後で変更のない数少ない点の一つである)。	―	―

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
		(2／3) もともと企画部門にそれらの必要のない改正指示を作成する能力がないのか、もともとその必要がないのかは不明だが、いずれにしろ現場を知らない人間の仕事であろう。同様に、実際に実行する者の立場で作成されているとも残念ながら考えにくい。一般に民間企業において(健全経営を目指す企業において)ここまで頻繁に制度改正・新規事業参入を繰り返し、且つ上層部がフロントを省みない組織というのも聞いたためしがない。これで株式上場という話であるから、ある意味わが社の未来は明るい。組織にとって人は財産であって消耗品ではない。際限ない改正と方針転換は現場を完全に疲弊させている。フロントの社員のモラルを徹底的に犠牲にして、どこまで採算を上げることができるか今後の経過を見守りたい。 さて、それらの莫大な時間・労力・カネを費やし痛みを伴った郵政民営化が、利用者であるお客様本位のものになっているかというと残念ながらそうではないようである。業務の煩雑化による待ち時間の増加・人員不足による実質上のサービス低下・それらが誘発するヒューマンエラー(事務リスク)が複合汚染的にお客様の郵便局離れを加速させている。お客様からご理解をえられることもあるがそうでないケースも多い。昨年秋以降お客様からは「不便になった、面倒になった」という声しか聞かないが、問題が全てフロントにあるとは考えにくい。原因として考えられることは二つ、フロントの人材に難があるか本社の指示や方針に無理があったかのどちらかであろう。これに関して極めて個人的意見を述べさせていただけるのであれば、自身のため将来のためお客様のために懸命に業務に取り組んでいる社員たちに非があるとは到底考えられない。		
		(3／3) 全国的に事務ミスが後を絶たないというのであれば、問題があるのは制度そのものであり、細分化された業務がフロントのキャパシティを超えている、ということなのであろう。余談であるが、お客様の言うサービス向上とは「必要な物事を簡単に、短時間で手軽に提供されることの拡張」であって、お客様自身に関係のない部分で時間を浪費されたり手間を増やされることではない。 最後に、(民営化の保障するところである)ユニバーサル・サービスの維持と、お客様の利便の維持は同義である。そして株式上場とは対義である。始めから採算の採れない店舗は潰す予定であったのなら話は別だが、統合・再編するにも小規模局にはそもそもキャパシティが無い。また、語りつくされた話であるが統廃合は地域を、雇用を切り捨てる。目先の効率化・人件費削減大いに結構だが、その前に分社化の無駄・矛盾は改善されているのだろうか。社員向けに自社株購入を募集している模様だが「明るい将来展望を持てる働きがいのある職場」の実現を目指す当社(今現在も目指しているかどうかは未確認)の社員の何パーセントが実際に購入しているのか、甚だ疑問である。仕事と財産を同時に失う人間が現れないことを期待したい。 郵政民営化は、お客様と社員の支持を失うという点で、非常に評価できるものであったと個人的には考えている。同時に将来はそうではないことを心より願っている。		
986	兵庫県	ユニバーサルサービスの低下 (特に老人・離島等人口の少ない地域) 集配業務の統廃合・ATMやポストの削減・振込み手数料の大幅値上げ・国民・利用者に大きな負担と不便を押し付けている 人減りしや非正規化・賃金切り下げ・の労働条件の改悪 くらしや医療費、年金など国民生活は良くなったか? 小泉にだまされたの一言です	郵便・貯金・保険業務の一本化・ユニバーサルサービスの向上を確保	ー

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
987	鹿児島県	昨年10月に民営化になり1年が経ちました。民営化は改革の本丸、民営化してサービスは更に良くなるという政府の唄い文句は果して経済活動に郵便局利用者に良い結果をもたらしたのでしょうか。 今のところそのきざしも見えないどころか、不便なことだけが目立ちます。 何かと手続が面倒になった面はがまんするとしても、特に郵便がサービス面で受け取りが遠くなって高齢者にとって誠に苦痛であり、健康を害した時の不安は増すばかりです。又、配達する郵便局の統合で統合された局は、自らの運送手段をもたず、統合局を経由するためこれまで翌日届いていたものが届かなくなりました。それに重宝した手書の慶事用のレタックスは当日は殆ど届かなくなりました。 民営化は必ずしも反対するものではありませんが、民営化の在り方に問題があり無理があります。郵便事業会社と郵便局会社の異様な在り方は、郵便局サービスを利用する者にとって誠に不可解な現象です。今後民営化が年々進めば、民営の本質、効率化を進めざるを得ず、地方の郵便局が切捨てにならない保障はどこにもありません。 賢者は歴史に学び愚者は体験によって初めて知るでは、取り返しがつかないし、国民はだまし打ちに合った様なものです。日本のこれまでの企業(商売)倫理、日本人の特性は、人まね、ものまね、画一的流れになりやすい傾向強いと言わざるを得ません。何かが良いとなるとそちらへなりふりかまわず向いて行く、大銀行を含め、不動産投資がもうけるとなるとリテール部分は見向きもせず一目散。遊技のボーリングが良いとなると各地に林立し、全てが成り立たなくなる。これが日本人であり、日本企業であります。 欧米の合理主義、自由経済主義をそのまま導入するのであれば、日本人の負の部分だけを助長することになります。だからこそ、セーフティネットとしての金融機関が日本人には、地方には必要なわけです。それは郵便サービスと一体となって全国津々浦々にサービス網を巡らして提供する必要があります。その為に民営化の在り方を今一度見直さなければ、地方は成り立ちません。自由経済、それは都市部の感覚であることを自覚自認した対応をして頂きたいものです。	ー	ー
988	山口県	ー	(1／2) 日本の郵政体制は世界で類を見ないネットワークを築いており、これを活用した郵政事業は住民生活に密着し、その利便性は地域住民にとって大きな安心と安全をもたらすものであったと思います。しかし、4分割しての民営化により、今まで郵便局がもっていた利便性は失われ、その影響は弊害として都市より地方に大きくあらわれていると思います。 私の住んでいる地域や近隣の地域では、郵便は夜出せば朝には届く体制がありました。また、住民と局長との親交も深く、コミュニケーションが十分図られていましたから老人世帯、独居世帯の安心感もありました。民営化により、これらのことは根底から崩れ去ったといっても過言ではありません。 民営化により、サービスの質の向上がうたわれていますが、国鉄、電電公社が民営化され、本当に住民のためになったでしょうか。国鉄でいえば利益とコスト削減を目指すために赤字路線は廃止され、その不便を補うために地方公共団体は一般財源により住民の足を確保せざるを得ないのが現状です。郵政民営化についても同じことが言えます。利益を追求するために、地方の採算の合わない局は統合され、金融機関といえば郵便局と思っていたお年寄りは離れた局へ行くようになりました。郵便配達員は効率のみによって動かざるを得ませんから、住民の安否を気遣うこともなく、お互いがその顔すら知らなくなってきているのが現状です。もちろんそれは郵便局の仕事ではないといってしまえばそれまでですが、先にも言いました郵便局にはネットワークがあり、これにより全国一律に公明正大なサービスが行われていたわけです。土地の事情に一切関係なく、東京であれ、北海道であれ手紙は同じ料金で届き、同じサービスを受けることが可能でした。私のような地方に住む者にとって郵便局のキャッシュカードを持っていれば東京に行っても片田舎に行っても現金を持ち歩く必要はなかったわけです。	ー

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
			（2／2） 民営化とは利益追求のみを考えます。都市部では郵便局が民営化になってもそれほどの影響はなかったと思いますが、郵便局が住民の手足であり、目であった場所では、利益優先の運営は住民の生活を切り捨てることになりました。 このような現状を踏まえ、今後郵政事業のあり方として、 1、4分割された事業を統合する。 分割した理由が不明確であり、非効率であると思う。 2、地域の郵便局事業を存続させ、さらに福祉介護や助け合い事業、緊急対策事業といった複合的事業展開ができるシステムを構築する。 3、センター集約の郵便の配達業務のあり方を地域に密着した形にする。 このような郵便局にするためにも利益優先を信条とする民営化より、 4、公営化でおくべき。 と考えます。 郵政民営化は競争型資本主義への追従で始まったと思います。世界的な不況の今この時期に郵改事業を考え直さなければ、地方は崩壊します。全体の国民のため、地方にも陽のあたる、住民本位の政策をとるべきだと考えます。	
989	富山県	―	（1／4） ◇ はじめに 郵便制度が発足して137年余、郵便の配達、夢を育む貯金、不測の事態に備えた簡保契約等を主たる業務とし、私たちの暮らしを支えてきましたが、これまでも、阪神淡路、新潟中越、そして、最近の災害の連鎖にあたって、救援物資、緊急融資の非常措置を行い、復旧への貢献とともに、「生活の友」として、年金、住民票等、自治体業務の一端をも担うなど、地域に根ざし、地域と共に歩み、その存在感は計り知れないものがあります。 その郵便局が、昨年10月に、持ち株会社日本郵政と郵便事業会社、郵便局会社、ゆうちょ銀行、かんぽ生命保険の民営四分社化のスタートを切りました。 郵政事業の公益性を保ちながら、効率化と収益性を目的とする道のりが容易でないことは、この1年2ケ月の足跡を通した利用者、職場、経営側の「声の評価」に検証されております。 民営化にあたって、国民に発せられたたメッセージは、「民営化をすることによってサービスが向上する」「民営化以前のサービスは維持する」とのことでしたが、日本郵政が、先頃「顧客満足度調査」を行ったところ、「窓口対応は以前と変わらない」との回答が55%と、サービス向上の実感が乏しいことが明らかとなりました。 こと郵政事業に限らず、企業の存続、発展には、優れた人材力、安定した財政力、地域への還元力が伴わなければなりません。 視点をそのことに置けば、後述します課題の把握と速やかな対策が求められるのではと思います。 地方では、簡易局の復活、出張サービスの試行など、利便性の確保へ誠を尽くし努力していますが、貴委員会での論議を通し、「ユニバーサルサービス」の維持を図ることが極めて重きを成すことの思いに立って、以下意見を申し上げますので、ご賢察くださいますようお願いいたします。	―

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
			（2／4） ◇ 今後の郵政民営化への期待 歴史と伝統ある郵政事業の民営四分社化にあたって、「全ての人に公平に奉仕する」ことを理念に掲げ、「心とルールと責任」をもって国民生活の安全、安心を届けてきた職員がもっとも懸念を抱いたことは、「ユニバーサルサービス」が長期的に維持、保障されるかということであり、言い換えれば「ユニバーサルサービス」は信頼への芯であり、是非維持していただきたいということであります。 民営化移行の際、郵政公社は、「民営化以降も現行サービスは維持する」「民営化になればサービスは向上する」としていましたが、以降の1年2ケ月の足跡は必ずしも、その日的、その道を歩いていないように思われます。 貴委員会の皆さまには、利用者、職域に働く社員の声と私が感じたこと、見た内容を簡記しますので、「ユニバーサルサービス」の維持と拡大、推進に向けて、参考にしていただきたいと思います。 ＜郵便部門＞ ○ 集配郵便局が再編されることによって生じること (1) 配達時間が長くなった。 (2) 時間外窓口でゆうパックや書留が利用できなくなった。 (a) 自宅を留守にした場合、集配局へ取りに行く時間が2倍になった。 (4) ゆうパックの集荷晴間が希望通りにならなくなった。	
			（3／4） ＜貯金、保険部門＞ ○自宅近くのATMが採算がとれない等の理由で撤去され、サービスダウンである。 ○郵便サービスは法律で義務づけられているが、ゆうちょと簡保については、郵便局会社との「安定的な代理店契約」は民営化移行期間の10年に限られており、10年後、ゆうちょ銀行、かんぽ生命はどうなるのか心配である。 ○金融のユニバーサルサービスが崩壊するのではないか. <郵便、金融部門> ○ 郵便、金融のユニバーサルサービスを維持するために「社会地域貢献基金」を設立するとのことですが、貢献基金で赤字補てんされる郵便局は、過疎地の限られた郵便局であり、それ以外の郵便局への財政措置が不透明である。I ○ 少子高齢化社会にあって、郵便、金融のユニバーサルサービスは是非堅持されたい ○ 郵便・金融のユニバーサルサービスを維持する仕組みを作るために、「社会地域貢献基金」の他に、地方・過疎地の郵便局に対する「税制措置」と郵便局会社と郵便事業、ゆうちょ銀行、かんぽ生命の各会社との関係と繋がりを法律的に将来にわたって担保し、グループ経営をやりやすくする必要があると考える。	
			（4／4） ＜利用者の声＞ ○民営化以降、民間に運営を委託している簡易郵便局の閉鎖が相次ぎ、地方、過疎地に住む人にとっては、生活機能が低下している。 ○ 民営化後のサービスに期待していたが、窓口応対で三事業のことを聞いても、従前は丁寧に応対していたのに、今はクールになっている. ○郵便局の中にベニヤで間仕切りがしてあり、狭く、暗く、空気が悪く、何よりも働いている社員間の意思が計られていない。 ＜総論＞ ○ 政府が民営化の際に、「現行サービス水準を維持し、万が一にも国民の利便に支障がないよう万全を期す」と約束されたが、現状はそうなっていない。不便である。 ○郵政事業は、三事業一体運営の中で、郵便、金融のネットワークとユニバーサルサービスを守ってきたが、民営分社化におけるグループ経営の姿が見えてこない。	

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
990	茨城県	・民営化前後に、お客様対応時で大きな混乱は無かったが、それはお客様が民営・分社化を理解しきれていないことも一因としてあったと感じている。全銀システム接続や金利キャンペーン等、商品PRだけでなく、グループの説明責任として、民営化している今の現況、これからの予定の接続も継続して行うべきだと考える。 ・現在、窓口に来たお客様にキャンペーン、フェアー、クーポン券等の御案内をし、さらに郵便局会社独自の施策であるカタログ販売をご提案するのは厳しい。こちらも混乱してしまうし、お客様も自分が何をしに来たのか分からなくなる状況。証拠書類の保存の仕方にしても、年度の途中から変更となると多大な労力を要する。これでは端末等機械的には可能なのだろうが、こちらが対応しきれなくなる。郵便局会社は各会社の要求を全て引き受けるのではなく、もっとセレクトしていくべき。	・不況の底が見えない中で社員は皆、不安を感じている。グループの目指す姿、これからの予定を明確に打ち出して欲しい。手数料収入でどのように経営を成り立たせていくのか経営トップの手腕に期待している。 ・現在郵便局では経費削減の一環で人件費削減に取り組んでいることを考えると、当然本社、支社でも同様の取組をされていると思うが、本社、支社でも具体的にどのくらい削減できているのかを明示してもらえば、さらに取組にも力が入ると思う。 ・貯金、保険の手数料設定に関して。定定や年金、新規保険加入等以外の取扱（住所変更や保険支払、相続など）は、事故になると罰金があるリスクのある取扱であるにも関わらず、手数料設定が無いのは納得できない。それならば、手数料が入る業務以外はお近くの各会社支店に行ってくださいとなっても収入は同じ。その上リスクも回避できると考えてしまう。 ・各会社にお客様対応の専門部署を作って欲しい。お客様からの申告対応では、郵便局側に落ち度が無い時でもゆうちょ銀行、かんぽ生命から直接お客様対応はしていない。しかし実際には対応時に民営・分社化の説明をすると、各会社からの対応を求めるお客様も多い。委託先である郵便局の局長よりも、委託元の各会社に対応を求めるということ。各県に支店が無いわけではないから、郵便物で不着時に集配センターに対応を求める様に、ゆうちょ・かんぽ支店に対応を引き継げるようになること希望する。 ・管理者の土日出勤、長時間残業が常態化している現状を本社ではどのように考えているのか。より納得して業務に取り組める対策を打ち出していくことを期待する。	ー
991	大分県	ー	ー	（1／2） 私の住む山間地域は過疎化が進み独居老人も多く市町村合併で銀行農協も撤退し金融機関は郵便局のみとなりました。郵便局は住民にとってまさしく生活の生命線　ライフラインなのです。 が、民営化された郵便局には、温かみが感じられなく、がっかりさせられることが多くあります。 窓口で集荷を頼んでも、会社が適うと断わられます。 ポストに不在通知。コールセンターに電話すると「お名前は番号は？」と事務的な口調。配達のかたに貯金や保険の用事も頼めなくなりました。身寄りのない車を運転しない高齢者のかたは、仕方なくタクシーで年金の受け取りにいく人もあり、タクシー代も高く本当に困っていらしやいます。 窓口の手続きも煩雑になり時間がかかります。 各種の手数料も値上でこの不況の時代に痛い出費です。 利用しづらく親しみが感じらず地域とのつながりも薄くなっていくようで心淋しく思います。 小泉前総理は民営化で郵便局は便利になると主張しましたが現実は全く逆方向に進み住民にとってなにひとつよいことはありません。 小泉、竹中氏の推進した郵政民営化を含む構造改革路線は市場原理主義であり経済効率を最優先とするものですから、過疎地域や高齢者など弱者が切り捨てられて当然の結果といえます。郵政解散総選挙でそのところを見抜けなかった国民が愚かだったのかもしれませんが、多額の税金をつかい改革の美名のもとに広報活動をし民営化を強行、結果不便をしいるということは国民にとっては詐欺にあったようなもので非常なる憤りを感じております。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
				（2／2） 民営化法には貯金保険のユニバーサル制度は保証されていないと聞きます。 完全民営化となる10年後、過疎地の郵便局が営業していけるのか大変不安です。 簡易郵便局の閉鎖による巡回方式の郵便局など一部あるようですが、全国2万4千局ある現在の郵便局網ですらタクシーを使わなくては利用できないかたが大勢いらっしゃるのです。遠方の局まで少ない年金のなかから高額のタクシー代を払っていくことが出来るでしょうか。 ネットワークの消失は、地域の崩壊であり、憲法で保障されている国民はひとしく文化的な生活を営むことができるとの権利を喪失することとなります。 アメリカの金融危機に象徴されるように市場原理主義は失敗に終わっています。 改革路線を修正し民営化を見直し過疎地でも郵便局が生き残る道筋をつけて欲しいと思います。商品の多角化といった新規事業よりも全国格差のない窓口サービスの提供、取り扱い手続きの簡素化、郵便と窓口会社の一体経営によるきめ細やかなサービスなど基本的なサービスの充実を望んでおります。 加えて地域の助け合い、支え合いの拠点としての役割の再生、世の中が荒廃しているなかで、おばちゃん元気かえ気をつけて帰りよとお年よりや子どもたちに声かけたりかけられたり温かみのある郵便局を望んでいます。 それが地域をまもり日本を強く確かな国に発展させていく力となるのではないでしょうか。 今国会では郵政株式凍結法案の採決をめぐり、与野党の駆け引きが続いております。民営化見直し問題を選挙を有利にするための論戦にするのではなく、原点に戻り国民の立場にたった抜本的な議論を進めて欲しいと要望致します。
992	和歌山県	（1／2） 今、世界は米国のリーマンブラザーズの破綻を契機に、百年に一度と言われる世界金融危機・世界同時不況の危機的様相を呈している。株価の暴落、相次ぐ企業倒産、リストラによる失業者の増大等、底の見えない恐怖に世界はおびえている。 今回の米国発の金融危機は、いろいろな原因が考えられているが、主に行き過ぎた新資本主義、市場の自由放任主義、拡大し過ぎた規制緩和にあると言われている。 昨年十月に郵政が民営化されて一年が経過。当時の小泉総理は、全国の地方議会の意見書や国民の反対の声を無視して郵政民営化法案を成立させてしまった。 米国一辺倒の小泉・竹中両氏は、「郵政民営化」が「規制緩和」が実行されれば、如何にも国民は豊かになり幸せな生活が送れかのように、言葉巧みに誘導したのである。 しかし、その結果はどうであったろうか。格差が拡大し、地方は疲弊し、医療や教育にも多くの問題が露呈し、小泉改革の功罪が大きく問われている。 健康体であった郵政の体を三事業ばらばらに引き裂き、郵便局を利用されるお客さまには、複雑な取扱いを強い、待ち時間が伸びた。簡易局の閉鎖や手数料の値上げ、配達業務の減少等、大きなサービス低下につながってしまった。 さらに、社員は先の見えない状況に、働く意欲が低下し、生きがいさえ見い出すことさえできない現実に直面している。 当地の名産である富有柿の出荷が最盛期を迎えているが、民営化以前は局内は、毎日、ゆうパックが山積で賑わいをみせていた。それが今では、宅配便に奪回され局内は閑散としている有様である。	―	―

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
		(2/2) このままでは、お客さまの減少で経営基盤が弱体化し、郵便局の存在価値さえ疑問視されかねない。 我々は、分社化を改め、三事業一体の経営「民営化見直し」を勝ち取らねばならない。郵政民営化法に規定される三年毎の見直しが委員会で行なわれている。幸いにも、民主党も見直しに理解を示し、国民新党との合意ができた。これにより、見直しが実現に向けて大いに期待が持てるようになった。 我々は、近く行なわれる次期総選挙が、見直し最後のチャンスと捉え、与野党逆転で政権交代に向け全力を傾注する必要がある。		
993	愛知県	評価の一端を次の各面で見る。いずれの面からも満足できる結果ではない。 【業績と決算】 各会社とも業績は伸び悩み、決算は作られたようなギリギリ黒字決算である。業績に裏づけされた黒字決算とは言えず、コスト削減と資産売却などによるムリムリ決算と言われても仕方が無いものである。全てはこの決算が窮状を表している。 【サービス】 ここでは、郵便配達状況に見るサービス低下の実例を訴えたい。 民営化前は翌日配達が原則で、これが実行されていた。(午前中にポストに投函されたものは、翌日遅くても午後3時ごろには配達された。)民営化後は翌日配達のほうがまれで、目に余る遅配がたびたびある1日1回の配達も午後6時を過ぎることが日常のようになって来た。郵便による投稿の締切日の体験から最近強く気になる現象である。業務用の文書のやりとりで仕事に支障が生じているところもあると聞く。ポストの取り集め回数も減少した。小包と同時に出したと言う別便の封書が、小包は翌日午前配達、封書は翌々日の午後に付くということもあったが、配達業務ことに通常郵便物の取り扱いのサービス低下は問題である。 【職員のマインド】 民営化は職員の希望に満ちたスタートかと思ったが、その後の仕事振りや評判などから喜びも希望も特に見るものはなく、かえって意気消沈した雰囲気が気になった。スタート当初の戸惑いと急激な変化に対する不慣れが原因と思われたがその後も回復していない。郵便事業におけるふるさと小包の販売や郵便貯金、簡易保険の営業活動も以前のような意欲がなく消極的なのが不思議なくらいである。ことに、競争に打ち克っていかなければならない営業全般にこうした傾向が一顧客の目にも感じられるのはこれからが心配だ。職員間に疲弊が蔓延していたとも言えるが、コスト重視の人員削減の負軽が影響しているのではないか。	民営化の効果を生かして、郵便局の役割としての国民生活の利便性と公益性を高めること。これまでの郵政民営化の評価は今のところ負の面ばかりが目立っているが、これからに期待していいきたい。 【地域とともにある郵便局】 過疎化と高齢化に困っている地域の中で、安心の拠りどころとしてきた「ひまわりサービス」はいわばボランティア活動である。外務職員の業務範囲を拡大した御用聞きを請け負う声掛け訪問でといえるが特異な取り組みとして注目されていた。利益につながらない業務として現在は中止されている。 公益性の貢献はもともと郵便局の大きな役割であった。民営化の中でこのような取り組みが可能なシステムつくりを考えていきたい。幸いネットワークの存続は約束ごととされているので道は開かれていると思う。地域に愛され親しまれてきた郵便局の存続と役割を望む。 【郵便・貯金・保険の一体経営で可能性を見出す】 民営化の中で公益性も合わせた経営を図ることに一定の限界があるのは厳しい現実である。関係各社がそれぞれ自力を発揮して業績を挙げ相応した利益を確保することが必要である。民営化以前に郵政三事業は各事業が独立採算制により国の行政であっても税金を一切使わず、公的資金の負担も受けないで確実に力強く長年にわたって国の政策や国民生活に役立って来た。しかし、民営化以後の現在は自力が削がれ、利益決算のために何とか一杯一杯の努力を積み上げているのがやっとである。そこで、ゆうちょ銀行やかんぽ生命も含めた郵政三事業が一体となった経営を可能にして郵便局のネットワークが全国あまねく公平に働くような仕組みを再構築出来ないだろうか。郵貯や簡保が郵政グループである限りそれぞれの業務は郵便局で扱われ郵便局のネットワークは確保されると思う。仕組み作りへの知恵と力にダイナミックな英断が求められる。	疑問いろいろ 【日本は経済大国】日本は世界第2の経済大国というが、とてもそうは思えない。とくに日本の近世の歴史は経済においても思想においても貧しい。このまま、経済大国ぶって世界にいい顔ばかりしていると国の破綻を招くのではないか。 【新しい自由主義】アメリカは新しい自由主義(競争原理主義)の社会になったと言われている。自由な経済競争を活発にして経済を旺盛にして利潤を徹底追求し富を蓄える社会を目指している。金融機関は手数料で稼ぎ、銀行が高利貸し屋なった様な感じさえ覚える。勝ち組といい、負け組みといわれているが誰もが怠けて負けているわけでも無い。真面目に工場で製造に励み、田畑を耕して米や野菜を作っている人の生き方に学ぶべき点も多くある。今の日本に競争原理主義は馴染まないように思えるのだがどうだろう。 【郵政民営化の発想の原点】郵政民営化の元は、郵貯対銀行の対立にありと聞く。政局の抗争になり、いまもなっている。国民の生活にかかわる重大な改革や政策に私利私欲、党利党略を絡ませ利用することは恥ずべきことで、あってはならないことある。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
994	愛媛県	(1／2) (1) 郵政各社の連携ができていない。 ・○○内の郵便局へ、平常日に、ゆうパックのダンボール箱を数十個注文し、土曜日に購入に行きたいと申出ると、平常日は郵便局で販売しているが、土、日休日は、郵便事業会社の支店が販売しているので注文を受けられないと言われ、改めて、同一局舎内の郵便事業会社の支店へ注文しなければならなかった。 郵政各社が、これほどまでに硬直化し、利用者の利便性を省みないのかと腹立たしく思ったが、その後も改善する様子はみられない。小泉首相、竹中大臣は、国民への利便性は低下させない。と国会で答弁していたが、その約束はどうなっているのだろうか。 ・中山間地域、離島等で、郵便配達人に貯金等を頼めなくなって、大変不便になった。 民営化前は、貯金の払出しや、保険の払込みをはじめ薬の購入等を頼めたが、全く出来なくなって不便このうえない。郵政各社が連携すれば出ることだと思うがしようとしない。国民へのサービスを忘れているとしか思えない。 (2) 郵便の配達時間がバラバラになった。 郵便の配達される時間が、朝だったり、日中だったり、夕方になったり一定しなくなっている。その頻度が日を追って多くなっている。朝配達されるものは、前日処理され配達されるべきものが、1日遅れて配達されているのではと思っている。夕方配達されるものは、処理が滞り配達が遅れていると思われる。民営化前は、毎日一定時刻にほとんど配達されていた。	(1) 郵政民営化で、国民は、よりサービスが良くなると考えたが現状はそうなっていない。特に、郵政各社の経営者が国民へのサービスの向上より、利益確保を第一に考えていることが最大の問題で、まずこの考えを改めて一層のサービス向上、利便性向上に努めてもらいたい。 (2) 郵政各社は、連携を密にして国民に不便を感じさせないようにしてほしい。同じ局舎内で業務を遂行しながら、相互の連携が疎かになっていて、事実上、業務の提携が大幅に制限されていると開く。民営化前の郵便局以上に連携を密にして、会社が別なので取扱いができないなどと言わせない経営をしてほしい。 (3)郵政各社を合併させ一社にして、民営化後の大幅なサービス低下を改善し、国家の財産としての事業を守ってほしい。 どんなに考えても利益を上げられない郵便局会社及び郵便事業会社、中山間地域及び離島等で年金の受取等生活に欠かせない貯金事業を扱うゆうちょ銀行、かんぽ生命を合併し、民営化前と同様、それ以上のサービスを確保してもらいたい。 現在、郵便局会社及び郵便事業会社が利益を上げているのは、非正規社員を増やした人件費節約と、無茶苦茶な事業経営による荒廃の結果で、長続きするものではないと考えられる。	(1)全国をカバーしグローバルに企業展開すべき郵便局会社及び郵便事業会社が、利益を出し黒字会社に出来るとは到底思えない。 中山間地域、離島等では、売上額を大幅に上回る経費がかかる郵便局がほとんどであるが、農協、漁協の出張所も無く、郵便局が唯一という地域が多く、郵便局が無くなると生活できなくなり、廃村になると思われるところが多いが、国としては廃村を作るべきではない。郵便事業は、国内全般での利用が不可欠なグローバル企業であるが、その維持は、国家が責任を持って行うべきである。幸い現在は、税金を投入しないで全国同一料金で独立採算での維持が出来ている。これは貴重な国家の財産である。ともに赤字企業にしないで存続させていくためには、合併させるしかないと考えられる。 (2)郵便局長の中には、通常業務が出来ず座っているだけ、出歩いているだけの者がいると聞く。局員2名や3名の郵便局ではそのような名誉局長は必要ないので、近隣局の出張所にすべきである。 (3)中山間地域、離島等の郵便局の窓口は、朝夕の利用が大半で、日中の利用はほとんど無いところが多い。このような郵便局では、その郵便局の職員が日中に、その地域の郵便を配達することは十分可能であると考えられるので実施し、収益の改善を図ってもらいたい。 (4)中山間地域、離島等では、郵便局が無くなると生活できず、廃村になると思われる地域が多いので、廃局は厳に慎み、また、都市部では郵便局が少なく窓口が混雑して、長蛇の列ができて国民が不便をかこっているので、郵便局の増設を行ってほしい。 (5)24000の郵便局は、国家の財産である。 外国では、民営化で郵便局が大幅に減少し、改めて国有化し郵便局を設置している国、郵便局の廃止をめぐり激しい反対運動がおきている国がある。一度無くなった郵便局の設置や、民営化で荒廃した事業を国有化するためには、膨大な費用がかかる。郵便局は、国が存続するための、貴重な国家財産であることを経営者は念頭に置き、郵便局網の維持存続に最大の努力をしてもらいたい。
		(2／2) (3)事業の継承が、疎かになっている。 都市部の郵便事業会社の支店で、郵便の処理が滞りパンクしてしまい、支店からの要請で郵便局OBが応援にかけつけ処理し配達した。その折、非正規職員から処理方法について質問され、支店員に聞けというと、知らないから他の者に聞けといわれて困っているとのことで教えた。本職の者が教えられないのでは、事業の継承など出来るはずがない。郵便局では、非正規職員が半数以上になっているとも言う。利益をうみだすためにこのような状態になっては、事業の承継どころか大事故が発生しかねない。 (4) 定額小為替の手数料が大幅に値上げになり利用できなくなった。 民営化前は、簡便な送金手段として利用していたが、手数料が高額で利用できなくなってしまった。国民の送金手段として国民の財産であったが残念でならない。 (5) 空港、駅、病院等に設置してあったATMが次々と無くなっている。 取扱量が基準以下のためはずしたとのこと。民営化前は、国民へのサービス向上のため設置していたと聞いている。国会での答弁のとおりむしろ増設すべきと考える。		

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
995	東京都	現状の郵政の状況を鑑みると、郵政民営化は、失敗だったと言わざるを得ない。日本における郵政サービスは、世界的にも類をみない良好なサービスであった。その代表的な例が、全国津々浦々のいたるところに郵便局があり、全国民が等しく良質なサービスを受けることができた点であろう。また、三事業が一体化していたため、過疎地では、郵便事業と金融事業を同時に提供することができる、地域の福祉も担うことができた。 しかし、民間の宅配事業者の例をあげるまでもなく、市場原理や民間の手法を優先させ、経営を行ってしまったため、採算の合わない地域は料金が高くなるか、切り捨てられてしまっている。 民間の銀行の支店どころかATMの窓口さえない、コンビニエンスストアや宅配の集積所のないような過疎地域でこそ、郵政サービスが、その大きな役割を担ってきた。 しかし、郵政民営化が行われてから、一年、外国からの圧力、一時の人気取りのための市場原理主義に基づく拙速な民営化だった姿が、今明らかになってきている。 アメリカをお手本とする金融のグローバル化や新自由主義経済は、先だってのリーマンブラザーズの破綻が招いた金融バブルの崩壊により、もろくも崩れ去った。 この金融の混乱は、100年に1度の金融恐慌といわれるほど、実体経済にまで世界的で深刻な被害を及ぼしている。もし、郵貯の巨額の資金が、資金注入されていたら、どのような被害を、国民が被っていたかということは、想像に難くない。「官から民へ」、「民間にできることは民間に」という考え方自体は、正しいと思う。しかし、郵便局が果たしている全体の役割を理解もせず、民営化してしまったことに、大きな問題を感じる。現状は、国民のための民営化ではなく、まさに「民営化のための民営化」といわざるを得まい。このような現状を踏まえ、見直すところは改めて見直し、本来の国民のための郵政サービスを考えていくべきであろう。	第一義的に、現在進められている「ゆうちょ銀行、およびかんぽ生命保険の株式の売却」を速やかに凍結をすべきである。郵政民営化は、現在のところ、国民サービスを向上させるという点においては、失敗といえるような状況にあり、抜本的な見直しがないまま、貴重な国民の財産である株式を、売却すべきではない。 まして、現在の世界的な金融危機の最中の中での売却は、将来に大きな悔恨を残すことになるであろう。いま、必要なことは、過去の誤りを素直に見直し、現状に即した抜本的な改革案を立てることである。 その際、基本的な考え方として、郵便局のサービスを民営化以前のように「あまねく公平で利用者の立場にたったわかりやすく便利な方法で利用できる仕組みを構築すること」、「郵政三事業の一体的なサービスの提供を保障し、郵政事業の利便性と公益性を高めること」が重要である。 これらの郵政事業の見直しを通して、全ての国民の安心できる生活を確保し、地域社会の活性化、過疎地域の福祉の向上などを目指すべきであろう。	郵政民営化が行われて一年。特に地域の高齢者から「郵便局のサービスが不便となり、わかりにくくなった」という声を聞くようになる。また年金受給者が郵便配達の際に受けていた需給サービスを受けることができなくなり、全ての公共料金を払えず、死亡した事件も取り上げられた。このような現状の中で、本来の利用者、公共サービスとしての郵政事業のあり方、民営化の形を、もう一度検討して頂きたいと考えている。 これまで、明治以来、続いてきた世界に誇るべき、日本の郵政サービスが、このような幕引きをしてしまうことに、国民は危機感を頂いています。
996	鹿児島県	（1／4） 1 これまでの郵政民営化に対する評価 私は小規模局の郵便局長として勤務しているが、局長の目、また一国民の目から視て、郵政が分割民営化されてから1年2ケ月経過した今現在での評価をすると、A、B、C、D、E段階でEと評価したい。 1 まず内部の問題点について (1)社員のモチベーションが大幅に落ちている。(当局の場合) 当局社員、勤続12年、30歳男性は丁度1年前、12月途中から、「自律神経失調症」という全治2週間の病気になり、勤務できなかった。年明けからは出勤し、回復したかと思っていた。 通勤時間が1時間ぐらいであることも負担かと思い、本人も近くの職場を希望していたこともあり、4月に住居近くの職場への異動が内定したが、その前々日に突然発病し、病名は「適応障害」。そのまま休み、9月末日で退職した。 その間、体調も良くなってきたようなので、近々復職するのだろうと思っていたが、本人も、復職が近づくと気分が悪くなるということの繰り返しだったとのことである。なんとか職場復帰するよう慰留したが、民営郵政に展望はもてない、後30年は勤めたくないとして、前途有望な若者が、民営郵政に落胆して、職場を去っていった。 その社員の休暇中、期間雇用社員を2名採用して業務を回していたが、民営郵政の仕事はコンビニのアルバイトにできる仕事ではなく、3年目の女性社員と2人で仕事を覚えてもらうのにすっかり疲弊した。	ー	ー

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
		（2／4） ⑵何故社員のモチベーションが下がったのか? 民営化になると、利益、営業成績がより高く要求されるのは当たり前である。しかしながら、分割民営化されたことにより、業務が非常に煩雑になり、と同時に軽微?なミスであっても「処分」が厳しくなり、そのため、ミスを出さなくするために慎重に仕事をする。 民営化により業務が複雑・煩雑になったことにより、ただでさえ時間がかかるのに、更に処分を恐れ慎重にすることから、1件あたりの所要時間が大幅にかかり、お客様の厳しい視線に社員が益々萎縮するようになったのも一つの原因である。 おまけに取扱手続、マニュアルも転々変わりそれについていくのも大変である。 また当然ながら営業成績を上げなくてはならないのだが、「コンプライアンス」という名のもと1人1人のお客様に対応するのが精一杯で、営業どころではないという事情もある。社員が退職の道を選んだのも止むを得ない。更に当局においては中堅社員の長期休暇のため、残された者も悲惨な状況であった。 ⑶コンプライアンスについて 「コンプライアンス」は当たり前のことである。しかしながら、民営郵便局会社及び郵政グループの「コンプライアンス」は極めておかしい。 他の民間金融機関ではやらないようなことを、全国一律に画一的にやっている。都市部と地方ではお客様の感じ方等異なるはずだが、そのような感情を全く無視して、全て都市部のお客様に対応するようやっている。地方分権の叫ばれる今日、時代錯誤も甚だしい。 更に、民営分社化された郵便局会社の郵便局に、郵便局会社監査室からの総合監査、特別監査、ゆうちょ銀行のモニタリング、かんぽ生命のモニタリング、郵便局会社のモニタリングと続々監査・モニタリングがやってくる。営業成績向上、損益の向上が至上命題であるにもかかわらず、益々営業どころではなくなる。おまけに、ゆうちょ銀行監査もゆうちょ銀行本社からやってくる。その対応のために局長は、土、日返上、毎日12時頃までの準備を余儀なくされる。		
		（3／4） ⑷お客様は、この地域が〇〇県という地理的状況もあるが、元々、郵政民営化に賛成ではなかった。お上が決めたことだから仕方がないという地域である。 強いて民営郵便局にお客様が期待したことは、官営郵便局より民営郵便局の方が融通が利くのではないかということだったと思う。 しかしながら、その期待は見事に裏切られた。 他の民間金融機関に比べ、非常に厳すぎる「コンプライアンス」及び複雑な業務処理のため、お客様の期待を大きく裏切っている。 最近はゆるやかになったが、「本人確認」は法令に基づいているため、厳格にやらないといけないが、「正当権利者の確認」は郵政グループの内規であるにも関わらず、真にお客様が正当権利者であることは分かりすぎているのに、本人確認なみの確認をお客様に要請し、そのため相当の顰蹙をかった。お客様の郵便局離れは大きかった。 3 私の意見 ⑴元々大部分の国民は郵政民営化を望んでいなかったと思うが、結果として分割民営化された。また性急な民営化のために、非常に使い勝手が悪いシステムとなっている。 更に、民営化のどさくさにまぎれ、大幅に業務を変更したため、社員もそれについていけず、また然るべき所に聞こうとしても、電話がなかなか繋がらない。 おまけに一時期、民営化すると、コンビニみたいになると宣伝されたこともあり、郵便局会社の会長はコンビニから来ているが、130年以上続いた郵便局と、高々30年のコンビニとは全く異なる。 まずコンビニはアルバイトで勤まるが、郵便局は特に民営郵便局の、機械に使われ、複雑・煩雑な業務処理また厳しいコンプライアンスのもとにおいては短期のアルバイトでは残念ながら戦力足りえない。コンビニを意識した民営郵便局だとしたら、そもそも発想が間違っていたことになる。 ⑵社員に収益を上げること、また経費の節約を求めることは当たり前のことである。		

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
		(4／4) 経費でいえば、かなり少なく、文房具類、コピー用紙は実質会社の経費で賄えていない。特にコピー用紙はマニュアル類が電子化されているため、そのままの状態では、いざお客さまを目の前にした場合に役に立たない、探すのに時間がかかる。回線が輻輳していた場合繋がらないこともあることに因る。おまけに経費を必要以上に抑えるため、現在のパソコンも7年程使っており、パソコンもそうであるが、プリンターもいつ壊れるかとはらはらしながら使っている状況である。おまけにプリンターのトナーカートリッジも節約のため使い古しを送付し、トナーを交換してもらい使用しているが、入札で安くたたいたせいか、なかなか送ってこない。その内トナーが切れ、困った状態になる。 節約は勿論大事なことである。しかしながら今の状況は、すべて機械処理を前提に業務を組み立てているにも拘わらず、根株の故障等のバックアップ体制が全くとられていない。 (3)米国の金融破綻の影響で、日本経済も深刻な影響を受けざるを得ないこの状況では、日本国民は、「安心・安全」の郵便局を求めていると思う。 そのためには、 ① 郵便局は三事業一体の公社に戻す。 ② それが難しいなら、民営でも三事業一体とする。 ③ 更に、外国資本に振り回されないよう、国が株を全てもつ特殊会社とする。 私は、現場でこうなるのが、国民、国のためになると日々考えている。		
997	茨城県	(1／2) 郵政民営化になり、早いもので一年が過ぎました。 その間、お客さまから様々な意見をいただきました。 私ども職員も、さまざまな意見や疑問を抱きました。 一年前、私たちは異常なほどに「民営化」を騒ぎ立てたように感じます。 とても大きな変化であり、新たな改革のように期待していたからかもしれません。 しかし、いざ始まってみて、それは次第に疑問へと変わりました。 「民営化になったのに融通が利かないわね。」 「民営化になったら、料金が随分上がったね。」 「郵便局は何か変わったの?今まで通り利用できるの?」 これらのご意見はお客さまから多数いただきました。 民営化に対する不安や不満の声を、多く伺いました。 お客さまも民営化に期待してくださっていたのです。 それゆえに出てきた、嘆きのようにも聞こえました。 私は公務員であることへのこだわりは、ほとんどありませんでした。 むしろ、より良くなるのなら民営化に賛成でした。 このことは、お客さま方も同様です。	―	―

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
		(2／2) 民営化云々より、サービスの向上に重点を置いています。 この一年、サービスは向上したのでしょうか!? 窓口応対などに対する感謝のお言葉はいただいても、民営化に対する賞賛の言葉は、私は一度もいただいておりません。 私は窓口での仕事が大好きです。 お客さまの様々な要望に対し、より良いサービスが提供できるよう行動する。 お客さまのためになるようにどうすれば良いか、常に考えて業務を行っています。 今回の民営化では、いちばん重視しなければいけないその部分が欠けてしまったように感じます。 私たちは、良い新しいものはどんどん取り入れるべきです。 ただし、以前からの良いものは絶対に残さなければいけません。 「地域に密着した、温かい郵便局」 これは、今後どんな変化があっても必ず守るべきものです。 そのためには、全国あまねく公平なサ-ビスが必要です。 民営化になり、収益を求めるようになっても、残していくべきものもあるのです。 今後も郵便局は変化していくと思います。 その変化が、お客さまのためであり、サービス向上に繋がるものであることを切に願います。		
998	岡山県	(1)お客様へのサービスダウン (2)日常の業務の過重な負担(見直し) (3)モチベーションの低下	(1)3事業一体経営 (2)地域密着型の郵便局維持 (3)経費が少ない為増額を	(1)今のままでは郵便局は衰退の一途である。 (2)世界を探しても手数料で会社経営してるところはない。まして大所帯(社員数)であるにもかかわらず。現代の世相は合併、合併で母体を強くしているのに分社化はナンセンスである。 民営化に対する要望事項 1 効率化、グローバル化が進む中、民営化は病むを得えないとしても、民営化した以上、すべて民間と同等とすべきである。 コンプライアンスや、検査･監査ばかりが、金融庁指導によるとか、居間レベルへとかいわれるが、お客様にとっての利便性(商品の種類や内容、取扱手続きの複雑さ、利用制限度合等)は、ずいぶん制約がある。 ･生命保険、貯金の1千万円制限 ･無料で行う両替 ･民間に比べ複雑な手続き　等 2 民間に比べ金融会社としては、あまりにも給料が低い 取り扱う仕事は、貯金、保険、投信、損保、通販、郵便引受等、民間に比べ非常に多い。その分、マスターすべきスキルは多岐にあたる。高い能力が求められる割に給料はとても低いと思う。 これら多岐にわたる仕事の全責任を負う局長の給料は、民間に比べ遥かに低いのではないか。
999	静岡県	民営化になればサービスは向上するという意見でしたが、民営化後も民営化後も郵便局を利用していますが、大変待ち時間が長くなり、以前の郵便局の良さがなくなったように感じます。 小さな郵便局であっても、即座に対応していただける便利さが、とてもよかったです。その良さが失われてしまったように感じます。	忙しい中、郵便局へ出向きます。事務処理を効率化し、待ち時間を短くしていただきたい。証明書類を求めすぎるように思えます。1度で済まず2度出向くこともあります。もっと簡潔にしていただきたい。	ー
1000	岡山県	ー	ー	三事業一体の経営を望みます。
1001	千葉県	① 民営化が、国民生活にもたらしたマイナス要因が何ひとつ明らかにはされていない。地方末端の現実をオープンにするべきである。 ②小泉や竹中などが導いた今日の日本、すなわち暴走した金融資本主義のなれの果てを政界、行政、財界みなが検証していないのではないだろうか? ⇒ マスコミは今日の世論をミスリードしているようにも感じられます。	① まず株式売却凍結を実現させ、さらに分割された会社の再統合を検討していただければよいのではないかと考える。 ⇒但し、上述「1」各項目がすべての国民に解りやすく提示されることが必要である。	ー

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
1002	千葉県	郵政省から郵政公社を経て民営化に至り、これまでにない柔軟で、幅広いサービスの提供といった点では民営化を評価できる。一方、都市と地方、商業地帯と農村地帯、生産世代が多く活気あふれる地域と高齢者の多い経済的に生産性の低い地域とがある中で、小規模局での数多い商品の画一的なサービスの提供には限界がある。その一因としては本来、一つの企業であった郵便、貯金、保険の分社化がある。今でも同じ郵政グループであると謳っているが、分社化したことによりセクショナリズムが著しくなり、取扱いが煩雑になった。また、分社化したことに対するお客さまの認識も不十分であり、郵便、貯金、保険に対するクレームも郵便局に集中し、その対応にも苦慮している。	取扱いの少ない郵便局が閉鎖とならず、ユニバーサルサービスを維持するためにも郵便事業会社との分社化の解消を期待する。また、さらにいえば、日本国内における国民資産の大きなシェアを占める貯金および保険の資産が外資系に流出することを防ぐためにも、以前のような三事業一体の経営を期待する。	ー
1003	神奈川県	分社化されることによって責任分担が明確になってきたのはよいことである。いままでは何でもかんでも郵便局であった。しかしこれは分社化しなくてもできることである。分社化は郵便局会社内部の業務を複雑化した。グループ内の他社はすっきりしたかも知れないが、郵便局会社はクロスセルなど所定の手続が多すぎる。加えて紙が極端に増加。効率化に唯一逆行しているのではと感じられる。	郵政グループが存続するためには郵便局会社は要である。他社との差(優位な点)はその店舗数である。これ以上、減らしてはならない。歩いて行ける場所に局がなければならない。現代に失われつつある人と人のふれあい、会って話をすること、次世代には復活させなければならない。そのためには局舎は必要なのである。	採算性と局舎維持が課題となる。 他の民間同業社の商品と比較し、それほど優位な商品もなく知的財産(特許)もない郵政グループが生き残るには局舎と人材しかない。
1004	岐阜県	下記の事由により民営化を評価しない (1) 郵便物の配達時間が毎日異なり、午後の遅い時間になってきた。 (2) ATMの局外設置が廃止され不便になった。 土曜、日曜のATMの故障の場合、障害回復の対応が遅くなった。 (3) 夜間窓口が廃止され持戻の郵便物の受け取りができなった。 (4) 郵便局の窓口において、本人確認が厳しく待ち時間が長くなった。 (5) 郵便配達員に貯金、保険の取扱を依頼できなくなった。 (6) 高齢者、障害者に対する配慮が悪くなった。	(1) 過疎地域における郵便配達の安定したサービスの確保。 (2) 郵便局会社と郵便事業会社を一つにして、相互応援体制の確立。 (3) 地域に貢献できる会社、福祉を支援する会社になること。 (4) 窓口の取扱時間、取扱の業種を拡大すること。 (5) ATMの設置台数を増やすこと。 (6) 職員採用の方法を見直すこと。	ー
1005	東京都	(1/2) 〇〇内の郵便局に勤める現場の管理者として意見を述べさせていただきます。 昨年10月の郵政民営化以前のお客様の声として、「早く民営化になればいいんだ!」、「これだから国営(親方日の丸)は駄目なんだ!」等、様々な厳しい意見を頂戴してまいりました。 お客様に個々のご意見を具体的にお聞きすると、当時の提供していた商品やサービス内容に不満をお持ちだったことが多く、民営化することによって改善が図られることを期待していたようでした。 では、民営化後1年経過した今はどうなっているかと申しますと、お客様から「民営化になって何も変わってないじゃないか!」、「民常化になってむしろサービスが,悪くなっているではないか!」との厳しいご意見が大多数を占めている状況です。 民営化以前と以後、お客様の郵政事業に対する反応として以前より悪くなっていると言わざるを得ません。 当然ながら私たち社員の努力不足を棚に上げて語るつもりはありませんし、直接お客様との触れ合いをもって成り立つ職場ですので、いかにたくさんのお客様からご支援いただけるかを考えて働いております。	前記により述べさせていただきました事を踏まえ、私なりに考える今後への期待は、国民の皆様から信頼を取り戻す事に尽きると思います。 民営化によってサービスが良くなる、むしろ利便性が高まると言った期待に応える為には一企業としての経営努力は当然の事として法整備上の改善も望まれます。 民営分社化によってもたらされた非効率な経営を見直し、郵・貯・保が一体となったビジネスモデルを再構築することが必要と考えます。 決して民営化以前に戻る意味ではなく、「再構築化」が図れるようにして欲しいと思います。 企業の合併が進んでいる今の時代にとって、日本有数の企業であるJPグループが分社化したままであることを国民は果たして望んでいるのでしょうか? 一例を出すまでも無く、旧国鉄の民営分割化は大都市圏で果実を吸い取り、地方においては荒野が広がる結果となりました。 国民への利便性と信頼性を確保するために、郵政株式を100%国が保有することによって実現化できると考えます。 その上で、効率的な経営手法を改めて検討する時間的余裕を生み出すことも可能だと思いますし、このままでは金融2部門(ゆうちょ・かんぽ)の株式放出により、グループから引き離され、いずれ郵便会社・局会社は存続自体が危ぶまれると思います。 特にJPグループの要である局会社の経営が傾くような事があれば、まさに本末転倒であり国民の望んだ形とは程遠いものとなるでしょう。 真の意味で「民営化になって本当に良かった。」、「これからも安心して利用したい。」とお客様から言われるよう、今後の改善・見直しを大いに期待したいと思います。	ー

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
		(2/2) しかしながら、それだけでは埋められない「顧客の不満」があることを知っていただきたいと思うのです。 提供する商品・サービスの削減、各種手数料の過度な値上げ、民営化以前までは可能だった事業の垣根を越えた商品提供(マネー・レタックスや電信為替等)の廃止、手続きの複雑化による待ち時間の増大、お客様の不満の種は「民営化による弊害」に対するものが多いと感じています。 特に送金手数料の値上げに至っては、実質的にお客様が印紙税を負担することになり「簡便で利用しやすい送金手段」であったはずの振替・為替業務が、主に中・高齢者層や低所得者層にとって決して使いやすいサービスでは無くなってしまった事が現実としてあります。 それらの多岐に渡る不満が「民営化になってむしろ悪くなった!」とのご意見に集約されているのではないかと思います。 これでは「大切な財産を安心して預けられるところがない。」、「利便性又は簡便性はどこにいってしまったのか?」と言われても、ただひたすら頭を下げるしかありません。		
1006	神奈川県	○民営化後の混乱等も無く、今までと同様に利用していいるので、不便は感じ無いが、かと言って新しい「郵便局」を実感することも無い。庶民に取っては民営だろうが、公社だろうが区別がまだまだつかない状態である。 ×「郵便貯金がゆうちょ銀行に変わってしまったので、郵便局はもう利用出来ないと思っていた。全銀システムのお知らせも、わかりずらい。」等郵便貯金が、銀行に変わったとの認識はされたが、内容が浸透していない状況もある。 「会社が違います」と窓口の対応が不親切になった等のご意見があり、利用者には関係ない、分社化の悪い点。	わかり易い商品案内や、相談窓口の設置等、高齢化社会へ向けて整備して欲しい。 不安定な時代のよりどころとして、ゆうちょを国営、公社に戻して欲しい。 グループ会社の利点を活用するか、一つにまとまるようにしなければ、利用者にはなにも良いことが無いので今後早急に分社化の弊害を取り除いて欲しい。	アメリカの金融破綻の影響を受けて日本の経済の先行きが不透明な現在、庶民の安心できる金融機関として、ゆうちょを、利用できるようにしてください。
1007	鹿児島県	ー	ー	(1／9) 固唾を飲んで見守った郵政民営化法案が衆参両議院で否決。時の小泉首相は衆議院解散という憲法違反ともとれる愚行に出る。更に与党で民営化に反対票を投じた議員を党の公認候補から外し、別の候補を刺客として擁立。マスコミの煽動する中、「郵政選挙・劇場型選挙」として国民は民営化のコンセプトを不透明のまま「構造改革路線」を突き進んだ。 あれから2年、民営化から1年が経過した。幸い、「政治信念」を愚直に護持してこられた「造反議員」の方々は復党、更には入閣・主要ポスト入りを果たしたが、一方では政治生命断念などその傷跡はまだまだ深い。なぜ小泉・竹中両氏はここまでして頑なに「民営分社化」にこだわったのか?その根幹にあるのは・・・ 「米国からの年次要望書にあった郵政民営化」がようやく国民に理解されつつある。米国追随の小泉・米国企業に育成された竹中両氏がこの要望書をもとに着々と民営化を勧めてきたこと、アメリカからの金融市場開放の要望があったこと、マスメディア煽動の背景には、米国企業からの「民営化是の広告協賛」があり、反対でもしようならそのメディアにかなりの影響(広告契約破棄)を及ぼすほどであったこと、民営化反対論者のメディアからの抹殺(反対を論じた評論家森田実氏がメディアから姿を消したこと)などなど。ここ最近の「サブプライム問題」による米国発金融恐慌、「バイオ燃料政策」による穀物高騰による米国発世界恐慌に端を発し衰退しつつある世界経済。円高ドル安の影響も加わり、工業国日本は自動車メーカー各社をはじめ、電子機器メーカーなど未曾有の危機にさらされ、大量解雇を生み、国民は更に貧困と格差に苦しんでいる。日本郵政の株式が強行的に米国ファンドなどに売られていようならば、ゆうちょ・かんぽ資金300兆円をみすみすバブルと化してしまう所であった。これまで国債を中心に運用してきた同資金が償還を迎えた後、金融市場に流れれば、国債の売れ残り等も生じ、国策にも影響を及ぼすのは言うまでも無い。やはり国民個人を預金者とする郵政資金は国のセーフティネットの傘下にあるのが望ましい。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
				（2／9） アメリカから始まった「構造改革路線」は、アメリカの金融・住宅政策の大失敗により世界中を不況に追いこんだ。ブッシュ大統領をはじめ、元米金融庁長官も過ちを認め、方向転換を余儀なくされた。にもかかわらず、日本だけはやれ「改革をとめるな」と発する。 その本丸とされた郵政民営化で日本の何が変わったのか？「構造改革路線＝郵政民営化」は選挙の道具にすぎず、本来の姿は「構造改革＝大規模規制緩和」であり、一部の富裕層と米国ファンドのための構造改革であることは否めない。広がる大型店舗、増加するシャッター街。規制緩和をやりすぎた影響は計り知れない。外国ファンドは売り逃げできるが、国民はそうはいかない。 「民営分社化見直しの提言」 〇会社共通インフラを回復させること（三事業一体経営へ） 小さな政府、市町村合併など、国を挙げて効率化・スリム化を図る昨今、わざわざ分社するとは？その根幹にある「ゆうちょ・かんぽ資金を米国経済救済へ」は前述のとおりである。この暴挙は郵政三事業共通のインフラを崩壊させ、時代錯誤の「非効率」を多々生み出し、心の通わない会社へと変貌させてしまった。 例えば、支社長が4人になった、支店長が増えた、課長が増えた・・・現場では標識が増えた、マニュアルが増えた、担当のわからない部署が増えた・・・人は増えないのにポストだけが増え、現場と支社、4会社間がリンクしない。現場は混乱。1つで済んでいたものをわざわざ4つにするのだから、枚挙にいとまが無い。分社化で人が足りなくなり（インフラを整備する為）期間雇用社員、正社員（営業渉外員）の雇用を追加した。コンプライアンスにしても各社マニュアルがあり、代理業たる郵便局が一番分厚い。1千億円近い民営化経費を公社に肩代わりさせ、現場には厳しい予算しか流れてこない。明るい民営化、サービスは低下しない、法人税・印紙税が国に入るなどの当初の計画と現状はかなり乖離している。悲痛な現場の声を拾い上げてみたい。
				（3／9） <郵便局での悲痛な声> ① 2名局の年間交際費は「6，000円」。地域内行事、催事など「局長」として出席するが全て自腹。年間にすると相当な負担増である。（但し、愚直に地域貢献に取組む局長に限る）。予算要求をしても「対効果が無い」で終わる。 ②（人事評価に関わる）期間雇用社員の経費削減で、昼食もとれない、営業にも出られない管理者・社員が往々にして発生している。欠員も埋まらない。一方で簡易な（現金検査やモニタリングなど）コンプライアンス点検に従事する監査職員は大幅に増えた。営業とコンプライアンスは両輪であり、この状態での安定走行には無理がある。 ③ 旧部会を「地区」に変え、地区会議には必ず県事務所から地域担当職員が同席する。（言いたいことを言った後に居眠りすることがしばしば垣間見える）。正に局長会潰しともとられるが、会議に重みは加わる。ただ、資料の棒読み的上意下達の内容に偏る傾向があり、建設的なものであるかは疑問が残る。開催しなくてもよいような気もする。 ④ 地域特産品が激減したのは周知の事実。何もかもカタログ化させ、手数料を取るのでは本末転倒。現に年間5万セットの注文を受けていた我が町のふるさとゆうパックは今、1万セットにも満たない。地方の農家に「ポスタルスタンダード」なるハードルは高すぎる。おまけに分社化の影響で、カタログを一生懸命取組む郵便局、対岸の火事的な他の事業会社との温度差が発生し、受注数も激減。カタログ化により発生したチラシ代や印刷代などを差し引くと赤字。追い討ちをかけるように次々とカタログが送ってくる。地方のパイは決まっているのに分母が大きくなれば自ずと受注が減るのは必然。業者は自ずと離れていく。地域のことは地域に任せたほうがよい。 ⑤ 先日「広告郵便」の受付をした。民営化前であれば申請後早くて当日中には承認がおりていた。今では1週間後に発送するのでも「厳しい」と郵便事業会社支店からいわれる。タイムイズマネーの商売人にとってこのタイムラグこそ厳しい。ここも自ずと顧客は・・・

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
				（4／9） ⑥ 民営化直後から変わらない。お客様からの「再配達」「誤配」の連絡。支店のコールセンターは電話に出ない。 ⑦ 集配再編で生じた遅配、ゆうゆう窓口廃止はまぎれも無いサービス低下。誤配は増えたり減ったり。その原因は、集配センター臨時職員がころころ変わるのも一つ。 これまで4人で配達していた区を現在は2人で配達している。 ⑧ 集配センターの悲痛な声。ストップウオッチを持った担当課長が作業時間を計測し、職員個々の能率を割り出している。健康状態に関わらずその測定値が基本とされ、配達職員はあえぎあえぎ。しかも、超過勤務予算削減にて、郵便物が残っていても「はい、手を上げて作業を終わってください」。残った郵便物は個人的にこそこそと作業を続け、サービス残業もいいとこらしい。担当課長日く「仕事は速く、丁寧に・・・残業はできません」言っていることが矛盾しているとの声。 ⑨ ゆうちょ銀行、かんぽ生命との手数料関係。業務重大事故発生時のペナルティである「罰金」があるため、地区会議内でスーパーバイザーから「営業はそこそこでも事故だけは出さないように」とのおかしな発言(年度後半になったら`営業・営業″と鼻息が荒くなったが)。営業を一生懸命やればリスクも増える。守りに入るはずである。営業しなくても儲かる会社があるはずが無い。 ⑩ そもそも国民の財産であった郵便局の不動産が、都市部を中心に高層ビル・テナントとなり、その家賃は会社に入る。当てにしていた法人税収は会計上を赤字にすれば払う義務は無い。印紙税は入るが、それ以上にお客様の負担は現に増えている。(定額小為替などの手数料大幅アップなどなど) ⑪ ここも往々にして、同じJPグループ内でも「わが社の事ですから・・・」という壁ができている。ゆうちょ銀行がヤマト運輸を利用した事例はおなじみ。口を出すなといわれるのが現状。
				（5／9） ⑫ お客様から言われた。「郵便局のCM(ひとりを愛せる日本へ編)」と現場とでは大違いだね。ひまわりサービスも無くなった、年金配達も無くなった、窓口も難しくなった・・・皆さんがかわいそうな時がある、と。 ⑬ 10月開催された「ねんりんピ〇〇大会」で、我が町はマラソン会場。市特産品協会から発送用ゆうパックの引受け要請あり。集配センターに連絡し、受持ち支店に確認。支店長から出た答え「引受数が未知数だ。そんなところに職員は出せない」だったそうな。しかたなく協会が引受けをしたところ、集荷にはきたそうな・・・種も蒔かず、耕しもせず・・・。やっぱり地域と共に歩む一部の郵便局長さんにお願いするしかない(協会副会長談)。そんな事業会社に誰がした? ⑭民営化直後から7ケ月間他局(渉外要員配置局)の兼務局長をした。「民営化業務で忙しく、出向く間が無い」と、地区スーパーバイザー、局長会部会長などは一度もその兼務先の局を訪れなかった。そこは前局長が急な退職、体調不良職員内務1名、外務1名、外務1名欠員。内務役職者は局長試験に合格し、研修所へ。残った4人で局を運営するが、鬱気味に陥った担当課長も勧奨退職に応募し、益々忙しく(担当課長年休消化により他の職員が)なる。役員からの激励も労いも無かったのには職員が不憫でたまらなかった。全員意地に近い形で取組み、重大事故は出さなかったのは奇跡的。このような状況下、監査、モニタリングにはゆうちょ、かんぽ、局会社から次々と訪れた。とても対応できる状況ではなく、これもまた職員が不憫でならなかった。ある監査職員が言った。「となりの集配センターからは笑い声が聞こえる。ここからは悲鳴が聞こえる」と。せめてもの労いになった。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
				（6／9） ⑮ 兼務先でもう一つ。郵便局に再配達の依頼電話が来る。パーティションで仕切られた壁の上部に空いた天井に向かって「再配の電話ですよー」と叫ぶ職員。「なぜ?」と聞くとこう応ってきた。「ここの集配センターには専用電話が無いのですよ」。(12月3日現在も同様)。その上、小規模集配センターになると、職員が全員配達に出る為、電話番は郵便局がしかたなくやっている。 ⑯ 郵便事業会社の友人から苦情の応対をして欲しいと依頼があった。知り合いの社長であった為、苦情の話の収拾は早かった。苦情処理後、事業会社の友人に報告すると「担当課長が異動してきたばかりで・・・」??そんなの関係ないのでは?集配センターのすぐ目の前の会社の苦情処理すら出来ない担当課長?私は5分もかからなかった。日頃の「愚直な地域活動」の成果。 民営化でよかったと思える点 ① 郵便関係でよかった点は、皆目見当たらない ② 貯金関係でよかった点は、全銀システムとの接続(予定) ③ 保険関係でよかった点は、特約の改正 ④ 共通してよかった点は、お客様キャンペーンの開催
				（7／9） 「民営化を見直さない場合の提言」 <総論> 民営分社化された郵便局が社会に与える影響、民営化の背景にあったしがらみについてはようやく国民の皆様も解ってきつつあると思う。しかし、郵政株式凍結法案が衆議院で否決になるという見通しから、それぞれの会社は、それぞれに資本力、経営力を備えていかなければならない。 そうすればどうしてもユニバーサルサービスが企業の負担となる。政局により営利企業と転換したのであるから、政局により「儲かる企業」にしてもらわなければ本末転倒で、ユニバーサルサービスの部分は補助金という形で国に負担してもらうのが筋である。「公共性と企業性の調和」は、今の社会状況では非常に困難である。 したがって、「再公社化」に近い三事業一体の会社に再編し、郵便局の歴史を継承する形に戻すか、敢然たる「企業」として、その自由度を開放するか。 私的意見としては、ゆうちょ、かんぽの株式が上場されるのであれば、郵便局と郵便事業会社のユニバーサルサービス部分は国の補助金で負担し、両社を統合の上「営利企業」としての道を進めなければ、30万人の職員とその家族が路頭に迷うことに近い将来なるであろうと考える。 無論、働く職員も今まで以上の研鑽、営業努力は欠かせない。特に営業の出来ない、与えられた指標がクリアーできない局長は速やかに局長職を辞するべきである。
				（8／9） <郵便・郵便局への提言> ①「ふるさと小包」は即ちに「カタログ化規制」を廃止し、現場の局長に任せること ②郵便事業会社は、集配センターにも支店並みのサービス許認可権限を与えること ③郵便局会社にも集荷できる認可を与えること ④郵便局・郵便事業両社出資による子会社を立上げ、「第2のJA」的企業への変身を *引受代行会社*集荷代行会社*地産地消推進店(道の駅のような)* カタログ事業会社(あらゆる通販) *PB開発業会社* 農畜産事業と、リサイクルを兼ね備えた循環型企業 * 病院・特別養護老人ホーム経営など、総合商社として ⑤ 郵便局所有の不動産の活用を更に加速すること ⑥ ゆうちょ・かんぽの上場如何によっては、小規模渉外要員非配置局を、渉外要員配置局に統合、小規模局の簡易局化を考えなければならない。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
				(9／9) <ゆうちょ事業への提言> ① 先ずは地方銀行並みの能力と商品を目標とすべき ② 社員に不動産免許を取得させ、融資業務に備えるべき ③ 上場するのであれば、他国の買収に備える手はずを整えるべき ④ 預入限度額の撤廃 <かんぽ事業への提言> ① 加入限度額の撤廃(民間並に) ② 上場するのであれば、他国の買収に備える手はずを整えるべき ③ 医療特約分野の強化を早急に図るべき
1008	千葉県	①民営化されてから今日迄、民営化の事前には郵便局のファンの会に会員として参加してきた立場から私の立場で見させて頂きましたが、(いろんな話しも聞いてきましたが)利用者からも職員からも民営化になって良かったという話しは一つでも聞いたことがありません。 利用者の立場にたった地域と共に歩むお客様の為の郵便局の姿が少しずつ遠ざかっていく気がしてなりません。 ②130年有余の郵政事業です。民営化されてそう簡単に評価が出来るものでもありません。「民は善、官は悪」の小泉元総理の構造改革のもと郵便局がターゲットとなり、民の出来るものは民という言葉のうねりの中で「公のあり方が」充分に論議されず不透明なまま民営化になった事実。郵政事業はそもそも民業になじむのか等々もありましたが。 私はこの評価の基準、というか原点をまず職場の中に置き論議出来得る環境を作って頂きたいと思うのです。組合も統合され大産別になったが、完全な民営体制に成りきっていない状態もある。会社も、民営、分社化され、右往左往の状況でしょう。 そのような中で、職場の声が、組合側にも会社側も充分に吸い上げられ活用されているのか非常に心配です。機能のあり方の点検も必要かと・・・ 昔風の上位下達的な管理手法も残っていることも間違いない事例も見てきています。 ・パートナーシップがお互い増長されるような労使関係の確立が強く求められていると書きます。	郵政公社の時代に当時の生田総裁が明言していた「職員にとってやり甲斐、働く甲斐のある仕掛けを構築する」という言葉が今更ながら思いおこされます。 郵便局に働く人を一人一人拝見してみてもその働きっぷりは他の企業と比較してみてもよっぽど働いていると明言してくれている有識者もあり、人材も多数いる。 ・職場の労使が希望ある会社を作ることを目標とした話し合える環境作り(問題解決能力の強化) ・理解しにくい分社化の実態を捉えお客様に理解してもらう努力 ・営業努力が活かされる給与、人事制度の時間をかけた論議と実践 ・分社化された会社間係の連携の強化 従来から培われてきた利用者との信頼関係はいまだ保たれていることは間違いのないことです。この信頼関係を活かした路線を堅持していくべきです。	ー
1009	岡山県	郵政民営化して1年が経過したが、現状は制度設計を誤ったことにより、お客様サービスの向上とはほど遠い危機的状況と考える。窓口で、お客さまから耳する声は、一様に手続きがむずかしくなった。以前はできていたのに・・・等の声ばかりである。4分社化した弊害は大きい。 株式の凍結を行い、経営形態等の郵政事業の抜本的見直しを行うことが急務である。	新規事業、制度改正等・・・現場は大変である。 社員のモチベーションが下がり、やりがいを感じられないという声を開く。 会社を動かしているのは、人であることを考えればそこで働く社員がやりがいを感じられなくては、会社の発展はありえない。 多くの発展した企業の存在意義は、「会社の利益だけではなく、社会貢献である。」と聞く。 地域のお客さまを、働く社員を大切にする会社であってほしいと思う	ー
1010	新潟県	ー	これまでの郵便局が民営化になって、困っていることはいっぱいありますが、まず、すぐ来てくれなくなりました。私の居る地区は農協もなくなり、郵便局だけです。昔は郵便局に電話すれば局長さんが来てくれたりして、お金の出し入れも出来ましたが、今は荷物を1つ出すにも郵便局に電話してもいつ来てくれるか分かりません。このままでは郵便局が民営化されて何も良い事がありません。今のままでは今後に期待はありません。	ー
1011	新潟県	不便になった。分割は必要ないのではないだろうか。小泉総理の意見は正しくなかった。民営化しても税金が少なくなることはないようだが、何のための民営かなのか。	ー	ー
1012	新潟県	ー	ー	アメリカは民営化していないが、日本が何故民営化が必要だったのか見当が付かない。竹中前大臣の話はまやかしが多い成長主義のなれの果てが今のアメリカではないのか。
1013	新潟県	正当権利者確認などがとても厳しくなった。利便性が良くなったのかなと思えない。	ー	ー

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
1014	新潟県	いつも郵便局の方には、とてもよくしてもらっています。その一生懸命してくださっている郵便局員の方のためにも一言苦言を述べさせていただきます。一寸、自宅を留守にしていたとき、私宛の小包を配達に来て下さったようで、連絡のハガキがポストの中に入っていました。その荷物は出来れば早く受け取りたかったので、夜、配達してもらおうと思い、そのハガキに書いてある電話番号（コールセンター）に電話しましたが、再度の配達は明日以降しか出来ないと言われました。民営化前ですと、地元の郵便局に直接電話が繋がって当日配達してくれたような記憶があります。民営化となり、合理化で電話をまとめたのだと思いますが、せっかくの今日の物流の速さが台無しで、時代に逆行しているような気がしました。郵便局員の方は悪くありません。国民の立場に立ったうまい方法が無いものかなぁと思いました。ありがとうございました。	ー	ー
1015	新潟県	郵便局が民営化されてから、お金を下ろすとき大変になりました。昔は局長さんにお願いすれば来てくれて本当にありがたかったです。今は子供に行ってもらったり、近所の人の車に乗せてもらったりしているので不便でなりません。	ー	ー
1016	新潟県	今までは郵便局に電話をすればすぐに荷物を取りに来てくれました。でも民営化になってからは近くの郵便局へ電話すると遠くの郵便局に電話してくれといわれます。近くに郵便局があるのにちょっとおかしいと思います。そしてすぐには来てくれない。	ー	ー
1017	岐阜県	ー	ー	郵政が民営化されて1年あまり経過したが、不在郵便物の受け取りについては、公社時代と比べ遠くの郵便局まで受け取りに行かなければならない地域が多くなっている。定額小為替の振出手数料をはじめ、各種料金も高くなっているうえ、本人確認や正当権利者の確認、委任状の提出要件についても、現実に即していないほど厳格に取り扱われているなど、民営化したものの公社時代と比べて使いにくいのが現実である。さらに、金融2社については、10年後には株式売却ということだが、アメリカのご機嫌うかがいをしておこなった小泉の改革であり、株式売却の凍結を要望するものである。
1018	東京都	都道府県、各地域において、夫々格差はあると思いますが、私の住まいは〇〇区にありながら超高齢者が多く、未だ民営化になったといわれても何が何だかよく理解出来ない人たちが沢山居ます。年金暮らしの方が多く、振込手数料が必要とか手続きの方法がとても難しくなり、色々と不便、不都合を強く感じている利用者がとても多く見受けられます。この状態がこれからも続くのであれば、地元の人を大切にしてくれる機関に頼るようになり、利用者は激減の一途を辿る様と思います。	ー	社員を減らすのは色々と理由はあると思いますが、利用者から一言言わせてください。これからは特に高齢者が増え、どこでも超高齢化になっていくと思います。利用者の立場に立ってもっとまじめに考えてほしいです。
1019	三重県	政府が期待させたほど変化は無い。新商品もほとんどなくむしろサービスが大幅に低下している。（手数料が値上がり、待ち時間や書類も増えただけ。）	現状では何も期待していない。前のように近くて便利な郵便局に見直すべきだ。	民営化には反対したいが、内容がまるでなっていない。国民が何を優先してほしいかわからない。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
1020	秋田県	ー	ー	・外務員による集荷、販売により別納郵便物が多くなり、配達日数とか見分けにくい。 ・引受、販売から配達までの一貫した事業運営システム、管理体制を作ること。 ・郵便事業会社の統合・廃止に伴ない配達順路が大きく変わり、午前から午後へ（苦情があること。） ・現場使用のボールペン等服務物品が個人持ち出しになっていること。 ・非正規社員の増加に伴なって、責任ある仕事が一部役職者に偏っている。（帰りが遅い、ただ働き） ・お客さまが貯金、保険、郵便と三人の利用を別々に行うのは理解出来ない。 ・質の良い労働者を求め、正規社員の処遇を大幅に改善し、防犯等に努めるべき。 ・物品等の調達について、地域経済や事業と営業のため、地元調達とすべき。 ・他会社からの役員兼務が理解出来ない。 ・情報公開は可能な限り早急に行うべきである。 ・マスコミ等で報道される犯罪が後を絶たないが、実質的なコンプライアンス対応になっているのか。厳しくすれば良いというものではないと思う。 ・窓口サービスの待ち時間が長いこと。取扱い手数料が大きく変わったことで他金融と大差が無いことで近いところでよいこと。
1021	岩手県	ー	ー	私は特定郵便局長を最後に退職したOBの一人です。今では郵便局を利用するお客の立場から郵政民営化に対する意見を申し上げます。 平成19年10月1日に国営としての事業が四つの事業会社に分社化され又民営化されたことに寂しさを禁じえません。投じの総理大臣の小泉氏や担当大臣の竹中氏は子とあるごとに「民営化することにより今まで以上に便利になる」「今まで国営であるがゆえに出来なかったサービスの提供が可能になる」と国民に訴え続け、国民はその言葉を信じ、期待したのだと思います。果たして、現実はどうでしょうか。窓口に出向くと、今まで以上に待ち時間が多くなるし、貯金等の手続きに時間がかかる。これでもって便利になったといえるものではない。見事に裏切られたことは疑う余地はありません。又、現職の局長さん達にお話を聞きますと、局運営で収益でもって評価され、とにかく黒字になるように数字を上げたり、経費を節減しなければならないと話しており、過疎地にある局長さんは早晩撤退していくことになるのではと不安を述べていました。まさに地域住民にとってはそのことが現実になれば、民営化とは一体なんだったのかと考えることになるでしょう。今国会で、見直しの論議がなされていると聞きます。私はその論議の中で民営化そのものを見直し、元の国営事業に戻すことが必要と考える一人です。郵政事業が全ての国民の幸福を追求する企業であってほしいと願っております。
1022	岐阜県	素直な気持ちで言い表すと「なんだったんだろう」という一言です。民営化決定以降、非常に日程の厳しい中で新規機械操作訓練等々どうしても避けて通れないという気で管理者一同歯をくいしぼり民営化を迎え、決済系システムの不備、集配センター化における明らかなサービスダウン、携帯端末機不足、社員等への教育不足等々がありながらも何とか1年を経過しました。しかし、本当の民営化とは何かが私には見えません。民間企業は採算が合わなければ当然切り捨て、もしくは業務縮小が当たり前なのが、郵政事業は「あまねく公平」だけは残されている。どうしても、非常に大きな歪みが生じている。と言わざるを得ません。社員にしても、民営会社という採算ベースが全てである。という気がほとんどないと言っても過言ではないと思います。私たち管理者の意識の中にも甘い部分は多々あるかと思いますが、社員への意識改革をどのようにすれば進むのかが反省です。もう一度、何のための民営化なのかを全社員へ伝えてもらいたい。というのが私の希望です。	前段でも述べましたように、民間企業である。民間企業は信賞必罰が大原則であり、給料・ボーナス査定に非常に大きく影響するものである。しかし、今の郵政事業はいかがか。営業、業務、仕事のミス、などの業績の給料への査定が一般社員へは非常に甘く、その管理責任ばかりが問われている、現状は公営化時代と全く変化していません。言葉では「やった者が報われる」という文言は聞いているが、どれだけ報われる？「やらなかった者」はどれだけ査定される？目に見えるほど変化ありますか。管理者・社員が一目瞭然と分かる給料への査定を明確にし、社員へ「信賞必罰」があり企業が成り立つ、ということを全国一律で示してもらいたい。社員へのモチベーションを上げたい。	ー

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
1023	愛知県	民営化1年を経過したものの、部内関係者は色々な変化に対応してきたが、世間の人たちからは、何が変わったのか、よく分からないのが現状だと思います。ただ言えることは、民営化したものの全体的にサービスが向上していないことは感じているようです。私が考えるに、民営化にって悪くなったと言われないよう・、スムーズな移行に向けた相当の準備と全社員の努力の結果、概ね順調に推移してきたのではないかと思う反面、民営化の厳しさを意識しつつ取り組んでいる社員が、あまりにも少ないことが危倶されます。民間では、起きうるリストラとか倒産など、縁遠いことと思っている社員の多いこと。経験が無いので仕方無いものの、営業目標と言いつつ、やっても、やらなくても、あまり変わらない給与等。社員のモチベーションを下げないためにも、社員一人ひとりが、自らの責任において与えられた仕事以上をこなして、その評価に対して支払う給与にすべきである。要するに責任が果たされない場合は、我が事業に損失を与えた分、給与から減額をする簡単なシステムを至急、構築すべきである。郵政民営化は、まだ未完成であり、社員が自信と誇りを持って、お客さまから信頼される企業になり得る途上である。	非常に公共性の高い我が事業が今後も必要とされる中、他の同業には簡単に真似のできない優位性の維持と社員レベルの向上が喫緊の課題と考える。先ずは、同業システムと比較されない同等のシステムと新たなシステムの開発が必要。例えば、ゆうパックの再配達に関し、聴き取りをペーパーベースで行っている現状、紙のムダがあることと、聴き取りペーパーは、個人情報のため裁断等するムダも発生している。何故、パソコン処理できないのか。同業他社より先に始めている業務なのに、システム面では大きな遅れをとっている。社員について、優秀な社員も多く社員のモチベーションを上げる取組の展開を積極的に行うことで業績も向上する。しかし、指導・育成を徹底しても駄目な社員が存在する中、辞めさせるためには手続きか煩雑なので、至急、改善が必要である。責任を持った仕事を結い自分の能力を発揮できて相当の対価が得られる働きがいや、やりがいのある職場を期待したい。	ー
1024	愛知県	・民営化により山間部の簡易局の多くが廃止となり、地域の住民の皆さんにサービスダウンとなっている。公的なサービスという立場で考えるべき。 ・分社化に当たり、郵便事業を2つの会社に分けたのは失敗。余りにもロスが多すぎる。	・郵便事業会社において、期間雇用社員から正社員への登用を速やかに推進すべき。実際に若い人材で正社員になりたい人はいるが、待ちきれずに離職していくこともある。 ・社員の処遇において、真に努力しているものと走でない社員の差別化がはっきりしない。給与などは差が付いて当然であり、やってもやらなくても変わらないでは、モチベーションがあがらない。 ・管理者の処遇を改善しないと若い社員が早く管理者になりたいと思わない。	ー
1025	愛知県	・民営化となって一定の評価をしても良いと考えるが、ユニバーサルサービスと企業性の相反する課題と直面している。 ・持株会社日本郵政と子会社郵便局会社・郵便事業会社・ゆうちょ銀行・かんぽ生命に分かれたが、収益性が乏しい「郵便局会社」をどのように存続させて行くかがこれからの問題と考える。	・ユニバーサルサービスを堅持しつつ、どのように事業を守っていくかが課題であり、各事業の収益性改善と成長性のある商品サービスに集中的に投資ができる環境を整えて欲しい。 ・民間会社としての「具体的な中期経営目標」作成して欲しい。 ・人材確保に投資して欲しい。 ・JPSを中心とした「生産性向上」に引き続き取り組んで欲しい。 ・JR ・NTT ・JTと民営化され、前者と同様JPグループも国民に必要なインフラとして継続的なサービス提供していかなければならない。	・近々、「衆議院総選挙」が実施されようとしている。その争点の中に「郵政民営化」にあり方についてもあるが、自民党が勝利しようが、負けようかやこれ以上「政治」に左右させられたくない。ましてや国営に戻ることはできない。
1026	千葉県	(1／3) 評価は、郵政民営化関連法成立過程における民営化の意義について、政府が発表した3つのポイントで行うこととしたい。 (1)民営化すれば、お客様サービスがより向上する」とのことについてお客様サービスは民営化後、1年間で本当に向上したのか、「結論はノー」である。 ①お客様は4つの会社の組織機能等が分かり図らいことから理解していない。今も郵便局は郵便・貯金・保険が一体となっていると思っている人が多い。現実、旧無集配特定局は、表向きには何にも変わってないから、お客様がそのように思われても無理はないと思う。しかし、4つの会社が郵便局舎に同居している郵便局では、クレームの山である。 ・不在配達通知書をお持ちのお客様がこらまでの観念から局会社の窓口に並び順番がきて"ここでない"と分かり激怒 ・ゆうゆう窓口において、不在通知で郵便物を受取り、ついでに葉書を買いたいと言っても局会社の窓口開設時間であれば買えないので激怒 ・貯金銀行の窓口が混んでいると、保険の窓口に来てなぜ手伝わないのだと激怒 ②郵便については、会社毎に窓口があり混乱のもとになっている。 時間帯で「こちら・あちら」とお客様に求めるのは不親切	分社化については、三事業一体で地域割が望ましいと考える。	ー

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
		(2／3) ⑵「経営の自由度が高まることによる新ビジネスモデルが可能となり、経営基盤が強化される」とのことについて 郵便局会社としては、東京中央郵便局等の再開発、マンション開発、コンビニの併設など新しい事業は見えているが、郵便局段階では新ビジネスを感じるものが少ない。 ①経営の自由度が高まることに強い期待があった。しかし、今は、期待"ハズレ"である。収益を確保しようと、地域の特産品をゆうパックでと思っても集荷ができない等から思うような行動ができない。また、料金についても宅配業者は「ひと山いくら」でできるのに、相変わらず「1個・1枚単位」、どうか、競争のできる自由度のある制度を設けていただきたい。 ②郵便局会社と郵便事業会社とでお客様の奪い合い 年賀葉書の販売活動は、ひどい。このような状況下では共同営業はうまくいかない。委託元にいじめにあっている感覚。 ③郵便局会社には、大口郵便物を受け付ける設備もなければスペースもない。郵便局会社の窓口に大量の郵便物を差出しに来られたお客様に対処できない。大きな郵便営業目標を抱え、みすみす郵便事業会社を紹介することは、堪らない。経営基盤の強化のためにも改善を！		
		(3／3) ⑶「そこに働く職員に夢のある明るい未来が約束される」とのことについて 本当に、いつになったら、この言葉のような社員が夢のある明るい未来を感じることができるのでしょうか。 ① 管理者はどうでしょう！ 旧普通局に配置された郵便局長は、誰一人、明るい未来など感じている者などいないと思う。現在の職場をどうするかで窮々としているのだから。頑張れと言われても民営化の直前・直後から、ずーっと頑張ってきた。どこまで行けば希望の光が見えるのか。これでは、疲れ、いやになり、脱落者がひとりまた一人と、、、、現に退職のサイクルは早くなっている。特に厳しいのは、局規模30名-20名の局長。局長以外管理者がいないことから全業務を一人で見ている。分社化後であるから役職者の業務処理能力も弱く問題が多い。 ②一般社員はどうでしょう！ 将来に対しての不安や職場に対する不満等を持っている者は多い。朝令暮改の手続き改正、事前周知もない無計画な郵便関係新商品の販売(お客様のニーズに沿った商品開発を)、これまでの郵便局スペースを無理矢理、間仕切りしたことにより使い勝手が悪く、社員通路も確保できず、セキュリティ面からも問題。どこに、常態的に他社の事務室の中央を通路としている会社がありますか。 結論として、 経営形態はどうあれ、今の4分社化の仕組みではお客様の満足をいただけるサービスの提供はできないし、郵便局の信頼も保てない。 どうか、社員が意欲を持って働ける職場にしていただきたい。		
1027	山口県	―	依然としてATMによる振り込め詐欺が後を断たない。被害に遭いやすいのは、休日の人目の少ない日が多いと言う。特に老人等の被害が多く、10月15日の年金支給日にはATM横に立つ警察官や、銀行係員の姿が報道されていた。しかし、郵便局では時勢に逆行するかのように、10月から休日の係員配置が廃止され無人となった。故障対応や現金補充を警備会社に外部委託したためらしい。以前はATMの係員呼出キーを押したり、ゆうゆう窓口で係員を呼んでもらっていたが、現在では会社が分かれたので解らないと言う。分社化以降社員の間に、他の事業には口出ししないと言う風潮がある。このままでは、郵政グループへの国民の信頼は薄れ、経営難に成りかねない。4会社を再統合するか、公共性の高い郵便事業会社と郵便局会社を併合して民営化前にも増したお客様サービスに務めることが必要である。	―

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
1028	新潟県	―	―	（1／2） ○現在は日本郵政の傘下に郵便・貯金・保険・郵便局の各会社が対等に並んでいる形式となっているが、現実として、郵便局会社は三会社の下に位置している。そのため決定権が何もなく、判断できないため、お客さまをお待たせしたり等、ご迷惑、ご不便をおかけしている。また、業務ミス等も手続に載っていないことを指摘されたり等、符に落ちない事例も多々発生している。これは、事務ミスにより違約金を徴収するため(自社の利益のため)、各社が、目を皿にして探しているからである。そのお陰で、局会社の職員、雰囲気は常にピリピリ、ギスギスしていて、働き甲斐、生きがいのない環境になっている。「躍」に郵便局の収入の7割は「銀行業務」であり、本来は「ゆうちょ銀行」とならなければならない載っていたが、まさにその通りであると思う。現在の局舎社はゆうちょ銀行として、存在するべきであり、その上で、他二社から請け負う形が、自然で、当然であるとともに、地方から郵便局を無くさない最良の方法であると思う。 ○営業に関して 旧無特局では、預り証を切っても原則預かり禁止、また保険新規募集では、時間外活動可能であるが、立会者がいないと不可、それでいて、賃金・超勤は使うな！その後の処理も非常に複雑となっており、反映も遅い等、以前できたことが出来ず、お客様にもご不便を強いて、営業をやりにくく複雑にしておいて「やみ雲に数字を挙げろ！挙げろ！」とつるし上げられている。多くの地方の少人数局は、窓口だけでは営巣が成り立たず、自腹を切って地域に溶け込み、信頼を勝ち得たうえで訪問して努力して数字を挙げている状態であることを、上部はご存知なのか？現在は、地域をまわることもままならず、お客様が離れていってるのを悲しいことだが肌で感じられるようになってきている。その上、無駄な検査監査(2人局でも、多人数局でも同じことをやっていること自体もおかしく感じる)、取扱手続のオンパレードで虹やる気を出す以前の問題である。例えは悪いが、非捗外局は手足を縛られたまま、海に投げ込まれ泳がされている状態である。このままでは、近い将来無理がたたって、崩壊してしまうのではないかと、会社、自身の将来に強く不安を感じている。
				（2／2） 営業の会社であるならば、最前線の職員が、やりやすい、能率のあがるやり方をやるべきではないのか？ また、民営化前まで「公」概念があり、今も求められているが、このような状態では余裕がなく不可能に近いと思う。 ○手続が複雑になり、郵便局が一層面倒になった(多数意見有り) ○民営化になり、局が無くならないか不安(多数意見有り) ○将来展望が全く無い、見えてこない 期間雇用職員の賃金について、20年度下期は大幅どころか激減されたが、この状態で、期間雇用職員が「こんな日数しか雇用されないのなら辞める」と言われる可能性が非常に高い。「そういわれた場合には、このように対処しろ」と文書が入って来ているが、これは昨今突然解雇された契約社員と同じではないか。経費をかけて育て上げた優秀な期間雇用職員がいなくなるということは、局会社の多大な損失である。そうなった場合に、またーから育て上げるには、費用、時間がそれ以上にかかる。少人数局(特に2名局)については、業務は2名いないと出来ないような制度にしておいているが、大多数の少人数局は窓口にはお客様が少なく、局外営業で成り立っているので、出ることが出来ず、営業どころではなくなる。地域人事担当の文書では、「期間雇用職員雇用時に計画的に局周営業せよ」とあるが、業務が輻輳してしまい出れなかったり、突然チャンスが来ることもあるがでれない。それでいて、数字が挙がらなければ、怒られ、こんな状況では、営業成績向上は難しい。また、職員の休暇を引いて残り(といっても幾日もないが)を営業日にするとしても、数日しかなく、その日に確実に挙げられるわけではない。そんな技術もない。管理者は病気になっても用事があっても休むな、ということなのか？そんな状態から、幹部は旧無特局は不要、と考えているのではないかと疑ってしまう。郵便局の最大の財産は「ネットワークと地縁」であり、それを担っているのが、少人数局である。そのことを忘れていないか？ 将来展望が全く見えず、モチベーションが上がらない。
1029	不明	―	―	○業務を複雑にして 業務を複雑にして、同じようなことを検査・監査して、無駄なことをしている。また、監査のために仕事をしているようで、お客様の方を向いていない仕事ばかりで、お待たせする等、ご迷惑をおかけしている状態だ。そのうえ、ちょっと間違えば、すぐ処分！仕事をやっていて.職員も余裕がなく、ピリピリしているときが多く、魅力なく、楽しくなくなりました。民営化は最低です。 匿名希望の非常勤職員より

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
1030	宮城県	郵便局の利用者は、三事業一体でなくなって不便さを一番感じています。郵便局は郵便だけで利用していたわけではありません。金融機関としても利用していました。その機能が落ちています。郵便集配の方が来れば貯金や保険の頼みも聞いてもらえました。それが分社化になってできなくなったのです。早く「元の郵便局に戻ってほしい」と願うばかりです。	ー	ー
1031	千葉県	お客さまへのメリットが無い。振替料金や配達関係、時間外郵便受付等不便になった。	期待出来ない。田舎の郵便局はどうなるのか先行き不安である。	ー
1032	鹿児島県	全体的にマイナス評価だと思います。具体的には以下のとおりです。 ①年賀状が届くのが遅くなった。 ②地元のふるさと小包が無くなった。 ③ひまわりサービスが無くなった。 ④郵便局長や職員が集荷できなくなった。 ⑤定額小為替の発行手数料が10円から100円と10倍になった。 ⑥普通為替の手数料も10万円まで200円だったのが、3万円まで420円、3万円以上が630円になった。 ⑦通常払込手数料は10万円まで150円が330円になった。 ⑧免許証や健康保険証をたびたび見せなければならなくなった。 ⑨簡易保険の入院保険金が近くの小さい局の窓口でもらえず、通帳に入るまでに1ヶ月くらい掛かった。	株式会社になった郵便局の収益はほとんどが手数料収入ということになっているようですが、果たしてそれで経営が成り立つのか不安です。特に田舎の郵便局はほとんどが赤字だと聞いており、そのような郵便局にゆうちょ銀行、かんぽ生命が今後も継続して業務を委託するのか疑問です。やはり永久的に委託するように法に明記すべきだと思います。	委員の皆様も今後地方の郵便局の経営が成り立つのか、ぜひ状況を見ていただければと思います。
1033	神奈川県	小泉構造改革の中身が見えてきた。結局弱い者、弱いところにしわ寄せが来ているその最たるものが郵政民営化であると！つまり失敗であると思う。 ・郵便局ネットワークの崩壊は地域間格差を拡大させ、今後更に進むと懸念する。しかも現場第一線での裁量が認められていないようだ。 ・分社化はサービス等の大型統合の合理的経営の流れに逆行しており、経営上、その利点が見えない。利用者からは分かりづらいし、利用しづらい、値上げされ廃止され困っている。職員さんもコンプライアンス等締め付けが厳しいのかピリピリして以前の大らかさ、明るさが曇っているように感じる。	早急に見直しに着手されることを期待する。次の選挙でしっかり政策をチェックして投票したいし、そのための草の根運動をしたいとも思う。	郵政内部からもこれからは公務員というしばりはないだから声を出していくべきであると思うし、後援会のような組織を作っても良いのではないか？
1034	愛知県	ー	ー	「客観性がない。」 さまざまに行われてきている「改革」についてそう思う。郵政の民営化についてもそうだ。推進か反対か、「二項対立」に帰結し喧伝される。そのどちらかしかない、否なくしているのだ。 郵政民営化について新聞、雑誌等をそれなりに読んできて、私が「客観性がある」と感じたのは白川真澄氏の論「誰のための、何のための郵政民営化か」(現代思想2005年5月号－特集「公共性を問う」)である。白川氏の論を私なりに要約するとこのようになる。 (ゆうちょ銀行とかんぽ生命が)全株式を売却し民有民営化が実現すると両社はネットワーク維持のコストを分担しないから郵便局の手数料は減少し過疎地での縮小、廃止がはじまるだろう、そして郵便局が自力でネットワーク維持を強いられることになるだろう。これは「市場原理」に徹することで低所得者層を金融サービスから排除することにつながっていく。公共事業民営化の過程で「官」批判が「公」批判にすりかえられてきた、経営効率の視点への偏重を正し、「官から民へ」でなく「官から公へ」国家的公共性でなく地域、市民のための公共性を模索しなければならない。 グローバリゼーションが市民にとってのセーフティネット、公共性を危うくしているのではないか、郵政民営化も金融のグローバル化の中でなされたことのひとつである。市場は万能でなく限界がある、市場原理は必然的に格差をともなう、市場原理での弱者を「自己責任」だけで括るような空気はとても不安である。郵政事業についてもその公共性を、結論を性急に出さず議論を続け、考えることが「客観的」だと考える。改革のために強引に結論を出すようなことにはなってほしくない。
1035	愛知県	良くなったことはありません。私の意識の中で公務を行っているのと民間企業としてお金儲けしているのとでは180度の違いがあります。（民間企業に就職したつもりはありません。）	期待もないし、希望もありません。生きていくだけです。	支社の特に営業畑に属する人たちは、自分たちの保身ばかりで、全てを現場に押し付けている。 私たちの意見を反映できる場所も聞く耳を持った人間も本当に居なくなりました。このままでは郵便局は潰れると思います。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
1036	岐阜県	郵便局が民営化されたが、利用者にとって何もよいことがないばかりか、返って利用しにくい郵便局になってしまった。民営化で営利追求なのか土曜・日曜に営業しない郵便局が増えたり、振込や送金の料金もずいぶん高くなった。私達利用者は、サービスが良くなると思っていたが正反対である。見直しが必要と考える。 － サービス低下の事例 － 1)今まで土曜日、日曜日に営業していた郵便局が営業しておらず、書留郵便の差し出しが出来なくなった。 2)郵便の配達も、民営化前よりずいぶんと遅くなった。 3)以前は、一人の郵便局員に何でも相談でき預けることが出来たが、今は、会社が違うからといって相談にも乗ってもらえないし預けることも出来なくなった。 4)郵便振替や送金料金が著しく高くなった。郵便料金も上がるのか。 5)年賀状の購入をいろいろな局員から頼まれ、うんざりである。 6)今まで土着感があり親しみやすい郵便局であったが、窓口に行っても難しいことを言うし仕事の処理も遅く待っているのが長くなった。	1)郵便局は今までと同様に、一人の郵便局長に何でも相談や預けることが出来るように見直すことを期待する。 2)郵便局は地域の重要な金融機関である。銀行は採算が合わないから地域に店舗を置かない。農協も撤退する地域が増えてきた。郵便局は民営化となっても異質な存在である。採算が合わないことを理由に地域から郵便局を決して無くさないことを期待する。 3)政府保有の株をいずれ売却するというが、そんなことになれば、アメリカ資本に飲み込まれ、サブプライムローンのようなアメリカのマネーゲームに郵便貯金の資金が流用されてしまうことになるのではないかと不安である。郵便貯金は安心・安全な貯金である国民貯金であってほしいので、全株を政府保有のまま売却しないよう見直しを期待する。	－
1037	東京都	1　かんぽの宿 民営化による簡易生命保険法の廃止に伴い「かんぽの宿」は㈱かんぽ生命保険ではなく、日本郵政㈱が、一般の旅館やホテルとして引き継ぎましたが、利用料金や利用方法の周知が不十分であるとの声を窓口で聞くことが多い。また、かんぽの宿や加入者ホームの閉鎖等で簡易生命保険加入時の付加価値(メリット)が無くなってしまって、郵便局との係わり合いが薄まったとの声も聞く。特に、お年寄りの皆さんからの声は多い。 2 総合検診センター これも上記同様に、閉鎖や統合により簡易生命保険加入時の付加価値(メリット)が無くなってしまったとの声がある。 3 代金引換郵便の代金収納後の処理 収納後の処理が郵便事業会社と郵便局会社の二つにまたがるため、郵便事業会社が収納した日に代金の処理が出来ず、翌日処理となるため、改善要望は非常に多い。今まで出来ていたものが、何故、出来ないの。会社が変わったから、それは私達、お客には関係ないわ！民営化になって逆にやれて当然じゃない等々の意見が多い。 4 お取次ぎ事業で不動産屋に訪問した時 郵便局でこんなことを始めたの、民営化で変わったのね。でもね、最近の若い人は自分で引越業者を探して、引越しをするので不動産屋へ引っ越しの依頼することは、非常に少なくなったのよ。私のところでも取り次ぐ件数は、少ないですよ。局長さんも大変ね！ポストにチラシを入れている最中なの。入れても最近の若い人は、ポイ捨てよ。新聞の折り込みチラシの方が効果的じゃないの。一応、家の中まで持って行ってくれるのだから。民営化したのだったら広告宣伝は、人にたよらずお金を使うのが普通じゃない。私は局長さんが、こんなことをしているとはビックリ。何かと忙しいようですが、民営化前のように商店街活動にもっと協力していただければと思っていますよ。手数料も上がったし昔のままの方がいいんじゃない、郵便局は地域になくてはならない等々。	－	－
1038	静岡県	まず、時間が少なすぎて。準備が出来ないまま民営化されてしまい、現場では大混乱になり、お客さまにご不便をお掛けした。	やはり、三事業別々の会社というのは色々の制約があり、スムーズに事業運営が出来なく、今までの利点がなくなり、お客さまもまた郵便局側にも負担が大きく、早急に三事業一体の会社になるよう改善を期待したい。	－
1039	千葉県	○ 窓口待ち時間、ゆうゆう窓口の減少、三事業の連帯感の希薄などサービスダウンは免れないものとなっている。 ○ 局内での間仕切り等から、以前のような共助共援というものは図りにくくなっている。	○ 同一局舎のなかで、郵便事業会社と郵便局会社との間の商品(年賀はがき等)の競合販売等、非効率的なことが多い。時代に逆行するのではなく、三事業一体の全国あまねくサービスを提供できる、新たな体制の構築を願います。(具体的にはうまく思いうかばないのですが)	－
1040	千葉県	今まで、郵便局を利用している者として、お客さまサービスの面において、あいさつ等の対応は以前と比べて良くなってきているが、反面事務処理については、窓口で長く待たされることもしばしば、特に証明資料の提出も多くなっており、サービスは低下している。また、これは郵便局会社の方とか郵便事業会社の方とか利用者に取っては、どちらでも良いから早く処理してもらいたい。郵便局は郵便局でよい。	－	－

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
1041	東京都	①民営化に伴なう業務の変更が複雑で、もっと現場に即した方法等考えてほしかった。 ②民間という観点から損益追求されるのは分かるが、管理者によるタダ働き的考えが露骨に出て来ているのは良くない。 ③地域的な条件もあると思うが、営業成績がいい所と悪い所の差が大きくなってきているのではないかと思う。 ④予算にも限度があるのは分かるが、活動するための予算がなく、つじつまが合わない。	三事業一体でいかなければいけないと思うし、もっと独自の活動が出来るような体制作りにしていってほしい。	もっと、人数が多いところと少ない局の現状を把握してほしい。
1042	岐阜県	ー	ー	偽装されたものは白日のものに晒され、裁かれる。食品産地偽装もしかり、耐震強度もしかり。結果、どの会社も倒産、廃業となった。当時の政治的歪曲されたプロパガンダによる「バラ色の未来があるように言われた郵政民営化」はどうだろうか。郵政事業は4分割され、利用者である国民は郵便局の窓口で、取扱いの煩雑さ、今まで享受できていたサービスが受け入れられない現実、民間になったことによる高い手数料設定等々国民へバラ錯誤させてしまっていることが多い。また、郵便局会社は法律により「地域住民の利便の増進に資する業務を営むことを目的とする会社として設立」される。また、民間企業は、利潤を追求していくことが最大の目的である。ここにパラドックスがあるように思われる。郵便局会社は手数料が主な収入源であり、その大半はゆうちょ銀行とかんぽ生命からのものである。数年後にはゆうちょ銀行・かんぽ生命との業務委託義務もなくなり、その基盤は非常に脆弱なものである。脆弱なまま「地域住民の利便の増進を資する業務を営む」ことができるはずもない。もともと郵政事業は、独立採算で行われてきていた。なのに郵便局・郵便事業・ゆうちょ・かんぽの四つの会社にバラバラにされてしまった。この分割された状態だけでも1つにすれば、このパラドックスは成立すると思われる。どうか1つの郵便局にしていただきたい。会社への安心、信頼、保証を利用者に。それは、国民、利用者への公共の福祉的な最低限の郵便局の役割のため。そのための安定した経営基盤を。偽装されたものではなく、「バラ色の未来がある郵政民営化」にするべく、1つの郵便局にしていただきたい。
1043	岐阜県	ー	ー	以前仕事に関わった関係から多くの人に「郵政民営化は何のための民営化だったのか？」と問われる。 民営化はサービス向上を目指すようなPRが多くあったが、実際には定額小為替や振込手数料が上がり、特定の商品については申込み時の書類が増え、その書類の処理のための待ち時間も非常に長くなった。郵便物の配達される時間は知らない間に変わり、いつもより遅くなった。不在時の配達の郵便物の受け取り場所は、近くの郵便局だったのに遠くになってしまった。民営化前の旧通帳の取扱いについてはお知らせが行き届かず、窓口で初めて知るケースも多く、結局郵便局にもう一度足を運ぶ事になった。高齢者の利用の多い郵便局では手続等がいろいろ複雑になり難しくなったとの声が多い。サービス向上がサービスダウンとなっているのが現状である。 郵便局を利用する者の立場になった民営化ではなく、営利企業を目指す事が目的となってしまっている今、地域の人達は郵便局がなくなってしまうのではないかという不安を常に抱いている。
1044	東京都	①「最近は、やたらと証明書を求められ、不便であり、複雑な説明を長時間聞かされたりして、身近な存在から遠くなった感じがする。」との声が寄せられる。（家族の用件も簡単に済ませられない。） ②高齢者が40%を超える地域ですが、「年金受取り、公共料金支払い他、身近な郵便局を便利に利用してきたが、他の期間のように採算のみで撤退されるのでは？」と不安の声が良く寄せられます。（株式上場で将来、郵便局は身近な郵便局ではなくなってしまうのでは？等の声も。）	ー	ー

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
1045	長崎県	(1)民営化後1年以上過ぎ、局としてのお客さま対応を含めた業務運行については、なれたせいか落ち着いた。 (2)お客様来局数について、当局で1日平均7件程度の減少がある。 (3)郵便関係で、集荷や郵便物の到着確認、不在再配達対応等の電話また窓口交付での局まで来局される等、郵便事業会社のお客様へのお知らせが不十分で「配達センター」への取次ぎ電話が多数発生している。	(1)上記(3)については、配達センターの電話番号の公表を含めた周知活動の徹底が必要。 (2)ゆうパック、お中元、お歳暮、暑中見舞・年賀葉書等の営業活動において競合し、同じお客様に数局が営業する等の非効率が発生している。郵便事業会社と郵便局会社との合併を前提とした早期の見直しが必要だと思う。	ー
1046	福岡県	民営については現在の世相より考えても良かったと思っています。職員も従来より、経営的見地からもがんばっているようです。唯、事業間のリスク遮断と投じの竹中大臣は四分社化を実行したが、各事業のシステム、特殊性等で経営危機が生じる可能性大でリスク遮断どころではないのでは。現に局会社職員の退職を3月末から6月末に伸ばし、3月末半期決算を黒にしたとか(ある国会議員も憤慨していました。)各事業が努力すれば黒字経営になるようなシステムを、そして公共サービスを発揮してほしい。その点では失敗だったと思います。	民営のままで健全な経営の出来る郵政事業に再構築してください。今のままの四分社化では各事業間の連携もなく自然淘汰は必至と思います。郵便、貯金、保険、三事業一体の経営こそ国民に対しても十分なサービスが提供できると思います。(麻生現総理も当時、分社化には慎重だった。さすが先見の明です。)郵貯、簡保の株式売却凍結はぜひとも国民の大切な大切な財産ですから郵政事業は。	現郵政グループ各社の経営首脳陣は(特に専務以上)ほとんど外部よりの登用で全国で働く一般の職員との心からの信頼感が薄い。130有余の歴史はいかが思われているのでしょうか？
1047	岐阜県	ー	ー	事業と地域社会への貢献を通じて郵便局の有用性を高める仕事を 特質はその使命と責務を事業や社会との関わりのなかで終生かけてやれる 地域における事業の経営と地域社会への貢献が必要不可欠なもの かわるものではない他には存在しないものである 地域とのより深い濃密な関係を築くことが求められており、やりがいのある仕事である。 最近、お年寄りから『郵便局が遠くになった』と聞きます。今まではこまめに来てくれたのに、寂しくなった。もうそろそろ来てくれるのか、待つ楽しみがあったが、やさしくて親切な言葉で声をかけてくれたことが忘れられない。 年寄りは嫁さんに『頼めないこともあるのよ』そんな時に、困った時の俺らの望みが必要じゃろが 民営化されても、私たちの担う必要性は強まることはあっても、弱まることはないと思います 田舎に暮らしていると、郵便局が言うことは間違いがないと思う 何時でも、相談にのってくれた郵便局が懐かしい。 配達があるから、郵便局が生活の一部になっておったが、これもなくなったぞ遠くで配達をしてくれるより、地元の顔がなくなると 『昔からの繋がりも段々消えていくのじゃ』 『がんばれや』 『俺らも応援してやるぞ』
1048	青森県	郵便局はこれまで郵便事業においては日本の物流の中心役割を担い、手紙文化の普及等、人と人のつながりを育成するなど、日本的文化の醸成にも大きく貢献してきた。貯金、保険事業においても国の第二国家予算として国家建設と安定のため貢献してきた。時代の流れを100%容認したとしてもいきなり四つの会社にしてしまう必要がどこにあったのか。国民の多くは未だに疑問とするところであります。三事業一体の民営化でよかったのではないか。利用者に対して何の利便が生じたのか。金融庁、貯金、保険の法律など簡便さとはほど遠い取り扱いが生じ、とりわけ郵便局会社における少人数による事務煩雑は一体誰のため何のために民営化したのか、未だに不明である。	三事業一体の業務運営に戻すこと。貯金、保険の限度額を見直すこと。少人数でもやれるようにもっと簡便な事務取り扱いを検討し、お年寄りでも分かるようにすること。	私たちは上記のように、日本文化の醸成に寄与してきた自負があります。とりわけ貯金においては財投という形で国家建設や国民の生活安定向上に貢献し、保険においても日本国中の町や村の学校、プール、役場など簡保からの融資による建設という看板が立ち並び、自分たちの仕事が地域に多大な貢献をしている喜びがありました。今はどうなっているのでしょう。自分たちが集めた大切なお金はどのように運営されているのか分かりません。ゆうちょ銀行、かんぽ生命がやっていることであり、全て縁の無いことになってしまいました。手数料会社として手数料を稼ぐだけの会社ではあまりにもこれまでの使命感と程遠い思いです。
1049	福岡県	1　評価としてよいとはいえない。 2　旧無特局では、職員数も減少して窓口での待ち時間が大変長くなった。 3　貯金、保険の取り扱いで、それぞれに証明書類が求められる。 4　ポストの取り集め時刻表は周知なしに減っており、表示時刻も書き重なっており分かりにくい。 5　郵便局の統廃合で地方住民は大変不便になった。	1　民営化されても公社当時のように三事業一体による全国ネットのサービス展開を期待します。 2　貯金、保険の限度額を撤廃してほしい。(安全、安心をモットーに)企業として儲かる必要がある。	1　旧無特局は職員の減員等で局長等役職者の昼食時間は常態として15時過ぎで健康管理上問題である。(必然的に帰宅も遅い。防犯面に問題あり。) 2「事業は人なり」と申します。職員の育成を大切にしてほしい。営業万能だけでは将来性が危惧されます。 3　小泉元総理、竹中元総務大臣を国会に召喚して、現下の郵政のサービスが向上しているのか弁明してもらいたい。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
1050	岐阜県	ー	ー	いつもお世話になっております。 今回郵政民営化に関する意見を発言する機会をお与え下さりありがとうございます。 私は諸事情により56歳で開局し、現在丸3年が過ぎました。以前は医療現場で管理栄養士として長年勤めておりましたので、180度異なる仕事を始めた事になります。 さて、現在の仕事について、特に民営化に関する事の感じていることを現場で仕事をしている立場で述べてみたいと思います。 (お客さまサイドにたって) ① 金利優遇キャンペーンの設定金額が高すぎると思います。 当地域は高齢者が多く年金生活者が大部分です。老後の貯えにと少しでも金利の良いものを尋ねられるのですが、50万円は高額すぎるとあきらめて帰られます。 ちなみに近辺の農協金融では10万円以上から対応しておられます。設定金額に地域差をつける事は不可能でしょうか？ ② 正当権利者・委任状等手続きが他の金融機関より面倒なのでは？ ③ 入金票と支払票の紙の色を他の金融機関と同じ色にしたらどうでしょうか？入金が赤、支払いがブルーに。 ④ 記念切手の大きさがワイドすぎて文字が隠れて使用しずらい。 (受託者として) ① 法律改正に伴う処理方法の変更は致し方ないにしても、手続き改定が頻繁すぎる気が致します。 情報端末機で指示事項を理解し、ミスなく実施していくには自身の能力の限界を感じています。 ② 補助者が容易に見つからない原因のひとつに①があると思います。 ③ 記念切手の販売回数が多く、販売がこなせない。 ※ お給料をいただいている以上、行わなければならぬ当たり前の事とは思っていますが、諸事情で進退をよぎる時、いずれ我も来る老人層の「ありがとうな」の言葉に後押しされているこの頃です。ありがとうございました。
1051	山形県	ー	郵便局が民営化して1年が経過したが、一般的には「分社化」されたことによる不便が目立つ。 何故四つの会社にしたのか。国民には理解が難しい。サービスの低下というよりは、不自然な形態による不便が問題である。例えば将来的には郵便局はなくなるのではないかという不安。貯金、保険、郵便のトータル的サービスの低下など特に老人や地方における唯一的存在の消滅など。分社化は大反対であります。これは貯金銀行に確認しますだとか、これはかんぽ生命とか…分かりづらい。分社化は見直してください。	ー
1052	大阪府	待ち時間が余りにも長い。	・もっと取り扱いを簡素化してほしい。 ・期待はずれである。利益優先過ぎる。	再度民営化に対して、国民に是非を問い直す必要があると思います。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
1053	岩手県	(1／2) 過ぎた、平成18年10月1日に、明治34年12月20日に〇〇県では99番目に開局され、逓送についても九十九曲がり峠を請負えの方によって郵袋を運んだり、巡航船〇〇丸での運送であったりで、百年有余も続いた集配特定郵便局、〇〇郵便局の郵便集配業務が廃止となり、平成18年10月2日から〇〇郵便局からの郵便集配業務へと変更になりました。爾来、2カ年が経過致しましたが、民営化に移行する際の国会での議論は、現行のサービスは維持し、辺地(過疎地)の方々にも不便を掛けないとの約束事は、どこに行ったのか全くわかりません。国会での、小泉総理大臣や、竹中総務大臣の答弁を牲目して自分なりに覚えて居りますが、現行のサービスは担保し、低下は絶対しませんと国民に約束したはずなのに、その固い約束は、どこかへ消えてしまったのです。したがって、これまでの郵政民営化に対する評価は、全く悪くなったと言っても過言では無く、サービスは低下の一途を辿って居るように思われます。具体的には、次のとおりです。 *集配業務関係 1)、集配業務は、配達時間の変更により、以前より低下した。併せて、取り集め時間も変更になり不便になった。 2)、土曜日、日曜日の窓口が閉店したので、ユウパックでの引き受けがないため、峠を2つも越えて〇〇郵便局まで行かないと用が足せない。大船渡郵便局では、集荷はするとのことですが、集荷の時間が思うように行かないので、自分で窓口に行って差し出す様にしている。 3)、ポストの開箱時間の変更によって、郵便物が1日から2日遅れになるケースが出て来た。ポストの開箱時間を各自が記録して置き、時間を守る努力をしないと大変な事に繋がります。 4)、窓口の職員は、お客様への自宅訪問が出来ないとのことから、営業の話はほとんど開けない状態であり、郵便、貯金、保険等の話についても同じであります。	1)、制度面での指摘として、郵便事業会社と郵便局会社との合併について、新聞報道で知りました。1番弱い会社同士での統合はいかがなものか?民営化前の、郵便、貯金、保険事業の3事業一体がベターと患いますが、それは、むずかしいのですか?都市部では経営上の心配は無いでしょうが、地方の過疎地では3事業一体での在り方が一番いい方法です。 2)、ゆうちょ銀行、かんぽ生命(金融2社)にユニバーサルサービスを義務付ける事も大事な点です。この事は、妥当な料金で広くあまねく利用者に提供されるサービスが、今、一番求められています。 3)、併せて、日本郵政株式会社に金融2社の株式の、2分の1超を保有することを義務付けてはどうだろう?との思いです。 4)、買収防止の観点から、日本郵政・郵便局会社・郵便事業会社を一体にして金融持株会社とし、金融2社を子会社にすれば良いとも考えます。	1) 郵政民営化法では、3年ごとに見直すことになっておりますので、この郵政民営化委員会に学者や知識人だけではなく、郵政OBの方や現場で実情をつぶさに分かる職員等を入れて協議してほしいものです。また、各郵政退職者連盟等にも呼びかけて提案制度による学習や研究をし、より良い方策を提案させるべきと考えます。併せて、現職の局長達にも宿題を課して、しっかりした将来展望をもった日本郵政のあるべき姿を提示させてほしいと思います。 2) 郵政民営化後この地での10年先の、郵便、ゆうちょ銀行、かんぽ生命が存続されるような制度設計をして、農山漁村で生活している、私たち国民にも安心出来るサービスを保証して下さるようお願いしたいです。 3) 郵便局会社とグループ内、他の会社との関係がバラバラに見られていますので、お互いに連携を取れるように工夫してほしいです。 4) 私達が現職の時に苦労して培ってきた地元特産品「ふるさと小包」が、郵政民営化後出来なくなったと聞き、非常に残念で仕方ありません。具体的には、(三陸わかめ、めかぶ納豆、ホタテゆうパック、草取りカギ、カマ等)自分たちで知恵を出し合って作った宝物、オリジナル商品なのです。 以上、申し上げましたが、郵政民営化委員会へのご提言に変えさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。
		(2／2) *郵便局窓口関係 1)、民営化による定員減で、窓口での利用状況での待ち時間が長くなった。 2)、地域貢献の点で、田舎ほどお年寄りが多くなり、年金等の支給日には窓口に行けない方が多い。殊に身障者への、かつてのひまわりサービスがなくなった点も大きい。 3)、経営者の郵便局長が、営業が出来ないという本末転倒、そんな経営が続いたら採算が合わないので、廃局に追われる事が必須です。そんな訳で、地域がますますサービス低下に繋がっています。 *営業関係 1)、平成19年12月17日(月)と、平成20年1月18日(金)の2回、資産運用セミナーの案内があり、〇〇郵便局に行って聞きました。セミナー名は、「初めての投資信託～これからの資産運用について考えてみませんか?」との内容で、投資信託委託会社の担当の方の説明でした。郵便局だから信じて老後の蓄えに投資信託を買って、と思いました。しかし、リスクを考えてやめました。株価がこんなにも下がって、資金が半分になったいう話を聞き、やめたのが正解だったと思って居ります。郵便局点で、投資信託の金融商品をお客の立場になって、経験不足から取り扱う方が少ないと思うようになりました。 2)、貯金や保険についても、営業担当(外務員)を呼んで聞けるような雰囲気でないように見られます。窓口での対応でも同じような空気にあり、こんな状況では、貯金も保険も伸びないだろうと心配です。		

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
1054	秋田県	―	―	郵政民営化に関する意見募集について、以下のとおり提出します。 1、2、3項目ありますが、全体的な意見を申し上げますのであえて分けると3、として下さい。 元もと、郵政民営化議論については、庶民の窓口であり、国営とした、あまねく公平という基本を重視し、47都道府県が現状維持、民営化反対を表明していました。それは、民営化-利益追求型に変更され、過疎地域は廃止の恐れがあるからなのです。元首相は当時「構造改革」路線を推進しており、その頃、村上ファンド、ライブドア、楽天等が時代の脚光を浴び先導して企業の買収や侵略をもくろみ、大きなニュースとなりました。私たち庶民にはとても理解できない出来事でした。しかし、これも世の中のシステムに乗った、正当な、正攻法な行為だったのかもしれません。 元首相は、かねてから郵政民営化を唱え、自民党をぶっ壊してもと、時代のヒーロー達を自民党公認候補者とし、国民に郵政民営化の是正を問いかけ、横暴ともいえる選挙を強行し圧勝しました。公明正大な選挙の結果は、誰もが反論し得ない公正なシステムですあると考えるのは当然です。しかし、選挙に至るまでの過程はどのように考えたらいいのでしょうか。冒頭に述べた47都道府県の民営化反対表明を覆す、落下傘部隊、小泉劇場とまで言われた、 徹底した策略は、普通には正当性とは考えられないものと思います。かくて民営化移行し、その反動は、簡易郵便局の閉鎖、誤配等苦情の増加、取り扱い煩雑化による窓口待ち時間の増加、手数料の値上げ等々表面化し、利用者にとって不都合が多くなっているように思います。分社化により、小包集荷のように縦割りによる弊害が散見されるようですが、利用者にとっては事業会社、郵便局会社の区別はないのです。少なくても、配達に関する業務と窓口に関する業務は一体として、以前同様協調して庶民の窓口として機能してほしいと切実に思います。経営について新聞記事で株式の凍結、売却とか期限を決め議論になっているようですが「企業の乗っ取り」「侵略」等ならないように十分に先を見据えてはしいものです。郵便局三事業(郵便、郵貯銀行、保険会社)は、『国民の財産』なのだから。
1055	宮城県	―	―	私は〇〇県の片田舎の私を含めて社員3名の郵便局長です。昨年10月に民営化されてからの私なりの意見を述べさせていただきます、この1年余りの業務、営業の取扱は私が旧郵政省に奉職してから37年余りになりますが、最大・最悪の変化と捉えています。私達がいままで培ってきた、お客様との信頼関係、地域に溶け込んだ郵便局としての役割が否定されたような気がします。民営化により各会社よりの統一性のない指導、末端の狭い局舎に貼りきれないポスター、配布できないくらいのチラシその他諸々の不都合があります。いち早く三事業一体となった新しい会社の組成を希望します、近隣局へ視察にみえた支社の調査役の方がこの局の掲示板の使いかたは統一性がないと酷評されたそうですが、当郵便局も同じだと思います、三事業あげて現在冬のありがとうフェアを実施していますが、年賀はがき、年賀印刷、国債販売、全銀システム、金利優遇、ATMの年末年始の取扱時間、保険のながいきくんその他諸々のポスターが肩を押し合いながら狭い当郵便局の掲示板、壁に張り付いています、それに付随するチラシが散乱しています、お客様は何をみて何を選んだらら良いのでしょう。キャンペーン期間中は三事業一体となったポスター、チラシでポイントを絞った施策を行った方が良いと考えるのは私一人でしょうか、当郵便局のお客様の大半は郵便局の社員と配達を担当している事業会社の社員はまだ同じ会社と思っています。色々な苦情、要望もいまだに郵便局にきています、それなら前と同じにしたほうがスムーズなのにと考えます。 現在の5つの会社がひとつになり、最良のサービス提供できるようになることが、お客様の拡大、事業の発展につながることと私は信じています。
1056	大阪府	―	―	①貯金関係で各種証明書を求められた上、待ち時間も長くなり、民営化した意味が無い。とのご意見。 ②郵便局会社と郵便事業会社の区別がつきにくい。(特に年配の方のご意見) ③営業の会社となった郵便局社員の口調が以前と比べて、時折、冷たく聞こえることがある。 ④営業ツールである各種パンフレットの内容を見て、和が多すぎて決めかねることがあるとのご意見。 ⑤郵便局社員はセカセカ(余裕が無い)した対応が目立つ。とのご意見。 以上が主な意見です。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
1057	福島県	(1/2) 当時の首相が郵政民営化シフトの人事を関係審議会はもとより内閣人事に至るまで行い更には民営化反対の議員は即刻除名処分、選挙には刺客を送り込み、落選させるなど強権を発動し、強引に成立させた民営化です。利用者にとって民営化は何のメリットも無いことは当初から分かりきっていたことですが、民間企業の育成と云う大義名分で一部企業が得るであろうと目された莫大な利益も大きく予想が外れてしまったようで、民間はもとより国においても何のメリットも見いだせないのが現状でしょう。郵政民営化と云う国民には分かりにくい課題を選挙の争点とし、国民の目を逸らし選挙に圧勝しました。郵政民営化で得た政権は日本に過度の競争社会を生み出し、人が中心でなくモノ、カネが中心の社会がつくり出されてしまいました。将来に夢が持てないことが人間不信、政治不信を招き殺伐とした社会になりました。若いときの頑張りが老後の保証になる、この仕組みが日本を支えてきました。しかし今後の社会保証制度が全く不透明であることと過度の競争社会の導入により、今役にたっと思われている人だけが生かされ、他は邪魔者扱い、現在の若者が老人になって役に立たなくなったときの保証は出来ないが今の老人の面倒は今の若者がみろと云うことになれば保険料の不払いも必然で、国民と国との信頼関係は甚だ希薄になってしまいました現在のみ生きられればそれでいい、ニートが増える一方なのは当たり前の現象、企業の安全弁である契約社員、パート社員によって職場が保たれる社会になってしまいました。	(1／2) ◎ 郵政三事業の全国一律サ-ビスの義務化 全国どこでも郵便、貯金、保険のサ-ビスを平等に提供することを義務付けること多くの一般国民が郵政事業に求めているものは、郵便、貯金、保険一体のサービスの享受儲かるもの、或いは儲かる地域だけに必要以上にサービスを提供し、儲からないもの或いは儲からない地域は切り捨ててしまうと云ういうことは許されません。儲かるものと儲からないものを平準化し、全国一律に、より広く、より良いサービスを平等に提供するのが郵便局の仕事なのです。民営化になれば競合しあい、サービスが良くなると云われていますが、民営化による競争はサービスの向上と云うより採算が一番、儲かるもの儲かる地域はともかく地方は日増しに不便を託っています。(レタックス、持ち戻り郵便物等連絡しても即日処理は全く無理、貯金、保険も係が違うとか会社が違うとか、郵便局でなく支店だとか、外務員も、わたしは別の会社の社員だとか、一回で用が足せないうえに、内容も煩雑になり時間、日数も多くかかり利用者にとって大きな負担となっております)他の宅配業者についても、トラブルがあっても何処に申告をするかも不明確なものが多く、不服があれば他を利用すればいいのだが、個人の利用客など相手にしてくれないのが実態、郵便局も同列になってしまうのは時間の問題でしょう。	ー
		(2/2) 弱いものが切り捨てられる社会は、やがて不満が爆発し、国の存在にも係わってきます。結果としてこういった社会現象をつくり出す要因として大きな役割を果たすことになった郵政民営化、本来の行政改革とはほど遠い、民意が無視され、為政者の意地だけから生まれた民営化は百害あって一利も無いのは当然のことです。郵政事業が担ってきた庶民の細やかな自助努力の最低限の国家補償制度が過度の競争社会に引きずりこまれ、その機能を失いました。国民のささやかな安心、安全、安らぎの場であった郵便局が遠い存在になってしまい庶民の心の拠り所が失われたことが口惜しくてなりません。戦い、争い、競い合う毎日は、老人には酷なものです。疑わなくとも、闘わなくともすむ安心、安全な国の機関が郵便局でした。民営化になってから郵便局舗の温かみも無くなりました。 良くなった事は一つもありません。国営に戻す、これは戯言でしょうか。	(2／2) 従来の郵便屋さんは郵便とか貯金、保険とか別々のものでなく全てが郵便屋さん、日常生活の相談相手にもなる頼りになる存在であったのです。多くの国民が求めているものは従来の郵便局のサービスです。郵便局が行っていた郵便、貯金、保険の事業は国が成すべき庶民の安全、安心を直接保証し、国民の生活を守る最低用件の一つを担っておりました。民営化された今日でも100年を越える歴史の代償として国が後ろ楯となり庶民の安心、安全を保証すべき責務があります。過度の競争原理の導入により社会不安が増大しております。何もかも競争し、強い者だけが生き残り、弱い者が落ちこぼれていく中、弱い者に対する安心、安全のよりどころが必要です。今次に限らず庶民の最低線の安心、安全、安らぎを担う制度として三事業一体の郵政事業があって然るべきです。郵便局は郵便、貯金、保険の三事業が一体となってはじめてその役割を果たすことができるのです。郵便局の民営化が利用者のために行われたのか一部業界のためのものか、あるいは権力得た個人の持論のゴリ押しから生まれたものなのか、甚だ問題が残るところですが少なくとも利用者の立場に立って実行されたものでないことは確かです。当局の最終目的が郵便局の解体でなければ、100年を越える歴史の中で庶民と共に育んできた優れた制度と実績をこの時代に潰す事は後世に禍根を残します。とにかく三事業一体でなければその機能を発拝出来ません。	
1058	岐阜県	ー	ー	郵便物が良く間違って配達されるようになった。 不在郵便物を当日取りに行く場合、地域によっては遠方まで交通費を使って行かなければならなく、交通手段を持たない老人等が今までの郵便局を指定すると翌日になり、明らかにサービス低下につながっている。
1059	岐阜県	ー	ー	民営化されて1年、今でも数多くの改正が相次ぐなか、現場では営業･業務と忙しいなか、ゆうちょ銀行、かんぽ生命、郵便事業会社、それに郵便局会社のモニタリング、さらに監察の通常監査、モニタリング等がある。現場では、この監査、モニタリングの洪水を受け、混乱をしかねないような状況になっている、また営業、業務、お客さま対応の阻害要因にもなりかけない。大幅な見直しをしてほしい。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
1060	岐阜県	利用者にご迷惑かけることもなく運営していた郵便局の事業を、無理やり4つの会社に分社化し、更に時間的な余裕も無く準備不足のままスタートし、未だに現場では不都合なことが残ったままである。更に、利用者にも大したメリットも無く、働く私達にも不合理を強いている4分社化の民営化は評価をするに値しない。	商法の適用を受け、利益を挙げることを大前提とする会社として、全国同一サービスを展開することは、どのように事業運営をするのか国民に解かりやすく説明し、利用者国民に判断してもらうことを行ったらと思う。その上で、日本全国隈なく同一条件でサービスすることを優先するのか、利益を優先するのか早く明確にした上で、郵便局として、全国同一サービスを提供することが、優先することが明確になれば、現在の、ゆうちょ銀行、かんぽ生命、郵便事業会社の委託会社先である郵便局会社の位置付けを変え、少なくとも、ゆうちょ銀行、郵便事業会社と郵便局会社を同一経営とし、叶うなら、三事業を自ら経営できる郵便局となれば希望のある会社になると思う。	ー
1061	岐阜県	ー	ー	郵政民営化に伴い、近くの農協内にあった簡易郵便局が閉鎖となりました。その後の、私やサークル仲間から聞いた話を意見として提出いたします。私たちの世代で、車の運転が出来る人はほとんどおりませんので、移動手段はもっぱら、自転車となります。行動できる範囲の窓口のある金融機関は、郵便局が1つ、農協1つと農協内の簡易郵便局でした。私達は、農協と簡易郵便局には、貯金商品や特産品の注文など、郵便局と良く似た商品も有りましたが、それぞれ使い分けておりました。ですので、簡易郵便局の閉鎖後も、農協にすんなり移行させたものもあります。しかし、農協が数年後に合併により閉鎖が決まってしまいました。残すは、もう一軒の郵便局のみです。サークル仲間の中には、唯一の郵便局が距離的に遠い人もいます。一人暮らしの人や、家族に頼めない人もあります。郵政民営化後の郵便局の対応や、サービスに不満はありませんが、遠く、山奥の田舎の話で、自分には関係ないと思っていた、金融機関の撤退が、自分の身近に迫ったことで、ユニバーサルサービスの必要性をひしと感じております。郵便局がこれ以上、閉局に追い込まれることがないことを切に願っております。
1062	岐阜県	①システム的な面 対お客さまに必要だったシステム・ゆうちょ情報、社員が必要とした各システム・ナビ機能・財務システム・総合人事システム等新設のものは全て未完成だった。 ② 人的な面 システムや業務手続き等も十分承知しないまま19.10.1が出発したが、現場は機能マヒ状態に陥るほどの混乱はなく軟着陸し、当面を乗り切り経営回復に繋げた。これは窓口社員や渉外社員の力だと思う。 ③ お客さまからの声 民営化され手続きが煩雑になり、待ち時間が長くなった。分社化されたことにより融通が利かなくなった。渉外社員も郵便と貯・保が区別され仕事が限定されたため以前のように色々な仕事を頼めない。なぜ、こんな不便になるような民営化をしたのか。 ④組織や機能について 組織が分社化されトップの声が届きやすくなった。経営陣が現場の環境改善に努めているのを感じる。グループ企業とはいうものの郵便事業会社、ゆうちょ銀行、かんぽ生命とは時間を経るにつけ隔たりを感じてきた。それ以上に中間組織の支社社員は全く宇宙人のようだ。市場一般のコンプライアンスやCSRを果たしつつ、各事業会社からの指示、手続き、検査等をに縛られかつ営業を一手に引き受ける郵便局会社の負担があまりに大きい。画一的な手続き、画一的な指導で局規模等の差異にマッチしていない。	郵政の長い歴史を、たとえ新しい形であっても何とか未来につなげていきたいと旧特定局長なら願っていると思う。局長会が交渉していただき色々な改善が進められているが今だ過重な負担を感じる局長や社員は多いと思う。自分達の働く郵便局会社がもう少し主張でき、他の3事業会社と互角に仕事を進めていけるようになればと思う。なぜこんなに言われっぱなし、やられっぱなし何だろう。必ず何か新しいやり方があると思う。新しい商品もあると思う。これは組織に対する期待。 現場でお客さまと直接触れ合う郵便局長が町の声を聞くと、老後の生活不安を訴えるお年よりの声、格差社会への不満の声、医療や教育に不満をもつ主婦等昨今の政治改悪に対する声ばかりである。郵政民営化もそのひとつとしてあげられる。農協・漁協や金融機関の支店が統廃合され保険代理店もない町や村が現に存在する日本の中で、郵便局は歴史的使命からいっても変わらず地域の皆様に奉仕していくことが大切だと思う。ゆうちょ・かんぽのユニバーサルサービスは何としても法律的な保証を持たせ郵便局への事務委託を義務化すべき。株式上場凍結について。国保有の安定的な今のあり方を変える必要はないと思う。たとえ市場が安定しても売却が始まれば外資に買収され、お客様から安心信頼の上預った多くの資金は海外へ流出すると思われる。現在大きな問題となっている金融不安等に巻き込まれれば、お客さまからお預かりした貴重な財産の保証はできるのか。民営化され株式会社で経営者は市場を見据えた経営をしていけばよいが、日本の風土に合ったユニバーサルサービスを続けていくため株式の100%市場放出は凍結すべき。	ー
1063	東京都	取扱い種目の削減、手数料の改定、待ち時間の延伸等サービスの低下が感じられる。庶民の郵便局が遠のいている。	専門的な知識が必要な職場で、一人一人がオールラウンドプレーヤーであることが求められている。疲弊が見られる社員が多い。当然社員の自覚が必要だが、満足感の持てる仕事、自身の持てる会社になってほしい。	外国では外資に買収され弊害が出た例がある。食い物にされないため対策をしっかり考えてほしい。
1064	愛知県	民営化前よりサービスが良くなった声はほとんどなく、事務手続きに時間がかかる。手続きが複雑、誤配、遅配の増加。実績の伴なわない新商品、新サービスの参入。お客さまも混乱、郵便局内も混乱した。お客さま離れにつながった。	10年後、20年後の先が見えない。イギリス、ニュージーランドと同じ道を歩んでいきそう。他国の失敗をもっと検証した方が良い。 お客さまからは近くの郵便局が無くなるという不安の声。	三事業一体での郵便局経営。 一部マスコミの誤った認識での報道に、お客さまが振り回されている。報道機関の正しい情報提供を。 あれもこれもと新しい事に手を出しすぎる。一部の郵便局での取扱商品。自動車保険、住宅ローン。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
1065	群馬県	・民営化になって1年、どこが良くなったのか。悪くなったことしかない。 ・手続きは面倒になり、書類が多すぎる。 ・一人1000万円はそのままで、民営化になった意味が無いと思う。 ・過疎地は郵便局がなくなるのではないか心配。 ・過疎地は金融機関が無いので、郵便局も無くなったら大変。	ー	ー
1066	秋田県	（1／3） ① そもそも論 ・当時の「郵政民営化法案」の取扱いで、参議院での採決結果を不服とし、何故、衆議院を解散して総選挙する必要があったのか。また、その手法・妥当性について、甚だ疑問を感じる。解散の根拠として、本当に憲法に抵触しないものであったのか。 ・郵政民営化は、郵政省時代も、国家公務員とはいえ、独立採算制で事業を営んでいたものであり、行政の効率化という観点での民営化には、そぐわない性質のものだったのではないか。国民の税金による一般財政からの予算を使用していない以上、何ら、効率化には当たらないと思う。 ・資金の民間市場への開放、財政投融資等の問題からの観点でも、親論すべきポイントが逢っていたと思う。 ・当時の磯論では、郵便貯金・簡易保険資金など、巨額の資金をやり玉に挙げていたが、最近でもニュース等で報じられる出口である特殊法人などのお金の使い有が問題であった訳で、資金を集める入口の郵便局が悪いという論法には、憤りすら感じた。 ② 「民間へできるものは民間へ」への疑問 ・「民間でできるものは民間へ」というフレーズで民営化を進めたが、明治以東の郵政事業・郵便局制度というものは、過疎地や離島などの地域であっても、全国民があまねく公平に、物流・金融サ－ ビスを受けられるようにといった、公共性の強い事業であり、国民のインフラ財産であった。昨今のように、あらゆる分やで格差が大きくなって、地方が疲弊し今後も地域格差や地域の活力が失われつつある現在、郵政民営化の内容は見直してしかるべきと考える。崩壊してしまってから、税金を投入するということでは遅すぎる。地方が成り立たなくなると思います。	・民営化以降、「営業大変だね」「人数が少なくなって大変だね」という慰めの声は頂戴するが、「民営化して良くなったね」というお客さまの声は、頂戴したことがありません。一様に「手続が面倒くさくなった」等、分社化による事務・手続の煩雑やロスに対する不満の声ばかりである。お客さまにとっては郵便局は郵便局であり、今まで可能だったサービスが、ある日突然、「別な会社ですから、こうこう手続してください」といっても、簡単にはご理解いただけません。そういった要望に対応できないのもジレンマです。お客さまの現実の声に耳を傾けていただき、お客さまにとって、国民にとって真に有意義な民営化内容に見直していただきたいと強く願います。	ー
		（2／3） ・民間企業にななった割に、公社当時の規制が緩まった感はありません。貯金の個人の限度額制限も、1,000万円の枠を撤廃してもいいと思います。印紙税も納めている訳ですし、何ら気兼ねすることなく、自社の独自裁量で進めさせていただきたい。 ③ ゆうちょ・かんぽの株式売却の危険性 ・日本は、国民の貯蓄性が高い傾向があり、郵便貯金、銀行預金、保険等と比較的、安全な商品での財産形成を行っている。金融グローバル化、アメリカンスタンダードというキーワードで、ハイリスク・ハイリターンの商品の導入も増えているが、最近の金融危機の影響も相当懸念される。ニュースでも、アメリカの証券業が破綻する親道も伝えられており、お金の転がし、株の売却益などの手法で利益追求する傾向の外資系企業にゆうちょ・かんぽ株が貰われ、日本の地域事情も考慮なしに、その会社の利益追求のみで転売されると、これまで築いてきた郵便局ネットワークが崩壊したり、あまねく公平に享受できた金融(+物流) サービスが破綻しかねず、それこそ、地方・過疎地における国民の不利益が生じる。ロイヤルメールなども窓口の撤廃に歯止めがかからないとも聞くし、参親院の付帯決議で、ネットワークの維持がうたわれているが、採算性が極度に悪くなれば、日本の特に不採算な地域の郵便局窓口閉鎖されるだろうし、基金もどれだけ手当てできるか心配。その危険性があるので、まずは、株式売却を凍結していただき、その間に、国民にとって、鼻に有意義な民営郵便局の在り方を検証して、問題点を改登し、良い方向付けをする必要があると思う。すべてが崩壊してからでは、他国の郵政民営化失敗の例のように、再度、税金投入などとなれば、国民のための民営化が、本末転倒になるのではないか。		

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
		(3／3) ④ 手数料収入という経営形態の不安定さ ・郵便局会社の収入は、三事業会社からの手数料収入による。新規業務もあるが、自社商品は、まだ少なく、経営的に安定とはいえない。中間決算で、各社の経営状況が示されたが、聴衆にわたって安定的・継続的に手数料収入が入る確約もなく、右肩下がりなのが現実ではないでしょうか。この経営形態も、現在の郵便局の経営・ネットワーク存続に大きく影響があるので、より良い方向への将来展望が必要と思います。 ⑤ 集配局再編の効果 ・当局は、平成19年3月に隣町の郵便局に集配業務が統合され、窓口取扱だけの無集配郵便局になりました。しかし、町に1局だけの郵便局であり、お客さまは、不在通知の照合、集荷依頼がいまだに寄せられたり、土日のゆうゆう窓口閉鎖に対する不便さの声も聞きます。土日の冠婚葬祭でレタックスを出したい、書留等を出したいという方も、配達担当員への自宅への訪問もあるが、時間的に融通が利きにくく、どうしても、土日に取り扱う郵便事業会社の窓口まで出向くか、月曜日まで待たざるをえないとのこと。全国で約1000局の集配統合がなされましたが、費用的な効率化効果、サービス維持の状況、お客さまへの影響はいかがだったのか、検証されるべきだと思います。自分の町に、隣町から配達・集荷に訪れるという感覚も混乱の要素で、このお客さまの不便さも解消できないものでしょうか。		
1067	岩手県	ユニフォームや応対については、役人らしい対応がなくなり、親しみを感じているが、受、払の本人確認が細かくなって待ち時間が多くなった。特に男女別の確認は笑止千万である。	従来の三事業の一体化が望ましく、分社化はやめてほしい。利用しやすい形態に戻すべき。事業別の仕切りは違和感を覚える。	我々（OB）の立場での訪問はしにくくなった。
1068	神奈川県	民営化したと言っても何が変わったのかよくわからない。目立つ事といえば手数料が高くなったことぐらい。銀行と同じになる必要はない。郵便局の良さが無くなった。手続きなども面倒が増えた。	特別何かを期待していない。利率を高くしたり、ハガキ・切手等の大量購入の割引。大きな組織だからこそ出来る事をやって欲しい	苦情処理など現場任せな部分が大きく対応に時間を割くことが多い。また精神的に苦痛を感じる案件も多く会社として苦情対応専門部署のような対応を考えてもいいのではないか。
1069	岐阜県	民営になり1年が過ぎ、利用者からいろいろな声が窓口に届く。最初の半年で次々と聞かれたのが郵便、小包等の届く日数がかかり過ぎること (隣町へ出したのに、なぜ、2日も3日もかかるのか) (郵便番号が1つ間違っていただけで、とんでもない所に行っていたらしい。今までも同じことがあっても直ぐに着いたのに) 配達時間がバラバラで朝刊を取りに行ったら昨日の郵便が入っていた。 (これって危なくない。せめて17時までには配達してほしい。) 次に多く聞かれるのは、外務員さんにお願いしていたことが会社が違う理由で出来なくなったこと。 地域密着で進んできた郵便局の良さが大きく減速しているように思われる。 それに伴って地域住民が今まで親しんできた郵便局に対しての不安が増していることは確実である。	利用者にとって郵便局会社が直接の窓口で、今までと同じように利用でき、身近に存在し、親しみやすいのが一番です。 小規模郵便局を無くすことなく、存続していかねばならない。	ー
1070	栃木県	平成19年10月、郵政事業が民営化され4会社に分割された。民営化は、国民や国にとって素晴らしい未来となり、お客様一のサービスは低下させず、ユニバーサルサービスも保証されるはずだった。しかし、現在の状況は果たしてそのとおりになっているだろうか？まず、郵便において集配拠点等の再編が進み、配達エリアが拡大したため不都合が生じている。たとえば、今までであれば午前中に配達されていた郵便物が午後にならないと届かなくなったり、土曜・日曜等の窓口の休みの日には、ゆうパック等の受け取りも遠くの局まで行かなければ受け取れなかったりという状況が現実に起こっている。また、地方では、郵便事業会社の経営状態によりユニバーサルサービスの危機も感じている。次に、代理店となった郵便局の窓口において、貯金・保険関係の手続きの複雑化・処理時間の増加や、手数料の値上げ等、民営化前であればすぐに現金になった手続きも民営化後は日数がかかるようになっている。等々、お客様にとってのサービスの低下が見られる。何よりも、会社が分社化されたために、以前は一つの郵便局であったところに、4つの会社が存在する。局内を会社ごとに遮断したために社員相互の業務応援・お客様対応支援が不能となりサービスの低下を招いている。	郵政民営化が、何よりお客様一のサービスの向上につながっていくことがもっとも大切なことである。まず、過疎地等の人々から金融等サービスを奪わないように、ユニバーサルサービスの確保である。そのためには、非効率的な現在の郵政事業の分割、4会社構造の見直しにより、以前のように三事業一体のサービスが受けられることを期待する。また、郵政民営化が悪いことばかりではない。ゆうちょでは、新しいサービスが受けられるようになり、かんぽでは、サービスの更なる充実も図られている。しかし、どんなにサービスが充実しても、それを受けるお客様がおざなりでは宝の持ち腐れである。やはり日本の隅々までサービスが行き届くことが、人々の幸せにつながり、その姿が、郵便局のあるべき姿だと考える。郵便局に行くとどんなことでも相談できる。そして、サービスがうけられる。そんな身近で、地域に根ざした場所である。	郵政民営化は、人々へのサービス向上を必須としなければなりません。しかし、全てが順調に進んでいるとはいえない状況です。この見直しの時期に何が人々のために必要で、どのような形態がベストであるのかもう一度原点に立ち戻る必要がある。人々の貴重な財産である資金を危険にさらすことの無いよう、そして、どんな地域の人々も同じサービスを受けられるような郵政民営化を目指していただきたい。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
1071	東京都	三事業分社化したことは最大の間違いである。それにより国民の大多数の方が何らかの不便さ、憤りを感じている。サービス低下の何物でもない。日本国自体が小泉改革の間違いを認識し、再生しようとしている。この郵政民営化も大きなまちがいであったことを再確認し、直ちに国民のための郵政を立ち直らせるべきである。社員のモチベーションも下がりきってしまった。これからこの郵便局を盛り上げていくべき若い社員がどんどん辞めていっているのが現状。こんな会社に未来はあるのか。	今の現状を本社がしっかりと認識するべき。ほとんどに指示が現場を把握していない者の支持としか考えられない。「現場第一」を強く求める。	高額な為替手数料、職員を原因したことによるサービスの低下分社化したことによる電信為替の廃止、郵便物誤配、配達遅延……お客様は郵便局を【詐欺】とまで言っている。
1072	東京都	評価出来ない。何のために民営化を下のか。サービスも向上していないし、分社化による不便な面が多々ある。	民営化後の状況をしっかり検証し、より良い方向に持っていってほしい。	本当に何のための民営化だったのか理解が出来ない。
1073	東京都	*利用者に対する対応が消極的で事務的な面が多く見られる。 *仕事に対する共助共援の精神が失われている。 *サービス面で、活発な応対と動きに欠ける職場(特に窓口業務)が多く見受けられる。 *総体的に活気が無い。	*三事業の一体化による財政維持と共助共援体制の確立。 *又は郵便事業のみに限る国営化。	*複雑な組織機構の改善
1074	東京都	ー	ー	我が家のすぐ前に、本局があり頻繁に利用しているが、窓口の職員の対応が「お役所的」、つまりおざなりで、ぞんざいな対応がなくなったようだ。顧客に対する態度に細やかな気遣いが感じられる。これはやはり、自分たちの接客態度が直接、評価されるというシステムになったためと思われる。根本的なところで、非常に疑問に思っているところが1点ある。2004年に公表された「年次改革要望書」で、日本郵政公社の民営化が明記されている。独立国家である日本がなぜ他国から、このような国家運営に関わることを指図されなければならないのだろうか。「郵政民営化」がアメリカから指図され、その後、アメリカ系の保険会社が日本に参入されたことは周知の事実である。 小泉元首相による衆議院解散、新党の結成、その後の彼の懲罰主義など、政治の暗部をさらけだしたことは、民主主義の悪用としか言いようがない。今年のサブプライムローン問題に端を発した金融危機が、我が国にも、解雇、消費の落ち込みと、ひしひしと押し寄せてきている。「日本郵政グループ」資産340兆円の巨大企業グループが、このグローバル化した世界情勢のなかで、荒波を受けないとも限らない。巨大になればなるほど、問題解決には時間と人的資源が必要である。益々、錯綜していくであろう経済状況のなかで、このような組織形態を運営していくリスクはかなり大きくないだろうか。 「公共性の維持」と「市場経済」は、元来相反するものだ。この大きな課題をどう扱っていくのだろうか。経済がマイナス成長になっているこのような現状の中、社会的弱者は益々増大傾向にある。貯金、保険業務事業については、経営合理化などによって撤退された地域では、「金融空白地」ができるのではないだろうか、と懸念されている。これに、過疎地に高齢者が多く住んでいることを考えると、重大な問題であろう。郵便事業に関しても、「山間地では配達が昼過ぎになる」などの問題。また、業務合理化を目指す中で従業員数の大規模な削減、契約社員化は景気が悪化しているなかで、失業率の増加に繋がることが懸念される。
1075	熊本県	ー	ー	(1／4) 1. あれほど国民･政界を賛否の渦に巻き込み、挙句の果て巨費を投じて民営化を実施したが、国民･利用者に対するメリットは何一つないのではないか。小泉首相や竹中大臣は、民営化で郵政事業の将来は明るい展望が開け、国民･利用者に対するサービスも飛躍的に向上するかの如き言辞を弄していたが、実態は、まさに、羊頭を掲げて狗肉を売るの類になっているのではないか。 2. 郵政グループ各社の職員も、郵便局、支店等の第一線の職員ほど民営化前に比べ士気が著しく低下している。分社化によって、会社が違うという理由で狭い局舎内を間仕切りし、相互にいがみ合い足を引っ張り合う状況(特に郵便局会社と郵便事業会社)すら現出している。民営化で、職員にも明るい希望を抱かせるような説明が行われていたが、これ又、実態は大違いで疑心暗鬼の職場と化している。更に、旧普通局は、これまで郵便局のキャップは一人であったが、民営化で郵便局長と支店長の2人になっていると聞かされた利用者は民営化で組織が複雑になっていることが何とも理解できないと言っている。大局に至ってはゆうちょ銀行とかんぽ生命の店長を加えキャップが全部で4人になっているから、益々民営化の意味がわからないと言っている。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
				（2／4） 3. 分社化の弊害は種々存在するが、特に、地域住民から、おかしいと指摘されているのが、集配センター(旧集特)の組織である。当該局長には、自局内の集配センター所属の郵便外務員に対する管轄権がなく、これら郵便外務員は数十キロ離れた郵便事業会社の支店の管轄になっているという現状である。そして、支店の担当課長(以前の副課長相当)1人が3-4箇所の集配センターを受け持ち、2-3日に一回とか1日2-3時間とかの頻度で巡回しているという管理状況になっている。これでは、十数か所の集配センターを管轄している支店として、各集配センターの地域状況を把握することは物理的に困難である。又、地域の利用者から当該局長に郵便配達の誤配について苦情が寄せられても、当該局長は、その業務は自分の管轄になっていない、と答えざるをえない。利用者からは、民営化で何でこんなおかしいことになっているのかとの苦言が呈されているという。 4. 貯金・保険の業務についても、郵便局から、事務処理や取扱手続きについて郵便局会社の支社に問い合わせても、支社は更に、ゆうちょ銀行やかんぽ生命の統括支店に照会しその回答を得て郵便局に連絡するという状況になっている。郵便局会社の支社は業務についての有権解釈の権限がなく、民営化・分社化で組織が複雑になり、総てのことで事務処理が非効率になっている。そのしわ寄せは利用者に及んでいる。
				（3／4） 5. 民営化論議の際、経済財政諮問会議等の場で、一部のメンバーから、再三、三事業のリスク遮断という主張が行われていたが、民営化分社化後の経営実態はどうか。郵便局会社の経営は、三事業会社の委託による手数料収入によるものであるから、どんぶり勘定もいいところである。郵便局ネットワークの維持を主張するのであれば三事業のリスク遮断は実現できない、要するに、両者は両立し得ないのが郵政事業の実態である。この結果、訳の分からない分社化が生まれたのではないか。しかし、将来的には、ゆうちょ銀行とかんぽ生命の株を総て売却し、この両部門を切り離すことを主眼としているのであれば、郵便局ネットワークの維持等は到底不可能である。 6. 基本的に、株式会社という組織とユニバーサルサービスはなじまないものである。要するに、ユニバーサルサービスは、不採算地域にも公平にサービスを提供しようという概念に基づくサービスであり、一方、株式会社は、会社の業績を向上させ、その結果、株価を上昇させ株の配当を増やすことが最大の目的であるから、まさに両者は相反する立場に位置している訳である。郵便局の約8割に達する店舗が赤字であるのは、今に始まったことではなく、ユニバーサルサービスを提供するうえで100年以上も前から必要とされた経営形態であり、大・中の都市部の郵便局の収入で不採算部門を支え、全体としての経営を確保してきたのである。ユニバーサルサービスの提供を国の責務と位置付け、かつ株式会社の組織を維持するということであれば、株の売却限度を設けるとか、株主代表訴訟の対象にしない等ということを法的に規定する必要がある。
				（4／4） 7. 郵便局会社の経営が将来的に懸念されると言われているが、これは三事業会社の委託料の率に係わる問題ではないか。本年3月期の郵政グループの決算を見ても、ゆうちょ銀行の最終利益(実績)が全体の55%を占めるなど異常に高い。民営化前、米国の某大学教授が新聞に寄稿していたが、その記事は、このことを予測していたのか、皮肉をこめて、郵便局会社は三事業会社との委託料の率を高めることに全力を挙げるであろう。それは、お客様に対するサービスを良くすること以上に会社の経営にとって必要なことであるからだ、と述べていた。持ち株会社の主導によって、郵便局会社に対する委託料の率を高めることによって、郵便局会社の将来的な経営懸念を払拭すべきである。(以上)

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
1076	東京都	ー	ー	私は、〇〇県〇〇という片田舎に生まれ育ったものです。小さい頃は、私の町は、金融機関は郵便局しかありませんでした。正月のお年玉や、月々のお小遣いはそのまま郵便局に預けていました。だから今もその習慣は続いています。郵便局が民営化されどうなるのかは、はっきりわかりません。ですが、地方の田舎ではお金をおろしたり、預けたりするところは郵便局以外にないのです。郵便局は配達や貯金があり、保険事業があるから便利なんです。どれか一つ欠けても不便でしょうがありません。何せ、民間金融機関はありませんし、生命保険会社もありません。都会では郵便局がなくても生活はできます。大手銀行や信用金庫など、多くの金融機関に囲まれ、生命保険会社も沢山あります。選ぶところは多いわけです。小泉元首相がやりたかった、郵政民営化の狙いはどこにあったのでしょうか。郵便局を潰したかったのか、郵便貯金を潰したかったのか、それとも簡易保険を潰したかったのか、意味がわかりません。また、都会は便利で生活がしやすいけど、地方は不便で生活しにくいわけですが、これで本当にいいのでしょうか。郵便局は日本中どこでも一律の料金で、格安に手紙やはがきが届きます。これを採算の取れるところだけの運営にしたら、地方は高い料金設定で、潰れてしまいます。 私たちは郵便局が、これまで同様、生活のライフラインであり続けるよう願ってやみません。今後郵政民営化委員会が、これまで同様郵政三事業の堅持と地方の不安を解消するように期待し、意見とします。
1077	神奈川県	コスト、損益を考えながらいかに営業するべきか？ということはどこの郵便局も実践しているところであり、この部分に関して言えば、公社の時代に比べたら局長、社員の意識もかなり変わってきたので良かった様に思う。	過疎地域に住んでいる方々へのユニバーサルサービスをどうしていくのか？とことん議論して、充実したサービスとなるよう期待しております。	ー
1078	栃木県	取扱い事務が複雑になり、やりづらくなったことによってお客さまをお待たせする時間が長くなった。	現場の声を反映した仕事のしやすい環境づくり。	縦割りしたことによって、事務取扱いが煩雑になり弊害をもたらしている。
1079	長崎県	・集配局の集約化により、屈営化前と比べ郵便物が遅れる事が多発。 ・期間雇用社員の増加によるサービスの低下。(特に配達関係) ・新たな課税による収益の圧迫、印紙税等お客様負担の増加。 ・地区グループ再編に伴う組織の弱体化。(G毎の局数が増加し、範囲も広がり、機動力が低下し団結力も低下傾向) ・人事異動の凍結化による現場の停滞。 ・郵便局段階での適正な人事配置が成されていない。(欠員等に対する補充不十分) ・支社段階での適正な人事配置が成されていない。(地域人事等、業務量に対して人員が少ない。現在の人事異動凍結の主たる原因。) ・人事異動の際、地域人事と局側の意思疎通があまりなされていない。 ・モニタリングや監査等、守りの部分にばかり人員を強化し、本当に必要な所への要員配置ができていない。 ・局会社の声が上部に通らない。また、そのようなシステムがない。(地区G会議等で出た意見がそのままになり、ただのガス抜きとしかなっていない事が多い。) ・会社間で不公平感のある手数料体系。民営化スタート時点からゆうちょ銀行と局会社でこれだけの差がつくのはどう考えてもおかしい。20年上期・下期スタート時点での見直しもほんの少ししか成されていない。 ・民と官の間で非常に中途半端。(株式会社となり収益を上げる義務があるが一方で、官時代の規制が色濃く残っている。何かやると民業圧迫の声で非難される。収益と公共性を両立させるのは本来、非常に困難だと思う。)	・人事交流の活発化と、現場の意見を取り入れた適正な要員配置。 ・最大限機能させるためのG再編。 ・現場の意見を吸い上げるだけでなく、きちんと回答させるためのシステム構築。 ・手数料体系を各会社間で公平な水準に調整。 ・貯金・保険の限度額撤廃。 ・更なる新商品開発、人気商品の開発。 ・人事評価体制の見直し。評価項目をもっと細分化して差がつきやすくする。	ー
1080	東京都	※ とても、郵便局が使いにくい感じがしている。 先日も、近くの郵便局へ小包を受け取りに行ったが、再配達を希望するか自分で配達をしている郵便局へ取りに行くしかないと言われた。以前は窓口で手続きをしてくれた記憶があるが民営化後は自ら連絡をするようになったらしい、国民へのサービスは良くなると思っていたが、とんでもないサービスの低下だ。	地域のために在った郵便局のイメージと利便性を高め、銀行と違う庶民の郵便局に戻してほしい。	今年の年賀はがきを配達の人や、窓口の人から「うちで買ってくれ」と何回も言われる。郵便局でしか売っていない「はがき」を競争しているような販売は、今までのお付き合いを考えると、どちらで買っても後味が悪い感じがする。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
1081	新潟県	（1／2） 何も評価できるものはないというのが正直な感想である。私は民営化後に郵便局長を拝命した。自分を今まで勤務させてくれた郵便局に微力でも報いたいと思ったのと、お客様の喜んでいただける笑顔を間近で感じていたかったからである。郵便局株式会社川会長による「平成20年度中間決算について」の文書によれば平成20年3月期と比較して162億円増の209億円の黒字と報告されていた。その原因として営業体制の整備と郵政グループ内の連携強化をあげている。社員の後補充もなく慢性的な人不足の中で多くの管理者の献身的な休日出勤、遅くまでの労働、社員の涙ぐましい努力によってなっている人件費の切り詰めと、トイレの紙の購入にも苦労するといわれた経費の縮減で支出を食い止めているのが実情である。これを連携強化というのであろうか。営業体制の整備というのなら、たとえば郵便事業に関しては宅配便並みの営業環境を与えられての話であろう。心を病んでいる窓口社員も居る。以前からは考えられなかったことだ。これが社内の実態である。「郵便局の内部については感知しないし興味もない。仕事が厳しいのはどこも当たり前だ。現に倒産している会社だっていくらもある。お客様の立場について利便性が向上した、良くなったといえるなら民営化は成功である。」などという人が居たら聞いてみたい。①郵便の遅れ②料金の値上げ③ 窓口待ち時間の大幅な増加④ 3，600局もの郵便局での休日窓口の廃止⑤ 450局もの簡易郵便局の閉鎖 以上についてどう考えるのかと。小泉構造改革の本丸であり最大の成果と言っていた郵政民営化、「郵便局はなくしません。」「郵便局はもっと便利になります」と国民に約束して断行した詐欺とも言える。	1円も税金を使わずやってきた郵便局事業をなぜ民営化なのか、いまさら問うてもしかたがないことなのか。固定資産税、事業税の増収のためであれば公社でよかったのではないのか。財政投融資資金が問題ならそれこそ法律を変えれば良い、それすらも必要ないかもしれない等疑問は尽きない。しかし、なぜ「分割」民営化なのか。「郵便」「貯金」保険」全部ひっくるめて郵便局である。不採算部門と採算部門に分けたのなら、いずれ「郵便事業会社」と「郵便局会社」は消えるか規模を縮小する。ユニバーサルサービスという使命がある以上この点については見直しを切に望みたい。もう二度と「郵便局はなくしません。」「郵便局はもっと便利になります」という嘘をついて欲しくない。	麻生総理が「郵貯」「簡保」の株の売却を一時凍結する、「郵便局会社」、「郵便事業会社」の採算が取れない会社については考えなければとの話をした。「断固反対する」と意見を述べて政治家は、国民の生活が何も見えていないのだろう。改革は、誤ったと気付けば修正するべきである。1回敷いたレールや党議にこだわることではなく、過ちを正すことこそ政治責任であると考える。「民営化はもう終わった話」ではない。
		（2／2） 私の郵便局は郵便物の取り集めが一日1回3時30分のみである。それを過ぎて郵便物の差出にみえたお客様には発送が翌日になってしまうことをお詫びしている。「急ぎの郵便物だ、何とかならんかね。」「ゆうパックの中身が生ものだ、痛んでしまうよ。」と言われたお客様の声が痛い。近くの郵便事業会社の支店に急ぎなら行ってくれと、自転車や乳母車を押してきたお年寄りにはとても言えない。以前なら、帰り道に最後の便に間に合うよう支店まで持っていけた。今はできない。民営化で貨物法が適用となり、専用車両でなければ他の会社に郵便物を運べないからである。これを破れば法外な違約金の支払と処分が待っている。 ふるさと小包についても言いたい。先人が苦労して地域起こしの一助として考えたふるさと小包は壊滅状態である。カタログ手数料として10%、規則でがんじがらめになりさまざまな制約が伴うカタログ印刷代、各郵便局窓口への配布費、加えて郵送料、お客様は2つの会社に手数料を払うこととなる。こんな営業形態が許されるのか。以前折衝した長年利用していただいていた製菓組合は「それではとてもやっていられないから手を引く」と言っていた。自分の作った商品があまりにも割高になってしまい、お客様の不興を 買うことが明らかである。産地直送の安価で手軽なふるさと小包も民営化に奪われた。先日地元の新聞に書かれた。「民営化になったら便利になると期待していた、融通が利かなくなるとは思わなかった。」一事が万事である。		

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
1082	新潟県	ー	ー	郵便局利用者の声 郵政民営化がスタートして1年が経過しようとしております。小泉元経理は、「お客様に対するサービスダウンはさせない」「郵便局は無くしません」と繰り返し国民に約束しましたが、現状はそれとは全く逆になっています。民営化と同時に郵便、貯金、保険、を分割したため、さまざまな不便が生じております。 1 郵便の配達に来る社員に貯金、保険の相談や集金を依頼しても応じてもらいない。保険の集金に来る社員に郵便を依頼しても応じてもらいない。 2 郵便配達が遅くなったり、関東方面の一部に差し出した郵便物が翌日配達されない等弊害が生じております。 3 休日には、書留郵便や速達郵便を受付ける窓口が地域からほとんど無くなったうえ、切手を購入することが出来ない状況です。 4 貯金、保険の窓口では、民営化後は事務手続きが複雑になったことから、窓口で待たされる時間も15分程度か30分以上もかかることが常態的になっています。 5 ゆうパックの集荷サービスが無くなり特に秋の新米シーズンは高齢者は大変困っております。 以上の観点から郵政三事業の取扱量が減少し、経営が惑化し存続が出来なくなること懸念されてなりません。郵政民営化法案の三事業一体化の見直しを実現をして頂きたく特にお願い申し上げます
1083	東京都	評価できない	期待できるものが何か、教えて欲しい	※郵便事業会社・(局会社)へ電話しても、どこへ電話していいかわからなく、たらい回しが多い。 ※郵便物の誤配が多くなって困っている。 ※手数料が上がって不満を感じている。
1084	東京都	為替手数料、送金手数の値上げは、適正料金とは思えない。これは暴利ではないか!とお客さまから指摘を受けている。	期待していません。つぶれないよう頑張って欲しい。	ー
1085	東京都	ー	ー	アメリカへゆうちょ資金・かんぽ資金を渡す民営化・株式の売却反対 国民の郵便局財産をアメリカに渡すことに反対
1086	青森県	ー	ー	郵政民営化の報道を見て来た限りでは、小泉首相が一人で強い信念というか、まあ彼の持論というか、そうしたものが改革という言葉を錦の御旗として迷える勤労者や、無党派層など韓国の俳優ヨン様的感覚で、中年のおばさんから老人まで期待をこめて、国民あげて改革なくして成長なしということに賛成せざるを得ない境地を作り上げた。その結呆チルドレンなどという謂わば子供達議員が誕生した。大勝利の改革はその後ボロだらけになり必要な改革を忘れていた、その結果の参議院戦で手痛い逆転劇となった。 問題は郵便局の民営化であるので、当地方は民営化後直ぐに配達員のいない、要するに無集配というのだそうであるが3人の局になった。従って遠くからの配達で時刻が定まらないいつでも郵便受箱に入っている状況になっている。以前は外務員がゆうパック等を奨めたものだが、今は郵便局まで行かないと出せない状況である。貯金、保険の外務員も姿を見ることがない、勿論近所は老人ばかりのせいもあると思うが、貯金、保険の変わったことなど文書でしかしるよしがない。 先日県内の親類で不幸があって、レタックスとお金を電信為替で送ろうとしたら、今は制度が廃止だということである。 次に簡易郵便局の件であるが、局に行って聞いたら全国で400局以上の簡易局が廃業したということである。今もって復活しそうにないということは民営化になって事務が複雑になっていて規則の変更など大変だという話である。 民営化で簡便になるのが利用者増につながると思われるがそれが逆である。局窓口でも番地、年令などを知っている顔見知りでも本人確認のための証明が必要だということで、遠い所を帰って再度局に足を運ばなければならないという事象がある。こう云った事は当局の局長に責任を持っていただき対処しても良いと考えるものである。 国会答弁では局数は減らさないと時の大臣は言って来たが、今では民営化の論議は世論の外にあり見直し時期に至っているということで、総じて言えば公社時の4事業が一緒になって一社になりJPポストが生き残れる余地があるのではないかと思う。小泉思想の規制緩和は過当競争をもたらし、地方を見捨てる原因となっていると思う。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
1087	東京都	ー	ー	（1／2） 郵政民営化の意味がわかりません。なぜ必要なのですか。国民にとってどんな利益がありますか。 元小泉首相や竹中財政大臣は、郵政民営化が進めば景気は回復し、国民の利益に繋がる、と言ってきました。しかし今どうでしょう、そのようになっていますか。 諸物価は高騰し、企業の収益は落ち、働く人たちの賃金は一向に上がっていません。実質賃金は目減りする一方です。 それでは、日本全国の金融機関や生命保険会社の存在は、大都市部や町の中心部にはありますが、ちょっと離れた村や山村、僻地、島嶼などには皆無です。郵便局だけが存在する山村僻地、島嶼は、住民のよりどころです。 財政投融資340兆円は今どうなっているのでしょうか。郵政民営化は、この財政投融資を民間活力の柱とし、使用することを目的としていたのではないでしょうか。郵貯と簡保にお金が集まり過ぎることを、銀行連や生保連は嫌っていました。それではなぜ郵貯や簡保にお金が集まるのでしょうか。それは国民の安心と安全な意識がそうさせるのです。130有余年の歴史と国の経営が人々の安心感を生み出しているのです。また、郵政3事業が一体としてあるために生まれる、相乗効果を作り出しているのです。文化の普及や教育の向上を目的とした第3種郵便や第4種郵便は、郵便局だから日本全国に低料金で送れるのではないでしょうか。民間の宅配業社が儲けのない、低料郵便物や盲人用郵便物を配達するのでしょうか。公共の福祉の増進は、営利を中心とする民間企業では行えません。実際に民間宅配業社は、山間僻地や島への配達業務は、郵便局を利用しているではありませんか。
				（2／2） 現在の郵便局の内部では、セキュリティーの問題で、郵便、ゆうちょ、簡保が間仕切りなどで分かれていて、不便だと聞いています。最近の大きな殺傷事件、茨城県での殺傷事件、秋葉原での殺傷事件、つい最近の元厚生労働省事務次官等の殺傷事件、ともに大変痛ましい事件です。このいづれもの犯行者は、非正規社員であったり、契約社員、そして無職の不安定な労働者でした。郵政民営化以降、「官から民へ」を合言葉に、不安定労働者を作り出し、一部の勝ち組と多くの負け組を生み出してきました。民間の良いところを官が取り入れることは、当然ありますし否定はしません。ですが、多くの自治体や官公署において、経費削減の柱として人減らしによって扱われてきました。その分、民間において、雇用労働者の創出が大幅に増えたとか、正規社員が大幅に増えたというなら「官から民へ」の移行は正解だと思います。年収300万円、200万円の働く者が、結婚し、子供を作り育てる、こんな環境で出来ますか。まともな社会生活など出来るはずがありません。 郵政民営化は、社会の構造までも壊し、不安定な社会を作っただけでしかありません。合理化や効率化を進めながら、郵政3事業の全国ユニバーサルサービスと国としての雇用形態を守り、国の大きな柱として経営、運営を進めるべきです。郵政民営化の早期の見直し(元に戻す)を図るよう要望いたします。
1088	鹿児島県	○分社化され窓口業務が頼摸しお客様の待合時間が長く、また説明事項も多くトラブルとまではいかないが苦情に近い声が多い。 ○採算性だけが先走りし、営業に対する基礎知識が十分に満たされていない職場環境であるし、そうした下部現場を十分に汲み取って欲しい。研修･教育等も公社時代と比較すると非常に少なく環境は変わっている。	○まず郵便事業会社と郵便局会社が一体化し、次の段階としてゆうちょ銀行、かんぽ生命会社と一体化し三事業一体の業務運行、窓口業務を望む。 ○郵政株式処分凍結法案が一日も早く衆議院で可決されることも期待する。	○あまねく公平なサービスが継続できるように全国つつうらうらまで郵便局が一局も閉鎖されることがないことを願います。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
1089	秋田県	ー	（1／2） 平成十九年十月より郵政民営分社化が実施され三年目の見直しの時期が近づいております。しかし、民営分社化後の郵便局の実態はどのようになっているでしょうか。 以前の郵便局は情報の拠点・安心の拠点・交流の拠点として、日夜努力してまいりました。さらには、地域に密着したサービスとしての公益活動事業、住民票交付、災害時協定等、行政サービスの一環としても努力してきており感謝の声も頂いておりました。 しかしながら分社化後の郵便局の実態は利用者の求める郵便局とは相当に掛け離れておるのではないでしょうか。その一例として延べてみたいと思います。 分社化後、一番に多く聞かれる声がとにかく待ち時間が長くなった事です。特に月末の繁忙時間は以前であれば職員の共助共援でスムーズに処理されてきましたが現在は担当者任せで他部応援はできない、又、各種の求められる本人確認等証明や書類が煩雑になった事です。高齢化が進む地方ではこれにより郵便局は難しくなって一人では行けないと言う声が聞かれます。一方窓口の職員にしてもお客様に対して理解できるような対応しているでしょうか。連日変更になる業務通達の収得に追われ十分な声掛けができないのが実態ではないでしょうか。少しのミスも許されない現状に精神的にも相当に不担を負っておるのではないでしょうか・・・。	0
			（2／2） こうした事が最近の郵便局はサービスが悪くなった、行きたく無いと言う多くの声が聞かれるようにもなりました。こうした不平不満が長期間になれば郵便局はお客様離れになるのが当然であります。また、職員が長年苦労して培ってきた地元特産品「ふるさと小包」の取扱いも最近では他の民間会社に相当流れてしまったとも言われております。貯金・保険の窓口でもその繁雑にいや気が指しております。求められる各種手続にもお客様には十分に理解されずこうした事が郵便局離れに繋がるものだとも思っております。 以上、述べたとおりにお客様からは相当の批判、不満の声が多くなってきております。 やはりお客様の立場に立った郵便局であるように願い又、これからの増々加速される高齢化社会に対応する為にも郵便局はその役目も大きいものだと思っております。 利用者がもっと気楽に、職員が心豊かに働ける職場に一日も早く改善を願うものであります。	

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
1090	神奈川県	郵政民営化によりお客さまサービスは低下し、サービス向上は図られていないと感じています。分割によるロスが生じ、手数料の値上げ、人員削減によるお客さま待ち時間の増加、地方においては郵便物の集配業務の減少など分社化後の各事業会社が経営・利益追求に重点をおいているため、一部新商品の取扱が開始されただけで、民営化前よりサービスは低下しています。今後、郵便局本来のユニバーサルサービスが維持されていくのか疑問です。 民営化1年経過後の今、国民の郵便局離れと同時に、局長また社員の意欲低下が最も危惧されるところである。性急な改革や規律強化に局長も社員も疲弊して退職者の激増、或いは先の見えない会社への不安で局長、社員の意欲低下が生じてきたのである。	郵便局会社はゆうちょ銀行、かんぽ生命からの委託契約なしには経営していくことは困難です。国民生活のために、郵便局はやはり郵便、貯金、保険一体としたサービスの提供が求められます。分社化を改め、三事業一体とした経営のための民営化見直しが必要です。 民営化から10年後、ゆうちょ銀行、かんぽ生命が完全民営化し、郵便局会社との委託契約がされなければユニバーサルサービスを稚持することができず、地方の郵便局は閉鎖され地方格差がさらに広がってしまいます。三事業一体の民営化を強く望みます。	（1／5） ・なぜ的確な指示が出せないのか? 平成19年10月1日(月)。私達郵便局社員としては二度と忘れられない日である。あの日の前後を境に職場は混乱し今もその傷跡は癒されないままである。しかも、「民営化」という言葉を耳にすると、いかにも創造性に溢れ効率的でスマートな仕事の響きを想像しがちだが、私達が歩んできた道はいまだに茨の道である。最近の例をひとつ挙げれば、平成21年1月5日(月)から全国の郵便局端末と全銀システムが接続され他の銀行と口座間送金ができるようになる予定だが、この新たに開始されるサービスのお客さまへのお知らせ方法としては、ゆうちょ銀行は全世帯へチラシの郵送を行い、郵便局会社は公社以前から行って来た全社員ひとり一人の「人力」によるお知らせ活動をすることであった。この取り組みは9月から行われていたが、通り一辺倒な文書の指示が出ただけである。内容はチラシを手渡ししながらの通帳印字サービスの促進である。ひとり一人の処理はたいしたことではないが、通帳印字サービスの声かけをすることで本来の貯金・保険営業の声がけに支障がでる場面もあった。そして、11月に入り推進率が芳しくないことに本社が動揺、支社社員を推進の低い郵便局へ派遣し、地域グループアドバイザーなどにも指示を出して各郵便局の取組みを強化、各郵便局のATMコーナーには連日社員が立ち続けて通帳印字サービスを勧奨し、テレビCMも連日頻繁に流しはじめた。その理由は金融庁による覆面調査が11月下旬にあり、認知度が30%以上にならないと全銀システムと接続することが出来なくなるということであった。それを私達現場の社員が知ったのが支社社員が派遣され始めてからであった。当然、通帳印字サービスに時間を割かれて肝心な営業が思うように出来ない日々が続いた。ここでの最大の問題は、通帳印字サービスの推進率アップではなく、あくまでもお客さまの認知度アップである。その理由を早期に全社内へ知らせもせず、期限が迫ってからの慌ただしい対応ではとても民間企業と言うにはお粗末な結果ではないだろうか。今回のように全ての郵便局で新たなサービスを開始するのであれば、ゴール地点とそれまでの過程及び目的の理由などを指し示して管理・運営を徹底すべきである。
				（2／5） おそらく、物事の本質を見極め、しっかりとした考え方を持ち行動が伴う人材が不足していることも原因ではないかと思われる。今後はそういった人材の発掘と育成にも傾注すべきだ。 ・なぜ投資を惜しむのか? 企業を発展させ業者を向上させる為には「先行投資」が不可欠である。私達の職場を民営化に向けた時期からそんな感覚で見渡せば、設備面ではオートキャッシャーと硬貨対応となったATM程度しか目につかないが、これも民間金融機関では既に当たり前のことで郵便局での対応が遅過ぎただけである。予算、要員、物品、消耗品はもとより、売れ筋の人気商品や窓口事務に必要な書類さえ事欠くことが頻繁である。本当にこの会社の上層部は営業で儲ける気があるのかと疑いたくなるような対応もしばしばである。 そして、窓口取扱をはじめとする膨大なマニュアル類。金融庁でさえ驚いたという噂が出たものである。これは2、3ケ月ごとに訂正の訂正になる厄介なもので、常に気をつけていないと非現行のマニュアルになってしまうのである。さらにJT端末と呼ばれる1台のPCで事務処理を全てこなすようになっているが、大企業と言われる民間会社であれば1人1台とまでは贅沢を言わないが、せめて効率的で迅速な事務処理ができるようにしていただきたいものである。しかし、特に問題なのは要員である。1つの例を挙げれば、4人局からベテラン社員を異動させたのはいいが、換わりの社員が急遽育児休業延長を理由に半年以上も先の着任予定となってしまった。局長、役職者、採用されて二年目の社員の3名で何ら手当無し、数ヶ月間、自力で乗り切らなければならないという大変にお粗末な事例が起きている。そして、正社員の配置についても来客数と事務取扱数から換算した場合、配置人員の明らかな不足又は過剰な状態が漫然と放置されている。これは平成15年頃に遡る郵便窓口定員見直しに伴う要員調整時のミスが是正されないまま残ってる問題である。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
				（3／5） また、公社時代の採用計画の抑制による世代的な要員の減少から役職者候補が激減し勤続年数の少ない社員が役職者候補とならざるを得ない状況になりつつあり、質的な問題も孕んでいることから将来的な大問題に発展しかねない事案である。人事は企業の経営側の専権事項なのは承知しているが、このような問題の温床をつくってしまった当時の人事について関わった社員の責任が問われたことは今まで一度も聞いたことがない。これでいいものかと強い疑問を感じる。郵便局株式会社の最重要な資本は社員である。この最重要な資本が生かされない限り企業としての未来は語れない。会社はここに最大の投資をすべきである。 ･なぜお客さま本位のサービスをしないのか 平成21年用年賀はがきの販売は後半戦を迎えて佳境となっているが、郵便局会社の売り上げ枚数は対前年度実績で大変な落ち込みである。対して郵便事業会社は大幅に飛躍している。聞くところによると、郵便事業会社本社は首都圏沿線の主要駅で臨時出張所を開設できるように各電鉄会社等と折衝し、管轄内の配達地域には年賀予約専用葉書と予約した方への景品を差し上げるお知らせチラシを2～3回全戸配布したのである。予算としても、場所の借料、非正規社員の貸金、景品類の代金など莫大な費用をかけており、昨年度などは販売実績が優秀だった200名の郵便事業会社社員をオーストラリア旅行に招待と大判振る舞いして大変な力の入れようである。しかし、本年の中間決算では既に▲186億6,300万円と大幅な赤字体質の企業に転落している。にもかかわらず、郵便事業会社はどれだけ潤っている会社なのであろかと聞き返したくなるほどの浪費ぶりである。
				（4／5） この会社は財務体質をひとつ見ても非常に危険な状態にしかうつらない。社員を減らし無謀な営業目標を高々と掲げて尻を叩いているせいか、この企業の生命線である配達の品質が落ちているとは言わないが、けして良くなっているとは感じられない。それに費用対効果による収益性を全く無視したような無謀な営業体制･戦略を指示している経営陣は一般企業であれば即刻退陣に追い込まれるだろうし、株価も下落するのではないかと思われる。おそらく、まともな人ならこの企業に就職を望むことはないであろう。それを証明するように、郵便事業会社内では郵便局会社をはじめ他の会社に転籍を希望する社員が出てきているという。本業を疎かにしている企業はけして生き残れない。これは鉄則である。 つまり、郵便事業会社は本業の配達･区分･集荷･法人営業に専念すべきで、その他の営業は委託している郵便局会社にすべてを任せるべきである。だが、郵便事業会社にかかわらず、郵便局会社、ゆうちょ銀行、かんぽ生命保険の各会社とも、収益と営業目標の達成ばかりに気を取られ本来あるべき姿を忘れてしまってはいないだろうか。分社化されたとはいえ、各会社とも公共的な使命を担っている企業性を持っていることには何ら変わりはない。そのうえでご利用者ひとり一人のライフプランなどを考え少しでも親身になって考えた営業が出来ているのかどうか、甚だ疑問である。

No.	都道府県	①これまでの郵政民営化に対する評価	②今後の郵政民営化への期待	③その他
				（5／5） 大抵は自局の営業で遅れているものを優先して勧めることを念頭に置いたスタイルが今の自然な光景であろう。よって、この時点で既に「お客さま本位」とは真に言えないのである。そして、真にお客さま本位と言える仕事をするためには、ご利用者に対する社員としての姿勢だけでなく経営形態そのものにも利便性が求められると思う。旧特定郵便局の窓口ではまだしも、旧普通郵便局の窓口風景ひとつとっても異様な光景が展開されている。こんな光景をいつまでも長く続けてはいけない。 今更言うまでもないが、郵便事業は宅配会社業務ではなかったし、貯金事業は銀行業務ではなかったし、保険事業は一般生命保険会社の業務でもなかった。郵政三事業での一体経営は、明治以来130年以上も民間業者とは明らかに棲み分けをされながらご利用され黒字で運営されてきたものである。たとえ民営化したとはいえ、やはり郵便局は三事業が一体となった営業・業務を展開することが最も相応しい姿であるし、全てのグループ会社が是非その期待に応えられるように努力すべきである。それは大多数のご利用者が、今も昔もどんな時代でも便利で信頼して利用できる郵便局をいつも求めているものと心から信じているからである。